

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第161集

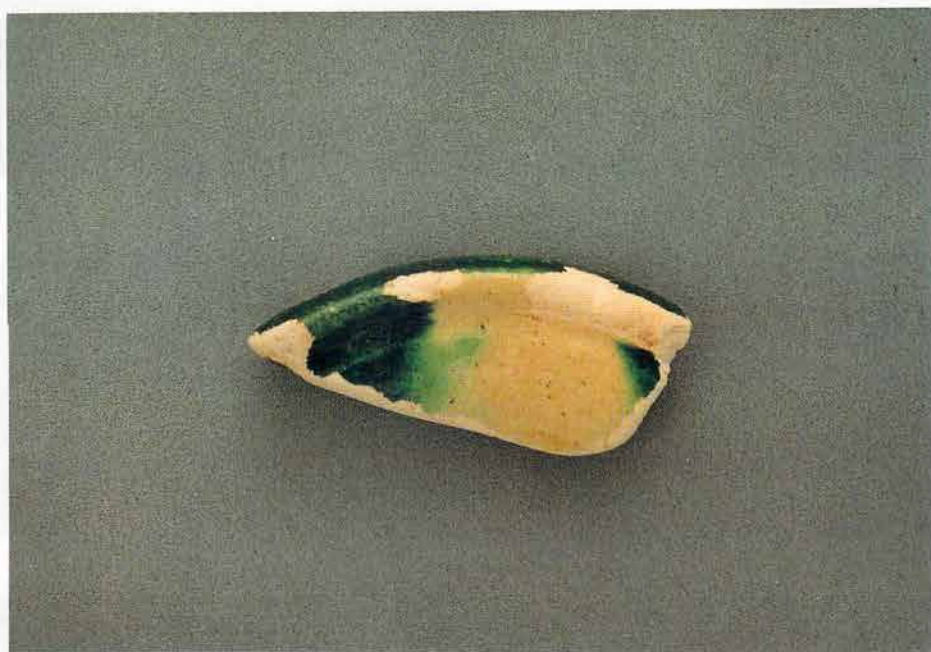
上鬼柳Ⅱ・Ⅲ遺跡発掘調査報告書

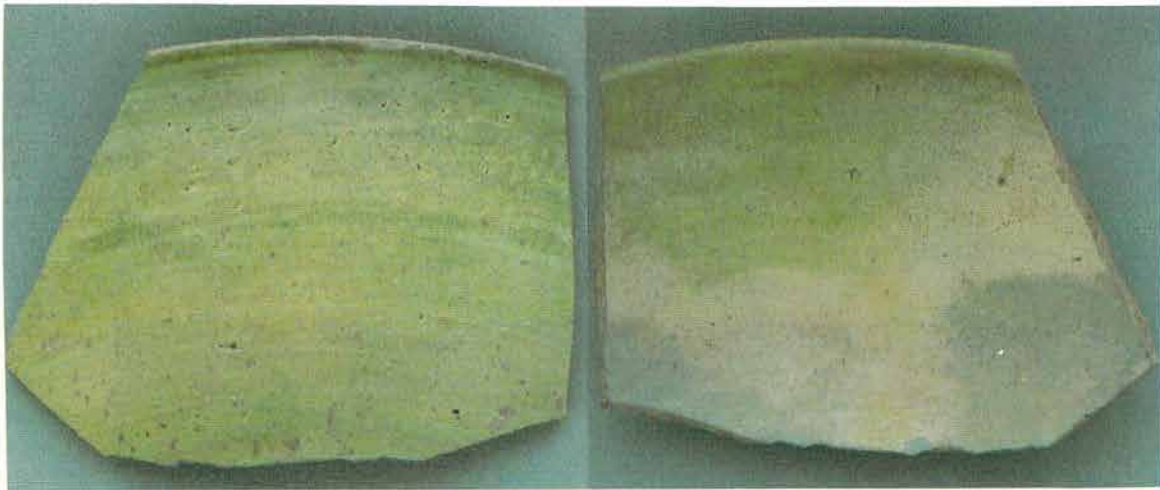
東北横断自動車道秋田線建設関連遺跡発掘調査

(財)岩手県文化振興事業団
埋蔵文化財センター

上鬼柳II・III遺跡発掘調査報告書

東北横断自動車道秋田線建設関連遺跡発掘調査





58



611

遺構外 249



遺跡全景

序

広大な面積を有する本県には、縄文時代の遺跡をはじめとする数多くの埋蔵文化財包蔵地が分布し、7,600ヶ所を越える遺跡が知られております。これら先人たちの残した文化財を保護し、保存していくことは県民に課せられた重大な責務であります。一方、快適な生活をおくるための地域開発、とくに基幹となる道路をはじめとする交通網の整備もまた県民の切実な願いであります。このように、埋蔵文化財の保護、保存という相容れない要素をもつ事業との調和のとれた施策が今日的な課題になっております。

当岩手県文化振興事業団は、埋蔵文化財センター創設以来、県教育委員会の指導と調整のもとに、開発事業によって止むを得ず消滅する遺跡の発掘調査を行い、その記録を残す措置をとってまいりました。

本報告書は、東北横断自動車道建設に関連して、平成2年度に発掘調査を実施した上鬼柳Ⅱ・Ⅲ遺跡の調査結果をまとめたものです。遺跡は和賀川右岸の段丘上に立地する縄文・弥生時代と平安時代の複合する集落遺跡であり、平安時代の住居跡をはじめとする多くの遺構と、さまざまな遺物が発見されました。これらは当地方の歴史を解明するうえに貴重な資料であります。

この報告書が研究者のみならず広く活用され、埋蔵文化財に対する理解と保護の一助になれば幸いです。

最後になりましたが、これまでの発掘調査や報告書作成にご援助、ご協力を賜りました日本道路公団建設局北上工事事務所、北上市教育委員会をはじめとする関係各位に衷心より感謝申し上げます。

平成3年3月

財団法人岩手県文化振興事業団
理事長 工 藤 巖

例 言

- 1 本報告書は、北上市鬼柳町字上鬼柳第2地割90番地ほかに所在する上鬼柳II・III遺跡に対する発掘調査の結果を収録したものである。
- 2 本遺跡の発掘調査は、東北横断自動車道秋田線の建設に伴う事前の緊急発掘調査である。調査は岩手県教育委員会と日本道路公団仙台建設局との協議を経て、財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが担当した。
- 3 岩手県遺跡台帳に登録される遺跡番号及び遺跡略号は、上鬼柳II遺跡がME 65-2054、KO-II、上鬼柳III遺跡がME 65-2066、KO-III、発掘調査面積は、上鬼柳II遺跡が300㎡、上鬼柳III遺跡が8,370㎡である。
- 4 発掘調査期間は上鬼柳II遺跡が平成2年9月10日から10月5日、上鬼柳III遺跡が平成2年4月16日から11月20日、整理期間は平成2年11月1日から平成3年6月30日である。
- 5 野外調査は佐々木弘・伊東格・川村均・及川渉、室内整理は伊東格・及川渉が担当した。
- 6 本報告書の執筆はIを佐々木嘉直、II～VIIを伊東格が担当した。
- 7 下記の項目の分析・鑑定は、次の方々・機関に依頼した。(敬称略)
 - (1)火山灰・土器の胎土分析 三辻利一(奈良教育大学)
 - (2)石質鑑定 佐藤二郎(佐藤地質工学研究所)
 - (3)炭化樹種鑑定 早坂松二郎(岩手県木炭協会)
 - (4)鉄製品・鉄滓 赤沼英男・木村克則(岩手県立博物館)
- 8 発掘調査および室内整理では次の方々・機関の御協力、御教示を賜った。(敬称略)
北上市教育委員会、花巻市教育委員会、江刺市教育委員会、和賀町教育委員会、北上市埋蔵文化財センター、浅田員由(愛知県陶磁資料館)、檜崎彰一(名古屋学院大学)
- 9 現地調査には、吉岡正氏をはじめとする地元の方々のご協力をいただいた。
- 10 調査によって得られた資料は、岩手県埋蔵文化財センターに保管している。

目 次

序
例言

本 文

I 調査に至る経過	3	a. 縄文・弥生時代の土坑	102
II 立地と環境	5	b. 平安時代の土坑	118
1. 遺跡の位置と地形	5	c. 時期不明の土坑	127
2. 遺跡および周辺の地形	5	(7) 陥し穴状遺構	131
3. 基本層序	6	(8) 周溝	133
4. 周辺の遺跡	8	(9) 溝跡	136
III 調査と室内整理の方法	11	2. 遺構外の出土遺物	195
1. 調査方法	11	(1) 縄文・弥生時代	195
2. 室内整理方法	12	(2) 平安時代	196
IV 上鬼柳II遺跡	15	(3) 石器	197
1. 遺構と伴出遺物	16	VI まとめ	235
(1) 竪穴住居跡	16	(1) 縄文・弥生時代	235
(2) 焼土遺構	18	(2) 平安時代	235
(3) 土坑	20	VII 分析・鑑定の結果	244
(4) 陥し穴状遺構	22	1. 上鬼柳遺跡出土火山灰の蛍光X線分	
(5) 溝跡	24	析	244
2. 遺構外の出土遺物	24	2. 上鬼柳III遺跡出土土器の蛍光X線分	
V 上鬼柳III遺跡	29	析	246
1. 遺構と伴出遺物	30	3. 上鬼柳III遺跡出土の鉄器の金属学的	
(1) 竪穴住居跡	30	解析について	251
a. 縄文時代の竪穴住居跡	30		
b. 平安時代の竪穴住居跡	33		
(2) 工房跡	70		
(3) 焼土遺構	71		
(4) 掘立柱建物跡	75		
(5) 窯跡	97		
(6) 土坑	102		

図 版

第1図 岩手県全図 …………… 1	第31図 VIB 1・2号住居跡 ……………59
第2図 遺跡位置図 …………… 2	第32図 VIIA 1号住居跡 ……………61
第3図 土層柱状図① …………… 6	第33図 VII B 1号住居跡 ……………63
第4図 土層柱状図② a・② b …………… 7	第34図 VII B 2号住居跡 ……………65
第5図 遺跡周辺の地形図 …………… 9・10	第35図 VII B 3号住居跡 ……………66
第6図 遺構配置図 ……………13・14	第36図 VII B 4号住居跡 ……………68
第7図 1号住居跡 ……………17	第37図 VII B 5号住居跡 ……………69
第8図 2号住居跡、2号土坑、1・2号焼 土遺構 ……………19	第38図 VB 1号工房跡 ……………70
第9図 1・3・4・5号土坑 ……………21	第39図 IIIB 1号焼土遺構 ……………71
第10図 1・2号陥し穴状遺構、1号溝跡 23	第40図 IVA 1・VB 1号焼土遺構 ……72
第11図 出土遺物—1 ……………25	第41図 掘立柱建物跡配置図 ……73・74
第12図 出土遺物—2 ……………26	第42図 1号掘立柱建物跡 ……………75
第13図 出土遺物—3 ……………27	第43図 2号掘立柱建物跡 ……………76
第14図 出土遺物—4 ……………28	第44図 3・4号掘立柱建物跡(1) ……78
第15図 VI B 3号住居跡 ……………30	第45図 3・4号掘立柱建物跡(2) ……79
第16図 VII A 2号住居跡 ……………31	第46図 3・4号掘立柱建物跡(3) ……80
第17図 II B 1・2・3号住居跡配置図 34	第47図 5号掘立柱建物跡 ……………81
第18図 II B 1号住居跡 ……………35	第48図 6号掘立柱建物跡 ……………82
第19図 II B 2号住居跡 ……………37	第49図 7号掘立柱建物跡(1) ……84
第20図 II B 3号住居跡 ……………39	第50図 7号掘立柱建物跡(2) ……85
第21図 III A 1号住居跡 ……………41	第51図 8号掘立柱建物跡(1) ……86
第22図 III B 1号住居跡 ……………43	第52図 8号掘立柱建物跡(2) ……87
第23図 III B 2号住居跡 ……………46	第53図 9号掘立柱建物跡(1) ……89
第24図 III B 3号住居跡 ……………47	第54図 9号掘立柱建物跡(2) ……90
第25図 III B 4号住居跡 ……………49	第55図 9号掘立柱建物跡(3) ……91
第26図 III B 5号住居跡 ……………51	第56図 10号掘立柱建物跡(1) ……92
第27図 III B 6号住居跡 ……………53	第57図 10号掘立柱建物跡(2) ……93
第28図 III B 7号住居跡 ……………54	第58図 11号掘立柱建物跡(1) ……94
第29図 VA 1号住居跡 ……………56	第59図 11号掘立柱建物跡(2) ……95
第30図 VA 2号住居跡 ……………57	第60図 12号掘立柱建物跡 ……96
	第61図 1号窯跡 ……………98

第62图	2号窯跡	99	第89图	遺構内遺物-6	147
第63图	3号窯跡	101	第90图	遺構内遺物-7	148
第64图	VB 1・4、VIA 1・2号土坑	103	第91图	遺構内遺物-8	149
第65图	VIA 3、VIB 1・2・3号土坑	105	第92图	遺構内遺物-9	150
第66图	VIB 12・17・36、VIIA 1号土坑	108	第93图	遺構内遺物-10	151
第67图	VIIA 2・3・5・6号土坑	110	第94图	遺構内遺物-11	152
第68图	VII B 1・2・3・4号土坑	112	第95图	遺構内遺物-12	153
第69图	VII B 5・6・7・8号土坑	115	第96图	遺構内遺物-13	154
第70图	VII B 10・13・15号土坑	117	第97图	遺構内遺物-14	155
第71图	VB 2・5号土坑	119	第98图	遺構内遺物-15	156
第72图	VIB 6号土坑	120	第99图	遺構内遺物-16	157
第73图	VIB 11・15・26号土坑	122	第100图	遺構内遺物-17	158
第74图	VIB 30・31・32・33号土坑	124	第101图	遺構内遺物-18	159
第75图	VIIA 4、VII B 9・11号土坑	126	第102图	遺構内遺物-19	160
第76图	IIIB1、VB6、VIB4・10号土坑	128	第103图	遺構内遺物-20	161
第77图	VIB 18・21・39、VII B 12号土坑	130	第104图	遺構内遺物-21	162
第78图	VII B 14・15号土坑、VB 1、VII B 1号陥し穴状遺構	132	第105图	遺構内遺物-22	163
第79图	IV B 1号周溝	133	第106图	遺構内遺物-23	164
第80图	VB 1、VIA 1号周溝	135	第107图	遺構内遺物-24	165
第81图	1~10号溝跡断面	138	第108图	遺構内遺物-25	166
第82图	1~10号溝跡平面	139・140	第109图	遺構内遺物-26	167
第83图	11・12・13号溝跡	141	第110图	遺構内遺物-27	168
第84图	遺構内遺物-1	142	第111图	遺構内遺物-28	169
第85图	遺構内遺物-2	143	第112图	遺構内遺物-29	170
第86图	遺構内遺物-3	144	第113图	遺構内遺物-30	171
第87图	遺構内遺物-4	145	第114图	遺構内遺物-31	172
第88图	遺構内遺物-5	146	第115图	遺構内遺物-32	173
			第116图	遺構内遺物-33	174
			第117图	遺構内遺物-34	175
			第118图	遺構内遺物-35	176
			第119图	遺構内遺物-36	177
			第120图	遺構内遺物-37	178
			第121图	遺構内遺物-38	179

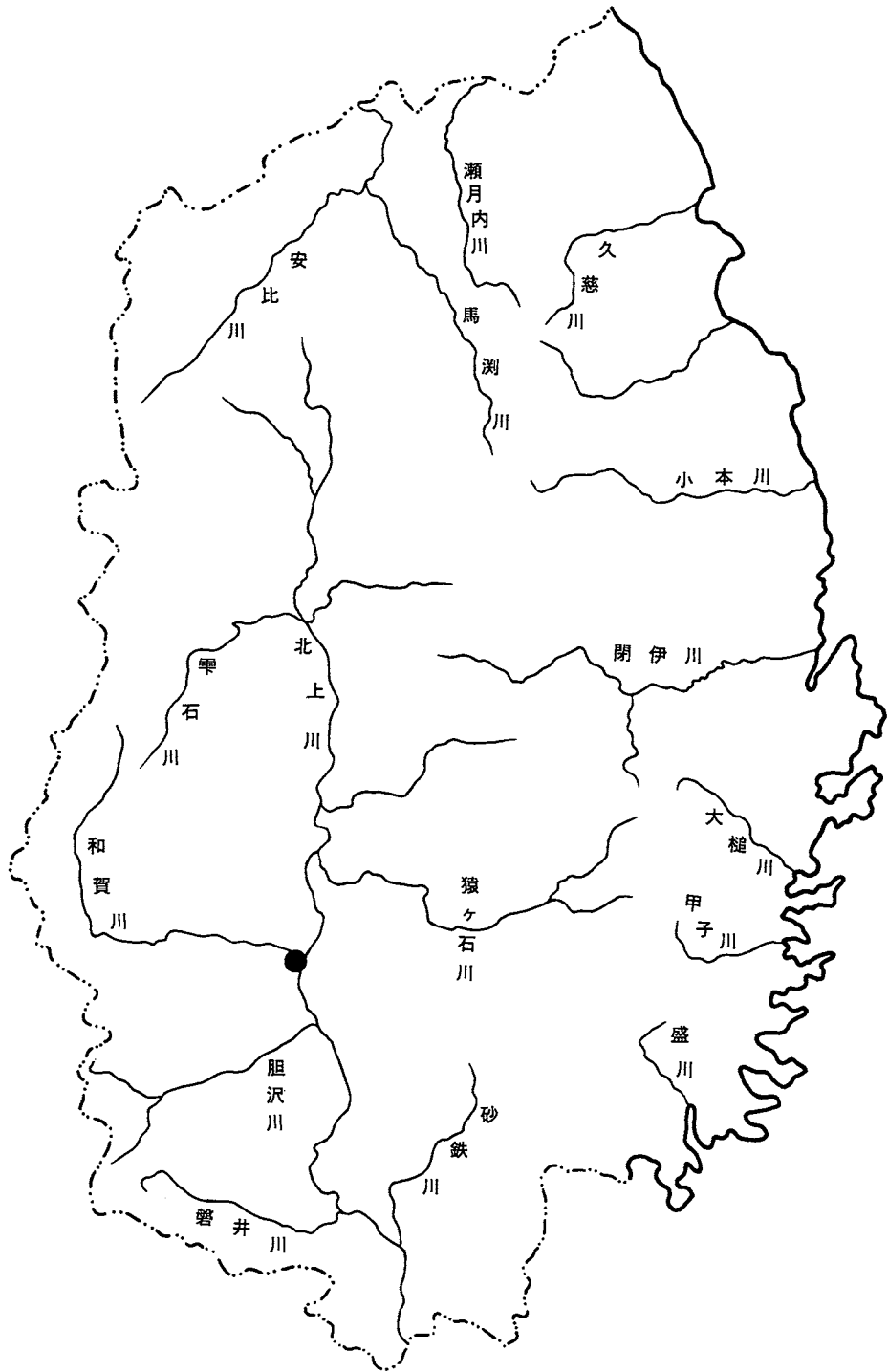
第122回	遺構内遺物-39180	第155回	遺構外遺物-19216
第123回	遺構内遺物-40181	第156回	遺構外遺物-20217
第124回	遺構内遺物-41182	第157回	遺構外遺物-21218
第125回	遺構内遺物-42183	第158回	遺構外遺物-22219
第126回	遺構内遺物-43184	第159回	遺構外遺物-23220
第127回	遺構内遺物-44185	第160回	遺構外遺物-24221
第128回	遺構内遺物-45186	第161回	遺構外遺物-25222
第129回	遺構内遺物-46187	第162回	遺構外遺物-26223
第130回	遺構内遺物-47188	第163回	遺構外遺物-27224
第131回	遺構内遺物-48189	第164回	遺構外遺物-28225
第132回	遺構内遺物-49190	第165回	遺構外遺物-29226
第133回	遺構内遺物-50191	第166回	遺構外遺物-30227
第134回	遺構内遺物-51192	第167回	遺構外遺物-31228
第135回	遺構内遺物-52193	第168回	遺構外遺物-32229
第136回	遺構内遺物-53194	第169回	遺構外遺物-33230
第137回	遺構外遺物-1198	第170回	遺構外遺物-34231
第138回	遺構外遺物-2199	第171回	遺構外遺物-35232
第139回	遺構外遺物-3200	第172回	遺構外遺物-36233
第140回	遺構外遺物-4201	第173回	遺構外遺物-37234
第141回	遺構外遺物-5202			
第142回	遺構外遺物-6203			
第143回	遺構外遺物-7204			
第144回	遺構外遺物-8205			
第145回	遺構外遺物-9206			
第146回	遺構外遺物-10207			
第147回	遺構外遺物-11208			
第148回	遺構外遺物-12209			
第149回	遺構外遺物-13210			
第150回	遺構外遺物-14211			
第151回	遺構外遺物-15212			
第152回	遺構外遺物-16213			
第153回	遺構外遺物-17214			
第154回	遺構外遺物-18215			

写 真 图 版

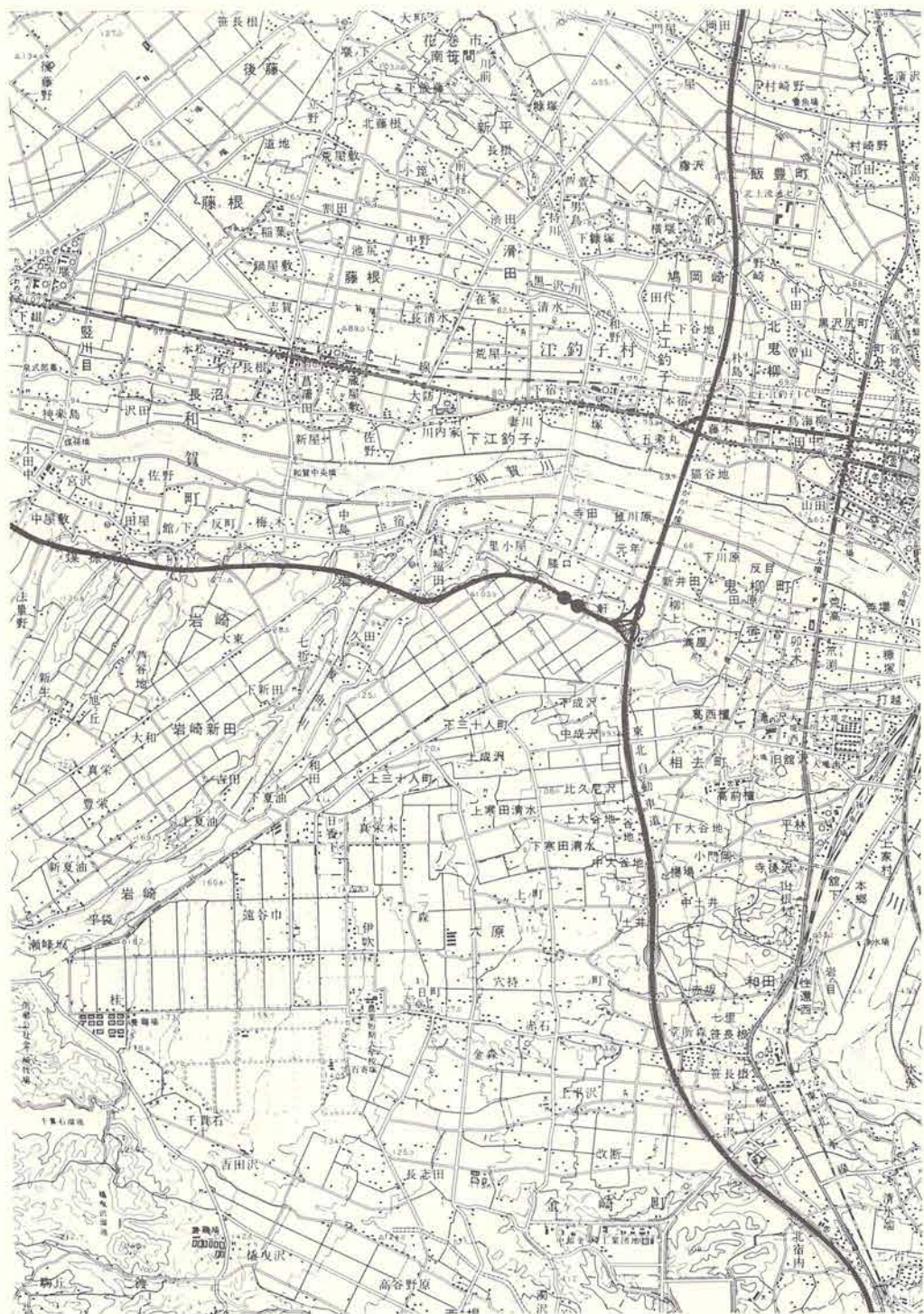
写真图版 1	上鬼柳II遺跡遠景・調査風景・基本土層	262	写真图版28	VII B 4号住居跡	289
写真图版 2	1号住居跡	263	写真图版29	VII B 5号住居跡	290
写真图版 3	2号住居跡	264	写真图版30	V B 1号工房跡	291
写真图版 4	1・2号焼土遺構、1号土坑	265	写真图版31	III B 1、IV A 1、V B 1号焼土遺構	292
写真图版 5	2・3・4号土坑	266	写真图版32	1号掘立柱建物跡	293
写真图版 6	5号土坑、1・2号陥し穴状遺構・1号溝跡	267	写真图版33	2号掘立柱建物跡	294
写真图版 7	出土遺物—1	268	写真图版34	3・4・5・6号掘立柱建物跡	295
写真图版 8	出土遺物—2	269	写真图版35	3・4号掘立柱建物跡・柱穴断面	296
写真图版 9	上鬼柳III遺跡全景・遠景	270	写真图版36	3・4号掘立柱建物跡・柱穴断面	297
写真图版10	上鬼柳III遺跡上位面全景・基本土層	271	写真图版37	5・6号掘立柱建物跡・柱穴断面	298
写真图版11	VIB 3、VII A 2号住居跡	272	写真图版38	7~12号掘立柱建物跡	299
写真图版12	II B 1・2号住居跡全景・断面	273	写真图版39	7号掘立柱建物跡・柱穴断面	300
写真图版13	II B 1・2号住居跡カマド	274	写真图版40	7・8号掘立柱建物跡・柱穴断面	301
写真图版14	II B 3号住居跡	275	写真图版41	8・9号掘立柱建物跡・柱穴・周溝断面	302
写真图版15	III A 1号住居跡	276	写真图版42	9号掘立柱建物跡周溝断面	303
写真图版16	III B 1号住居跡	277	写真图版43	10・11・12号掘立柱建物跡・柱穴断面	304
写真图版17	III B 2・3号住居跡	278	写真图版44	12号掘立柱建物跡・掘立柱建物跡群全景	305
写真图版18	III B 4号住居跡	279	写真图版45	1号窯跡	306
写真图版19	III B 5号住居跡	280	写真图版46	2号窯跡	307
写真图版20	III B 6号住居跡	281	写真图版47	3号窯跡	308
写真图版21	III B 7号住居跡	282	写真图版48	V B 1・4、VIA 1・2号土坑	309
写真图版22	V A 1・2号住居跡	283			
写真图版23	VIB 1・2号住居跡	284			
写真图版24	VII A 1号住居跡	285			
写真图版25	VII B 1号住居跡	286			
写真图版26	VII B 2号住居跡	287			
写真图版27	VII B 3号住居跡	288			

写真図版49	VIA 3、VIB 1・2・3号土坑310	写真図版75	遺構内出土遺物-9336
写真図版50	VIB12・17・36、VIIA 1号土坑311	写真図版76	遺構内出土遺物-10337
写真図版51	VIIA 2・3・5・6号土坑312	写真図版77	遺構内出土遺物-11338
写真図版52	VII B 1・2・3・4号土坑313	写真図版78	遺構内出土遺物-12339
写真図版53	VII B 5・6・7・8号土坑314	写真図版79	遺構内出土遺物-13340
写真図版54	VII B10・13・15、VB 2号土坑315	写真図版80	遺構内出土遺物-14341
写真図版55	VB 5、VIB 6・11号土坑316	写真図版81	遺構内出土遺物-15342
写真図版56	VIB15・26・30・31号土坑317	写真図版82	遺構内出土遺物-16343
写真図版57	VIB32・33、VIIA 4、VII B9号土坑318	写真図版83	遺構内出土遺物-17344
写真図版58	VII B11、III B 1、VIB 4・10号土坑319	写真図版84	遺構内出土遺物-18345
写真図版59	VIB18・21・39、VII B12号土坑320	写真図版85	遺構内出土遺物-19346
写真図版60	VII B15号土坑、VB 1、VII B 1号陥 し穴状遺構321	写真図版86	遺構内出土遺物-20347
写真図版61	IV B 1号周溝322	写真図版87	遺構内出土遺物-10348
写真図版62	VB 1号周溝323	写真図版88	遺構内出土遺物-22349
写真図版63	VIA 1号周溝324	写真図版89	遺構内出土遺物-23350
写真図版64	1・2号溝跡325	写真図版90	遺構内出土遺物-24351
写真図版65	1~10号溝跡326	写真図版91	遺構内出土遺物-25352
写真図版66	11・12・13号溝跡327	写真図版92	遺構外出土遺物-26353
写真図版67	遺構内出土遺物-1328	写真図版93	遺構外出土遺物-1354
写真図版68	遺構内出土遺物-2329	写真図版94	遺構外出土遺物-2355
写真図版69	遺構内出土遺物-3330	写真図版95	遺構外出土遺物-3356
写真図版70	遺構内出土遺物-4331	写真図版96	遺構外出土遺物-4357
写真図版71	遺構内出土遺物-5332	写真図版97	遺構外出土遺物-5358
写真図版72	遺構内出土遺物-6333	写真図版98	遺構外出土遺物-6359
写真図版73	遺構内出土遺物-7334	写真図版99	遺構外出土遺物-7360
写真図版74	遺構内出土遺物-8335	写真図版100	遺構外出土遺物-8361
		写真図版101	遺構外出土遺物-9362
		写真図版102	遺構外出土遺物-10363
		写真図版103	遺構外出土遺物-11364
		写真図版104	遺構外出土遺物-12365
		写真図版105	遺構外出土遺物-13366
		写真図版106	遺構外出土遺物-14367
		写真図版107	遺構外出土遺物-15368

写真図版108	遺構外出土遺物-16369
写真図版109	遺構外出土遺物-17370
写真図版110	遺構外出土遺物-18371
写真図版111	遺構外出土遺物-19372
写真図版112	遺構内出土遺物-20373



第1図 岩手県全図



第2図 遺跡位置図

I 調査にいたる経過

東北横断自動車道秋田線は、北上市から和賀町・湯田町を経由して秋田市に至る総延長 107 km の高速道路である。このうち、第 9 次・10 次施行命令区間は北上ジャンクションから秋田県境までの延長 33.9 km である。

これに関連する埋蔵文化財包蔵地については、岩手県教育委員会が昭和 56 年から分布調査を行っており、日本道路公団建設局との間でその取扱いについて協議された。協議の経過については以下のとおりである。

昭和 62 年 4 月 13 日付け 「仙建北工第 35 号」による分布調査の依頼

5 月 25 日付け 「教文第 117 号」による分布調査結果の回答

昭和 63 年 9 月 9 日付け 「教文第 320 号」による平成元年度発掘調査事業の照会

9 月 16 日付け 「仙建北工第 515 号」による平成元年度発掘調査事業の回答

昭和 63 年 12 月 27 日及び平成元年 1 月 21 日 日本道路公団仙台建設局、岩手県教育委員会、岩手県文化振興事業団の 3 者による埋蔵文化財調査に関する協議

これにより、岩手県教育委員会は調整のうえ、柳上遺跡、岩崎台地遺跡群、岩崎城西遺跡、梅ノ木台地 I・II 遺跡、兵庫館跡、本郷遺跡、石曾根遺跡、月館跡、八幡館跡、八幡野 II 遺跡、田中館跡、越中畑 V 遺跡の 13 遺跡、92,000 m²の調査を岩手県文化振興事業団の平成元年度委託事業にすることとした。

これをうけて、当埋蔵文化財センターは、平成元年 4 月 1 日付け委託契約により発掘調査に着手したものである。しかし、梅ノ木台地 II 遺跡と越中畑 V 遺跡の調査は、用地の買収未収や保安林解除の遅延により次年度以降に実施することとした。また、柳上遺跡、梅ノ木台地 I 遺跡、兵庫館跡、本郷遺跡は、同様の理由により調査区の一部を次年度の継続調査とした。これとともない田中館跡と八幡野 II 遺跡の調査面積を増加することとした。

平成 2 年 1 月 10 日 日本道路公団仙台建設局、岩手県教育委員会、岩手県文化振興事業団の 3 者による埋蔵文化財調査に関する協議

平成 2 年 3 月 2 日付け「教文第 731 号」による平成 2 年度埋蔵文化財調査文化事業の通知

これにより、柳上遺跡、上鬼柳 I・II・III・IV 遺跡、岩崎台地遺跡群、梅ノ木台地 I・II 遺跡、兵庫館跡、上反町遺跡、観音館跡、煤孫遺跡、法量野 I 遺跡、中屋敷遺跡、林崎館跡、本郷遺跡、八幡野 II 遺跡、田中館跡、越中畑 V 遺跡の 20 遺跡、130,700 m²の調査を実施することとなり、平成 2 年 4 月 1 日付け契約により発掘調査に着手した。

平成 2 年 6 月 27 日付け「教文 257 号」による平成 2 年度発掘調査遺跡の変更の通知

これにより、新たに岩崎台地遺跡群の ME 64-2316 と ME 64-2288 を追加し、今年度調査

予定の梅ノ木台地II遺跡、兵庫館跡、中屋敷遺跡は次年度に繰り越すこととした。また、観音館跡・上反町遺跡内の未買収地部分は次年度の継続調査とした。なお、法量野I遺跡については粗掘だけとし、精査を次年度に繰り越すこととした。

平成2年11月26日付け「財岩文141号」による平成2年度発掘調査事業の調整の依頼により、一部精査未了の柳上遺跡、上鬼柳I遺跡、岩崎台地遺跡群、煤孫遺跡は次年度の継続調査とした。

II 立地と環境

1. 遺跡の位置と地形

本遺跡の所在する北上市は、岩手県を南北に貫いて流れる北上川の中流域に位置し、北は花巻市及び沢内村、東は東和町及び江刺市、南は金ケ崎町及び胆沢町、西は湯田町とその境を接する。北上川は全長 249 km、流域面積 10,150 km²の東北第一の大河で、中流域の右岸においては新第三紀層の砂岩、凝灰岩を基盤とする台地、扇状地の末端に浸食崖を形成する。同川は北上市古川で奥羽山脈の和賀岳(1,440 m)に源を発する和賀川と合流し、北上盆地を形成する。北上盆地は北上川と和賀川をはじめとするその支流が開析したものであり、北上川の支流である和賀川も、夏油川など 1 級河川 13 を支流とする全長 75 km の一級河川である。北上川に注ぐ支流のうち、大きな河川の殆どは奥羽山脈に水源を持ち、東に向かって流れる。このため、奥羽山脈支流から運び込まれる砂礫量は北上山地支流に比べて著しく多く、北上川の西では大小の段丘や扇状地、河岸平野および起伏量の小さい丘陵地が互いに入り組む構造となって、古来から人々に生活の場を提供してきた。本遺跡の立地する北上市上鬼柳地区も和賀川南岸の河岸段丘上に位置している。

和賀川下流域南岸の河岸段丘は大きく高位、中位、低位の 3 段丘に分けられる。高位段丘は『岩手県土地分類基本調査地形分類図』(1976, 以下『地形分類図』)の丘陵地 II である。中川久夫他の分類によると西根段丘に相当するが、かなりの開析をうけているため、『地形分類図』では段丘とせず、丘陵地としている。中位段丘は『地形分類図』の砂礫段丘 II で、中川他の村崎野段丘に相当する。西根段丘に比して段丘面は平坦でよく保存されており、周囲をより新鮮な低位の金ケ崎段丘にとり囲まれている。村崎野段丘の構成層は礫層で、基質は砂であるが(飯豊礫層)、上部で粘土質となり、その上位に黒沢尻火山灰が重なる。黒沢尻火山灰の主部はその下半の黄橙色浮石層(村崎野浮石)で、南西に位置する焼石岳(1548 m)に起源をもつものである。この浮石層の堆積時期は、ウルム氷期前半(4~7 万年前)と考えられている。低位段丘は『地形分類図』の砂礫段丘 III で、中川他の金ケ崎段丘に相当する。金ケ崎段丘は北上川中流沿岸でもっとも広範囲を占める段丘で、扇状地形をよく示している。和賀川上流では古期の段丘を蔽い、下流ではそれらを開析した河谷中にのびる。傾斜は中位段丘である村崎野段丘より急で、細分される場合には、新期のものほど急傾斜となる傾向がある。構成層は礫層(瘤木礫層)である。金ケ崎段丘は火山灰に蔽われていない。

2. 遺跡および周辺の地形

本遺跡が所在する北上市上鬼柳は北上市のほぼ中央部に位置し、東日本旅客鉄道東北本線の

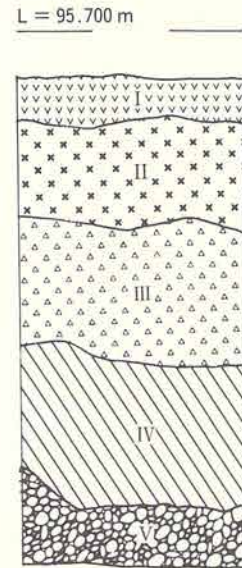
西約 4.4 km にある。同地点は北緯 39 度 16 分、東経 141 度 4 分付近である。上鬼柳地区は前述の洪積世中位・低位段丘と河岸平野とから成り立っており、標高は段丘上の平坦地で約 93 m、河岸平野で約 72 m である。一部には山林として利用されているところもあるが、その大部分は水田として利用されている。上鬼柳Ⅱ・Ⅲ遺跡はこれらの段丘の縁辺部に立地し、標高 96 m～97 m の上位面と 87 m～88 m の下位面とに分かれる。上鬼柳Ⅱ遺跡と上鬼柳Ⅲ遺跡の上位面が村崎野段丘に、上鬼柳Ⅱ遺跡の下位面が金ヶ崎段丘に相当する。河岸平野との比高は上位面で約 23 m、下位面で約 14 m である。調査区の現況は山林である。

3. 基本層序

遺跡の層序は、前述のように上鬼柳Ⅱ遺跡と上鬼柳Ⅲ遺跡の上位面が村崎野段丘に、上鬼柳Ⅲ遺跡の下位面が金ヶ崎段丘に相当するなど、地形面での変化が大きいことから、それぞれの調査区ごとに作成した。基本層序もそれぞれの地点で異なるが、概略は以下のとおりである。

①上鬼柳Ⅱ遺跡（第3図 土層柱状図①、写真図版1）

- I層 黒褐色土 表土である。シルトで粘性、しまりとも
ない。層厚 10 cm～15 cm で、遺跡全面を覆うが、
北側の段丘の縁に近づくにつれ、厚くなる。
- II層 暗褐色土 シルトで粘性はないが、表土と比べやや
しまりがある。径 3 mm～5 mm の褐色土粒を多量
に含む。層厚は 28 cm～33 cm であるが、東側の上鬼
柳Ⅲ遺跡に続く斜面に近づくほど厚くなる。下位は
III層と混合する部分も多く見られる。この層が当遺
跡の検出面である。
- III層 明褐色土 粘土質シルトでしまりがあり、堅い。上
位でII層の暗褐色土と混合する。層厚 35 mm～40
mm である。
- IV層 明褐色土 粘土質シルトでしまりがあり、非常に堅
い。V層と明確に区別することは困難だが、III層の
橙色土に近づくとき、上位のV層よりはっきりと赤み
を増すため、III層とIV層を区分した。
- V層 明黄褐色土 浮石層である。径 2 mm～5 mm の粒
状の浮石が堆積する。にぶい黄褐色の粒子が部分的
に混じる



第3図 土層柱状図①

②上鬼柳III遺跡

a. 下位面 (第4図 土層柱状図②a、写真図版10)

I層 黒褐色土 表土である。シルトで粘性、しまりともない。砂および砂質シルトの混入が多い順に Ia、Ib、Ic の3層に細分される。層厚 33 cm～40 cm であるが、下位面の中央部で厚く、東西の両端では薄い。

II層 黒褐色土 シルトで粘性はないが、ややしまっている。下位になるにつれて黒っぽさを増し、III層へと漸移的に変化する。層厚は 16 cm～27 cm である。この層が下位面における検出面である。

III層 黒色土 シルトで粘性はない。しまりがなく柔らかい。褐色粘土質シルトがブロック状に混じる。層厚は 23 cm～30 cm である。

IV層 におい黄褐色土 粘土質シルトで、かたくしまっている。褐色の粘土質シルトが多量に混じる。

b. 上位面 (第4図 土層柱状図②b、写真図版10)

I層 黒褐色土 表土である。シルトで粘性、しまりともない。植物根などの繊維質の混入が著しい。層厚は 5 cm～10 cm である。

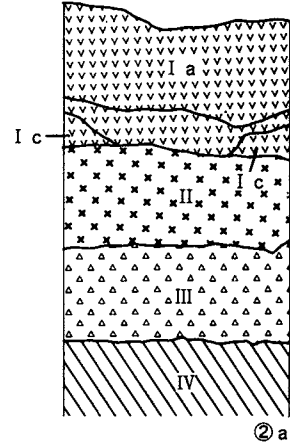
II層 暗褐色土 I層から漸移的に続くが、植物繊維の混入がほとんどなく粒子は細かい。シルトで粘性はないが、表土と比べややしまりがある。層厚は 10 cm～28 cm である。

III層 褐色土 粘土質シルトでIV層に漸移的に続く。II層と比べ、粘性、しまりがある。この層が上位面における検出面である。層厚は 28 cm～38 cm である。

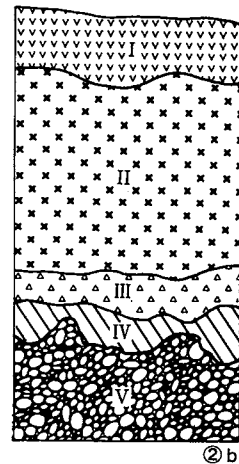
IV層 明褐色土 粘土質シルトで、上位ではIII層より粘性、しまりが弱くなるが、下位に近づくにつれ、しまりを増す。層厚は 20 cm～32 cm である。

V層 明黄褐色土 浮石層である。径 2 mm～5 mm の粒状の浮石が堆積する。におい黄褐色及び青灰色の粒子が部分的に混じる。

L = 87.930 m



L = 90.000 m



第4図 土層柱状図②a・②b

4. 周辺の遺跡

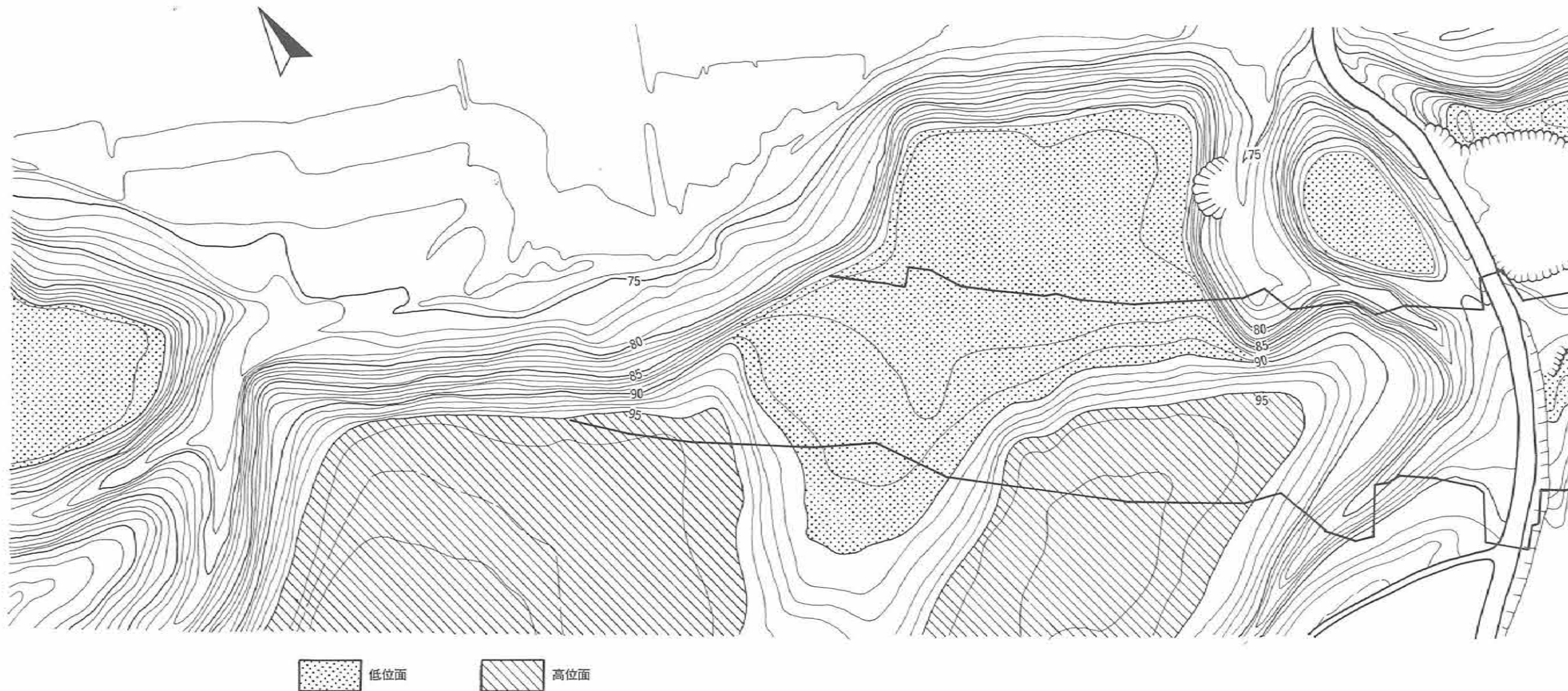
発掘調査された遺跡に限定し、本遺跡を含めて和賀川周辺の遺跡について概観する。

和賀川北岸では、中位段丘やその縁辺部および開析された小支谷沿いに縄文時代の遺跡が比較的多く分布する。調査された主な遺跡としては、旧石器時代から近世にわたる複合遺跡で、縄文時代前期末と中期初めに属する大型住居が検出された鳩岡崎遺跡、縄文時代晩期終末の遺跡で多数の亀ヶ岡式土器が出土している九年橋遺跡があげられる。低位段丘上や低位段丘に沿って河岸低地に形成された自然堤防上には、奈良時代から平安時代にかけての遺跡が多く分布する。調査された主な遺跡としては、多数の墨書をともなう土師器や須恵器、木製品を出土している下谷地遺跡、7世紀後半から8世紀初めにかけての円墳群で、長沼・八幡・五条丸・猫谷地の4支群からなる江釣子古墳群などがある。

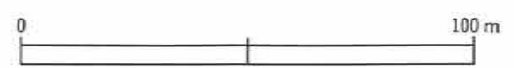
和賀川南岸では、丘陵縁辺や中・低位段丘上に開析された支谷に沿って、縄文時代から平安時代までの遺跡が分布し、段丘の北側縁辺部には湧泉や深く入り込んだ沢や急崖を利用した城館遺跡が分布している。調査された主な遺跡としては、段丘構成層から旧石器が出土している和賀仙人遺跡（旧石器の散布地）、低位段丘上に立地する下岩沢Ⅰ遺跡（集落跡・土坑、縄文土器、弥生土器）、梅ノ木遺跡（縄文・古代・中世の竪穴住居跡、掘立柱建物跡、土坑、縄文土器）、成沢遺跡（平安時代の竪穴住居跡、土師器）、中位段丘上に立地する下成沢遺跡（旧石器、縄文土器、土師器）、上大谷地遺跡（平安時代の竪穴住居跡、縄文土器、土師器）などがあげられる。

平成元年度には本遺跡も含めて東北横断自動車道秋田線建設関連の遺跡発掘事業が始まり、和賀川南岸の低位段丘の縁辺部に立地する遺跡が調査された。その結果、柳上遺跡（縄文時代の竪穴住居跡）、上鬼柳Ⅰ遺跡（平安時代の竪穴住居跡）、上鬼柳Ⅱ・Ⅲ遺跡（本遺跡）、上鬼柳Ⅳ遺跡（縄文・弥生時代の土坑）、岩崎台地遺跡群（平安時代の竪穴住居跡、掘立柱建物跡）、岩崎城西遺跡（縄文・弥生時代の土坑）、梅ノ木台地Ⅰ・Ⅱ遺跡（散布地）、兵庫館跡（散布地）、上反町遺跡（散布地）、観音館跡（散布地）、煤孫遺跡（縄文時代の竪穴住居跡）、法量野Ⅰ遺跡（縄文・弥生時代の土坑）、本郷遺跡（縄文、平安時代の竪穴住居跡）、石曾根遺跡（縄文時代の竪穴住居跡、土坑）、月館跡（堀跡、柵列状遺構、陥し穴状遺構、縄文土器）、八幡館跡（平安時代の竪穴住居跡、土坑、陥し穴状遺構）、八幡野Ⅱ遺跡（平安時代の竪穴住居跡、土坑）、田中館跡（縄文時代の土坑）などの遺構が発見されている。

なお、和賀川周辺という範囲からは外れるが、北上市稲瀬町には平泉に先行する寺院跡で、大規模な古代山岳大伽藍跡とされる極楽寺跡（国見山廃寺跡）がある。



低位面
 高位面



第5図 遺跡周辺の地形図

I 調査と室内整理の方法

1. 調査方法

(1) 地区割

上鬼柳II遺跡と上鬼柳III遺跡の調査区域割は、両遺跡の調査を統一的に把握するため、両遺跡が単一のグリッドにのり、調査範囲全体をカバーできるように次のように行った。上鬼柳III遺跡内に任意の1点を設け、基点1とした。基点1から北西へ40m離れたところに1点を取り、基点2とした。さらに基点1と基点2を結ぶ直線を、基点2から北西に40m延長したところにもう1点を取り、基点3とした。これらの基準点を通る直線を軸線とし、基点1から縦横方向に40m間隔の大グリッドを設定し、さらに大グリッド毎に4m間隔の小グリッドを設定した。大グリッドは軸線方向を北西からI、II、～VII、軸線と直交する方向を北東からA、B、Cと命名し、軸線方向の小グリッドを0～9、軸線と直交する方向のそれをa～jとした。大グリッド名は両者をあわせてIIA、IIIAのように呼称し、小グリッドはIIIB4h、IIIV7dのように表した。上鬼柳II遺跡では、遺構の名称は検出された大グリッド名を頭にし、例えばIIB1号住居跡、IIV21号土坑、VII B1号陥し穴状遺構のように表した。小グリッドは遺構外の遺物の出土地点を表す場合に使用するにとどめた。上鬼柳II遺跡の調査範囲は設定したグリッドにおけるI～II区に相当するが、遺構数が少ないこともあり、1号住居跡、2号土坑のように、大グリッド名を頭にせず表した。軸線は磁北に対し45°西偏するが、調査に当ってはこの軸線方向を南北方向、軸線と直交する方向を東西と呼ぶ遺跡の方位を採用した。ただし、本報告書に掲載した図版はすべて磁北を採用している。

なお、基点1、基点2、基点3の公共座標は次のとおりである。

	第X系		標高
基点1	X = -80,600.000 m	Y = 20,600.000 m	88.382 m
基点2	X = -80,571.716 m	Y = 20,631.716 m	87.630 m
基点3	X = -80,656.569 m	Y = 20,716.569 m	96.125 m

(2) 粗掘り・精査

調査区の現況は山林や藪であるため、雑木の撤去や焼却作業からはじめ、地区割りと併行して幅2～4mの試掘トレンチを入れながら遺構検出を進めた。変化に富む地形に加え、大きな木根が多いため、表土除去作業には人力と重機を併用した。また、土山の移動は重機によっておこなった。検出された遺構には遺構名を付し、検出作業後、順次、精査をおこなった。精査にあたっては住居跡は4分法、土坑などは2分法を原則とした。出土遺物は、遺構名・地区名・層位などを記入して取り上げた。

(3) 実測・写真撮影

実測は簡易造り方測量でおこなった。実測図は縮尺 20 分の 1 を基本としたが、焼土やカマドは 10 分の 1 でおこなった。遺構のレベルは 1 m 間隔を原則とし、必要に応じて計測個所を設けている。写真は、6 × 7 cm 版 1 台（白黒）と 35 mm 版 2 台（白黒、カラーリバーサル）の 3 台を 1 セットとして使用し、埋土断面・全景・遺物出土状況などを撮影した。

2. 室内整理方法

(1) 作業手順

室内整理は、現場で残してきた遺物の注記からはじめ、次いで接合・復元・石膏入れの作業をおこなった。これらの作業が終わった段階で、遺物の仕分・登録をおこない、報告書掲載分について、写真撮影をおこなった。その後、遺物実測、土器拓本、遺物・遺構トレースの順に作業を進め、最後に図版や写真図版を作成した。以上の作業と併行して、計測、諸鑑定、原稿作成をおこない、報告書に掲載した。

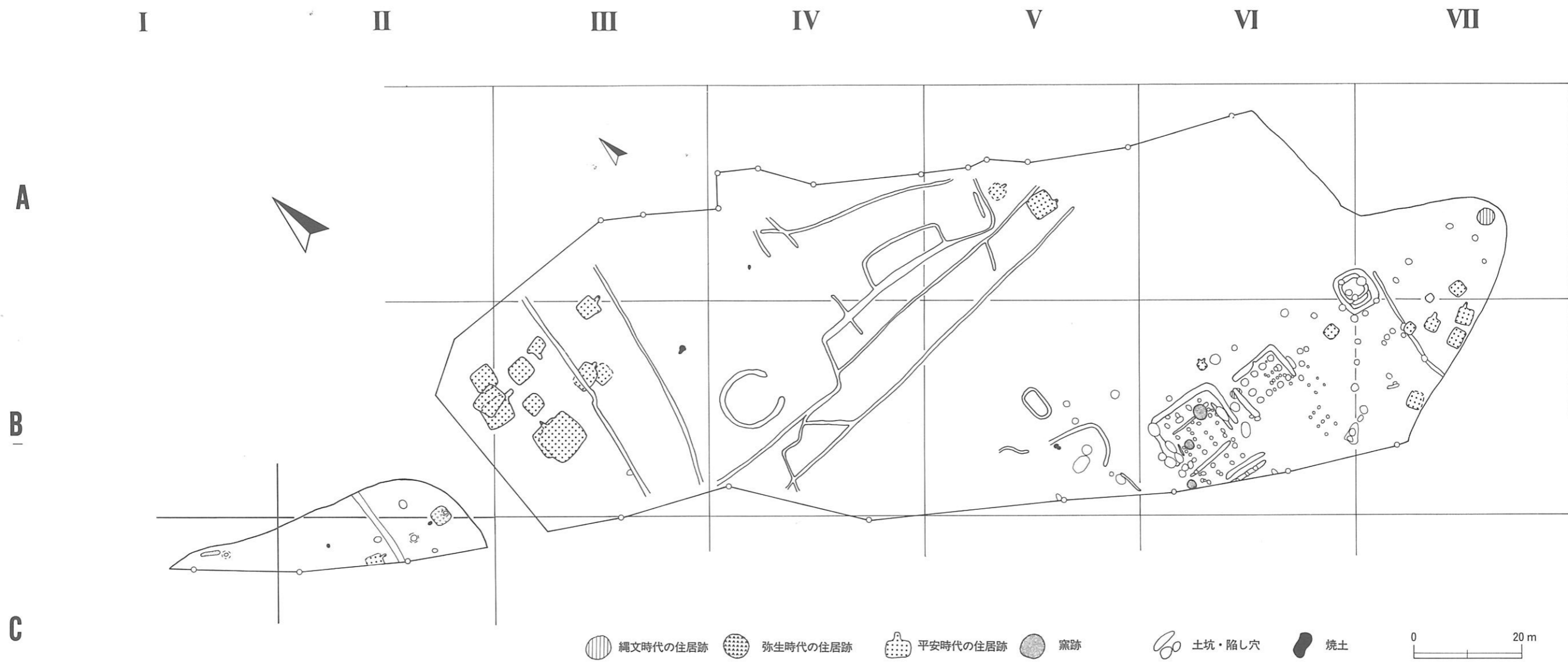
(2) 図版

遺構図版の縮尺は竪穴住居跡、工房跡が 60 分の 1、土坑が 40 分の 1、焼土遺構と竪穴住居跡住居跡のカマド断面が 30 分の 1、掘立柱建物跡が 100 分の 1 で、一部を任意縮尺としている。

遺物図版の縮尺は原則として 3 分の 1 であるが、土器の破片、石器、鉄製品の一部には 2 分の 1 のものも含む。

遺物一覧表の器面調整の欄の略語は以下のとおりである。HK=ヘラケズリ、HN=ヘラナデ、M=ミガキ、YN=ヨコナデ、N=ナデ、HT=平行タタキ目、SK=青海波紋、KI=回転糸切り

写真図版の縮尺は、遺構・遺物とも不定である。



第6図 上鬼柳II・III遺跡遺構配置図

IV ^{かみおにやなぎ}上鬼柳 II 遺跡

所在地	北上市鬼柳町字上鬼柳第2地割118番地ほか
委託者	日本道路公団仙台建設局
発掘調査期間	平成2年9月10日～10月5日
調査対象面積	300 m ²
発掘調査面積	300 m ²
遺跡番号・略号	ME65-2054・KO II-90
調査担当者	伊東 格・川村 均・及川 渉
協力機関	北上市・花巻市・江刺市教育委員会

1. 遺構と伴出遺物

(1) 竪穴住居跡

1号住居跡

遺構（第7図、写真図版2）

〈位置と残存状況〉 遺跡の南部に検出された。遺構は調査範囲外に広がっており、調査したのは北半分である。

〈形状と規模〉 調査範囲外に広がるため全体の形状は不明であるが、平面形は長方形と推定される。北東壁は長さ 2.5 m、壁高 15 cm～33 cm の規模をもち外傾する。調査範囲内の床面積は 4.1 m² である。

〈埋土〉 色調の違いにより 5 層に分けられる。上位は暗褐色土、黒褐色土が多く、下位には明褐色土が混じる。また、4 層は灰白色火山灰を少量含む。

〈床〉 地山を掘り込んでおり、凹凸はほとんどなく平坦である。

〈柱穴・土坑〉 床面や壁外の周辺部から検出された柱穴や貯蔵穴状土坑はない。

〈カマド〉カマドは南東壁の北寄りに設けられ、総長 174 cm、壁外 96 cm である。カマドの長軸方向は E-20°-S である。袖部は楕円形の石（左側 12 cm×21 cm×8 cm、右側 23 cm×22 cm×10 cm）を芯材とし、幅は芯材の外側で 60 cm である。燃烧部の焼土はほとんど検出されなかったが、袖石の中央に支脚として使用された石（8 cm×10 cm×11 cm）を検出した。煙道部は削り抜き式で壁外に 80 cm 延び、幅 24 cm～16 cm、深さ 32 cm～24 cm の断面半円状の溝状を呈する。煙出し部は直径 50 cm、深さ 70 cm の円筒状を示している。

遺物（第11図、写真図版7）

カマドを中心に床面からも出土している。土器のみで構成される。

〈土器〉 土師器甕形土器 5 点（1～5）の出土である。

1 は床面からの出土である。体部中央に最大径を、頸部に括れを持ち、体部中央から底部にかけてすばむ。口縁部は短く外傾し、口唇部は引き出されている。器面調整は口縁部が内外面ともにロクロナデ、胴部はヘラナデ、底部はヘラケズリで、内面は口縁部より下がナデである。外面には煤が付着している。2～5 はカマドからの出土である。2 は体部上半の破片で、頸部に括れを持つ。底部を欠くために全体の形状は不明であるが、体部中央に最大径を持つものと推定される。口縁部は短く外傾し、口唇部は上下ともに引き出されている。器面調整は口縁部が内外面ともヨコナデ、体部は外面の上半がヨコナデ、下半がヘラナデ、内面はナデである。内面には煤が付着している。3、4 は体部上半破片である。口縁部は短く外反し、口唇部がやや引き出されている。最大径は口縁部にあるものと推定される。器面調整は口縁部の外面と体部の内外面がロクロナデ、口唇部の内面がヨコナデである。5 は底部破片である。器面調整は

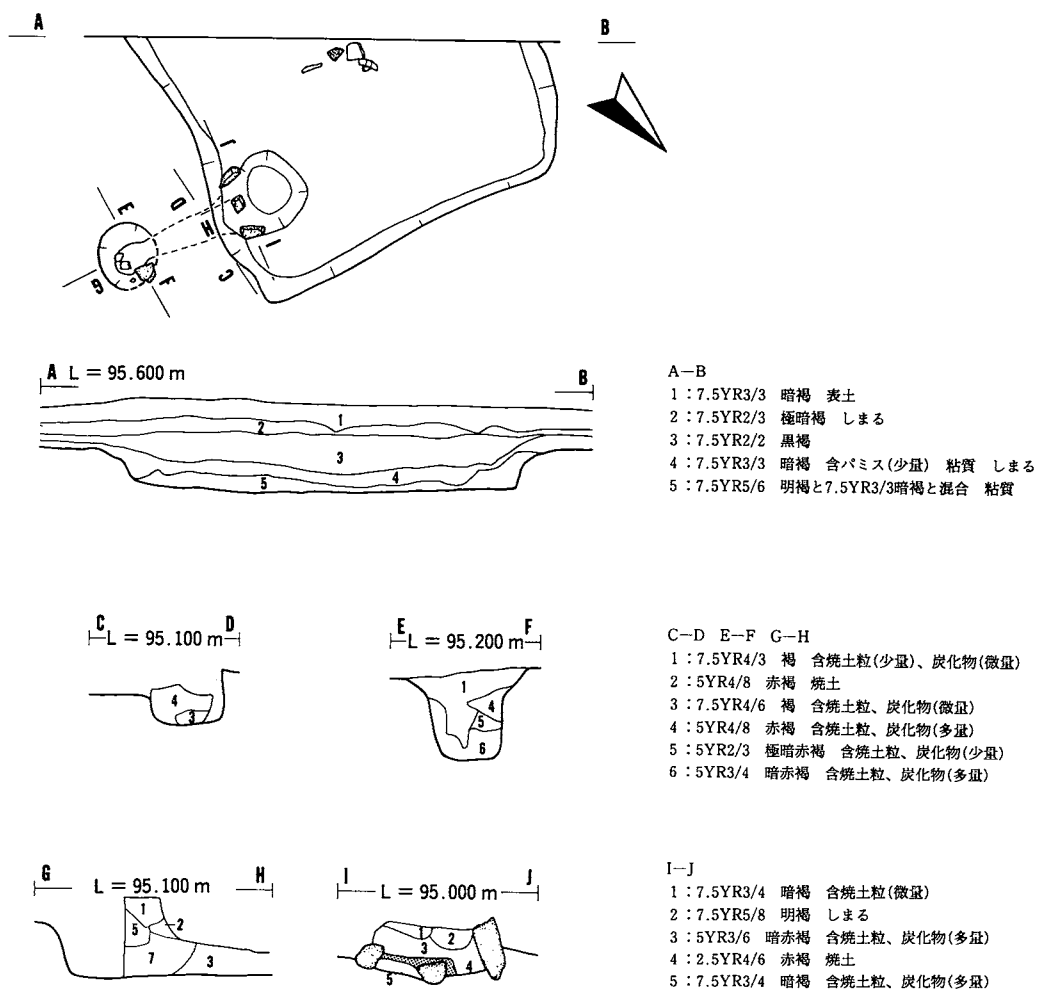
外面がヘラケズリ、内面がナデである。

2号住居跡

遺構（第8図、写真図版3）

〈位置と残存状況〉調査区の東部、上鬼柳III遺跡へと続く斜面の上段に検出された。斜面にあるため埋土の流出がみられ、残存状態は不良である。2号土坑と重複し、2号土坑より新しい。

〈形状と規模〉平面形は隅丸方形で、やや歪んでいる。規模は南北方向で3.4 m、東西方向は東壁を欠くため不明であるが、南北方向とほぼ同様であると推定される。



第7図 1号住居跡

〈埋土〉色調と炭化物、焼土の混入状況から8層に分けられる。上位は灰白色火山灰を含む暗褐色土、黒褐色土が多く、下位は浮石と混じる。

〈床〉木根による攪乱や流出による凹凸が著しく、比高差は22 cm位である。

〈周溝〉東壁以外の3方向で確認されたが、流出と攪乱のため一部不詳である。幅22 cm、深さは11 cm前後である。

〈柱穴と土坑〉柱穴は6個検出されているが、いずれも壁柱穴と思われ、支柱穴に相当する柱穴は検出できなかった。土坑は1基検出された。北西隅に位置し、平面形は歪んだ円形で、深さ23 cmである。埋土は竪穴住居跡と同じであり、これに付属するものである。床面中央の炉と重複する地点に土坑(2号土坑)を検出したが、埋土はほぼ単層であることから、竪穴住居跡を構築する際に埋め戻されたもので、2号住居跡より古い別個の遺構と思われる。

〈炉〉床面中央部よりやや西寄りに構築されており、地面を浅く掘りくぼめた地床炉である。炉の中からは炭化したクリの実21個とケヤキ材が出土している。

遺物(第12図、写真図版7)

床面、埋土から出土している。土器のみの出土である。

〈土器〉8は鉢型土器の体部上半で底部を欠く。体部上半には2個一対の粘土瘤を伴う変形工字文が施され、下半には単節縄文が斜行または縦走している。口縁部は内側にやや膨み、膨らみの上には沈線がめぐる。内面は刷毛調整されている。口唇部にはキザミが施される。9は鉢形土器の体部上半の破片で、外面は入組工字文が施され、内面はナデ調整されている。10は鉢形土器の口縁部破片で、地文は斜縄文、口唇部には原体圧痕文が施される。11は鉢型土器の底部である。外面は単節縄文が斜行し、内面はナデ調整されている。

(2) 焼土遺構

1号焼土遺構

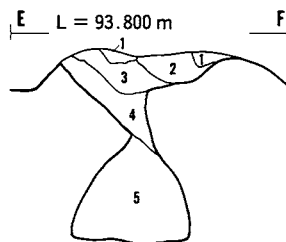
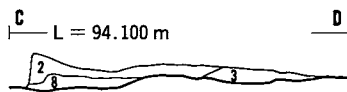
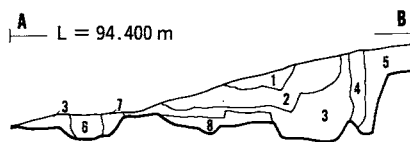
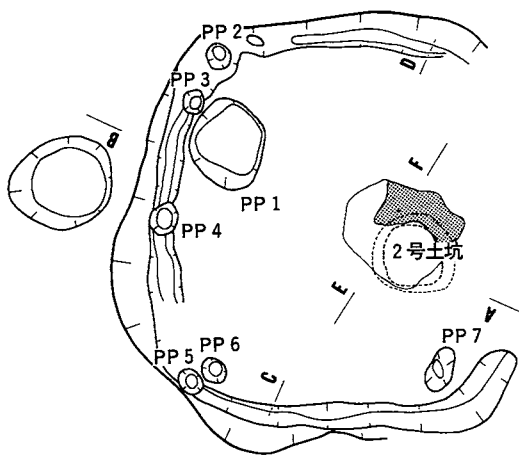
遺構(第8図、写真図版4)

調査区の中央に位置し、1号住居跡の北西約8 mにある。平面形は不整形を呈する。最大径は96 cm、層厚は6 cmである。出土遺物はない。

2号焼土遺構

遺構(第8図、写真図版4)

調査区の南東部に位置し、2号住居跡の西約0.2 mにある。平面形は不整形を呈し、最大径は90 cm、層厚は3 cmである。焼土層の下には深さ50 cm、開口部径82 cm×71 cm、底部径58 cm×53 cmの断面形がバケツ形の凹みを伴う。



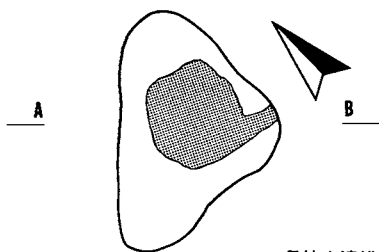
A-B C-D

- 1 : 7.5YR3/3 暗褐 含バミス(微量)
- 2 : 7.5YR3/4 暗褐 含バミス、焼土粒、炭化物(少量)
- 3 : 7.5YR5/6 明褐 含バミス、炭化物(少量)
- 4 : 7.5YR4/6 明褐と7.5YR3/4明褐の混合
- 5 : 7.5YR6/8 橙 しまる
- 6 : 7.5YR2/2 黒褐 含焼土粒(微量)
- 7 : 7.5YR2/3 極暗褐 含焼土粒(多量)
- 8 : 7.5YR5/6 明褐 含浮石

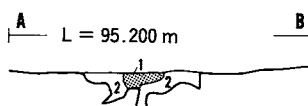
2号住居跡

E-F

- 1 : 7.5YR2/1 黒 含焼土粒、炭化物(多量)
- 2 : 2.5YR4/8 赤褐 焼土
- 3 : 5YR4/6 赤褐 含焼土粒、炭化物(多量)
- 4 : 7.5YR2/2 黒褐 含焼土粒(多量)
- 5 : 7.5YR3/4 暗褐 含バミス(少量)、焼土粒(微量)

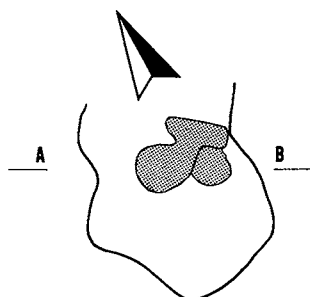


1号焼土遺構

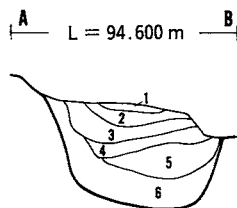


A-B

- 1 : 2.5YR3/6 暗赤褐 焼土
- 2 : 7.5YR3/4 暗褐 含焼土粒(微量)



2号焼土遺構



A-B

- 1 : 2.5YR3/4 暗赤褐 焼土
- 2 : 7.5YR2/2 黒褐 含炭化物(微量)
- 3 : 7.5YR3/4 暗褐 含炭化物(微量)
- 4 : 7.5YR4/3 褐と7.5YR5/8明褐の混合 粘質
- 5 : 7.5YR3/3 暗褐
- 6 : 7.5YR4/6 褐 しまる

第8図 2号住居跡、1・2号焼土遺構

遺物 (第 13 図、写真図版 7)

埋土から蓋形土器 1 点 (12) が出土している。

〈土器〉12 は蓋形土器である。ツマミ部の上部と体部の縁は欠損している。ツマミ部と体部の接合部分にはつなぎの粘土が充填されている。ツマミ部は中央に膨らみを持つ。体部は外面が単節縄文の斜行または横走で、内面底部とツマミ部の内面はナデツケ調整されている。

(3) 土坑

1 号土坑

遺構 (第 9 図、写真図版 4)

調査区の南東部に位置し、2 号住居跡の南西約 5 m 付近にある。平面形は不整形である。規模は、開口部径 125 cm×112 cm、底部径 108 cm×104 cm、深さ 108 cm である。断面形はフラスコ状を呈す。底面は地山IV層を掘り込んでおり、ほぼ平坦である。埋土は 9 層に細分され、中位には浮石を含む。出土遺物はない。

2 号土坑

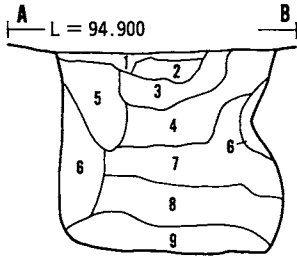
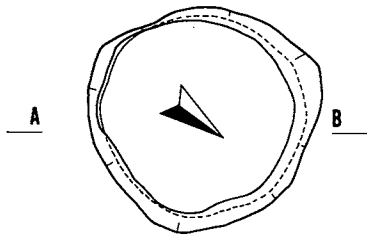
遺構 (第 8 図、写真図版 5)

調査区の南東部に位置し、2 号住居跡の床面の下から検出された。平面形は不整形である。規模は開口部径 54 cm×45 cm、底部径 69 cm×54 cm、深さ 74 cm である。断面形はフラスコ状を呈す。底面は底面は地山IV層を掘り込んでおり、ほぼ平坦である。埋土は暗褐色土主体で、黄褐色土粒と焼土粒を少量含む単層であり、住居を作る際に人為的に埋め戻されたものと思われる。

遺物 (第 13 図、写真図版 7)

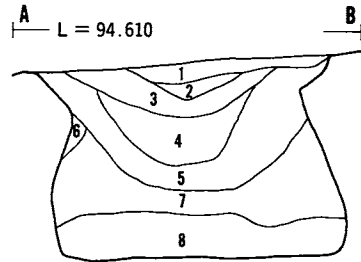
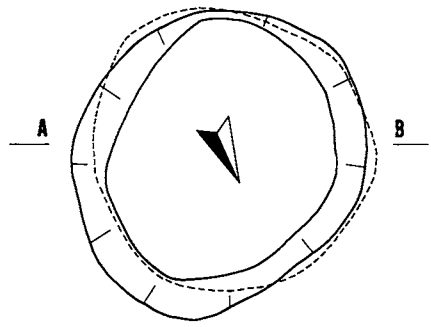
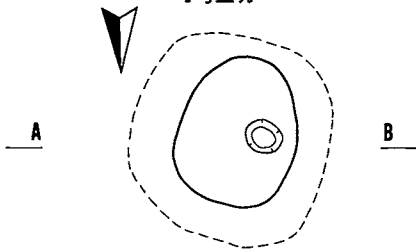
埋土から 3 点 (13~15) 出土している。土器のみの構成である。

〈土器〉13 は小型壺形土器の底部破片で、底面に単節縄文痕が認められる。14 は鉢形土器の体部破片である。外面は単節縄文が斜行または横走し、内面はナデ調整である。15 は鉢形土器の体部上半である。口縁部を欠く。外面は斜行する単節縄文が施されており、その上には沈線がめぐる。内面はナデ調整されている。外面には煤が付着している。



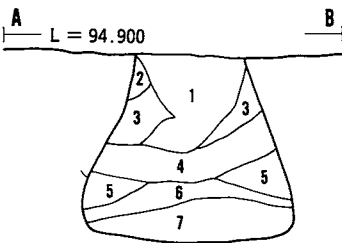
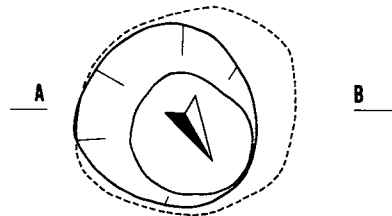
- A-B
 1 : 7.5YR3/3 暗褐 しまる
 2 : 5YR4/8 赤褐 含焼土粒、炭化物(少量)
 3 : 7.5YR3/2 黒褐
 4 : 7.5YR4/4 褐
 5 : 7.5YR4/4 褐 含パミス(多量)
 6 : 7.5YR5/6 明褐と7.5YR4/4褐の混合
 7 : 7.5YR4/3 褐 含パミス(多量)
 8 : 7.5YR3/4 暗褐 含パミス(少量)
 9 : 7.5YR2/2 黒褐

1号土坑



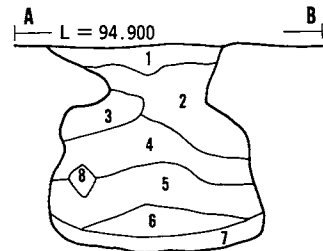
- A-B
 1 : 7.5YR2/2 黒褐 含焼土粒(微量)
 2 : 5YR3/6 暗赤褐 含焼土粒(多量)
 3 : 7.5YR3/3 暗褐 含パミス(微量)
 4 : 7.5YR4/4 褐 含炭化物(少量)
 5 : 7.5YR4/6 褐と7.5YR3/4暗褐の混合
 6 : 7.5YR5/8 明褐 しまる
 7 : 7.5YR4/6 褐 粘質
 8 : 7.5YR3/3 暗褐 粘質 しまる

3号土坑



- A-B
 1 : 7.5YR3/3 暗褐 含パミス、炭化物(微量)
 2 : 7.5YR4/6 褐 粘質
 3 : 7.5YR5/6 明褐と7.5YR3/2黒褐の混合 しまる
 4 : 7.5YR3/3 暗褐 含パミス(少量)
 5 : 7.5YR3/4 暗褐と7.5YR4/6褐の混合 粘質
 6 : 7.5YR2/2 黒褐 含パミス(微量)
 7 : 7.5YR2/2 黒褐 含パミス(多量)

4号土坑



- A-B
 1 : 7.5YR3/2 黒褐 含炭化物(少量)
 2 : 7.5YR4/3 褐 含パミス(少量)
 3 : 7.5YR4/6 褐と7.5YR3/4暗褐の混合
 4 : 7.5YR3/4 暗褐 含パミス(多量)
 5 : 7.5YR3/3 暗褐 含パミス(少量)
 6 : 7.5YR2/2 黒褐 含パミス(少量)、炭化物(微量)
 7 : 7.5YR3/4 暗褐 含焼土粒(微量) しまる
 8 : 7.5YR5/6 明褐 ブロック

5号土坑

第9図 1号・3号・4号・5号土坑

3号土坑

遺構（第9図、写真図版5）

調査区の東部に位置し、2号住居跡の北西約6mにある。平面形は不整円形である。規模は開口部径173cm×145cm、底部径156cm×145cm、深さ107cmである。断面形はフラスコ状を呈す。底面は地山IV層を掘り込んでおり、ほぼ平坦である。埋土は8層に細分され、2層には焼土粒を多量に含む。出土遺物はない。

4号土坑

遺構（第9図、写真図版5）

調査区の北西端に位置し、1号陥し穴状遺構の南西約0.7mにある。平面形は楕円形を呈す。規模は開口部径79cm×61cm、底部径123cm×105cm、深さ102cmである。平面形はフラスコ状を呈す。底面は堅くしまり、ほぼ中央に径22cm×18cm、深さ9cmの柱穴を伴う。底面は地山IV層を掘り込んでおり、ほぼ平坦である。埋土は7層に細分され、全体に浮石が混入する。出土遺物はない。

5号土坑

遺構（第9図、写真図版6）

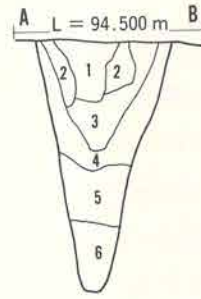
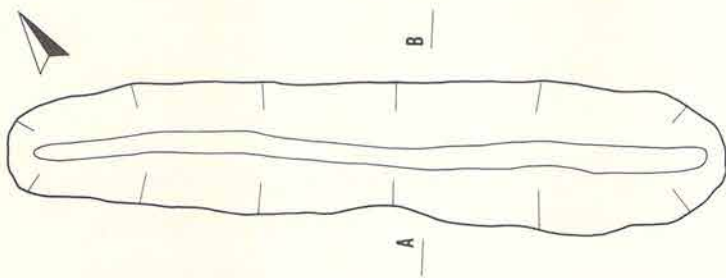
調査区の南東部に位置し、2号住居跡の西約5mにある。平面形は不整円形を呈す。規模は開口部径96.0cm×93.0cm、底部径125cm×105cm、深さ112cmである。断面形はフラスコ状を呈す。壁は床面から上へ約70cmのところの内側へ最大25cmほど鋭角的に入り込む。底面は地山IV層を掘り込んでおり、ほぼ平坦である。埋土は8層に細分され、7層には焼土粒を含む。出土遺物はない。

(4) 陥し穴状遺構

1号陥し穴状遺構

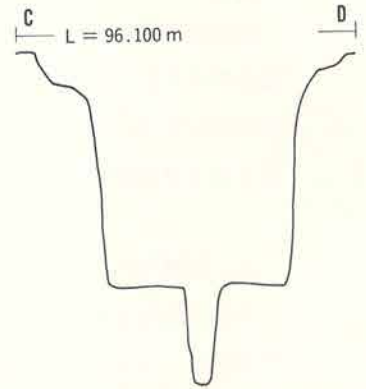
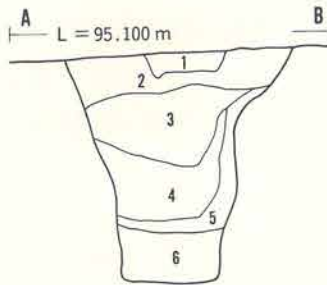
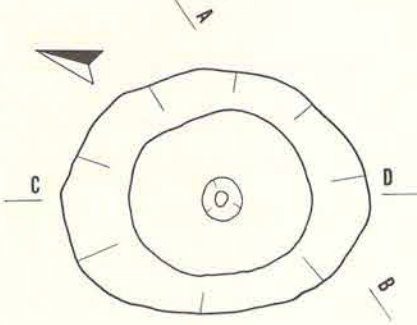
遺構（第10図、写真図版6）

調査区の西北端に位置し、4号土坑の西北1mにある。平面形は細長い溝形を呈し、長軸はN-60°-Wである。規模は開口部径382cm×68cm、底部径357cm×11cm、深さは中心部で136cmである。短軸の断面形はV字形である。底面はほぼ平坦で、杭跡はない。埋土は6層に細分され、上層は黒色土、下層は明褐色土を基調とする。出土遺物はない。



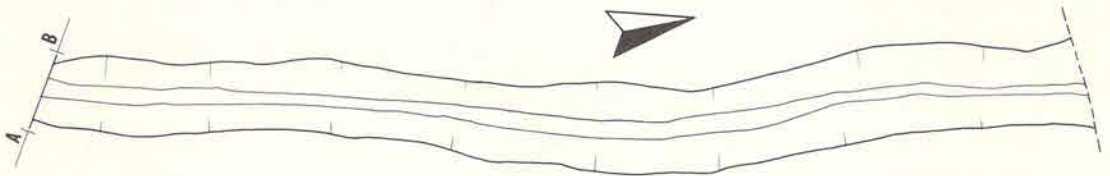
- A-B
 1 : 7.5YR1.7/4 黒
 2 : 7.5YR2/1 黒 含バミス(微量)
 3 : 7.5YR2/3 極暗褐 しまる
 4 : 7.5YR5/6 明褐 含褐色土
 5 : 7.5YR5/6 明褐
 6 : 7.5YR5/6 明褐 含浮石

1号陥し穴状遺構

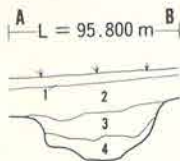


- A-B
 1 : 7.5YR2/2 黒褐
 2 : 7.5YR4/4 褐
 3 : 7.5YR3/3 暗褐 含粒ブロック
 4 : 5YR4/6 赤褐 粘質
 5 : 5YR5/8 暗赤褐 粘質
 6 : 7.5YR4/6 褐 含粘土ブロック 粘質 しまる

2号陥し穴状遺構



※ S = 1/120



- A-B
 1 : 7.5YR3/2 黒褐 表土
 2 : 10YR3/3 暗褐 含炭化物(微量)
 3 : 10YR3/2 黒褐 含バミス(微量)
 4 : 7.5YR4/4 褐 含黄褐色土ブロック(少量)

第10図 1・2号陥し穴状遺跡、1号溝跡

2号陥し穴状遺構

遺構（第10図、写真図版6）

調査区の中央に位置し、1号住居跡の北東2mにある。平面形は楕円形を呈す。規模は、開口部径163cm×131cm、底部径97cm×84cm、深さ124cmである。断面形はバケツ状である。底面は地山IV層を掘り込んでおり、小さな凹凸がある。ほぼ中央に径21cm×20cm、深さ49cmの杭跡を伴う。埋土は6層に細分され、下層は粘性がある。出土遺物はない。

(5) 溝跡

1号溝跡

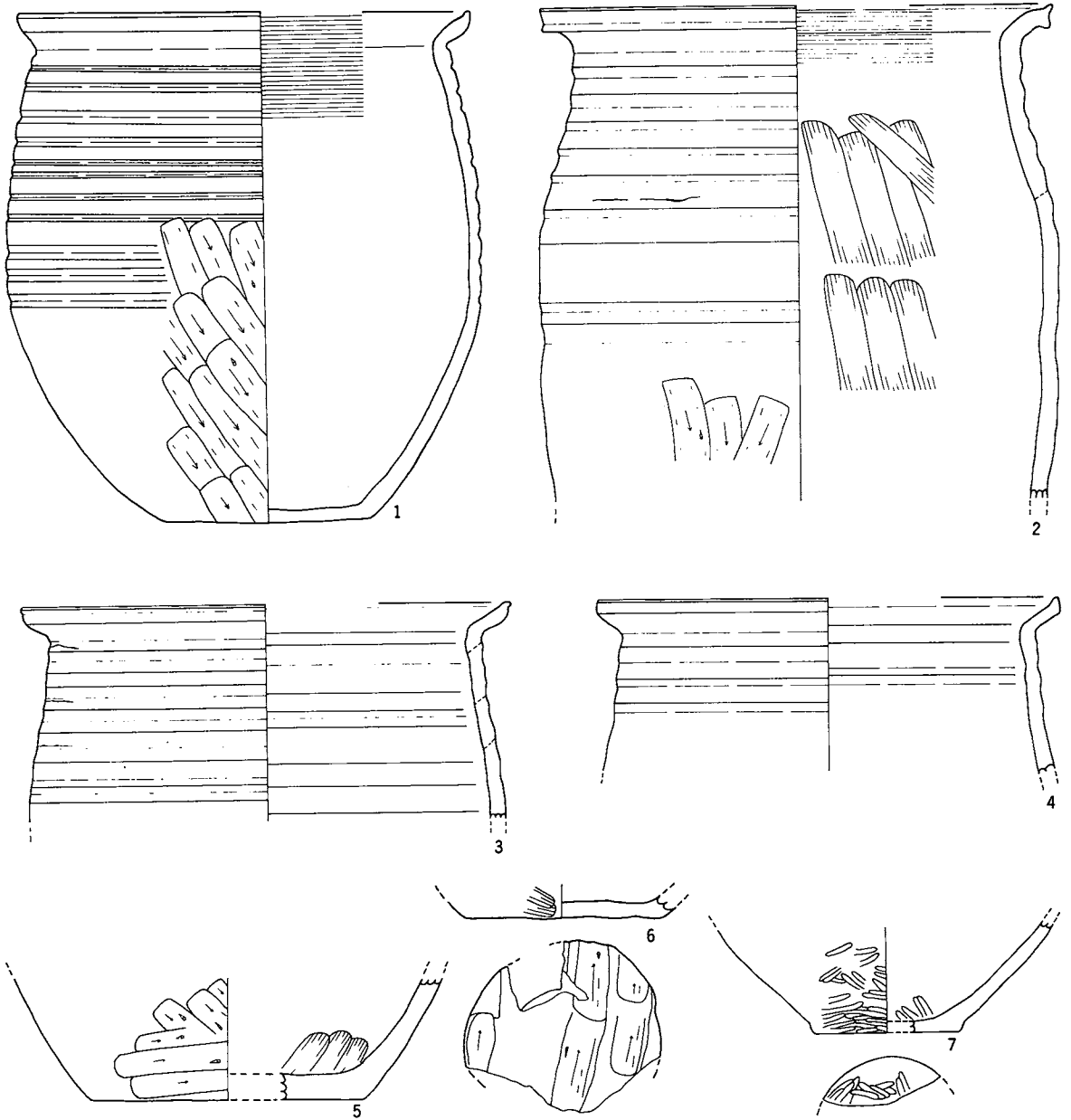
遺構（第10図、写真図版6）

調査区の中央に位置し、調査区を南北に切る。北端は段丘崖へ、南端は調査区外へ続く。確認できた長さは16.5m、上幅150cm～100cm、下幅30cm～20cm、深さは35cm程度で、断面形はU字状をなす。南端から北端に向かって緩やかに下降する。比高差は67cmである。埋土は4層に細分され、黒褐色主体である。下位には浮石が混じる。出土遺物はない。

2. 遺構外の出土遺物（第13、14図、写真図版8）

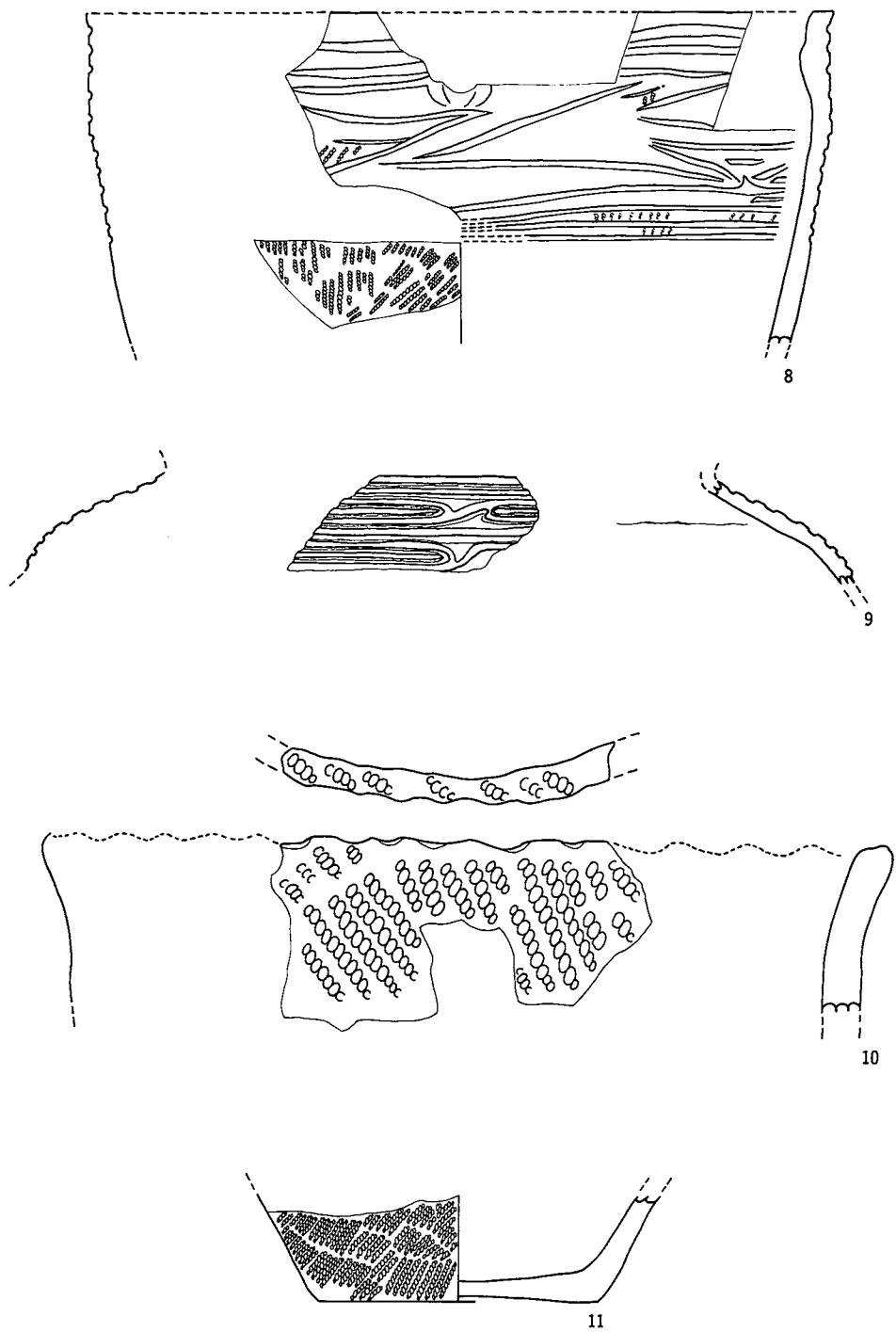
今回の調査で遺構外から出土した遺物は、縄文土器および弥生土器の破片が16点、石器が3点である。土器の破片は体部破片が11点、口縁部破片が5点、底部破片が2点であるが、いずれも細片である。

16、17、18、19、20は単節縄文を地文とする甕形土器の体部破片であり、16、18、19、20は斜行、17は横走する。22は単節斜縄文を地文とする体部上半の破片で、単節斜縄文の上には沈線がめぐる。23は不整撚糸文を地文とする甕形土器の体部破片である。21は単節斜縄文を地文とする甕形土器の体部上半から口縁部にかけての破片であり、口縁部は無文である。24は組紐文を地文とする甕形土器の体部破片である。25は単節斜縄文を地文とする浅鉢形土器の底部破片で、体部最下位には沈線がめぐる。26、27、28は深鉢形土器の口縁部破片で、4本の沈線がめぐり、上から3番目の沈線には刺突文が施される。口唇部は外反し、突起がある。また口唇部にも沈線がめぐる。26、27は口縁部の突起が縦方向に付くのに対し、28は横方向に付く。29、30は甕形土器の口縁部破片で、口唇部には原体圧痕が施される。31は台付き鉢形土器の脚部破片である。



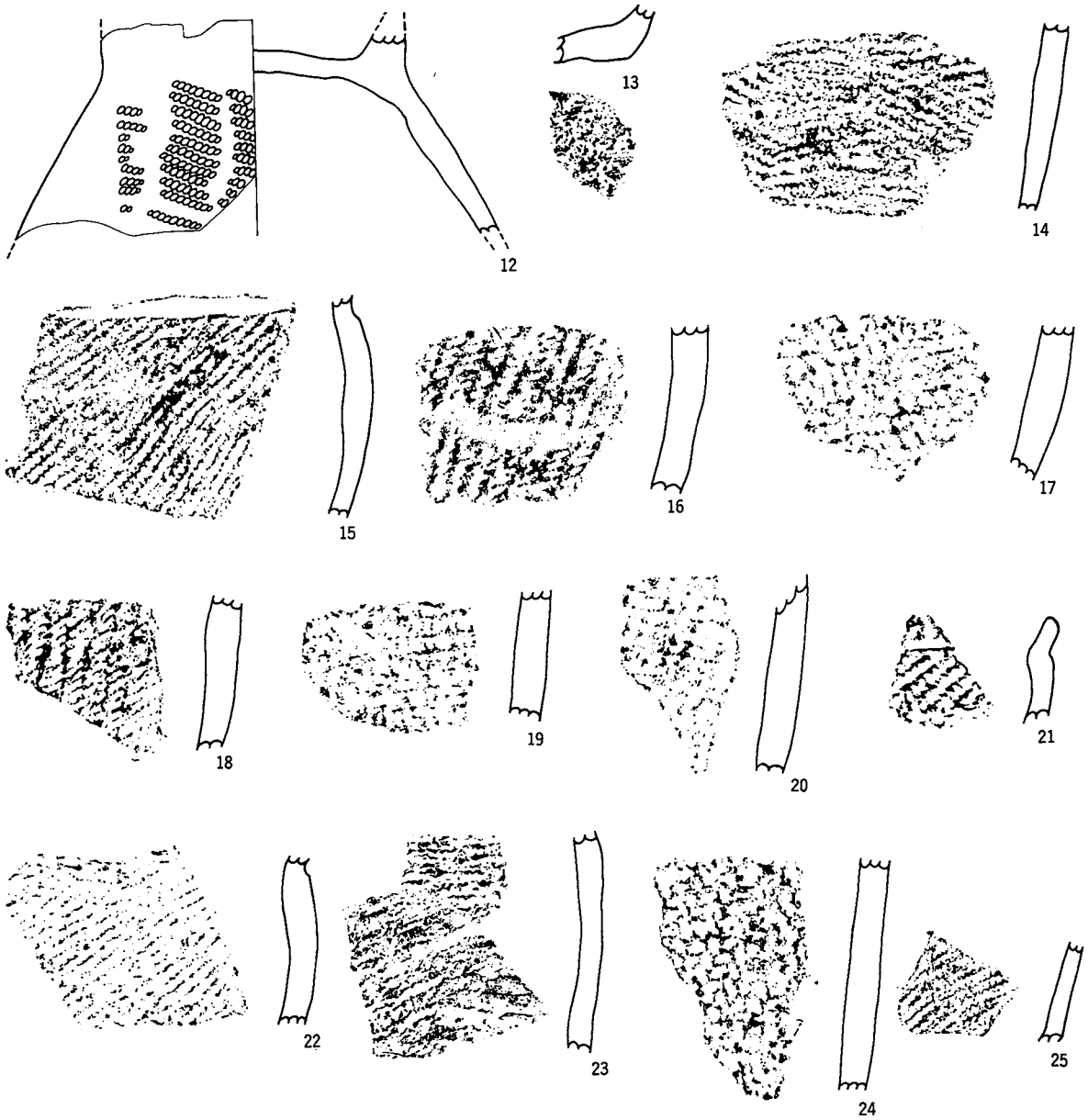
No	登録番号	遺構地点層位	種類・器種	器面調整：外面			器面調整：内面			底部	計測値：cm			備考	分類	写真図版
				口縁	体上	体下	口縁	体上	体下		外面	口径	底径			
1	1	1住 埋土	土師 甕	なし	なし	HK	YN	なし	なし	—	19.9	8.9	22.5	最大径20.9cm	II B-a	268
2	2	2住 カマド	土師 甕	なし	なし	HK	YN	HN	HN	—	22.5	—	—		II A-a	268
3	6	1住 カマド	土師 甕	なし	なし	—	YN	なし	—	—	21.6	—	—		II A-a	268
4	12	1住 カマド	土師 甕	なし	なし	—	YN	なし	—	—	20.5	—	—		II A-a	—
5	13	1住 カマド	土師 甕	—	—	HK	—	—	HN	HK	—	12.0	—		—	268
6	11	1住 カマド	土師 甕	—	—	HN	—	—	なし	HK	—	8.6	—		—	—
7	5	2住 表土	土師 甕	—	—	M	—	—	M	M	—	6.4	—	遺構外扱い	—	—

第 11 図 出土遺物—1



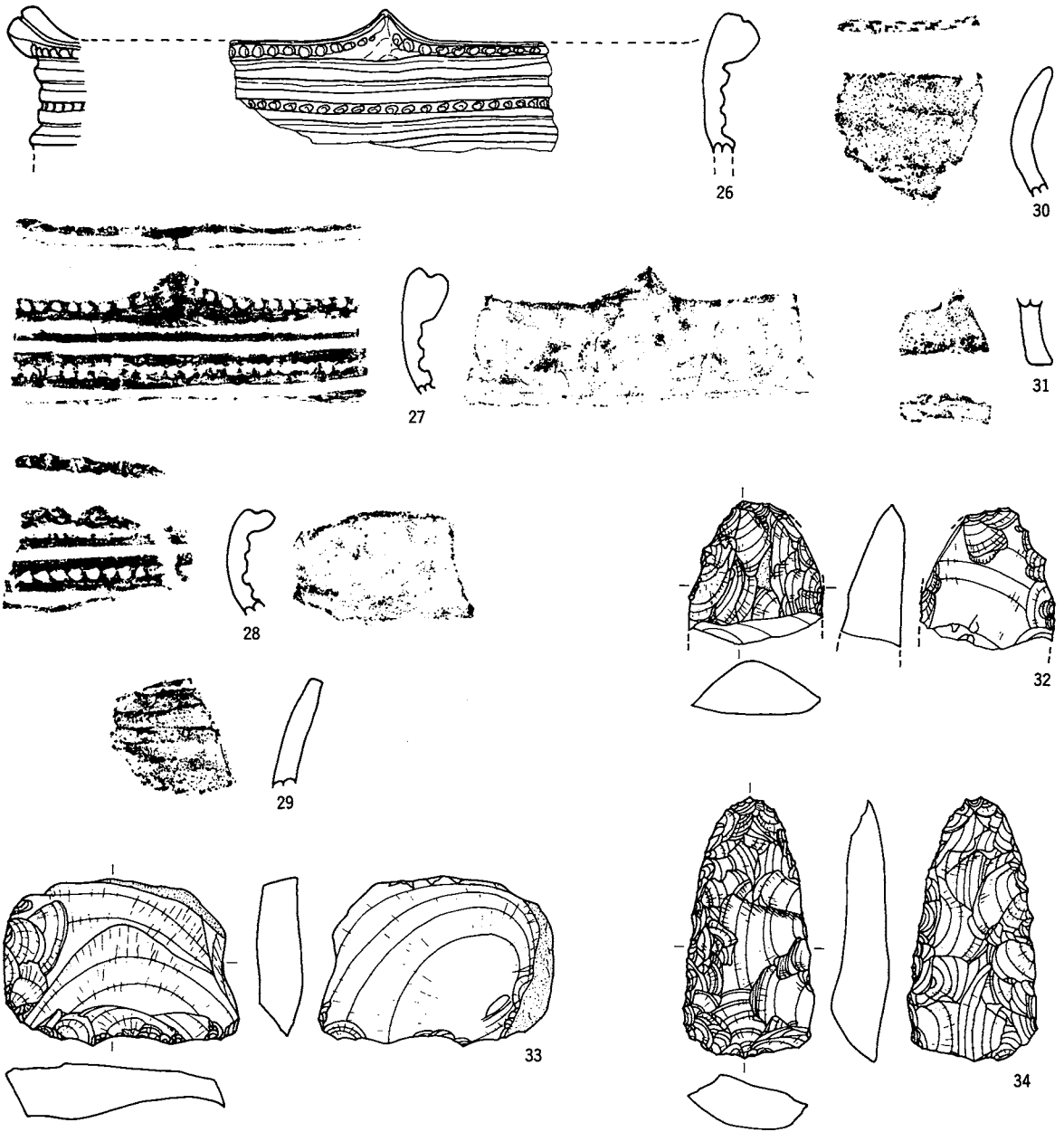
NO.	登録番号	遊穂・地点・層位	器種	部位	器形 / 外面	分類	写真図版
8	7	2住埋土	浅鉢	体部	変形工字文	—	268
9	10	2住埋土	浅鉢	体部	入組工字文	—	268
10	4	2住埋土	深鉢	口縁	斜行縦文 口唇に原体圧痕文	—	268
11	8	2住埋土	深鉢	底部	斜行縦文	—	268

第 12 図 出土遺物—2



NO.	登録番号	遺構・地点・層位	器種	部位	器形 / 外面	分類	写真図版
12	3	2 焼 I	蓋	—	斜行、横走縄文	—	268
13	17	2 土坑埋土	殼	底部	底面に縄文	—	268
14	16	2 土坑埋土	深鉢	体部	斜行、横走縄文	—	268
15	15	2 土坑埋土	深鉢	体部	斜行縄文	—	268
16	22	II C 0 b I 層	深鉢	体部	斜行縄文	—	269
17	23	II C 0 b I 層	深鉢	体部	横走縄文	—	—
18	25	II C 0 c I 層	深鉢	体部	斜行縄文	—	—
19	26	II C 1 b I 層	深鉢	体部	斜行縄文	—	—
20	27	II C 1 c I 層	深鉢	体部	斜行縄文	—	—
21	20	II C 6 a I 層	深鉢	口縁	斜行縄文	—	269
22	21	II C 0 b I 層	深鉢	体部	斜行縄文	—	269
23	29	II C 4 b I 層	深鉢	体部	不整撚糸文	—	269
24	24	II C 0 b I 層	深鉢	体部	組紐文	—	269
25	30	II C 4 b I 層	深鉢	体部	斜行縄文	—	269

第 13 図 出土遺物—3



NO.	登録番号	遺構・地点・層位	器種	部位	器形 / 外面	分類	写真図版
26	9	II C 4 b I 層	浅鉢	口縁	沈線、刺突文、口縁に突起	—	269
27	18	II C 区 I 層	浅鉢	口縁	沈線、刺突文、口縁に突起	—	269
28	19	II C 区 I 層	浅鉢	口縁	沈線、刺突文、口縁に突起	—	269
29	31	II C 4 c I 層	浅鉢	口縁	口唇に原体圧痕	—	269
30	28	II C 4 I I 層	浅鉢	口縁	口唇に原体圧痕	—	269
31	14	I 住埋土	台鉢	脚部		—	269

NO.	登録番号	遺構・地点・層位	器種	長さ	幅	厚さ	重量	石質	産地	生成年代	写真図版
32	1	II C 1 c I 層	石筥	4.2	3.9	1.8	26.0	硅質細粒凝灰岩	奥羽山地	新第3系中新統	269
33	2	II C 0 b I 層	不定形	4.9	6.9	1.6	64.0	硅質細粒凝灰岩	奥羽山地	新第3系中新統	269
34	3	II C 1 b I 層	石筥	7.7	3.9	1.5	42.0	硅質細粒凝灰岩	奥羽山地	新第3系中新統	269

第 14 図 出土遺物—4

V ^{かみおにやなぎ} 上鬼柳 III遺跡

所在地	北上市鬼柳町字上鬼柳第2地割90番地ほか
委託者	日本道路公団仙台建設局
発掘調査期間	平成2年4月16日～11月20日
調査対象面積	8,370 m ²
発掘調査面積	8,370 m ²
遺跡番号・略号	ME 65-2066・KO III-90
調査担当者	伊東 格・佐々木弘・川村 均・及川 渉
協力機関	北上市・花巻市・江刺市教育委員会・和賀町教育委員会

1. 遺構と伴出遺物

(1) 竪穴住居跡

a. 縄文時代の竪穴住居跡

VIB 3号住居

遺構 (第15図、写真図版11)

〈位置と残存状況〉 調査区上位面の中央部に位置し、3号掘立柱建物跡と9号掘立柱建物跡の中間にある。3号掘立柱建物跡に伴う溝の西部分と重複する。3号掘立柱建物跡に伴う溝より古い。後世の削平が著しく、炉と床面の一部しか残っておらず、残存状況は不良である。

〈形状と規模〉 炉の周辺の面が、2.8 m×2.3 m にわたって、周囲の面より 23 cm～5 cm ほど掘り凹められており、床面の範囲を示すが、形状、規模とも明確には把握できない。

〈埋土〉 検出した時点で床面が露出しており、不明である。

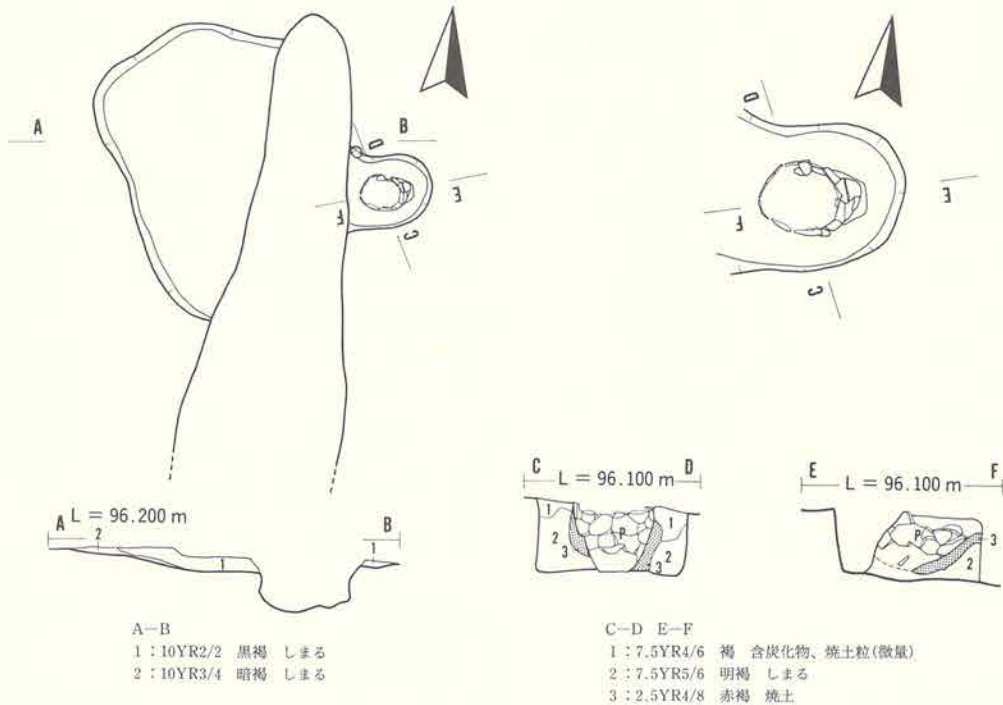
〈壁〉 失われており、不明である。

〈床〉 炉の周辺の掘り凹められた面は硬くしまる。

〈柱穴〉 検出されていない。

〈土坑〉 検出されていない。

〈炉〉 床面に 60 cm×80 cm、深さ 30 cm の掘り方を構築したのち、床面下約 25 cm の深度に、



第15図 VIB 3号住居跡

ほぼ西方向に開口する斜位埋設土器を埋め込んでいる。埋設土器は深鉢形である。土器の周囲は層厚 6 cm にわたり焼土が形成されている。

遺物 (第 84、85 図、写真図版 67)

床面を中心に炉からも出土している。土器、石器で構成される。

〈土器〉 1 は炉に転用された深鉢形土器である。地文は R 1 段の撚糸文で内外面とも加熱され赤色変化している。2~10 は破片であり、地文以外は不明である。2、3、4、7、8 は斜行縄文、5、6、9、10 は撚糸文である。

〈石器〉 11、12 は石篋、13 は石斧、14 は不明である。

VII A 2号住居跡

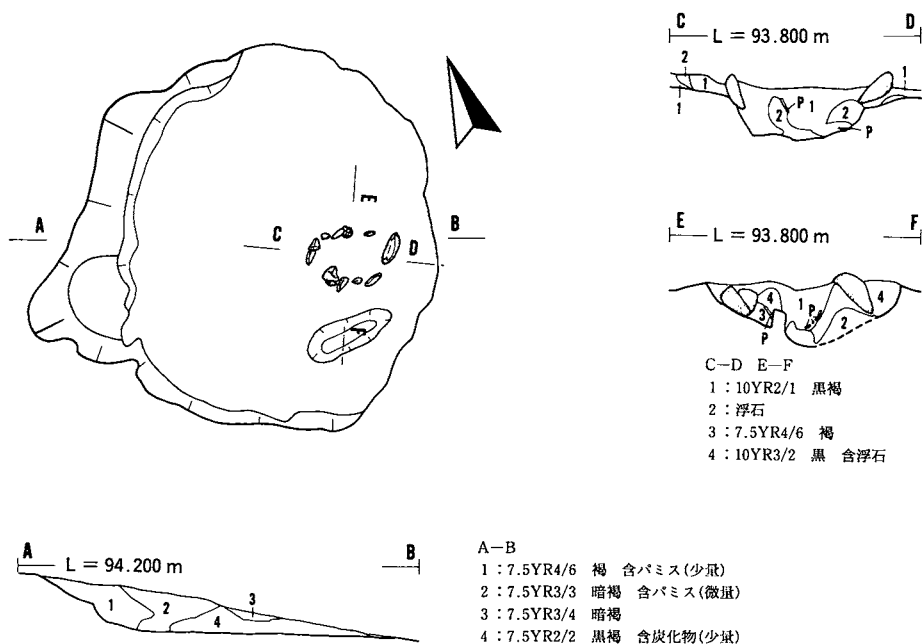
遺構 (第 16 図、写真図版 11)

〈位置と残存状況〉 調査区上位面の最東端、沢に続く斜面の上方にある。斜面の下方に面する東壁の流出が著しく、残存状況は不良である。

〈形状と規模〉 平面形は楕円形で、規模は径 2.9 m×2.5 m である。

〈埋土〉 4 層に細分され、上位は暗褐色土と褐色土を主体とする。下位は黒褐色土主体で、炭化物を少量含む。

〈壁〉 斜面の上方に面する西側は、床面から直立して立ち上がったのち、緩やかに外傾する。



第 16 図 VII A 2号住居跡

壁高は西側で 48 cm、北側で 13 cm、南側で 17 cm である。東側は失われている。

〈床〉地山V層の浮石層を床面としている。東西方向に数条の浅い溝が走る。

〈柱穴〉検出されていない

〈土坑〉検出されていない。

〈炉〉床面の中央部のやや東壁寄りに石囲い炉を構築している。規模は径約 76 cm×53 cm で、大きき 22 cm×26 cm×6 cm～16 cm×10 cm×5 cm の礫 13 個を使用し、楕円形状に埋め込んでいる。これら炉を構成する礫は、それぞれ床面下 11 cm～6 cm の深度に埋め込まれている。炉内の焼土形成は不良である。

遺物（第 86 図、写真図版 68）

埋土を中心に床面からも出土している。土器のみの出土である。

〈土器〉15～21 は破片であり、地文以外は不明である。15～18 は斜行縄文、19、20 は撚糸文、21 は摩耗が著しいが斜行縄文であろう。

b. 平安時代の竪穴住居跡

II B 1号住居跡

遺構 (第 17、18 図、写真図版 12、13)

〈位置と残存状況〉調査区の西北端の北寄りにある。II B 2号住居跡と北半が重複する。II B 2号住居跡よりも古い。

〈形状と規模〉北壁と東壁の北半がII B 2号住居跡に切られるため、全体の形状は不明であるが、平面形は方形と推定される。規模は南北方向が5.3 m、東西方向が5.4 mである。

〈埋土〉黒褐色土を主体とするが、含有物などによって6層に細分される。下層には崩落によって混入した明褐色粘土が混じる。

〈壁〉ほぼ垂直に立ち上がり、壁高は東壁が24 cm、南壁が30 cm、西壁が31 cmである。北壁はII B 2号住居跡に切られているため不明である。

〈床〉地山V層を掘り込んで床としている。全体的に凹凸があり、比高差は約15 cmである。貼り床は見られない。

〈柱穴と土坑〉柱穴状土坑は6個検出しているが、柱穴配置は遺構の北半がII B 2号住居跡と重複するために不明である。土坑としたのはPP 6、PP 8、PP 9である。平面形は楕円形で、規模は125 cm×85 cm～70 cm×56 cm、深さ24 cm～19 cmである。

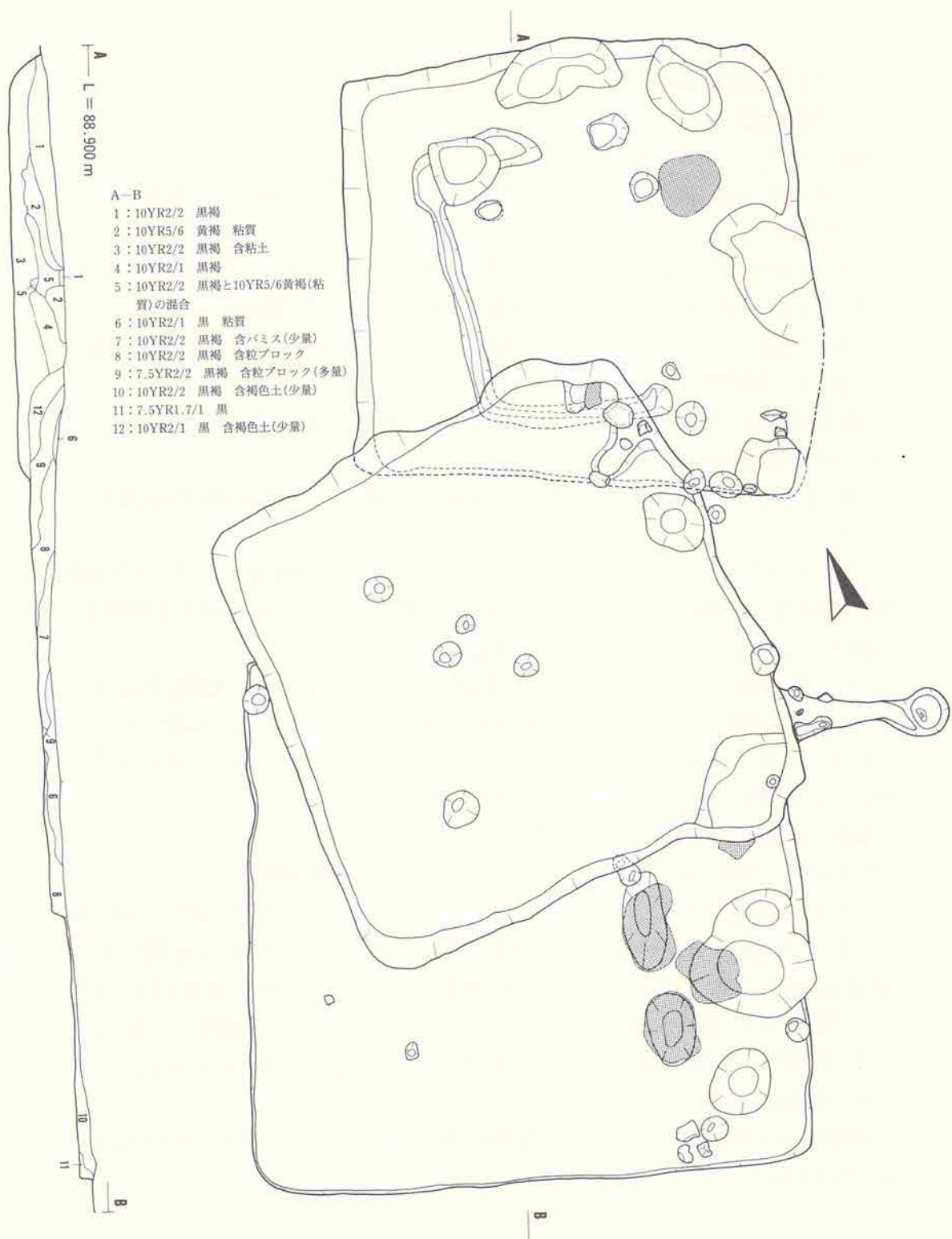
〈カマド〉東壁の北端に設けられている。本体燃焼部はII B 2号住居跡と重複して失われており、煙道部と煙出し部のみ残存する。確認できた規模は、煙道部が長さ155 cm、幅45 cm～20 cm、深さ9 cmで、先端部に向かい緩やかに上る。横断面は半円状をなすものと推定される。煙出し部は直径48 cmの円形で深さ11 cmの土坑状である。

遺物 (第 87 図、写真図版 69)

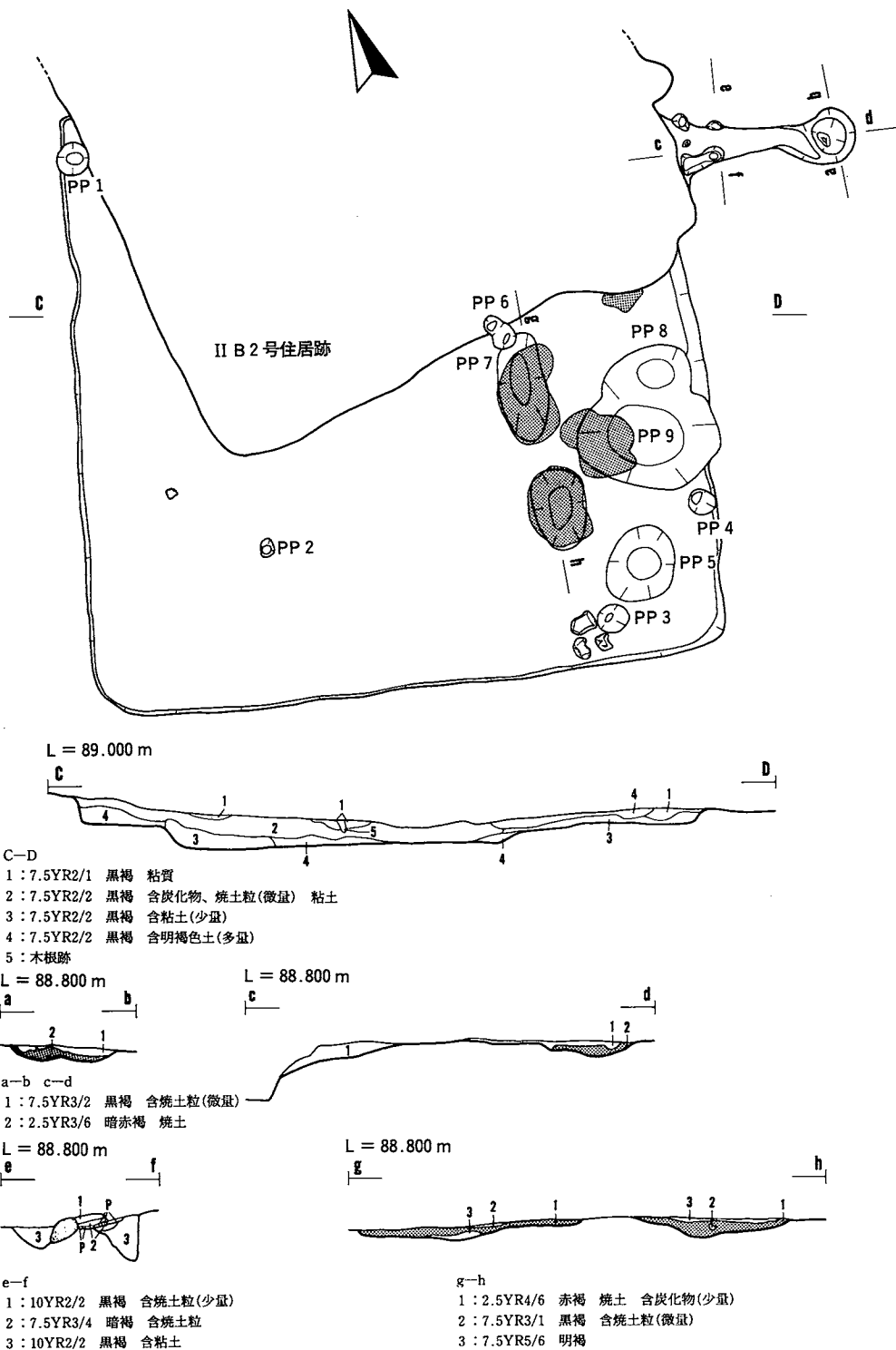
埋土を中心に床面、カマド本体から出土している。土器と鉄製品で構成される。

〈土器〉土師器坏形土器(22～27)、土師器甕形土器(28～30)、須恵器壺形土器(31～33)の出土である。22、24～27は内面ミガキののち黒色処理されている。23は内外面とも無調整である。28は口縁部から体部上半にかけての破片で、口縁部を内外面ともヨコナデ、体部上半をヘラケズリ調整している。29は底部破片で、外面をヘラケズリ、内面をヘラナデ調整している。30はロクロ使用によるもので、底面切り離しは回転糸切りである。31、32は長頸壺の頸部破片、33は胴上半部破片である。

〈鉄製品〉34は轡金具の部品で、脚金と輪鏡板と推定される。輪鏡板は径8.6 cm×6.8 cmの楕円形である。



第17図 II B 1・2・3号住居跡配置図



第 18 图 II B 1号住居跡

II B 2号住居跡

遺構（第19図、写真図版12、13）

〈位置と残存状況〉調査区の西北端の北寄りに位置する。II B 1号住居跡と南半が、II B 3号住居跡と北端で重複する。II B 1号住居跡、II B 3号住居跡よりも新しい。

〈形状と規模〉平面形は隅丸方形と推定されるが、南半と北端を欠く。規模は南北方向が4.8m、東西方向が4.7mである。

〈埋土〉色調、火山灰の混入状況から7層に分けられる。全体的に黒色土から黒褐色土を主体とする。中央部下層には灰白色火山灰の混入する層が含まれる。

〈壁〉やや外傾気味に立ち上がり、壁高は東壁が18cm、西壁が41cm、南壁が18cm、北壁が39cmである。

〈床〉地山IV層を掘り込んで床としている。ほぼ平坦である。貼り床は見られない。

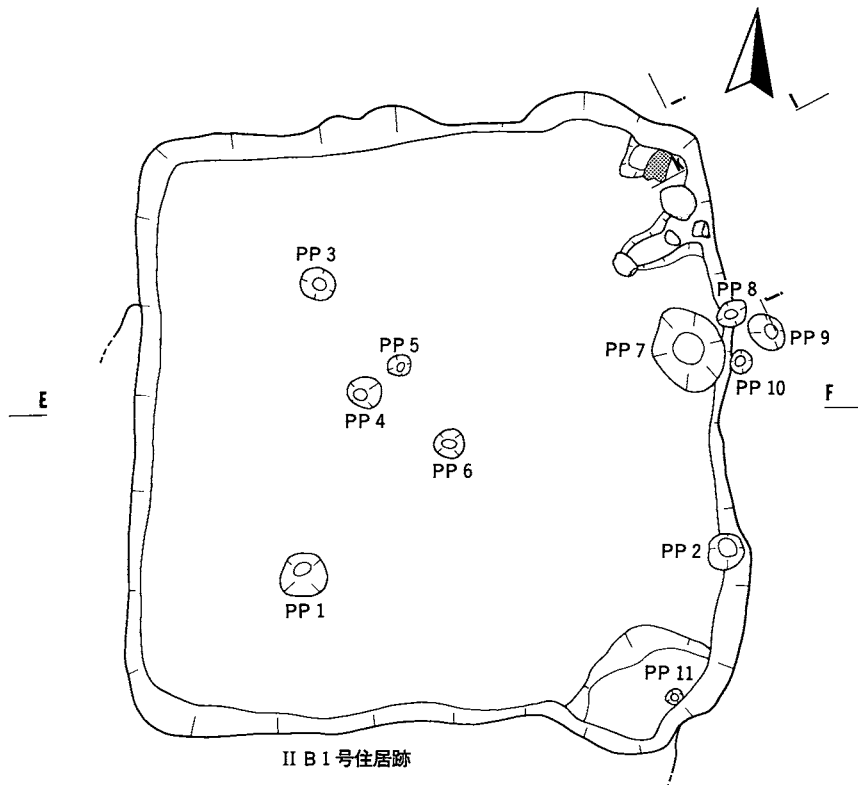
〈柱穴と土坑〉柱穴状土坑は全部で11個である。位置や規模からPP 2、PP 8、PP 3、PP 1が主柱穴と推定される。柱穴配置は東側を上底とする台形である。柱穴の平面形は円形に近いものが主体であり、規模はPP 2が32cm×26cmで深さ63cm、PP 8が26cm×22cmで深さ30cm、PP 3が29cm×24cmで深さ54cm、PP 1が36cm×32cmで深さ64cmである。土坑としたのはPP 7である。平面形は北西から南東方向を長軸とする楕円形で、規模は72cm×54cm、深さ34cmである。

〈カマド〉東壁の北端に設けられているが、残存状態が不良であるため、規模・形状とも明確でない。袖部あるいは天井に用いられたと思われる石を検出した。燃焼部の焼土の形成は良くない。

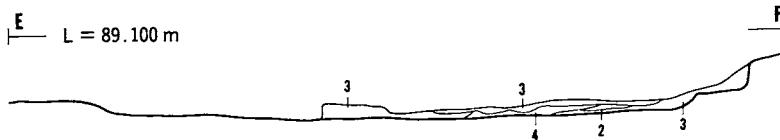
遺物（第88～90図、写真図版69～70、カラー図版2）

埋土を中心にカマド本体からも出土している。土器、土製品、石器、緑釉陶器で構成される。

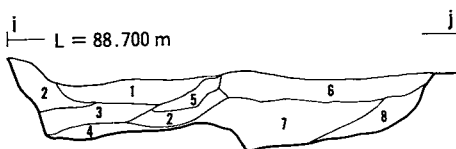
〈土器〉土師器および須恵器の坏形土器(35～43)、土師器高台付き坏形土器(44、45)、土師器甕形土器(46～48)、須恵器壺形土器(49～51)、須恵器甕形土器の破片(52～54)の出土である。35～38は内面ミガキのち黒色処理、39～42は無調整である。43は須恵器坏形土器の底部破片で、底部切り離しは回転糸切りである。44、45は高台付き坏形土器である。44は内外面ともミガキのち黒色処理を施している。45は底部破片で、高台部は剥落している。内外面とも無調整である。46は底部破片で、底部下半と底面をヘラケズリ調整している。47は口縁部破片で、口縁部をヨコナデ、胴上半部をヘラナデ調整しており、最大径は体部中央に所在すると推定される。48は口縁をヨコナデ、体部上半から底部までヘラケズリ調整されており、最大径を体部中央にもつ。49、50は胴上半部の、51は胴下半部の破片である。49、50はロクロ痕のみ、51はヘラケズリ調整である。52、54は須恵器甕形土器の胴部破片で平行タタキ目調整されている。



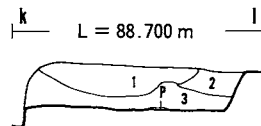
II B 1号住居跡



- E-F
- 1 : 7.5YR2/1 黒
 - 2 : 10YR6/6 明黄褐と10YR2/1黒の混合
 - 3 : 10YR2/1 黒 ややしまる
 - 4 : 10YR2/2 黒褐 含バミス



- i-j
- 1 : 10YR2/2 黒褐 含粘土(微量)
 - 2 : 10YR5/6 黄褐(粘質)と10YR2/2黒褐の混合
 - 3 : 10YR2/2 黒褐 含粘土
 - 4 : 10YR2/2 黒褐 含粘土(少量)
 - 5 : 10YR2/2 黒褐
 - 6 : 10YR2/2 黒褐 含焼土粒粘土ブロック(少量)
 - 7 : 10YR2/2 黒褐と10YR5/6黄褐(粘質)の混合 焼土粒
 - 8 : 10YR2/2 黒褐 含粘土



- k-l
- 1 : 10YR5/6 黄褐(粘質)と10YR2/2黒褐の混合
 - 2 : 10YR2/2 黒褐
 - 3 : 10YR2/2 黒褐 含炭化物(多量)

第 19 図 II B 2 号住居跡

52 は焼成不良である。53 の底部破片は胴下半部が平行タタキ目調整、底面がヘラケズリ調整されている。

〈土製品〉55 は器種不明である。酸化炭焼成されている。

〈石器〉56、57 はカマドの袖部あるいは天井の芯材に用いられたと思われる。

〈陶器〉58 は緑釉陶器椀の口縁部破片で、猿投窯(鳴海)産9世紀前半から半ばのものである。

II B 3号住居跡

遺構 (第20図、写真図版14)

〈位置と残存状況〉調査区の西北端の北寄りに位置する。II B 2号住居跡と南半が重複する。II B 2号住居跡よりも古い。

〈形状と規模〉II B 2号住居跡に南壁を切られ、木根によって東壁の南半を攪乱されているなど残存状態が悪いため、全体の形状は不明であるが、平面形は方形と推定される。規模は南北方向が4.3m、東西方向が4.2mである。

〈埋土〉5層に細分される。大きく3層に分かれ、大部分は黒褐色土を主体とするが、2層には黄褐色粘土が入る

〈壁〉やや外傾気味に立ち上がり、壁高は東壁が20cm、西壁が45cm、北壁が28cmである。南壁はII B 2号住居跡に切られ、壁の上部を欠き、残存するのは8cmである。

〈床〉地山IV層を掘り込んで床としている。ほぼ平坦である。貼り床は見られない。

〈柱穴と土坑〉柱穴状土坑は5個である。位置や規模からPP10、PP7、PP8は支柱穴と推定されるが、これに対応する南西の支柱穴は検出できなかった。土坑としたのはPP1～PP6の5個である。PP4は東壁際にあり、埋土は5層に分けられる。焼土層を含む。PP6は3層に分けられ、焼土層を含む。

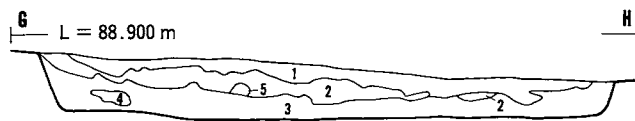
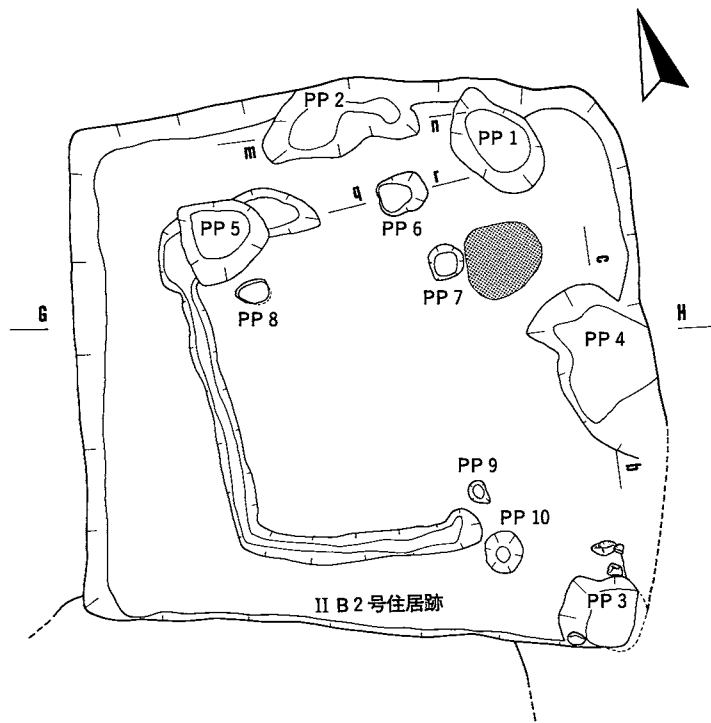
〈カマド〉東壁の南端に設けられているが、本体燃焼部、煙道部とも木根により攪乱されており、焼土の存在のみが確認された。

〈その他〉径60cm×65cm、層厚2cmの不整楕円形の現地性焼土が床面中央から北東よりに形成されている。また、床面中央に全長4.8m、幅40cm～25cm、深さ12cm～4cmの溝がコの字型にめぐる。壁からの距離が105cm～45cmあり、また斜にかかっていることから、今回の調査では検出できなかったが、もう一棟の竪穴住居跡が存在していた可能性も考えられる。

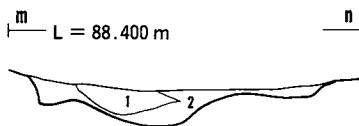
遺物 (第90～92図、写真図版70)

埋土、土坑埋土を中心に出土している。土器、土製品、石製品で構成される。

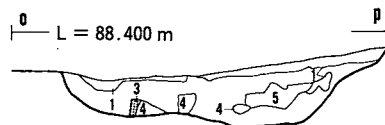
〈土器〉土師器坏形土器(59～67)、土師器甕形土器(69～72)、羽釜(68)、須恵器甕形土器(73)の出土である。59、61～63は内面ミガキののち黒色処理、60は内外面ミガキののち黒色処理さ



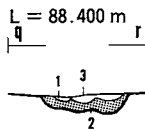
- G—H
 1 : 10YR2/2 黒褐
 2 : 10YR5/6 黄褐 粘質
 3 : 10YR2/2 黒褐 含粘土
 4 : 10YR2/1 黒
 5 : 10YR2/2 黒褐と10YR5/6黄褐(粘質)の混合



- m—n
 1 : 10YR2/2 黒褐
 2 : 10YR2/2 黒褐 含粘土



- o—p
 1 : 10YR2/2 黒褐
 2 : 7.5YR3/3 暗褐 含焼土粒 粘土
 3 : 2.5YR4/8 赤褐 焼土
 4 : 10YR5/6 黄褐 粘質
 5 : 10YR4/8 褐



- q—r
 1 : 10YR6/6 明黄褐
 2 : 2.5YR5/6 明赤褐 焼土 含炭化物(少量)
 3 : 7.5YR3/2 黒褐 含焼土粒(微量)

第 20 図 II B 3号住居跡

れている。62、63 は墨書をともなうが、破片であるため、字種は不明である。64～67 は内外面とも無調整である。68 は内外面とも無調整である。69～70 は土師器甕形土器の底部破片である。いずれも胴下半部から底部にかけてヘラケズリ調整されている。72 は口縁部破片で、胴上半部がヘラナデ調整されている。73 は須恵器甕形土器の胴部破片で、平行タタキ目調整されている。

〈土製品〉74 は器種不明であるが、酸化炎焼成されている。

〈石製品〉75 は器種不明であるが、薄い石版状を呈する。

Ⅲ A 1 号住居跡

遺構（第 21 図、写真図版 15）

〈位置と残存状況〉調査区の北西部に位置し、Ⅲ B 3 号住居跡の東 8 m、Ⅲ B 4 号住居跡の北東 7.5 m にある。

〈形状と規模〉掘り込みが浅く、後世の削平・崩落により輪郭が明確でないが、隅丸台形に近い。南東隅が半円上に張り出している。規模は東壁が 4.5 m、西壁が 3.3 m、南壁が 3 m、北壁が 3.4 m である。床面積は 9.8 m² である。

〈埋土〉4 層に分けられる。全体的に黒褐色土を主体とするが、地山Ⅳ層起源の明黄褐色の粘土や焼土粒の混入によって細分される。

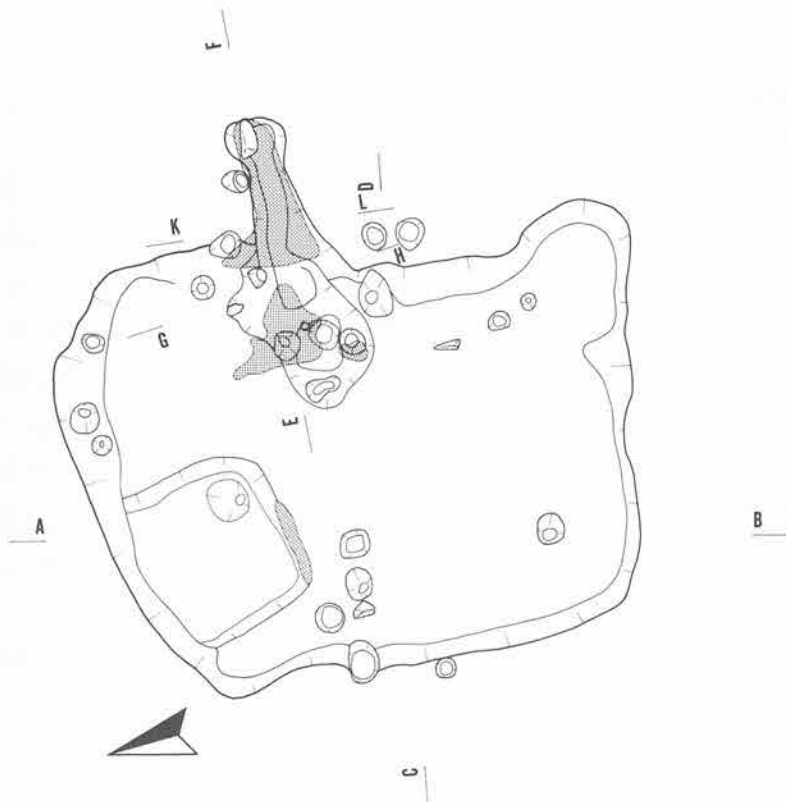
〈壁〉外傾しているが、後世の削平により明確でない。壁高は東壁で 14 cm、西壁で 9 cm、南壁で 9 cm、北壁で 18 cm である。

〈床〉地山Ⅳ層を掘り込んで床としている。全体的に小さな凹凸がある。

〈柱穴〉17 個検出した。規模、深さから PP 7 は主柱穴と思われるが、対応する他の主柱穴は明らかでない。

〈土坑〉床面の北西部に北壁に沿った長方形の土坑 1 基を検出した。規模は 120 cm×100 cm、深さは 15 cm である。底面はほぼ平坦で、底面の南東隅に深さ 15 cm の凹みを持つ。南辺の西半に焼土が形成されている。

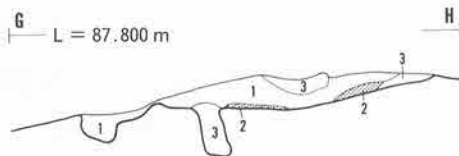
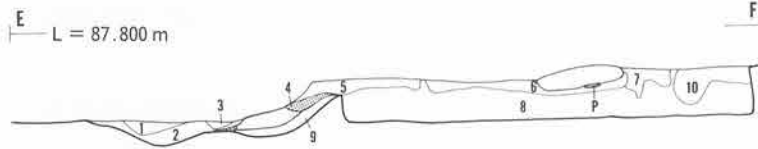
〈カマド〉東壁の中央部よりやや北寄りに構築されている。後世の削平により残存状態は不良である。規模は総長 240 cm、壁外 100 cm、主軸方向は E-9°-S と推定される。本体は袖部を構築した粘土質シルトがわずかに残る。燃焼部の焼土は径 70 cm×45 cm の不定形で、層厚は最大 5 cm である。焼土の下層から 18 cm×12 cm、深さ 20 cm の支脚の抜き取り痕を検出した。煙道部は残存状態が不良であるが、壁外を緩やかに 10 cm ほど上る、長さ 100 cm、幅 50 cm～27 cm、深さ 4 cm の溝状をなす。煙道部に沿って断続的に焼土層が形成されているが、焼きは弱い。煙出し部は径 48 cm×30 cm ほどの楕円状をなす。煙出し部の底部から 7 cm×7 cm×34 cm の石、その下部からは土師器を検出した。



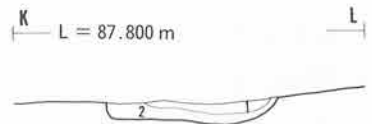
- A-B C-D
 1 : 10YR2/2 黒褐 含粘土(微量)
 2 : 10YR2/2 黒褐 含粘土ブロック
 3 : 10YR2/2 黒褐 含焼土粒(微量)
 4 : 5YR3/2 暗赤褐と2.5YR5/8明赤褐の混合 焼土



- E-F
 1 : 10YR1.3/1 黒 含炭化物(多量)
 2 : 10YR3/1 黒褐 含焼土粒 炭化物
 3 : 10YR3/3 暗褐 含焼土粒
 4 : 5YR4/8 赤褐 含黒褐色土
 5 : 5YR4/3 にぶい赤褐 粘質
 6 : 5YR4/2 灰褐 粘質
 7 : 10YR2/2 黒褐 しまる
 8 : 10YR5/4 にぶい黄褐 粘質
 9 : 10YR4/8 赤褐 粘質
 10 : 10YR2/2 黒褐 含焼土粒(微量)



- G-H
 1 : 10YR3/3 黒褐 含焼土ブロック
 2 : 5YR4/6 赤褐 粘質
 3 : 10YR5/4 にぶい黄褐 粘質 しまる



- K-L
 1 : 5YR4/3 にぶい赤褐 粘質
 2 : 10YR5/4 にぶい黄褐

第 21 図 III A 1 号住居跡

遺物（第 92～95 図、写真図版 71）

埋土を中心に柱穴からも多数出土している。土器、鉄製品で構成される。

〈土器〉土師器坏形土器(76～101、103)、耳皿(102)、高台付き坏形土器(104、105)、土師器鉢形土器(106、109)、土師器甕形土器(107、108、110～112)、須恵器甕形土器(113)、須恵器壺形土器(114～116)の出土である。土師器坏形土器は特に多数出土している。76～80 は内面ミガキのち黒色処理をほどこしている。81～101 は無調整である。103 は口径に比べ、器高が小さく、ぺた高台の皿状を呈するが、ここでは坏形土器とした。あるいは 324～326 の高台付き皿形土器に分類するのが妥当かもしれない。102 の底部切り離しは回転糸切りである。104、105 は底部破片である。1 号窯跡出土のものと器形、胎土とも類似している。106、109 は底部を欠く破片である。106 は口縁部が外反する。どちらにも積み上げ痕がみられる。107、111、112 は口縁部破片である。107、112 は無調整である。107 は最大径を胴部にもつものと思われる。111 は口縁部がヨコナデ調整されており、積み上げ痕がみられる。108、110 は底部破片で、体部下半はヘラケズリ調整されている。113 は外面平行タタキ目、内面青海波紋の調整である。114 は胴上半部破片、115 は胴部破片、116 は頸部破片である。

〈鉄製品〉柱穴埋土から刀子 1 点(117)が出土している。

III B 1 号住居跡

遺構（第 22 図、写真図版 16）

〈位置と残存状況〉調査区の西北部に位置し、II B 1 号住居跡の東 2.2 m、III B 2 号住居跡の北 1.8 m 付近にある。表土除去の際に、重機による削平をうけており、残存状態は不良である。他遺構との重複関係はない。

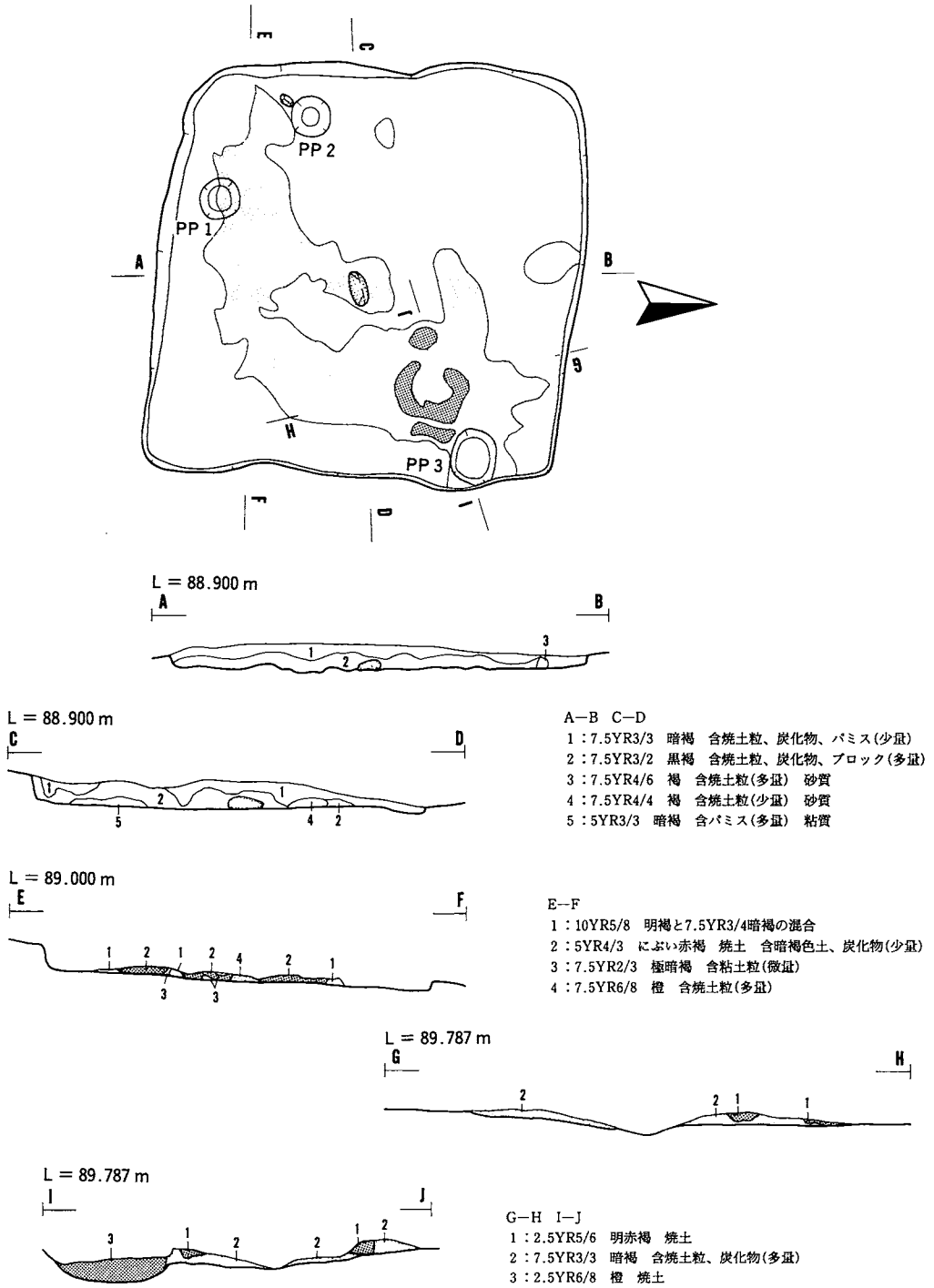
〈形状と規模〉平面形は正方形である。規模は南北方向、東西方向ともに 3.4 m である。

〈埋土〉5 層に分けられる。上位は暗褐色土が、下位は黒褐色土が主体であるが、埋土全体に焼土粒、炭化物を多量に含む。1 層、5 層には火山灰が混入する。

〈壁〉外傾していると推定されるが、重機による削平の結果、特に東壁の残存状態が不良である。壁高は東壁が 6 cm、西壁が 20 cm、南壁が 18 cm、北壁が 11 cm である。

〈床〉凹凸が著しい。西から東に向かって傾き、比高差は最大 21.4 cm である。床面は堅くしまる。埋土下位から床面にかけて炭化材や焼土が散布している。炭化材の残存状況は不良で、細かいものが多く、材質や配列は不詳である。焼土はよく焼けて堅く、層厚 4 cm～7 cm である。特に中央部北東寄では、95 cm×70 cm の楕円状に層厚 10 cm の厚い焼土層が形成されている。床面積は 9.6 m²である。

〈柱穴と土坑〉3 基検出された。平面形は円形で、規模は 52 cm×41 cm～36 cm×34 cm、深



第22図 III B 1号住居跡

さは 14 cm～10 cm である。

〈カマド〉 検出されなかった。

遺物 (第 95、96 図、写真図版 71、72)

埋土から出土している。土器、瓦器、鉄滓で構成される

〈土器〉 土師器坏形土器(118～121)、土師器高台付き坏形土器(122)、須恵器壺形土器(123)、土師器鉢形土器(124)の出土である。118～121 はいずれも無調整である。122 は高台部が伏せた坏状を呈する。123 は胴上半部破片で、器面調整はロクロ痕のみである。124 は口縁部から体部上半の破片で、外面をヘラケズリ調整している。

〈瓦器〉 器種不明の瓦器(125) 1点が出土している。彫りを入れ、その上に漆を塗っている。時代は特定できないが、近世のものと思われる。

〈鉄滓〉 碗形鉄滓 1点(126)が出土している。

III B 2 号住居跡

遺構 (第 23 図、写真図版 17)

〈位置と残存状況〉 調査区の西北端の南寄りに位置し、II B 1 号住居の南 2メートルに位置する。III B 3 号住居跡と重複し、III B 3 号住居跡より新しいが、掘り込みが浅く、重機による削平をうけ、残存状態は不良である。

〈形状と規模〉 III B 3 号住居跡と重複しており、3号住居を検出した段階ではその存在を確認できなかった。3号住居跡の精査を進めるうち、その西壁に2号住居跡の西壁を確認した。このため、東壁と南壁を掘り過ぎたが、平面形は北壁を上底、南壁を下底とする台形と推定される。規模は東壁が 5.1 m、西壁が 5.1 m、南壁が 4.9 m、北壁が 4.3 m である。

〈埋土〉 4層に分けられる。黒色土から黒褐色土を主体とし、下層には地山IV層起源の明褐色粘土が混入する。

〈壁〉 外傾して立ち上がり、壁高は北壁が 22 cm、西壁が 28 cm である。東壁、南壁は掘り過ぎのため不明である。

〈床〉 III B 3 号住居跡の掘り方を埋めて作られたものと思われるが、貼り床は認められなかった。重複していない西と北の部分はほぼ平坦である。

〈柱穴と土坑〉 床面の西北端に規模 73 cm×46 cm、深さ 12 cm の不定形の土坑を 1基検出している。柱穴に類するものは検出できなかった。

〈カマド〉 不明である。

遺物 (第 96～98 図、写真図版 72)

床面、埋土、土坑埋土から出土している。土器、土製品、鉄製品で構成される。

〈土器〉土師器坏形土器(127～135)、土師器高台付き坏形土器(136)、土師器鉢形土器(137、138)、土師器甕形土器(139、140)、須恵器壺形土器(141～143)、須恵器甕形土器(144)の出土である。129は内面ミガキののち黒色処理、130は内外面ともミガキののち黒色処理をほどこしている。127、128、131～135は無調整である。128は体部中央から口縁にかけて大きく外反する。135は底部破片で調整はロクロ痕のみである。136は内外面とも無調整である。137、138は口縁部をヨコナデ調整、胴下半部から胴上半部にかけてヘラケズリ後、ヘラナデ調整を施しており、どちらにも積み上げ痕がみられる。139は底部破片、140は口縁部破片である。141は口縁部破片、142、143は胴部破片で、器面調整は平行タタキ目である。144は口縁部破片である。頸部から胴上半部にかけて自然釉がみられる。

〈土製品〉器種不明の1点(145)が出土している。酸化炎焼成されている。

〈鉄製品〉釘1点(146)が出土している。

III B 3号住居跡

遺構(第24図、写真図版17)

〈位置と残存状況〉調査区の西北部に位置し、II B 1号住居跡の南3mにある。II B 2号住居跡と北西部で重複する。II B 2号住居跡より古いが、掘り込みが深いので残存状況は比較的良好である。

〈形状と規模〉平面形は南北方向6.6m、東西方向6.6mの正方形である。床面積は37.2m²で、調査した竪穴住居跡のなかでは最大である。

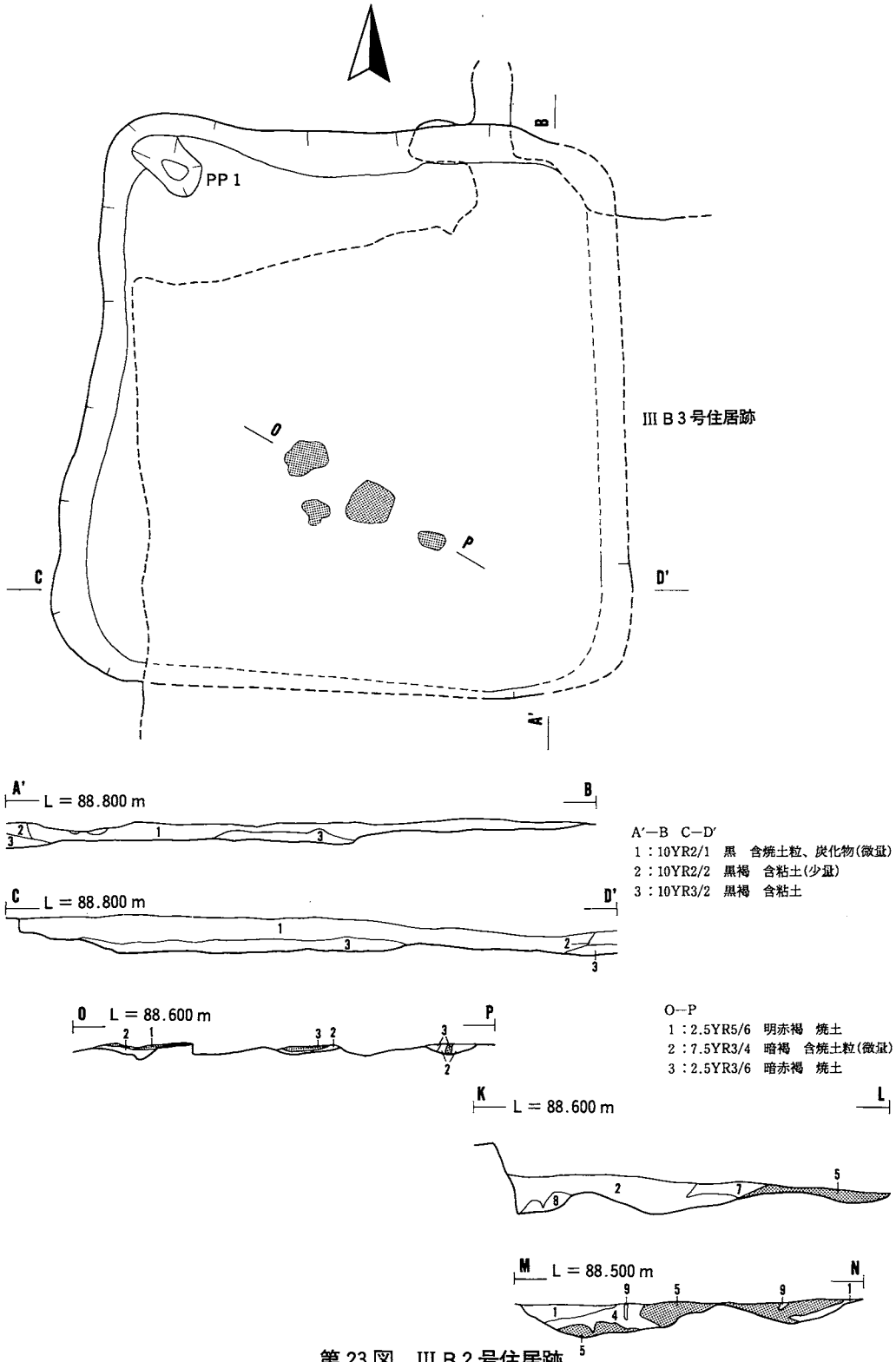
〈埋土〉黒色土から黒褐色土が主体で、地山IV層起源の明褐色粘土の混入の度合いによって4層に細分される。検出段階では上層の表面に灰白色火山灰が見られた。

〈壁〉立ち上がりは明瞭で直立に近い。II B 2号住居跡と重複する北壁の西半と西壁の北半を欠くが、壁高は東壁で14cm、西壁で27cm、南壁で19cm、北壁で9cmである。

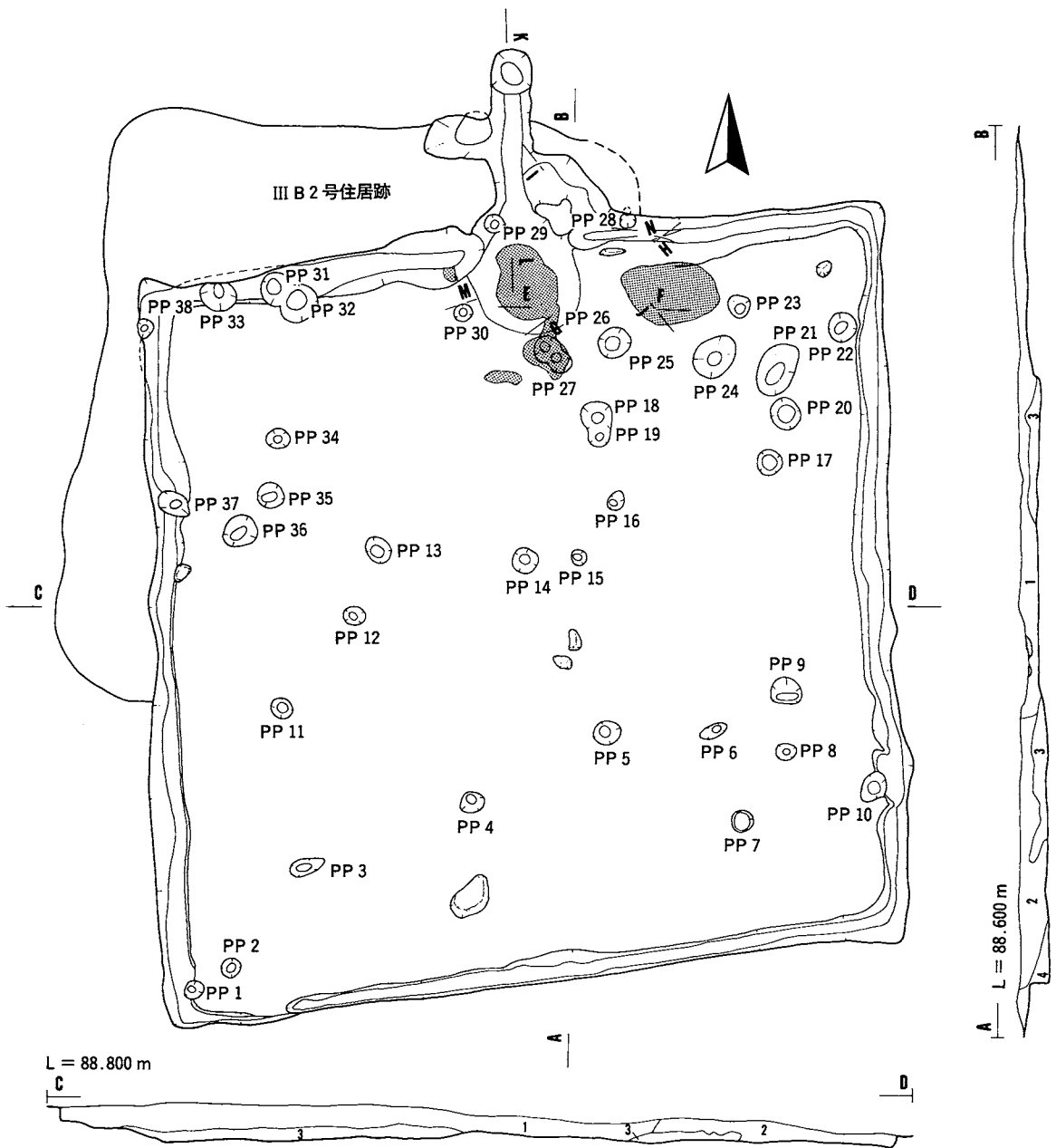
〈床〉地山IV層を掘り込んで床としている。全体的に小さな凹凸がある。

〈周溝〉ほぼ全周に伴っている。幅32cm～15cm、床面からの深さ15cm～10cmである。底面は平坦になる。

〈柱穴〉37個検出した。平面形は円形ないしは楕円形を呈するものが多い。規模は49cm×31cm～14cm×11cmまであり一様でない。深さは19cm以下のものが14個、20cm～29cmのものが12個、30cm～49cmのものが5個、50cm以上のものが6個である。規模、深さからPP 24、PP 34、PP 3、PP 7が支柱穴と推定される。規模はPP 24が42cm×31cmで深さ52cm、PP 34が21cm×17cmで深さ61cm、PP 3が34cm×15cmで深さ58cm、PP 7が21cm×18cmで深さ52cmである。支柱穴の配置はほぼ正方形に近い。



第 23 図 III B 2 号住居跡

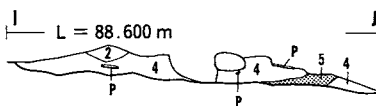
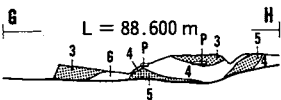
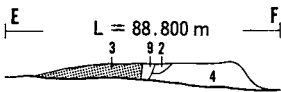


A-B C-D

- 1 : 10YR2/1 黒 含焼土粒、炭化物(微量)
- 2 : 10YR2/2 黒褐 含粘土(少量)
- 3 : 10YR3/2 黒褐 含粘土
- 4 : 10YR2/1 黒 含粘土(少量)

E-F G-H I-J K-L M-N

- 1 : 10YR2/2 黒褐
- 2 : 10YR5/6 黄褐(粘質)と10YR2/2黒褐の混合
- 3 : 2.5YR4/6 赤褐 焼土
- 4 : 5YR2/2 黒褐 含焼土粒
- 5 : 2.5YR4/8 赤褐 焼土
- 6 : 5YR2/3 極暗赤褐
- 7 : 10YR2/2 黒褐 含焼土粒(少量)
- 8 : 10YR5/6 黄褐 粘質
- 9 : 10YR2/2 黒褐 木根跡か?



第 24 図 III B 3号住居跡

〈土坑〉設けられていない。

〈カマド〉北壁の中央、III B 2号住居跡と重複する地点に構築されているが、本体は削平されて残存しない。規模は総長 252 cm、壁外 160 cm、長軸方向はN-5°-Wと推定される。本体部は崩落している。燃焼部の焼土は径 68 cm×55 cm の楕円状で、厚さは最大 12 cm ほどあり、よく焼けている。煙道部は北に 40 cm ほど緩やかに下ったのち、上り勾配となり煙出し部へと続く。煙出し部は平面形が 35 cm×40 cm で、煙道部より 9 cm ほど深く掘り込まれた土坑状をなす。煙出し部からは焼土を検出していない。燃焼部の焼土から 60 cm 東の壁際にも径 88 cm×56 cm の楕円状で、厚さ 5 cm の焼土を検出している。

遺物（第 98～100 図、写真図版 73）

埋土を中心に、カマド、土坑埋土からも出土している。土器で構成される。

〈土器〉土師器坏形土器(147～159)、土師器甕形土器(160～163、165～174)、土師器鉢形土器(164)、須恵器甕形土器(175～176)の出土である。147～151 は内面ミガキののち黒色処理をほどこしている。152～159 は無調整である。164 は底部を欠く。外面はヘラナデ後、底面から胴下半部にかけてヘラケズリ、内面をヘラナデ調整している。積み上げ痕がみられる。160～163 は小型の土師器甕形土器である。160、161 はロクロ痕以外は無調整、162 の口縁部破片は、内外面とも口縁部をヨコナデ、胴部をヘラナデ、163 の底部破片は内外面ともヘラナデ後、外面をヘラケズリしている。162 の口縁は外反する。165 の土師器甕形土器は口縁部に最大径を持ち、頸部はくびれて段を持つ。口縁部は直線的に外傾する。器面調整は内外面とも口縁部はヨコナデ、胴部はヘラナデである。積み上げ痕がみられる。166 は底部破片で底面から内湾して立ち上がる。外面をヘラケズリ、内面をヘラナデ調整している。167～174 は口縁部破片である。167、170 は口縁部が緩やかに外反し、ヨコナデ調整している。168 も口縁部が緩やかに外反するが、ロクロ痕以外は無調整である。169、174 は口唇部が直線的に立ち上がる。169 はロクロ痕以外は無調整、174 はヨコナデ調整である。171 は 162 と同様に口縁が外湾し、ヨコナデ調整されている。175、176 はそれぞれ須恵器甕形土器の口縁部と胴部の破片である。175 は無調整、176 は平行タタキ目調整されている。

III B 4号住居跡

遺構（第 25 図、写真図版 18）

〈位置と残存状況〉調査区の西北部に位置し、III B 6号住居跡の東 1 m にある。掘り込みが浅く、重機による削平をうけ、残存状態は不良である。

〈形状と規模〉重機による削平に加え、西壁の北半は木根による攪乱を受けており、全体の形状は不明であるが、平面形は正方形であると推定される。規模は南北方向が 3.0 m、東西方向

が2.9 m、床面積は8.1 m²である。

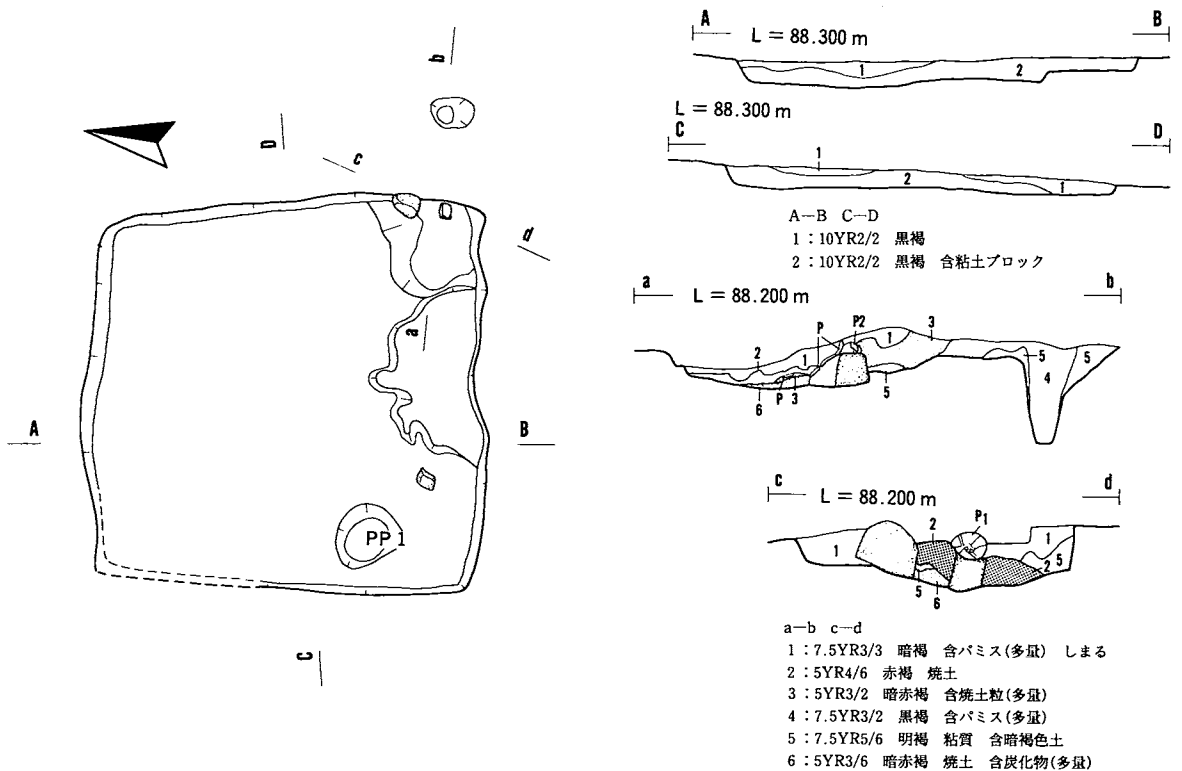
〈埋土〉2層に分けられる。上層は黒褐色土、下層は黒褐色土主体だが、地山IV層起源の明褐色粘土が混入する。

〈壁〉重機による削平の結果、残存状態は不良であるが、検出した範囲内では外傾しており、壁高は東壁で9 cm、西壁で17 cm、南壁で17 cm、北壁で13 cmである。

〈床〉ほぼ平坦であるが、南壁中央部を中心に半径80 cmほどの半円状に8.9 cm～5.0 cmほど一段高くなった部分が認められる。

〈柱穴と土坑〉床面の南西部の西壁際に規模58 cm×48 cm、深さ7 cmの土坑を検出した。

〈カマド〉重機による削平の結果、残存状態は不良であるが、東壁の南端に袖部、支脚、煙出し部を検出した。支脚から煙出し部までは97 cmあり、E-7°-Nである。本体部は崩壊している。支脚として用いられたと見られる礫の北側に大きさ21 cm×18 cm×21 cmの袖石がある。支脚の周辺には層厚15 cmの焼土層が認められる。壁外57 cmに土坑状の煙出し部を認めることができるが、煙道部は失われている。



第25図 III B 4号住居跡

遺物 (第 101 図、写真図版 73)

カマド、埋土から出土している。土器のみで構成される。

〈土器〉土師器坏形土器(177~180)、須恵器甕形土器(181)の出土である。177 は内面ミガキのち黒色処理をほどこしている。外面には煤が付着している。180 は無調整である。179 は体部中央から口縁にかけて大きく外反する。181 は胴部破片で、外面の調整は平行タタキ目文である。

III B 5号住居跡

遺構 (第 26 図、写真図版 19)

〈位置と残存状況〉調査区の西北部に位置し、II B 1号住居跡の東 6.8 m にある。III B 7号住居跡と東南部で重複し、西半部の北壁から南壁にかけてを 1号溝に切られる。また、重機による削平を受けて、残存状態は不良である。7号住居跡、1号溝より古い。

〈形状と規模〉平面形は東西に長い長方形で、規模は南北方向が 3.8 m、東西方向が 4.3 m である。床面積は 17 m² である。

〈埋土〉5層に分けられる。上層は黒褐色土、下層は黒褐色土主体だが、地山IV層起源の明褐色粘土が混入する。カマド周辺の床面には炭化物が認められる。

〈壁〉重機による削平の結果、残存状態は不良である。壁高は東壁で 9 cm、西壁で 15 cm、南壁で 15 cm、北壁で 9 cm である。

〈焼土〉床面の東半に 3ヶ所形成されている。PP 11 に伴うものは底面に形成され、PP 13 に伴うものは表面に形成されている。PP 14 に伴うものは黒褐色土との混合である。

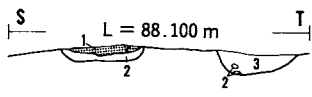
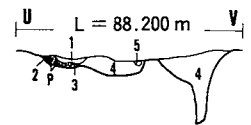
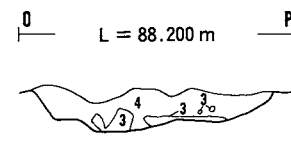
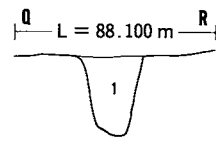
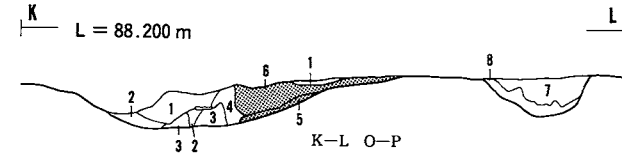
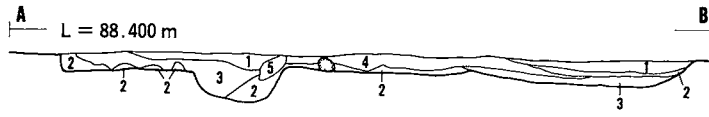
〈床〉ほぼ平坦である。地山に沿って東に傾き、比高差は 14 cm である。貼り床は見られない。

〈柱穴と土坑〉柱穴状土坑は 5基 (PP 5、PP 6、PP 7、PP 8、PP 10) 検出した。このうち PP 5、PP 10 が支柱穴と思われるが、対応する北西、南西の支柱穴は確認できなかった。土坑は 9基検出した。このうち 2基はそれぞれ北東隅、南東隅にあり、また西壁に接して 1基、南壁に接して 2基、壁に接しないものは 4基である。壁に接しない 4基のうち 3基は表面に焼土層が形成されている。

〈カマド〉東壁の中央よりやや北に設けられている。残存状態は不良であるが、規模は総長 221 cm、壁外 104 cm である。袖部と支脚は失われているが、燃焼部には規模 88 cm×85 cm、層厚 11 cm の焼土が形成されている。重機による削平の結果、煙道部の幅は不明であるが、燃焼部に形成された焼土の中心から煙出し部の中心を通る線を主軸方向とすると、E-1°-N である。壁外 44 cm に土坑状の煙出し部を認めることができる。径 21 cm×23 cm、層厚 31 cm の



III B 7号住居跡



- A-B (C-D) E-F (G-H)
- 1 : 10YR2/2 黒褐
 - 2 : 10YR2/2 黒褐 含粘土ブロック
 - 3 : 10YR2/2 黒褐 含粘土ブロック(微量)
 - 4 : 10YR2/2 黒褐 含炭化物(多量)
 - 5 : 10YR6/8 明黄褐 粘質

- K-L O-P
- 1 : 10YR2/2 黒褐 含粘土(少量)
 - 2 : 10YR2/2 黒褐 含焼土、炭化物
 - 3 : 10YR5/6 黄褐(粘質)と2.5YR 赤褐(焼土)の混合
 - 4 : 10YR5/6 黄褐 含焼土(少量)
 - 5 : 2.5YR4/6 赤褐 焼土
 - 6 : 2.5YR4/6 赤褐 焼土 含黒褐色土(少量)
 - 7 : 7.5YR3/1 黒褐 含パミス(少量)
 - 8 : 7.5YR6/8 橙 ブロック

- Q-R
- 1 : 7.5YR3/3 暗褐 含焼土粒、炭化物(多量)

- S-T
- 1 : 2.5YR4/6 赤褐 焼土
 - 2 : 10YR5/6 黄褐 粘質
 - 3 : 10YR2/2 黒褐 含焼土ブロック(多量)

- U-V
- 1 : 5YR5/8 明赤褐 焼土
 - 2 : 5YR4/8 赤褐 焼土
 - 3 : 7.5YR3/3 暗褐 しまる
 - 4 : 7.5YR3/2 黒褐 含黄褐色土ブロック(少量)
 - 5 : 10YR6/6 明黄褐 ブロック

第 26 図 III B 5号住居跡

焼土層が形成されている。

遺物（第 101、102 図、写真図版 74）

埋土、柱穴埋土から出土している。土器のみで構成される。

〈土器〉土師器坏形土器(182～188)、須恵器坏形土器(189)、土師器高台付き坏形土器(190)、土師器甕形土器(191～195)、須恵器甕形土器(196～199)の出土である。182～184 は内面ミガキののち黒色処理をほどこしている。185～188 は無調整である。188 は最大径に比べ器高が大きく、碗形を呈する。内外面とも無調整で、胎土は砂粒を含みやや疎で、焼成はやや不良である。189 は底部破片である。190 は底部破片で、内面ミガキののち黒色処理をほどこしている。高台と本体の接合部に粘土を充填している。191 は小型の甕形土器である。外面をケズリ、内面をナデ調整している。192～194 はそれぞれ口縁部から胴上半部、胴下半部の破片である。192 は口縁が緩やかに外湾し、口唇部は丸みをおびる。胎土は砂粒を含み、やや疎である。器面調整は外面が口縁部から同上半部にかけてをヨコナデ、内面をヘラナデののち口縁部付近をヨコナデである。193 は底面が剝離しているが、胴下半部の外面をヘラケズリ、内面をヘラナデ調整している。194 は外面をヘラケズリ、内面をヘラナデ調整している。外面には不明瞭な沈線がみられる。195 は口縁部破片で、内外面ともヘラナデ調整である。196 は胴下半部破片で、外面はナワメ、内面はタンボ状工具によるナデ調整である。197～199 は胴部破片で外面が平行タタキ目調整である。

III B 6 号住居跡

遺構（第 27 図、写真図版 20）

〈位置と残存状況〉調査区の西北部に位置し、II B 3 号住居跡の東 3 m、III B 4 号住居跡の西 1.3 m にある。表土が薄いため、後世の削平が著しく、東壁の南半、南壁の中央、西壁の一部が消滅するなど残存状態は不良である。

〈形状と規模〉平面形はやや歪んだ正方形で、南北方向 4.2 m、東西方向 4.2 m、床面積 16.8 m² である。

〈埋土〉黒褐色土が主体で、ほぼ単層に近いが、地山IV層起源の明褐色粘土の混入の度合いによって 5 層に細分される。

〈壁〉立ち上がりが明瞭な北壁は直立するが、残存状態が不良な他の壁の立ち上がりは不明である。壁高は東壁で 2 cm、西壁で 3 cm、南壁で 7 cm、北壁で 5 cm である。

〈床〉地山を掘り込んでおり、全体的に小さな凹凸がある。南西部から北東部に緩やかに傾斜し、比高差 19.6 cm である。

〈柱穴と土坑〉北西隅に 1 基(PP 2)と西壁の中央に 1 基(PP 3)検出したが、対応するものは

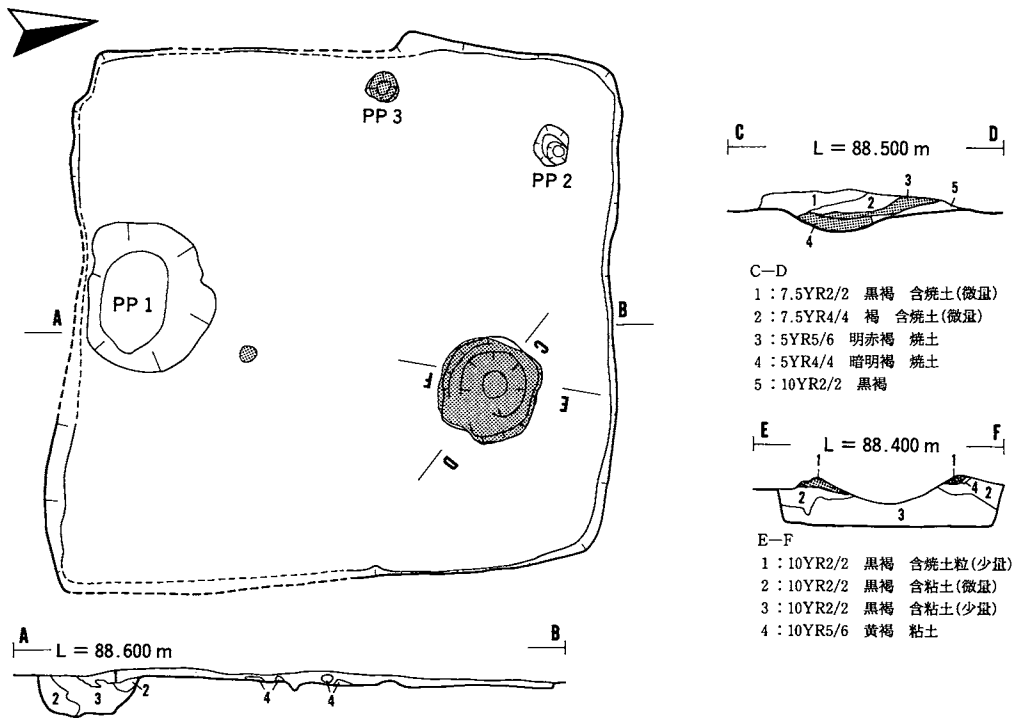
検出できず、配置関係は不明である。土坑は1基検出した。1基は床面の南壁側中央にあり、平面形は118 cm×91 cmの長楕円形、深さは40 cmである。

〈カマド〉不明であるが、床面中央部のやや北東寄りに径85 cm×78 cm、層厚8 cmの不定円形の焼土を認めた。断面形は凹状を呈す。床を掘り込んで、非常によく焼けており硬い。地床炉的使用も考えられる。

遺物 (第102~103図、写真図版74)

埋土を中心にカマドからも出土している。土器のみの構成である。

〈土器〉土師器坏形土器(200~203)、土師器高台付き坏形土器(204)、土師器甕形土器(205、206)、須恵器甕形土器(207)の出土である200は内面ミガキののち、黒色処理をほどこしており、201~203は無調整である。204は高台付き坏形土器の底部破片で、内面はヘラミガキののち黒色処理をほどこしている。高台部は外面に段を持ち、内面の口唇部がやや引き出される。205は甕形土器の底部破片、206は口縁部破片である。205は底面が剝離している。剝離面にはロクロ痕がみられる。器面調整は外面はヘラケズリ、内面がヘラナデである。206は内外面ともロクロ痕以外は無調整である。

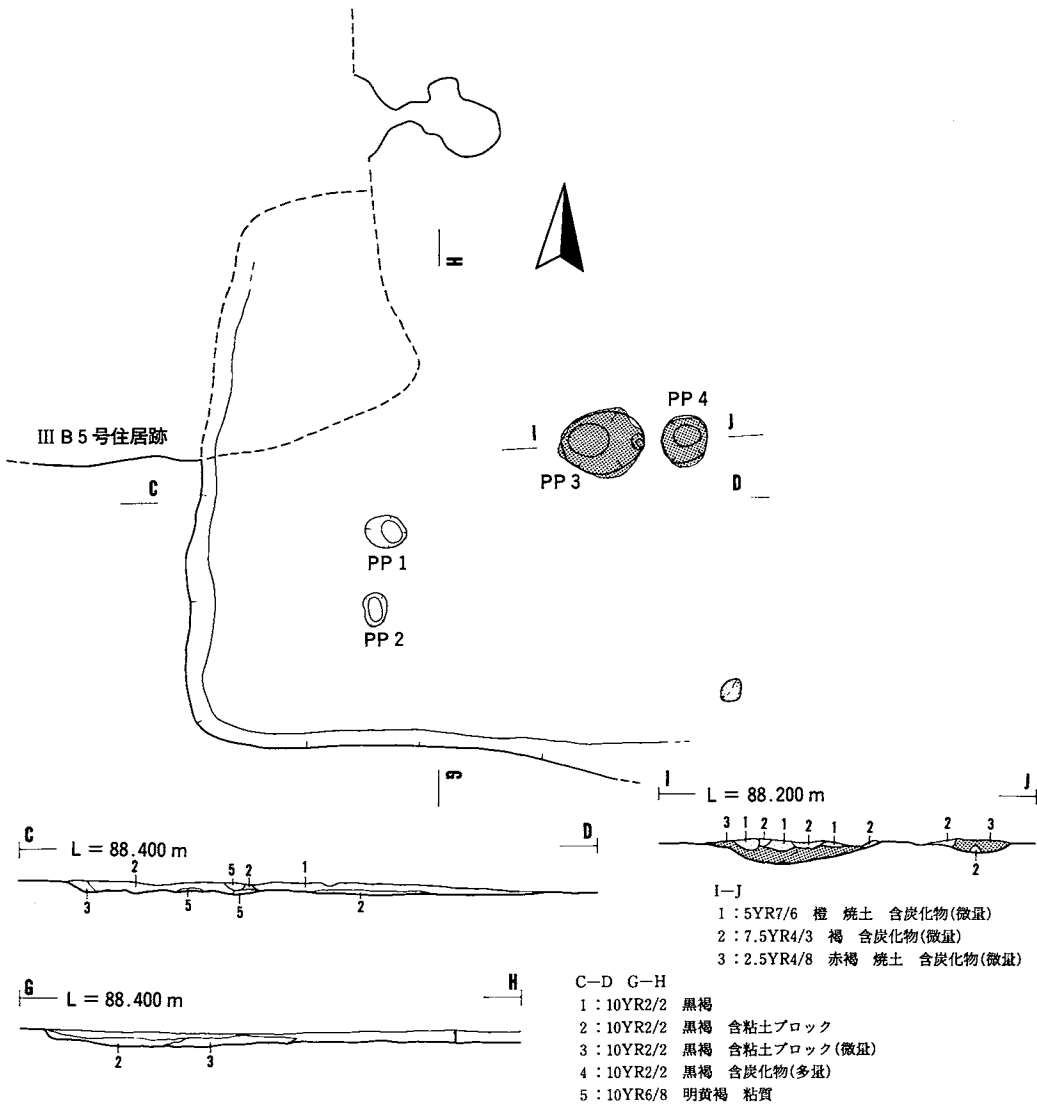


第27図 III B 6号住居跡

III B 7号住居跡

遺構 (第 28 図、写真図版 21)

〈位置と残存状況〉 調査区の西北部に位置し、II B 1号住居跡の東 9 m にある。III B 5号住居跡と北西部で重複する。5号住居跡より新しい。重機による削平を受けて、東壁と北壁を欠くなど、残存状態は不良である。



第 28 図 III B 7号住居跡

〈形状と規模〉東壁と北壁を欠くため、全体の形状は不明であるが、南北方向は推定 4.5 m、東西方向は 3.9 m 以上である。

〈埋土〉黒褐色土が主体で、ほぼ単層に近いが、炭化物と地山IV層起源の明褐色粘土の混入の度合いによって5層に細分される。

〈壁〉残存状況が悪く、壁の立ち上がりは不鮮明である。壁高は西壁で最高 12 cm、南壁で最高 11 cm である。

〈床〉ⅢB 4号住居跡と重複する北西部に貼り床が認められる。重複していない部分は小さな凹凸が認められる。

〈柱穴〉南西部に2基検出した。柱穴配置は不明である。柱穴の平面形は円形であり、規模はPP 1が33 cm×26 cmで深さは32 cm、PP 2が28 cm×18 cmで深さ24 cmである。

〈カマド〉中央部の東壁よりと推定される部分に焼土を2ヶ所確認した。中央よりのものは平面形が径70 cm×53 cmの楕円状で層厚8 cm、東よりものは平面形が43 cm×34 cmの楕円状で層厚4 cmである。カマドの本体燃焼部の焼土であると思われる。袖部、煙道部は検出されなかった。

遺物

本遺構に伴う遺物は出土していない。

V A 1号住居跡

遺構 (第29図、写真図版22)

〈位置と残存状況〉調査区の下位面の東端の斜面中位に位置する。そのため、表土の流出と上位面から土砂の流入が著しい。また、床面中央および東壁には木根による攪乱がみられるなど、残存状況は不良である。

〈形状と規模〉東壁と北壁を欠くため、全体の形状は不明であるが、平面形は方形と推定される。規模は東西方向で4.3 m、南北方向で3.5 m以上である。

〈埋土〉黒褐色土の単層である。流れ込んだ小礫が堆積している。

〈壁〉東壁と北壁を欠く。緩やかに外傾し、壁高は南壁で26 cm、西壁で20 cmである。

〈床〉木根による攪乱と流れ込んだ小礫の堆積によって、全面にわたり凹凸が著しい。

〈柱穴〉柱穴状土坑は3基検出した。平面形は径19 cm×18 cm～15 cm×11 cmの円形で、深さ25 cm～20 cmである。柱穴配置は不明である。

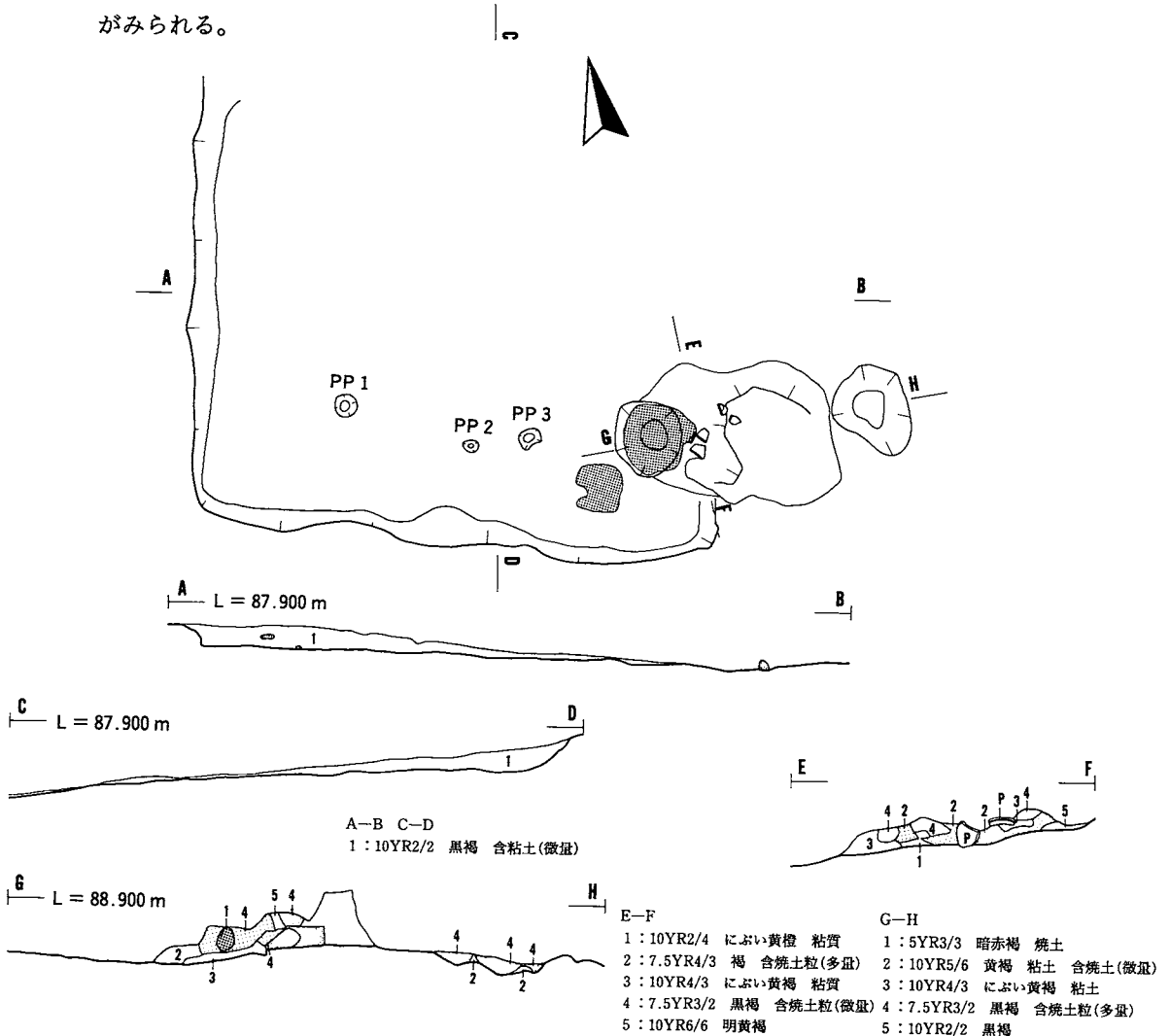
〈カマド〉東壁の南寄りに構築されている。本体部、煙道部は木根によって攪乱され、残存状況は不良である。総長2.4 m、壁外1.5 m、主軸方向はE-2°-Sである。燃焼部には径53 cm×54 cm、層厚最大10 cmの円形に焼土が形成されている。煙出し部は径76 cm×56 cm、深

さ 6 cm の円筒状をなし、埋土には焼土粒が多量に含まれている。

遺物 (第 103、104 図、写真図版 74、75)

埋土を中心にカマドからも出土している。土器で構成される。

〈土器〉土師器坏形土器(208~212)、土師器高台付き坏形土器(213)、土師器鍋形土器(214)、土師器甕形土器(215、216、218)、須恵器甕形土器(217)、須恵器甕形土器(219)の出土である。208~212 はいずれも内外面とも無調整である。213 は内面ミガキののち黒色処理をほどこしてある。底面に浅く沈線がめぐり高台部が剝離した痕跡を示す。214 は内外面ともロクロ調整の上を、外面下部は粗いヘラケズリをほどこしている。外面には煤が付着している。胎土には粗い砂粒が入る。216、218 はどちらもカマドからの出土で、口縁部をヨコナデ調整している。217 は胴部破片で外面は平行タタキ目紋、内面には青海波紋が見られる。219 は肩部に平行タタキ目文がみられる。



第 29 図 V A 1 号住居跡

V A 2号住居跡

遺構 (第30図、写真図版22)

〈位置と残存状況〉 調査区の下位面の東端に位置し、V A 1号住居跡の北西4mにある。調査範囲のなかでもっとも標高が低いため、雨後には湧水があふれるなど、他の地域の住居跡と比較してもっとも条件が悪く、カマドと床面の一部を検出するにとどまった。

〈形状と規模〉 不明である。

〈埋土〉 不明である。

〈壁〉 不明である。

〈床〉 カマド周辺の地山IV層を床面をしていると思われる。

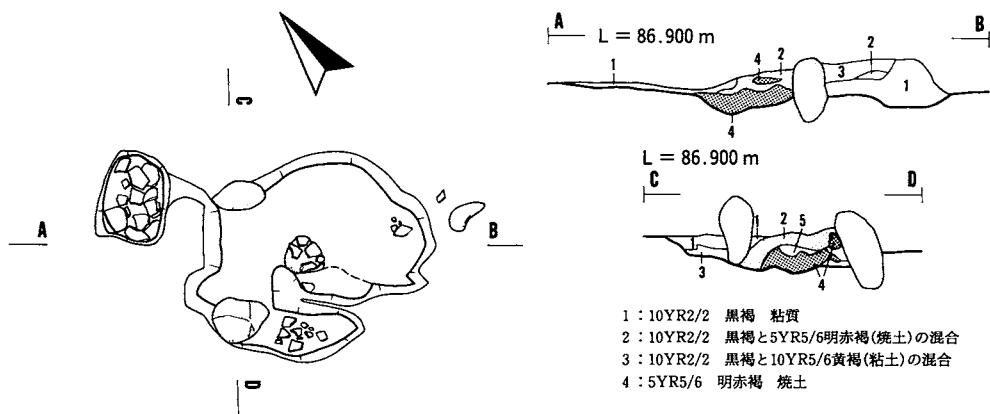
〈柱穴と土坑〉 ともに検出されていない。

〈カマド〉 総長は112cm程度、幅は65cm程度、主軸方向はE-39°-Sと推定される。本体部、煙道部、煙出し部は失われているが、袖部と燃焼部が確認された。左袖部は11cm×21cm×27cmの石を、右袖部は22cm×18cm×32cmの石を芯材として用いている。燃焼部の焼土は層厚7cmであり、良く焼けている。支脚は15cm×14cm×16cmの石を用いている。

遺物 (第104、105図、写真図版75)

すべてカマドからの出土である。土器で構成される。

〈土器〉 土師器坏形土器(220~221)、土師器甕形土器(222~224)の出土である。220、221は内外面とも無調整、222は底部破片で、底面をヘラ切りののち放射状にミガキ調整をほどこし、体部下半をヘラケズリ調整、内面をヘラナデ調整している。223は胴上半部の破片である。最大径は口縁部にあり、調整は口縁部は内外面ともヨコナデ、外面体部中央はヘラナデ調整である。224は胎土に細礫、砂粒を多量に含む。体部中央に最大径を持ち、口縁部は内外面ともヨコナデ、体部中央から底部にかけてはヘラケズリ調整をほどこしている。外面には煤が付着している。



第30図 V A 2号住居跡

VIB 1号住居跡

遺構 (第 31 図、写真図版 23)

〈位置と残存状況〉調査区の上位面の中央部よりやや東側の平坦な面に位置し、VIA 区の円形周溝群の西約 4 m にある。表土が薄いため、後世の削平が著しい。

〈形状と規模〉平面形はやや歪んだ長方形で、南北方向が 2.5 m、東西方向が 2.3 m、床面積 5 m² である。

〈埋土〉暗褐色土が主体で、ほぼ単層に近いが、灰白色火山灰や粘質シルトの混入によって 5 層に細分される。

〈壁〉東壁、西壁は急な傾斜をもって外傾する。北壁は立ち上がりが明確でないが、南壁はゆるやかな傾斜をもって外傾する。壁高は東壁で 8 cm、西壁・南壁・北壁で 7 cm である。

〈床〉上位面のⅢ層を掘り込んでいる。ほぼ平坦である。

〈焼土〉床面南東部に 2 ヶ所の現地性焼土を確認した。どちらも平面形は不定形で 37 cm×26 cm～28 cm×14 cm 程度、層厚 7 cm～2 cm 程度である。カマドに伴うものとは考えられない。

〈柱穴と土坑〉ともに検出されていない。

〈カマド〉検出されていない。

遺物 (第 105 図、写真図版 75)

埋土から出土している。土器、鉄製品で構成される。

〈土器〉土師器坏形土器(225～229)、須恵器壺形土器(230)の出土である。229 は底面がやや高台状で、底面から内湾して立ち上がる。230 は胴部破片である。外面を粗いヘラケズリ調整している。

〈鉄製品〉釘(231)、鏝(232)の出土である。232 は半分欠損している。

VIB 2号住居跡

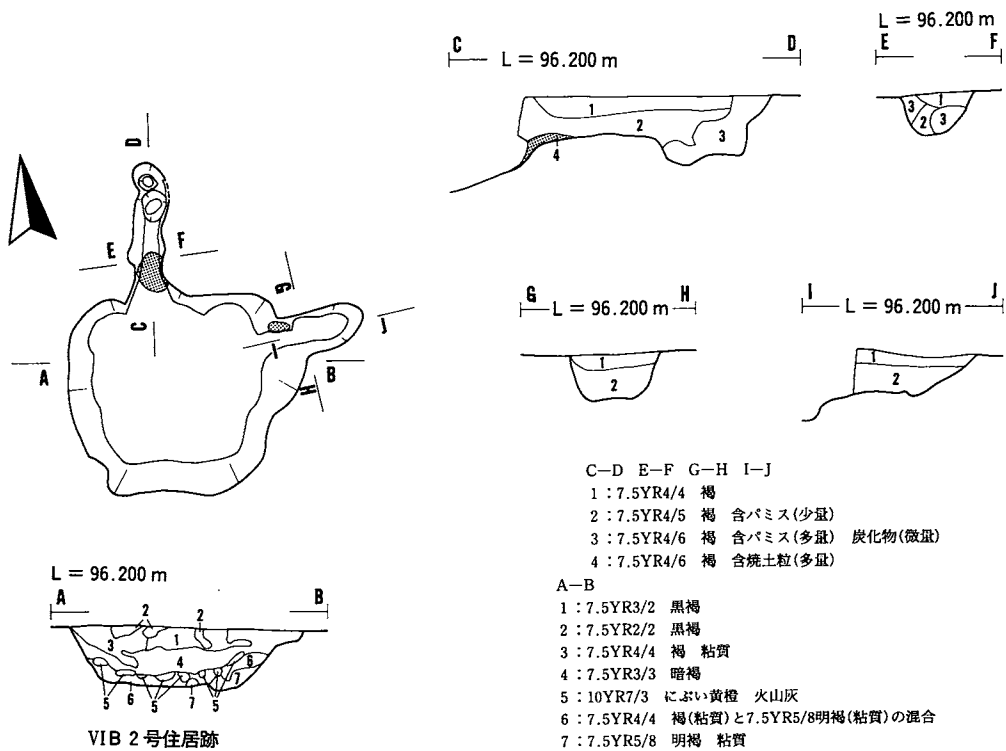
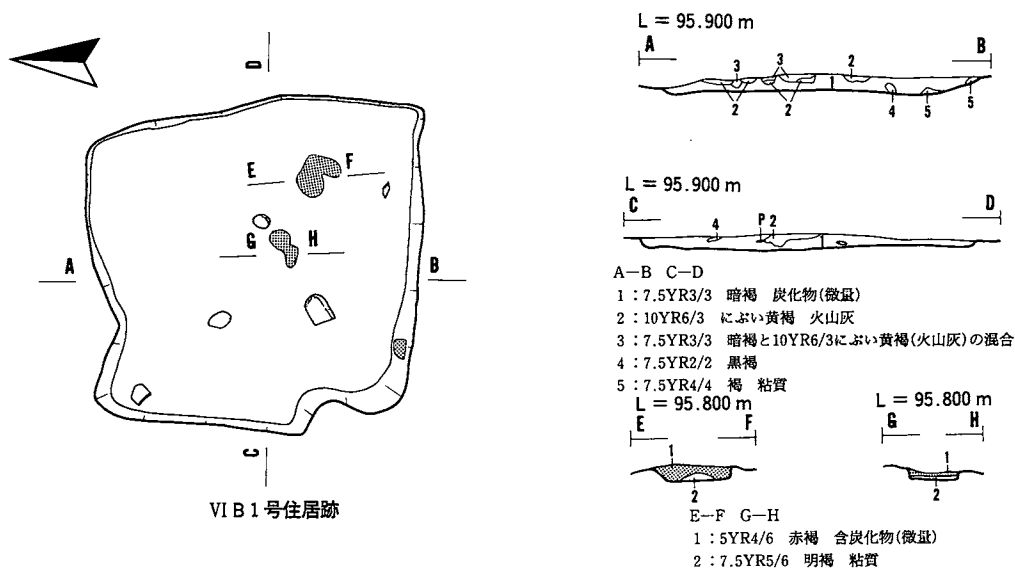
遺構 (第 31 図、写真図版 23)

〈位置と残存状況〉調査区の上位面の中央部に位置し、9号掘立柱建物跡に伴う周溝の北 2.4 m にある。

〈形状と規模〉平面形は隅丸の台形状である。規模は南北方向が 1.6 m、東西方向が 1.8 m で上底にあたる南辺は 1.2 m、下底にあたる北辺は 1.4 m で、東辺と西辺は凸辺様を呈する。床面積は 2.1 m² で、遺跡の竪穴住居跡のなかでもっとも小さい。

〈埋土〉大きく 3 層に分けられる。黒褐色土～暗褐色土を主体とするが、下位と壁際には崩落した粘土質シルトが混じる。底部の粘土質シルトの上層には灰白色火山灰が断続的に堆積する

〈壁〉緩やかに外傾し、壁高は東壁 35 cm、西壁 35 cm、南壁 35 cm、北壁 32 cm である。



第31図 VIB 1号、VIB 2号住居跡

〈床〉 全体的に小さな凹凸がある。比高差は 12.5 cm である

〈柱穴と土坑〉 どちらも伴わない。

〈カマド〉 北壁と東壁に 2 基検出された。どちらも本体部は失われており、煙道部のみ残存する。作り替えと思われるが、新旧関係は不明である。北壁のものは、中央よりやや西寄りに設けられている。本体部は失われており、煙道部と煙出し部のみ残存する。煙道部は長さ 103 cm、幅 25 cm～20 cm、深さ 16 cm で、横断面は半円状である。本体部寄りに 30 cm にわたって層厚最大 3 cm の焼土が形成されている。煙出し部は深さ 22 cm の土坑状である。東壁のものは中央よりやや北壁寄りに設けられており、長さ 85 cm、幅 34 cm、深さ 17 cm で、断面形は U 字状である。煙道部と煙出し部の境界は明確でない。煙道部の本体部寄りの左側壁に長さ 16 cm にわたって、薄い焼土が形成されている。

遺物

本遺構に伴う遺物は出土していない。

VII A 1 号住居跡

遺構 (第 32 図、写真図版 24)

〈位置と残存状況〉 調査区の上位面の東端に位置する。住居の約 4 m 東から斜面が下り始める。比較的、検出面からの掘り込みが深く、残存状況は良好である。

〈形状と規模〉 平面は隅丸正方形で、北壁以外の他の壁は凸辺様を呈し、特に南壁はもっとも張り出す。規模は南北方向で 2.2 m、東西方向で 2.3 m、床面積 4.2 m² である。

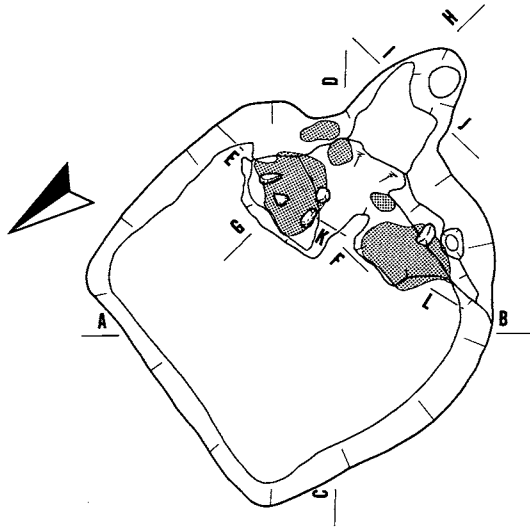
〈埋土〉 9 層に細分される。上位は黒褐色土、中位から下位にかけては褐色土が主体をなす。中位には灰白色火山灰が少量混じる。

〈壁〉 外傾する。壁高は東壁が 57 cm、西壁が 56 cm、南壁が 46 cm、北壁が 73 cm である。

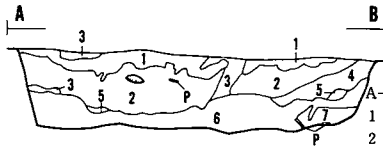
〈床〉 ほぼ平坦である。北から南、西から東にやや傾くが、比高差は 10 cm 以内である。床面は黄褐色の粘質シルトであるが、貼り床は見られない。床面の南壁際の中央よりやや西寄りに、75 cm×50 cm の範囲に現地性の焼土が形成されている。

〈柱穴と土坑〉 どちらも伴わない。

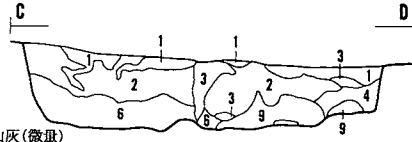
〈カマド〉 南壁の中央よりやや東寄りに設けられており、総長 205 cm、壁外 102 cm である。本体部の残存状況は比較的良好である。煙道部は検出面からの深さが浅いため、明瞭でない。長軸方向は S - 2° - E である。左袖部に 35 cm×7 cm×18 cm の石を 1 個、右袖部に 38 cm×10 cm×17 cm と 12 cm×10 cm×10 cm の石を芯材として使用している。袖部の幅は芯材の外側で 53 cm、内側で 37 cm である。焼土形成は不良であるが、燃焼部付近には径 62 cm×58 cm、層厚最大 17 cm に焼土と暗褐色土の混土が堆積しており、その中央には支脚として用いられた



L = 94.800 m



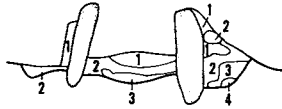
L = 94.800 m



A-B C-D

- 1 : 10YR2/3 黒褐
- 2 : 7.5YR4/4 褐 含火山灰(微量)
- 3 : 7.5YR3/3 暗褐
- 4 : 7.5YR4/4 褐 含火山灰(少量)
- 5 : 7.5YR4/4 褐と火山灰の混合
- 6 : 7.5YR4/4 褐
- 7 : 10YR2/3 黒褐 含暗褐色土(微量)
- 8 : 7.5YR5/6 明褐 粘質
- 9 : 7.5YR4/4 褐 含焼土、炭化物

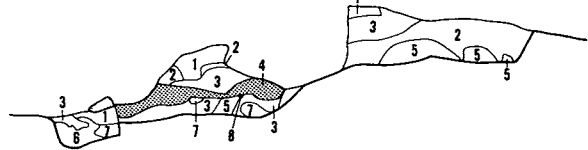
L = 94.400 m



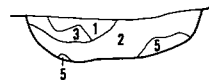
E-F

- 1 : 7.5YR4/4 褐
- 2 : 7.5YR3/3 暗褐 含焼土粒(微量)
- 3 : 7.5YR5/8 明黄褐 浮石
- 4 : 7.5YR3/3 暗褐 含浮石(微量)

L = 94.600 m



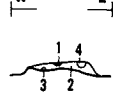
L = 94.600 m



G-H I-J

- 1 : 7.5YR4/4 褐
- 2 : 7.5YR4/6 褐 粘質
- 3 : 7.5YR3/3 暗褐 含焼土粒、炭化物(微量)
- 4 : 2.5YR4/6 赤褐(焼土)と7.5YR3/3暗褐の混合
- 5 : 7.5YR3/2 暗褐と7.5YR4/6褐(粘質)の混合
- 6 : 7.5YR5/8 明黄褐 浮石
- 7 : 7.5YR3/3 暗褐 含浮石(少量)
- 8 : 2.5YR4/6 赤褐 焼土

L = 94.600 m



K-L

- 1 : 5YR5/8 明赤褐 焼土
- 2 : 7.5YR3/3 暗褐 含焼土粒、炭化物(微量)
- 3 : 7.5YR5/8 明黄褐 浮石
- 4 : 炭化物

第 32 図 VII A 1 号住居跡

と思われる 10 cm×4 cm×6 cm の礫がある。煙道部は長さ 90 cm、幅 80 cm と推定されるが、掘り込みが浅く、明確でない。煙出し部は径 25 cm×22 cm の楕円状で、深さ 30 cm である。

遺物 (第 105、106 図、写真図版 75)

埋土を中心に床面、カマド本体、煙道部から出土している。土器、石製品で構成される。

〈土器〉土師器坏形土器(233~239)、土師器鉢形土器(240)の出土である。233~235 は内面ミガキのち黒色処理、236~239 は無調整である。236 はカマド煙道部からの出土で、外面に煤が付着している。237、238 はカマド本体からの出土である。240 は床面から出土している。底部から内湾して立ち上がり、口縁部は緩く外反する。内外面とも無調整である。

〈石製品〉241 が出土している。磨き痕がみられるが、器種、部位ともに不明である。

VII B 1 号住居跡

遺構 (第 33 図、写真図版 25)

〈位置と残存状況〉調査区の上位面の東端に位置し、VII A 1 号住居跡の西 6 m の平坦面にある。検出面からの掘り込みが深く、残存状況は良好である。

〈形状と規模〉平面形は隅丸正方形である。規模は南北方向が 2.3 m、東西方向が 2.2 m、床面積 3.6 m² である。

〈埋土〉6 層に細分される。上位は黒褐色土が、中位は褐色土から暗褐色土が、下位は明褐色の粘質シルトが主体である。

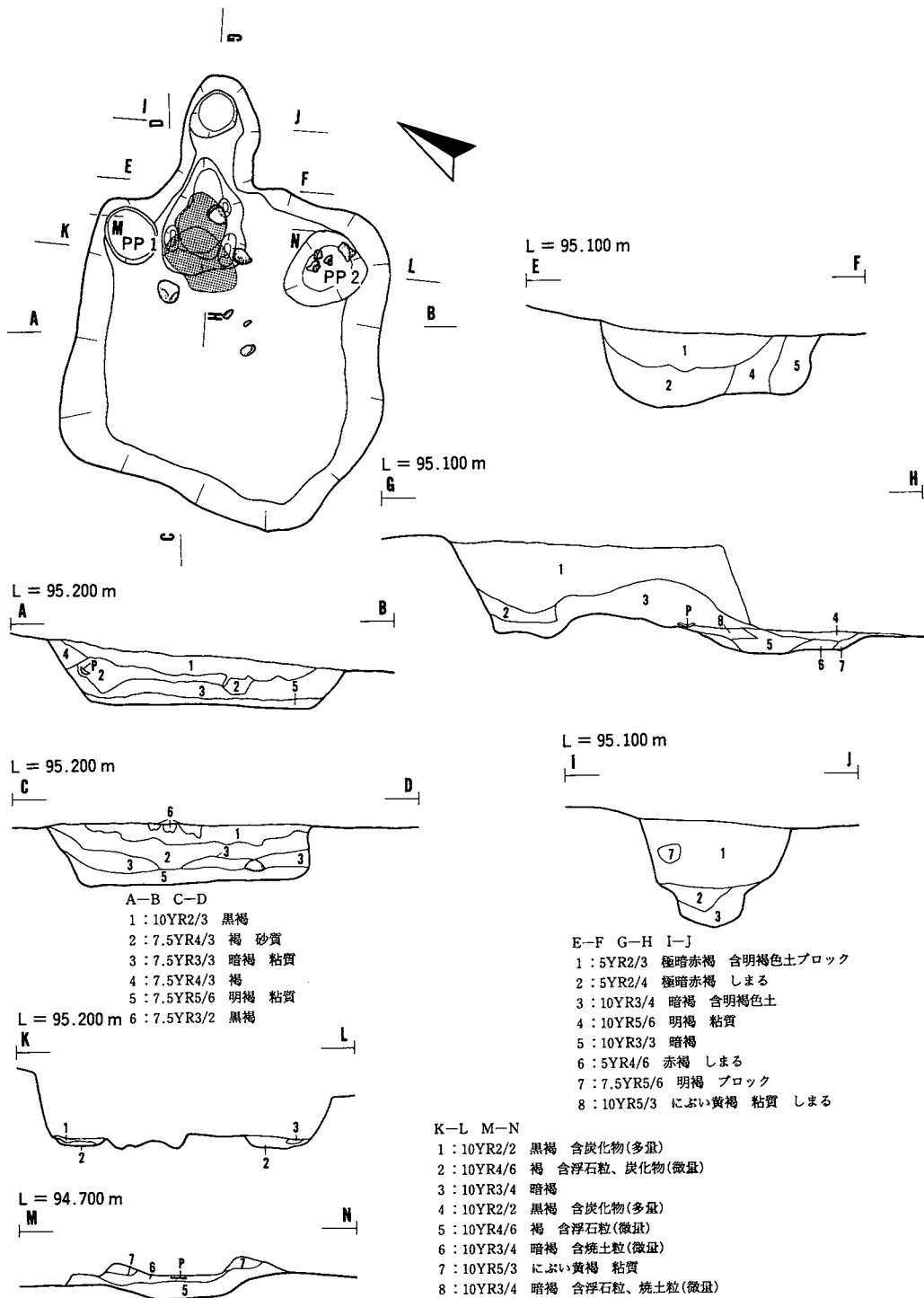
〈壁〉東壁は直立に近く、その他は外傾して立ち上がる。壁高は東壁 36 cm、西壁 59 cm、南壁 42 cm、北壁 56 cm である。

〈床〉ほぼ平坦である。北から南、西から東にやや傾くが、比高差は 10 cm 以内である。床面は黄褐色の粘質シルトであるが、貼り床は見られない。

〈柱穴〉伴わない。

〈土坑〉2 基検出した。北東隅と南西隅にある。径 73 cm×62 cm~52 cm×44 cm、深さ 10 cm 程度であり、いわゆる貯蔵穴様ではない。

〈カマド〉東壁の中央よりやや北に設けられており、総長 175 cm、壁外 107 cm である。本体部の残存状況は比較的良好である。煙道部は検出面からの深さが浅いため明瞭でないが、掘り込み式であったと思われる。長軸方向は E-24°-S である。燃焼部から袖部にかけて、暗褐色土と焼土の混土が広がる。その下の袖部には袖石の抜き取り痕が認められ、付近にはカマドの袖部の芯材に使用した石が散らばっている。抜き取り痕の規模は、左 23 cm×16 cm、深さ 9 cm、右 32 cm×17 cm、深さ 12 cm で、左右間の距離は外側で 50 cm、内側で 37 cm である。燃焼部には焼土が径 60 cm×55 cm の不整楕円形状に形成されている。層厚は 8 cm である。煙



第 33 図 VII B 1 号住居跡

道部は短く、長さ 90 cm 程度、幅は明確ではないが 80 cm 程度と推定される。煙出し部は 38 cm×47cm の楕円形状を呈し、深さは 49 cm である。

遺物（第 106、107 図、写真図版 75、76）

埋土を中心に床面からも出土している。土器と石器で構成される。

〈土器〉土師器坏形土器(242~249)の出土である。247、249 は底面がやや高台状である。

〈石器〉磨石(250)が出土している。

VII B 2号住居跡

遺構（第 34 図、写真図版 26）

〈位置と残存状況〉調査区の上位面の東端の斜面の上位に位置し、VII B 1号住居跡の南 2 m、VII B 3号住居跡の西隣 0.7 m にありカマドの煙道部がVII B 3号住居跡と重複する。VII B 3号住居跡より古い。斜面の上位にあり、南壁がほとんど流出している。残存状態は不良である。

〈形状と規模〉平面形は長方形と推定されるが、南壁を欠くため、全体の形状は不明である。規模は、東西方向が 2.7 m、南北方向は 2.5 m、床面積 5.5 m²と推定される。

〈埋土〉6層に分けられる。黒褐色土、暗褐色土を主体とする。中位にある黒褐色土の上方に灰白色火山灰のブロックが混入する。

〈壁〉南壁はほとんど流出しており、立ち上がり、壁高ともに不明である。その他の壁は、ほぼ直立して立ち上がる。壁高は東壁、西壁は斜面に直交しているため 82 cm～2 cm、北壁は 82 cm である。

〈床〉地山V層の浮石層を床面としている。ほぼ平坦である。

〈柱穴〉伴わない。

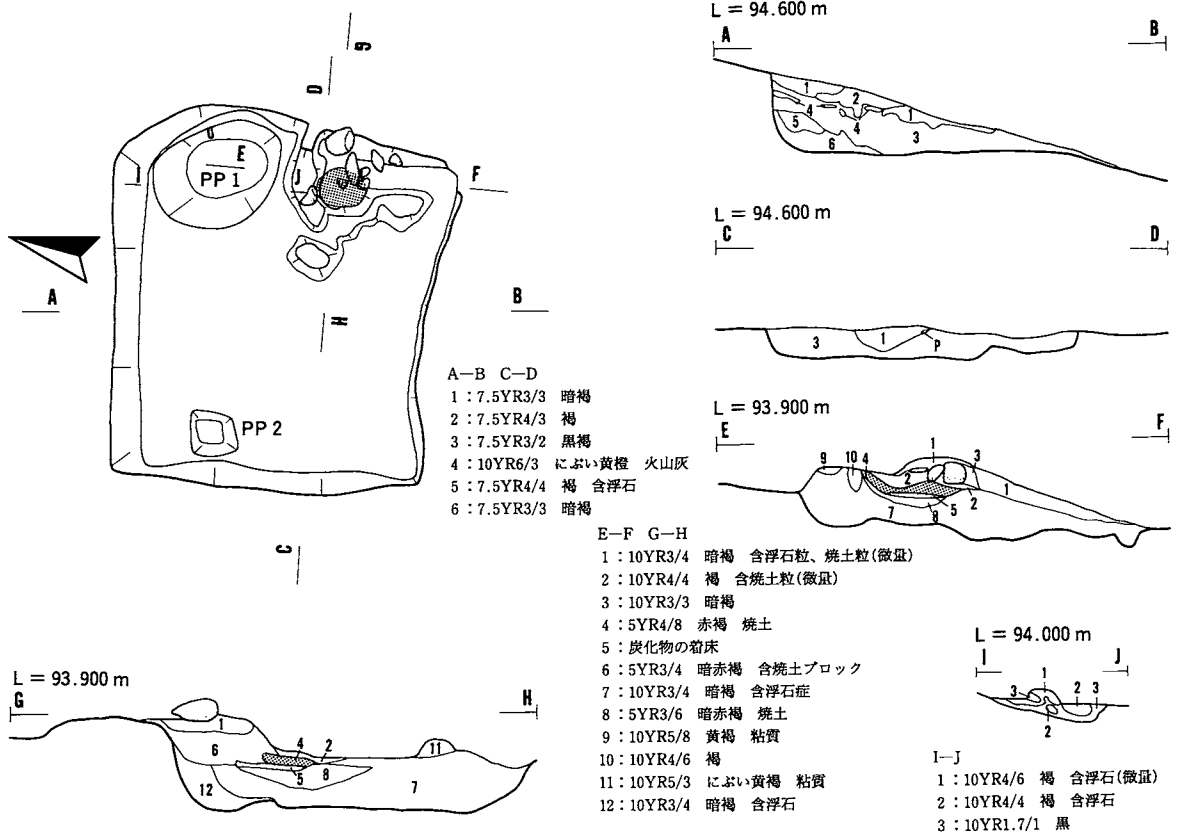
〈土坑〉北東隅に 1 基 (PP 1) と西壁際中央よりやや北寄りに 1 基 (PP 2)、計 2 基検出した。PP 1 は径 108 cm×81 cm の楕円状を呈し、深さ 10 cm である。PP 2 は平面形は 46 cm×36 cm の歪んだ長方形状で深さ 13 cm である。

〈カマド〉東壁中央よりやや南寄りに構築されたものと思われるが、本体部は焼土と袖石に使用したと思われる石のみ残り、煙道部、煙出し部ともVII B 3号住居跡と重複して残存しないなど、残存状況は不良である。東壁中央よりやや南寄りの壁際に散在する礫群は、カマドの袖の芯材として用いられたものと思われるが、詳細は不明である。礫群に隣接して径 48 cm×38 cm、層厚最大 11 cm の焼土が形成されている。

遺物（第 107、108 図、写真図版 76）

埋土を中心に床面からも出土している。土器によって構成される。

〈土器〉土師器坏形土器(251~255)、須恵器坏形土器(256、257)、土師器甕形土器(258)の出



第 34 図 VII B 2 号住居跡

土である。251、252 は内面ミガキののち黒色処理をほどこしている。253～255 は無調整である。253 は口縁部が大きく外反する。257 は底部をナデ調整している。258 は口縁部は無調整、胴上半部をヘラケズリ調整しており、最大径は胴中央部にある。

VII B 3 号住居跡

遺構 (第 35 図、写真図版 27)

〈位置と残存状況〉調査区の上位面の東端の斜面の上位に位置し、VIIA 1 号住居跡の南西 1 m、VII B 2 号住居跡の東隣 0.7 m にあり、VII B 2 号住居跡のカマドの煙道部と重複する。VII B 2 号住居跡より新しい。南に下る斜面の上位にあるため、南壁がほとんど流出しており、残存状況は不良である。

〈形状と規模〉平面形は長方形と推定されるが、南壁を欠くため、全体の形状は不明である。規模は東西方向で 2.8 m、南北方向で 2.6 m、床面積は 5.3 m² である。

〈埋土〉7 層に細分される。上位から黒褐色土、褐色土、浮石を含む暗褐色土であるが、最下層の浮石を含む暗褐色土の上方に、灰白色火山灰のブロックが混入する。

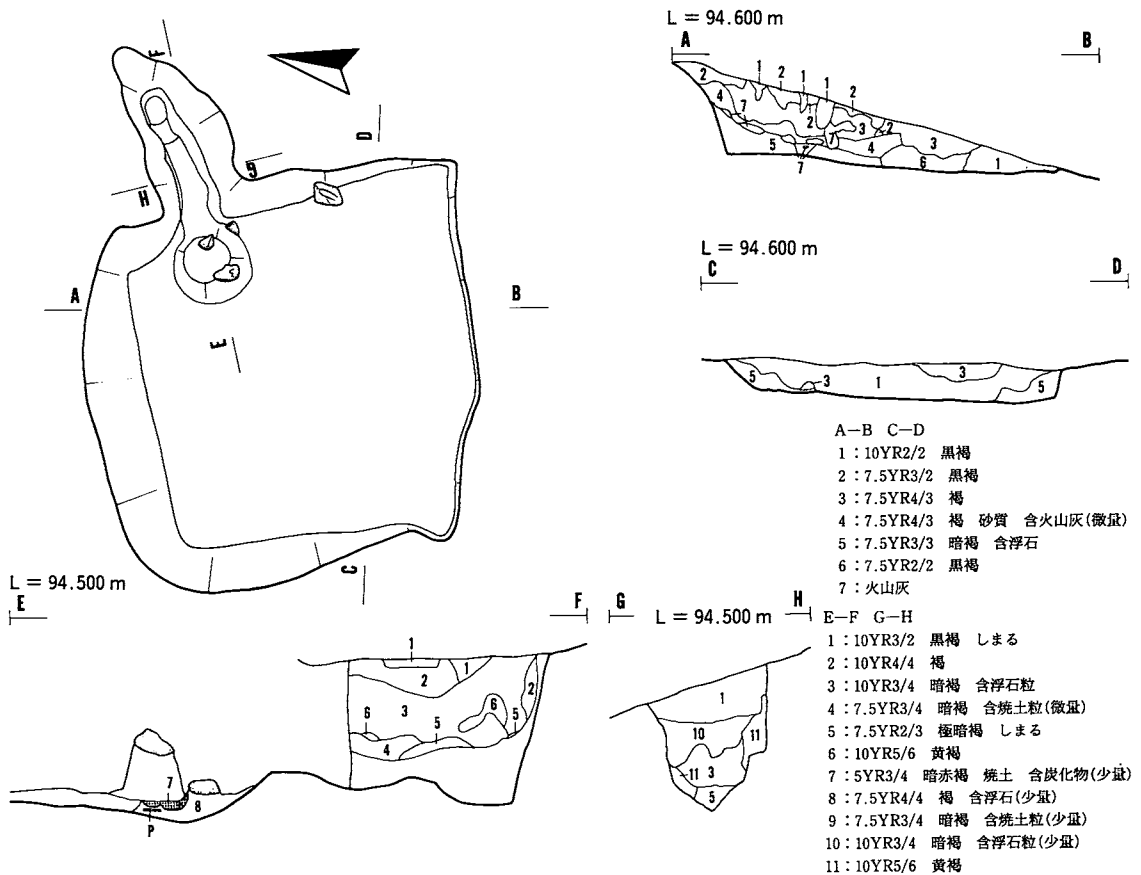
〈壁〉南壁はほとんど流出しており、立ち上がり、壁高ともに不明である。西壁は床から 20 cm ほど直立したのち、緩やかに外傾する。その他は外傾する。壁高は北壁が 78 cm、東壁、西

壁が78 cm～5 cmである。

〈床〉地山V層の浮石層を床にしている。ほぼ平坦である。

〈柱穴と土坑〉ともに伴わない。

〈カマド〉東壁の中央よりやや北寄りに設けられている。本体部の残存状況は不良であるが、煙道部、煙出し部の残りは良好である。規模は総長218 cm、壁外140 cm、主軸方向はE-26°-Sである。袖部は残存しない。燃烧部は直径61 cmの円形状に9 cmほど掘り凹められており、袖部を構成していたと思われる礫が散らばっている。焼土の形成は不良である。煙道部の断面はU字状を呈し、深さは最大60 cmである。煙出し部と煙道部の境界は明確でないが、煙道部先端の底面の径22 cm×15 cmの楕円形状に70 cmほどに掘り凹められた部分が、煙出し部に相当するものと思われる。



第35図 VII B 3号住居跡

遺物 (第 108 図、写真図版 76)

埋土から出土している。土器で構成される。

〈土器〉土師器坏形土器(259~267)、土師器高台付き坏形土器(268)の出土である。259、260 は内面ミガキののち黒色処理をほどこしている。262~267 は無調整である。268 は内面ミガキののち黒色処理をほどこしており、底面には浅く沈線がめぐり高台部が剝離した痕跡を示す。

VII B 4 号住居跡

遺構 (第 35 図、写真図版 28)

〈位置と残存状況〉調査区の上位面の東端に位置し、VII B 1 号住居跡の北西 1 m の平坦面にある。13 号溝、VII B 9 号土坑と重複する。13 号溝、VII B 9 号土坑よりも古い。

〈形状と規模〉平面形は隅丸台形で、規模は上底にあたる北壁が 1.8 m、下底にあたる南壁が 2.4 m、東壁が 2 m、西壁が 2.2 m、床面積は 3.9 m²である。

〈埋土〉8 層に分けられる。暗褐色土を主体とし、炭化物、火山灰、褐色土の混入の度合いによって細分される。

〈壁〉外傾して立ち上がる。壁高は東壁が 45 cm、西壁が 50 cm、南壁が 20 cm、北壁が 34 cm である。

〈床〉床面の南半に不定形の凹みを伴う。南から北に向けてやや傾き、比高差約 6 cm である。

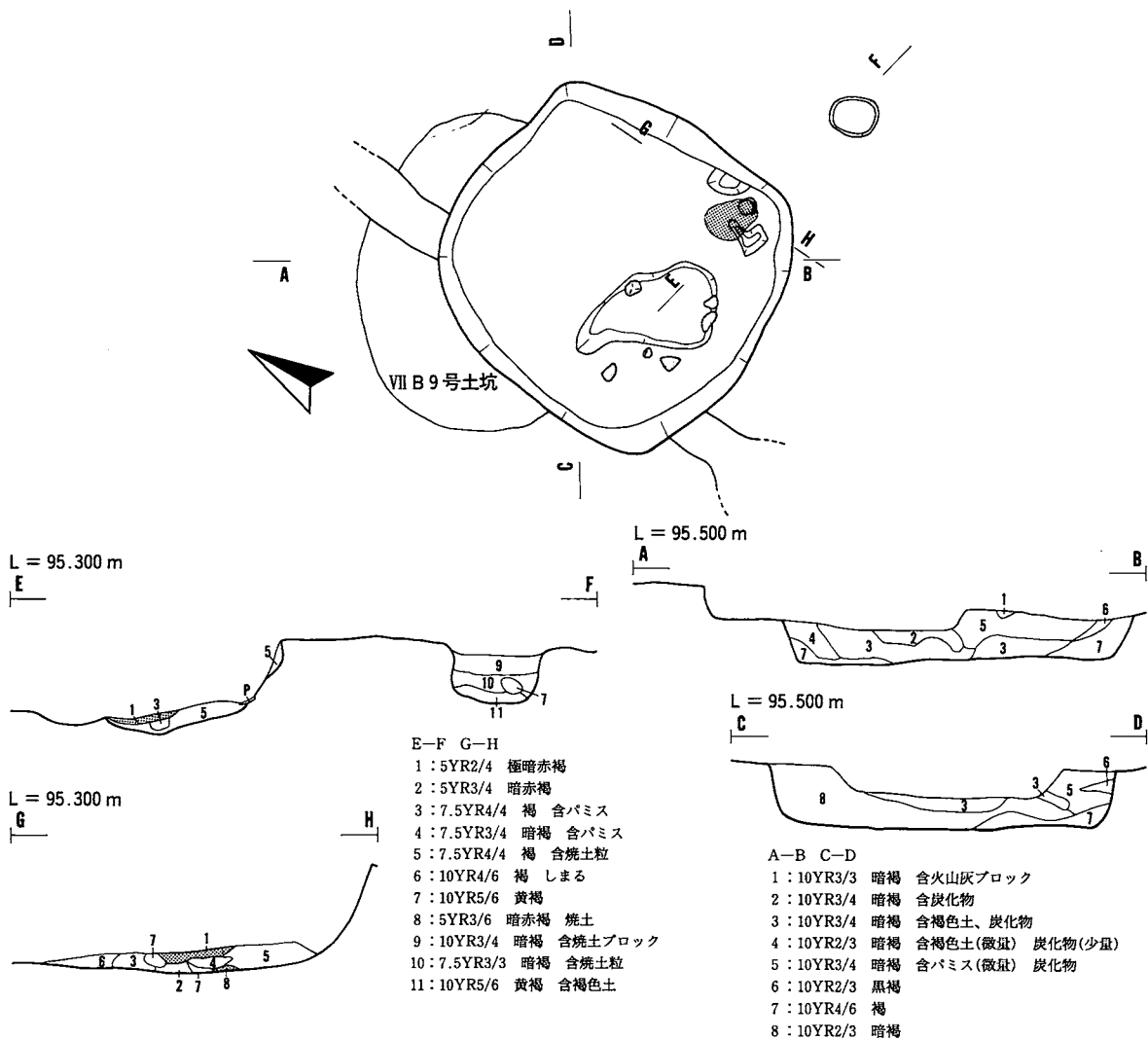
〈柱穴と土坑〉どちらも伴わない。

〈カマド〉南東隅に設けられていたものと思われ、総長 172 cm、壁外 105 cm、主軸方向 N-20°-S と推定される。残存状況は不良で、確認できたのは本体部では燃焼部の焼土、煙道部では煙出し部のみである。燃焼部の焼土は径 42 cm×29 cm、層厚最大 4 cm の不定形に形成されている。焼土形成は不良である。焼土の左右に径 30 cm×15 cm、深さ 6 cm 程度の凹みを 2 基検出した。袖石の抜き取り痕跡かと思われる。検出面から掘り込みが浅いため煙道部は削平されたものと思われる。煙出し部は東壁の外 67 cm にあり、径 41 cm×32 cm、深さ 23 cm の土坑状を呈す。埋土に焼土粒を含む。

遺物 (第 109~110 図、写真図版 77)

埋土を中心にカマドからも出土している。土器で構成される。

〈土器〉土師器坏形土器(269~271)、土師器甕形土器(272~274)、須恵器甕形土器(275)の出土である。271 は口径に比べて器高が高く、碗形を呈する。272、273 は小型の甕形土器で、272 は口縁が緩く外反し、最大径は胴上半部にある。273 は口縁が急に外反し、最大径は口縁にある。どちらも無調整である。274 は口縁部をヨコナデ、胴中央部をヘラケズリ調整している。輪積み痕がみられる。275 は胴下半部から底部をヘラケズリ、内面はヘラナデ調整をほどこしている。



第36図 VII B 4号住居跡

VII B 5号住居跡

遺構 (第37図、写真図版29)

〈位置と残存状況〉調査区の東南端に位置し、13号溝の南端の西約5mにある。南に下る斜面の上位にあるため、遺構の南半分がほとんど流出している。また、検出面からの掘り込みが浅いため、残存状況は不良である。

〈形状と規模〉平面形は隅丸長方形と思われる。規模は北壁が2.5 m、東壁、西壁が残存している北半でそれぞれ2.7 m、2 m 程度である。

〈埋土〉4層に分けられる。暗褐色土を主体とし、最下層は地山III層起源の褐色土が混じる。

〈壁〉北壁は床面から緩やかに湾曲したのち直立するが、その他の壁は残存状況が不良で不明である。

〈床〉地山V層を床面にしている。しまりはない。北壁寄りに炭化材、焼土粒が分布する。これらの炭化材は床上から1 cm 以内に形成され、厚さは1 cm~4 cm である。炭化材の樹種鑑定の結果はクリである。

〈柱穴と土坑〉検出されなかった。

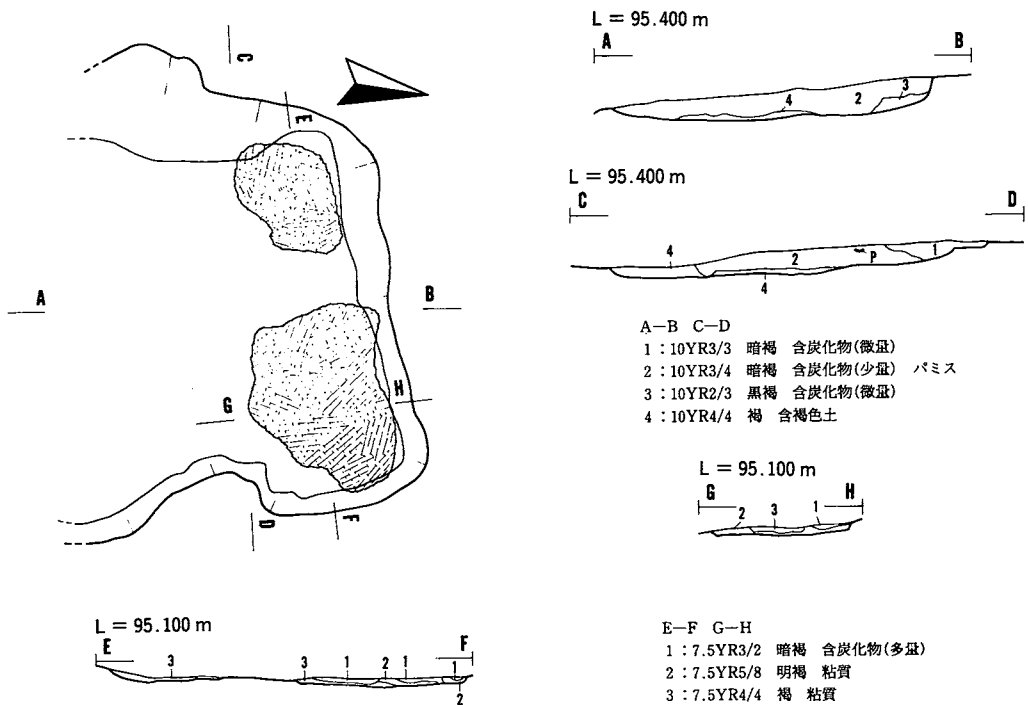
〈カマド〉検出されなかった。

遺物 (第 109、110 図、写真図版 77)

埋土から出土している。土器、陶器で構成される。

〈土器〉土師器坏形土器(276)、土師器甕形土器(277、278)、須恵器壺形土器(279)、器種不明の土師器(280)の出土である。

〈陶器〉灰釉陶器片1点(281)が出土している。



第 37 図 VII B 5 号住居跡

(2) 工房跡

VB1号工房跡

遺構 (第38図、写真図版30)

〈位置と残存状況〉 上位面の中央部西寄りに位置し、VB2号土坑と隣接する。

〈形状と規模〉 平面形は楕円形で、規模は3.5m×2.2m、深さ65cmである。住居跡状を呈するが、カマドを伴わず、ふいごの羽口、鉄滓が多数出土していることから工房跡とした。

〈埋土〉 9層に細分される。暗褐色土を主体とするが、上位には焼土および炭化物が、壁際から床面にかけては地山IV層起源の明褐色土が少量混じる。

〈壁〉 底面から外傾してほぼ直線的に立ち上がる。壁高は東壁で58cm、北壁で61cm、西壁で62cm、南壁で57cm程度である。

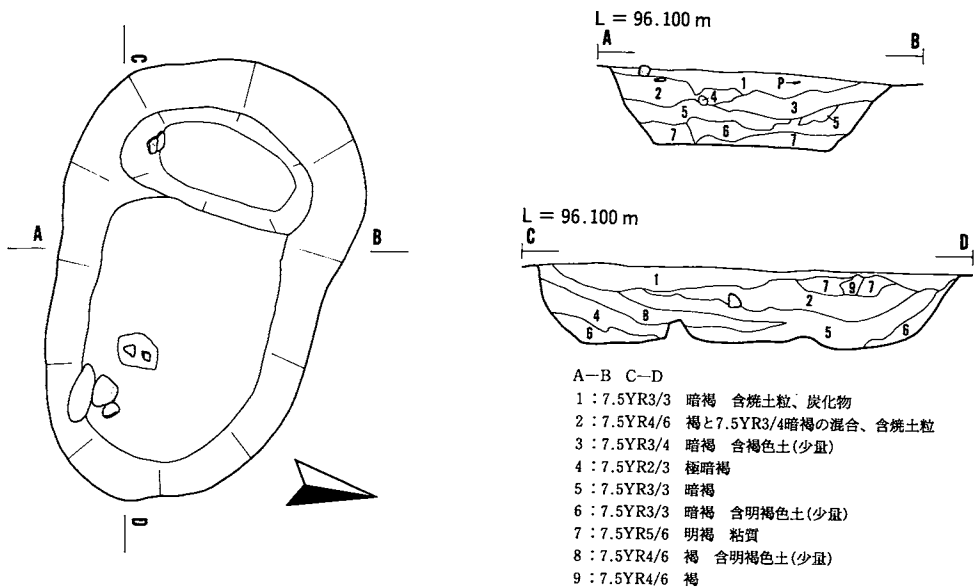
〈床〉 IV層を掘り込んで床としている。北寄りに南北を分ける隆帯様の仕切りがあり、西 $\frac{1}{4}$ と東 $\frac{3}{4}$ に区画されている。

〈柱穴と土坑〉 どちらも伴わない。

遺物 (第110、111図、写真図版78)

埋土を中心に床面からも出土している。土器、土製品、鉄滓で構成される。

〈土器〉 土師器坏形土器(283~290)、須恵器坏形土器(291、292)、土師器甕形土器(293、294)、須恵器甕形土器(295~297)の出土である。283~287は内面ミガキのち黒色処理、288~290は無調整である。278は墨書を伴う。字種は不明である。283は土師器としたが、口縁部は還元炎



第38図 VB1号工房跡

焼成されている。293 は口縁部を欠く。外面は胴上半部がヨコナデ、中央部がヘラナデ、下半部がヘラケズリ調整、内面はヘラナデ調整されている。294 は底部破片である。胴下半部はヘラケズリ、内面はヘラナデ調整されている。295、296 は内外面とも無調整である。295 は頸部から胴上半部にかけて自然釉がみられる。297 は胴部破片である。外面は平行タタキ目、内面は青海波紋がみられる。

〈土製品〉 298 はふいごの羽口である。先端には鉄滓を多く付着する。

〈鉄滓〉 多数出土しているが、図化したものは2点(298、299)である。

(3) 焼土遺構

ⅢB 1号焼土遺構

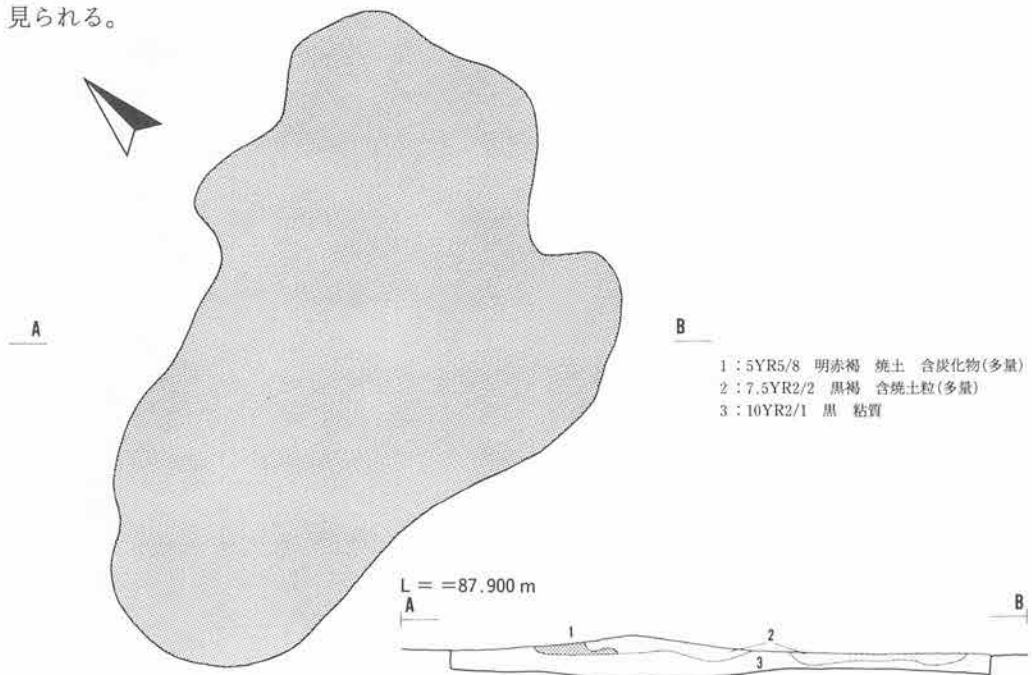
遺構 (第 39 図、写真図版 31)

下位面のほぼ中央部西寄りに位置し、ⅢB 6号住居跡の東約 13 m にある。平面形は不整形を呈し、最大径は 264 cm、層厚は最大で 7 cm である。焼土層からは多量の炭化材も出土している。

遺物 (第 112 図、写真図版 79)

焼土層から出土している。土器で構成される。

〈土器〉土師器坏形土器(302)、須恵器甕形土器(301)の出土である。302 は底面から内湾して立ち上がり、口縁部まで直線的に外傾する。胎土は密で、焼成も良い。301 は平行タタキ目文が見られる。



第 39 図 Ⅲ B 1号焼土遺構

IV A 1号焼土遺構

遺構 (第 40 図、写真図版 31)

下位面のほぼ中央部に位置する。平面形は楕円形を呈し、長径 67 cm、短径 38 cm である。層厚は最大で 10 cm である。

遺物 (第 112 図、写真図版 79)

焼土層から出土している。土器で構成される。

〈土器〉須恵器甕形土器 2 点(303、304)が出土している。303 は胴上半部の破片で、内外面ともロクロ痕以外は無調整である。304 は胴部の破片で器面調整は外面がナワメ、内面が青海波紋である。

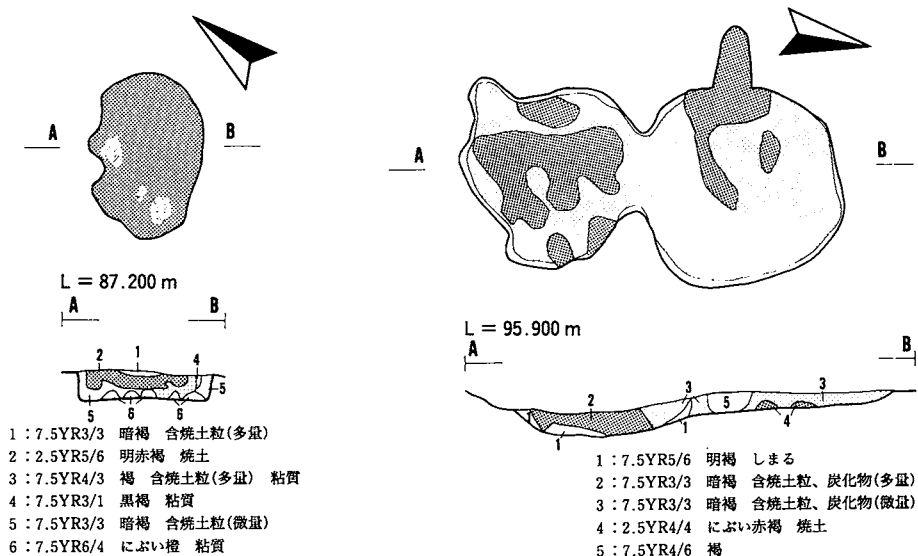
V B 1号焼土遺構

遺構 (第 40 図、写真図版 31)

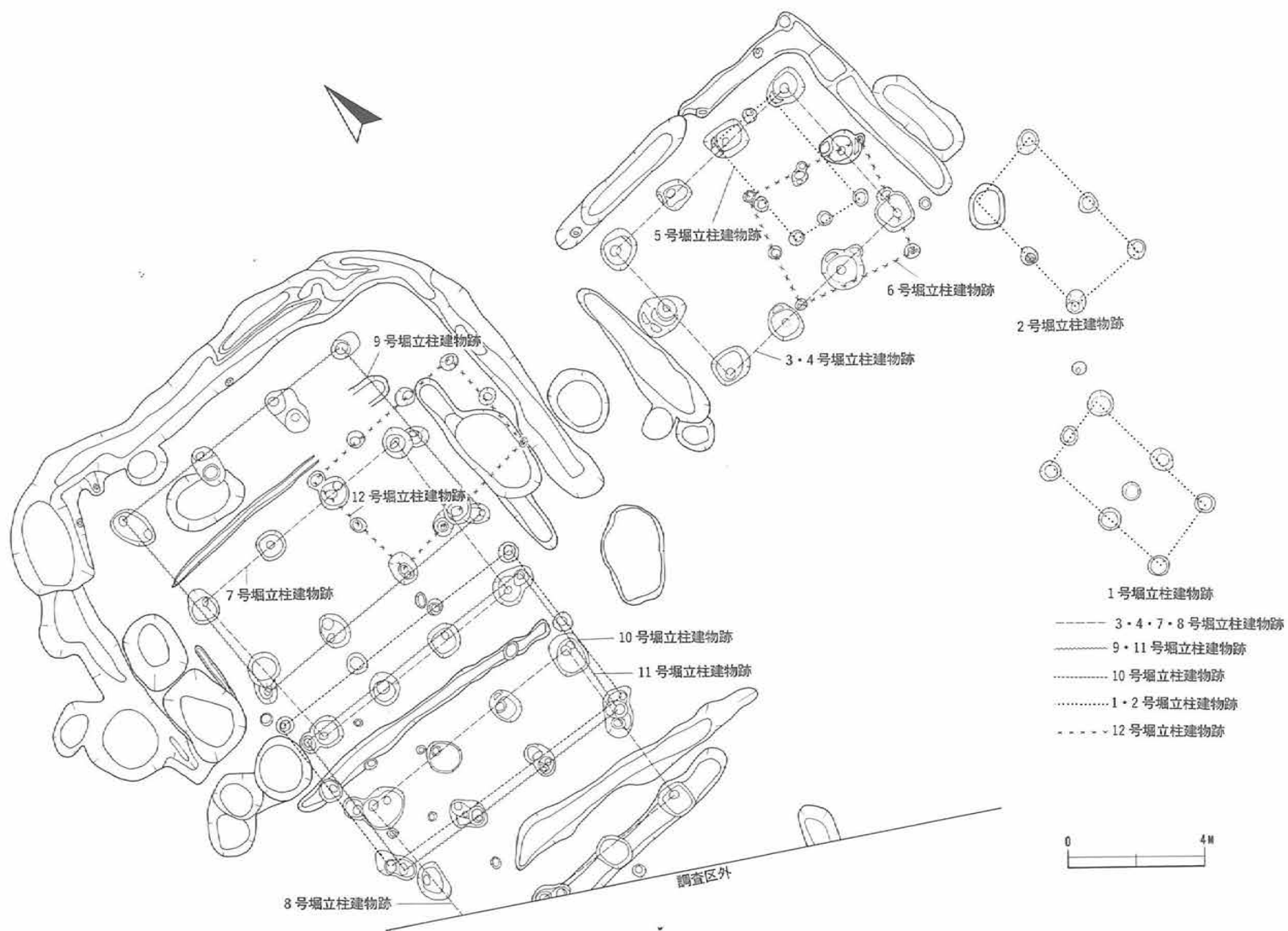
上位面の西端に位置し、V B 1号工房跡の北 4 m にある。平面形は不整形を呈し、最大径は 154 cm、層厚は最大で 9 cm である。2 層、3 層に炭化物を含む。

遺物

本遺構に伴う遺物は出土していない。



第 40 図 IV A 1・V B 1号焼土遺構



第41图 堀立柱建物跡配置图

(4) 掘立柱建物跡

1号掘立柱建物跡

遺構 (第42図、写真図版32)

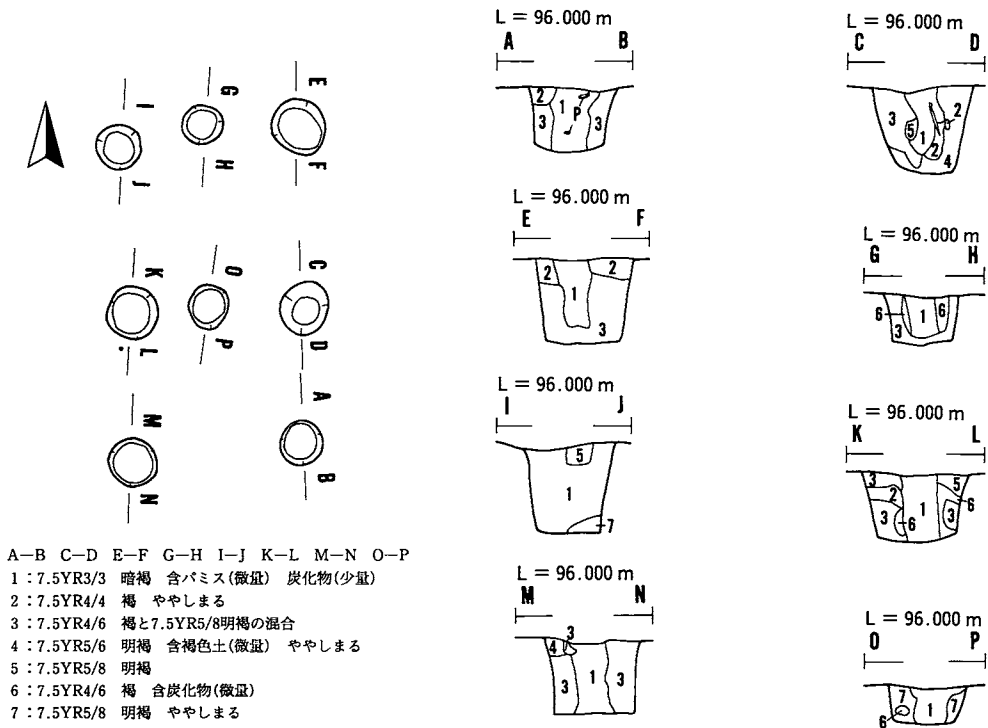
〈位置と重複関係〉 上位面の中央部に位置し、3号掘立柱建物跡の南7mにある。

〈形状と規模〉 掘り方は8ヶ所検出され、規模は桁行4.17m(2間)×梁行2.34m(2間)である。棟方向はN-3°-Wの南北棟である。桁行方向の柱穴間距離は2.3m~2.0m、梁行方向の柱穴間距離は1.3m~1.1mで、南側の中央を欠く8本柱の建物跡である。

〈柱穴の掘り方〉 直径65cm前後の円形を呈し、深さは62cm~27cmである。版築の有無については不明である。柱痕跡は径24cm~20cmの円形を呈し、掘り方の浅いものの柱痕跡は底面にまで達している。柱痕跡の埋土は黒褐色主体である。

遺物

本遺構に伴う遺物は出土していない。



第42図 1号掘立柱建物跡

2号掘立柱建物跡

遺構 (第43図、写真図版33)

〈位置と残存状況〉上位面の中央部に位置し、3号掘立柱建物跡の南東に隣接する。北西隅の柱穴があったと推定される地点で、VIB 4号土坑と重複する。

〈形状と規模〉掘り方は5ヶ所検出され、規模は桁行4.34m(2間)×梁行2.42m(1間)である。棟方向はN-0°-Eの南北棟である。桁行方向の柱穴間距離は2.4m~1.9m、梁行方向の柱穴間距離は2.4mである。北西隅の柱穴はVIB 4号土坑と重複し、消滅している。

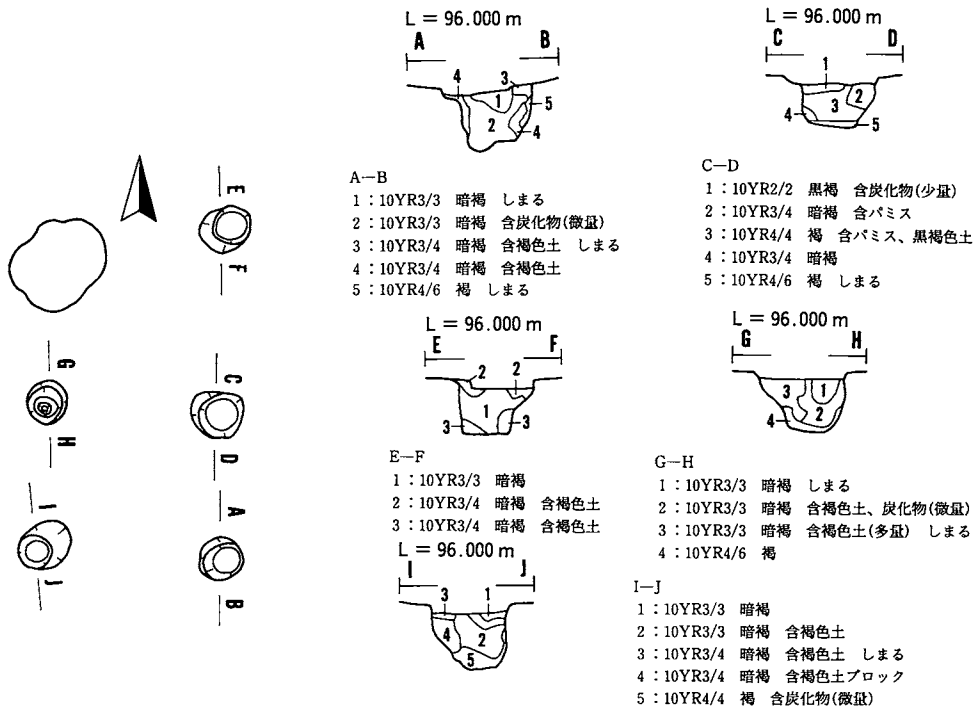
〈柱穴の掘り方〉平面形は円形で、規模は直径64cm前後、深さ48cm~33cmである。埋土は概ね暗褐色土を主体とするが、柱痕跡が明らかなものはない。また、版築状を呈するものもない。

遺物 (第112図、写真図版79)

柱穴埋土から出土している。土器、陶器で構成される。

〈土器〉柱穴埋土から土師器坏形土器3点(305~307)が出土している。いずれも無調整である。305、306は口縁部破片で口唇がやや外反する。306は底径、口径に比べ器高が小さく皿状を呈する。307は底部破片で底面がやや高台状に糸切りされている。

〈陶器〉灰釉陶器の破片1点(308)が出土している。猿投窯(鳴海)産で10世紀半ばのものである。釉薬を刷毛塗りしている。



第43図 2号掘立柱建物跡

3号、4号掘立柱建物跡

遺構（第44、45、46図、写真図版34、35、36）

〈位置と残存状況〉上位面の中央部に位置し、9号掘立柱建物跡の東2mにある。5号掘立柱建物跡、6号掘立柱建物跡と重複する。

〈形状と規模〉掘り方は10ヶ所検出され、規模は桁行6.82m(3間)×梁行4.94m(2間)である。棟方向はE-2°-Sの東西棟である。南側を除く3方向に溝あるいは土坑を伴う。溝、土坑を含めた規模は南北6.7m、東西11.5mである。

〈柱穴の掘り方〉掘り方は方形で、規模は111cm×103cm前後、深さ89cm～65cmである。埋土は暗褐色土を主体とし、版築状の堆積状況を示す。また、桁行南側の柱穴掘り方北壁に、一辺45cm～40cmの方形と推定される掘り方が残る。大きな掘り方が小さな掘り方を削削していることから、新旧二時期の掘立柱建物跡の存在が推測される。新しい掘立柱建物跡を3号掘立柱建物跡、古い掘立柱建物跡を4号掘立柱建物跡とする。3号掘立柱建物跡は4号掘立柱建物跡を立て替えたものと推定される。

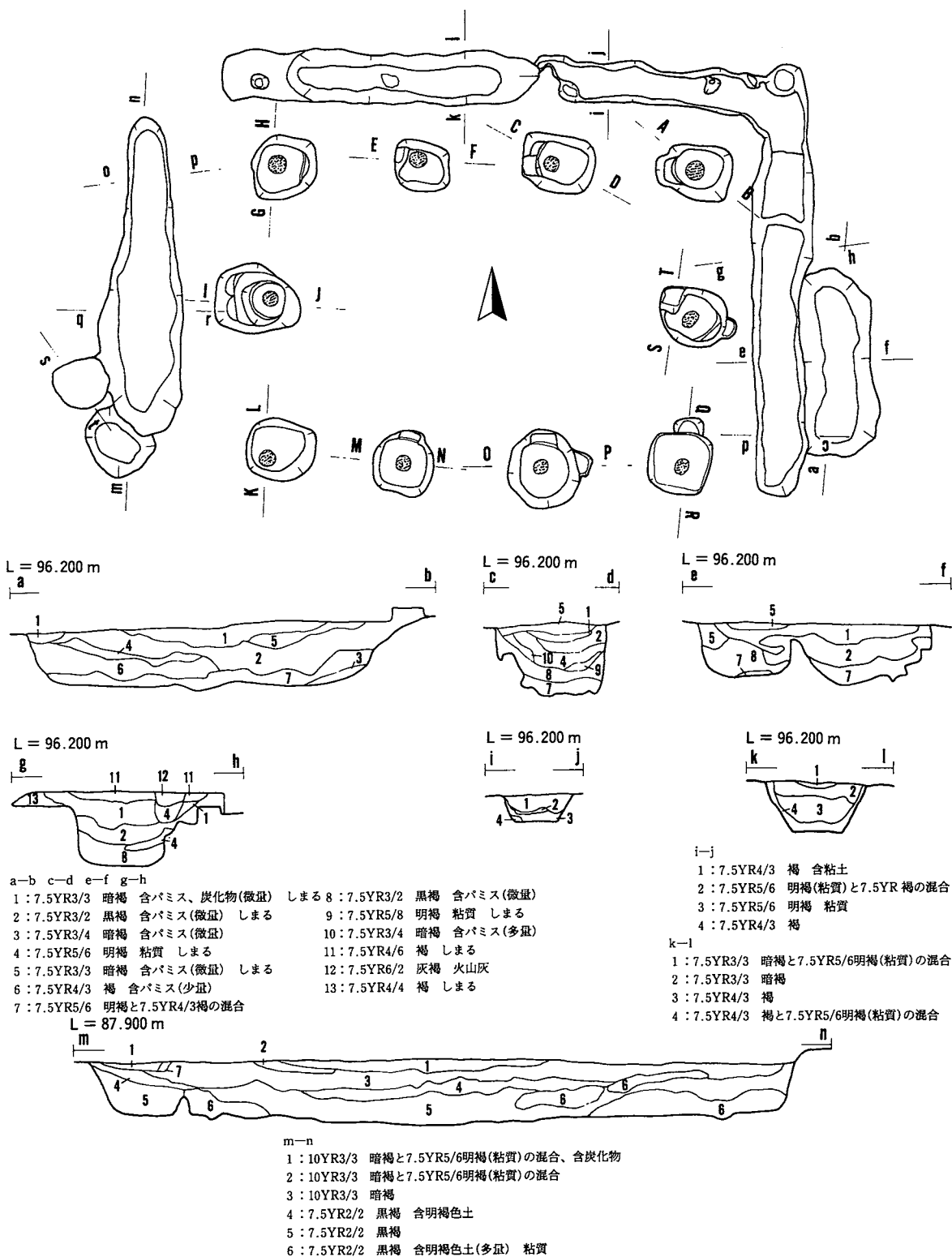
〈柱痕跡〉3号掘立柱建物跡はすべての掘り方に径30cm程度の円形の柱痕跡が認められる。ほとんどの柱痕跡は掘り方の底面まで達しており、底面に達している柱痕跡は底面を白色粘土化している。3号掘立柱建物跡の柱痕跡の埋土は暗褐色主体である。4号掘立柱建物跡の柱痕跡と思われるものは検出できなかった。

〈周溝〉周溝1は3号、4号掘立柱建物跡の梁行東側から桁行北端を包む矩形の溝状を呈し、幅1.0m～0.7m、長さ10.6m、深さ50cmである。埋土は暗褐色土を主体とし、最上位には火山灰がブロック状に堆積する部分もみられる。周溝2は幅0.7m、長さ4.9m、深さ30cmの溝状を呈し、埋土は暗褐色土を主体とする。周溝3は幅1.4m～0.6m、長さ4.9m、深さ45cmの南側が膨れる溝状を呈する。埋土は暗褐色土を主体とする。それぞれの周溝と3号、4号掘立柱建物跡の柱穴の掘り方との間の距離は0.9m～0.4mで、周溝1、周溝3の軸方向と3号、4号掘立柱建物跡の梁行方向、周溝2の軸方向と3号、4号掘立柱建物跡の桁行方向がほぼ一致することから、周溝1、周溝2、周溝3は3号、4号掘立柱建物跡に伴う一連の周溝と推測される。

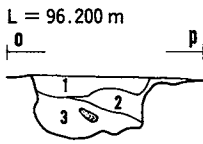
〈土坑〉周溝1に隣接する。平面形は長軸2.9m、短軸1.0mの隅丸長方形で、深さは42cm、断面形は皿形である。埋土は3層に細分される。周溝と同様に、3号掘立柱建物跡の梁行方向と長軸方向がほぼ一致することから、3号、4号掘立柱建物跡に伴うものとした。

遺物（第112、113図、写真図版79）

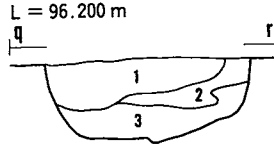
柱穴埋土、周溝埋土から出土しているが、ほとんどが柱穴埋土からの出土で、周溝からの出土は1点である。土器、鉄製品で構成される。



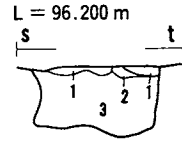
第 44 図 3・4号堀立柱建物跡(1)



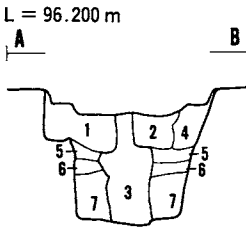
- o-p
 1 : 10YR3/3 暗褐 しまる
 2 : 7.5YR3/3 黒褐 含明褐色土
 3 : 7.5YR3/2 黒褐 含明褐色土



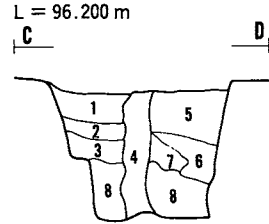
- q-r
 1 : 10YR3/3 暗褐 含バミス、炭化物(微量) しまる
 2 : 7.5YR2/3 黒褐 含暗褐色土ブロック
 3 : 7.5YR2/2 黒褐 含明褐色土ブロック



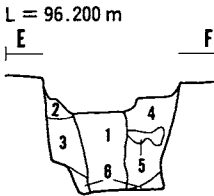
- s-t
 1 : 7.5YR2/2 黒褐
 2 : 7.5YR3/4 暗褐 含炭化物(微量)
 3 : 7.5YR2/3 極暗褐



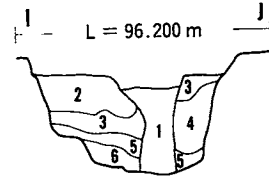
- A-B
 1 : 10YR3/4 暗褐 ややしまる
 2 : 10YR3/4 暗褐 しまる
 3 : 10YR3/4 暗褐
 4 : 10YR2/3 黒褐 含明褐色土ブロック(少量)
 5 : 7.5YR5/6 明褐 汚れた火山灰
 6 : 10YR3/4 暗褐 含浮石
 7 : 7.5YR5/4 褐 含浮石



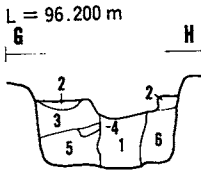
- C-D
 1 : 10YR3/4 暗褐 含浮石(少量)
 2 : 10YR3/4 暗褐 含浮石(微量)
 3 : 7.5YR5/4 褐 汚れた火山灰
 4 : 10YR3/4 暗褐 含バミス
 5 : 7.5YR5/6 明褐 含黒褐色土(多量) しまる
 6 : 7.5YR5/6 明褐 含浮石(微量) しまる
 7 : 10YR3/3 暗褐 含明褐色土(少量) しまる
 8 : 7.5YR5/6 明褐 汚れた火山灰 含浮石(微量)



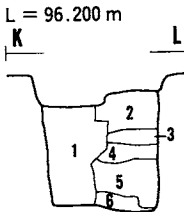
- E-F
 1 : 10YR3/4 暗褐 含明褐色土ブロック
 2 : 10YR3/4 暗褐
 3 : 7.5YR5/6 明褐 しまる
 4 : 7.5YR5/6 明褐 含浮石(微量)
 5 : 10YR3/5 暗褐 含浮石、明褐色土ブロック
 6 : 10YR2/3 黒褐 含明褐色土ブロック(多量)



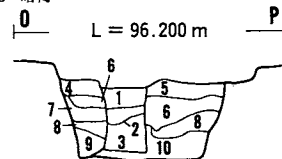
- I-J
 1 : 10YR3/4 暗褐
 2 : 10YR5/4 におい黄褐 含明褐色土ブロック、暗褐色土ブロック しまる
 3 : 10YR3/3 暗褐 含明褐色土ブロック、暗褐色土ブロック しまる
 4 : 10YR3/3 黒褐 含明褐色土ブロック
 5 : 7.5YR5/6 明褐 汚れた火山灰
 6 : 10YR3/3 暗褐



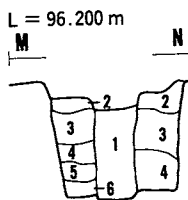
- G-H
 1 : 10YR3/4 暗褐 含褐色土ブロック
 2 : 10YR3/3 暗褐 しまる
 3 : 7.5YR5/6 明褐 含浮石(微量) しまる
 4 : 10YR3/4 暗褐
 5 : 7.5YR5/6 明褐 汚れた火山灰 しまる
 6 : 10YR5/4 におい黄褐



- K-L
 1 : 10YR3/4 暗褐 ややしまる
 2 : 7.5YR4/5 褐
 3 : 10YR3/3 暗褐 含明褐色土ブロック
 4 : 10YR2/3 黒褐
 5 : 10YR3/3 暗褐 含明褐色土ブロック
 6 : 7.5YR5/6 明褐 汚れた火山灰

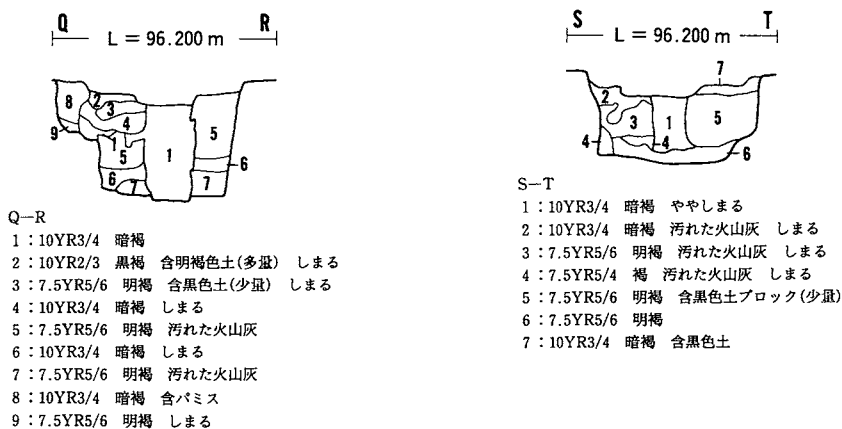


- O-P
 1 : 10YR3/4 暗褐 しまる
 2 : 10YR2/3 黒褐
 3 : 10YR3/4 暗褐
 4 : 7.5YR5/4 明褐 汚れた火山灰 含黒色土 しまる
 5 : 10YR3/4 暗褐 含明褐色土(少量)
 6 : 7.5YR5/6 明褐 と7.5YR3/4暗褐の混合
 7 : 10YR2/3 黒褐 含明褐色土(少量) しまる
 8 : 7.5YR5/6 明褐 汚れた火山灰
 9 : 10YR5/6 明褐
 10 : 7.5YR5/6 明褐



- M-N
 1 : 10YR3/4 暗褐
 2 : 7.5YR5/6 明褐 汚れた火山灰 含浮石(微量) しまる
 3 : 10YR3/3 暗褐 含黒色土 浮石(微量) しまる
 4 : 7.5YR5/6 明褐 含黒色土(少量) 汚れた火山灰 しまる
 5 : 10YR4/6 褐 含暗褐色土(少量) 汚れた火山灰 しまる
 6 : 7.5YR5/6 明褐 汚れた火山灰

第 45 図 3・4号堀立柱建物跡(2)



第46図 3・4号堀立柱建物跡(3)

〈土器〉土師器坏形土器(309~315)、須恵器坏形土器(316)、土師器高台付き坏形土器(317)、須恵器壺形土器(318、319)の出土である。309~313は内面ミガキのち黒色処理をほどこしている。314、314は無調整である。313は周溝埋土からの、317は柱穴埋土上部からの出土で、2号窯跡で焼成されたものであろう。319は本遺跡出土の同器種と比較して小型である。

5号掘立柱建物跡

遺構(第47図、写真図版37)

〈位置と残存状況〉上面面の中央部に位置し、9号掘立柱建物跡の東12mにある。3号、4号掘立柱建物跡の東端で、6号掘立柱建物跡の北端でこれらと重複する。

〈形状と規模〉掘り方は9ヶ所検出され、規模は桁行3.8m(2間)×梁行2.2m(2間)の南北棟(N-6°-E)と推測される。桁行方向の柱穴間距離は2.1m~1.3m、梁行方向の柱穴間距離は1.4m~1.0mである。

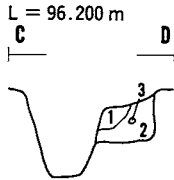
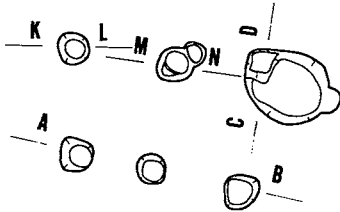
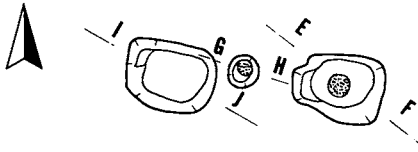
〈柱穴の掘り方〉平面形は円形で、規模は直径48cm前後、深さは57cm~27cmである。埋土は概ね暗褐色土を主体とするが、3号掘立柱建物跡の柱穴掘り方と重複するものは削剝を受けている。柱痕跡の輪郭は明確でないが、平面形は円形と思われる。

遺物(第113図、写真図版79)

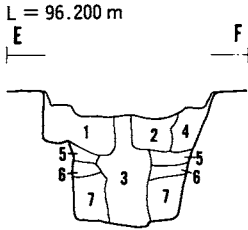
柱穴埋土からの出土である。土器、鉄製品で構成される。

〈土器〉高台付き坏形土器2点の出土である。320は底部破片、321は口縁部破片である。どちらも内面ミガキのち黒色処理をほどこしている。

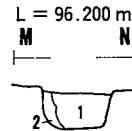
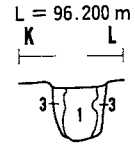
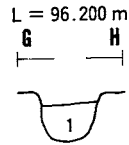
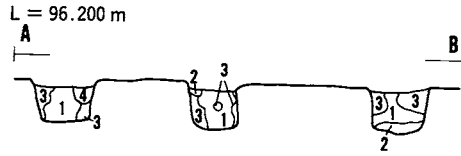
〈鉄製品〉322は釘である。323は鏃であるが、半分欠損している。



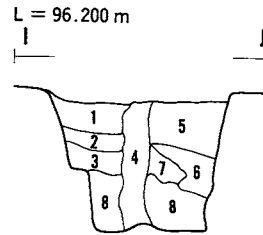
- C-D
- 1 : 10YR3/4 暗褐
 - 2 : 10YR4/6 褐 しまる
 - 3 : 10YR7/1 灰白 火山灰



- E-F
- 1 : 10YR3/4 暗褐 ややしまる
 - 2 : 10YR3/4 暗褐 しまる
 - 3 : 10YR3/4 暗褐
 - 4 : 10YR2/3 黒褐 含明褐色土ブロック(少量)
 - 5 : 7.5YR5/6 明褐 汚れた火山灰
 - 6 : 10YR3/4 暗褐 含浮石
 - 7 : 7.5YR5/4 褐 含浮石



- A-B G-H K-L M-N
- 1 : 7.5YR3/4 暗褐 含パミス(多量) 炭化物(微量)
 - 2 : 7.5YR5/6 明褐 含褐色土(少量) しまる
 - 3 : 7.5YR3/3 暗褐と7.5YR5/6明褐の混合
 - 4 : 7.5YR3/4 暗褐 含明褐色土(少量) しまる



- I-J
- 1 : 10YR3/4 暗褐 含浮石(少量)
 - 2 : 10YR3/4 暗褐 含浮石(微量)
 - 3 : 7.5YR5/4 褐 汚れた火山灰
 - 4 : 10YR3/4 暗褐 含パミス
 - 5 : 7.5YR5/6 明褐 含黒褐色土(多量) しまる
 - 6 : 7.5YR5/6 明褐 含浮石(微量) しまる
 - 7 : 10YR3/3 暗褐 含明褐色土(少量) しまる
 - 8 : 7.5YR5/6 明褐 汚れた火山灰 含浮石(微量)

第 47 図 5号堀立柱建物跡

6号掘立柱建物跡

遺構 (第48図、写真図版37)

〈位置と残存状況〉上位面の中央部に位置し、9号掘立柱建物跡の東11mにある。3号、4号掘立柱建物跡の東端で、5号掘立柱建物跡の南端でこれらと重複する。

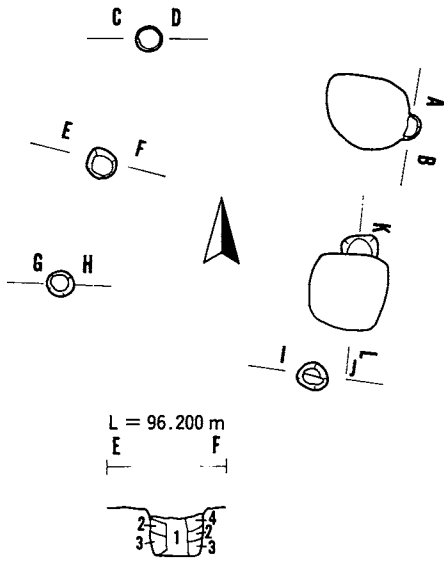
〈形状と規模〉掘り方は6ヶ所検出された。桁行3.6m(2間)×梁行3.5m(1間)の南北棟(N-19°-E)である。桁行方向の柱穴間距離は1.7m~1.6mである。

〈柱穴の掘り方〉平面形は円形で、規模は直径40cm前後、深さは52cm~33cmである。埋土は暗褐色土を主体とするが、3号掘立柱建物跡の柱穴掘り方と重複するものは削剝を受けている。

〈柱痕跡〉掘り方の埋土上部は攪乱をうけており、断面に明確な柱痕跡をもつものは少ないが、掘り方底面に径22mの円形状に柱痕跡が認められる。

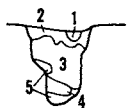
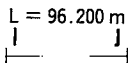
遺物

本遺構に伴う遺物は出土していない。



E-F

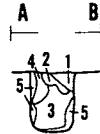
- 1 : 7.5YR3/4 暗褐 含バミス(少量) 炭化物(微量)
- 2 : 7.5YR5/6 明褐 含褐色土(少量) しまる
- 3 : 7.5YR3/3 暗褐と7.5YR5/6明褐の混合
- 4 : 7.5YR3/2 黒褐 含バミス(少量)



I-J

- 1 : 10YR3/3 暗褐 しまる
- 2 : 7.5YR5/6 明褐 しまる 含暗褐色土
- 3 : 10YR3/4 暗褐 含バミス
- 4 : 10YR3/4 暗褐 含明褐色土(少量)
- 5 : 7.5YR5/6 明褐

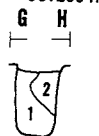
L = 96.200 m



A-B

- 1 : 10YR3/4 暗褐
- 2 : 7.5YR5/6 明褐
- 3 : 10YR4/4 褐
- 4 : 10YR3/3 暗褐
- 5 : 7.5YR5/6 明褐 しまる

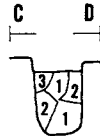
L = 96.200 m



G-H

- 1 : 10YR3/4 暗褐 含明褐色土(少量)
- 2 : 7.5YR5/6 明褐 含バミス(少量)

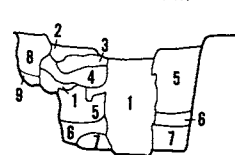
L = 96.200 m



C-D

- 1 : 10YR3/4 暗褐
- 2 : 10YR3/4 暗褐 含明褐色土(少量)
- 3 : 7.5YR5/6 明褐

L = 96.200 m



K-L

- 1 : 10YR3/4 暗褐
- 2 : 10YR2/3 黒褐 含明褐色土(多量) しまる
- 3 : 7.5YR5/6 明褐 含黒色土(少量) しまる
- 4 : 10YR3/4 暗褐 しまる
- 5 : 7.5YR5/6 明褐 汚れた火山灰
- 6 : 10YR3/4 暗褐 しまる
- 7 : 7.5YR5/6 明褐 汚れた火山灰
- 8 : 10YR3/4 暗褐 含バミス
- 9 : 7.5YR5/6 明褐 しまる

第48図 6号掘立柱建物跡

7号掘立柱建物跡

遺構（第 49、50 図、写真図版 38、39、40）

〈位置と残存状況〉上位面の中央部に位置し、3号、4号掘立柱建物跡の西7.5mにある。9号掘立柱建物跡の南半と北半で、10号、11号掘立柱建物跡の北半と南半で、12号掘立柱建物跡の西半と東半で重複する。9号掘立柱建物跡、11号掘立柱建物跡とは柱穴掘り方も重複し、両者の柱穴掘り方が、本遺構の柱穴掘り方を掘り込んでいることから、両者よりも古いと推定される。

〈形状と規模〉掘り方は10ヶ所検出され、桁行7.10m（3間）×梁行5.26m（2間）の東西棟（E-5°-S）である。柱穴間距離は桁行方向、梁行方向とも1.8～1.6mである。南側を除く3方向に溝および土坑を伴う。溝、土坑を含めた規模は南北8.9m、東西13.0mである。

〈柱穴の掘り方〉平面形は隅丸方形で、規模は94cm×83cm前後、深さは80cm～60cmである。埋土は、北側と中央の列が9号掘立柱建物跡と、南側の一列が11号掘立柱建物跡と重複し、削剝されているため不明であるが、底面に柱痕跡が残る。柱痕跡は直径26cm前後の円形を呈する。

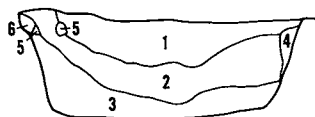
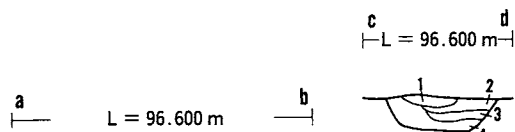
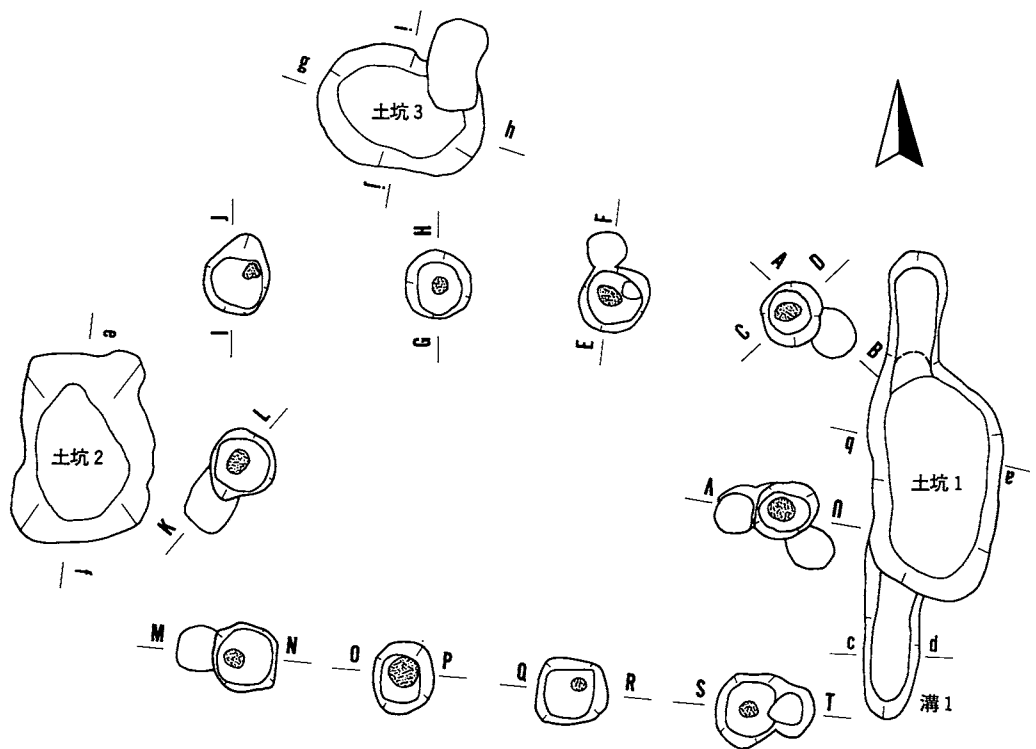
〈溝〉東側の梁行方向と平行する幅0.8m、長さ6.1m、深さ47cmで、土坑1と重複する。本溝の埋土が土坑1に掘り込まれていることから、土坑1よりも古いのが、7号掘立柱建物跡の梁行方向と軸線がほぼ一致することから、土坑1と同様、これにともなうものと思われる。

〈土坑〉土坑1は7号掘立柱建物跡の東側に、土坑2は7号掘立柱建物跡の西側に位置する。前者は、平面形3.4m×1.7mの長楕円形、深さ65cmの断面形皿形、後者も2.5m×1.9mの長楕円形、深さ75cmの断面形皿形を呈し、ほぼ規模も相似しているうえ、長軸方向が7号掘立柱建物跡の梁行方向とほぼ一致することから、7号掘立柱建物跡にともなうものとした。土坑3は7号掘立柱建物跡の北側に位置し、7号掘立柱建物跡の桁行北側との距離が土坑1、土坑2とほぼ等しいが、長軸方向は7号掘立柱建物跡の桁行方向とややずれる。

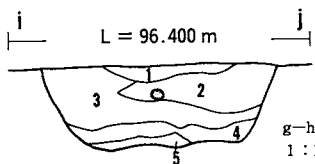
遺物（第113図、写真図版80）

柱穴埋土上位からの出土である。土器で構成される。

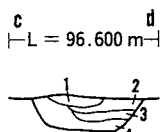
〈土器〉高台付き皿形土器3点（324～326）の出土である。いずれも内外面とも無調整で、皿部の直径が12cm～12.6cm、高さ2.2cm～1.7cmである。台部は高さ0.8cm～0.7cm程度



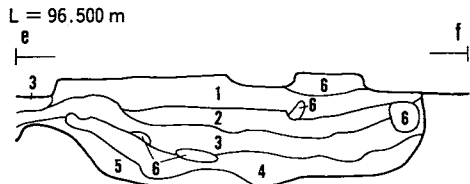
- a-b
- 1 : 7.5YR3/3 暗褐
 - 2 : 7.5YR2/2 黒褐
 - 3 : 7.5YR2/2 黒褐 含明褐色土(多量)
 - 4 : 7.5YR5/6 明褐 粘質
 - 5 : 7.5YR2/1 黒
 - 6 : 7.5YR2/2 黒褐と7.5YR8/1灰褐(火山灰)の混合



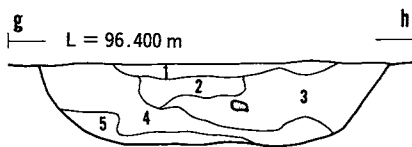
- g-h i-j
- 1 : 10YR3/2 黒褐
 - 2 : 10YR5/6 黄褐 含黒褐色土 粘質 しまる
 - 3 : 10YR2/2 黒褐 しまる
 - 4 : 10YR5/6 黄褐 含黒褐色土(少量) 粘質 しまる
 - 5 : 10YR2/2 黒褐 粘質



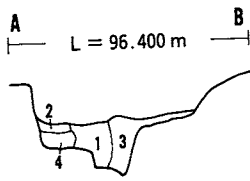
- c-d
- 1 : 7.5YR3/3 暗褐 含褐色土ブロック
 - 2 : 7.5YR3/3 暗褐
 - 3 : 7.5YR5/8 明褐 含暗褐色土ブロック(少量) しまる
 - 4 : 10YR3/4 暗褐 含パミス(多量)



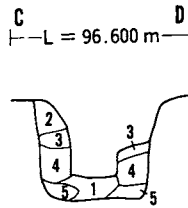
- e-f
- 1 : 7.5YR3/4 褐
 - 2 : 7.5YR3/3 暗褐
 - 3 : 7.5YR2/3 極暗褐 含明褐色土(微量)
 - 4 : 7.5YR2/3 極暗褐と7.5YR5/6明褐(粘質)の混合
 - 5 : 7.5YR2/3 極暗褐 含粘土ブロック
 - 6 : 7.5YR2/3 極暗褐



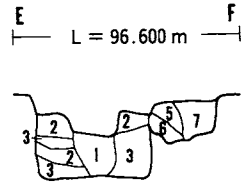
第 49 図 7号掘立柱建物跡(1)



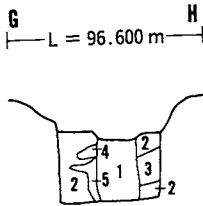
- A-B
 1 : 10YR3/3 暗褐
 2 : 10YR3/3 暗褐 しまる
 3 : 7.5YR5/6 明褐 しまる
 4 : 7.5YR5/6 明褐 含暗褐色土



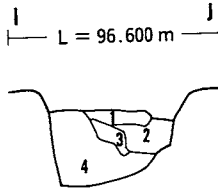
- C-D
 1 : 7.5YR3/2 黒褐
 2 : 7.5YR5/6 明褐 しまる 含黒褐色土(少量)
 3 : 7.5YR5/6 明褐
 4 : 7.5YR3/2 黒褐 含明褐色土(多量)
 5 : 7.5YR3/2 黒褐 しまる



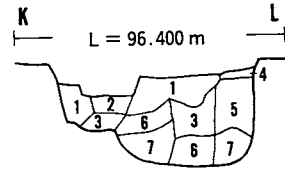
- E-F
 1 : 7.5YR3/3 暗褐
 2 : 7.5YR5/6 明褐 含黒褐色土
 3 : 10YR4/3 におい黄褐 含黒褐色土ブロック
 4 : 10YR4/2 灰黄褐
 5 : 木根による攪乱
 6 : 7.5YR5/6 明黄褐



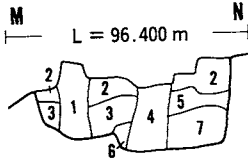
- G-H
 1 : 7.5YR3/3 暗褐
 2 : 7.5YR5/6 明褐 含黒色土(少量) しまる
 3 : 7.5YR4/6 褐 含明褐色土ブロック、黒褐色土ブロック
 4 : 7.5YR3/4 暗褐
 5 : 7.5YR3/3 暗褐 ややしまる



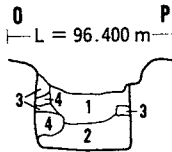
- I-J
 1 : 7.5YR4/4 褐 含粘土ブロック、焼土粒(微量)
 2 : 10YR3/4 暗褐
 3 : 10YR3/3 暗褐 含粘土
 4 : 10YR3/2 黒褐 含明褐色土ブロック



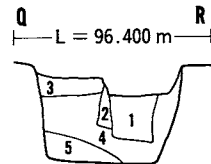
- K-L
 1 : 7.5YR3/4 褐と7.5YR5/6明褐(粘質)の混合
 2 : 7.5YR3/2 黒褐
 3 : 7.5YR3/2 黒褐と7.5YR5/6明褐の混合
 4 : 7.5YR6/8 橙 粘質
 5 : 7.5YR2/2 黒褐 含明褐色土(少量) しまる
 6 : 7.5YR3/4 褐
 7 : 7.5YR5/6 明褐 粘質



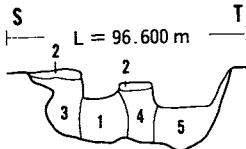
- M-N
 1 : 10YR3/3 暗褐 含炭化物、焼土ブロック(少量)
 2 : 7.5YR4/4 褐 粘質 しまる
 3 : 10YR3/2 黒褐 含明褐色土 粘質 しまる
 4 : 10YR3/3 暗褐 含焼土ブロック(少量)
 5 : 7.5YR2/2 黒褐 含明褐色土ブロック 粘質 しまる
 6 : 10YR4/3 におい黄褐
 7 : 7.5YR5/6 明褐 しまる



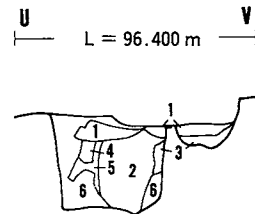
- O-P
 1 : 7.5YR4/3 褐
 2 : 10YR3/4 暗褐 含明褐色土ブロック しまる
 3 : 7.5YR5/6 明褐
 4 : 7.5YR4/3 褐
 5 : 7.5YR5/6 明褐 ややしまる



- Q-R
 1 : 10YR3/3 暗褐 含炭化物(少量)
 2 : 10YR4/3 褐 含褐色土ブロック
 3 : 10YR4/4 褐 粘質 しまる
 4 : 10YR3/2 黒褐 含黒色土ブロック 粘質 しまる
 5 : 7.5YR5/6 明褐 含浮石(微量)



- S-T
 1 : 10YR3/3 暗褐 含炭化物(少量)
 2 : 10YR5/6 黄褐 粘質 しまる
 3 : 10YR4/4 褐 含暗褐色土ブロック(大) ややしまる
 4 : 10YR4/4 褐 含暗褐色土ブロック(小)
 5 : 7.5YR4/6 褐 含炭化物(少量)



- U-V
 1 : 7.5YR4/4 褐
 2 : 10YR3/3 暗褐 含褐色土ブロック
 3 : 10YR3/2 黒褐
 4 : 7.5YR5/6 明褐 粘質 含黒褐色土ブロック
 5 : 10YR3/2 黒褐 含褐色土ブロック
 6 : 7.5YR5/6 明褐 粘質 しまる

第 50 図 7号堀立柱建物跡(2)

で、べた高台であり、2号窯跡から出土している高台付き皿形土器とは器形がことなっている。

8号掘立柱建物跡

遺構（第51図、写真図版38、40、41）

〈位置と残存状況〉上位面の中央部に位置し、3号、4号掘立柱建物跡の西11m、7号掘立柱建物跡の南2.4mにあり、南西端は遺構外に続く。10号、11号掘立柱建物跡の南半と北半で重複し、柱穴掘り方の一部もこれらの柱穴掘り方と重複する。両者の柱穴掘り方が、本遺構の柱穴掘り方を掘り込んでいることから、両者よりも古いと思われる。土坑、溝は伴わない。

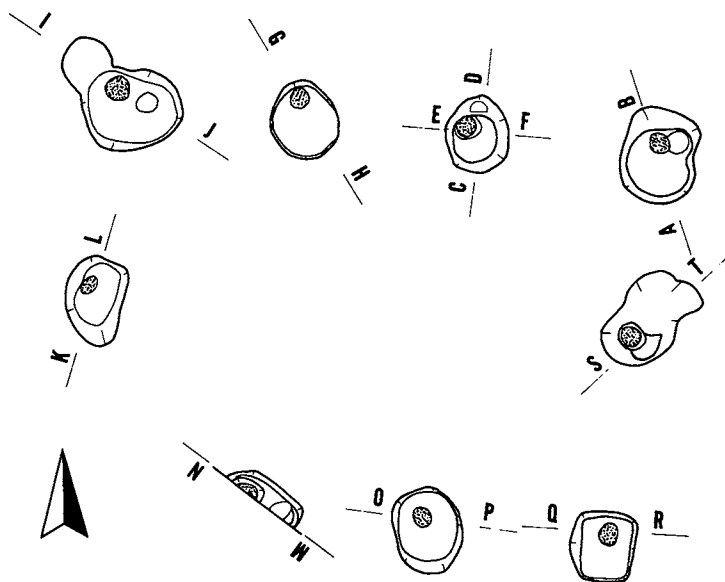
〈形状と規模〉桁行7.27m（3間）×梁行5.27m（2間）の東西棟（E-6°-S）である。桁行方向の柱穴間距離は1.9m～1.7m、梁行方向の柱穴間距離は1.8m～1.7mである。

〈柱穴の掘り方〉平面形は方形で、規模は95cm×92cm前後、深さは86cm～53cmである。埋土は10号、11号掘立柱建物跡の柱穴掘り方と重複し、削剝されているものについては埋土の堆積状況は不明であるが、直径約25cm程度の円形の柱痕跡が残る。その他の重複のないものは、埋土は黒褐色土を主体とし、柱痕跡は直径25cmの円形を呈する。

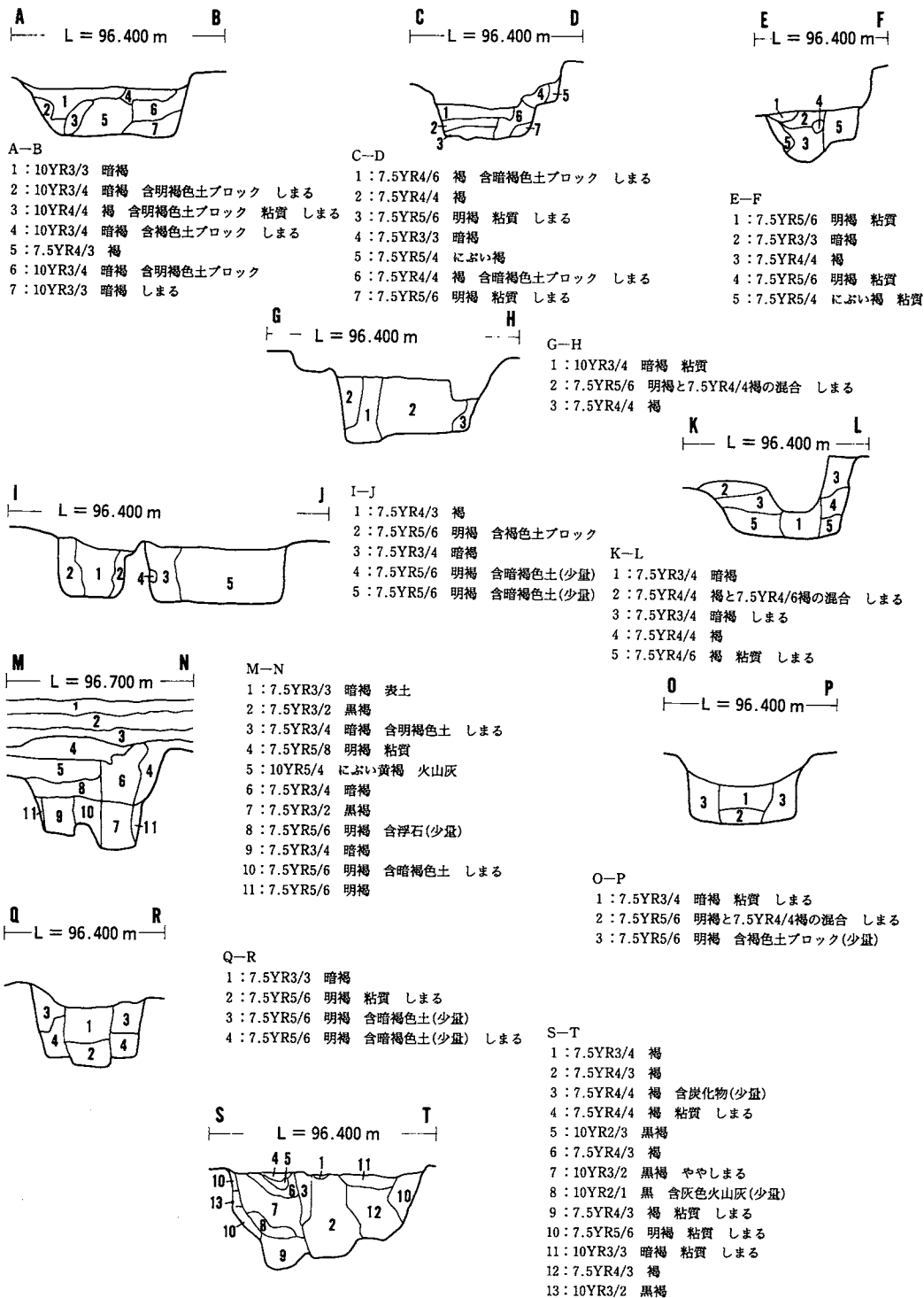
〈柱痕跡〉掘り方底面に径25cm前後の柱痕跡が認められる。

遺物

本遺構に伴う遺物は出土していない。



第51図 8号掘立柱建物跡(1)



第 52 図 8号堀立柱建物跡(2)

9号掘立柱建物跡

遺構（第53～55図、写真図版38、41、42）

〈位置と残存状況〉上位面の中央部に位置し、3号、4号掘立柱建物跡の西8mにある。7号掘立柱建物跡の北半と南半で、12号掘立柱建物跡の西半と東半で重複する。本遺構の柱穴掘り方が7号掘立柱建物跡の柱穴掘り方を掘り込んでいることから、7号掘立柱建物跡よりも新しい。南側を除く3方向に周溝を伴う。周溝は西北端でVIB 21号土坑と重複するが、VIB 21号土坑が周溝を掘り込んでおり、本遺構のほうが古い。周溝を含めた規模は南北10.1m、東西15.2mである。

〈形状と規模〉桁行8.35m（3間）×梁行6.37m（2間）の東西棟（E-6°-S）である。桁行方向の柱穴間距離は2.1m～2.0m、梁行方向の柱穴間距離は2.2m～2.1mである。

〈柱穴の掘り方〉平面形は円形で、規模は直径72cm程度、深さ50cm～26cmである。埋土は黒褐色土を主体とする。

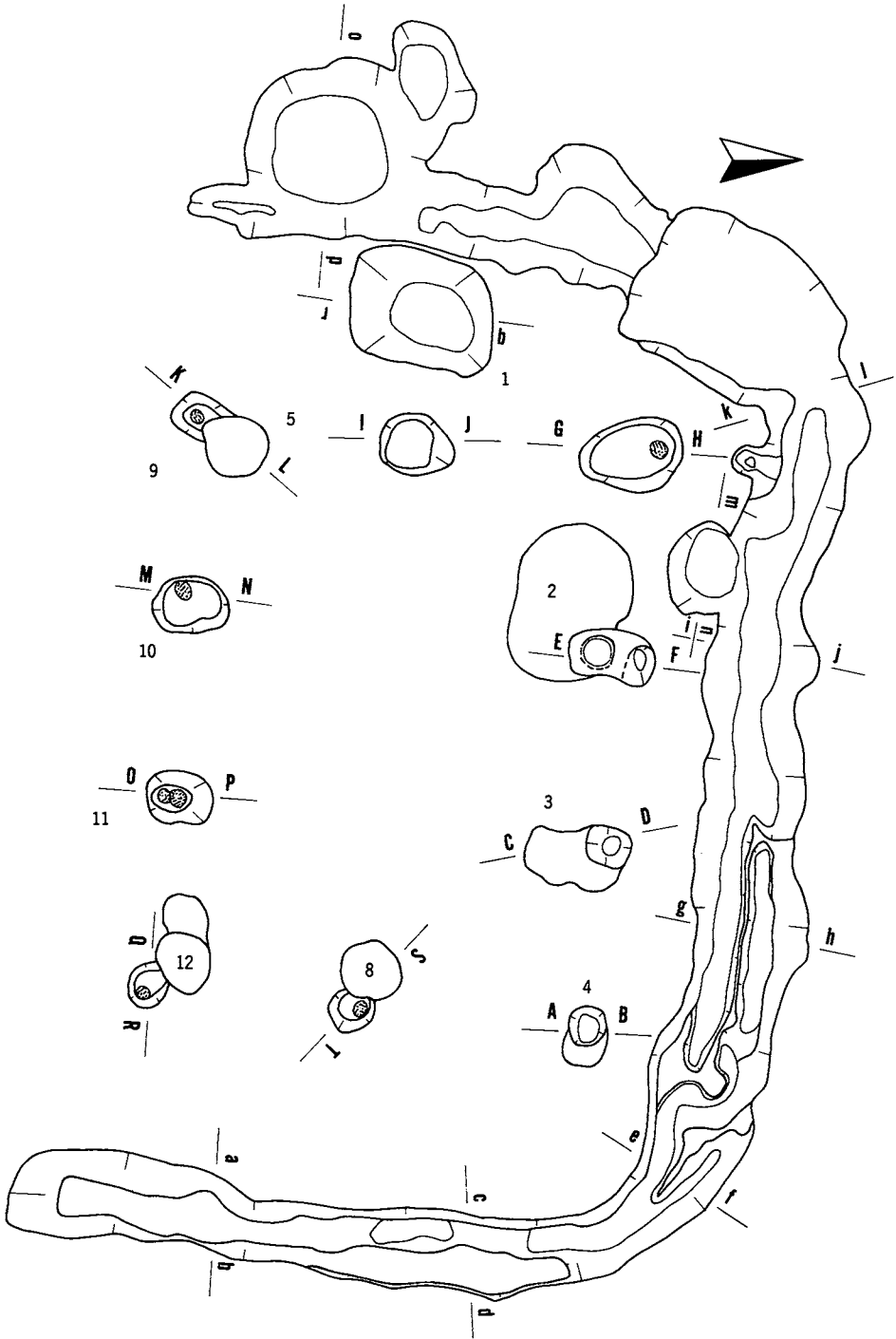
〈柱痕跡〉西側中央の1基を除き、径21cm前後の柱痕跡が認められる。

〈周溝〉南側を除く3方向に掘り込まれている。規模は全長30.2m、幅2.4m～0.9m、深さ60cm～27cmで柱穴掘り方からの距離は東側で2.4m、北側で1.2m、西側で2.6mである。西側においては幅、深さとも大きくなり、土坑状の様相を示す。西北端でVIB 21号土坑と重複するがVIB 21号土坑が本遺構を掘り込んでいることから、本遺構のほうが古い。埋土の堆積状況から2時期にわたって作り替えられたと思われる。東側から北側にかけては上位から中位の層に、土坑状の様相を呈する西側の南端では最下層に灰白色火山灰が堆積する。灰白色火山灰の層厚は10cm程度である。

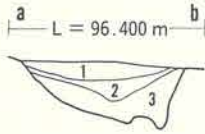
遺物（第114～119図、写真図版80、81）

周溝埋土から多数出土している。土器、土製品で構成される。

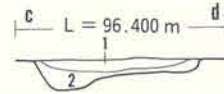
〈土器〉土師器坏形土器（327～391、394）、須恵器坏形土器（392、393）、土師器高台付き坏形土器（395、396、397）、須恵器壺形土器（398、399）、器種不明の須恵器（400、401）の出土である。土師器坏形土器は特に多量に出土している。内面ミガキののち黒色処理をほどこしたものの（327～340）と無調整のもの（341～391、394）がある。341、342、347、348、376、377の6点は墨書をともなうが、348の寿以外は字種不明である。370、385は底面に穿孔されている。孔数は370が5個、385は底部破片であるが2個である。333、343、353は器面に煤あるいはタール状油脂が付着している。395～397は土師器高台付き坏形土器である。いずれも内面ミガキののち黒色処理がほどこされている。397は底面に高台部の剝離痕がみられる。398、399は須恵器壺形土器の底部破片で、胴下半部の調整はヘラケズリである。400、401はともに器種不明の須恵器である。400は同心円状の畝を表面にもち底面も調整されている。VII B 5号住居跡出土



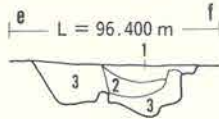
第 53 图 9 号堀立柱建物跡(1)



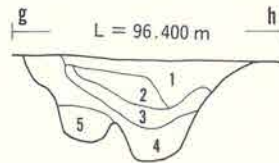
- a-b
 1 : 7.5YR4/3 褐
 2 : 10YR6/3 にぶい黄橙 火山灰
 3 : 7.5YR4/4 褐 含明褐色土(粘質)



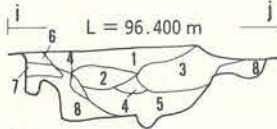
- c-d
 1 : 7.5YR4/3 褐と10YR6/3にぶい黄橙色火山灰の混合
 2 : 7.5YR4/4 褐 含明褐色土(粘質)



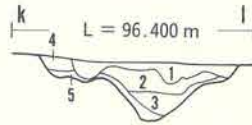
- e-f
 1 : 7.5YR4/3 褐
 2 : 10YR6/3 にぶい黄橙 火山灰
 3 : 7.5YR4/4 褐と7.5YR5/6明褐(粘質)の混合



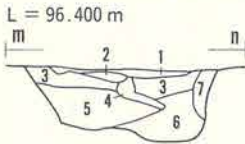
- g-h
 1 : 7.5YR3/3 暗褐
 2 : 7.5YR4/4 褐
 3 : 10YR6/3 にぶい黄橙 火山灰
 4 : 7.5YR4/4 褐 含明褐色土(粘質)
 5 : 7.5YR4/4 褐と7.5YR5/6明褐(粘質)の混合



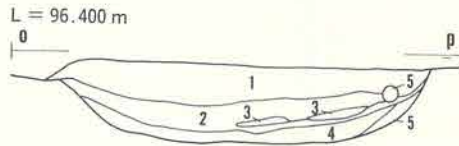
- i-j
 1 : 7.5YR4/4 褐
 2 : 10YR6/3 にぶい黄橙 火山灰
 3 : 7.5YR3/3 暗褐
 4 : 7.5YR3/3 暗褐 含火山灰
 5 : 7.5YR3/3 暗褐 含粘土
 6 : 7.5YR4/4 褐 粘土
 7 : 7.5YR3/3 暗褐 粘質 しまる
 8 : 10YR5/6 黄褐 粘土



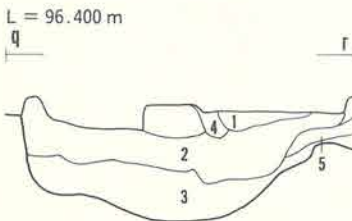
- k-l
 1 : 7.5YR3/3 暗褐
 2 : 7.5YR4/4 褐 含火山灰
 3 : 7.5YR4/4 褐
 4 : 7.5YR3/3 暗褐と7.5YR5/6明褐の混合
 5 : 7.5YR5/6 明褐 粘質



- m-n
 1 : 7.5YR3/3 暗褐
 2 : 7.5YR4/3 褐 粘質
 3 : 10YR3/3 暗褐 含明褐色土(微量)
 4 : 10YR3/3 暗褐
 5 : 10YR3/3 暗褐 含明褐色土(粘質)
 6 : 10YR2/2 黒褐
 7 : 7.5YR5/6 明褐 粘質

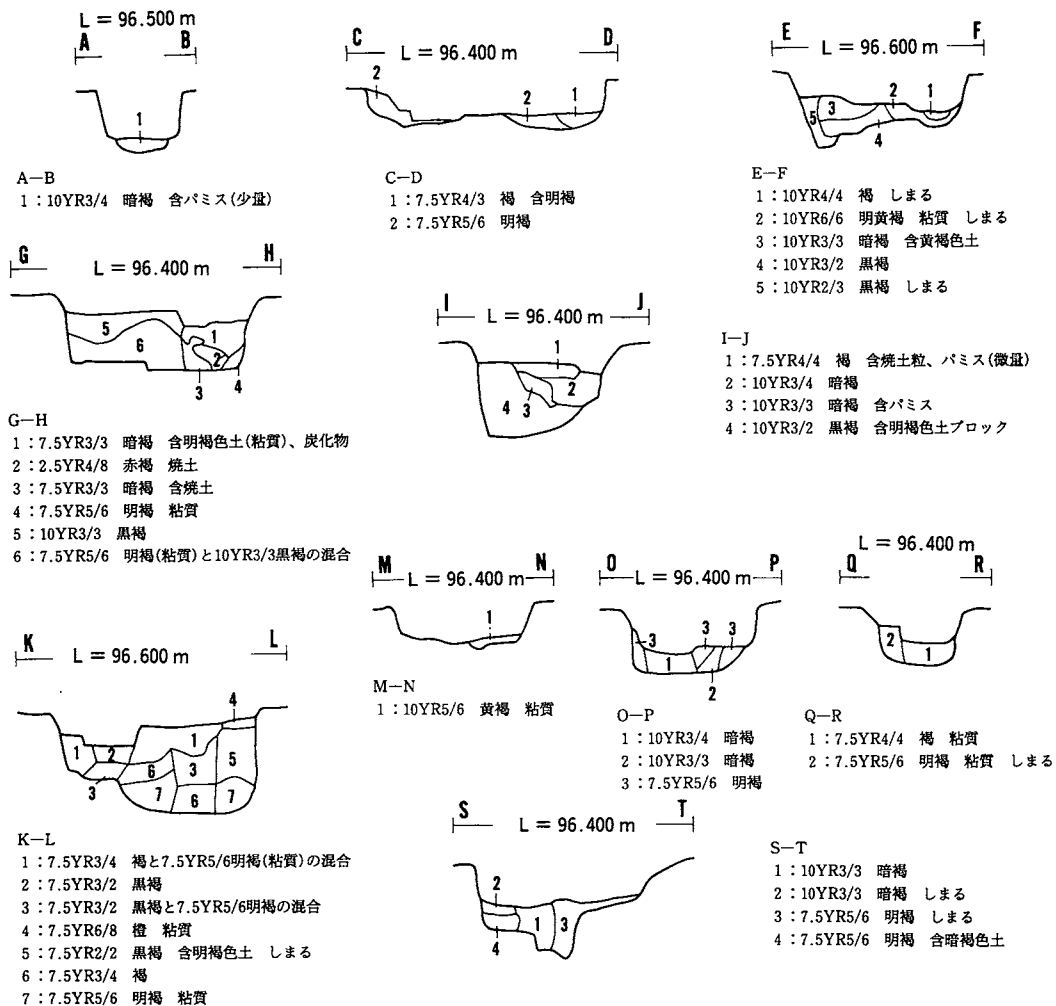


- Q-P
 1 : 7.5YR3/4 暗褐
 2 : 7.5YR4/4 褐 含火山灰(少量)
 3 : 10YR6/3 にぶい黄橙 火山灰 含褐色土(少量)
 4 : 10YR6/3 にぶい黄橙 火山灰
 5 : 7.5YR5/6 明褐 粘質



- q-r
 1 : 7.5YR4/3 褐
 2 : 7.5YR2/3 極暗褐
 3 : 7.5YR2/3 極暗褐 含粘土ブロック
 4 : 7.5YR2/3 極暗褐 木根跡

第 54 図 9号堀立柱建物跡(2)



第 55 図 9号堀立柱建物跡(3)

の280と同じ器種であると思われる。401は全体をヨコナデ調整されており、須恵器甕形土器の口縁様であるが、底面（図化した最下部）は調整されており、器種は不明である。類似の遺物も出土していない。

10号掘立柱建物跡

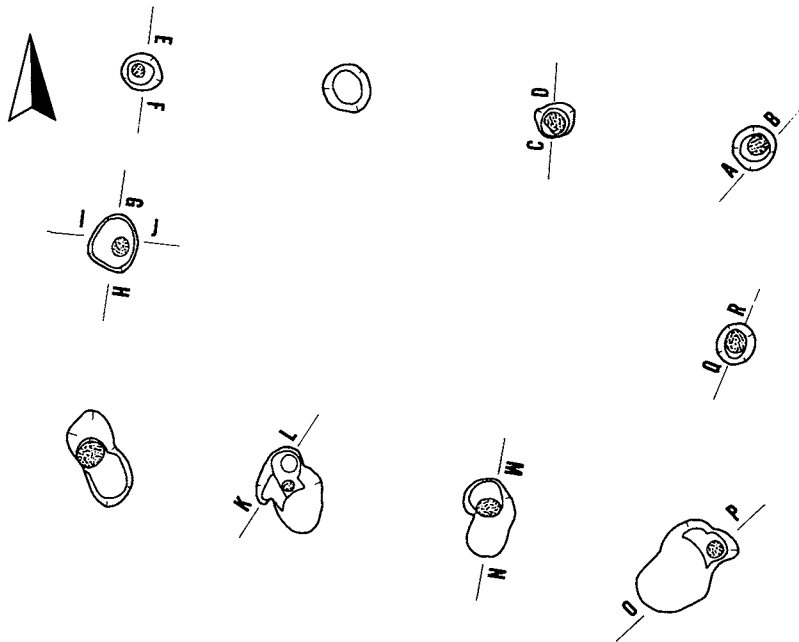
遺構（第56、57図、写真図版38、43）

〈位置と残存状況〉上位面の中央部に位置し、3号、4号掘立柱建物跡の西8.4m、9号掘立柱建物跡の南1.2mにある。7号掘立柱建物跡の南端と北端で、11号掘立柱建物跡の北半と南半で、11号掘立柱建物跡とはほぼ全域が重複する。本遺構の柱穴掘り方が11号掘立柱建物跡の柱穴掘り方を掘り込んでいることから、11号掘立柱建物跡よりも新しい。

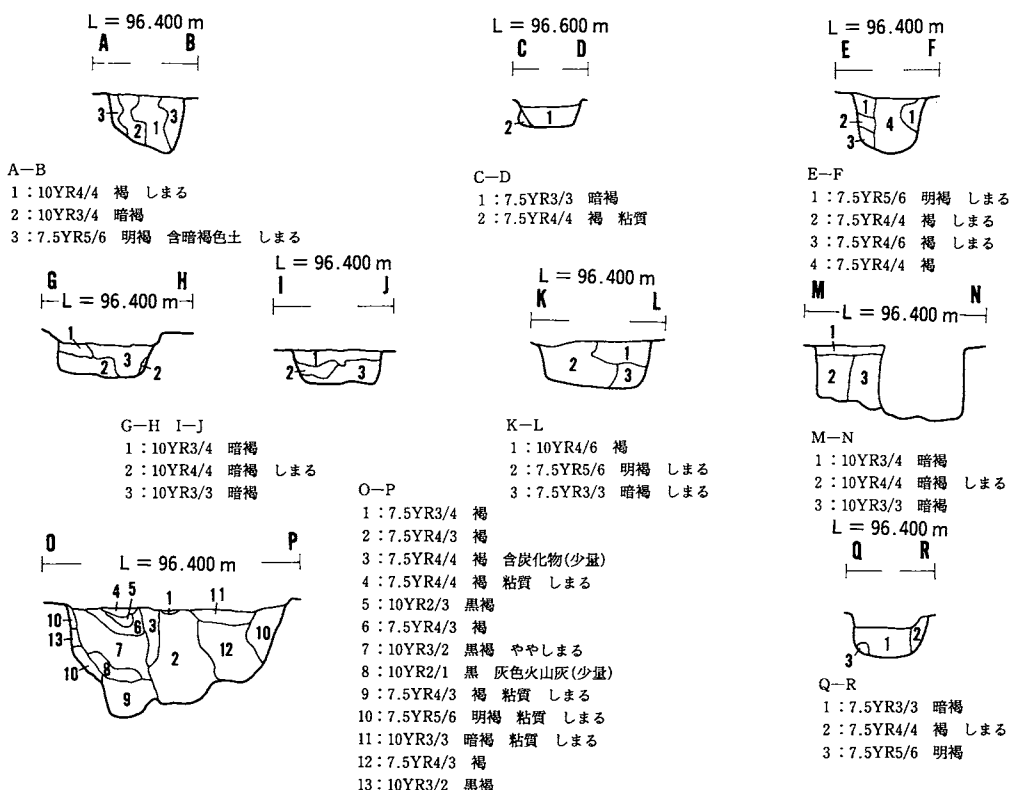
〈形状と規模〉桁行8.35m（3間）×梁行5.18m（2間）の東西棟（E-8°-S）である。桁行方向の柱穴間距離は2.2m~2.0m、梁行方向の柱穴間距離は1.8m~1.7mである。

〈柱穴の掘り方〉平面形は円形で、規模は直径は58cm前後、深さ66cm~23cmである。南側の一列を除いて、他遺構との重複がない。

〈柱痕跡〉平面形は直径21cm前後の円形を呈するが、残存状況は不良である。



第56図 10号掘立柱建物跡(1)



第 57 図 10 号掘立柱建物跡(2)

遺物

本遺構に伴う遺物は出土していない。

11 号掘立柱建物跡

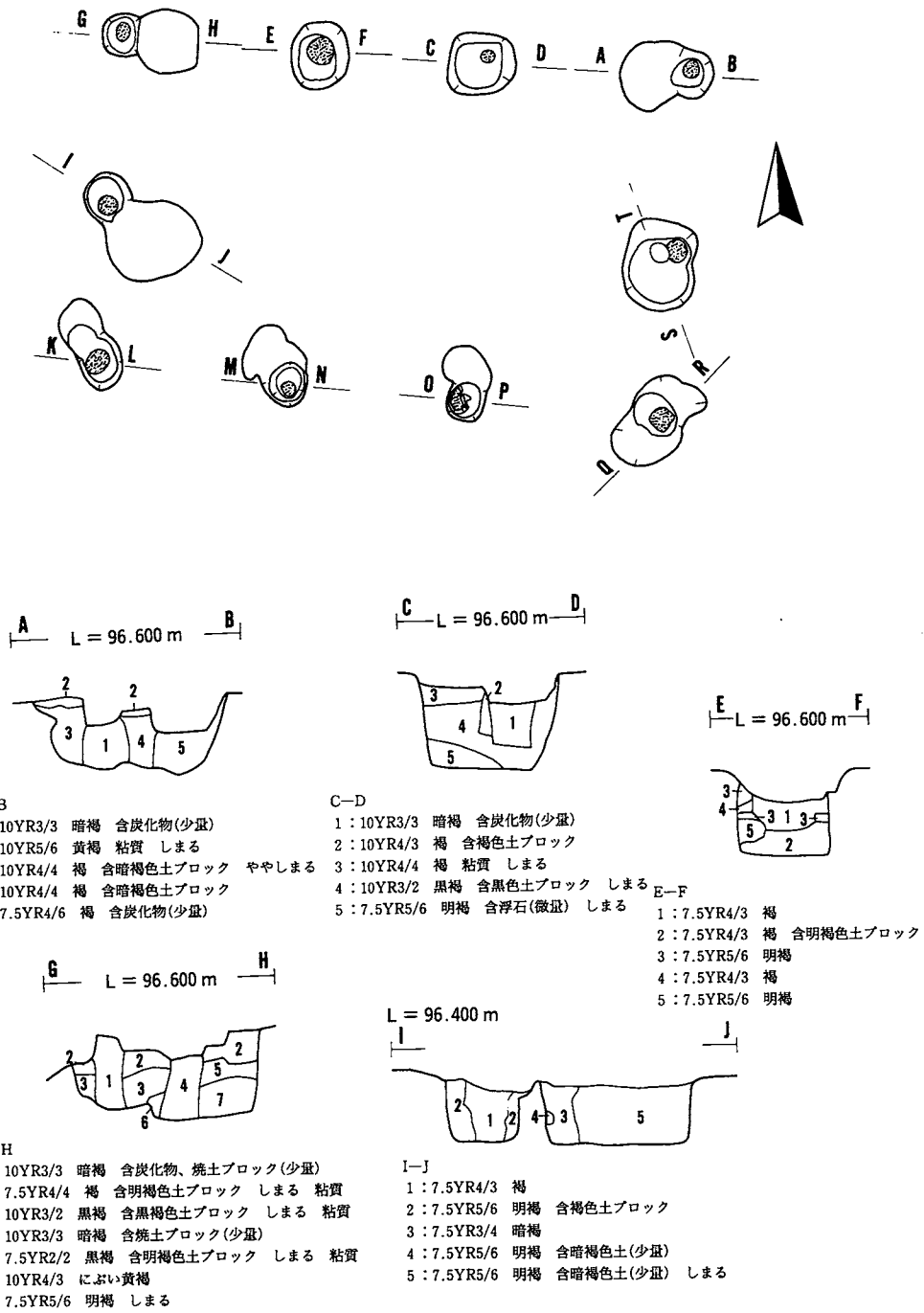
遺構 (第 58、59 図、写真図版 38、43)

〈位置と残存状況〉 上位面の中央部に位置し、3号、4号掘立柱建物跡の西 8 m、9号掘立柱建物跡の南 1.8 m にある。7号掘立柱建物跡の南端と北端で、8号掘立柱建物跡の北半と南半で、10号掘立柱建物跡とはほぼ全域が重複する。本遺構の柱穴掘り方が 10号掘立柱建物跡の柱穴掘り方によって掘り込まれていることから、10号掘立柱建物跡よりも古い。

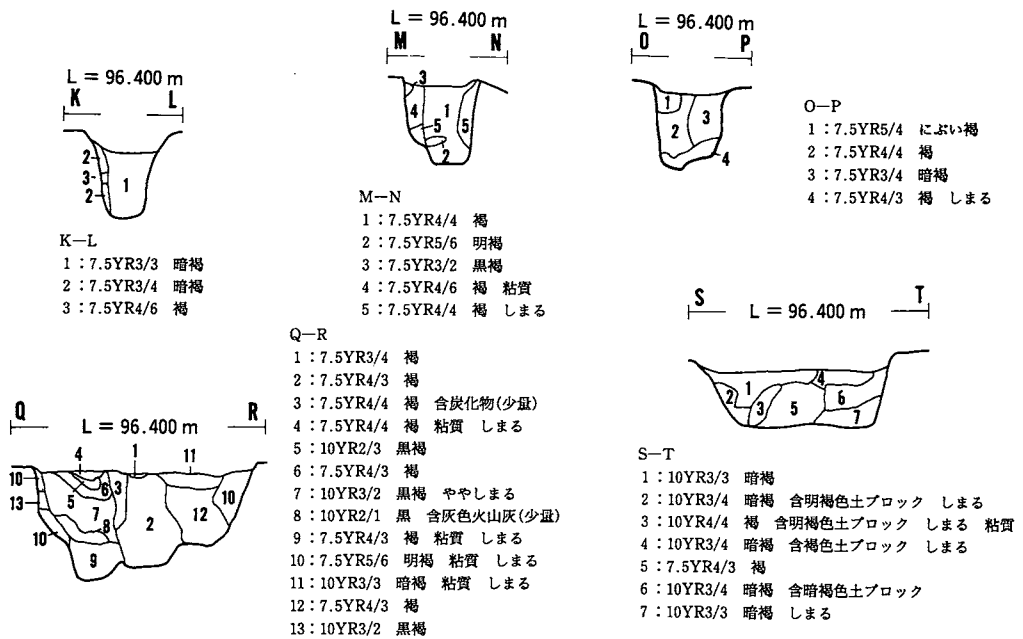
〈形状と規模〉 桁行 7.87 m (3 間) × 梁行 4.70 m (2 間) の東西棟 (E - 8° - S) である。桁行方向の柱穴間距離は 2.0 m ~ 1.9 m、梁行方向の柱穴間距離は 1.6 m ~ 1.5 m である。

〈柱穴の掘り方〉 掘り方は円形で、規模は直径は 65 cm 前後である。

〈柱痕跡〉 深さ 73 cm ~ 47 cm、径 24 cm 前後の柱痕跡が認められる。



第 58 図 11 号堀立柱建物跡(1)



第 59 図 11 号掘立柱建物跡(2)

遺物

本遺構に伴う遺物は出土していない。

12 号掘立柱建物跡

遺構 (第 60 図、写真図版 38、44)

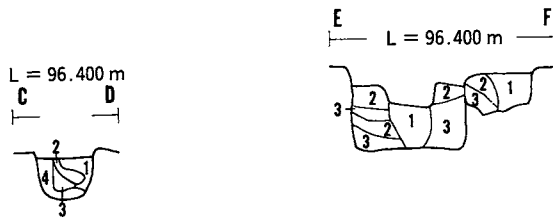
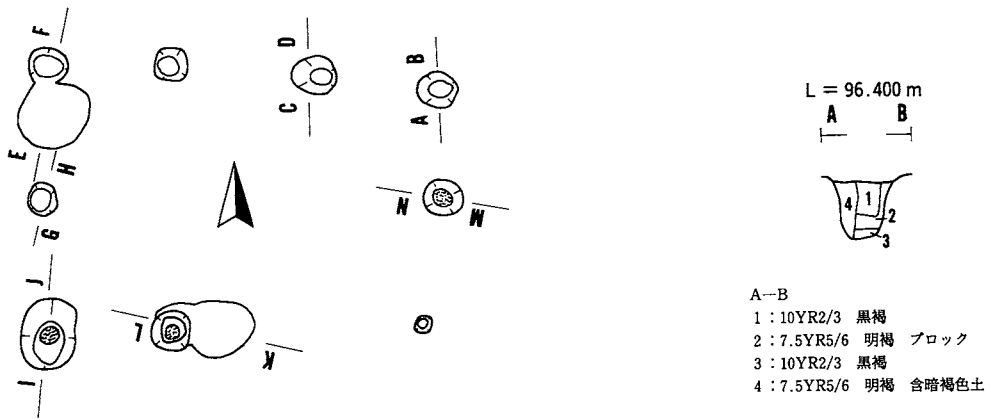
〈位置と残存状況〉 上位面の中央部に位置し、3 号掘立柱建物跡の西 5.4 m にある。7 号掘立柱建物跡、9 号掘立柱建物跡の東端と重複する。

〈形状と規模〉 掘り方は 8 ケ所検出され、規模は桁行 5.05 m (3 間) × 梁行 3.42 m (2 間) の東西棟 (E-3°-S) である。

〈柱穴の掘り方〉 平面形は円形で、規模は直径 49 cm 程度、深さは 46 cm ~ 23 cm である。南側の東寄りの 2 ケ所は 7 号掘立柱建物跡に伴う土坑と重複し失われている。柱痕跡は確認できなかった。

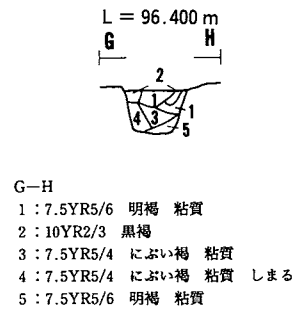
遺物

本遺構に伴う遺物は出土していない。

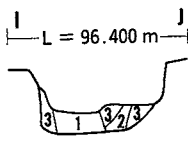


- C—D
- 1 : 10YR3/4 暗褐 含明褐色土(少量)
 - 2 : 7.5YR5/6 明褐 含暗褐色土 しまる
 - 3 : 10YR3/3 暗褐 含明褐色土
 - 4 : 7.5YR5/6 明褐 しまる

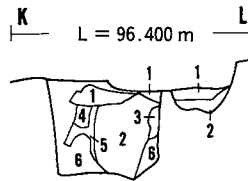
- E—F
- 1 : 10YR4/2 灰黄褐
 - 2 : 木根による攪乱
 - 3 : 7.5YR5/6 明黄褐



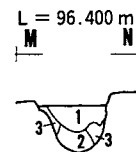
- G—H
- 1 : 7.5YR5/6 明褐 粘質
 - 2 : 10YR2/3 黒褐
 - 3 : 7.5YR5/4 におい褐 粘質
 - 4 : 7.5YR5/4 におい褐 粘質 しまる
 - 5 : 7.5YR5/6 明褐 粘質



- I—J
- 1 : 10YR3/4 暗褐
 - 2 : 10YR3/3 暗褐
 - 3 : 7.5YR5/6 明褐



- K—L
- 1 : 7.5YR4/4 褐
 - 2 : 10YR3/2 黒褐



- M—N
- 1 : 10YR3/3 暗褐 含炭化物(微量)
 - 2 : 7.5YR4/3 褐 含バミス
 - 3 : 7.5YR5/6 明褐 含暗褐色土

第 60 図 12 号堀立柱建物跡

(5) 窯跡

1号窯跡

遺構 (第 61 図、写真図版 45)

〈位置と重複関係〉上面部の中央部に位置し、7号掘立柱建物跡、9号掘立柱建物跡と重複する。7号掘立柱建物跡、9号掘立柱建物跡より新しい。本遺構は出土した遺物を取り上げたのち、底面を確認するため再度掘り下げをおこなっており、そのため2度にわたって断面をとっている。

〈形状と規模〉平面形は開口部、底部とも不整円形で、断面形は舟形である。規模は開口部径175 cm×148 cm、底部径94 cm×71 cmで、深さは中心部で18 cmである。

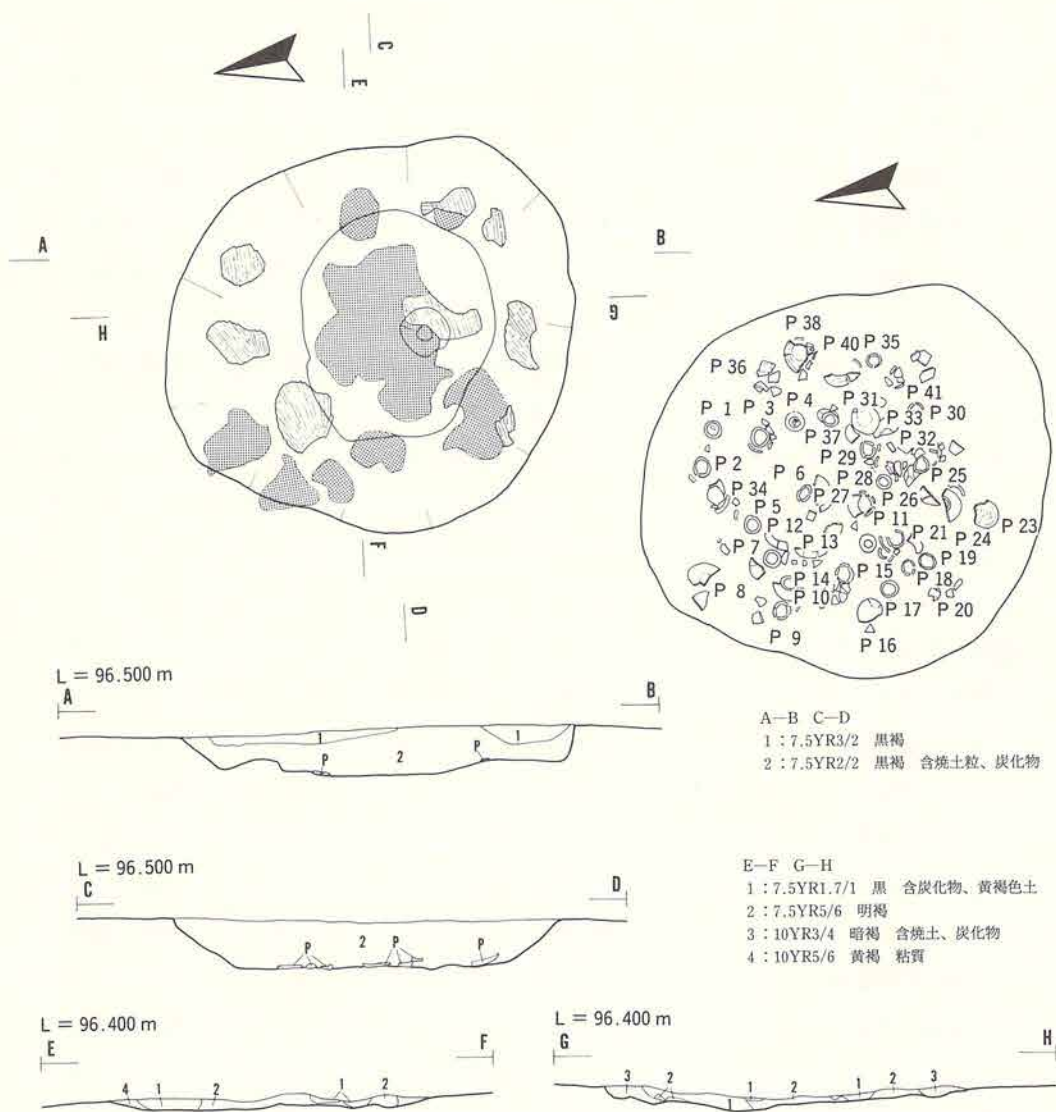
〈壁と底面〉壁は底面から内湾して立ち上がる。底面はIII層を掘り込んでおり、ほぼ平坦である。底面から壁面にかけてよく焼けており、底面には焼土と炭化材が厚く堆積している。埋土は4層に細分され、主に底面から遺物が出土した。底面中心部には直径18 cm、深さ12 cmの筒状の凹みが認められる。

遺物 (第 120～122 図、写真図版 82、83)

本遺構で焼成されたと思われる土器が多数出土した。

〈土器〉土師器高台付き環形土器(402～409、411～438)、土師器高台付き皿形土器(410、440～446)の出土である。復元、実測できなかったものも含めて、ほとんどが亀裂を持つか、本体と高台部が剥離している。402～406、408～413は土師器高台付き環形土器の坏部破片である。いずれも薄手で内外面に明瞭な段を持ち、口縁部が大きく外反する。胎土は緻密で焼成もよいがほとんどに亀裂がみられる。特に高台部との接着面に剥離痕を持つものが多い。409、411、412は接合前の破片の一部に黒斑を生じており、焼成が一様でなかったことを示している。414～432は土師器高台付き環形土器あるいは皿形土器の高台部破片である。上径5.5 cm～4.5 cm、下径6.7 cm～5.8 cm、高さ1.3 cm～1.2 cmの断面形台形のリング状を呈する。下面はナデ調整され、丸みをおびる。接合面である上面は内外面とも粘土を充填した後、なでつけられている。407、434～439は土師器高台付き環形土器の底部破片である。いずれも明瞭な回転糸切り痕跡が残る。410、440～442は高台付き皿形土器の皿部破片である。直径13.0 cm～12.0 cmで、上下面とも僅かな段をとまう。442は下面まで残存するが、底面には高台部の接着痕である沈線が認められる。443～446は接合されて復元されたものである。

後述するように、2号窯跡出土の同器種にみられる皿部の口唇の引き出し、台部下面の沈線はない。また、やや小型である。

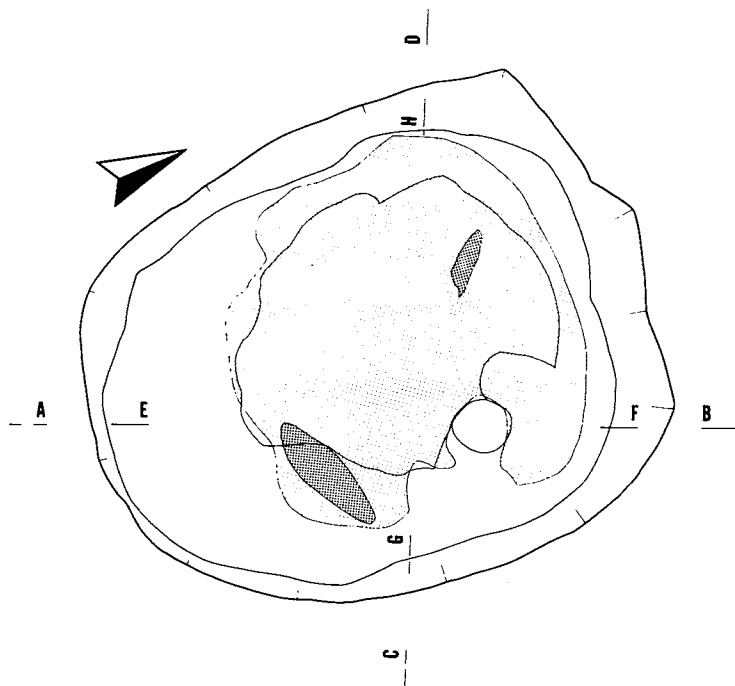


第 61 図 1号窯跡

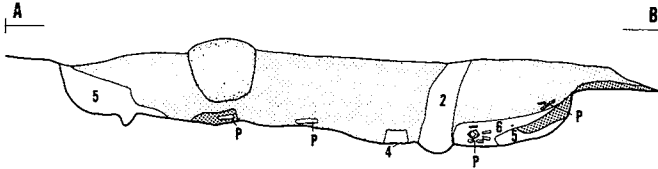
2号窯跡

遺構 (第 62 図、写真図版 46)

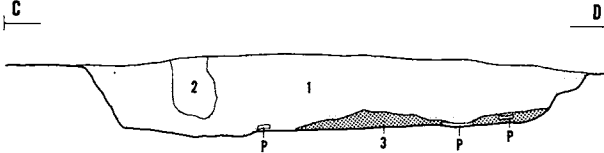
〈位置と残存状況〉上位面の中央部に位置し、9号掘立柱建物跡、12号掘立柱建物跡と重複する。9号掘立柱建物跡、12号掘立柱建物跡より新しい。本遺構も出土した遺物をとりあげたのち、底面を確認するため再度掘り下げをおこなっており、そのため2度にわたって断面をとっている。



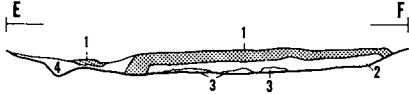
L = 96.500 m



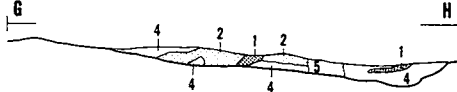
L = 96.500 m



L = 96.200 m



L = 96.200 m

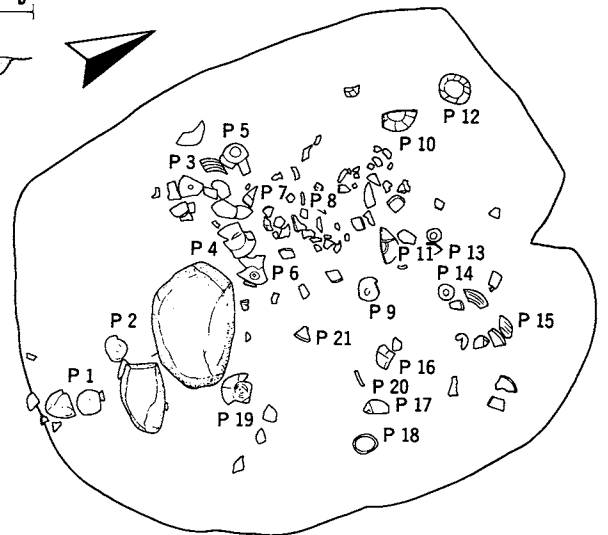


E-F G-H

- 1 : 2.5YR4/8 赤褐 焼土
- 2 : 2.5YR3/4 暗赤褐 焼土
- 3 : 5YR5/6 明赤褐 焼土
- 4 : 7.5YR3/3 暗褐

A-B C-D

- 1 : 7.5YR3/3 暗褐 含焼土粒
- 2 : 7.5YR3/3 暗褐
- 3 : 2.5YR5/8 明赤褐 焼土
- 4 : 7.5YR5/6 明褐 粘質
- 5 : 7.5YR3/3 暗褐と7.5YR5/6明褐(粘質)の混合
- 6 : 2.5YR5/8 暗褐 含焼土粒、炭化物



第 62 図 2 号窯跡

〈形状と規模〉平面形は開口部、底部ともに不整円形で、断面形は舟形である。規模は開口部径 235 cm×190 cm、底部径 213 cm×158 cm で、深さは中心部で 30 cm である。壁は底面から内湾して立ち上がる。底面はⅢ層とⅣ層の境界付近であり、中心部が壁際より 14 cm ほど凹む。底面から壁面にかけてよく焼けており、焼土は堅く形成されている。埋土は大きく 3 層に細分され底面からは遺物が重なって出土している。

遺物（第 122～127 図、写真図版 83～87）

本遺構で焼成されたと思われる土器が多数出土した。土器と鉄製品で構成される

〈土器〉土師器高台付き坏形土器（447～466、470）、土師器高台付き皿形土器（467～469、471～488）の出土である。復元、実測できなかったものも含めて、ほとんどが亀裂を持つか、本体と高台部が剝離している。447 は土師器坏形土器の底部破片である。内面ミガキののち、黒色処理をほどこしており、本遺構出土の他の土器とは異なり、本遺構で焼成されたものではないと思われる。448～451、453～456、470 は土師器高台付き坏形土器坏部の口縁部から体部にかけての破片である。いずれも薄手で内外面に明瞭な段を持ち、口縁部が大きく外反する。胎土は緻密で焼成もよいが、ほとんどに亀裂がみられる。底面まで残存するものには明瞭な回転糸切り痕が認められる。467～469、471～488 は土師器高台付き皿形土器で、皿部の直径が 15.7 cm～12.0 cm、上下面とも明瞭な段をとまない、口唇部には引き出しを持つ。一部には下面の口唇部にも引き出しをとまなうものもある（478、481）が、大部分は口唇部上面にのみ引き出しをとまなう。皿部内面中央には凹みをとまなう。いずれも皿部と高台部の接合部を、内外面とも粘土を充填したのち、ナデツケ調整している。467 は皿部中央の破片であるが、高台部との接着面にナデツケ調整の際に充填した粘土のあとが丸く残る。高台部は上径 7.2 cm～4.6 cm、下径 7.5 cm～4.7 cm、高さ 2.1 cm～0.6 cm の断面形が台形のリング状で、台部の下辺には沈線を持つ。489～514 は土師器高台付き坏形土器、または高台付き皿形土器の高台部である。489～499 は底面とともに剝離、500～514 は接合面から高台部のみ剝離している。500～514 は剝離面に本体部から転写された回転糸切り痕と隆線が認められる。

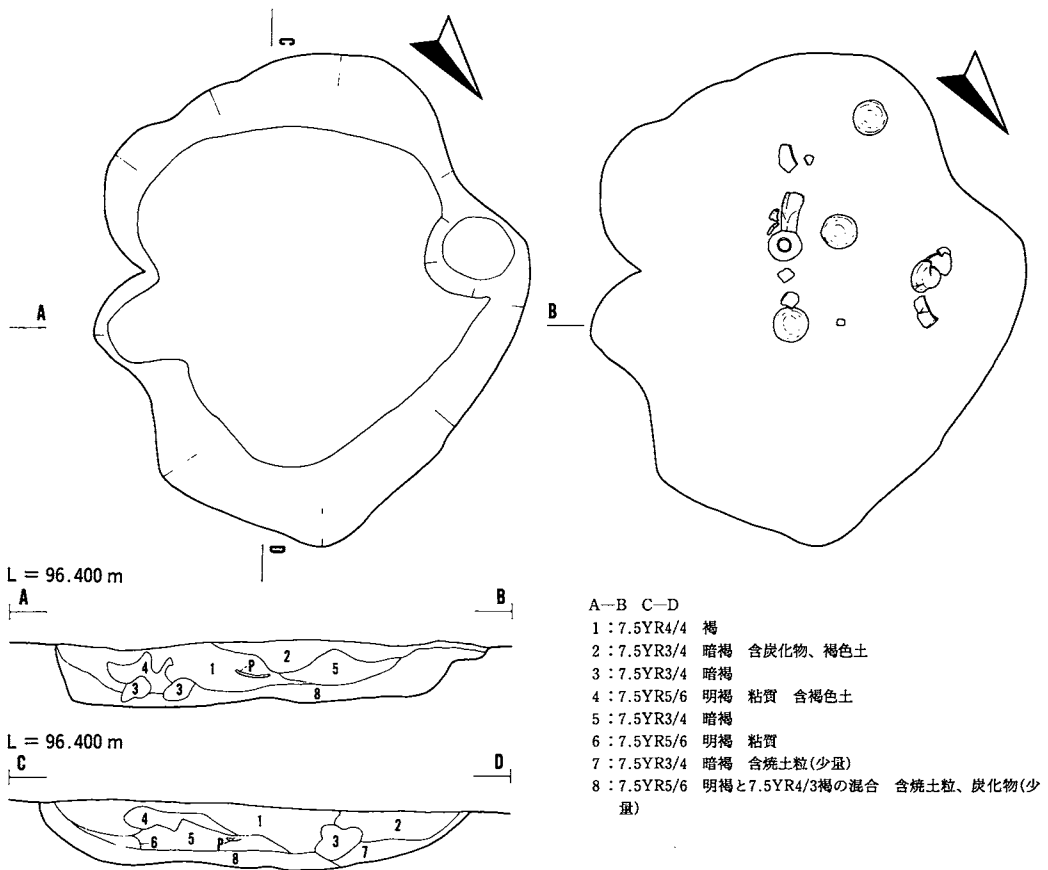
〈鉄製品〉515、518～521 は釘、516、517 は鏝である。521 を除きすべて欠損している。

3号竈跡

遺構（第 63 図、写真図版 47）

〈位置と残存状況〉上位面の中央部南端に位置し、8号掘立柱建物跡の西 2 m に位置する。

〈形状と規模〉平面形は開口部、底部ともに不整形で、断面形は舟形である。規模は開口部径 197 cm×153 cm、底部径 131 cm×106 cm で、深さは中心部で 24 cm である。壁は底面から外傾して立ち上がる。底面はⅢ層を掘り込んでおり、ほぼ平坦である。埋土は 8 層に細分される



第 63 図 3 号窯跡

が、1号窯跡、2号窯跡にみられたような底面の焼土形成はない。

遺物 (第 127、128 図、写真図版 87)

埋土から出土している。土器のみで構成される。

〈土器〉土師器坏形土器(522~538)、手づくね土器(539)、土師器高台付き坏形土器(540~542)、土師器高台付き皿形土器(543)の出土である。ほとんどが使用された痕跡があり、本遺構で焼成されたものではないと思われる。522 は内面ミガキのち黒色処理、523~538 は無調整、536 は内外面タール状付着、540~542 は摩耗が著しく、1号、2号窯跡出土のものとは厚手である。

(6) 土坑

a. 縄文・弥生時代の土坑

V B 1号土坑

遺構 (第 64 図、写真図版 48)

調査区の上位面の北西部に位置し、9号掘立柱建物跡に伴う溝の北西7mにある。平面形は開口部、底部とも円形である。規模は開口部径192cm×165cm、底部径173cm×162cm、深さは中心部で98cmである。断面形はピーカー形を呈するが、全体に南西から北東に傾くため、壁は南西側では内傾し、北東側では外傾する。床面は地山V層の浮石層を掘り込んでおり、ほぼ平坦である。埋土は7層に細分される。中位から下位の壁際には褐色土が、下位には崩落した黄褐色浮石が混じる。出土遺物はない。

V B 4号土坑

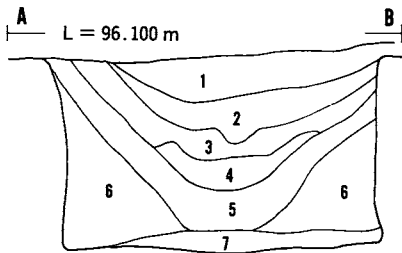
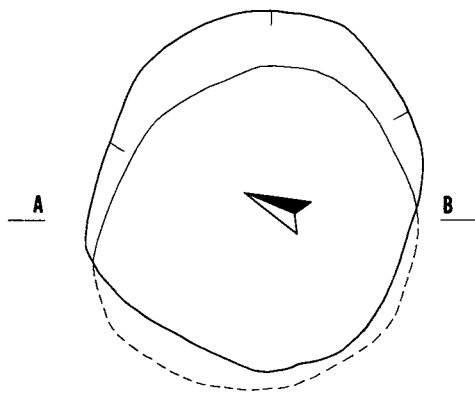
遺構 (第 64 図、写真図版 48)

調査区の上位面の北西部に位置し、V B 1号土坑の北西9mにある。平面形は開口部が南東が膨らんだ楕円形、底部が円形で、断面形はフラスコ形である。規模は開口部径136cm×91cm、頸部径89cm×80cm、底部径125cm×123cm、深さは中心部で104cmである。壁は内傾して立ち上がり、中部から開口部にかけて外傾する。床面は地山V層の浮石層を掘り込んでおり、ほぼ平坦である。埋土は4層に細分され、浮石を含んだ褐色土が主体をなす。出土遺物はない。

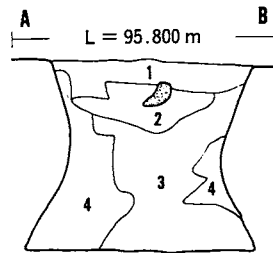
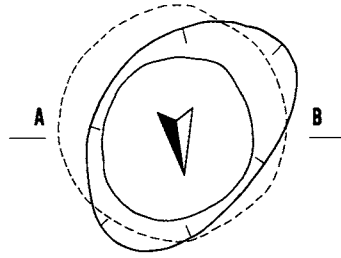
V I A 1号土坑

遺構 (第 64 図、写真図版 48)

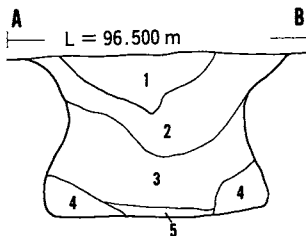
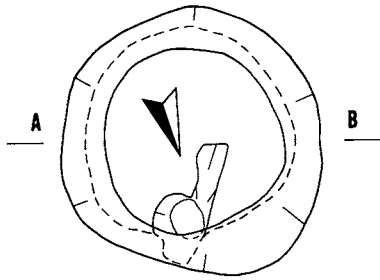
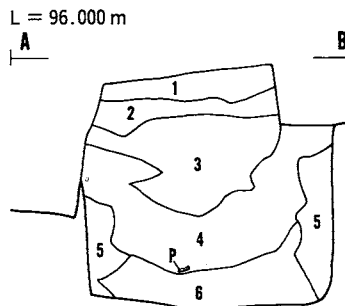
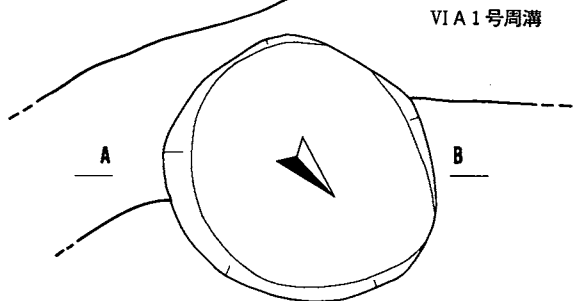
調査区の上位面の北東部に位置し、縄文時代の土坑の集中するVI区、VIB区、VIIA区、VII B区の境界にある。VIA 1号円形周溝と重複し、これよりも古い。平面形は開口部が円形、底部は北西部がやや膨らんだ不整形円形で、断面形はフラスコ形である。規模は開口部径147cm×141cm、頸部径100cm×95cm、底部径114cm×107cm、深さは中心部で85cmである。壁は内湾して立ち上がり、中部から開口部にかけて外傾する。床面はIV層とV層の境界付近であり、ほぼ平坦であるが、北側の壁寄りに深さ約27cmの溝を伴う。平面形は長さ66cm、幅11cmの溝の中央に20cm×19cmの膨らみを伴うト字形である。埋土は5層に細分される。黒褐色土～暗褐色土を主体とし、底部の壁際には壁から崩落した褐色土が堆積する。出土遺物はない。



- VB-土坑1
 1: 7.5YR2/3 極暗褐 含炭化物(微量) ややしまる
 2: 7.5YR4/3 褐 含バミス(微量) かたくしまる
 3: 7.5YR3/3 暗褐
 4: 7.5YR2/1 黒 含炭化物(微量)
 5: 7.5YR3/4 暗褐
 6: 7.5YR4/6 褐
 7: 7.5YR3/4 暗褐 含炭化物、バミス(微量)
 VB1号土坑



- 4
 1: 10YR3/3 暗褐 含炭化物(少量) しまる
 2: 10YR3/2 黒褐 含バミス(微量) しまる
 3: 10YR4/4 褐 含バミス(多量)
 4: 7.5YR5/6 明褐と10YR4/4褐の混合
 VB4号土坑



- VIA-土坑1
 1: 10YR2/1 黒 含炭化物(微量)
 2: 10YR2/3 黒褐 含バミス
 3: 10YR3/3 暗褐 含バミス(微量)
 4: 10YR4/6 褐 粘質
 5: 10YR3/2 黒褐 粘質
 VIA1号土坑
- 2
 1: 7.5YR4/3 褐 表土
 2: 7.5YR3/3 暗褐 含炭化物(微量)
 3: 7.5YR3/1 黒褐 含バミス(微量)
 4: 7.5YR3/3 暗褐 含バミス(微量)
 5: 7.5YR5/6 明褐 粘質
 6: 7.5YR4/6 褐
 VIA2号土坑

第64図 VB1・4、VIA1・2号土坑

VI A 2号土坑

遺構 (第 64 図、写真図版 48)

調査区の上位面の北東部に位置し、VIA 区、VIB 区、VIIA 区、VII B 区の境界にある。VIA 1号円形周溝と重複し、これよりも古い。平面形は開口部、底部ともに楕円形で、断面形はビーカー形である。規模は開口部径 149 cm×136 cm、底部径 141 cm×120 cm、深さは中心部で 85 cm である。壁はほぼ直立する。床面はIV層とV層の境界付近であり、壁際から中心部に向かって 6 cm ほど凹む。埋土は 6 層に細分される。黒褐色土から暗褐色土を主体とし、壁際には崩落した褐色土が堆積する。出土遺物はない。

VI A 3号土坑

遺構 (第 65 図、写真図版 49)

調査区の上位面の北東部に位置し、VIA 1号土坑の北 2 m にある。VIA 1号円形周溝と重複し、これよりも古い。平面形は開口部が円形、底部が不整円形で、断面形はフラスコ形である。規模は開口部径 114 cm×107 cm、頸部径 85 cm×87 cm、底部径 144 cm×138 cm で、深さは中心部で 71 cm である。壁は底面から内湾して立ち上がり、中部から開口部にかけて外傾する。床面は地山IV層を掘り込んでおり、ほぼ平坦である。埋土は 4 層に細分される。暗褐色土を主体とし、中位の壁際には明褐色土がブロック状に混入する。出土遺物はない。

VI B 1号土坑

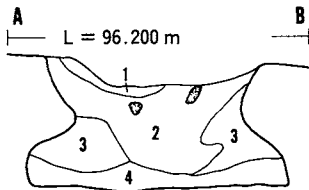
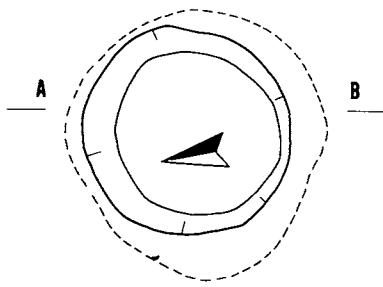
遺構 (第 65 図、写真図版 49)

調査区の上位面の北東部に位置し、VIA 2号土坑の西 2 m にある。VIA 1号円形周溝と重複し、これよりも古い。平面形は開口部が楕円形、底部が不整円形で、断面形はビーカー形である。規模は開口部径 166 cm×148 cm、底部径 145 cm×131 cm で、深さは中心部で 122 cm である。壁はほぼ直立して立ち上がるが、西側では外傾ぎみ、東側では内傾ぎみである。床面はV層の浮石層を掘り込んでおり、南から北に向かって傾斜する。北側の壁際に径 32 cm×23 cm、深さ 20 cm の楕円形の副穴が 1 基検出された。埋土は 6 層に細分される。暗褐色土を主体とし、中位の壁際には崩落した褐色土が堆積する。出土遺物はない。

VI B 2号土坑

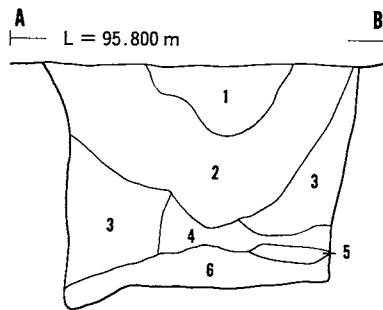
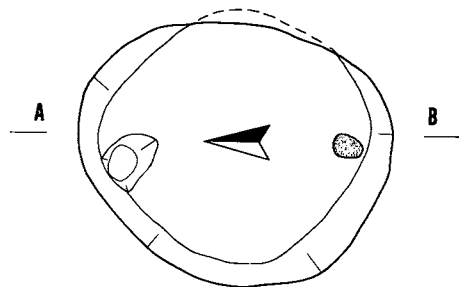
遺構 (第 65 図、写真図版 49)

調査区の上位面の北東部に位置し、VIA 1号土坑の北西 11 m の段丘崖にある。平面形は開口部、底部ともに円形で、断面形はフラスコ形である。規模は開口部径が 148 m×146 cm、頸部



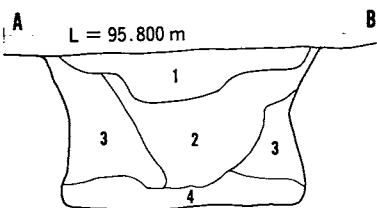
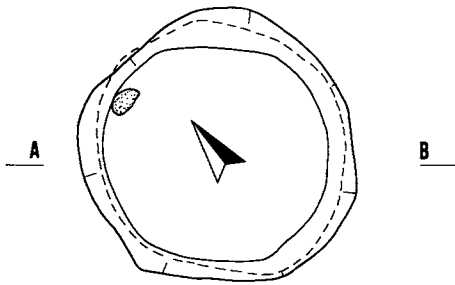
- 3
 1 : 10YR2/1 黒 しまる
 2 : 10YR3/4 暗褐 含浮石(微量)
 3 : 10YR3/4 暗褐 含明褐色土ブロック
 4 : 10YR3/3 暗褐 しまる

VI A 3号土坑



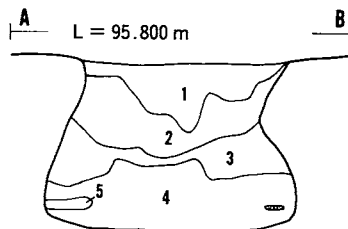
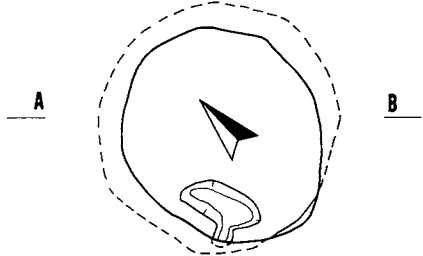
- VI B-土坑1
 1 : 10YR1.7/4 黒
 2 : 10YR3/4 暗褐 含浮石(微量)
 3 : 10YR4/6 褐
 4 : 7.5YR4/3 褐
 5 : 7.5YR5/8 明褐 粘質
 6 : 10YR3/4 暗褐 しまる

VI B 1号土坑



- 2
 1 : 10YR1.7/1 黒 含浮石(微量) しまる
 2 : 10YR3/4 暗褐 しまる
 3 : 10YR4/6 褐 含炭化物、浮石(微量)
 4 : 10YR3/4 暗褐 含炭化物(微量) しまる

VI B 2号土坑



- VI B-土坑3
 1 : 10YR2/2 黒褐 含炭化物、浮石
 2 : 10YR3/4 暗褐 含炭化物(微量)
 3 : 10YR5/6 黄褐 粘質
 4 : 10YR3/4 暗褐 含炭化物(微量)
 5 : 10YR5/6 黄褐 含粘土ブロック

VI B 3号土坑

第 65 図 VI A 3、VI B 1・2・3 号土坑

径が 120 cm×117 cm、底部径が 142 cm×136 cm、深さは中心部で 82 cm である。壁は底面から内傾して立ち上がり、中部から開口部にかけて外傾する。床面はIV層とV層の境界付近であり、ほぼ平坦である。埋土は4層に細分され、暗褐色土が主体をなす。底面から 19 cm～10 cm ほど炭化物を含んだ層が、中位から上位の壁際には崩落した褐色土が堆積する。

遺物 (第 129 図、写真図版 88)

底面から深鉢形土器の胴中央部から底部にかけての破片(544)が出土している。地文は単節縄文の斜行または横走である。外面には煤が付着する。

VIB 3号土坑

遺構 (第 65 図、写真図版 49)

調査区の上位面の北東部に位置し、VIB 1号土坑の北西 5 m にある。平面形は開口部が楕円形、底部が円形で、断面形はフラスコ形である。規模は開口部径が 123 cm×101 cm、底部径が 130 cm×126 cm、深さは中心部で 85 cm である。南壁は底面から丸みをおびて立ち上がり内湾し、中部よりやや開口部寄りから開口部にかけては外傾する。それ以外の壁は内傾する。床面はIV層とV層の境界付近であり、中心付近がやや凹む。南東の壁際に深さ 11 cm の副穴がある。平面形は径 45 cm×21 cm の溝の中央部に壁に接する突端を伴う T 字形である。埋土は5層に細分され、黒褐色土～暗褐色土を主体とし、中位には黄褐色土の層をはさむ。

遺物 (第 129 図、写真図版 88)

埋土から深鉢形土器の破片 2 点(545、546)が出土している。地文は単節斜行縄文である。

VIB 12号土坑

遺構 (第 66 図、写真図版 50)

調査区の上位面の中央部に位置し、VIB 1号住居跡の西 11 m にある。平面形は開口部が不整形円形、底部が円形で、断面形はフラスコ形である。規模は開口部径が 115 cm×107 cm、底部径が 145 cm×131 cm、深さは中心部で 99 cm である。東側の壁は底面から丸みをおびて立ち上がり、開口部まで内湾する。西側の壁は底面から丸みをおびて立ち上がり内湾し、中部から開口部まではほぼ直立する。床面はIV層とV層の境界付近であり、ほぼ平坦である。埋土は7層に細分され、黒褐色土～暗褐色土を主体とし、中位から下位の壁際には崩落した褐色土が混じる。全体に浮石の混入が多い。出土遺物はない。

VI B 17号土坑

遺構 (第66図、写真図版50)

調査区の上位面の北部に位置し、VI B 2号土坑の西10mの段丘崖にある。平面形は開口部が円形、頸部、底部が楕円形、断面形はフラスコ形である。規模は開口部径が74cm×66cm、頸部径が60cm×50cm、底部径が108cm×97cmで、開口部径に比べて底部径が大きい。深さは中心部で74cmである。東側の壁は底面から丸みをおびて立ち上がり、開口部から約20cmの地点まで内湾したのち、外傾する。西側の壁は底面から直接立ち上がり、開口部から約20cmの地点まで内傾したのち、外傾する。床面はIV層を掘り込んでおり、小さな凹凸がある。埋土は6層に細分され、暗褐色土～褐色土を主体とする。全体に浮石の混入が多い。出土遺物はない。

VI B 36号土坑

遺構 (第66図、写真図版50)

調査区の上位面の中央部に位置し、VI B 12号土坑の西6mにある。3号掘立柱建物跡の東側の柱穴と重複し、これより古い。重複する東北部を失っているが、平面形は開口部、底部ともに円形であると思われる。断面形はフラスコ形である。規模は開口部径84cm×86cm、底部径105cm×99cm、深さは中心部で70cmである。壁は底面から外傾して立ち上がる。床面はIV層を掘り込んでおり、ほぼ平坦である。床面のほぼ中央よりやや南寄りに、深さ18cm、径15cm×11cmの楕円形の副穴を伴う。埋土は6層に細分され、褐色土が主体をなす。出土遺物はない。

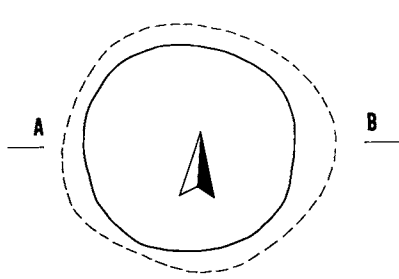
VII A 1号土坑

遺構 (第66図、写真図版50)

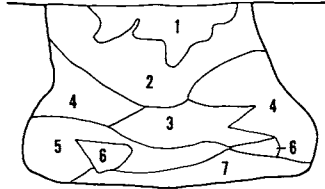
調査区の上位面の北東部に位置し、VIA 1号土坑の北西2メートルにある。VIA 1号円形周溝と重複し、これよりも古い。平面形は開口部、底部ともに円形で、断面形はフラスコ形である。規模は開口部径184cm×156cm、底部径181cm×168cmで、深さは中心部で117cmであり、遺跡内で検出した土坑のうちでは最大である。壁は床面からやや内湾して立ち上がり、東側では床面から60cmの、西側では40cmの地点から外傾する。床面は地山V層の浮石層を掘り込んでおり、小さな凹凸がある。埋土は7層に細分され、上位は黒褐色土～暗褐色土が、中位から下位では褐色土が主体をなす。壁際には崩落した明褐色土が堆積する。

遺物 (第129図、写真図版88)

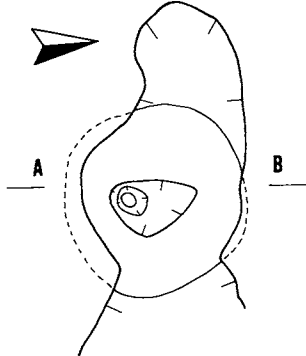
床面から粗製の深鉢形土器2点(547、548)が出土している。547は胴上半部に最大径をもち、挟りの浅い波状口縁の下に沈線をともなう。548は口縁に最大径をもち、2個と1個の突起が交互に並ぶ波状口縁をともなう。突起間には沈線が走る。



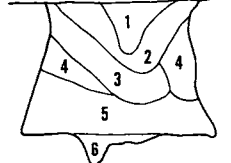
A B
L = 96.0000 m



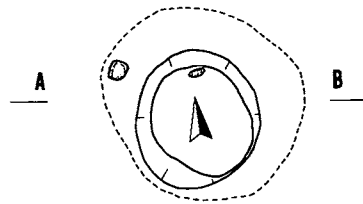
- 12
 1 : 7.5YR2/2 黒褐 含バミス(微量)
 2 : 7.5YR4/4 褐 含バミス(多量)
 3 : 7.5YR3/4 暗褐 含バミス(少量)
 4 : 7.5YR4/6 褐と7.5YR3/3暗褐の混合
 5 : 7.5YR3/4 暗褐 含バミス(微量)
 6 : 7.5YR4/4 褐 しまる
 7 : 7.5YR3/3 暗褐 含バミス(少量) しまる
 VI B 12号土坑



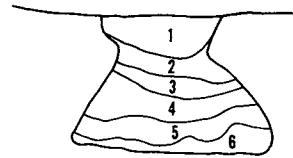
A B
L = 96.100 m



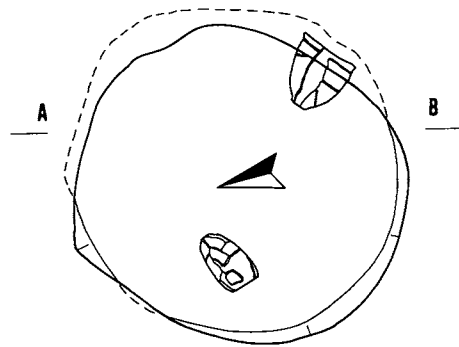
- A-B
 1 : 7.5YR3/2 黒褐 含バミス(微量)
 2 : 7.5YR4/4 褐 含バミス(少量)
 3 : 7.5YR4/6 褐 含炭化物(微量)
 4 : 7.5YR4/6 褐と7.5YR3/4暗褐の混合
 5 : 7.5YR4/6 褐 含暗褐色土(少量) 炭化物(微量)
 6 : 7.5YR5/6 明褐 含暗褐色土(少量)
 VI B 36号土坑



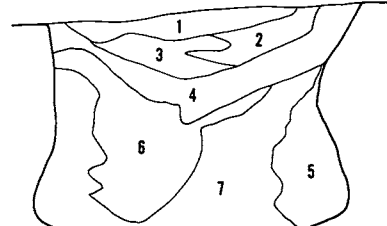
A B
L = 96.200 m



- 17
 1 : 7.5YR3/4 暗褐 含バミス(微量) 炭化物(微量)
 2 : 7.5YR4/3 褐 含バミス(少量) 炭化物(微量)
 3 : 7.5YR3/4 暗褐 含バミス(微量) 炭化物(少量)
 4 : 7.5YR3/3 暗褐 含バミス(少量) 炭化物(微量)
 5 : 7.5YR3/3 暗褐 含バミス(微量) 炭化物(少量)
 6 : 7.5YR5/6 明褐と7.5YR4/4褐の混合 含炭化物(微量)
 VI B 17号土坑



A B
L = 95.600 m



- 1 : 7.5YR2/3 極暗褐 含バミス、炭化物(少量)
 2 : 7.5YR3/4 暗褐 含バミス、炭化物(少量)
 3 : 10YR2/2 黒褐 含バミス、炭化物(少量)
 4 : 7.5YR4/6 褐 含バミス、炭化物(少量)
 5 : 7.5YR5/8 明褐 含暗褐色土(少量)
 6 : 7.5YR4/4 褐 含炭化物(微量)
 7 : 7.5YR4/3 褐 含明褐色土(少量) 炭化物(少量)
 VII A 1号土坑

第66図 VI B 12・17・36、VII A 1号土坑

VII A 2号土坑

遺構 (第 67 図、写真図版 51)

調査区の上位面の東端に位置し、VII A 2号住居跡の北西 5 mにある。平面形は開口部、底部ともに不整円形で、断面形はフラスコ形である。規模は開口部径 143 cm×114 cm、底部径 138 cm×114 cm、深さは中心部で 110 cmである。北西壁は床面から直立して立ち上がる。それ以外の壁は底面から約 40 cm まで内傾したのち、開口部まで外傾する。床面は地山 V 層の浮石層を掘り込んでおり、ほぼ平坦である。中心付近に深さ 14 cm の副穴がある。平面形は径 18 cm×15 cm の楕円形である。埋土は 5 層に細分され、暗褐色土と褐色土を主体とする。

遺物 (第 130 図、写真図版 88)

深鉢形土器の胴部破片 (549) が出土している。地文は横走または斜行の単節縄文である。

VII A 3号土坑

遺構 (第 67 図、写真図版 51)

調査区の上位面の東端に位置し、VII A 2号住居跡の西 2.5 mにある。平面形は開口部、底部ともに不整円形で、断面形はフラスコ形である。規模は開口部径 157 cm×136 cm、底部径 113 cm×108 cm、深さは中心部で 115 cmである。壁は床面から 80 cm ほど緩やかに内湾したのち、外傾する。床面は地山 V 層の浮石層を掘り込んでおり、小さな凹凸がある。埋土は 6 層に細分され、上位は暗褐色土～褐色土、下位は黄褐色土～褐色土が主体をなす。出土遺物はない。

VII A 5号土坑

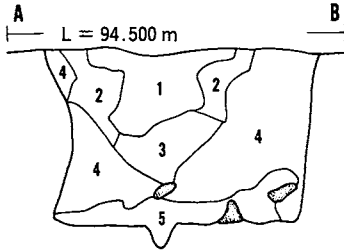
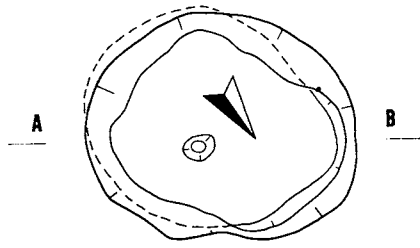
遺構 (第 67 図、写真図版 51)

調査区の上位面の北東部に位置し、VIA 1号円形周溝の東 7 mにある。平面形は開口部は楕円形、底部は隅丸方形で、断面形はフラスコ形である。規模は開口部径 130 cm×111 cm、底部径 167 cm×148 cm、深さは中心部で 97 cmである。壁は床面から大きく丸みをおびて立ち上がり、内傾して開口部に続く。床面は地山 V 層の浮石層を掘り込んでおり、ほぼ平坦である。北西部に礫を検出した。埋土は 6 層に細分され、上位は褐色土～暗褐色土を主体とし、中位から下位は主体となる暗褐色土に崩落した褐色土、明褐色土が混じる。出土遺物はない。

VII A 6号土坑

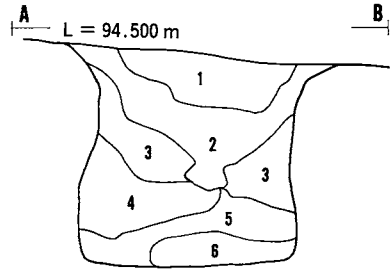
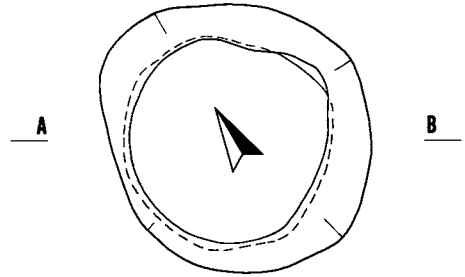
遺構 (第 67 図、写真図版 51)

調査区の上位面の北東部に位置し、VIA 1号円形周溝の東 3 mにある。平面形は開口部、底部とも楕円形で、断面形はフラスコ形である。規模は開口部径 127 cm×116 cm、底部径 155



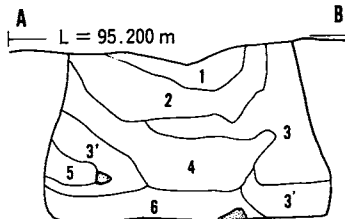
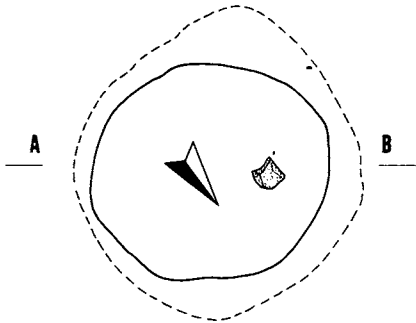
- 1 : 10YR2/1 黒 含浮石
- 2 : 10YR3/3 暗褐 含浮石(微量)
- 3 : 10YR3/4 暗褐 含炭化物(多量)
- 4 : 10YR4/6 褐 含明褐色土ブロック 浮石、炭化物(微量)
- 5 : 10YR4/4 褐 含炭化物(微量) しまる

VII A 2号土坑



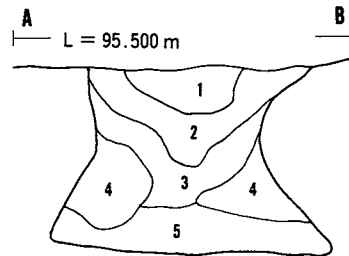
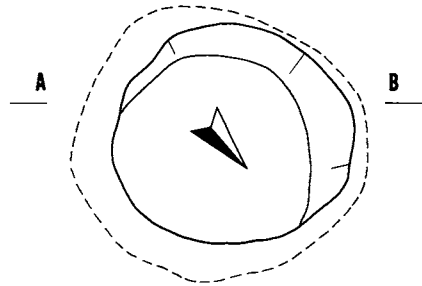
- 1 : 10YR2/1 黒 含浮石(微量) しまる
- 2 : 10YR3/4 暗褐 含浮石(微量)
- 3 : 10YR4/4 褐 含浮石(少量)
- 4 : 10YR5/8 黄褐 含褐色土
- 5 : 10YR4/4 褐 含浮石(微量) 暗褐色土
- 6 : 10YR5/6 黄褐 含浮石(微量) しまる

VII A 3号土坑



- 1 : 10YR4/4 褐 しまる
- 2 : 10YR3/3 暗褐 含炭化物(微量)
- 3 : 7.5YR5/4 明褐 粘質
- 4 : 10YR3/4 暗褐 含浮石、炭化物(微量)
- 5 : 10YR4/6 褐
- 6 : 10YR3/4 暗褐 しまる
- 7 : 7.5YR5/6 明褐 含暗褐色土

VII A 5号土坑



- 1 : 10YR2/1 黒 含浮石(微量)
- 2 : 10YR3/3 暗褐 含浮石(少量)
- 3 : 10YR4/3 におい黄褐 含浮石と炭化物(微量)
- 4 : 10YR5/6 黄褐 粘質 含暗褐色土
- 5 : 10YR3/3 暗褐 含炭化物(微量) しまる

VII A 6号土坑

第 67 図 VII A 2・3・5・6 号土坑

cm×143 cm、深さは中心部で103 cmである。壁は床面から急な角度をもって立ち上がり、約50 cmほど内傾したのち、東半分の壁は直立、西半分の壁は外傾する。床面は地山V層の浮石層であり、ほぼ平坦である。埋土は5層に細分され、暗褐色土が主体をなすが、中位にはにぶい黄褐色土、中位の壁際には崩落した黄褐色土が堆積する。出土遺物はない。

VII B 1号土坑

遺構（第68図、写真図版52）

調査区の上位面の北東部に位置し、A 2号土坑の南西3 mにある。VIA 1号円形周溝と重複し、これよりも古い。平面形は開口部、底部とも円形で、断面形はフラスコ形である。規模は開口部径110 cm×97 cm、頸部径75 cm×76 cm、底部径133 cm×116 cm、深さは中心部で100 cmである。壁は床面から内傾して立ち上がり、床面から70 cm付近から開口部までは外傾する。床面は地山V層の浮石層を掘り込んでおり、ほぼ平坦である。埋土は5層に細分され、黒褐色土～暗褐色土が主体をなし、中位の壁際には崩落した褐色土が堆積する。

遺物（第130図、写真図版89）

深鉢形土器の破片6点（550～555）が出土している。550、551は口縁部、552～554は胴部、555は底部破片である。550、551は地文が単節斜行縄文、口縁をナデ調整している。552、553は単節縄文、554は撚糸文を地文とする。555はナデ調整である。

VII B 2号土坑

遺構（第68図、写真図版52）

調査区の上位面の北東部に位置し、VIA 1号円形周溝の南に隣接する。平面形は開口部、底部ともに円形で、断面形はピーカー形である。規模は開口部径115 cm×106 cm、底部径127 cm×108 cm、深さは中心部で84 cmである。壁は床面からほぼ直立して立ち上がる。床はIV層とV層の境界付近であり、ほぼ平坦である。埋土は5層に細分され、黒褐色土を主体とする。中位から下位の壁際には崩落した明褐色土が混じる。

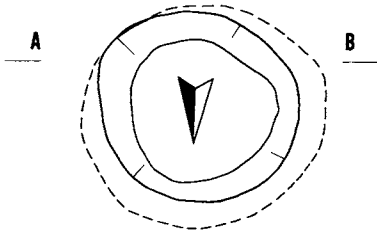
遺物（第130図、写真図版89）

尖底土器の底部破片（556）が出土している。地文は単節斜行縄文である。

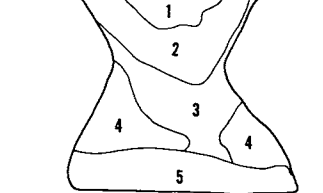
VII B 3号土坑

遺構（第68図、写真図版52）

調査区の上位面の北東部に位置し、VIB 2号土坑の西2 mにあり、VIA 1号円形周溝と隣接する。平面形は開口部は円形、底部は不整形円形で、断面形はフラスコ形である。規模は開口部

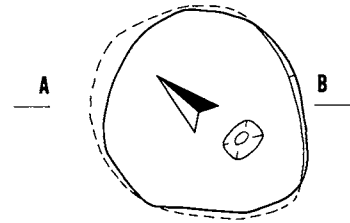


L = 95.600 m

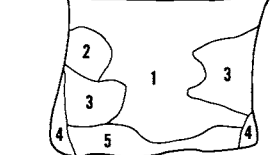


- 1 : 10YR2/2 黒褐
- 2 : 10YR3/3 暗褐 含バミス、炭化物(微量)
- 3 : 10YR3/4 暗褐 含バミス(少量) 炭化物(微量)
- 4 : 10YR4/6 褐 含黒褐色土、炭化物
- 5 : 10YR3/3 暗褐 含炭化物(微量) しまる

VII B 1号土坑

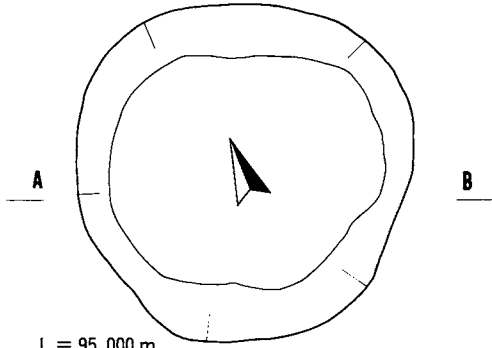


L = 95.700 m

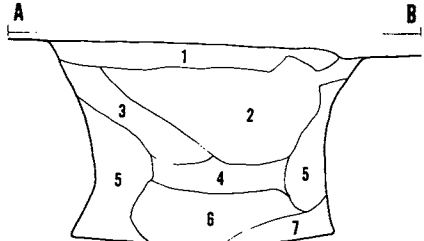


- VII B 2号土坑
- 1 : 10YR2/2 黒褐 含バミス、炭化物(微量)
 - 2 : 10YR3/4 暗褐 含バミス
 - 3 : 7.5YR5/6 明褐 含黒褐色土
 - 4 : 7.5YR5/8 明褐 粘質
 - 5 : 7.5YR3/2 黒褐 しまる

VII B 2号土坑

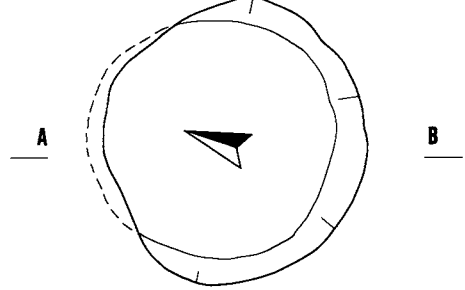


L = 95.000 m

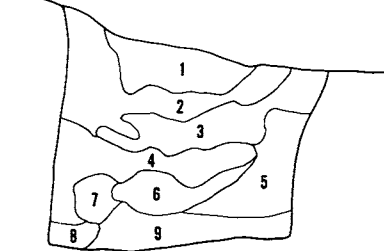


- 1 : 7.5YR3/2 黒褐 含炭化物
- 2 : 7.5YR3/3 暗褐 含バミス(少量)
- 3 : 7.5YR3/3 暗褐と7.5YR3/1黒褐の混合 含炭化物(少量)
- 4 : 7.5YR3/2 黒褐 含バミス(微量)
- 5 : 10YR4/6 褐
- 6 : 10YR4/4 褐と7.5YR3/2黒褐の混合
- 7 : 10YR4/3 にぶい黄褐 含炭化物(少量)

VII B 3号土坑



L = 95.700 m



- 1 : 10YR2/1 黒 含浮石(少量) しまる
- 2 : 10YR4/4 褐 含浮石(微量) しまる
- 3 : 10YR3/2 暗褐 含浮石(微量)
- 4 : 10YR5/4 にぶい黄褐 含浮石(微量)
- 5 : 10YR5/6 黄褐 含浮石(微量)
- 6 : 10YR3/3 暗褐 含浮石(微量)
- 7 : 10YR5/6 黄褐 含浮石(多量)
- 8 : 10YR6/6 明黄褐
- 9 : 10YR3/3 暗褐 含浮石(少量) しまる

VII B 4号土坑

第 68 図 VII B 1・2・3・4号土坑

径 183 cm×172 cm、底部径 146 cm×120 cm、深さは中心部で 109 cm である。壁は東側が床面から 50 cm 付近までやや内湾ぎみに立ち上がったのち、開口部まで外傾する。西側は床面から 30 cm 付近まで外傾したのち、開口部まで外傾する。床面は地山V層の浮石層で、ほぼ平坦であるが、北側から南側に向けて傾斜する。比高差は 17 cm である。埋土は 7 層に細分され、黒褐色土～暗褐色土を主体とするが、下位の壁際には崩落した褐色土が堆積する。出土遺物はない。

VII B 4 号土坑

遺構 (第 68 図、写真図版 52)

調査区の上位面の南東部に位置し、VII B 4 号住居跡の南 5 m にある。13 号溝と重複し、これよりも古い。平面形は開口部、底部ともに円形で、断面形はビーカー形である。規模は開口部径 153 cm×141 cm、底部径 131 cm×125 cm、深さは中心部で 135 cm である。壁は北側が床面からほぼ直立して立ち上がり、南側は外傾する。床面は地山V層の浮石層を掘り込んでおり、凹凸が著しく、南側から北側に向けて傾斜する。比高差は 19 cm である。埋土は 9 層に細分され、全体に浮石の混入が著しい。出土遺物はない。

VII B 5 号土坑

遺構 (第 69 図、写真図版 53)

調査区の上位面の東部に位置し、VII B 2 号土坑の南 6 m にある、平面形は開口部が楕円形、底部は円形で、断面形はビーカー形である。規模は開口部径 122 cm×96 cm、底部径 108 cm×99 cm、深さは中心部で 92 cm である。壁は直立する。床面はIV層とV層の境界付近で、ほぼ平坦である。埋土は 5 層に細分され、黒褐色土～暗褐色土を主体とする。中位の壁際から下位に崩落した黄褐色土、褐色土が堆積する。出土遺物はない。

VII B 6 号土坑

遺構 (第 69 図、写真図版 53)

調査区の上位面の東部に位置し、VII B 5 号土坑の東 1 m にある。平面形は開口部、底部とも円形で、断面形はビーカー形である。規模は開口部径 116 cm×111 cm、底部径 117 cm×111 cm、深さは中心部で 105 cm である。壁は直立する。床面は地山V層の浮石層を掘り込んでおり、ほぼ平坦である。埋土は 7 層に細分され、褐色土を主体とする。出土遺物はない。

VII B 7号土坑

遺構 (第 69 図、写真図版 53)

調査区の上位面の東部に位置し、VII B 3号土坑の南西 3 m にある。平面形は開口部が楕円形、底部は不整形、断面形はフラスコ形である。規模は開口部径 145 cm×124 cm、頸部径 100 cm×98 cm、底部径 142 cm×133 cm、深さは中心部で 104 cm である。壁は床面から 55 cm の高さまで内傾したのち、開口部まで外傾する。床面は地山V層の浮石層を掘り込んでおり、凹凸が著しい。南東の壁際に深さ 16 cm の副穴を伴う。平面形は径 19 cm×11 cm の楕円形である。埋土は7層に細分され、上位では黒褐色土～暗褐色土を、下位では褐色土を主体とする。最下位の壁際には崩落した浮石が混じる。

遺物 (第 130、131 図、写真図版 89)

埋土から深鉢形土器の口縁部から体部上半にかけての破片が2点(557、558)出土している。557は最大径を胴上半部にもち、地文は単節縄文の斜行、横走、口縁部をナデ調整している。558は胴部が膨らむ器形で、口唇には刻み、口辺には平行沈線がまわる。地文は単節斜行縄文である。

VII B 8号土坑

遺構 (第 69 図、写真図版 53)

調査区の上位面の東部に位置し、VII B 3号土坑の南西 12 m、VII B 7号住居跡の南西 9 m にある。平面形は開口部、底部とも不整形で、断面形はバケツ形である。規模は開口部径 174 cm×153 cm、底部径 152 cm×128 cm で、深さは中心部で 103 cm である。壁は北西側が直線的に外傾し南東側は床面から 40 cm ほどやや内側に張り出したのち、外傾する。床面は地山V層の浮石層を掘り込んでおり、ほぼ平坦である。埋土は8層に細分され、黒褐色土～暗褐色土を主体とする境の壁際には崩落した浮石が混じる。

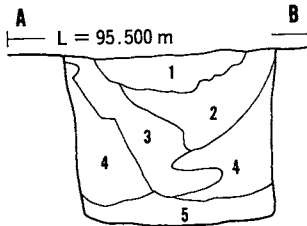
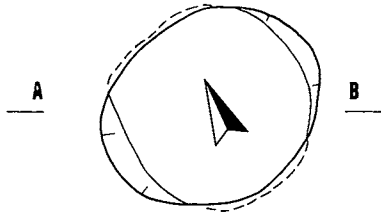
遺物 (第 131、132 図、写真図版 90)

埋土から石器 8 点 (559～566) が出土している。

VII B 10号土坑

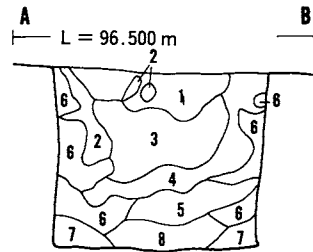
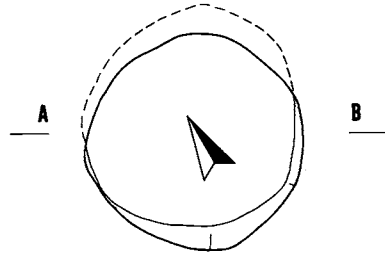
遺構 (第 70 図、写真図版 54)

調査区の上位面の東部に位置し、VII B 5号土坑の西 0.5 m にある。平面形は開口部が円形、底部が北東部が突き出した不整形、断面形はビーカー形である。規模は開口部径 127 cm×120 cm、底部径 118 cm×102 cm、深さは中心部で 102 cm である。壁は直立する。床面は地山V層を掘り込んでおり、ほぼ平坦である。東の壁際に深さ 5 cm の副穴を伴う。平面形は径 29 cm×



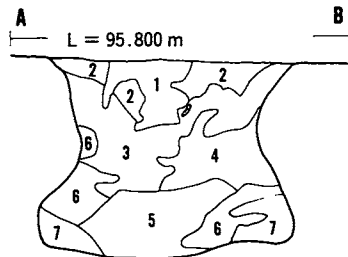
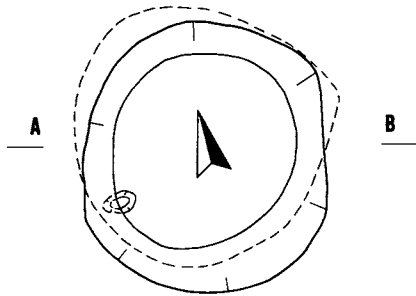
- 1 : 10YR2/2 黒褐 含浮石(微量) しまる
- 2 : 10YR3/4 暗褐 含浮石、炭化物(微量)
- 3 : 10YR3/3 暗褐 含浮石、炭化物(微量)
- 4 : 10YR5/6 黄褐 含炭化物(微量) 粘質
- 5 : 10YR4/4 褐 含浮石、炭化物(微量) しまる

VII B 5号土坑



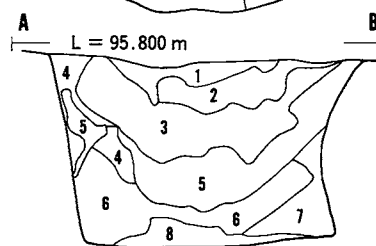
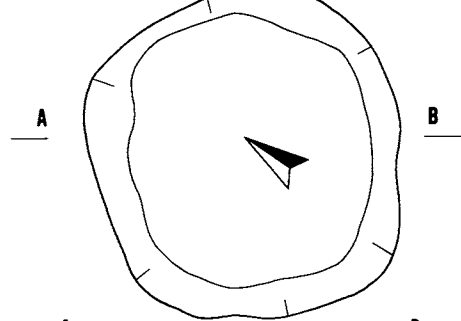
- 1 : 10YR2/2 黒褐
- 2 : 10YR3/3 暗褐
- 3 : 7.5YR4/3 褐と10YR2/2黒褐の混合
- 4 : 7.5YR4/3 褐
- 5 : 7.5YR4/3 褐と7.5YR5/6明褐の混合 粘質
- 6 : 7.5YR5/6 明褐 粘質
- 7 : 7.5YR5/6 明褐と7.5YR4/3褐の混合
- 8 : 7.5YR4/3 褐 含浮石

VII B 6号土坑



- 1 : 10YR2/2 黒褐
- 2 : 10YR3/2 黒褐
- 3 : 10YR3/3 暗褐
- 4 : 10YR3/3 暗褐と7.5YR5/6明黄褐の混合 粘質
- 5 : 7.5YR4/3 褐と7.5YR5/6明黄褐の混合 粘質
- 6 : 7.5YR5/6 明黄褐 粘質
- 7 : 7.5YR4/3 褐 含浮石

VII B 7号土坑



- 1 : 10YR2/3 黒褐
- 2 : 7.5YR3/3 暗褐
- 3 : 7.5YR3/3 暗褐 含褐色土(微量)
- 4 : 7.5YR3/4 暗褐
- 5 : 7.5YR3/4 暗褐と10YR4/6褐(粘質)の混合
- 6 : 10YR4/6 褐 粘質 含暗褐色土(微量)
- 7 : 10YR4/6 褐 粘質
- 8 : 7.5YR3/3 暗褐 含浮石(少量)

VII B 8号土坑

第69図 VII B 5・6・7・8号土坑

13 cm の楕円形である。埋土は 6 層に細分され、暗褐色土～褐色土を主体とする。出土遺物は無い。

VII B 13 号土坑

遺構 (第 70 図、写真図版 54)

調査区の上位面の南東部に位置し、VII B 10 号土坑の南西 7 m にある。平面形は開口部が不整形円形、底部は円形、断面形はフラスコ形である。規模は開口部径 88 cm×78 cm、頸部径 67 cm×59 cm、底部径 141 cm×137 cm、深さは中心部で 113 cm である。壁は床面から 60 cm～70 cm の高さまで内傾してのち、開口部まで外傾する。床面は地山 V 層の浮石層を掘り込んでおり、ほぼ平坦である。埋土は 7 層に細分され、黒褐色土～暗褐色土を主体とする。中位の壁際には崩落した明褐色土が堆積する。出土遺物はない。

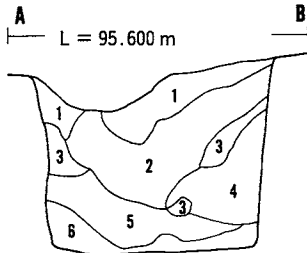
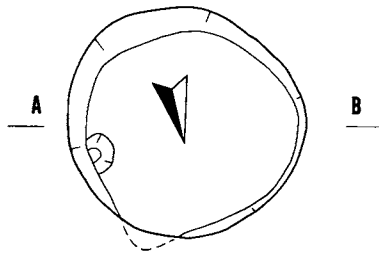
VII B 15 号土坑

遺構 (第 70 図、写真図版 54)

調査区の上位面の南東部に位置し、VII B 6 号土坑の南東 2 m にある。平面形は開口部、底部ともに不整形円形、断面形はフラスコ形である。規模は開口部径 103 cm×89 cm、頸部径 73 cm×83 cm、底部径 105 cm×90 cm で、深さは中心部で 89 cm である。壁は床面から丸みをおびて立ち上がり、67 cm の高さまで内湾したのち、開口部まで外傾する。床面は地山 IV 層と V 層の境界付近で、ほぼ平坦である。埋土は 6 層に細分され、暗褐色土～褐色土を主体とする。中位から下位の壁際には崩落した明褐色土が堆積する。

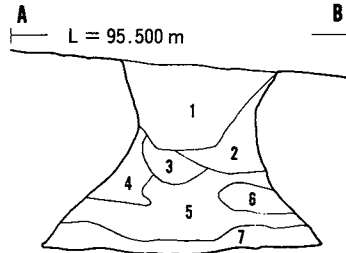
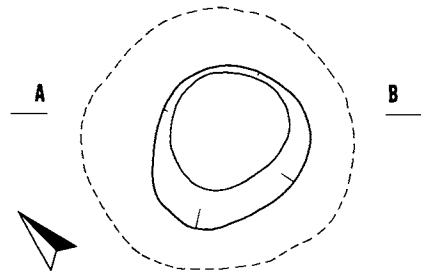
遺物 (第 132 図、写真図版 89)

埋土から土器 3 点が出土している。567 は深鉢形土器の底部破片。地文は単節斜行縄文である。568 は浅鉢形土器の口縁部破片で、平行沈線がまわる。569 は深鉢形土器の口縁部破片。頂部に抉りをともなう山形口縁の下には変形工字文がめぐる。外反する口縁の下の胴上半部は大きく膨らむ。



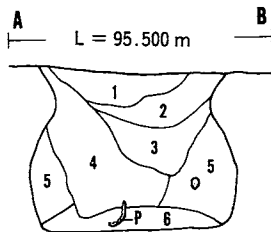
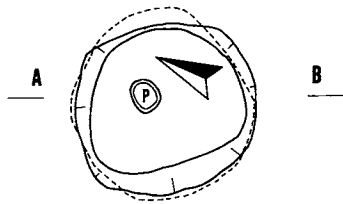
- 1 : 10YR3/2 黒褐
- 2 : 7.5YR3/3 暗褐 含褐色土(粘質)
- 3 : 10YR4/6 褐 粘質 含暗褐色土(微量)
- 4 : 10YR4/6 褐 粘質
- 5 : 7.5YR3/3 暗褐
- 6 : 10YR4/4 褐 粘質

VII B 10号土坑



- 1 : 10YR2/2 黒褐 含浮石、炭化物(微量)
- 2 : 10YR3/3 暗褐 含バミス
- 3 : 7.5YR3/4 暗褐 含炭化物、浮石(微量)
- 4 : 7.5YR5/6 明褐 含暗褐色土
- 5 : 7.5YR3/2 極暗褐 含浮石
- 6 : 7.5YR5/6 明褐 含暗褐色土ブロック、炭化物(微量)
- 7 : 10YR2/3 黒褐 含浮石(微量) しまる

VII B 13号土坑



- 1 : 7.5YR3/3 暗褐 含バミス(微量)
- 2 : 7.5YR4/4 褐 含バミス(微量)
- 3 : 7.5YR4/3 褐 含バミス(微量)
- 4 : 7.5YR4/6 褐 含炭化物(微量)
- 5 : 7.5YR5/8 明褐と7.5YR4/4褐の混合
- 6 : 7.5YR3/4 暗褐 含バミス(微量)

VII B 15号土坑

第70図 VII B 10・13・15号土坑

b. 平安時代の土坑

VB 2号土坑

遺構 (第 71 図、写真図版 54)

上位面の北西部に位置し、VB 1号工房跡と隣接する。平面形は開口部、底部とも不整形で、断面形は皿形である。規模は開口部径 227 cm×221 cm、底部径 181 cm×162 cm、深さは中心部で 37 cm である。壁は底面からゆるやかに外傾して立ち上がり立ち上がる。底面はIV層を掘り込んでおり、ほぼ平坦であるが、東壁寄りに浅い凹みがある。埋土は5層は細分される。

遺物 (第 133 図、写真図版 91)

埋土、床面から土器が出土している。遺物図版には取り上げなかったが、粘土塊も出土している。570 は土師器坏形土器で内外面とも無調整、口縁部がやや外反する。571、572 は須恵器坏形土器の底部破片である。

VB 5号土坑

遺構 (第 71 図、写真図版 55)

上位面の北西部に位置し、VB 1号工房跡の南東 6 mにある。11号溝跡と重複し、これよりも古い。平面形は開口部が不整形円形、底部が隅丸台形で、断面形は皿形である。規模は開口部径 250 cm×203 cm、底部径 206 cm×156 cm、深さは中心部で 42 cm である。壁は南壁と北壁はゆるやかに、東壁と西壁はやや直立ぎみに立ち上がる。底面は南寄りやや凹む。埋土は3層に細分される。出土遺物はない。

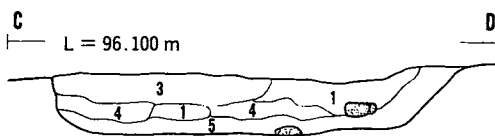
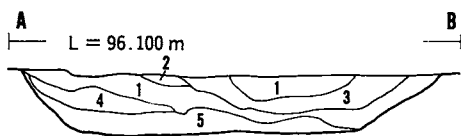
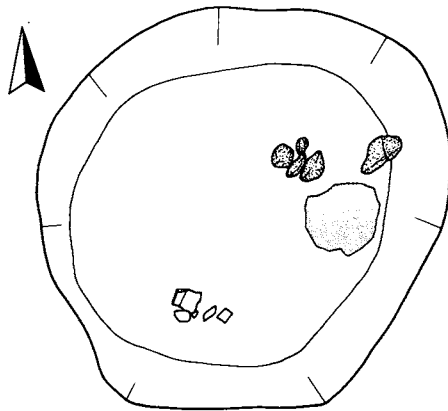
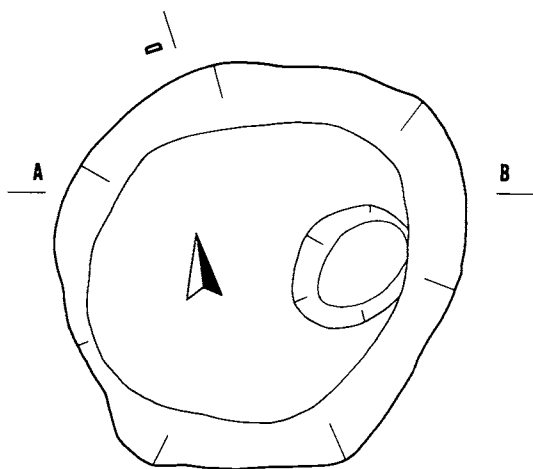
VIB 6号土坑

遺構 (第 72 図、写真図版 55)

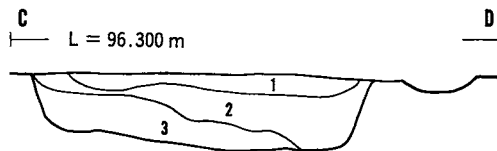
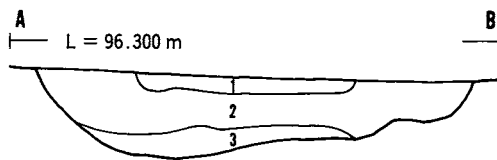
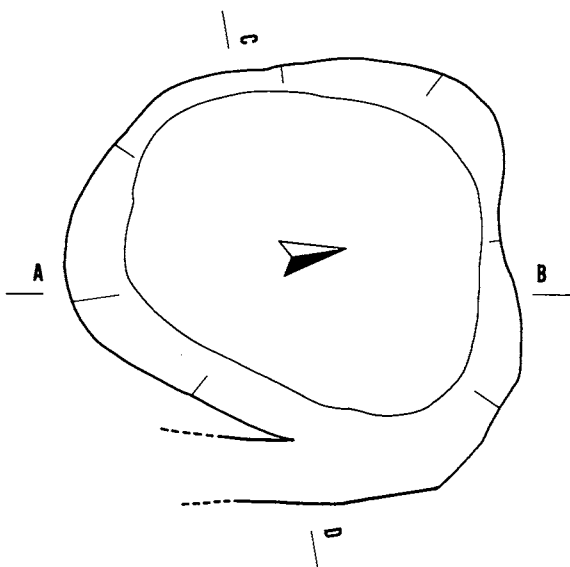
上位面の中央部のVIB区とVII B区の境界に位置し、1号掘立柱建物跡の南 2 mにある。平面形は開口部、底部とも不整形で、浅い掘り方の底面にこれより深く掘り込まれた断面形皿形の掘り方(P 1、P 2、P 3)が東西に3基並ぶ。規模は開口部径 456 cm×224 cm、浅い掘り方までの深さは m である。底面に掘り込まれた掘り方の規模はP 1が径 198 cm×179 cmで深さ 25 cm、P 2が径 167 cm×98 cmで深さ 17 cm、P 3が径 93 cm×41cmで深さ 6 cmである。埋土は色調、火山灰、炭化物、焼土粒などの混入状況によって16層に細分されるが、おおむね黒褐色土～暗褐色土を主体とする。

遺物 (第 133 図、写真図版 91)

埋土から土師器坏形土器(573、577、578)と鉄滓(574～576)が出土している。573、578 は土師器坏形土器で内外面とも無調整。577 は内面ミガキののち黒色処理をほどこしている。

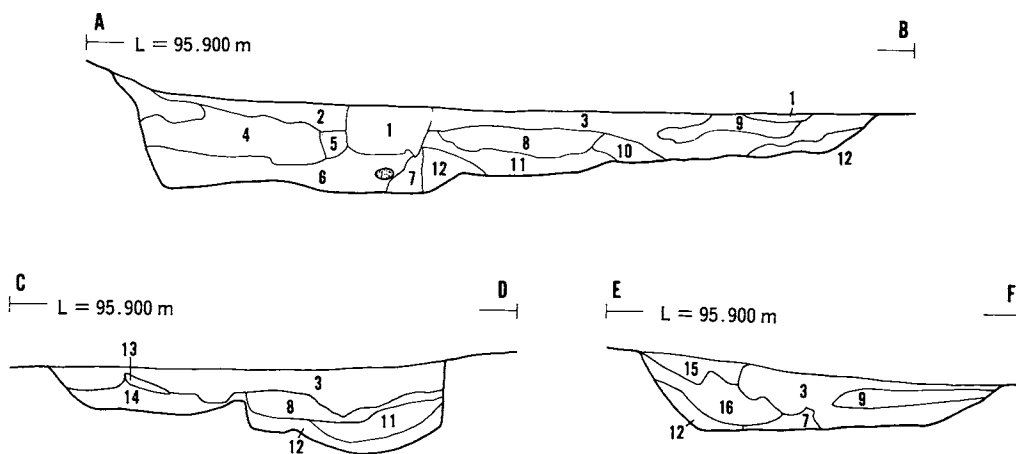
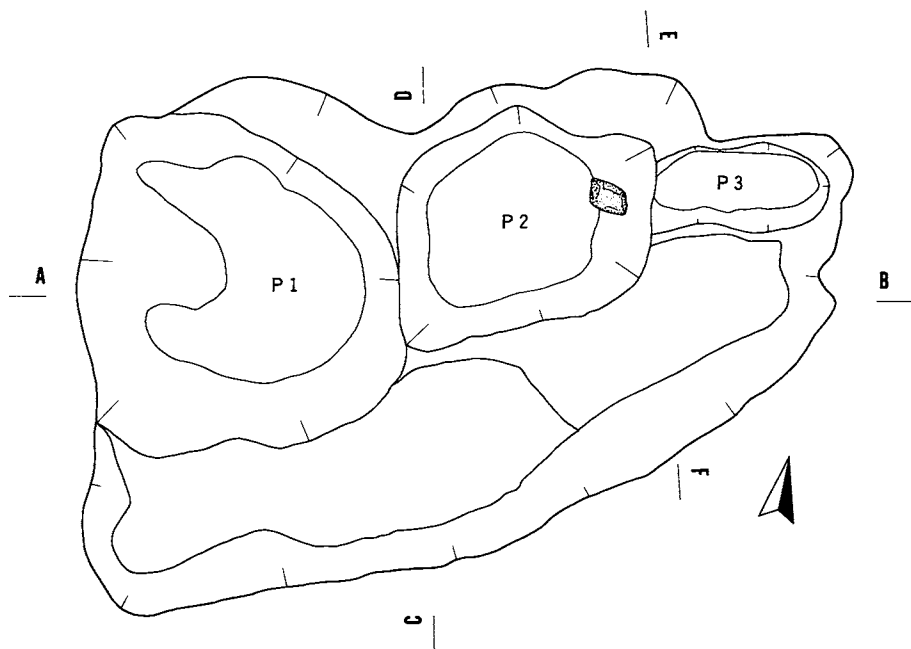


- 1 : 7.5YR4/4 褐
 - 2 : 7.5YR4/4 褐
 - 3 : 7.5YR3/3 暗褐 含明褐色土(少量)
 - 4 : 7.5YR3/3 暗褐 含明褐色土(微量)
 - 5 : 7.5YR3/3 暗褐と7.5YR5/6明褐の混合
- V B 2号土坑



- 1 : 7.5YR3/3 暗褐 しまる
 - 2 : 7.5YR4/3 褐 しまる
 - 3 : 10YR4/6 褐 ややしまる
- V B 5号土坑

第71図 V B 2・5号土坑



- 1 : 10YR2/3 黒褐 含炭化物(少量) しまる
- 2 : 10YR2/3 黒褐 含炭化物(微量)
- 3 : 10YR2/3 黒褐 暗褐色土に近い 含炭化物(微量)
- 4 : 10YR2/3 黒褐 含炭化物(少量) 焼土粒(微量) しまる
- 5 : 10YR2/3 黒褐 木根か?
- 6 : 10YR3/4 暗褐 含バミス
- 7 : 10YR5/8 黄褐 粘質
- 8 : 10YR2/3 黒褐と10YR5/8黄褐の混合

- 9 : 10YR2/3 黒褐 暗褐色土に近い 含炭化物(微量)
- 10 : 10YR3/4 暗褐 含炭化物(微量)
- 11 : 10YR3/4 暗褐 含バミス、炭化物(微量)
- 12 : 10YR3/3 暗褐 含黄褐色土
- 13 : 10YR3/4 暗褐
- 14 : 10YR3/3 暗褐 含炭化物(少量)
- 15 : 10YR3/4 暗褐 含炭化物(少量) 焼土粒(微量)
- 16 : 10YR3/4 暗褐 含焼土粒(微量)

第 72 図 VI B 6 号土坑

VI B 11 号土坑

遺構 (第 73 図、写真図版 55)

上位面の中央部に位置し、3、4号掘立柱建物跡の東2mにある。平面形は開口部、底部とも円形で、断面形は皿形である。規模は開口部径188cm×126cm、底部径113cm×106cm、深さは中心部で24cmであり、平安時代の土坑としたものなかでは最小である。壁は底面からやや外傾して立ち上がる。床面はほぼ平坦である。埋土は4層に細分される。

遺物 (第 133、134 図、写真図版 91)

埋土から土師器坏形土器(579~587)、須恵器坏形土器(588、589)、土師器甕形土器(590)が出土している。579~583は内面ミガキののち黒色処理をほどこしている。584~587は無調整である。588は外面に僅かな段を持ち、口縁部は大きく外反する。590は最大径を口縁部に持ち、調整は口縁部が内外面ともヨコナデ、胴上半部がヘラナデである。

VI B 15 号土坑

遺構 (第 73 図、写真図版 56)

上位面の中央部北寄りに位置し、VI B 2号住居跡の東1mにある。平面形は開口部が不整形円形、底部は東西二辺が直線的な楕円形で、断面形はバケツ形である。規模は開口部径225cm×190cm、底部径163cm×128cm、深さは中心部で68cmである。壁は西壁がほぼ直立して立ち上がったのち、やや外反する。東壁は外傾する。底面はほぼ平坦である。埋土は7層に細分される。出土遺物はない。

VI B 26 号土坑

遺構 (第 73 図、写真図版 56)

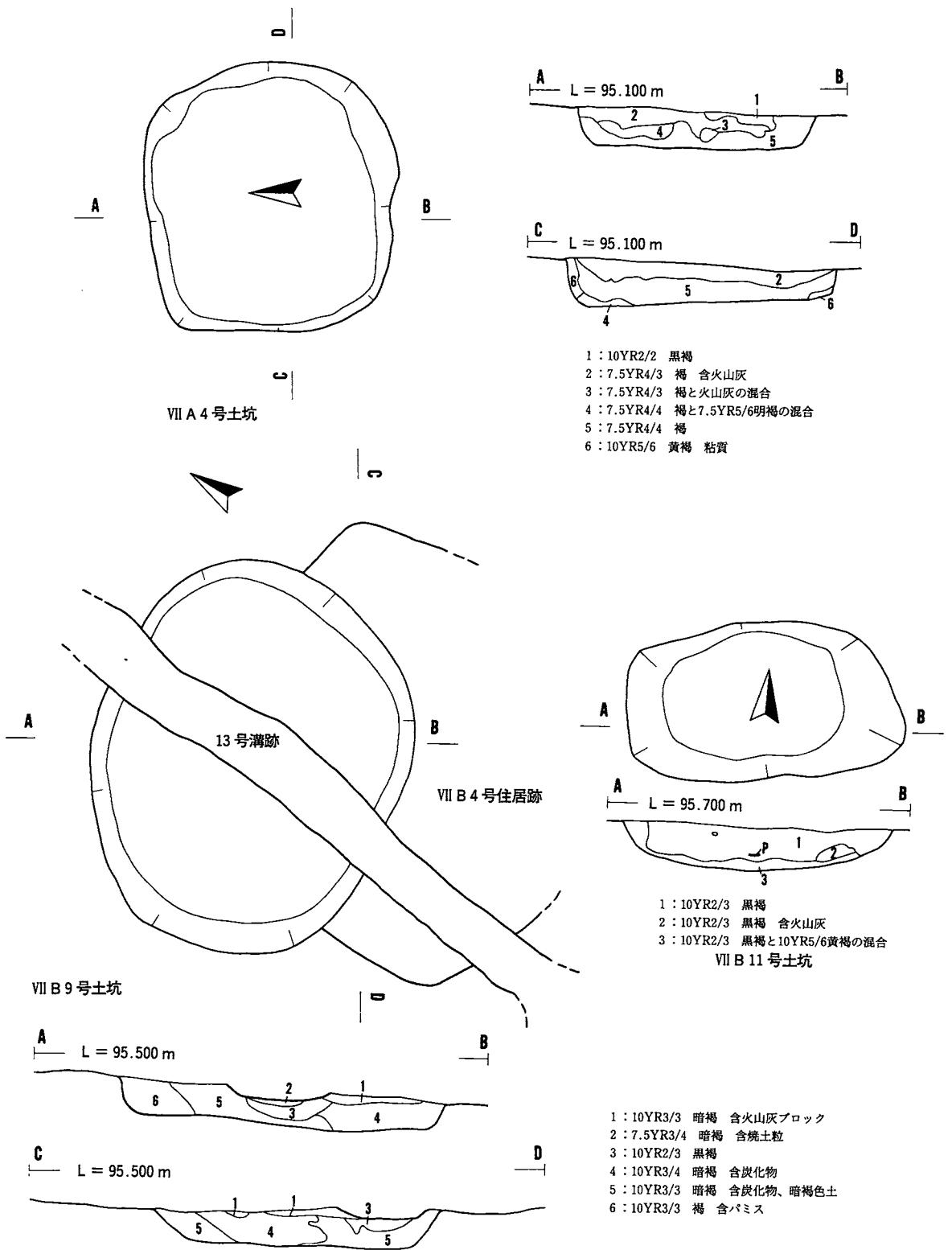
上位面の中央部に位置し、9号掘立柱建物跡に伴う周溝の南1mにある。平面形は開口部、底部とも不整形楕円形で、断面形は皿形である。規模は開口部径が287cm×176cm、底部径が271cm×155cmで、深さは中心部で24cmである。壁は北壁を除き緩やかに外傾して立ち上がる。北壁はほぼ直立して立ち上がる。底面は東側が凹む。埋土は7層に細分される。

遺物 (第 135 図、写真図版 91)

埋土から土師器坏形土器(591、592)が出土している。591は内面ミガキののち黒色処理をほどこしている。592は無調整である。内外面に煤が付着している。

VI B 30 号土坑

遺構 (第 74 図、写真図版 56)



第75図 VII A 4、VII B 9・11号土坑

上位面の中央部に位置し、9号掘立柱建物跡に伴う周溝の東に隣接する。平面形は開口部、底部ともに不整形円で、断面形は皿形である。規模は開口部径 202 cm×168 cm、底部径 145 cm×130 cm で、深さは中心部で 30 cm である。壁は底面から緩やかに外傾して立ち上がる。底面はほぼ平坦である。埋土は3層に細分される。

遺物 (第 135 図、写真図版 92)

埋土から土師器坏形土器(593~599)と須恵器壺形土器(600)が出土している。594~596 は内面ミガキののち黒色処理をほどこしている。593、597~599 は無調整である。597 は体部上半から口縁部にかけて緩やかに外反する。600 は胴部が膨らみ、口縁が緩やかに外反する。ロクロ痕以外に調整はない。

VI B 31 号土坑

遺構 (第 74 図、写真図版 56)

上位面の中央部に位置し、7号掘立柱建物跡の西に隣接する。VI B 32 号土坑、VI B 33 号土坑と3基東西に並ぶ。平面形は開口部、底部ともに不整形円で断面形が皿形である。規模は開口部径 152 cm×136 cm、底部径 103 cm×96 cm、深さは中心部で 22 cm である。壁の立ち上がりは明瞭でない。底面はほぼ平坦である。埋土はほぼ3層に細分される。出土遺物はない。

VI B 32 号土坑

遺構 (第 74 図、写真図版 57)

上位面の中央部に位置し、7号掘立柱建物跡の西に隣接する。VI B 31 号土坑、VI B 33 号土坑と3基東西に並ぶ。平面形は開口部、底部ともに不整形円で断面形が皿形である。規模は開口部径 156 cm×126 cm、底部径 102 cm×86 cm、深さは中心部で 38 cm である。壁は緩やかに外傾して立ち上がる。底面はほぼ平坦である。埋土はほぼ3層に細分される。出土遺物はない。

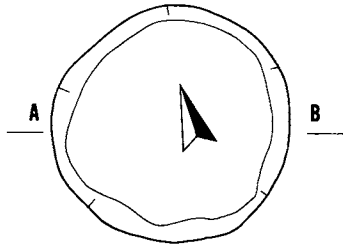
VI B 33 号土坑

遺構 (第 74 図、写真図版 57)

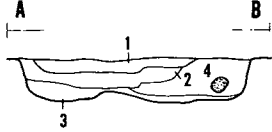
上位面の中央部に位置し、7号掘立柱建物跡の西に隣接する。VI B 31 号土坑、VI B 32 号土坑と3基東西に並ぶ。平面形は開口部、底部ともに不整形円で断面形が皿形である。規模は開口部径 181 cm×170 cm、底部径 136 cm×124 cm、深さは中心部で 36 cm である。壁は緩やかに外傾して立ち上がる。床面はほぼ平坦である。埋土はほぼ3層に細分される。

遺物 (第 136 図、写真図版 92、カラー口絵 1)

埋土から須恵器坏形土器(601、602)と二彩陶器(603)が出土している。601、602 はどちらも外

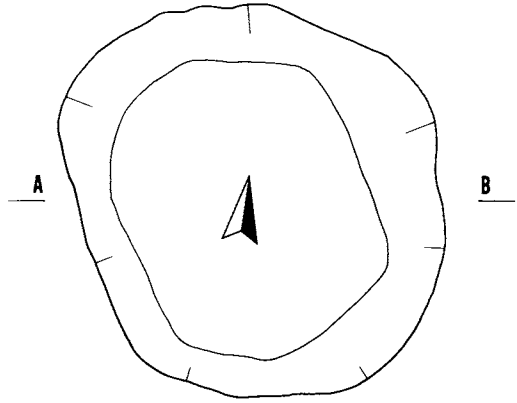


L = 96.000 m

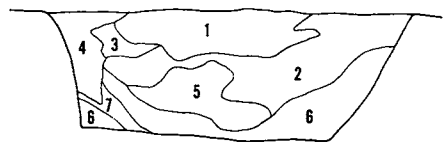


- 1 : 7.5YR3/4 暗褐 含炭化物(微量) しまる
- 2 : 7.5YR3/2 黒褐 含バミス(微量) しまる
- 3 : 7.5YR4/3 褐 しまる
- 4 : 7.5YR3/4 暗褐 含バミス(少量)
- 5 : 7.5YR4/6 褐 粘質 しまる

VI B 11 号土坑

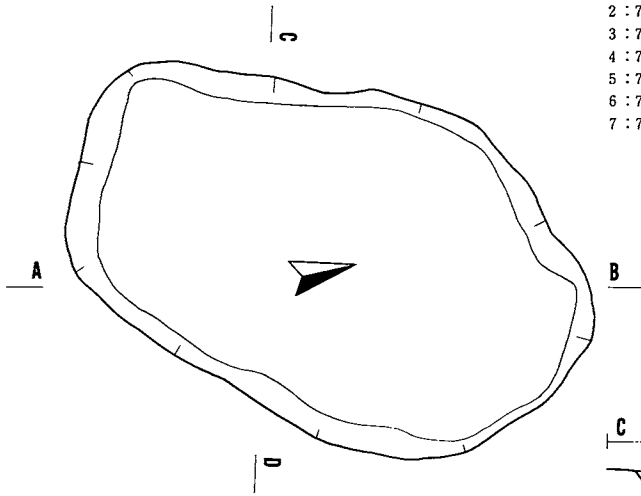


L = 96.200 m

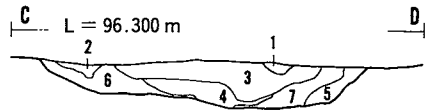
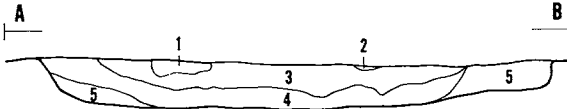


- 1 : 7.5YR2/2 黒褐
- 2 : 7.5YR3/3 暗褐と7.5YR5/6黄褐の混合 粘質
- 3 : 7.5YR3/3 暗褐と7.5YR5/6黄褐の混合
- 4 : 7.5YR4/3 褐
- 5 : 7.5YR3/3 暗褐と7.5YR2/1黒の混合
- 6 : 7.5YR5/6 明褐と7.5YR3/3暗褐の混合
- 7 : 7.5YR5/6 明褐 粘質

VI B 15 号土坑



L = 96.300 m



- A-B C-D
- 1 : 10YR3/3 暗褐 含明褐色土
- 2 : 10YR3/4 暗褐
- 3 : 10YR2/2 黒褐
- 4 : 10YR3/2 黒褐 含バミス(微量) しまる
- 5 : 7.5YR3/3 暗褐 しまる
- 6 : 7.5YR4/3 褐 しまる
- 7 : 10YR3/2 黒褐

VI B 26 号土坑

第 73 図 VI B 11・15・26 号土坑

面に僅かな段を持ち、口縁部が僅かに外反する。603 は長頸瓶の口縁部破片である。口唇が僅かにつまみだされている。塗料の一部は剝落しており、生地が出ている。

VII A 4号土坑

遺構（第75図、写真図版57）

上位面の東部、VII A区とVII B区の境界に位置し、VII A 1号円形周溝の南西15 mにある。平面形は開口部、底部とも隅丸方形で、断面形は皿形である。規模は開口部が198 cm×159 cm、底部が170 cm×142 cmで深さは中心部で32 cmである。壁は底面から緩やかに立ち上がり、ほぼ直立して開口部へ続く。底面はほぼ平坦である。埋土は6層に細分され、上層から中層にかけて灰白色火山灰が混入する。

遺物（第136図、写真図版57）

埋土から土師器坏形土器（604～608）と土師器甕形土器（609、610）が出土している。605、606、607 は内面ミガキのち黒色処理をほどこしている。605 は外面に墨書をともなう。字種は「寺」である。604、608 は無調整である。609 は土師器甕形土器の口縁部から胴上半部にかけての、610 は胴下半部から底部にかけての破片で、どちらもロクロ痕以外に調整はみられない。

VII B 9号土坑

遺構（第75図、写真図版57）

上位面の東部に位置し、13号溝跡、VII B 4号住居跡と重複する。VII B 4号住居跡より新しく、13号溝跡より古い。平面形は開口部、底部とも不整楕円形で、断面形は皿形である。規模は開口部径262 cm×204 cm、底部径226 cm×181 cmで、深さは中心部で25 cmである。壁は外傾して立ち上がる。床面はほぼ平坦である。埋土は6層に細分され、上層には火山灰が混入する。出土遺物はない。

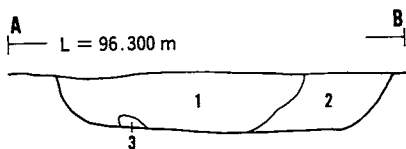
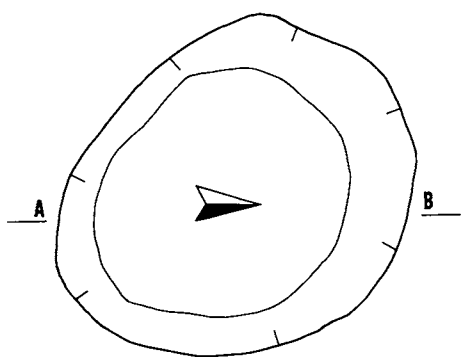
VII B 11号土坑

遺構（第75図、写真図版58）

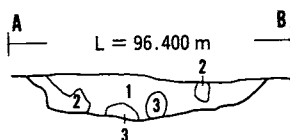
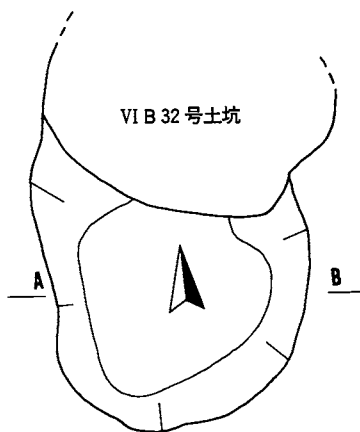
上位面の中央部南寄りに位置し、VII B 6号土坑の東0.5 mにある。平面形は開口部、底部とも隅丸長方形で断面形は舟形である。規模は開口部186 cm×98 cm、底部117 cm×81 cmで、深さは中心部で32 cmである。壁は底面から緩やかに立ち上がる。底面は中心部が凹む。壁際と底面中心部の比高差は約6 cmである。埋土は3層に細分され、2層には火山灰が混入する。

遺物（第136図、カラー口絵3）

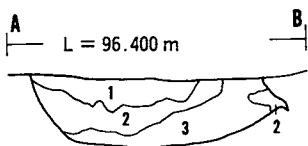
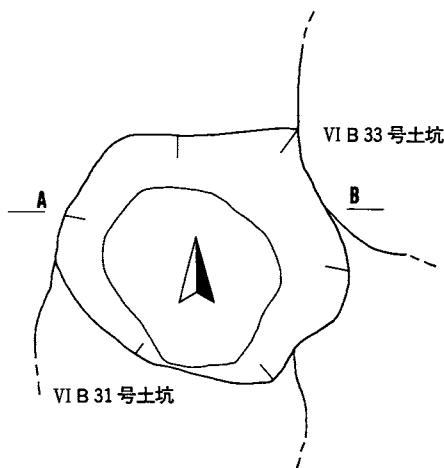
緑釉陶器の破片(611)が出土している。猿投窯(鳴海)産で9世紀前半から半ばのものである。



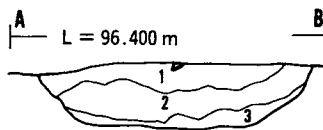
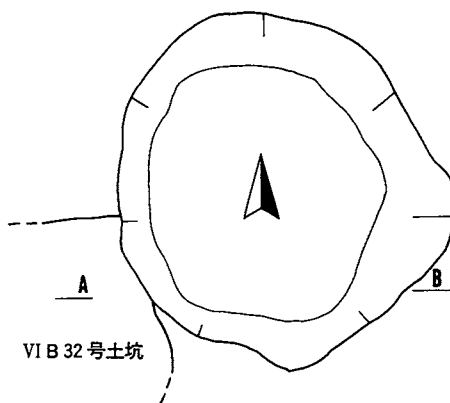
A-B
 1 : 7.5YR4/3 褐 しまる
 2 : 7.5YR3/4 褐
 3 : 5YR4/6 赤褐 焼土
 VI B 30号土坑



A-B
 1 : 7.5YR3/3 暗褐
 2 : 7.5YR2/3 明褐 粘質
 VI B 31号土坑



A-B
 1 : 7.5YR3/2 極暗褐 含粘土(微量)
 2 : 7.5YR3/2 極暗褐 含粘土(少量)
 3 : 7.5YR5/6 明褐 粘質
 VI B 32号土坑



A-B
 1 : 7.5YR3/3 褐
 2 : 7.5YR3/2 極暗褐 含粘土(微量)
 3 : 7.5YR3/2 極暗褐 含粘土(少量)
 VI B 33号土坑

第74図 VI B 30・31・32・33号土坑

c. 時期不明の土坑

ⅢB 1号土坑

遺構 (第 76 図、写真図版 58)

下位面の西北端の南寄りに位置し、1号溝跡と重複する。1号溝跡より古い。1号溝跡に掘り込まれており、全体の形状は不明であるが、開口部、底部とも不整形であると推定される。規模は開口部の南北方向が 148 cm、東西方向は不明である。壁は底面から外傾して立ち上がる。底面は小さな凹凸がある。埋土は単層である。出土遺物はない。

V B 6号土坑

遺構 (第 76 図、写真図版なし)

上位面の北西部に位置し、V B 5号土坑の南 0.8 m にある。平面形は開口部、底部とも不整形で、断面形は舟形である。規模は開口部径 85 cm×74 cm、底部径 63 cm×38 cm である。深さは中心部で 27 cm である。壁は外傾し、底面は中心部が凹む。埋土は 2 層に分けられる。出土遺物はない。

V B 4号土坑

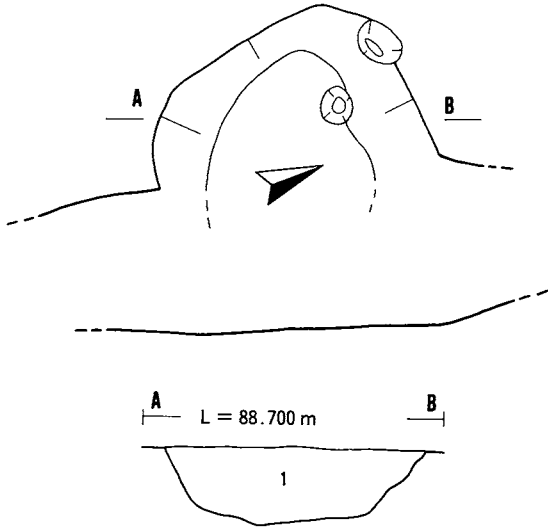
遺構 (第 76 図、写真図版 58)

上位面の中央部に位置し、2号掘立柱建物跡の北西隅の柱穴掘り方と重複する。柱穴掘り方を掘り込んでおり、2号掘立柱建物跡より新しい。平面形は開口部、底部とも隅丸方形で、断面形は皿形である。規模は開口部 136 cm×107 cm、底部 110 cm×86 cm で、深さは中心部で 42 cm である。壁は底面から外傾して立ち上がる。底面には 3 基の凹み (P 1、P 2、P 3) がある。平面形はいずれも楕円形で P 1 は径 41 cm×28 cm、深さ 3 cm、P 2 は径 34 cm×30 cm、深さ 8 cm、P 3 は径 24 cm×21 cm、深さ 9 cm である。埋土は 2 層に分けられる。出土遺物はない。

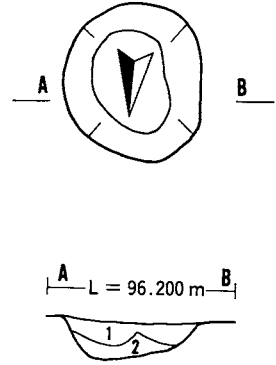
V B 10号土坑

遺構 (第 76 図、写真図版 58)

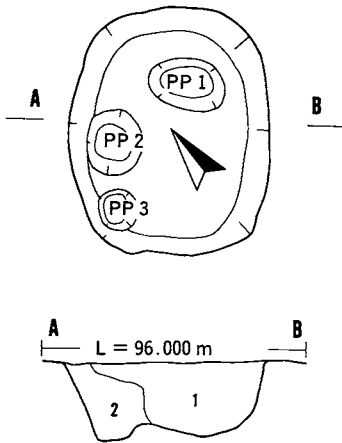
上位面の中央部に位置し、3、4号掘立柱建物跡に伴う土坑の東 2 m にある。平面形は開口部、底部とも不整形楕円形で、断面形は皿形である。規模は開口部径 114 cm×98 cm、底部径 101 cm×76 cm、深さは中心部で 11 cm である。壁は外傾する。底面はほぼ平坦である。埋土は単層である。出土遺物はない。



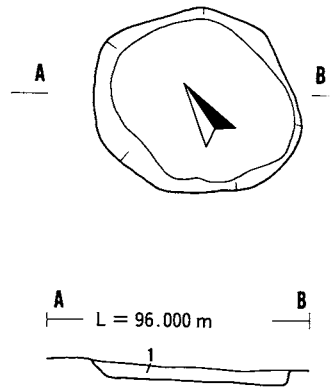
1 : 10YR2/2 黒褐 含黄褐色土ブロック(多量)、炭化物(微量)
III B 1号土坑



1 : 7.5YR3/3 暗褐 ややしまる
2 : 7.5YR3/3 暗褐と7.5YR5/6明褐の混合
V B 6号土坑



1 : 10YR2/3 黒褐 含炭化物、パミス(微量) ややしまる
2 : 10YR2/3 黒褐 含炭化物(微量) 黄褐色土ブロック
VI B 4号土坑



1 : 10YR2/3 暗褐
VI B 10号土坑

第76図 III B 1、V B 6、VI B 4・10号土坑

VI B 18号土坑

遺構（第77図、写真図版59）

上位面の中央部に位置し、9号掘立柱建物跡に伴う周溝の北1 mにある。平面形は不整楕円形、断面形はバケツ形である。規模は開口部径116 cm×99 cm、底部径81 cm×77 cm、深さは中心部で41 cmである。壁は底面から外傾して立ち上がる。底面には2個の副穴がある。(P 1、P 2) P 1は径11 cm×8 cm、深さ16 cm、P 2は径13 cm×9 cm、深さ19 cmである。埋土は5層に細分される。4層、5層は焼土が混入する。出土遺物はない。

VI B 21号土坑

遺構（第77図、写真図版59）

上位面の中央部に位置し、9号掘立柱建物跡に伴う周溝の西側と重複する。9号掘立柱建物跡より新しい。平面形は開口部、底部とも不整楕円形で、断面形は皿形である。規模は開口部径286 cm×202 cm、底部径253 cm×138 cm、深さは中心部で50 cmである。壁は底面から外傾して立ち上がる。底面はほぼ平坦である。埋土は5層に細分され、灰白色火山灰の混入はない。出土遺物はない。

VI B 39号土坑

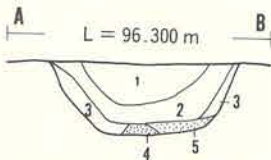
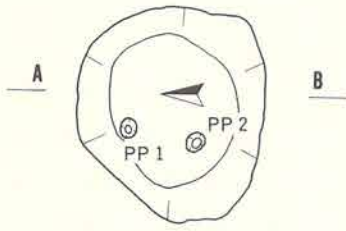
遺構（第77図、写真図版59）

上位面の中央部南端に位置し、8号掘立柱建物跡の南東3 mにあり、南側は調査区外へと続く。平面形は南側が調査区外へと続くため全容は不明であるが、開口部部、底部とも不整楕円形と推定される。規模は開口部径120 cm以上×110 cm、底部径90 cm以上×60 cm、深さは54 cmである。埋土は3層に細分される。出土遺物はない。

VII B 12号土坑

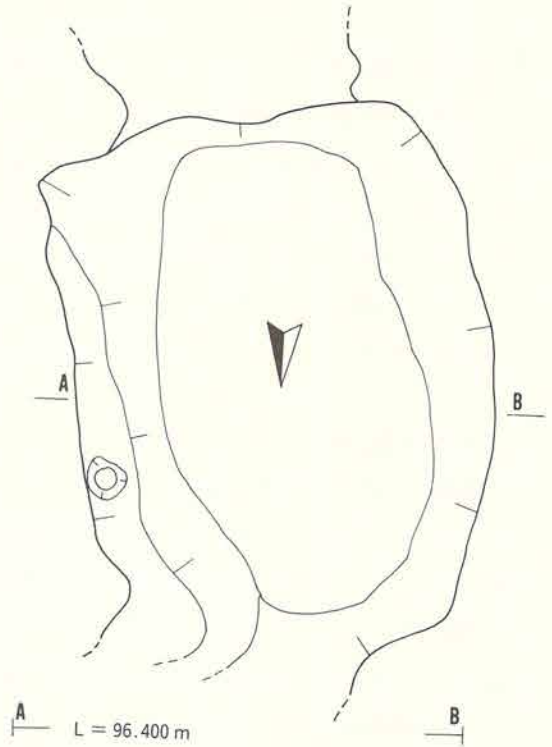
遺構（第77図、写真図版59）

上位面の中央部南寄りのVII A区とVII B区の境界に位置し、VI B 6号土坑の北東14 mにある。平面形は開口部、底部とも不整円形で、断面形はバケツ形である。規模は開口部径138 cm×131 cm、底部径77 cm×61 cm、深さは中心部で41 cmである。壁は底面から外傾して立ち上がる。底面は東側に傾き、比高差は6 cmである。埋土は3層に分けられる。出土遺物はない。



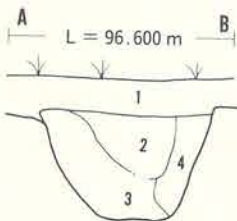
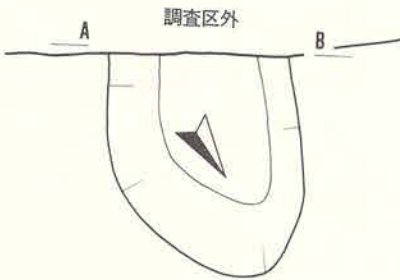
- 1 : 7.5YR3/3 暗褐 含焼土粒(微量)
 2 : 7.5YR4/6 褐 含焼土粒(少量)
 3 : 7.5YR4/6 褐と7.5YR3/3暗褐の混合
 4 : 5YR4/6 赤褐 焼土 ややしまる
 5 : 7.5YR3/4 暗褐 含炭化物、焼土粒(多量)

VI B 18号土坑



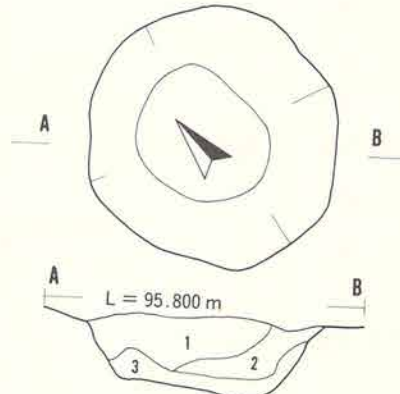
- 1 : 7.5YR4/4 褐に10YR6/3火山灰(少量)まじる
 2 : 7.5YR2/3 黒褐
 3 : 7.5YR4/3 褐に5YR5/6明褐 粘質(微量)まじる
 4 : 7.5YR2/3 暗褐に7.5YR5/6明褐 粘質(微量)まじる
 5 : 7.5YR2/3 黒褐と7.5YR5/6明褐 粘質の混合

VI B 21号土坑



- 1 : 7.5YR3/4 暗褐 表土
 2 : 7.5YR3/3 暗褐 ややしまる
 3 : 7.5YR3/2 黒褐 しまり無、炭化物微量に含む
 4 : 7.5YR4/4 褐 しまり無

VI B 39号土坑



- 1 : 10YR3/4 暗褐 含明褐色土
 2 : 10YR3/3 暗褐
 3 : 7.5YR5/6 明褐 粘質 しまる 含暗褐色土

VII B 12号土坑

第77図 VI B 18・21・39、VII B 12号土坑

VII B 14号土坑

遺構（第78図、写真図版なし）

上位面の南東部に位置し、VII B 5号住居跡の北3 mにある。VII B 1号陥し穴状遺構と重複するが、新旧関係は不明である。平面形はVII B 1号陥し穴状遺構に掘り込まれているために全容は不明であるが開口部、底部ともに不整円形で、断面形はバケツ形と思われる。規模は開口部径65 cm程度、底部径24 cm程度と思われる。埋土は3層に分けられる。出土遺物はない。

VII B 15号土坑

遺構（第78図、写真図版60）

上位面の中央部南寄りに位置し、VIB 6号土坑の北東6 mにある。平面形は開口部、底部ともに隅丸方形で、南東隅に隅丸方形の掘り込みがある。規模は開口部径182 cm×142 cm、底部径146 cm×118 cm、深さ7 cm、南東隅の掘り込みは開口部115 cm×93 cm、底部90 cm×56 cm、深さ8 cmである。南東隅の掘り込みのさらに南東隅には開口部径31 cm×25 cm、底部径27 cm×19 cm、深さ5 cmの長楕円形の凹みがある。埋土は3層に分けられる。出土遺物はない。

(7) 陥し穴状遺構

V B 1号陥し穴状遺構

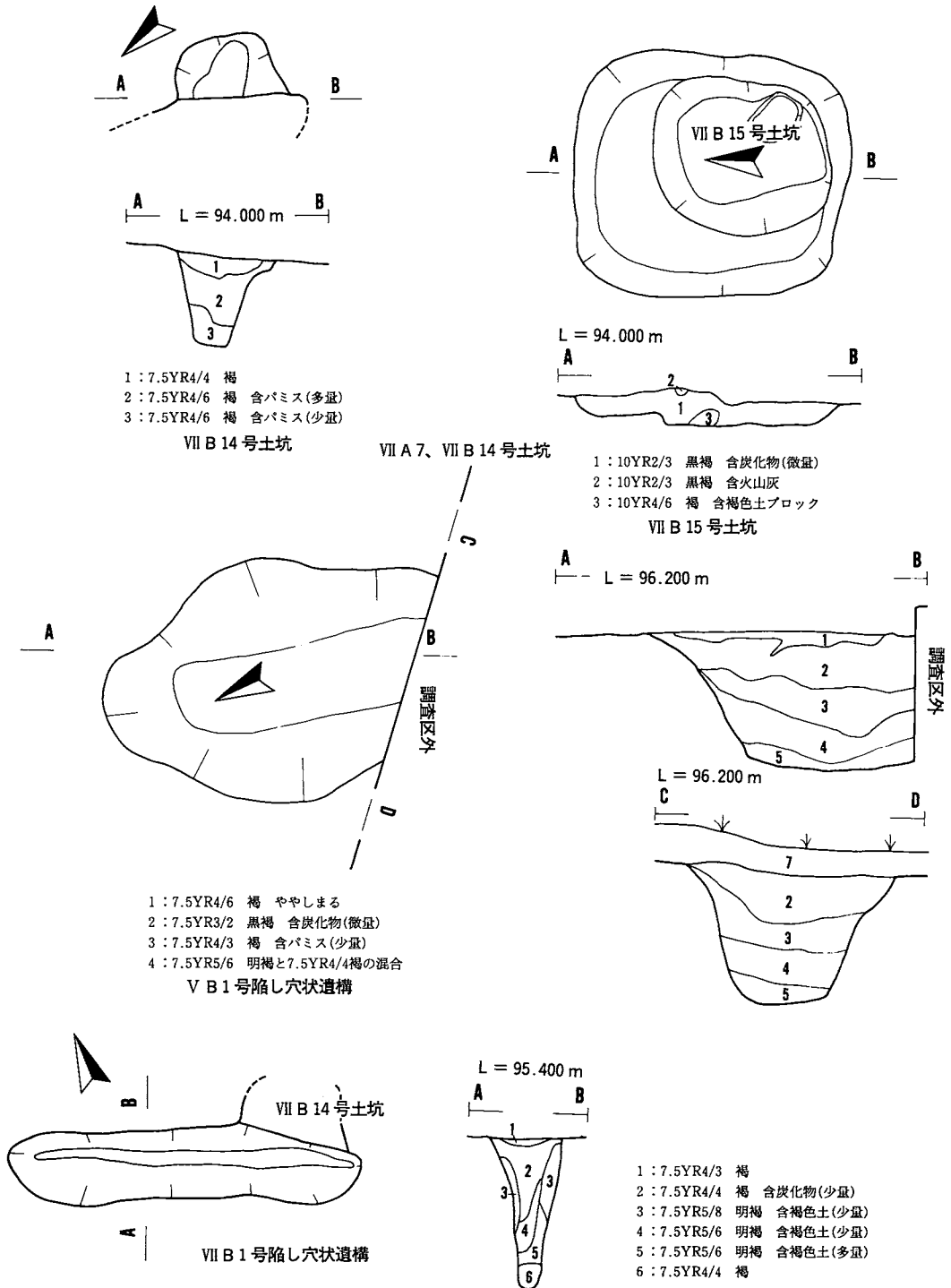
遺構（第78図、写真図版60）

上位面の北西部に位置し、V B 1号工房跡の西5 mにあり、南側は調査区外へ続く。平面形は溝状を呈し、長軸はN-18°-Eである。規模は開口部径が長軸方向が190 cm以上、短軸方向が116 cm、底部径が146 cm以上×45 cmで、深さは120 cmである。短軸方向の断面形はV字形である。埋土は5層に細分される。出土遺物はない。

VII B 1号陥し穴状遺構

遺構（第78図、写真図版60）

上位面の南東部に位置し、VII B 5号住居跡の北3 mにある。VII B 14号土坑と重複するが、新



第78図 VII B 14、15号土坑、V B 1、VII B 1号土坑

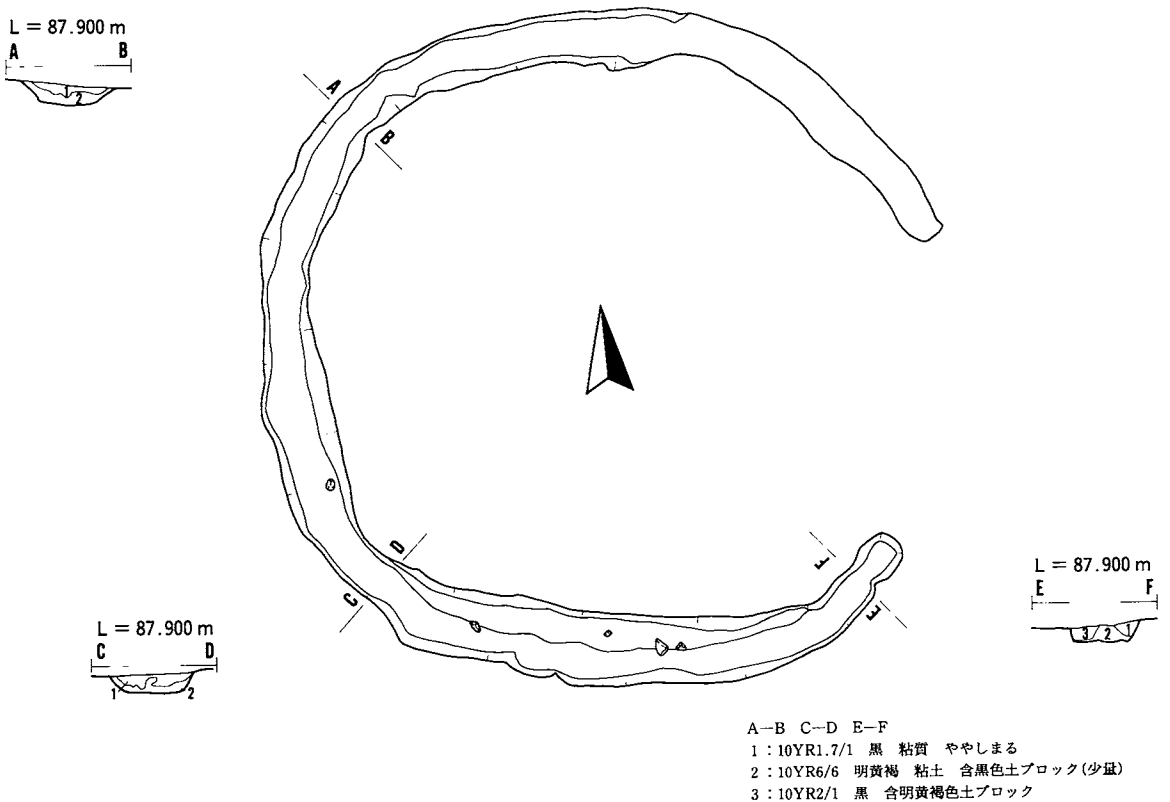
旧関係は不明である。平面形は細長い溝状を呈し、長軸方向はS-68°-Eである。規模は開口部径211 cm×43 cm、底部径180 cm×9 cmで、深さは中心部で91 cmである。底面は西側に傾き、比高差は17 cmである。短軸方向の断面形はV字形である。埋土は6層に細分される。出土遺物はない。

(8) 周溝

IV B 1号周溝

遺構 (第79図、写真図版61)

下位面の北西部に位置する。平面形は馬蹄形で、東側に開口部を持つ。溝の断面形は平底ぎみで、壁は緩く外傾して立ち上がる。規模は径22.7 m×22.1 mで、溝の幅は開口部で123 cm~61 cm、底部で76 cm~38 cm、深さは41 cm~10 cm程度である。底面は地山IV層を掘り込んでいる。埋土は3層に分けられ黒色土主体であるが、部分的に明黄褐色土が混じる。出土遺物はない。



第79図 IV B 1号周溝

V B 1号周溝

遺構 (第 80 図、写真図版 62)

上位面の北西部に位置し、V B 1号工房跡の北 10 m にある。平面形は楕円形で開口部はない。規模は規模は径 5.4 m×2.5 m で、溝の幅は開口部で 56 cm~22 cm、底部で 27 cm~12 cm、深さは 33 cm~19 cm 程度である。底面はIV層を掘り込んでいる。埋土は 4 層に分けられ、暗褐色土を主体であるが、部分的に浮石が混じる。出土遺物はない。

VIA 1号周溝

遺構 (第 80 図、写真図版 63)

調査区の上位面の北東部に位置し、VIA 区、VIB 区、VIIA 区、VII B 区の境界にある。VIA 1号土坑、VIA 2号土坑、VIIA 1号土坑、VII B 1号土坑と重複し、これらよりも新しい。二度にわたって作り替えられており、外側のほうが新しい。平面形は内側が隅丸方形で、外側が楕円形である。規模は内側が径 4.2 m×4.1 m、外側が径 6.6 m×5.5 m で、溝の幅は外側が開口部で 147 cm~88 cm、底部で 78 cm~31 cm、内側は外側に切られているために明確でないが、開口部で 85 cm~60 cm、底部で 35 cm~28 cm、深さは 40 cm~20 cm と推定される。底面はIV層を掘り込んでいる。埋土は 7 層に細分される。出土遺物はない。

(9) 溝跡

1号溝跡

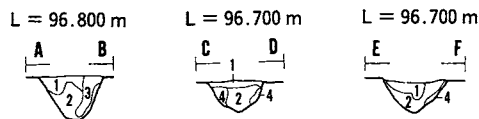
遺構 (第 81、82 図、写真図版 64、65)

調査区の下位面の西端に位置し、III B 区をほぼ南北に切る。III B 5号住居跡と重複し、これよりも新しい。規模は長さ約 46 m で、幅は開口部で 60 cm、深さは 25 cm である。埋土はほぼ単層である。出土遺物はない。

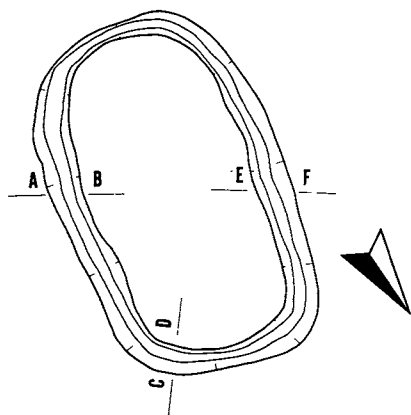
2号溝跡

遺構 (第 81、82 図、写真図版 64、65)

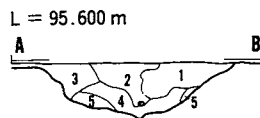
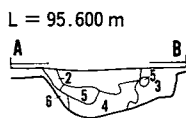
調査区の下位面の西端に位置し、1号溝跡の東 13 m にある。1号溝跡とほぼ並行し、III B 区を南北に切る。規模は長さ約 49 m で、幅は開口部で 75 cm、深さは 25 cm である。残存状況は不良である。出土遺物はない。



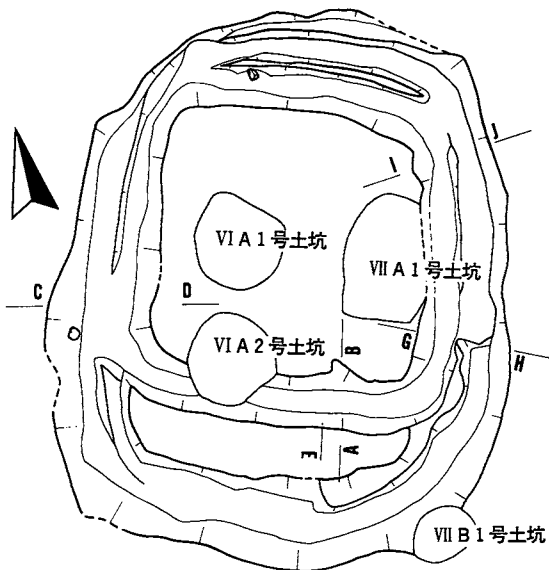
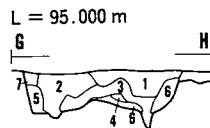
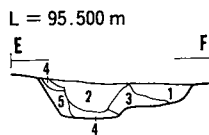
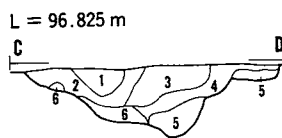
- A-B C-D E-F
 1 : 7.5YR3/3 暗褐
 2 : 7.5YR3/4 暗褐 含バミス(少量)
 3 : 7.5YR3/4 暗褐 含バミス(多量)
 4 : 7.5YR5/6 明褐 粘質



VB1号周溝



- A-B
 1 : 10YR2/1 黒 含焼土粒、炭化物(微量)
 2 : 10YR3/2 黒褐
 3 : 10YR3/4 暗褐
 4 : 10YR3/3 暗褐 含炭化物(微量)
 5 : 7.5YR5/6 明褐 粘質
 6 : 10YR5/8 黄褐 含浮石
 C-D
 1 : 10YR3/2 黒褐 粘質
 2 : 10YR3/2 黒褐 含バミス
 3 : 10YR3/3 暗褐 含バミス、炭化物(微量)
 4 : 10YR2/3 黒褐 含バミス
 5 : 10YR2/3 黒褐 含黄褐色土ブロック
 6 : 10YR5/6 黄褐 粘質 含黒褐色土
 E-F
 1 : 10YR2/3 黒褐
 2 : 10YR3/3 暗褐
 3 : 10YR3/4 暗褐 含バミス
 4 : 10YR3/4 暗褐 含黄褐色土
 5 : 10YR5/6 黄褐と10YR3/2黒褐の混合
 G-H
 1 : 10YR2/3 黒褐 含黄褐色土ブロック
 2 : 10YR3/2 黒褐
 3 : 10YR3/3 暗褐 含黄褐色土ブロック
 4 : 10YR4/4 褐と10YR3/4暗褐の混合
 5 : 10YR4/6 褐と10YR3/2黒褐の混合
 6 : 10YR5/6 黄褐 粘質
 7 : 10YR3/2 黒褐 含浮石(微量)
 I-J
 1 : 10YR2/3 黒褐
 2 : 10YR2/3 黒褐 含バミス
 3 : 10YR3/4 暗褐 含黄褐色土、浮石
 4 : 10YR4/4 褐 含黄褐色土ブロック
 5 : 10YR5/6 黄褐



VIA1号周溝

第80図 VB1、VIA1号周溝

3号溝跡

遺構（第 81、82 図、写真図版 65）

調査区の下位面の中央部に位置し、IV A 区をほぼ南北に切り、IV B 区に続く。北端で 5 号溝跡と、南端で 6 号溝跡と重複するが、ほとんど同時に掘り込まれたものと推定される。中間にあたる部分は、重機による削平をうけて消失しており、残存状況は不良である。規模は消失部分も含めて約 28 m であり、幅は開口部で 40 cm、深さは 10 cm である。埋土はほぼ単層である。出土遺物はない。

4号溝跡

遺構（第 81、82 図、写真図版 65）

調査区の下位面の中央部に位置し、IV A 区の西端にある。IV B 区を南北に切っていたものと推定されるが、重機による削平をうけ、残存状況は不良である。規模は長さ 5 m で、幅は開口部で 25 cm、深さは 10 cm 以下である。埋土はほぼ単層である。出土遺物はない。

5号溝跡

遺構（第 81、82 図、写真図版 65）

調査区の下位面の東半に位置し、IV A 区をほぼ東西に切る。4 号溝跡と重複するが、ほとんど同時に掘り込まれたものである。規模は長さ約 38 m で、幅は開口部で 40 cm、深さは 10 cm 以下である。埋土はほぼ単層である。出土遺物はない。

6号溝跡

遺構（第 81、82 図、写真図版 65）

調査区の下位面の南端に位置し、屈曲しながら、IV B 区南の調査区外から V A 区北の調査区外まで続く。IV A 区の南端では 2 条に分かれ、分かれた北側の 1 条は矩形を描いたのち、再び直線的に伸びた南側の 1 条と合流する。規模は長さ 81 m で、幅は開口部で 90 cm～40 cm、深さは 30 cm～25 cm である。埋土は 2 層に分けられ、暗褐色土主体である。出土遺物はない。

7号溝跡

遺構（第 81、82 図、写真図版 65）

調査区の下位面の南端に位置し、IV B 区西の調査区外から V A 区東の調査区外までを直線的に東西に切る。IV B 区の中央で 6 号溝跡と合流したのち、北に向かう 6 号溝跡から分かれて西に向かい、9 号溝跡と交差する。規模は長さ 84 m で、幅は開口部で 70 cm、深さは 55 cm である。

埋土は2層に分けられ、暗褐色土主体である。出土遺物はない。

8号溝跡

遺構（第81、82図、写真図版65）

調査区の下位面の南西端に位置し、IVB区のほぼ中央にある。6号溝跡と10号溝跡をつないでいる。規模は長さ9mで、幅は開口部で60cmである。出土遺物はない。

9号溝跡

遺構（第81、82図、写真図版65）

調査区の下位面の東端に位置し、VA区をほぼ南北に切る。7号溝跡と交差するが、ほとんど同時に掘り込まれたものと推定される。中間にあたる部分は、重機による削平をうけて消失しており、残存状況は不良である。規模は消失部分も含めて約15mであり、幅は開口部で30cmである。出土遺物はない。

10号溝跡

遺構（第81、82図、写真図版65）

調査区の下位面の南端に位置し、上位面の縁辺部に沿ってIVB区、VB区、VA区をほぼ東西に切る。西端で6号溝跡と交差するが、ほとんど同時に掘り込まれたものと推定される。規模は長さ74mで、幅は開口部で50cm、深さは24cmである。埋土は2層に分けられ、暗褐色土主体である。出土遺物はない。

11号溝跡

遺構（第83図、写真図版66）

調査区の上位面の西端に位置し、VB1号円形周溝の南4mにある。東に9mほどのびたのち大きく南に弧を描いて曲がる。規模は長さ15mで、幅は開口部で55cm、深さは10cm以下である。埋土は2層に分けられ、暗褐色土主体である。出土遺物はない。

12号溝跡

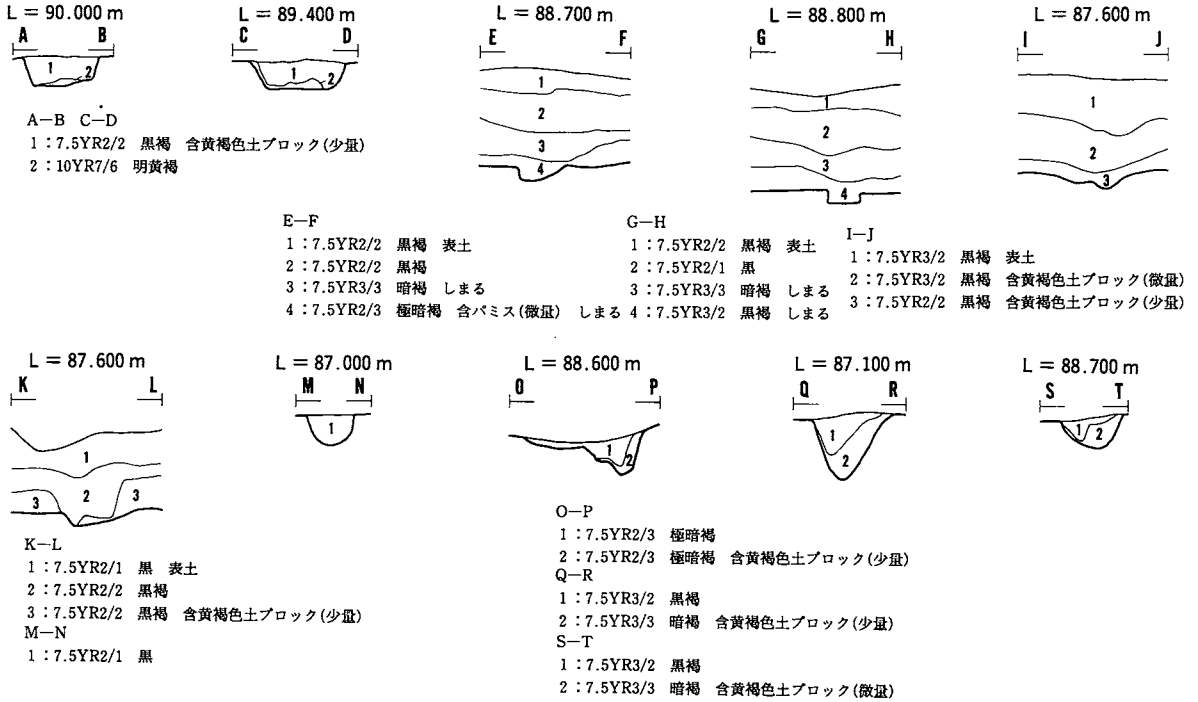
遺構（第83図、写真図版66）

調査区の上位面の西北端に位置し、VB1号円形周溝の南西6mにある。形状は逆S字形を呈するが、残存状況は不良である。規模は長さ約6mで、幅は開口部で20cm、深さは10cm以下である。出土遺物はない。

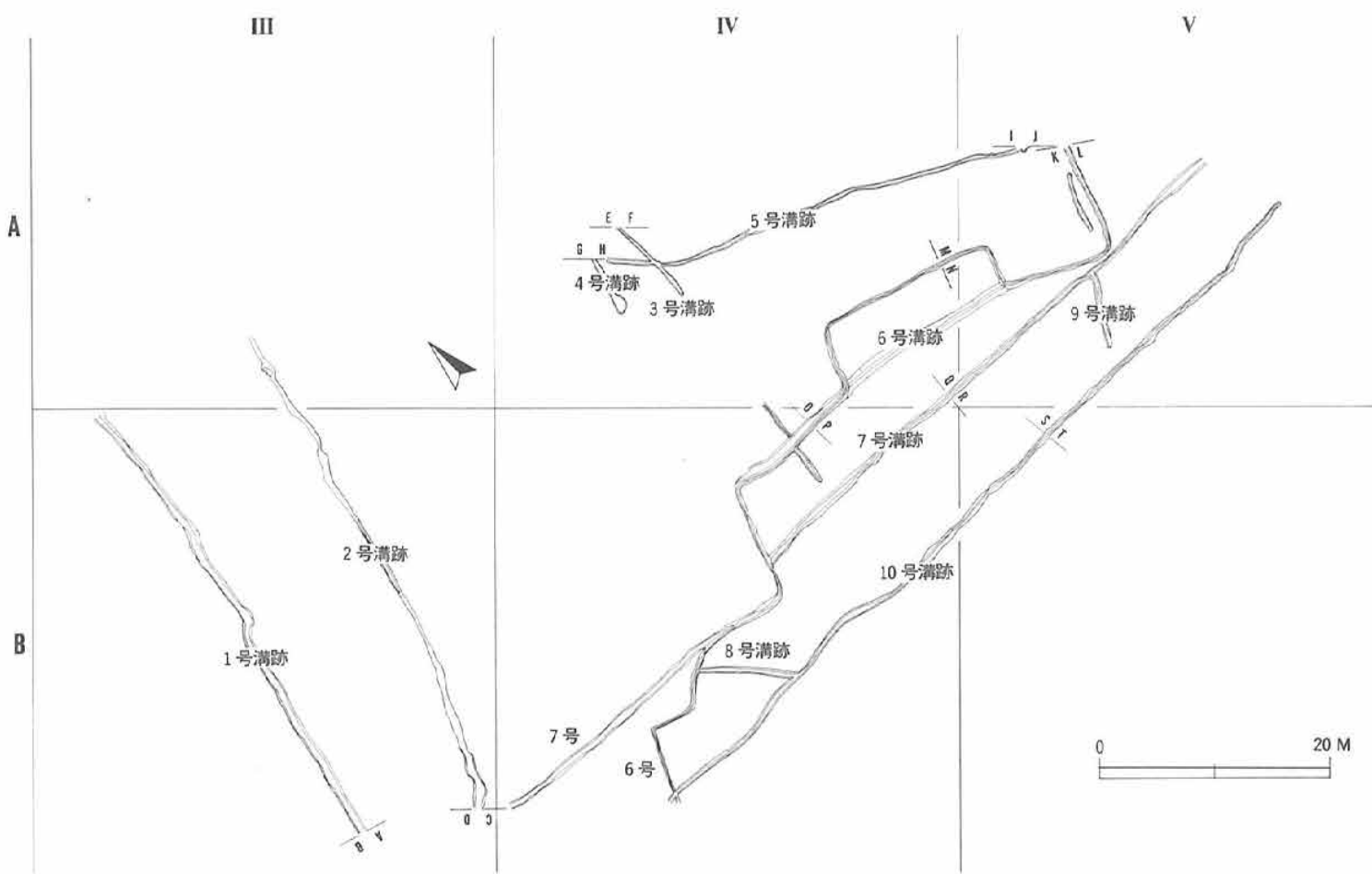
13号溝跡

遺構 (第83図、写真図版66)

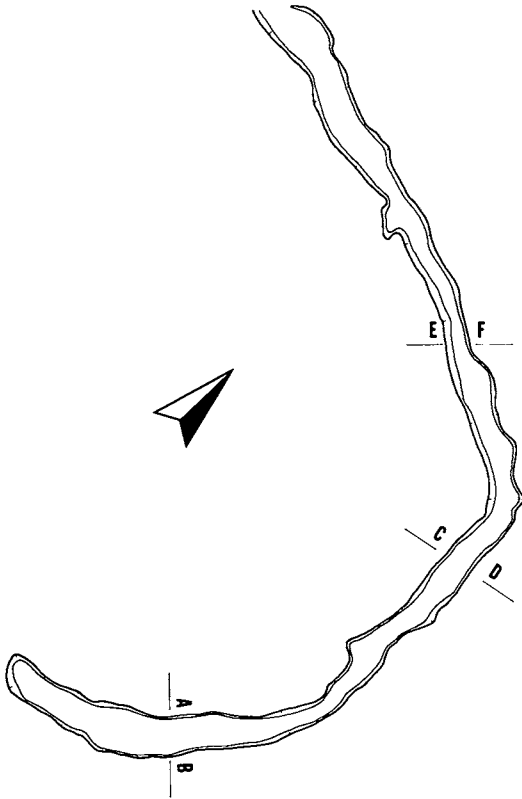
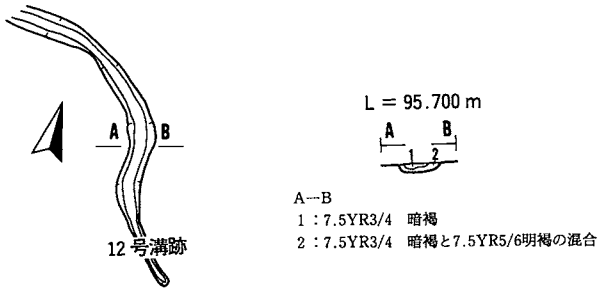
調査区の上位面の東端に位置し、VII B区の調査区外からVII A区の縁辺部に続く。VII B 4号住居跡、VII B 9号土坑と重複し、これらよりも新しい。規模は長さ24 m、幅は開口部で35 cm、深さは10 cmである。埋土は3層に分けられ、暗褐色土主体である。出土遺物はない。



第81図 1~10号溝跡 断面



第 82 图 1~10 号沟迹 平面



L = 95.500 m

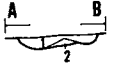


L = 95.500 m

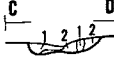


A—B C—D
 1 : 10YR2/2 黒褐
 2 : 10YR4/6 褐
 3 : 10YR2/3 黒褐

L = 96.200 m



L = 96.200 m

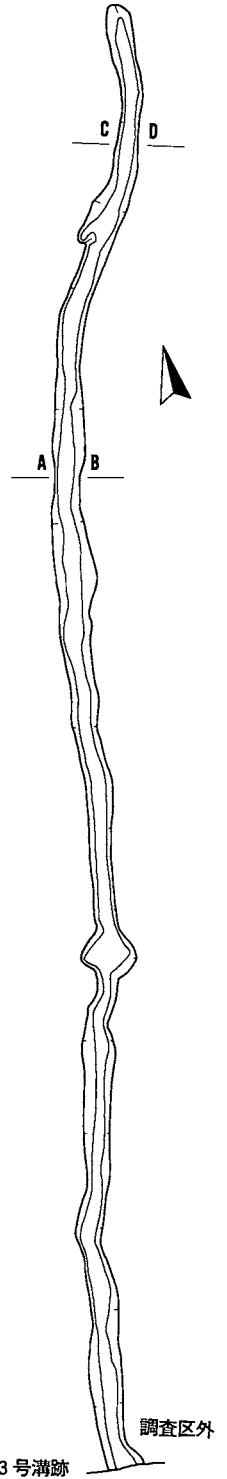


L = 96.200 m

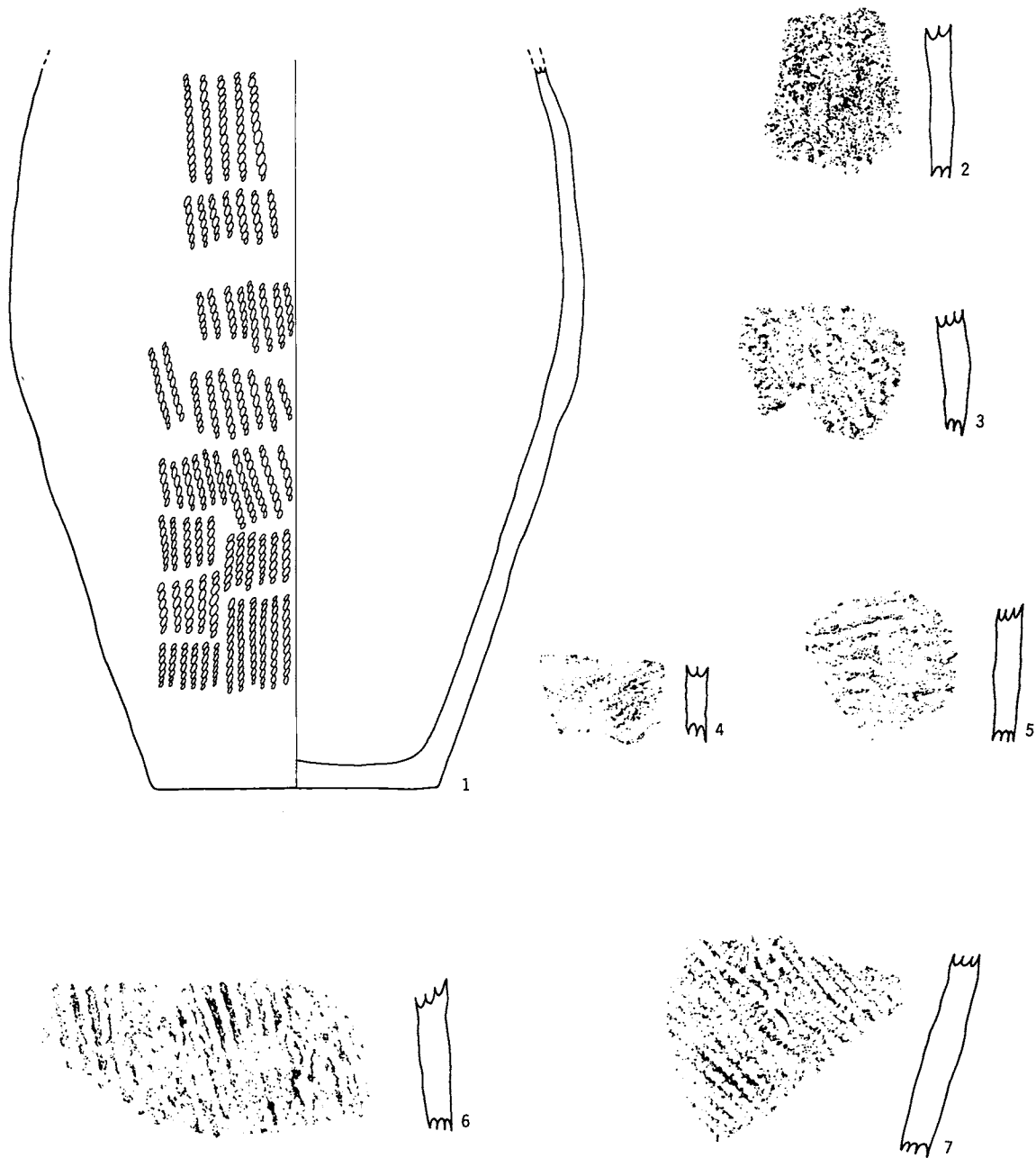


A—B C—D E—F
 1 : 7.5YR3/3 暗褐
 2 : 7.5YR5/6 明褐 粘質

11号溝跡

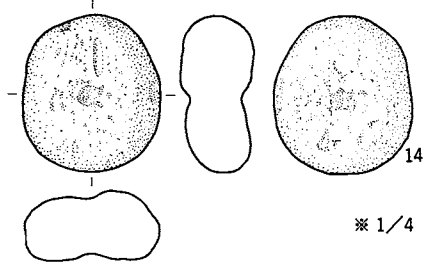
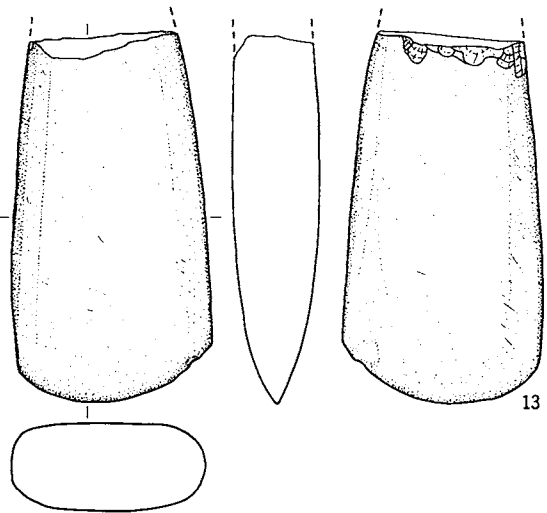
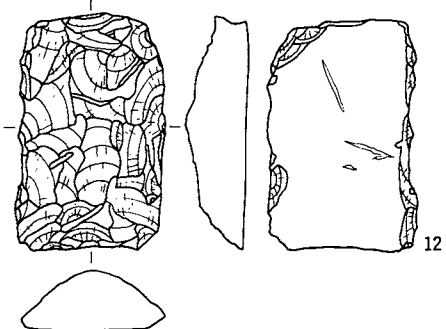
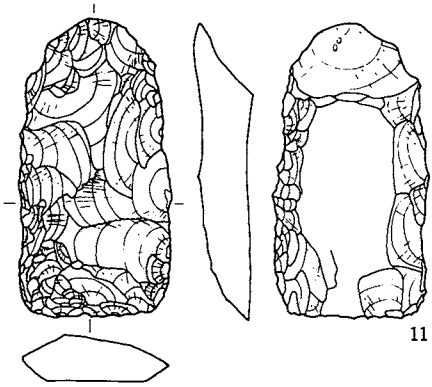


第 83 図 11・12・13号溝跡



NO.	登録番号	遺構・地点・層位	器種	部位	器形 / 外面	分類	写真図版
1	206	VIB 3 住	深鉢	完形	燃糸文	II	328
2	208	VIB 3 住埋土	深鉢	胴部	斜行縄文 摩耗が著しい	II	328
3	211	VIB 3 住埋土	深鉢	胴部	斜行縄文	II	328
4	209	VIB 3 住埋土	深鉢	胴部	燃糸文	II	328
5	210	VIB 3 住埋土	深鉢	胴部	燃糸文	II	328
6	212	VIB 3 住埋土	深鉢	胴部	燃糸文	II	328
7	213	VIB 3 住埋土	深鉢	胴部	斜行縄文	II	328

第 84 図 遺構内出土遺物—1

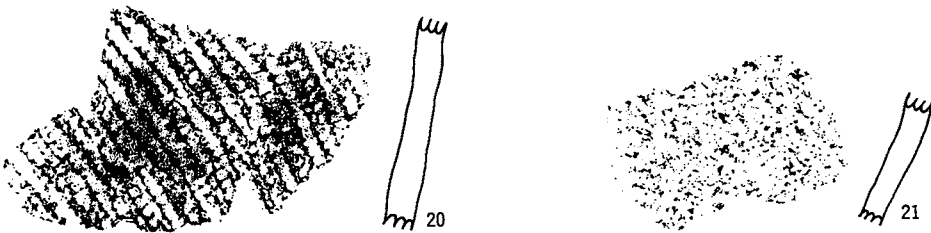
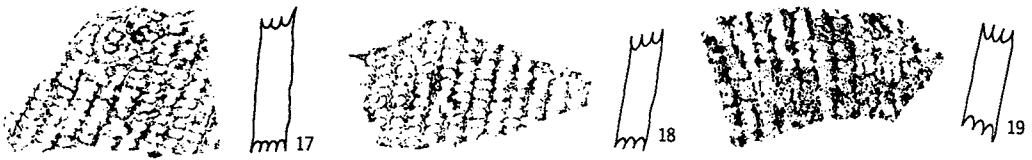
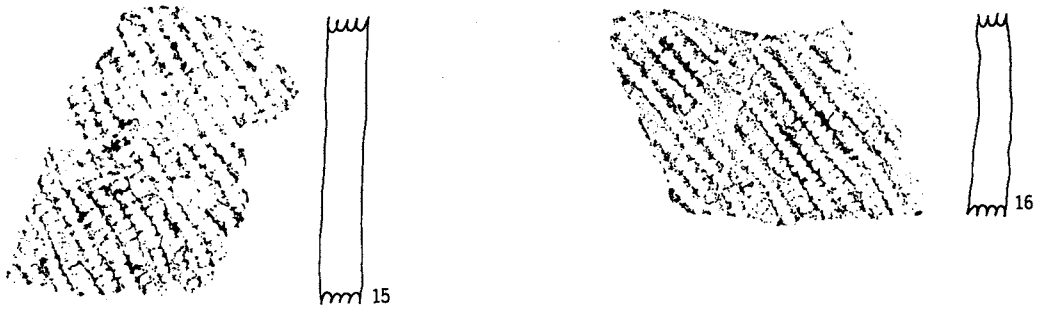


※ 1/4

NO.	登録番号	遺構・地点・層位	器種	部位	器形 / 外面	分類	写真図版
8	214	VIB 3 住埋土	深鉢	胴部	斜行細文	II	328
9	215	VIB 3 住埋土	深鉢	胴部	擦糸文	II	328
10	216	VIB 3 住埋土	深鉢	口縁	擦糸文	II	328

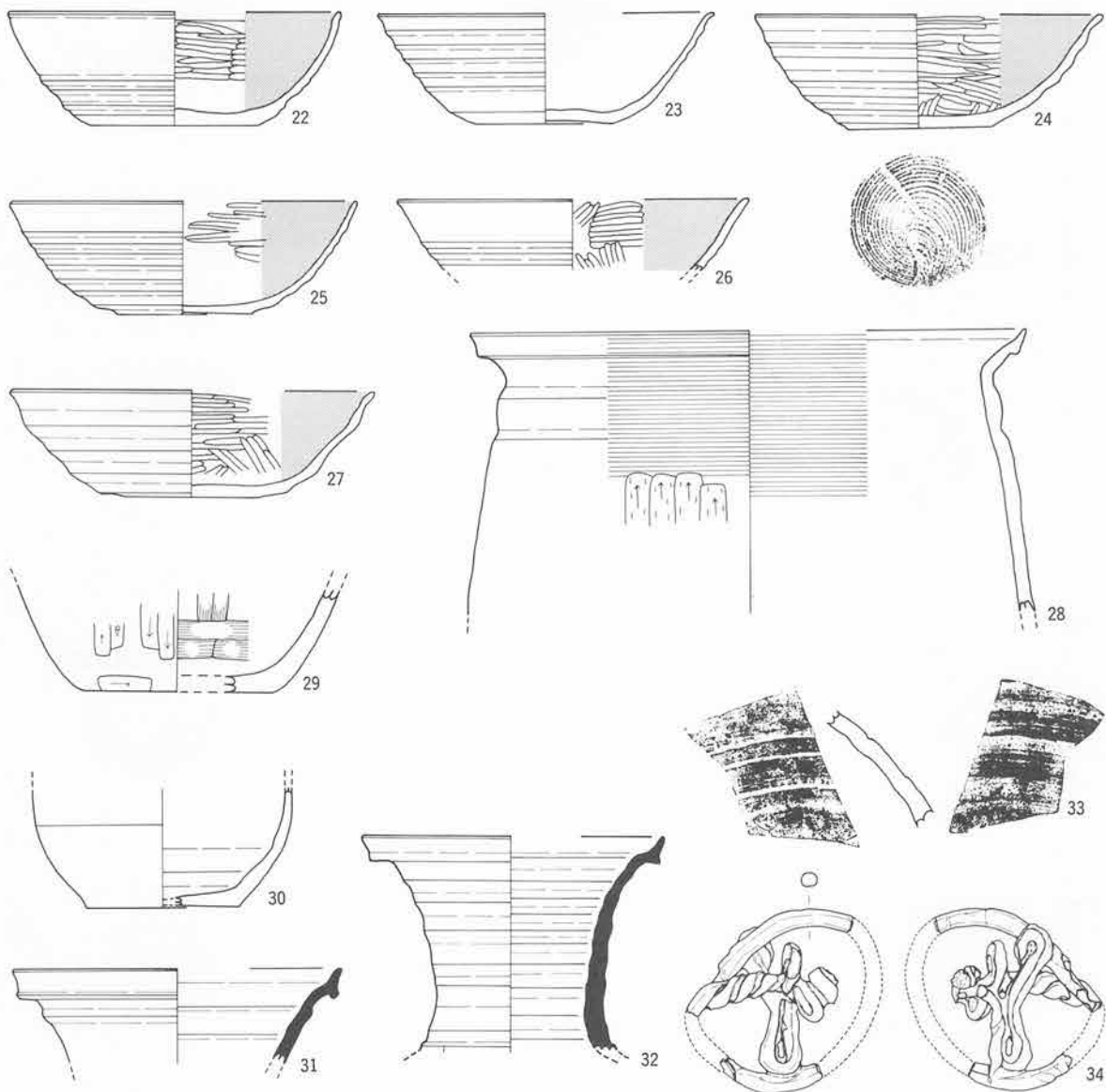
NO.	登録番号	遺構・地点・層位	器種	長さ	幅	厚さ	重量	石質	産地	生成年代	写真図版
11	L 9	VIB 3 住埋土	石笥	8.0	4.0	1.4	51.2	珪質細粒凝灰岩	奥羽山地	新第3系中新統	329
12	L 10	VIB 3 住埋土	不定形石器	6.3	4.0	1.6	51.9	粘板岩	北上山地	古生界	329
13	L 11	VIB 3 住埋土	石斧	9.9	5.3	1.3	246	淡緑色凝灰岩	奥羽山地	新第3系中新統	329
14	L 12	VIB 3 住埋土	凹石	8.4	7.3	3.9	221	安山岩熔岩	焼石岳火山群	第4系	329

第 85 図 遺構内出土遺物-2



NO.	登録番号	遺構・地点・層位	器種	部位	器形 / 外面	分類	写真図版
15	228	VIIA 2 住埋土	深鉢	胴部	斜行縄文	II	329
16	229	VII B 2 住埋土	深鉢	胴部	斜行縄文	II	329
17	230	VIIA 2 住埋土	深鉢	胴部	斜行縄文	II	329
18	232	VIIA 2 住埋土	深鉢	胴部	斜行縄文	II	329
19	234	VIIA 2 住埋土	深鉢	胴部	斜行縄文	II	329
20	233	VIIA 2 住埋土	深鉢	胴部	斜行縄文	II	329
21	231	VIIA 2 住埋土	深鉢	胴部	斜行縄文	II	329

第 86 図 遺構内出土遺物—3

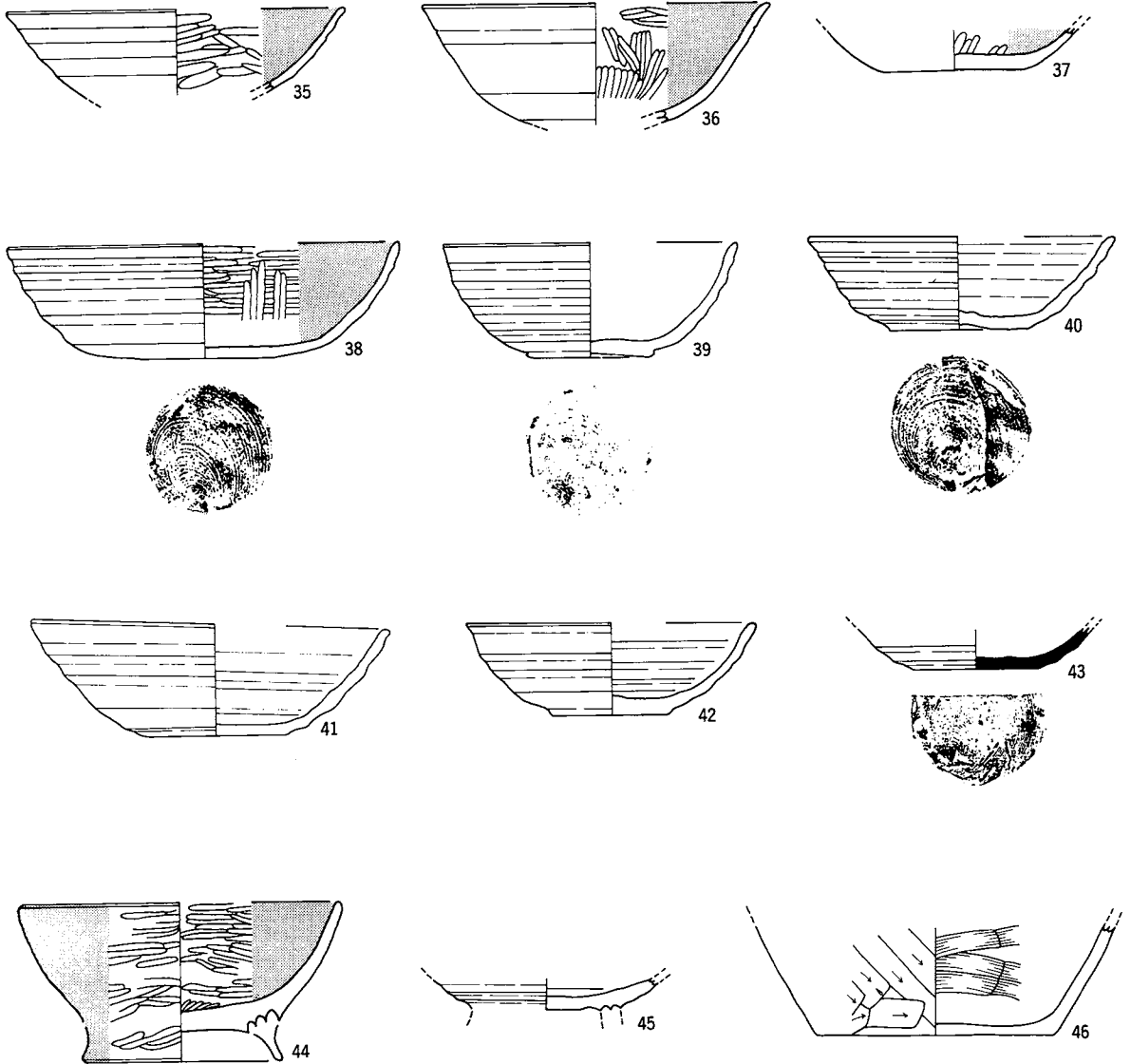


No	登録番号	遺構・地点・層位	種類・器種	外面調整			内面調整		計測値: cm			備考	分類	写真図版
				口縁	胴部	底部	調整	面色処理	口径	底径	器高			
22	2	II B 1 住床面	土師 坏	なし	なし	なし	M	○	14.2	7.0	4.8		I A	330
23	4	II B 1 住床面	土師 坏	なし	なし	なし	なし	×	14.3	6.0	4.6		II b	330
24	9	II B 1 住床面	土師 坏	なし	なし	なし	M	○	14.8	6.0	5.0		I A	330
25	1	II B 1 住埋土	土師 坏	なし	なし	なし	M	○	14.8	5.8	4.8		I A	330
26	3	II B 1 住埋土	土師 坏	なし	なし	なし	M	○	15.0	—	—		I A	330
27	10	II B 1 住埋土	土師 坏	なし	なし	なし	M	○	15.6	6.0	4.5		I A	—

No	登録番号	遺構地点層位	種類・器種	器面調整: 外面			器面調整: 内面			底部			計測値: cm			備考	分類	写真図版
				口縁	体上	体下	口縁	体上	体下	外面	口径	底径	器高					
28	6	II B 1 住カマド	土師 甕	YN	HK	—	YN	YN	—	—	23.6	—	—		II B-a	330		
29	7	II B 1 住床面	土師 甕	—	—	HK	—	—	HN	HK	—	8.2	—	胎土疎	—	330		
30	5	II B 1 住床面	土師 鉢	—	—	なし	—	—	なし	K I	—	6.4	—	—	—	—		
31	8	II B 1 住床面	須恵 壺	なし	—	—	なし	—	—	—	14.0	—	—	長頸壺	—	—		
32	11	II B 1 住埋土	須恵 壺	なし	—	—	なし	—	—	—	12.8	—	—	長頸壺	—	330		
33	12	II B 1 住埋土	須恵 壺	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	肩部	—	—		

No	登録番号	遺構・地点・層位	器種・部位	長さ	幅	厚さ	重量	特徴・備考	分類	写真図版

第 87 図 遺構内出土遺物—4

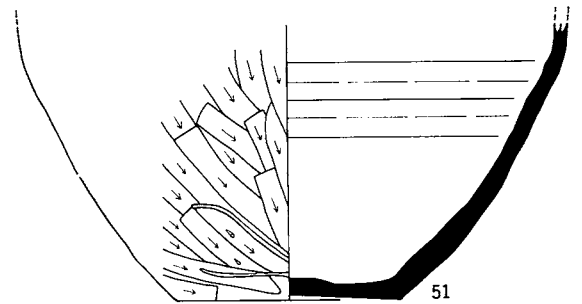
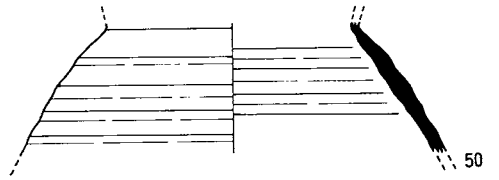
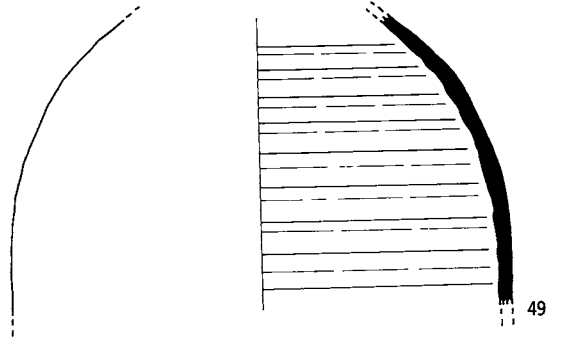
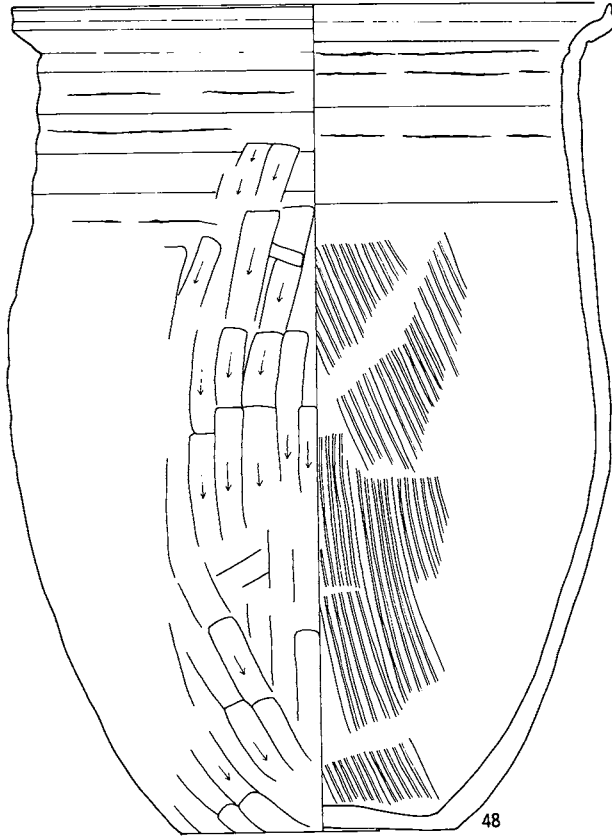
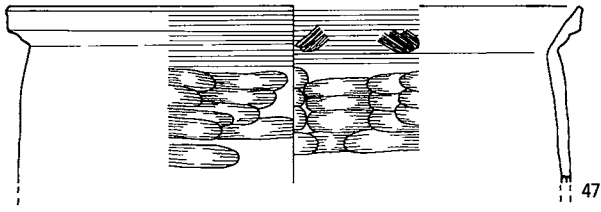


No	登録番号	遺構・地点・層位	種類・器種	外面調整			内面調整		計測値: cm			備考	分類	写真図版
				口縁	胴部	底部	調整	黒色処理	口径	底径	器高			
35	13	II B 2 住埋土	土師 坏	なし	なし	-	M	○	14.3	-	-		I A	330
36	14	II B 2 住埋土	土師 坏	なし	なし	-	M	○	14.6	-	-		I A	330
37	15	II B 2 住埋土	土師 坏	-	-	K I	M	○	-	6.0	-		I A	-
38	26	II B 2 住埋土	土師 坏	なし	なし	K I	M	○	16.4	5.6	4.8		I A	330
39	16	II B 2 住埋土	土師 坏	なし	なし	K I	なし	×	12.4	5.3	4.8		II b	330
40	29	II B 2 住埋土	土師 坏	なし	なし	K I	なし	×	12.9	5.8	4.0		II b	330
41	28	II B 2 住埋土	土師 坏	なし	なし	K I	なし	×	15.1	6.0	6.0		II b	330
42	30	II B 2 住埋土	土師 坏	なし	なし	K I	なし	×	12.2	4.8	3.9		II b	-
43	18	II B 2 住埋土	須恵 坏	-	-	K I	なし	×	-	-	5.3		-	-

No	登録番号	遺構・地点・層位	種類・器種	坏部: cm			坏部内面		台部: cm			備考	分類	写真図版
				口縁	底部	高さ	調整	黒色処理	上部	下部	高さ			
44	27	II B 2 住埋土	土師 高坏	13.6	8.0	5.0	M	○	8.2	8.4	1.7	内外面黒色処理	I B	330
45	17	II B 2 住埋土	土師 高坏	-	5.8	-	なし	×	-	-	-		II	-

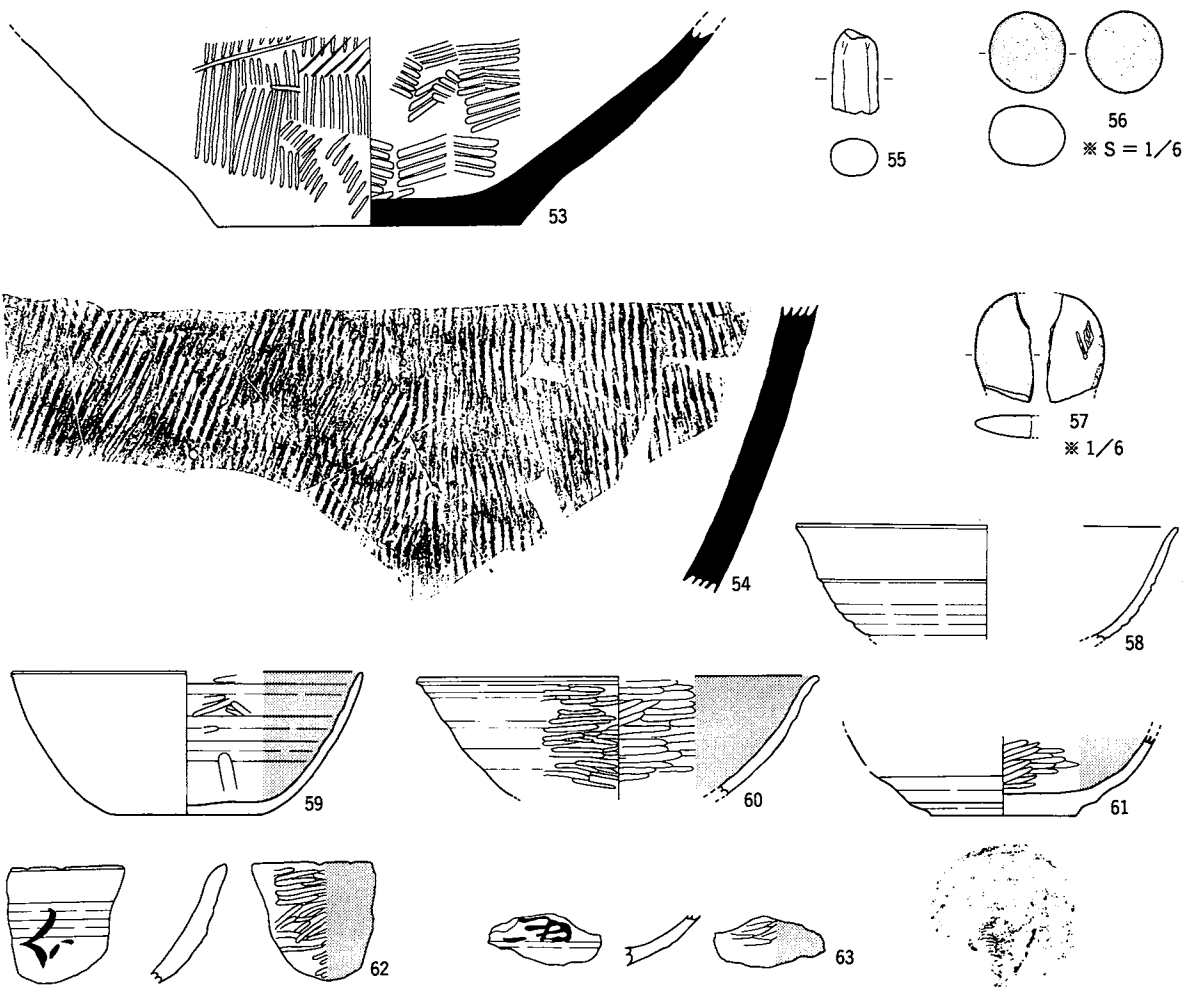
No	登録番号	遺構地点層位	種類・器種	器面調整: 外面		器面調整: 内面		底部		計測値: cm		備考	分類	写真図版	
				口縁	体上	体下	口縁	体上	体下	外面	口径				底径
46	19	II B 2 住埋土	土師 甕	-	-	HK	-	-	HN	HK	-	10.0	-	-	330

第 88 図 遺構内出土遺物—5



NO.	登録番号	遺構・地点・層位	種類・器種	器面調整：外面			器面調整：内面			底部			計測値：cm			備考	分類	写真図版
				口縁	体上	体下	口縁	体上	体下	外面	口径	底部	器高					
47	20	II B 2 住埋土	土師 甕	YN	HN	—	YN	HN	—	—	—	22.8	—	—	—	II A - a	—	
48	31	II B 2 住埋土	土師 甕	YN	HK	HK	YN	HN	HN	HK	—	24.0	11.0	33.1	—	II A - a	331	
49	22	II B 2 住埋土	須恵 壺	—	なし	—	—	なし	—	—	—	—	—	—	—	—	330	
50	24	II B 2 住埋土	須恵 壺	なし	—	—	なし	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
51	21	II B 2 住埋土	須恵 壺	—	—	HK	—	—	なし	HK	—	—	9.0	—	—	—	331	
52	26	II B 2 住埋土	須恵 壺	—	HT	—	—	なし	—	—	—	—	—	—	—	—	焼成不良	—

第 89 図 遺構内出土遺物—6



NO.	登録番号	遺構・地点・層位	種類・器種	器面調整：外面			器面調整：内面			底部	計測値：cm			備考	分類	写真図版
				口縁	体上	体下	口縁	体上	体下		外面	口径	底径			
53	23	II B 2 住埋土	須恵 甕	-	-	HT	-	-	HT	HK	-	12.0	-	-	-	331
54	27	II B 2 住埋土	須恵 甕	-	HT	-	-	HT	-	-	-	-	-	-	-	-

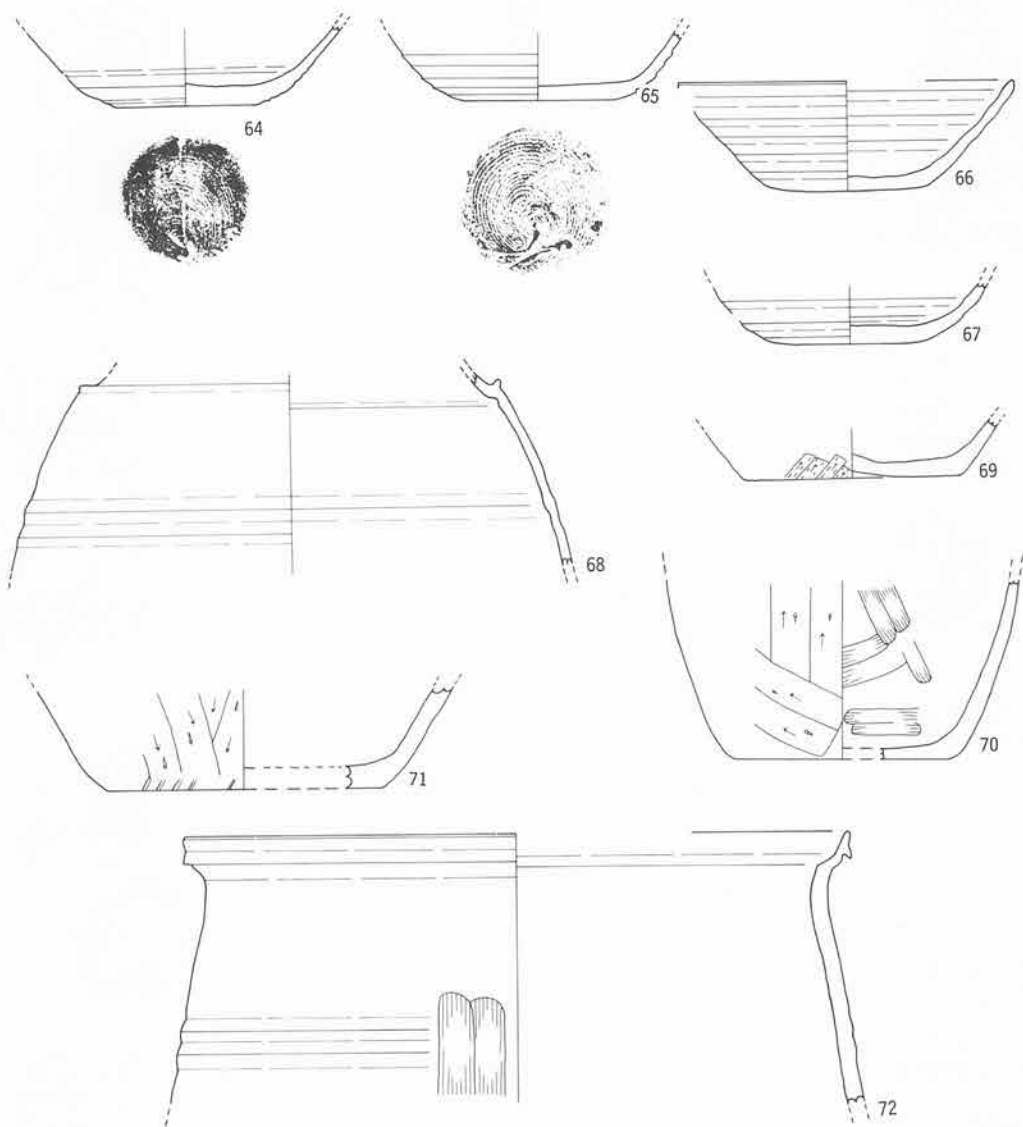
NO.	登録番号	遺構・地点・層位	器種・部位	長さ	幅	厚さ	重量	特徴・備考			写真図版
55	9	II B 2 住埋土	不明								331

NO.	登録番号	遺構・地点・層位	器種	長さ	幅	厚さ	重量	石質	産地	生成年代	写真図版
56	S-1	II B 3 住カマド	不明					軽石質凝灰岩	奥羽山地	新第3系中新統	331
57	S-2	II B 3 住カマド	不明					淡緑色凝灰岩	奥羽山地	新第3系中新統	331

NO.	登録番号	遺構・地点・層位	種類・器種	窯式	年代	計測値：cm			特徴・備考	写真図版
						口径	底径	器高		
58	C-1	II B 2 住埋土	緑釉 椀		9世紀前半					カラー2

NO.	登録番号	遺構・地点・層位	種類・器種	外面調整		内面調整		計測値：cm			備考	分類	写真図版	
				口縁	胴部	底部	調整	黒色処理	口径	底径				器高
59	35	II B 3 住埋土	土師 杯	なし	なし	K 1	M	○	14.0	6.0	5.8		I A	331
60	37	II B 3 住埋土	土師 杯	M	M	K 1	M	○	16.0	-	-	内外面黒色処理	I A	331
61	36	II B 3 住埋土	土師 杯	-	-	K 1	M	○	-	5.8	-		I A	331
62	38	II B 3 住埋土	土師 杯	なし	-	-	M	○	-	-	-	曇付	I A	331
63	39	II B 3 住埋土	土師 杯	-	なし	-	M	○	-	-	-	曇付	I A	331

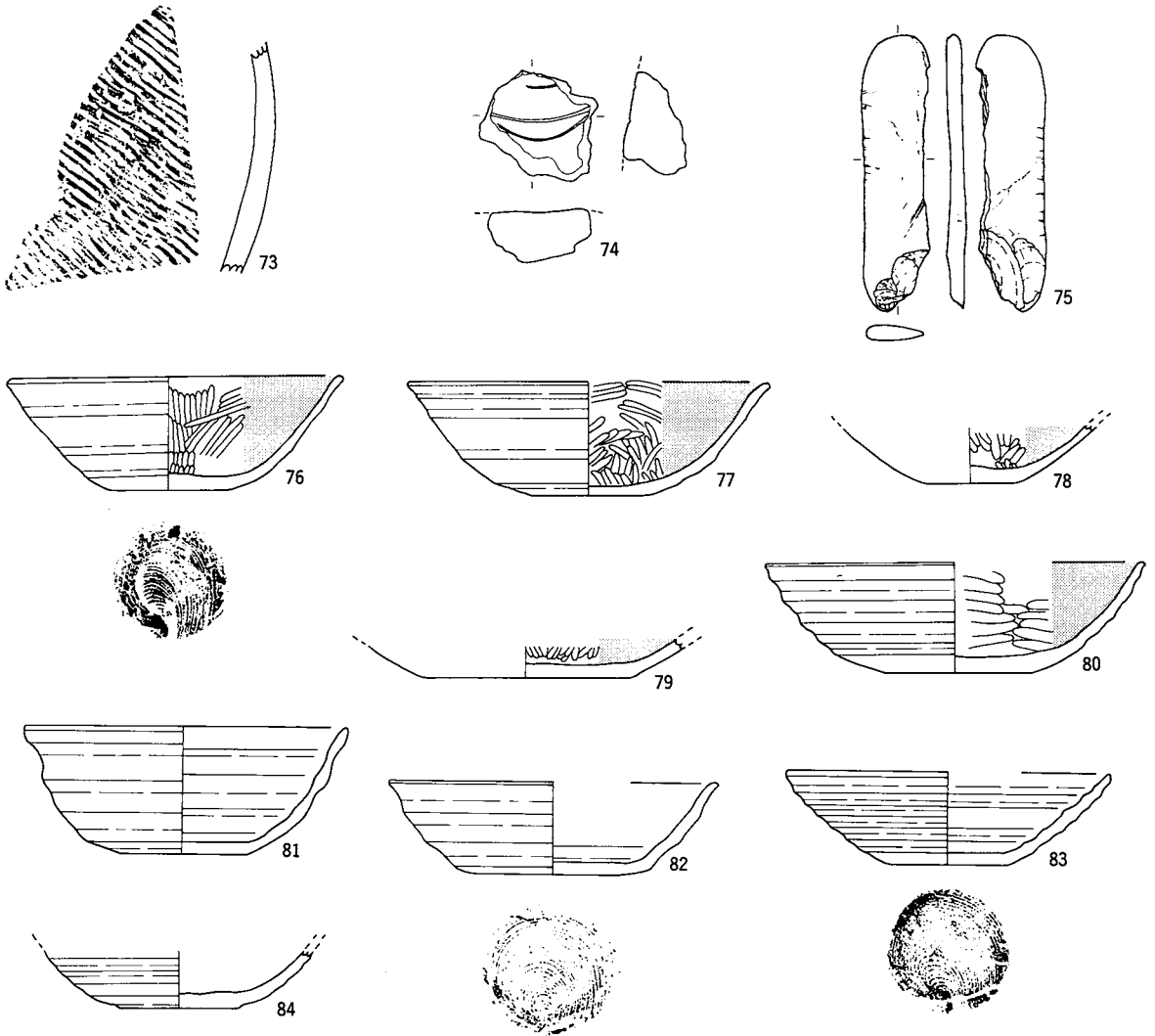
第 90 図 遺構内出土遺物—7



No.	登録番号	遺構・地点・層位	種類・器種	外面調整			内面調整		計測値:cm			備考	分類	写真図版
				口縁	胴部	底部	調整	黒色処理	口径	底径	器高			
64	42	II B 3 住埋土	土師 坏	-	なし	K I	なし	×	-	5.2	3.4		II B	331
65	43	II B 3 住埋土	土師 坏	-	なし	K I	なし	×	-	6.0	-		II B	331
66	41	II B 3 住埋土	土師 坏	なし	なし	K I	なし	×	13.4	6.2	-		II B	-
67	44	II B 3 住埋土	土師 坏	-	なし	K I	なし	×	-	5.2	-		II B	-

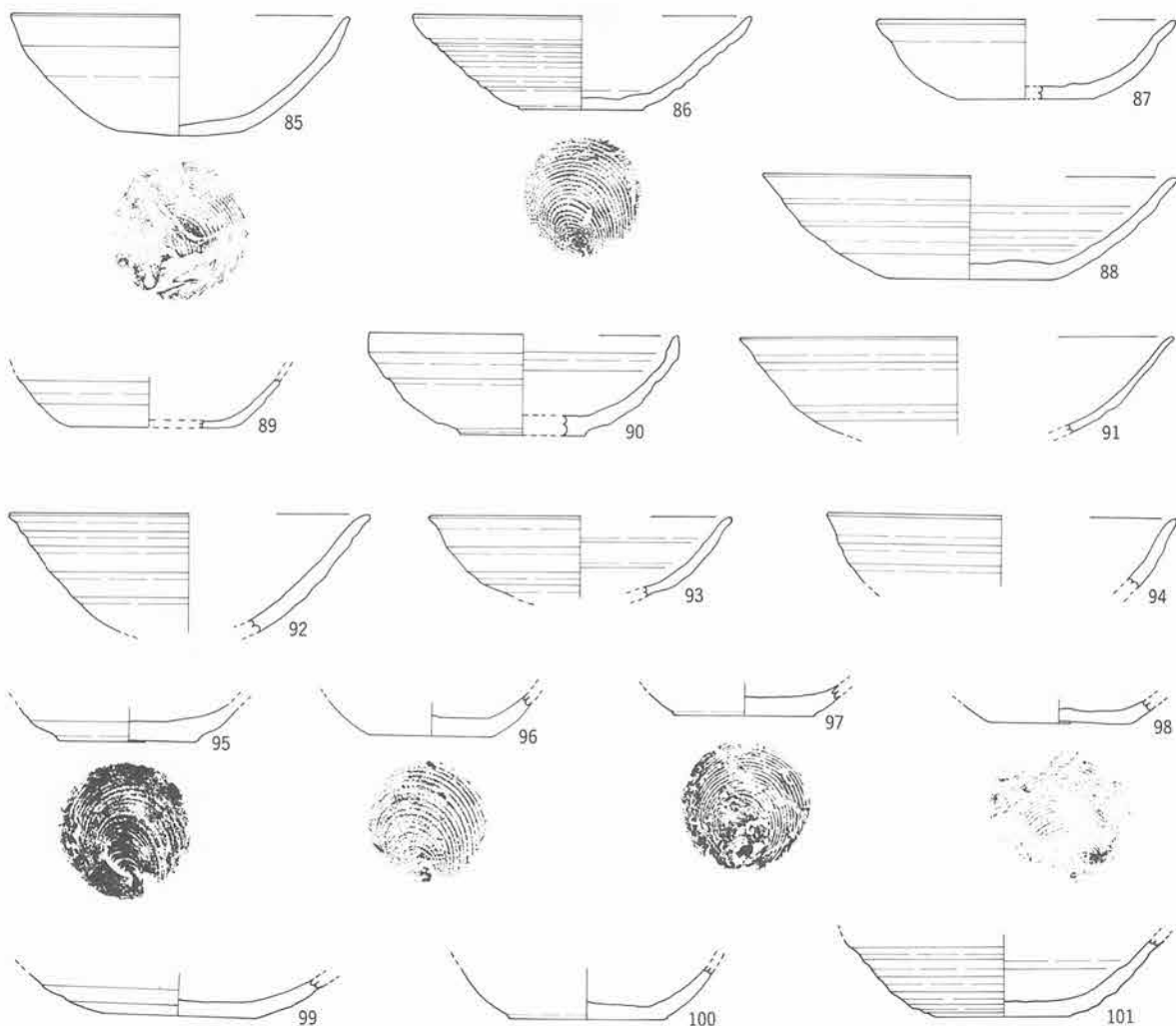
No.	登録番号	遺構地点層位	種類・器種	器面調整:外面			器面調整:内面			底部			計測値:cm			備考	分類	写真図版
				口縁	体上	体下	口縁	体上	体下	外面	口径	底径	器高					
68	46	II B 3 住埋土	土師羽釜	-	なし	-	なし	-	-	-	-	16.8	-	-		-	331	
69	48	II B 3 住埋土	土師 甕	-	-	HK	-	-	なし	HK	-	8.6	-	-		-	-	
70	49	II B 3 住埋土	土師 甕	-	-	HK	-	-	なし	HN	HK	8.6	-	-		-	-	
71	50	II B 3 住埋土	土師 甕	-	-	HK	-	-	なし	HK	-	11.0	-	-		-	-	
72	47	II B 3 住埋土	土師 甕	YN	HN	-	YN	なし	-	-	-	26.4	-	-		II A-a	331	

第 91 図 遺構内出土遺物—8



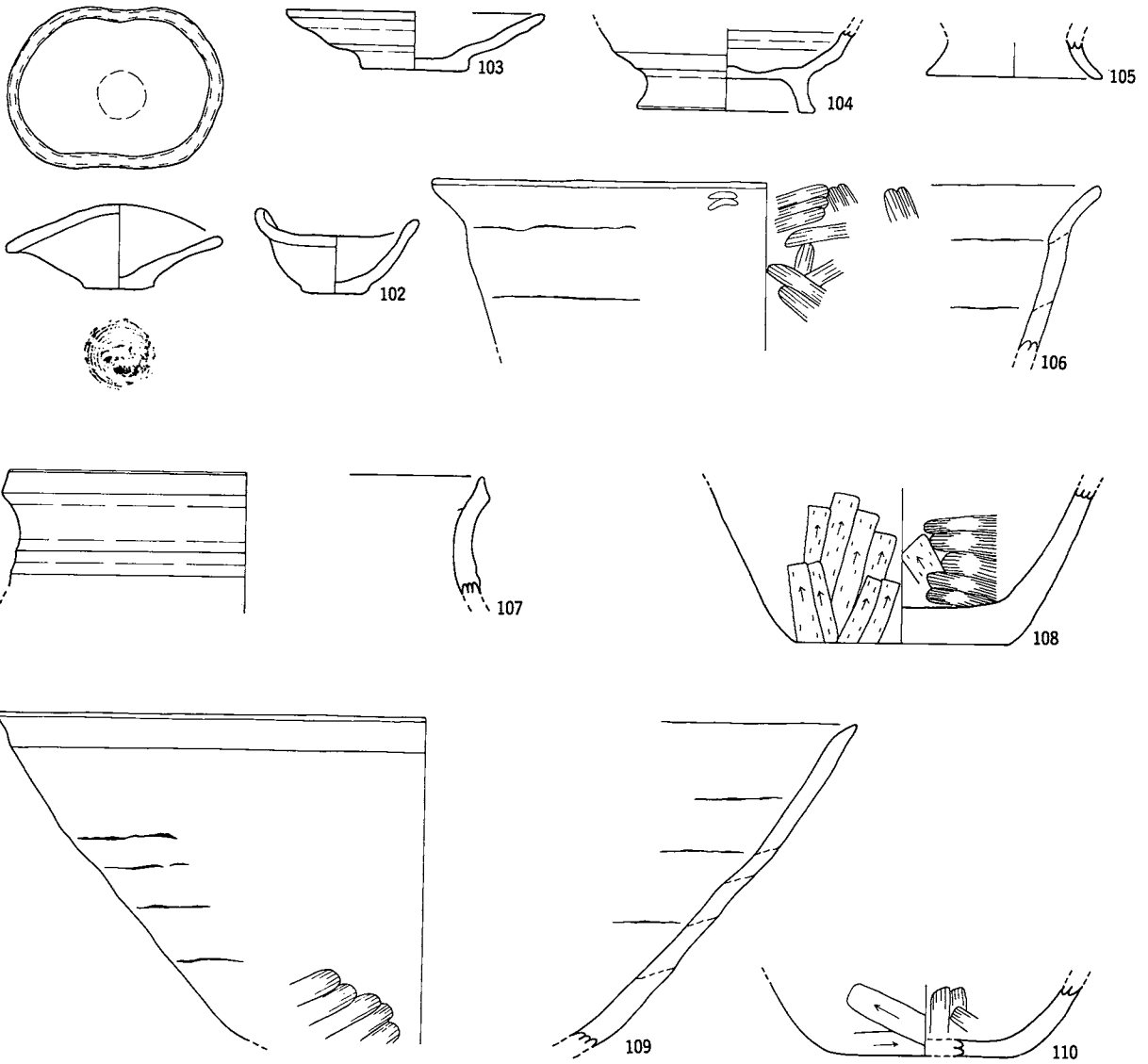
NO.	登録番号	遺構・地点・層位	種類・器種	器面調整：外面			器面調整：内面			底部	計測値：cm			備考	分類	写真図版
				口縁	体上	体下	口縁	体上	体下		外面	口径	底部			
73	51	II B 3 住埋土	須恵 壺	-	H T	-	-	なし	-	-	-	-	-	-	-	-
NO.	登録番号	遺構・地点・層位	器種・部位	長さ	幅	厚さ	重量	特徴・備考					写真図版			
74	17	II B 3 住 P T 1	不明										331			
NO.	登録番号	遺構・地点・層位	器種	長さ	幅	厚さ	重量	石質	産地	生成年代	写真図版					
75	4	II B 3 住埋土	石製品					粘板岩	北上山地	古生界	331					
NO.	登録番号	遺構・地点・層位	種類・器種	外面調整			内面調整		計測値：cm			備考	分類	写真図版		
				口縁	胴部	底部	調整	黒色処理	口径	底径	器高					
76	52	III A 1 住埋土	土師 杯	なし	なし	なし	M	○	13.6	5.0	4.8		I A	332		
77	53	III A 1 住埋土	土師 杯	なし	なし	なし	M	○	14.8	5.0	4.7		I A	332		
78	54	III A 1 住埋土	土師 杯	-	なし	なし	M	○	-	3.8	4.8		I A	-		
79	55	III A 1 住埋土	土師 杯	-	なし	なし	M	○	-	8.4	-		I A	-		
80	56	III A 1 住埋土	土師 杯	なし	なし	なし	M	○	15.6	6.0	4.5		I A	332		
81	57	III A 1 住埋土	土師 杯	なし	なし	なし	なし	×	13.3	5.0	5.2		II b	332		
82	58	III A 1 住埋土	土師 杯	なし	なし	なし	なし	×	13.2	5.5	3.8		II b	332		
83	59	III A 1 住埋土	土師 杯	なし	なし	なし	なし	×	13.2	5.0	3.8		II b	332		
84	62	III A 1 住埋土	土師 杯	-	-	なし	なし	×	-	5.0	-		II b	-		

第 92 図 遺構内出土遺物—9



登録番号	NO.	遺構・地点・層位	種類・器種	外面調整			内面調整		計測値:cm			備考	分類	写真図版
				口縁	胴部	底部	調整	黒色処理	口径	底径	器高			
85	60	ⅢA 1 住埋土	土師 杯	なし	なし	なし	なし	×	13.6	5.5	4.8		Ⅱ b	-
86	61	ⅢA 1 住埋土	土師 杯	なし	なし	なし	なし	×	13.6	5.0	3.8		Ⅱ b	-
87	63	ⅢA 1 住埋土	土師 杯	なし	なし	なし	なし	×	12.0	5.5	3.2		Ⅱ b	332
88	64	ⅢA 1 住埋土	土師 杯	なし	なし	なし	なし	×	16.6	6.6	4.2		Ⅱ b	-
89	66	ⅢA 1 住埋土	土師 杯	なし	なし	なし	M	○	13.6	5.0	4.8		Ⅱ b	-
90	65	ⅢA 1 住埋土	土師 杯	なし	なし	なし	なし	×	12.6	5.0	4.0		Ⅱ b	-
91	67	ⅢA 1 住埋土	土師 杯	なし	なし	-	なし	×	17.4	-	-		Ⅱ b	-
92	68	ⅢA 1 住埋土	土師 杯	なし	なし	-	なし	×	14.4	-	-		Ⅱ b	-
93	69	ⅢA 1 住埋土	土師 杯	なし	なし	-	なし	×	12.2	-	-		Ⅱ b	-
94	70	ⅢA 1 住埋土	土師 杯	なし	なし	-	なし	×	14.0	-	-		Ⅱ b	-
95	71	ⅢA 1 住埋土	土師 杯	-	-	なし	なし	×	-	5.6	-		Ⅱ b	-
96	73	ⅢA 1 住埋土	土師 杯	-	-	なし	なし	×	-	5.0	-		Ⅱ b	-
97	74	ⅢA 1 住埋土	土師 杯	-	-	なし	なし	×	-	5.6	-		Ⅱ b	-
98	76	ⅢA 1 住埋土	土師 杯	-	-	なし	なし	×	-	5.6	-		Ⅱ b	-
99	72	ⅢA 1 住埋土	土師 杯	-	-	なし	なし	×	-	6.0	-		Ⅱ b	-
100	75	ⅢA 1 住埋土	土師 杯	-	-	なし	なし	×	-	5.6	-		Ⅱ b	-
101	80	ⅢA 1 住埋土	土師 杯	-	-	なし	なし	×	-	5.5	-		Ⅱ b	-

第 93 図 遺構内出土遺物—10

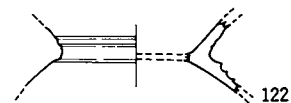
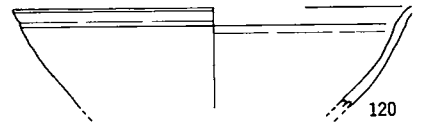
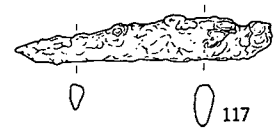
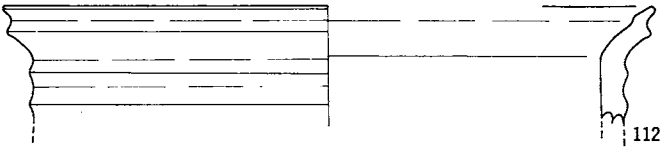
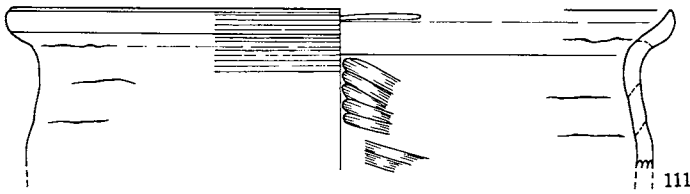


No	登録番号	遺構・地点・層位	種類・器種	外面調整			内面調整		計測値：cm			備考	分類	写真図版
				口縁	胴部	底部	調整	黒色処理	口径	底径	器高			
102	91	III A 1 住埋土	土師 耳皿	なし	なし	なし	なし	×	9.2	3.0	3.6		-	332

No	登録番号	遺構・地点・層位	種類・器種	坏部：cm			坏部内面		台部：cm			備考	分類	写真図版
				口径	底径	高さ	調整	黒色処理	上部	下部	高さ			
103	77	III A 1 住埋土	土師 高坏	-	-	-	-	×	8.2	8.4	1.7		-	332
104	78	III A 1 住	土師 高坏	-	7.8	-	なし	×	7.0	7.6	1.7		II a	-
105	79	III A 1 住	土師 高坏	-	-	-	なし	×	6.7	7.5	1.5		-	-

No	登録番号	遺構地点層位	種類・器種	器面調整：外面			器面調整：内面			底部	計測値：cm			備考	分類	写真図版
				口縁	体上	体下	口縁	体上	体下		外面	口径	底径			
106	84	III A 1 住埋土	土師 鉢	なし	なし	HN	なし	HN	なし	-	28.4	-	-		I A - b	332
107	86	III A 1 住埋土	土師 甕	なし	-	-	なし	-	-	-	20.0	-	-		II A - c	-
108	81	III A 1 住埋土	土師 甕	-	-	HK	-	-	HN	HK	-	9.0	-		-	332
109	83	III A 1 住埋土	土師 甕	なし	なし	HK	なし	なし	なし	-	36.6	-	-		-	332
110	82	III A 1 住埋土	土師 甕	-	-	HK	-	-	HN	HK	-	7.8	-		-	332

第 94 図 遺構内出土遺物—11



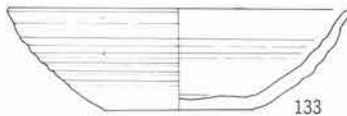
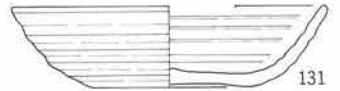
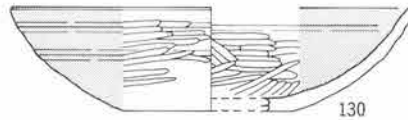
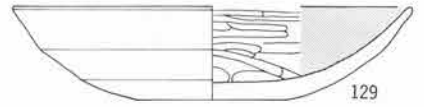
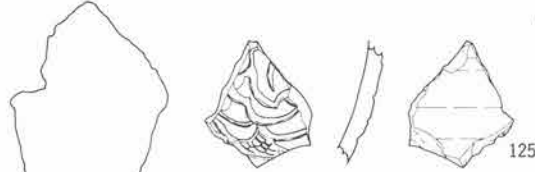
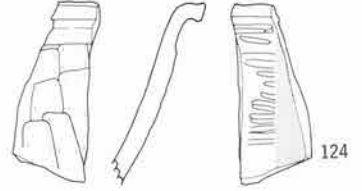
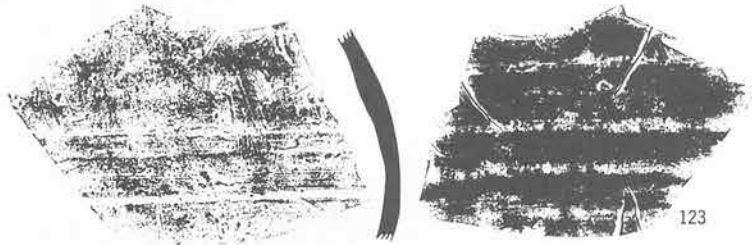
NO.	登録番号	遺構・地点・層位	種類・器種	器面調整：外面			器面調整：内面			底部			計測値：cm			備考	分類	写真図版
				口縁	体上	体下	口縁	体上	体下	外	口径	底部	器高					
111	85	ⅢA 1 住埋土	土師 甕	YN	-	-	YN	-	-	-	26.8	-	-		IIA-c	332		
112	93	ⅢA 1 住埋土	土師 甕	なし	-	-	なし	-	-	-	26.1	-	-		IIA-a	-		
113	40	ⅢA 1 住埋土	須恵 甕	-	HT	-	SK	-	-	-	-	-	-		-	-		
114	39	ⅢA 1 住埋土	須恵 甕	-	なし	-	N	-	-	-	-	-	-		-	-		
115	87	ⅢA 1 住埋土	須恵 甕	-	HT	-	なし	-	-	-	-	-	-		-	-		
116	42	ⅢA 1 住埋土	須恵 甕	-	なし	-	なし	-	-	-	-	-	-		-	-		

NO.	登録番号	遺構・地点・層位	器種・部位	長さ	幅	厚さ	重量	特徴・備考			写真図版
117	8	ⅢA 1 住埋土	刀子	10.2	1.6	0.8					332

NO.	登録番号	遺構・地点・層位	種類・器種	外面調整			内面調整			計測値：cm			備考	分類	写真図版
				口縁	胴部	底部	調整	黒色処理	口径	底径	器高				
118	95	ⅢB 1 住埋土下	土師 杯	なし	なし	なし	なし	×	14.8	6.0	4.1		II b	332	
119	94	ⅢB 1 住埋土下	土師 杯	なし	なし	なし	なし	×	13.6	6.0	4.8		II a	332	
120	96	ⅢB 1 住埋土下	土師 杯	なし	なし	なし	なし	×	16.0	-	-		II b	332	
121	97	ⅢB 1 住埋土	土師 杯	なし	なし	なし	なし	×	14.0	6.8	4.1		II b	332	

NO.	登録番号	遺構・地点・層位	種類・器種	杯部：cm			杯部内面		台部：cm			備考	分類	写真図版
				口縁	底部	高さ	調整	黒色処理	上部	下部	高さ			
122	99	ⅢB 1 住埋土下	土師 高杯	-	5.8	-	なし	×	-	-	-		II b	332

第 95 図 遺構内出土遺物—12



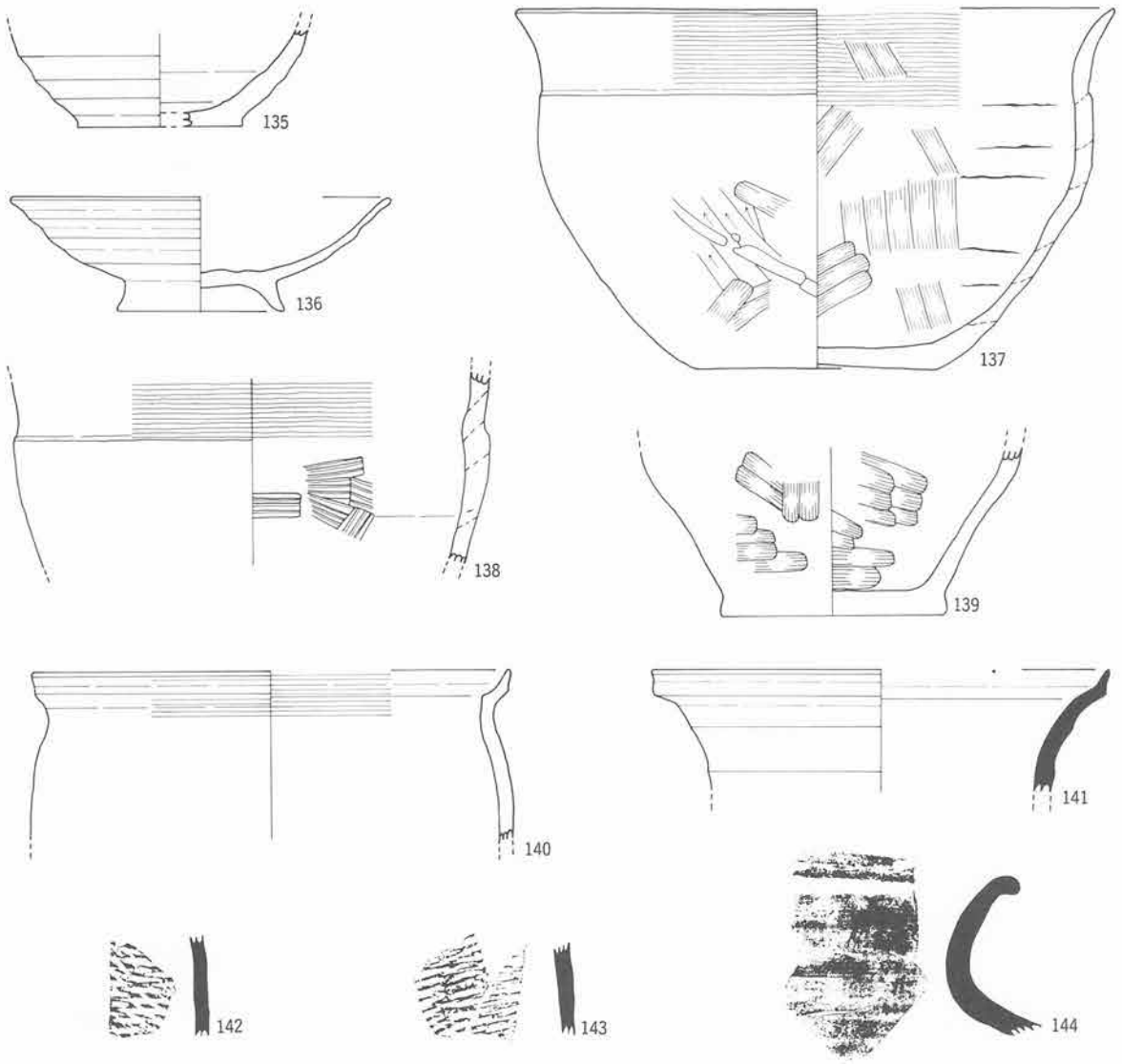
No.	登録番号	遺構・地点・層位	種類・器種	器面調整：外面			器面調整：内面			計測値：cm			備考	分類	写真図版	
				口縁	体上	体下	口縁	体上	体下	外面	口径	底径				器高
123	98	ⅢB 1 住埋土	須恵 壺	-	HN	-	-	なし	-	-	-	-	-	-	332	
124	100	ⅢB 1 住	土師 鉢	YN	HK	-	YN	YN	-	-	-	-	-	-	II A-c	333

No.	登録番号	遺構・地点・層位	器種・部位	長さ	幅	厚さ	重量	特徴・備考				写真図版
125	6	ⅢB 1 住埋土	不明					瓦器に漆を塗ったもの				333

No.	登録番号	遺構・地点・層位	器種・部位	長さ	幅	厚さ	重量	特徴・備考				写真図版
126	1	ⅢB 1 住埋土	鉄滓									333

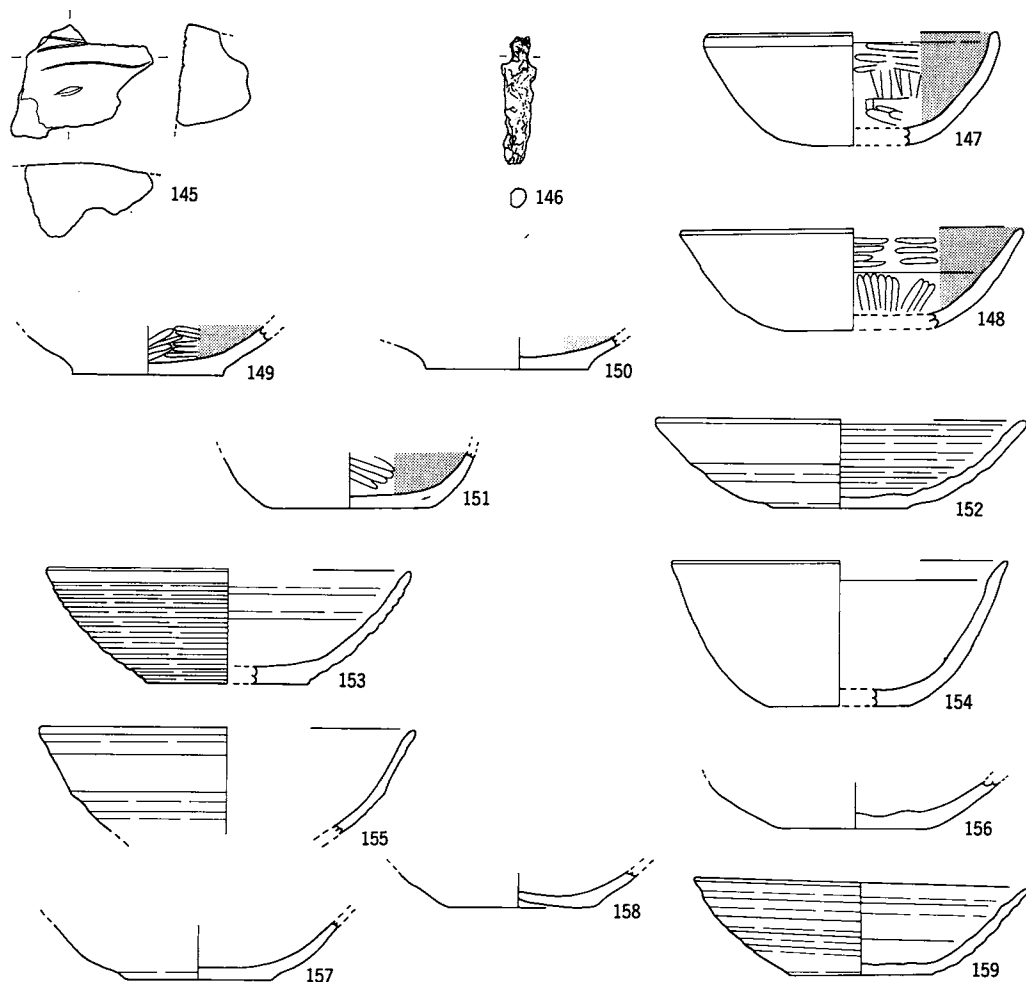
No.	登録番号	遺構・地点・層位	種類・器種	外面調整			内面調整		計測値：cm			備考	分類	写真図版
				口縁	胴部	底部	調整	黒色処理	口径	底径	器高			
127	102	ⅢB 2 住 PT 2	土師 坏	なし	なし	なし	なし	×	13.6	5.5	4.4		II b	333
128	104	ⅢB 2 住埋土	土師 坏	なし	なし	なし	なし	×	14.0	6.2	3.4		II c	333
129	108	ⅢB 2 住埋土	土師 坏	なし	なし	なし	M	○	16.0	6.0	3.7		I A	333
130	101	ⅢB 2 住 PT 1	土師 坏	M	M	M	M	○	16.0	7.0	4.1		I B	333
131	110	ⅢB 2 住埋土	土師 坏	なし	なし	なし	なし	×	12.6	6.4	3.2		II b	333
132	103	ⅢB 2 住埋土 PT 4	土師 坏	なし	なし	なし	なし	×	13.4	4.6	4.5		II b	333
133	109	ⅢB 2 住埋土	土師 坏	なし	なし	なし	なし	×	13.7	6.0	4.1		II b	333
134	111	ⅢB 2 住埋土	土師 坏	なし	なし	なし	なし	×	14.0	5.0	3.8		II b	333

第 96 図 遺構内出土遺物—13



No.	登録番号	遺構・地点・層位	種類・器種	外面調整			内面調整			計測値:cm			備考	分類	写真図版
				口縁	胴部	底部	調整	黒色処理	口径	底径	器高				
135	116	III B 2 住埋土	土師 坏	-	-	なし	なし	×	-	6.8	-	鉢形	-	-	
No.	登録番号	遺構・地点・層位	種類・器種	坏部:cm			坏部内面			台部:cm			備考	分類	写真図版
				口縁	底部	高さ	調整	黒色処理	上部	下部	高さ				
136	112	III B 2 住埋土下	土師 高坏	15.9	6.3	3.5	-	×	6.3	7.0	1.3		II a	333	
No.	登録番号	遺構・地点・層位	種類・器種	器面調整:外面			器面調整:内面			計測値:cm			備考	分類	写真図版
				口縁	体上	体下	口縁	体上	体下	外面	口径	底径			
137	105	III B 2 住 P 5	土師 鉢	YN	HKHN	-	YN	HN	-	-	25.1	10.0	15.1	I A-b	333
138	107	III B 2 住埋土	土師 鉢	YN	-	-	YN	HN	-	-	-	-	-	I A-b	333
139	106	III B 2 住埋土	土師 甕	-	-	HN	-	-	HN	-	-	9.5	-	-	333
140	113	III B 2 住埋土	土師 甕	YN	-	-	YN	-	-	-	20.0	-	-	II B-c	333
141	115	III B 2 住埋土	須恵 壺	YN	-	-	YN	-	-	-	19.2	-	-	-	-
142	117	III B 2 住埋土	須恵 甕	-	HT	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
143	118	III B 2 住埋土	須恵 甕	-	HT	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
144	119	III B 2 住埋土	須恵 甕	-	YN	-	-	YN	-	-	-	-	-	-	-

第 97 図 遺構内出土遺物-14

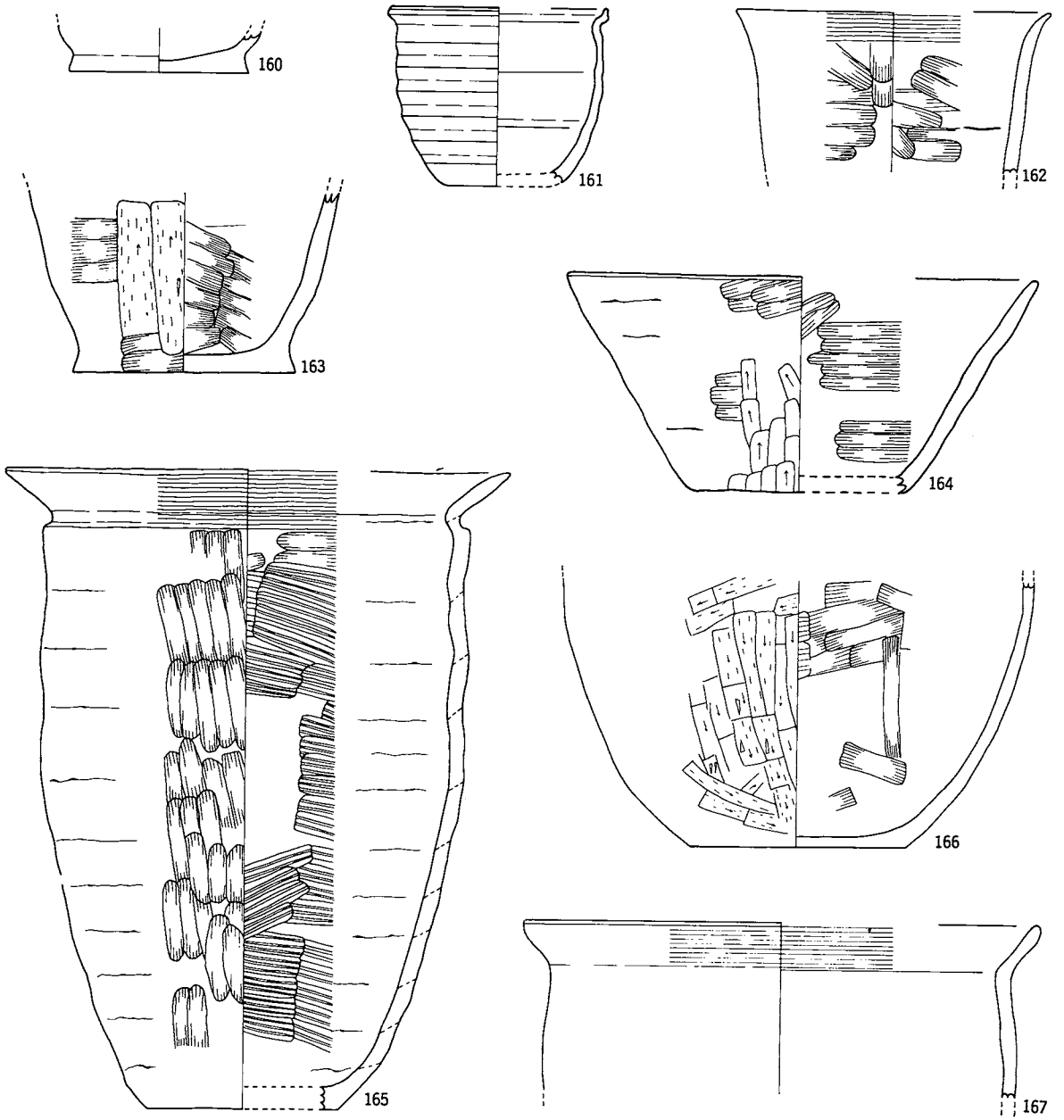


No	登録番号	遺構・地点・層位	器種・部位	長さ	幅	厚さ	重量	特徴・備考	写真図版
145	15	III B 2 住埋土	土製品						333

No	登録番号	遺構・地点・層位	器種・部位	長さ	幅	厚さ	重量	特徴・備考	写真図版
146	25	III B 2 住P T	不明	5.0	0.7	0.6			333

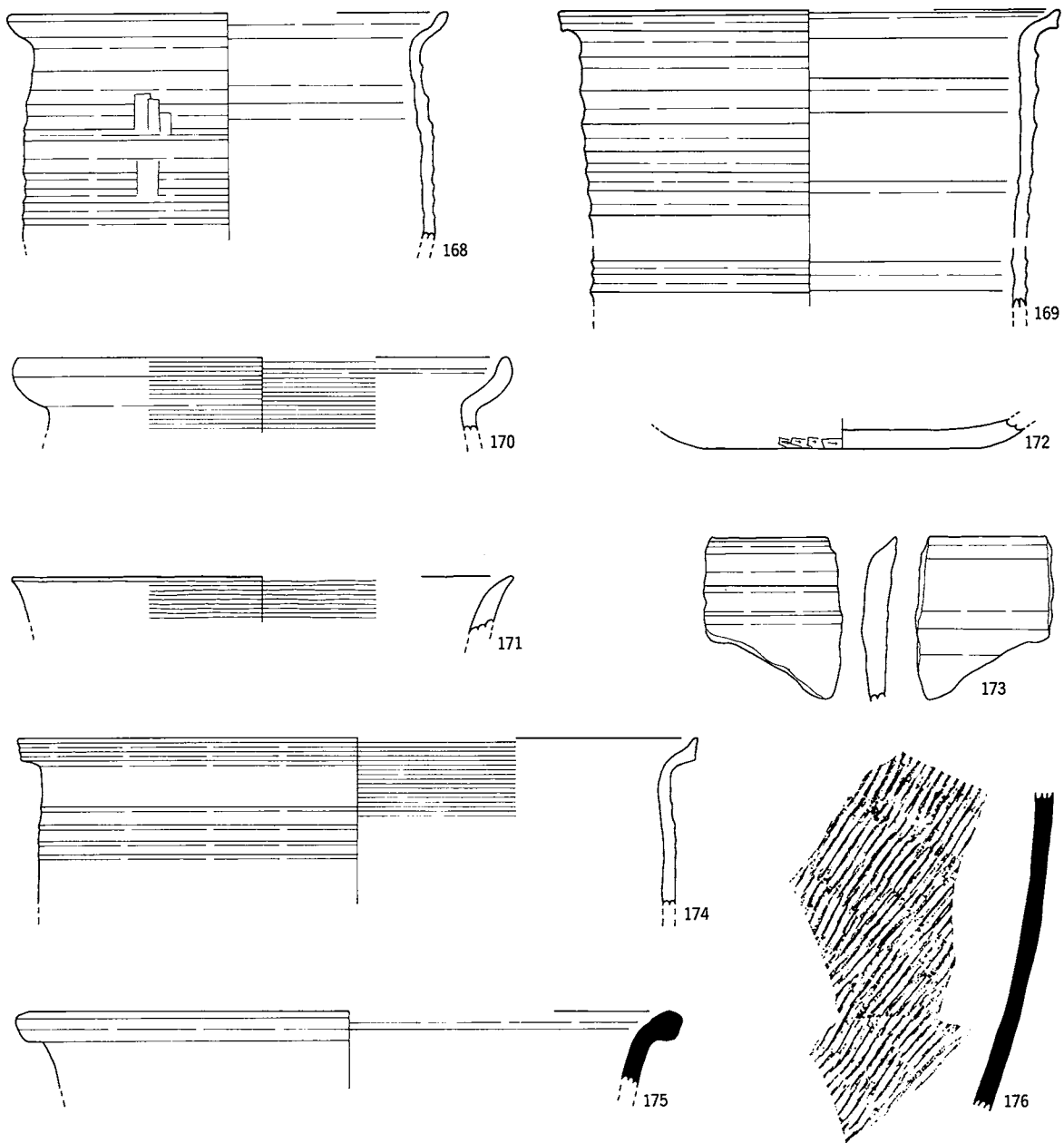
No	登録番号	遺構・地点・層位	種類・器種	外面調整			内面調整		計測値:cm			備考	分類	写真図版
				口縁	胴部	底部	調整	黒色処理	口径	底径	器高			
147	120	III B 3 住埋土	土師 坏	なし	なし	-	M	○	11.6	-	-		I A	334
148	121	III B 3 住埋土	土師 坏	なし	なし	-	N,M	○	13.8	-	-		I A	334
149	122	III B 3 住埋土	土師 坏	-	-	なし	M	○	-	6.0	-		I A	-
150	123	III B 3 住埋土	土師 坏	-	-	なし	M	○	-	5.4	-		I A	-
151	124	III B 3 住埋土	土師 坏	-	-	なし	M	○	-	6.5	-		I A	-
152	125	III B 3 住埋土	土師 坏	なし	なし	なし	なし	×	14.8	5.5	3.5		II b	334
153	126	III B 3 住埋土	土師 坏	なし	なし	なし	なし	×	14.6	6.4	4.6		II b	334
154	127	III B 3 住埋土	土師 坏	なし	なし	なし	なし	×	13.4	6.0	5.8		II b	334
155	128	III B 3 住埋土	土師 坏	なし	なし	-	なし	×	15.0	-	-		II b	-
156	129	III B 3 住カマド	土師 坏	-	-	なし	なし	×	-	6.2	-		II b	-
157	131	III B 3 住埋土	土師 坏	-	-	なし	なし	×	-	5.8	-		II b	-
158	130	III B 3 住埋土	土師 坏	-	-	なし	なし	×	-	6.0	-		II b	-
159	144	III B 3 住埋土	土師 坏	なし	なし	なし	なし	×	13.3	5.6	3.9		II b	334

第 98 図 遺構内出土遺物—15



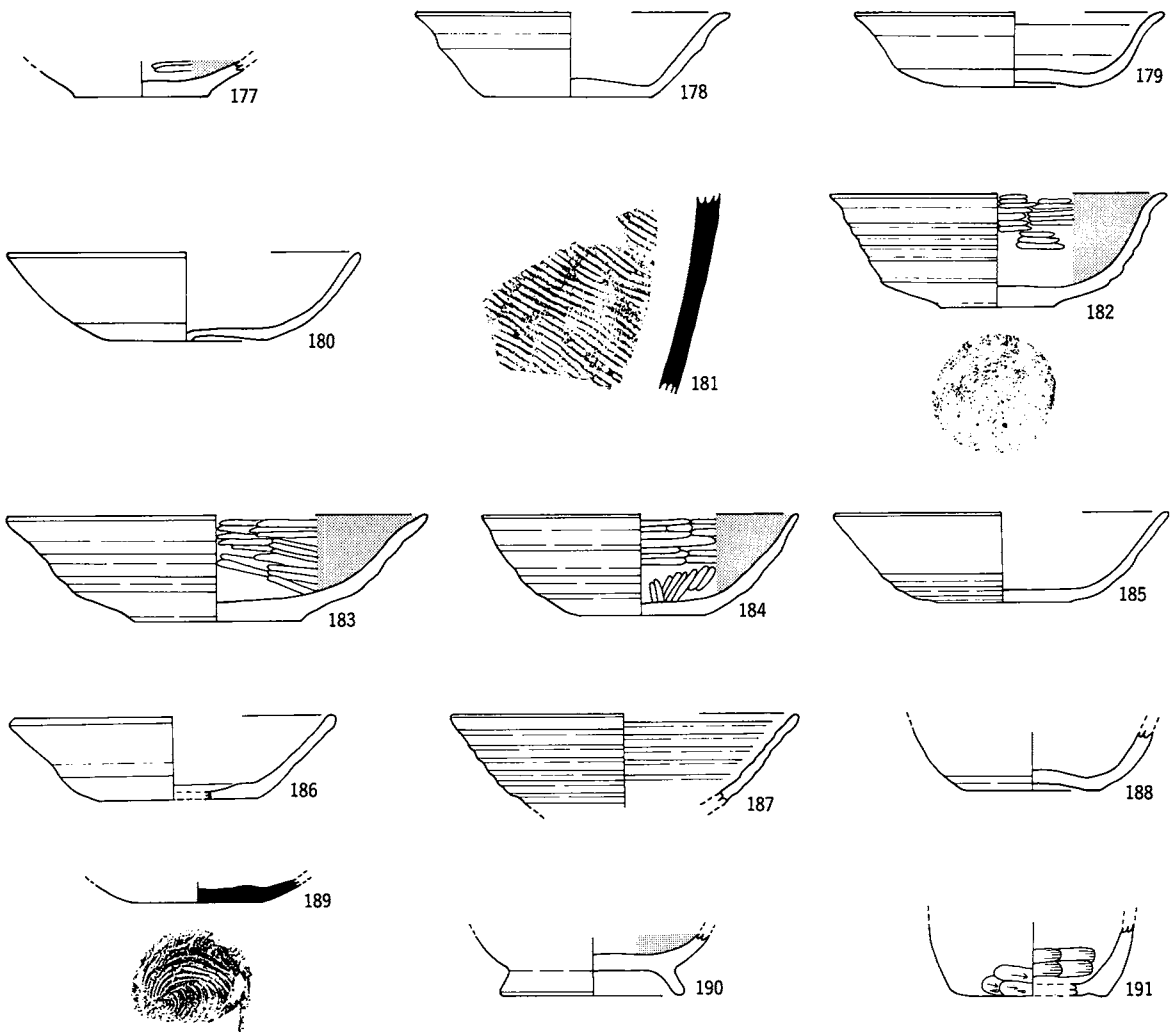
No	登録番号	遺構・地点・層位	種類・器種	器面調整：外面			器面調整：内面			底部			計測値：cm			備考	分類	写真図版
				口縁	体上	体上	口縁	体上	体上	外面	口縁	底径	器高					
160	141	III B 3 住カマド	土師 甕	-	-	なし	-	-	なし	K I	-	-	8.0	-	-	-		
161	135	III B 3 住埋土	土師 甕	なし	なし	なし	なし	なし	-	9.8	-	-	-	-	-	334		
162	136	III B 3 住埋土	土師 甕	Y N	H N	-	Y N	H N	-	14.0	-	-	-	-	I A-c	-		
163	134	III B 3 住埋土	土師 甕	-	-	H K	-	-	H K	H K	-	10.0	-	-	-	334		
164	143	III B 3 住埋土	土師 鉢	H N	H N H K	H K	H N	H N	H K	-	21.0	9.6	9.7	-	I A-a	334		
165	132	III B 3 住埋土	土師 甕	Y N	H N	H K	Y N	H N	H N	H K	22.6	8.4	28.6	-	I A	334		
166	133	III B 3 住埋土	土師 甕	-	-	H K	-	-	H N	H K	-	9.6	-	-	-	334		
167	140	III B 3 住埋土	土師 甕	なし	なし	-	なし	なし	-	-	23.0	-	-	-	II A-b	-		

第 99 図 遺構内出土遺物-16



No	登録番号	遺構地点層位	種類・器種	器面調整：外面			器面調整：内面			底部		計測値：cm			備考	分類	写真図版
				口縁	体上	体下	口縁	体上	体下	外面	内面	口径	底径	器高			
168	139	ⅢB 3 住埋土	土師 甕	なし	なし	—	なし	なし	—	—	—	19.0	—	—	ⅡA-b	—	
169	138	ⅢB 3 住埋土	土師 甕	なし	なし	—	なし	なし	—	—	—	22.0	—	—	ⅡA-a	—	
170	146	ⅢB 3 住埋土	土師 甕	YN	—	—	YN	—	—	—	—	22.0	—	—	ⅡA-b	—	
171	148	ⅢB 3 住埋土	土師 甕	YN	—	—	YN	—	—	—	—	22.0	—	—	I A-c	—	
172	142	ⅢB 3 住埋土	土師 甕	—	—	HK	—	—	なし	HK	—	—	—	12.5	—	—	
173	147	ⅢB 3 住埋土	土師 甕	なし	—	—	なし	—	—	—	—	22.0	—	—	ⅡA-c	—	
174	137	ⅢB 3 住埋土	土師 甕	なし	なし	—	なし	なし	—	—	—	30.0	—	—	ⅡA-a	—	
175	149	ⅢB 3 住埋土	土師 甕	なし	—	—	なし	—	—	—	—	29.3	—	—	釉	—	
176	145	ⅢB 3 住埋土	土師 甕	—	HT	—	—	なし	—	—	—	—	—	—	—	—	

第 100 図 遺構内出土遺物—17



NO.	登録番号	遺構・地点・層位	種類・器種	外面調整			内面調整		計測値：cm			備考	分類	写真図版
				口縁	胴部	底部	調整	黒色処理	口径	底径	器高			
177	151	III B 4 住カマド	土師 杯	なし	なし	なし	なし	×	12.8	6.6	3.3		I A	—
178	152	III B 4 住カマド	土師 杯	なし	なし	なし	なし	×	12.4	5.5	3.0		II c	334
179	150	III B 4 埋土	土師 杯	なし	なし	なし	M	○	—	5.2	—		II c	334
180	153	III B 4 埋土	土師 杯	なし	なし	なし	なし	×	14.2	6.0	4.5		II b	334

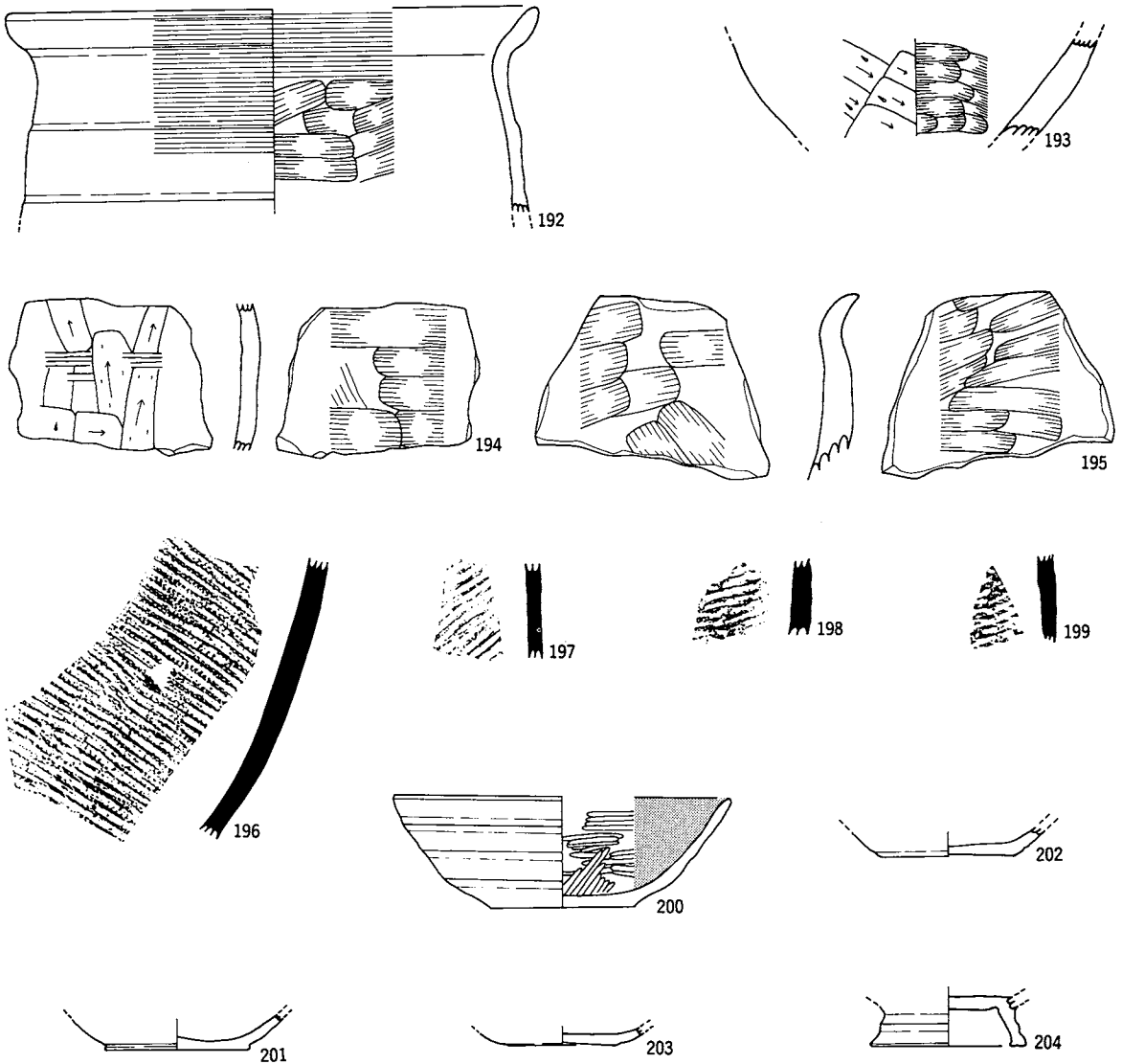
NO.	登録番号	遺構・地点・層位	種類・器種	器面調整：外面			器面調整：内面			底部			計測値：cm			備考	分類	写真図版
				口縁	体上	体下	口縁	体上	体下	外面	口径	底径	器高					
181	154	III B 4 住埋土	須恵 甕	—	H T	—	—	N	—	—	—	—	—	—	—	—	—	

NO.	登録番号	遺構・地点・層位	種類・器種	外面調整			内面調整		計測値：cm			備考	分類	写真図版
				口縁	胴部	底部	調整	黒色処理	口径	底径	器高			
182	155	III B 5 住 P T 4	土師 杯	なし	なし	なし	M	○	13.0	5.0	4.5		I A	335
183	157	III B 5 住 P T 4	土師 杯	なし	なし	なし	M	○	16.8	6.8	4.2		I A	—
184	156	III B 5 住 P T 3	土師 杯	なし	なし	なし	M	○	12.6	5.0	4.0		I A	335
185	159	III B 5 住 P T 6	土師 杯	なし	なし	なし	なし	×	13.6	5.2	3.6		II b	335
186	161	III B 5 住 P T 6	土師 杯	なし	なし	なし	なし	×	14.0	7.0	3.3		II c	—
187	162	III B 5 住埋土	土師 杯	なし	なし	なし	なし	×	14.0	—	—		II b	—
188	160	III B 5 住 P T 2	土師 杯	—	なし	なし	なし	×	—	5.5	—		II b	—
189	169	III B 5 住埋土	須恵 杯	—	—	—	なし	×	—	4.3	—		—	—

NO.	登録番号	遺構・地点・層位	種類・器種	杯部：cm			杯部内面		台部：cm			備考	分類	写真図版
				口縁	底部	高さ	調整	黒色処理	上部	下部	高さ			
190	158	III B 5 住埋土	土師 高杯	—	6.6	—	M	○	6.6	7.4	1.0		I A	—

NO.	登録番号	遺構・地点・層位	種類・器種	器面調整：外面			器面調整：内面			底部			計測値：cm			備考	分類	写真図版
				口縁	体上	体下	口縁	体上	体下	外面	口径	底径	器高					
191	164	III B 5 住埋土	土師 甕	—	—	H K	—	—	—	—	—	—	—	—	7.0	—	—	—

第 101 図 遺構内出土遺物—18

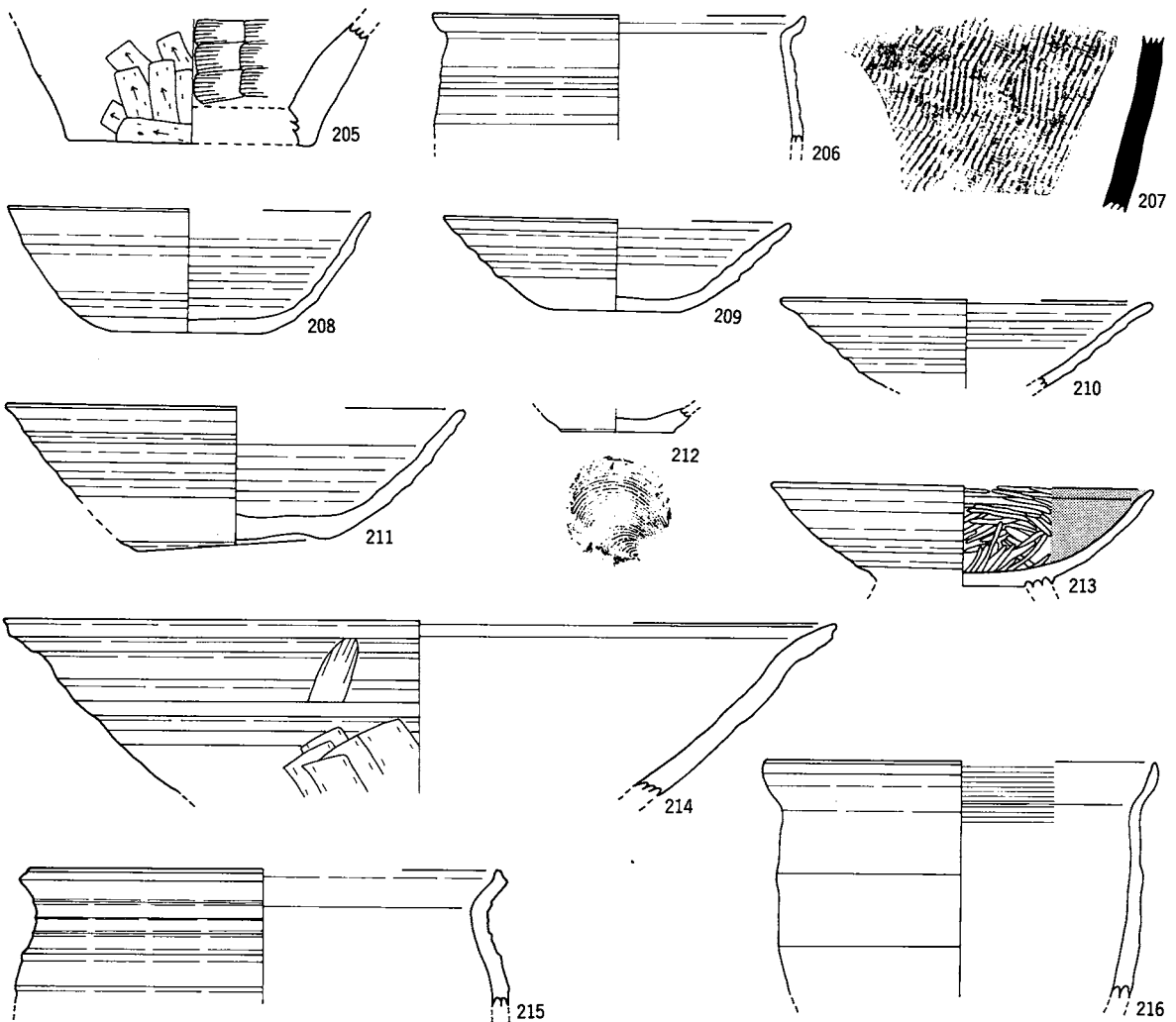


No.	登録番号	遺構地点層位	種類・器種	器面調整：外面			器面調整：内面			計測値：cm			備考	分類	写真図版
				口縁	体上	体下	口縁	体上	体下	外面	口径	底径			
192	163	III B 5 住 P T 5	土師 甕	YN	YN	-	YN	HN	-	-	22.0	-	-	II A-b	335
193	168	III B 5 住埋土	土師 甕	-	-	HK	-	HN	-	-	-	-	-	-	-
194	166	III B 5 住埋土	土師 甕	-	-	HK	-	HN	-	-	-	-	-	-	335
195	167	III B 5 住埋土	土師 鉢	HN	-	-	HN	-	-	-	-	-	-	I A-b	335
196	165	III B 5 住 P T 4	須恵 甕	-	HT	-	N	-	-	-	-	-	-	-	-
197	170	III B 5 住 P T 4	須恵 甕	-	HT	-	N	-	-	-	-	-	-	-	-
198	171	III B 5 住埋土	須恵 甕	-	HT	-	N	-	-	-	-	-	-	-	-
199	172	III B 5 住 P T 4	須恵 甕	-	HT	-	N	-	-	-	-	-	-	-	-

No.	登録番号	遺構・地点・層位	種類・器種	外面調整			内面調整		計測値：cm			備考	分類	写真図版
				口縁	胴部	底部	調整	黒色処理	口径	底径	器高			
200	173	III B 6 住埋土	土師 坏	なし	なし	なし	M	○	14.1	6.0	4.8	-	I A	335
201	176	III B 6 住埋土	土師 坏	-	-	-	なし	×	-	4.6	-	-	-	-
202	175	III B 6 住埋土	土師 坏	-	-	なし	なし	×	-	5.8	-	-	-	-
203	177	III B 6 住埋土	土師 坏	-	-	-	なし	×	-	6.0	-	-	-	-

No.	登録番号	遺構・地点・層位	種類・器種	坏部：cm			坏部内面		台部：cm			備考	分類	写真図版
				口縁	底部	高さ	調整	黒色処理	上部	下部	高さ			
204	174	III B 6 住埋土	土師 高坏	-	-	-	なし	なし	5.3	6.5	1.5	-	II A	-

第 102 図 遺構内出土遺物—19



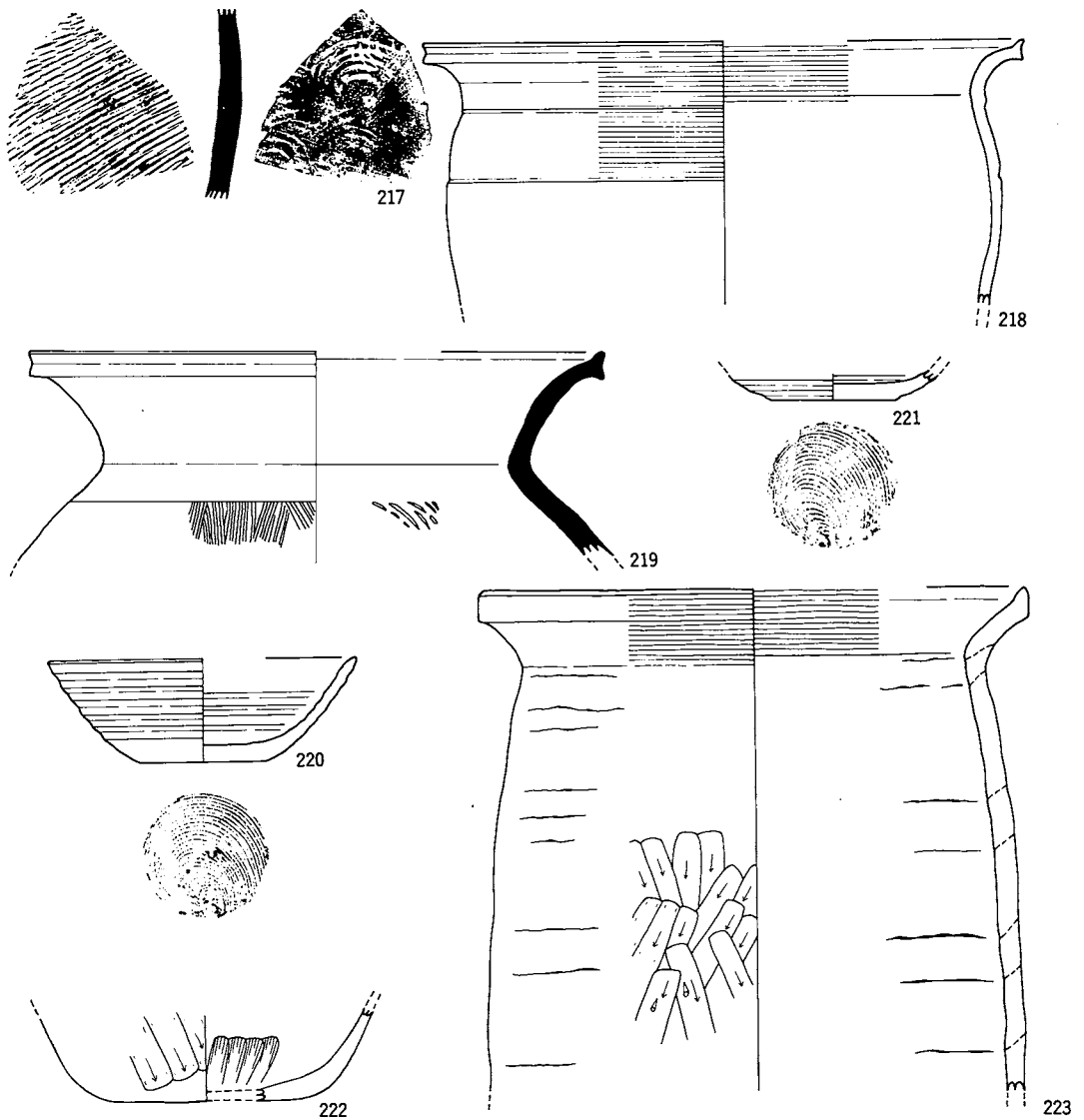
No	登録番号	遺構地点層位	種類・器種	器面調整：外面			器面調整：内面			底部			計測値：cm			備考	分類	写真図版
				口縁	体上	体下	口縁	体上	体下	外面	口径	底径	器高					
205	178	III B 6 住埋土	土師 甕	-	-	HK	-	-	HK	-	-	-	10.0	-	-	-	335	
206	180	III B 6 住埋土	土師 甕	なし	なし	-	なし	なし	-	-	-	-	15.0	-	-	-	IIA-b	335
207	179	III B 6 住埋土	土師 甕	-	HT	-	-	N	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

No	登録番号	遺構・地点・層位	種類・器種	外面調整			内面調整		計測値：cm			備考	分類	写真図版
				口縁	胴部	底部	調整	黒色処理	口径	底径	器高			
208	182	VA 1 住埋土	土師 坏	なし	なし	なし	なし	×	14.6	6.2	5.0	-	II b	335
209	183	VA 1 住埋土	土師 坏	なし	なし	なし	なし	×	14.0	5.5	3.7	-	II b	335
210	185	VA 1 住埋土	土師 坏	なし	なし	なし	なし	×	15.0	-	3.5	-	II b	-
211	184	VA 1 住埋土	土師 坏	なし	なし	なし	なし	×	18.4	7.8	6.3	-	II b	335
212	186	VA 1 住埋土	土師 坏	-	-	なし	なし	×	-	-	-	-	-	-

No	登録番号	遺構・地点・層位	種類・器種	坏部：cm			坏部内面		台部：cm		備考	分類	写真図版
				口縁	底部	高さ	調整	黒色処理	上部	下部			
213	181	VA 1 住埋土	土師 高坏	15.3	7.1	4.0	M	○	-	-	-	IA	335

No	登録番号	遺構地点層位	種類・器種	器面調整：外面			器面調整：内面			底部			計測値：cm			備考	分類	写真図版
				口縁	体上	体下	口縁	体上	体下	外面	口径	底径	器高					
214	188	VA 1 住埋土	土師 鍋	YN	HK	-	なし	なし	-	-	-	33.5	-	-	-	-	335	
215	190	VA 1 住埋土	土師 甕	なし	-	-	なし	-	-	-	-	19.6	-	-	-	-	IIA-a	-
216	187	VA 1 住埋土	土師 甕	なし	-	-	なし	-	-	-	-	16.0	-	-	-	-	IIA-b	335

第 103 図 遺構内出土遺物—20

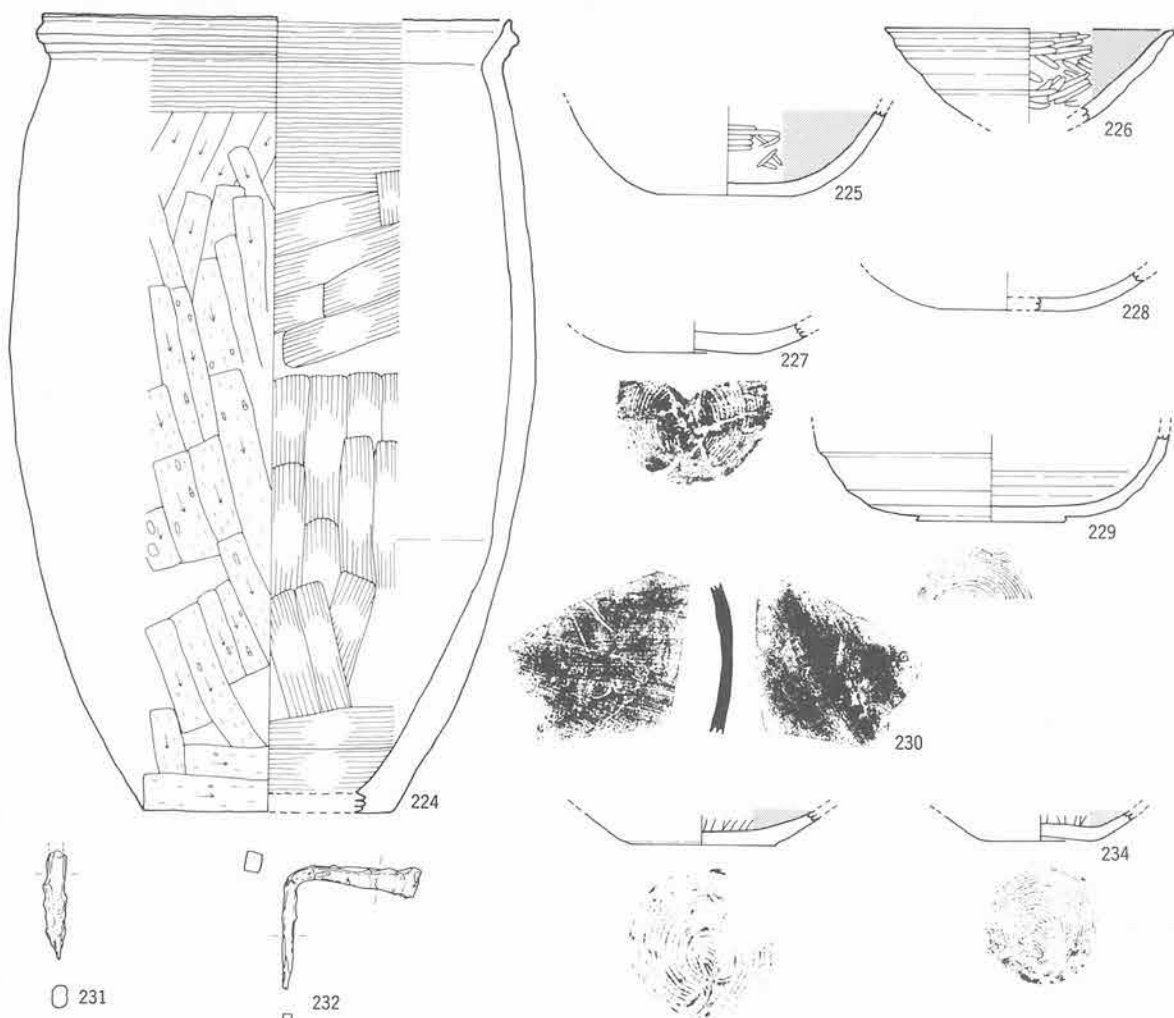


NO.	登録番号	遺構・地点・層位	種類・器種	器面調整：外面			器面調整：内面			底部			計測値：cm			備考	分類	写真図版
				口縁	体上	体下	口縁	体上	体下	外面	口径	底部	器高					
217	192	VA 1 住埋土	須恵 甕	-	HT	-	-	SK	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
218	189	VA 1 住カマド	土師 甕	YN	YN	-	YN	YN	-	-	24.0	-	-	-	-	II A-a	335	
219	191	VA 1 住埋土	須恵 甕	なし	HT	-	なし	SK	-	-	23.0	-	-	-	-	-	335	

NO.	登録番号	遺構・地点・層位	種類・器種	外面調整			内面調整		計測値：cm			備考	分類	写真図版
				口縁	胴部	底部	調整	黒色処理	口径	底径	器高			
220	193	VA 2 住カマド	土師 杯	なし	なし	なし	なし	×	12.4	5.0	4.2	-	II b	336
221	195	VA 2 住カマド	土師 杯	-	-	なし	なし	×	-	5.2	-	-	II b	-

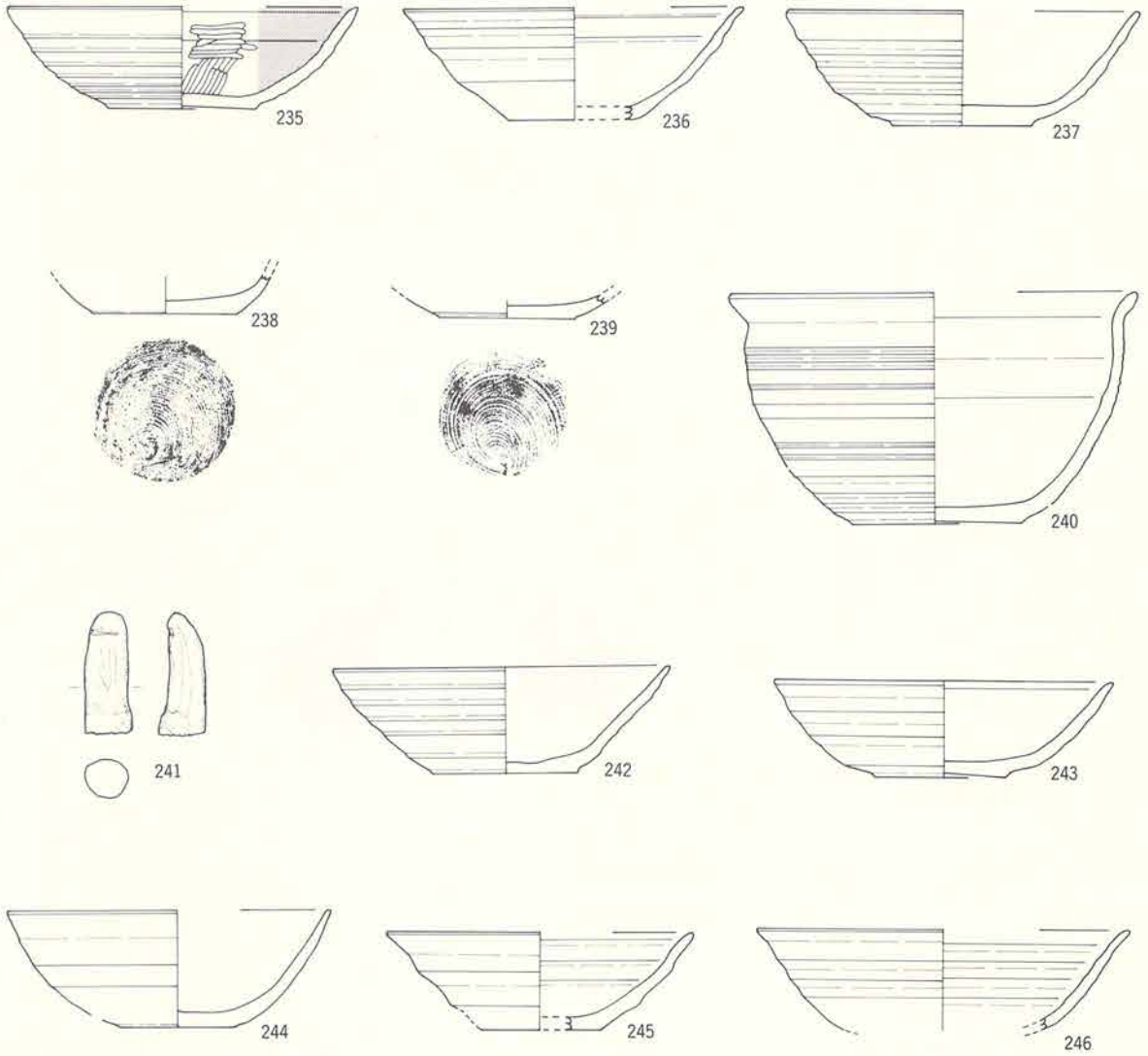
NO.	登録番号	遺構・地点・層位	種類・器種	器面調整：外面			器面調整：内面			底部			計測値：cm			備考	分類	写真図版
				口縁	体上	体下	口縁	体上	体下	外面	口径	底部	器高					
222	194	VA 2 住カマド	土師 甕	-	-	HK	-	-	HN	HN	-	7.0	-	-	-	-	336	
223	197	VA 2 住カマド	土師 甕	YN	HK	-	YN	YN	-	-	21.0	-	-	-	-	IA-a	336	

第 104 図 遺構内出土遺物—21



NO.	登録番号	遺構・地点・層位	種類・器種	器面調整：外面			器面調整：内面			底部			計測値：cm			備考	分類	写真図版	
				口縁	体上	体下	口縁	体上	体下	外面	口径	底径	器高						
224	196	VA 2 住カマ下	土師 甕	YN	HK	HK	YN	HN	HN	HK	19.2	10.0	31.8		IIA-c	336			
NO.	登録番号	遺構・地点・層位	種類・器種	外面調整			内面調整			計測値：cm			備考	分類	写真図版				
				口縁	胴部	底部	調整	黒色処理	口径	底径	器高								
225	198	VIB 1 住埋土	土師 杯	—	なし	なし	M	○	—	5.5	—	—		IA	336				
226	199	VIB 1 住埋土	土師 杯	なし	なし	—	M	○	13.6	—	—	—		IA	—				
227	200	VIB 1 住埋土	土師 杯	—	—	なし	なし	×	—	6.0	—	—		—	—				
228	201	VIB 1 住埋土	土師 杯	—	—	なし	なし	×	—	5.5	—	—		—	336				
229	202	VIB 1 住埋土	土師 杯	—	—	なし	なし	×	—	6.0	—	—		—	336				
NO.	登録番号	遺構・地点・層位	種類・器種	器面調整：外面			器面調整：内面			底部			計測値：cm			備考	分類	写真図版	
				口縁	体上	体下	口縁	体上	体下	外面	口径	底径	器高						
230	203	VIB 1 住埋土	須恵 甕	—	N	—	—	N	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
NO.	登録番号	遺構・地点・層位	器種・部位	長さ	幅	厚さ	重量	特徴・備考										写真図版	
								231	21	VIB 2 住埋土	鉄製品								
232	30	VIB 2 住埋土	鉄製品																336
NO.	登録番号	遺構・地点・層位	種類・器種	外面調整			内面調整			計測値：cm			備考	分類	写真図版				
				口縁	胴部	底部	調整	黒色処理	口径	底径	器高								
233	220	VIA 1 住埋土	土師 杯	—	—	なし	M	○	—	—	—	—		IA	—				
234	221	VIA 1 住埋土	土師 杯	—	—	なし	M	○	—	—	—	—		IA	—				

第 105 図 遺構内出土遺物—22

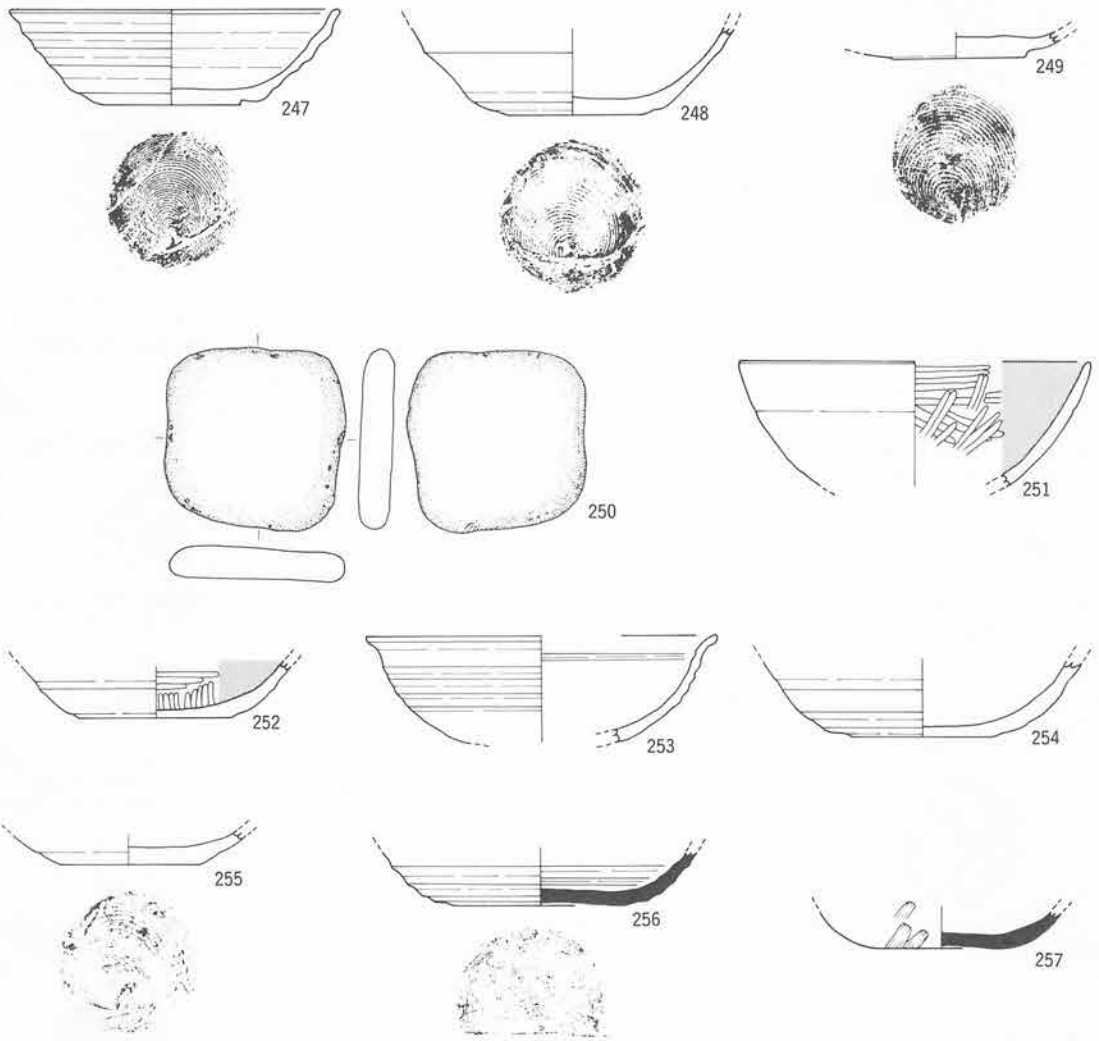


No.	登録番号	遺構・地点・層位	種類・器種	外面調整		内面調整		計測値:cm			備考	分類	写真図版	
				口縁	胴部	底部	調整	口色処理	口径	底径				器高
235	226	VII A 1 住埋土	土師 坏	なし	なし	なし	NM	○	14.4	6.0	4.2		I A	336
236	222	VII A 1 住カマド焼道	土師 坏	なし	なし	なし	なし	×	14.0	5.4	4.6		II b	-
237	227	VII A 1 住カマド	土師 坏	なし	なし	なし	なし	×	14.6	6.0	4.7		II b	336
238	223	VII A 1 住カマド	土師 坏	-	-	なし	なし	×	-	6.0	-		-	-
239	224	VII A 1 住埋土	土師 坏	-	-	なし	なし	×	-	5.6	-		-	-
240	225	VII A 1 住床面	土師 鉢	なし	なし	なし	なし	×	16.8	7.0	9.5		II A-c	336

No.	登録番号	遺構・地点・層位	器種	長さ	幅	厚さ	重量	石質	産地	生成年代	写真図版
241	13	VII B 1 住埋土	石製品	5.0	1.7	1.5		淡緑色凝灰岩			336

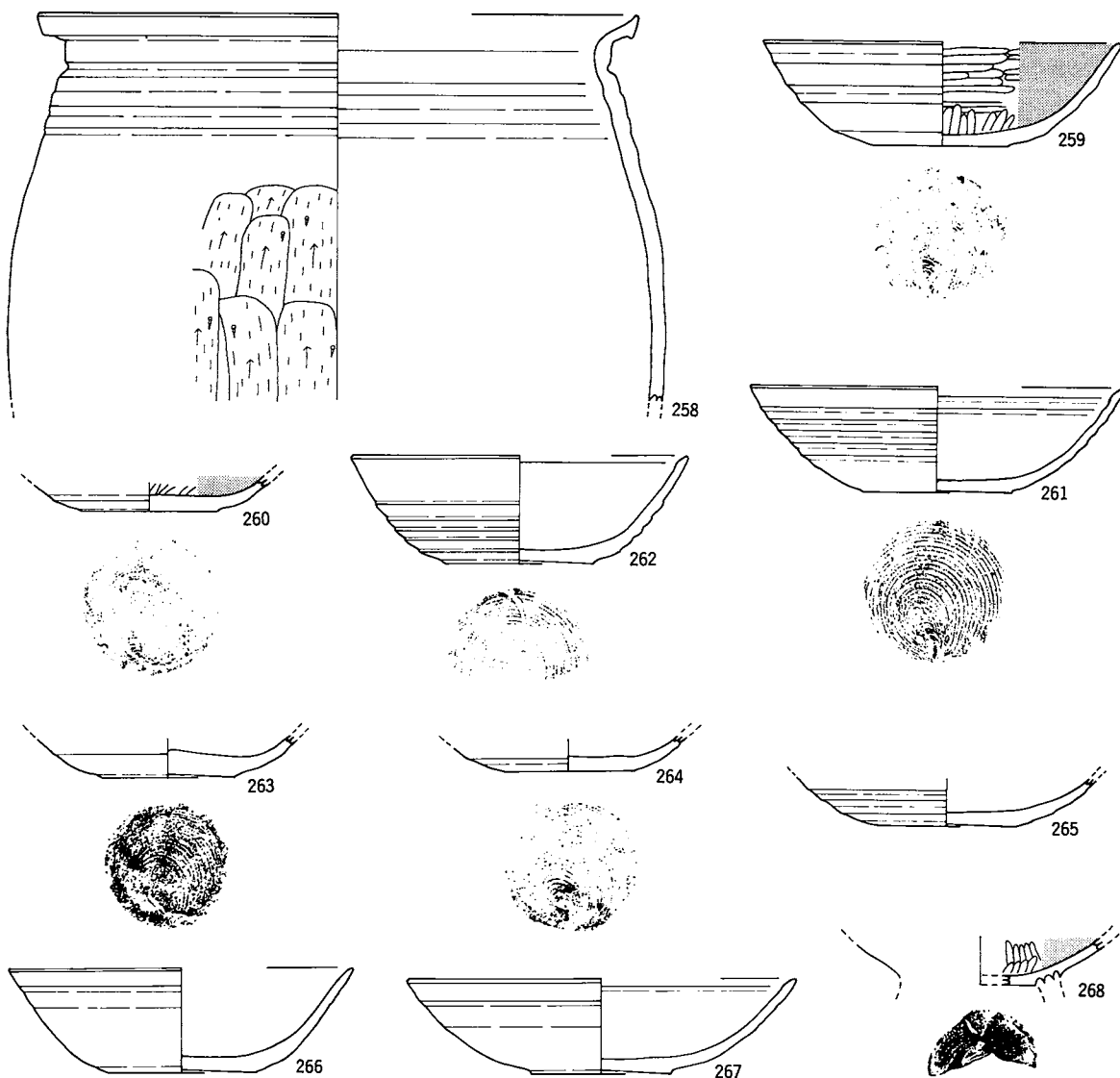
No.	登録番号	遺構・地点・層位	種類・器種	外面調整		内面調整		計測値:cm			備考	分類	写真図版	
				口縁	胴部	底部	調整	口色処理	口径	底径				器高
242	235	VII B 1 住埋土	土師 坏	なし	なし	なし	なし	×	14.9	6.0	4.4		II b	336
243	236	VII B 1 住埋土	土師 坏	なし	なし	なし	なし	×	14.0	5.4	4.0		II b	336
244	237	VII B 1 住埋土	土師 坏	なし	なし	なし	なし	×	13.3	4.7	4.8		II b	336
245	239	VII B 1 住埋土	土師 坏	なし	なし	なし	なし	×	12.6	5.0	4.0		II b	337
246	241	VII B 1 住埋土	土師 坏	なし	なし	-	なし	×	15.3	-	-		II b	337

第 106 図 遺構内出土遺物—23



No	登録番号	遺構・地点・層位	種類・器種	外面調整			内面調整		計測値:cm			備考	分類	写真図版
				口縁	胴部	底部	調整	黒色処理	口径	底径	器高			
247	238	VII B 1 住埋土	土師 坏	なし	なし	なし	なし	なし	13.1	5.6	3.8		II b	337
248	240	VII B 1 住埋土	土師 坏	-	-	なし	なし	なし	-	6.2	-		-	337
249	242	VII B 1 住埋土	土師 坏	-	-	なし	なし	なし	-	5.5	-		-	-
No	登録番号	遺構・地点・層位	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	石	質	産 地	生成年代	写真図版		
250	13	VII B 1 住埋土										337		
No	登録番号	遺構・地点・層位	種類・器種	外面調整			内面調整		計測値:cm			備考	分類	写真図版
				口縁	胴部	底部	調整	黒色処理	口径	底径	器高			
251	243	VII B 2 住埋土	土師 坏	なし	なし	-	M	○	14.0	-	-		I A	337
252	244	VII B 2 住床面	土師 坏	なし	なし	なし	M	○	-	6.2	-		I A	337
253	260	VII B 2 住埋土	土師 坏	なし	なし	-	なし	×	14.0	-	-		II b	337
254	248	VII B 2 住 PT 埋土	土師 坏	-	なし	なし	なし	×	-	6.0	-		II b	337
255	245	VII B 2 住床面	土師 坏	-	-	-	M	○	-	6.0	-		-	337
256	249	VII B 2 住埋土	須恵 坏	-	なし	なし	なし	×	-	6.0	-		-	337
257	246	VII B 2 住埋土	須恵 坏	-	なし	なし	N		-	6.0	-		-	337

第 107 図 遺構内出土遺物—24

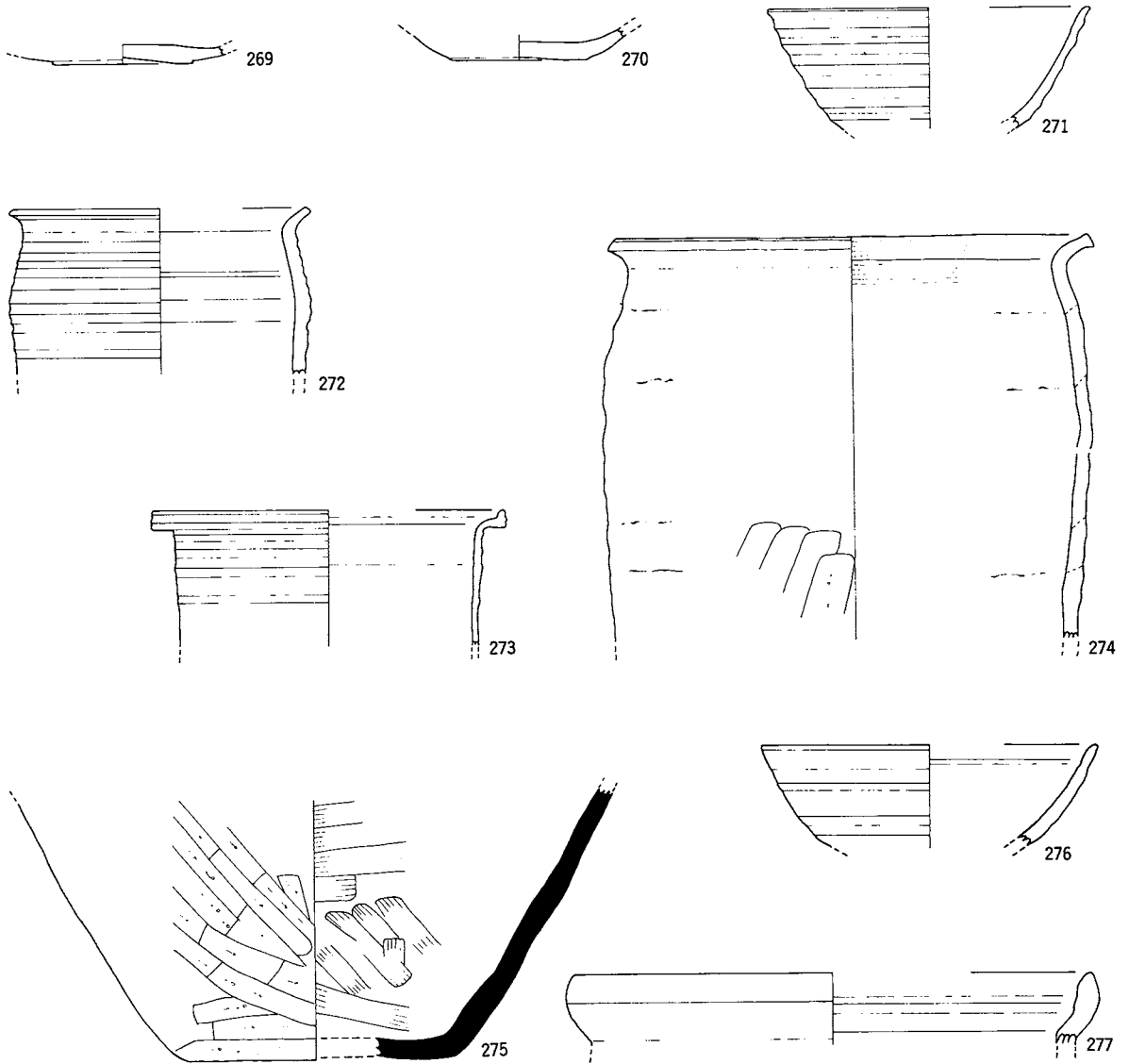


No	登録番号	遺構地点層位	種類・器種	器面調整：外面			器面調整：内面			底部			計測値：cm			備考	分類	写真図版
				口縁	体上	体下	口縁	体上	体下	外面	口径	底径	器高					
258	247	VII B 2 住埋土	土師 甕	YN	HK	-	YN	なし	-	-	25.0	-	-		II B-a	337		

No	登録番号	遺構・地点・層位	種類・器種	外面調整			内面調整		計測値：cm			備考	分類	写真図版
				口縁	胴部	底部	調整	黒色処理	口径	底径	器高			
259	261	VII B 3 住埋土	土師 坏	なし	なし	なし	M	○	14.8	5.6	4.3		I A	337
260	262	VII B 3 住埋土	土師 坏	-	-	-	M	○	-	5.6	-		I A	337
261	263	VII B 3 住埋土	土師 坏	なし	なし	なし	なし	×	15.6	6.2	4.4		II b	-
262	265	VII B 3 住埋土	土師 坏	なし	なし	なし	なし	×	14.0	6.0	4.5		II b	337
263	269	VII B 3 住埋土	土師 坏	-	-	なし	なし	×	-	5.6	-		-	-
264	268	VII B 3 住埋土	土師 坏	-	-	なし	なし	×	-	5.6	-		-	-
265	266	VII B 3 住埋土	土師 坏	-	なし	なし	なし	×	-	5.8	-		-	337
266	264	VII B 3 住埋土	土師 坏	-	なし	なし	なし	×	14.4	6.2	4.4		II b	337
267	267	VII B 3 住埋土	土師 坏	なし	なし	なし	なし	×	16.2	5.8	4.0		II b	337

No	登録番号	遺構・地点・層位	種類・器種	坏部：cm			坏部内面		台部：cm			備考	分類	写真図版
				口縁	底部	高さ	調整	黒色処理	上部	下部	高さ			
268	271	VII B 3 住埋土	土師 高坏	-	-	-	M	○	-	-	-	高台部剝離	I A	-

第 108 図 遺構内出土遺物—25



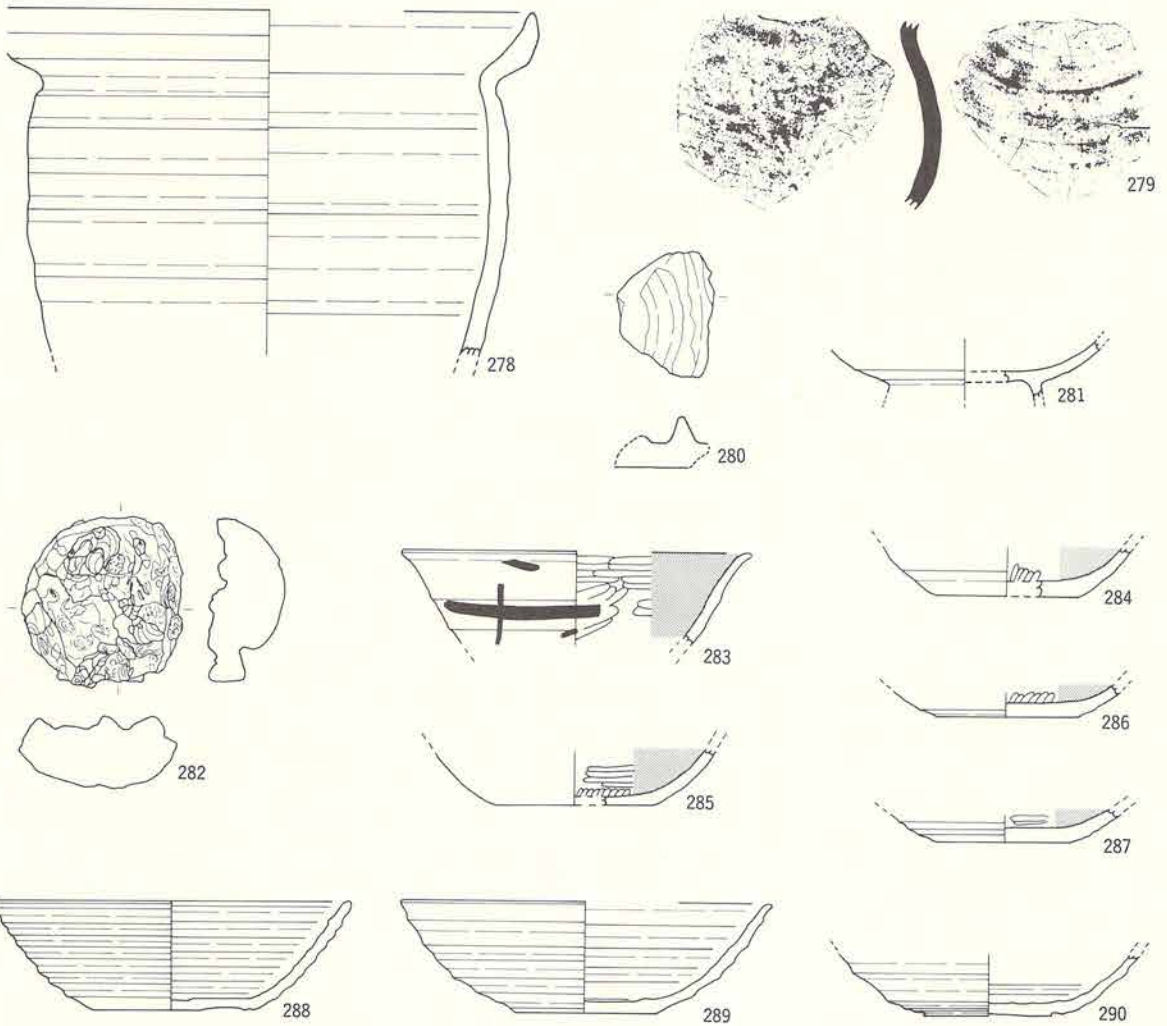
No	登録番号	遺構・地点・層位	種類・器種	外面調整			内面調整		計測値：cm			備考	分類	写真図版
				口縁	胴部	底部	調整	黒色処理	口径	底径	器高			
269	273	VII B 4 住カマド	土師 坏	-	-	なし	なし	×	-	6.0	-	-	-	-
270	274	VII B 4 住埋土	土師 坏	-	-	なし	なし	×	-	5.8	-	-	-	-
271	279	VII B 4 住埋土	土師 坏	なし	なし	-	なし	×	13.6	-	-	-	II b	338

No	登録番号	遺構地点層位	種類・器種	器面調整：外面			器面調整：内面			計測値：cm			備考	分類	写真図版	
				口縁	体上	体下	口縁	体上	体下	外面	口径	底径				器高
272	275	VII B 4 住カマド	土師 甕	YN	なし	-	なし	なし	-	-	12.8	-	-	内面煤付着	II A - c	338
273	276	VII B 4 住埋土	土師 甕	YN	なし	-	YN	なし	-	-	15.0	-	-	内面煤付着	II A - a	338
274	278	VII B 4 住埋土	土師 甕	YN	HK	-	YN	なし	-	-	20.6	-	-	-	II A - a	338
275	277	VII B 4 住埋土	須恵 甕	-	-	HK	-	-	HN	HK	-	10.6	-	自然釉	-	338

No	登録番号	遺構・地点・層位	種類・器種	外面調整			内面調整		計測値：cm			備考	分類	写真図版
				口縁	胴部	底部	調整	黒色処理	口径	底径	器高			
276	283	VII B 5 住埋土	土師 甕	なし	なし	-	なし	×	14.2	-	-	-	II b	338

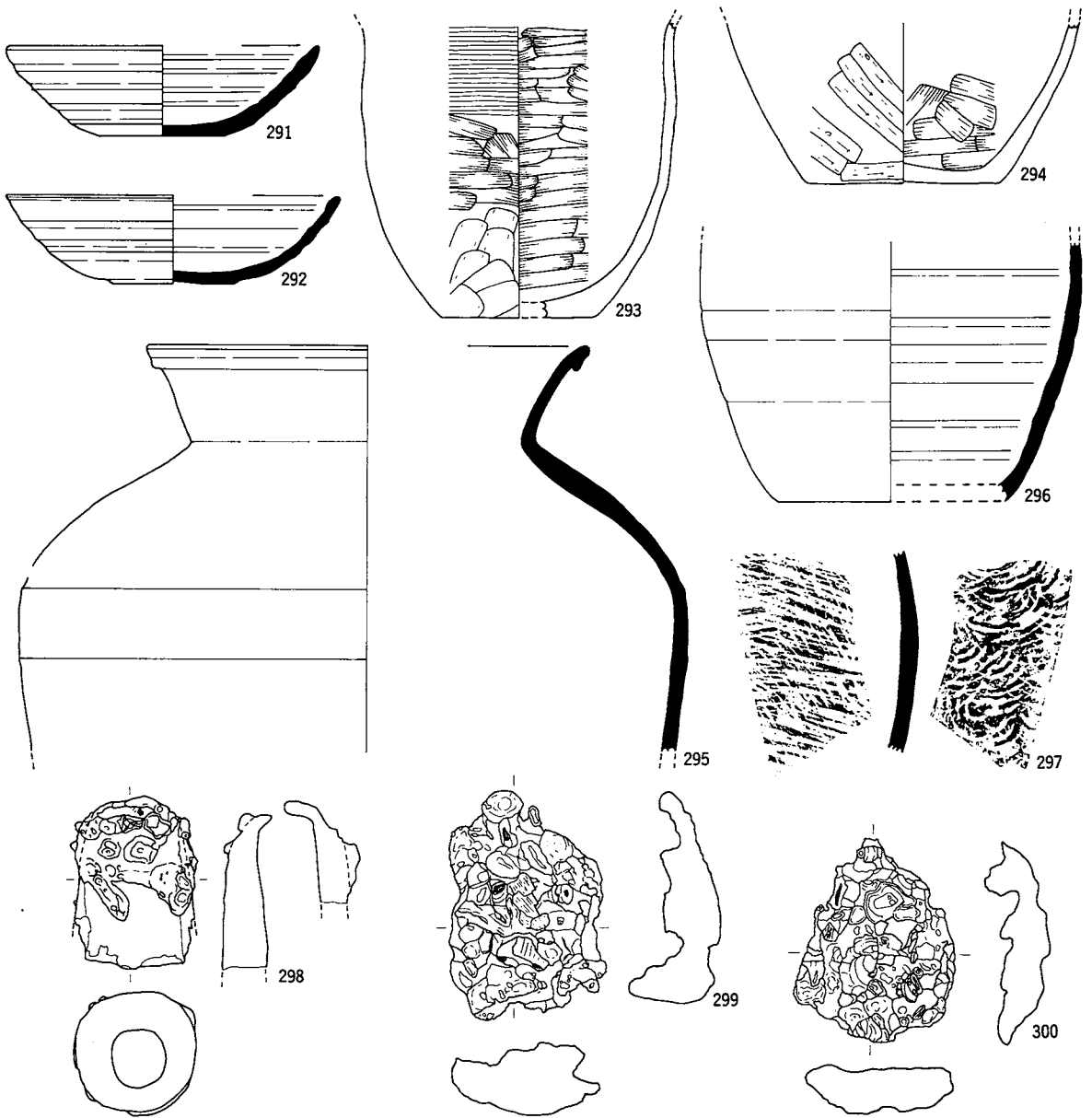
No	登録番号	遺構地点層位	種類・器種	器面調整：外面			器面調整：内面			計測値：cm			備考	分類	写真図版
				口縁	体上	体下	口縁	体上	体下	外面	口径	底径			
277	285	VII B 5 住埋土	土師 甕	なし	-	-	なし	-	-	-	22.6	-	-	II b	-

第 109 図 遺構内出土遺物—26



No.	登録番号	遺構・地点・層位	種類・器種	器面調整：外面			器面調整：内面			底部			計測値：cm			備考	分類	写真図版
				口縁	体上	体下	口縁	体上	体下	外面	口径	底径	器高	口径	底径			
278	284	VII B 5 住埋土	土師 甕	YN	なし	—	なし	なし	—	—	—	21.5	—	—		II A - c	338	
279	288	VII B 5 住埋土	須恵 壺	—	なし	—	—	—	—	—	—	—	—	—	自然釉	—	338	
No.	登録番号	遺構・地点・層位	器種・部位	長さ	幅	厚さ	重量	特徴・備考			写真図版							
280	14	VII B 5 住埋土	不明					土師質			338							
No.	登録番号	遺構・地点・層位	種類・器種	窯 式		年 代		計測値：cm			特 技・備 考		写真図版					
281	4	VII B 5 住埋土	灰釉陶器					口径	底径	器高	土師質		338					
No.	登録番号	遺構・地点・層位	器種・部位	長さ	幅	厚さ	重量	特徴・備考			写真図版							
282	4	VII B 5 住埋土	鉄滓								338							
No.	登録番号	遺構・地点・層位	種類・器種	外面調整			内面調整		計測値：cm			備考	分類	写真図版				
				口縁	胴部	底部	調整	黒色処理	口径	底径	器高							
283	361	V B 1 工房埋土	土師 坏	なし	なし	—	M	○	14.0	—	—	墨書	I A	338				
284	362	V B 1 工房埋土	土師 坏	—	—	なし	M	○	—	5.8	—		I A	338				
285	363	V B 1 工房埋土	土師 坏	—	—	なし	M	○	—	6.4	—		I A	338				
286	364	V B 1 工房埋土	土師 坏	—	—	なし	M	○	—	5.8	—		I A	338				
287	365	V B 1 工房埋土	土師 坏	なし	なし	—	M	○	14.0	—	—		I A	338				
288	366	V B 1 工房埋土	土師 坏	なし	なし	なし	なし	×	14.4	6.6	4.4	口縁部は還元炭焼成	II b	338				
289	367	V B 1 工房埋土	土師 坏	なし	なし	なし	なし	×	14.6	5.6	4.5		II b	338				
290	368	V B 1 工房埋土	土師 坏	—	なし	なし	なし	×	—	5.0	2.5		II b	338				

第 110 図 遺構内出土遺物—27



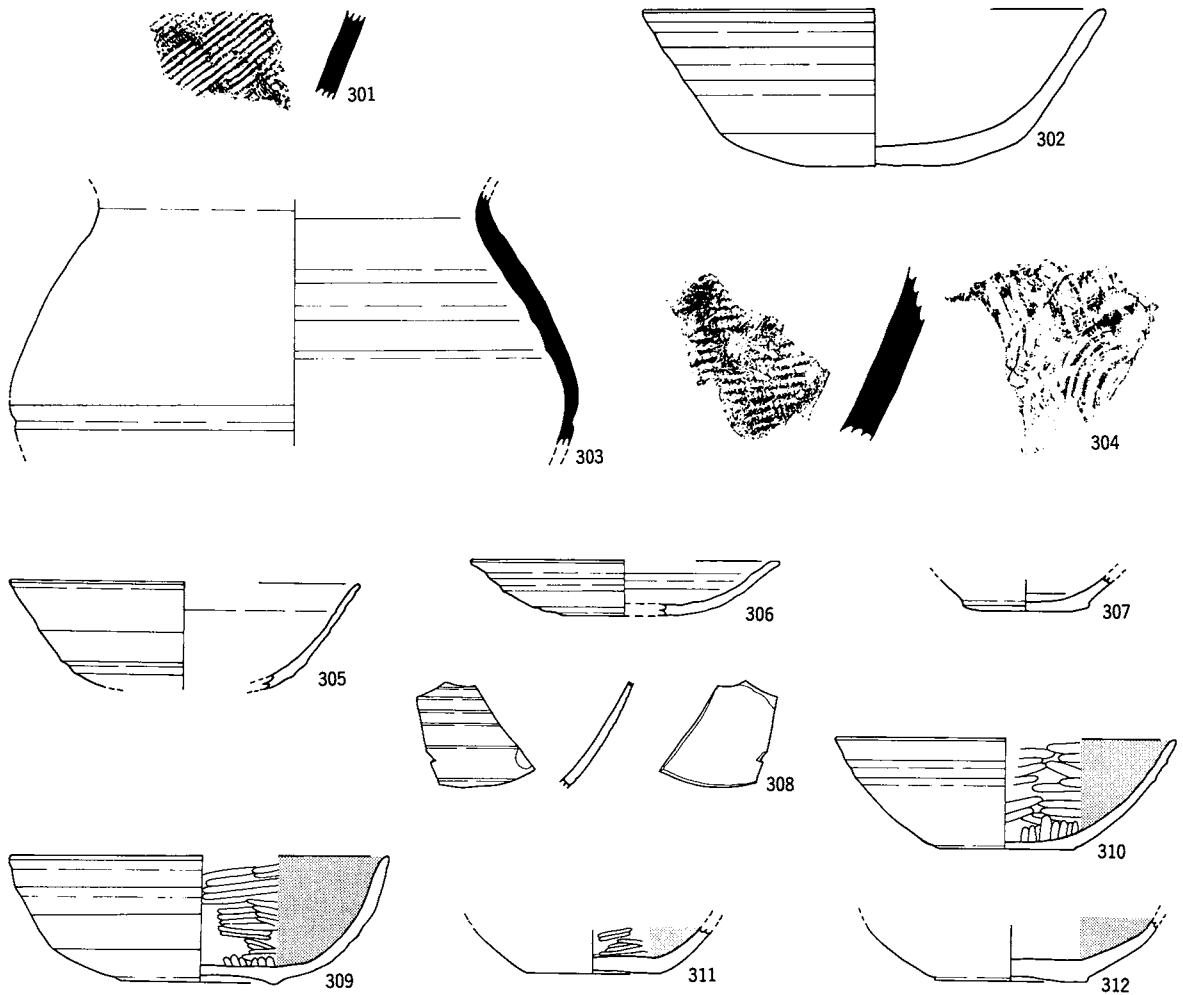
No	登録番号	遺構・地点・層位	種類・器種	外面調整			内面調整		計測値: cm			備考	分類	写真図版
				口縁	胴部	底部	調整	黒色処理	口径	底径	器高			
291	369	VB 1 工房埋土	須恵 坏	なし	なし	HK	なし	×	13.6	5.5	4.9		-	339
292	376	VB 1 工房埋土	須恵 坏	なし	なし	なし	なし	×	14.4	5.5	3.8		-	339

No	登録番号	遺構地点層位	種類・器種	器面調整: 外面			器面調整: 内面			計測値: cm			備考	分類	写真図版	
				口縁	体上	体下	口縁	体上	体下	外面	口径	底径				器高
293	370	VB 1 工房埋	土師 壺	-	YN	HK	-	YN	不明	なし	-	-	12.6	切離 K I	-	339
294	371	VB 1 工房埋	土師 壺	-	HK	HK	-	HN	HN	HK	-	-	8.5		-	339
295	374	VB 1 工房埋	須恵 壺	YN	YN	-	YN	YN	-	-	19.2	30.0	-	釉	-	-
296	373	VB 1 工房埋	須恵 壺	-	YN	-	-	YN	-	-	-	-	-	体下釉	-	339
297	375	VB 1 工房埋	須恵 壺	-	HT	-	-	ST	-	-	-	-	-		-	339

No	登録番号	遺構・地点・層位	器種・部位	長さ	幅	厚さ	重量	特徴・備考		写真図版
298	20	VB 1 工房跡	鞆羽口	7.4	5.1	5.1	-	2.4cm		339

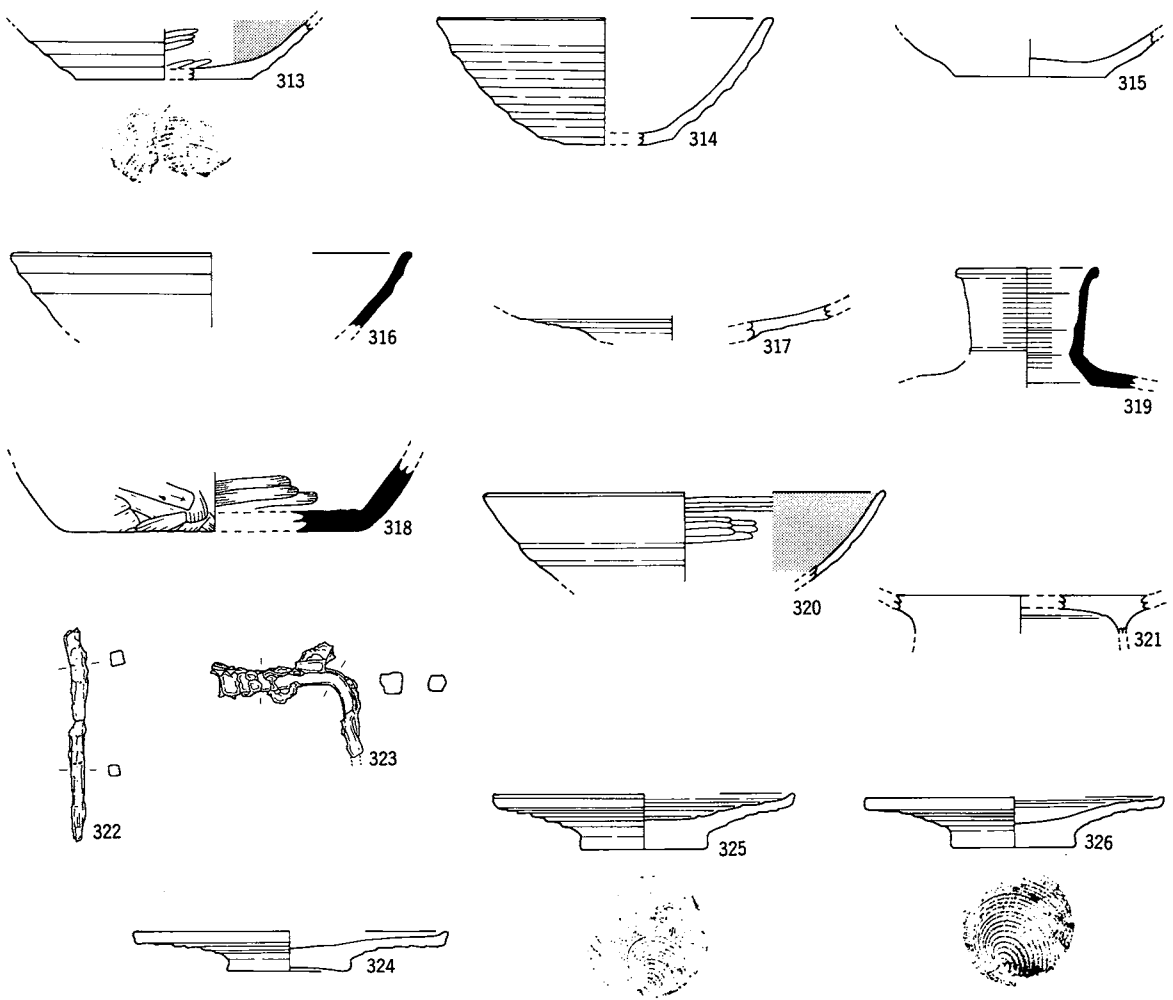
No	登録番号	遺構・地点・層位	器種・部位	長さ	幅	厚さ	重量	特徴・備考		写真図版
299	2	VB 1 工房跡	鉄滓	10.0	6.5	2.7	-			339
300	3	VB 1 工房跡	鉄滓	8.7	6.5	1.9	-			339

第 111 図 遺構内出土遺物—28



Na	登録番号	遺構・地点・層位	種類・器種	器面調整：外面			器面調整：内面			底部	計測値：cm			備考	分類	写真図版
				口縁	体上	体上	口縁	体上	体上		外面	口径	底径			
301	518	III B 1 焼土	須恵 甕	-	HT	-	-	N	-	-	-	-	-	-	-	340
Na	登録番号	遺構・地点・層位	種類・器種	外面調整			内面調整		底部	計測値：cm			備考	分類	写真図版	
				口縁	胴部	底部	調整	黒色処理		口径	底径	器高				
302	519	III B 1 焼土	土師 坏	なし	なし	なし	なし	×	18.5	6.5	6.2			II a	340	
Na	登録番号	遺構・地点・層位	種類・器種	器面調整：外面			器面調整：内面			底部	計測値：cm			備考	分類	写真図版
				口縁	体上	体上	口縁	体上	体上		外面	口径	底径			
303	520	IV A 1 焼土	須恵 甕	-	なし	-	-	なし	-	-	-	-	-	-	-	340
304	521	IV A 1 焼土	須恵 甕	-	HT	-	-	SK	-	-	-	-	-	自然釉	-	340
Na	登録番号	遺構・地点・層位	種類・器種	外面調整			内面調整		底部	計測値：cm			備考	分類	写真図版	
				口縁	胴部	底部	調整	黒色処理		口径	底径	器高				
305	292	SB 2 P 4 埋土	土師 坏	なし	なし	-	なし	×	14.0	-	-			II b	340	
306	293	SB 2 P 2 埋土	土師 坏	なし	なし	-	なし	×	12.4	-	-			II b	340	
307	294	SB 2 P 2 埋土	土師 坏	-	-	なし	-	×	-	5.0	-			-	-	
Na	登録番号	遺構・地点・層位	種類・器種	窯 式	年 代	計測値：cm			特 徴・備 考	写真図版						
						口径	底径	器高								
308	3	SB 2 P 埋土	灰釉陶器			-	-	-			340					
Na	登録番号	遺構・地点・層位	種類・器種	外面調整			内面調整		底部	計測値：cm			備考	分類	写真図版	
				口縁	胴部	底部	調整	黒色処理		口径	底径	器高				
309	295	SB 3 検出面	土師 坏	なし	なし	なし	M	○	15.1	6.2	5.2			I A	340	
310	296	SB 3 P 2 埋土	土師 坏	なし	なし	なし	M	○	13.6	5.6	5.4			I A	-	
311	297	SB 3 P 2 埋土	土師 坏	-	なし	HN	M	○	13.6	5.5	-			I A	340	
312	298	SB 3 P 8 埋土	土師 坏	-	なし	なし	M	○	-	6.0	-			I A	-	

第 112 図 遺構内出土遺物—29



No	登録番号	遺構・地点・層位	種類・器種	外面調整			内面調整		計測値:cm			備考	分類	写真図版
				口縁	胴部	底部	調整	黒色処理	口径	底径	器高			
313	299	S B 3 P 10埋土	土師 坏	-	なし	なし	M	○	-	7.0	-	-	I A	-
314	303	S B 3 周溝埋土	土師 坏	なし	なし	なし	なし	×	13.4	6.0	5.1	-	II b	340
315	300	S B 3 P 埋土	土師 坏	-	なし	なし	なし	×	-	5.8	-	-	-	-
316	301	S B 3 検出面	須恵 坏	YN	なし	-	N	×	8.0	-	-	-	-	-

No	登録番号	遺構・地点・層位	種類・器種	坏部:cm			坏部内面		台部:cm			備考	分類	写真図版
				口縁	底部	高さ	調整	黒色処理	上部	下部	高さ			
317	307	S B 3 P 6埋土	土師 高坏	-	-	-	なし	×	-	-	-	2号窯跡出土遺物	-	340

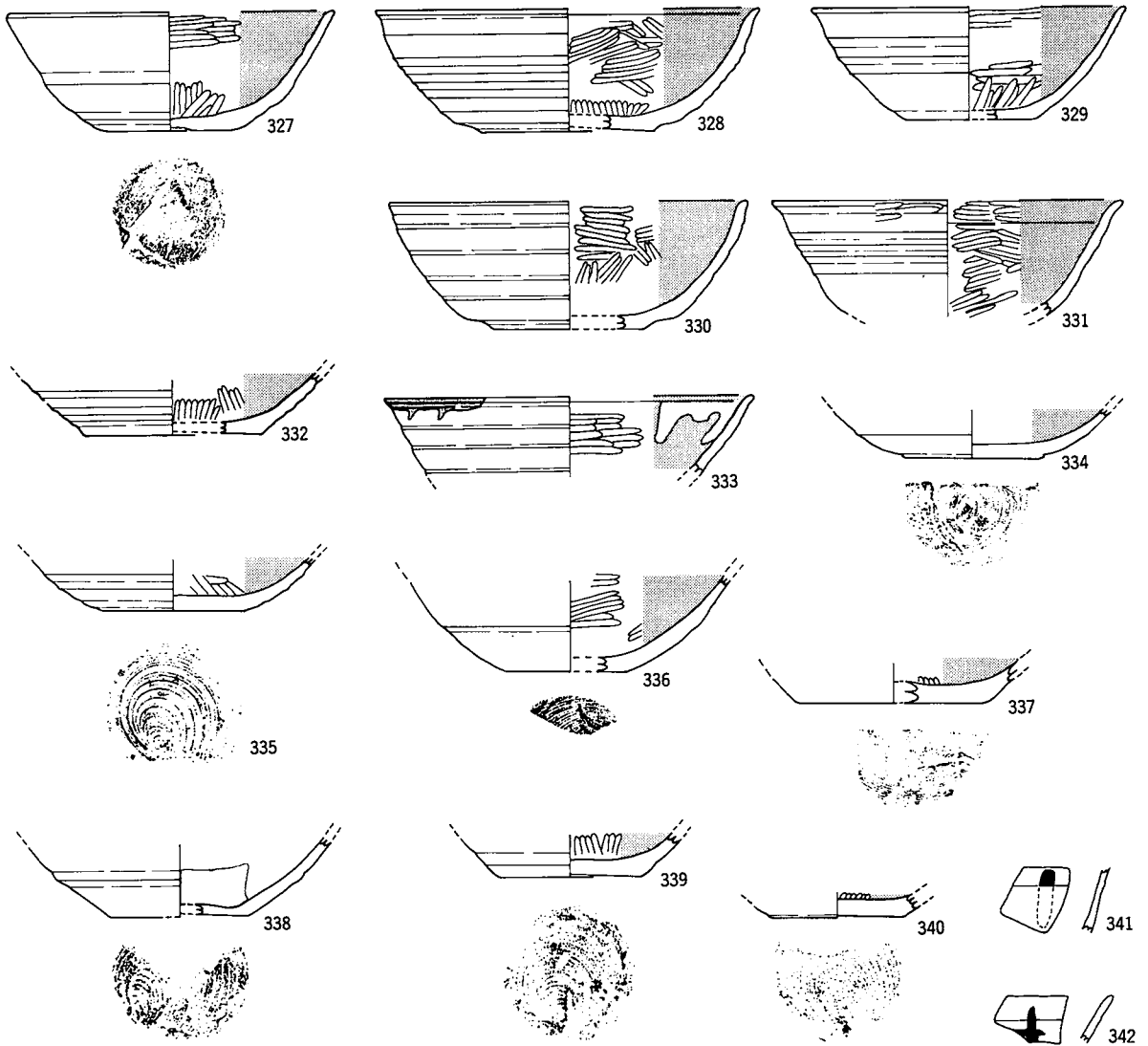
No	登録番号	遺構・地点・層位	種類・器種	器面調整:外面			器面調整:内面			底部			計測値:cm			備考	分類	写真図版
				口縁	体上	体上	口縁	体上	体上	外面	口径	底径	器高					
318	310	S B 3 検出面	須恵 壺	-	-	HK	-	-	なし	HK	-	-	-	-	-	底部破片	-	340
319	302	S B 3 P 8埋土	須恵 壺	YN	なし	-	YN	-	-	-	-	5.6	-	-	-	頸部破片	-	340

No	登録番号	遺構・地点・層位	種類・器種	坏部:cm			坏部内面		台部:cm			備考	分類	写真図版	
				口縁	底部	高さ	調整	黒色処理	上部	下部	高さ				
320	312	S B 5 P 1	土師 高坏	-	-	-	M	○	-	-	-	-	I A	340	
321	311	S B 5 P 2	土師 高坏	16.0	-	-	M	○	-	-	-	-	高台接着痕あり	-	340

No	登録番号	遺構・地点・層位	器種・部位	長さ	幅	厚さ	重量	特徴・備考		写真図版
322	9	S B 5 P 1 1	釘	8.5	0.5	0.5				340
323	28	S B 5	鏝	5.3	3.7	0.8		一部欠損		340

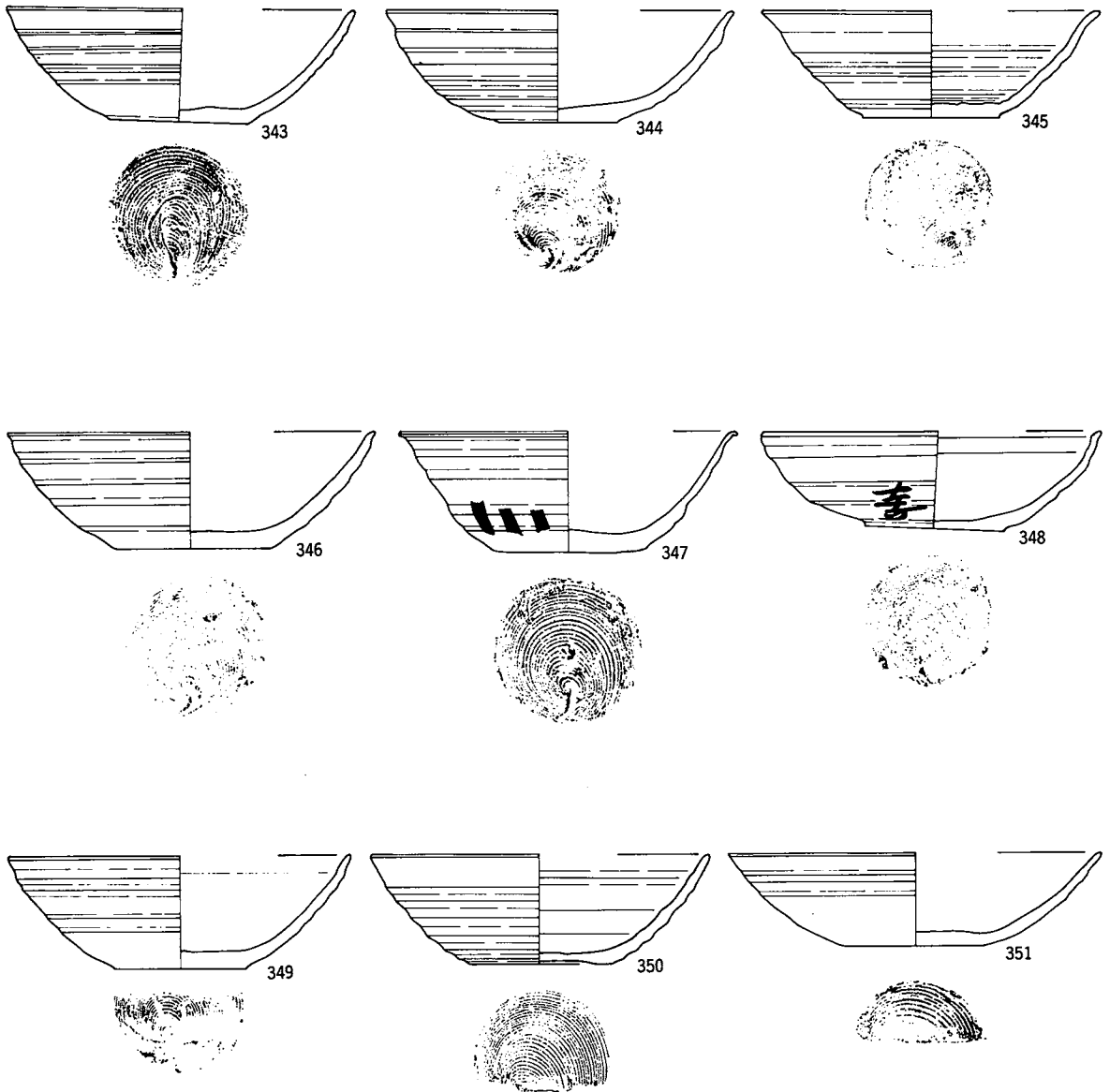
No	登録番号	遺構・地点・層位	種類・器種	皿部:cm			高さ	備考	分類	写真図版		
				直径	高さ	上径						
324	346	S B 7 検出面	土師 高皿	12.0	1.3	5.0	5.0	0.7	2.0	べた高台	a	341
325	347	S B 7 検出面	土師 高皿	12.0	1.5	5.0	5.0	0.7	2.2	べた高台	a	-
326	348	S B 7 検出面	土師 高皿	12.6	1.1	5.0	5.0	0.6	1.7	べた高台	a	341

第 113 図 遺構内出土遺物—30



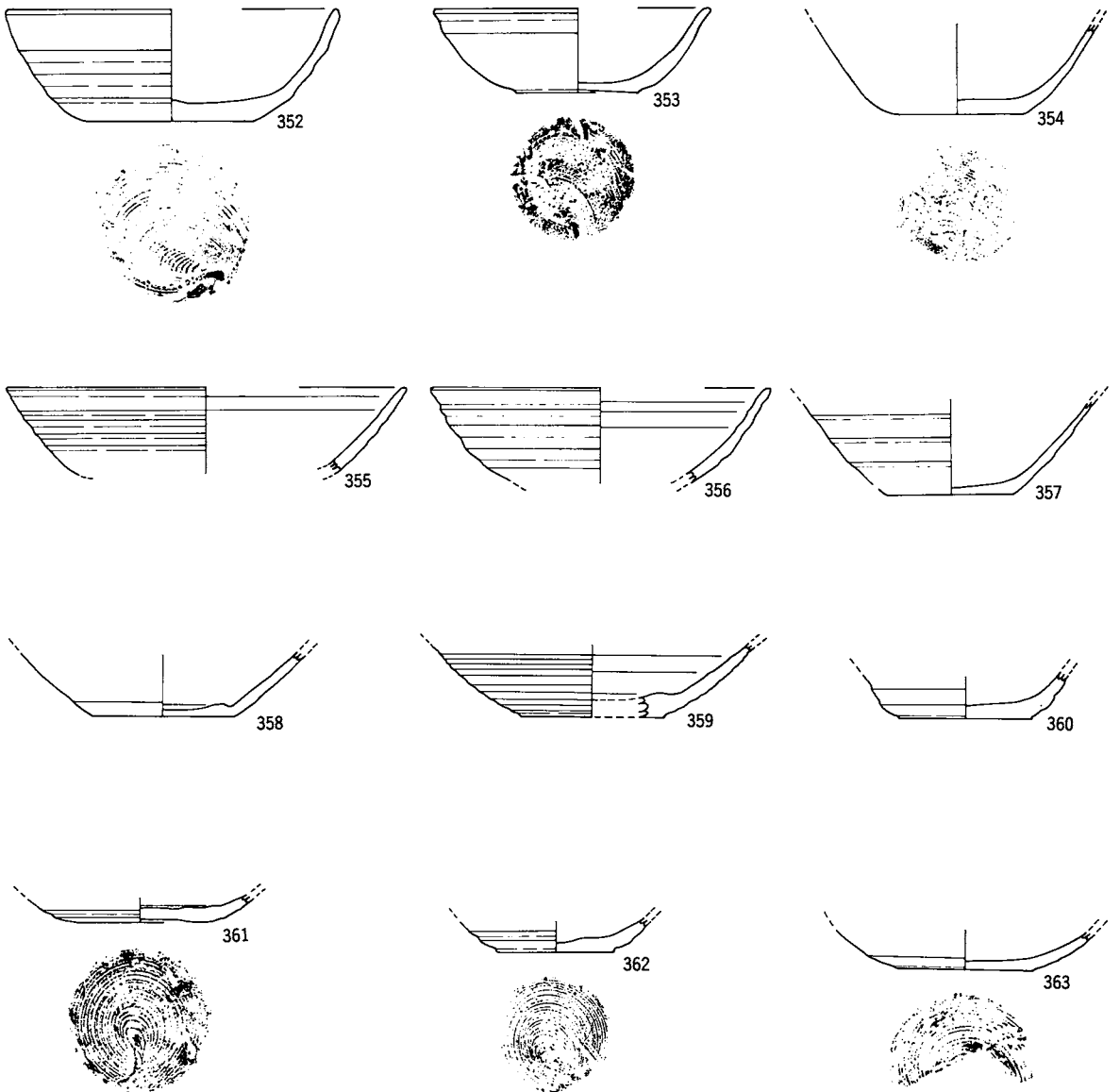
NO.	登録番号	遺構・地点・層位	種類・器種	外面調整			内面調整		計測値:cm			備考	分類	写真図版
				口縁	胴部	底部	調整	黒色処理	口径	底径	器高			
327	535	SB 9 周溝埋土	土師 杯	なし	なし	なし	M	○	13.6	5.0	4.8		IA	341
328	315	SB 9 周溝埋土	土師 杯	なし	なし	なし	M	○	16.0	7.2	5.0		IA	341
329	316	SB 9 周溝埋土	土師 杯	なし	なし	なし	M	○	13.0	5.6	4.7		IA	341
330	567	SB 9 周溝埋土	土師 杯	なし	なし	なし	M	○	15.0	6.4	5.4		IA	341
331	321	SB 9 周溝埋土	土師 杯	なし	なし	-	M	○	14.6	-	-		IA	341
332	537	SB 9 周溝埋土	土師 杯	-	なし	なし	M	○	-	7.3	2.3		IA	341
333	538	SB 9 周溝埋土	土師 杯	なし	なし	-	M	○	15.4	-	-	タール状付着	IA	341
334	318	SB 9 周溝埋土	土師 杯	-	なし	なし	M	○	-	5.8	-		IA	-
335	317	SB 9 周溝埋土	土師 杯	-	なし	なし	M	○	-	6.0	-		IA	-
336	319	SB 9 周溝埋土	土師 杯	-	なし	なし	M	○	-	5.0	-		IA	-
337	320	SB 9 周溝埋土	土師 杯	-	-	なし	M	○	-	8.0	-		IA	-
338	335	SB 9 周溝埋土	土師 杯	-	なし	なし	M	○	-	5.8	-		IA	341
339	539	SB 9 周溝埋土	土師 杯	-	-	-	M	○	-	6.0	-		IA	-
340	541	SB 9 周溝埋土	土師 杯	-	-	-	M	○	-	5.6	-		IA	-
341	584	SB 9 周溝埋土	土師 杯	-	なし	-	M	○	-	-	-	墨書-	IA	341
342	585	SB 9 周溝埋土	土師 杯	-	なし	-	M	○	-	-	-	墨書+	IA	341

第 114 図 遺構内出土遺物—31



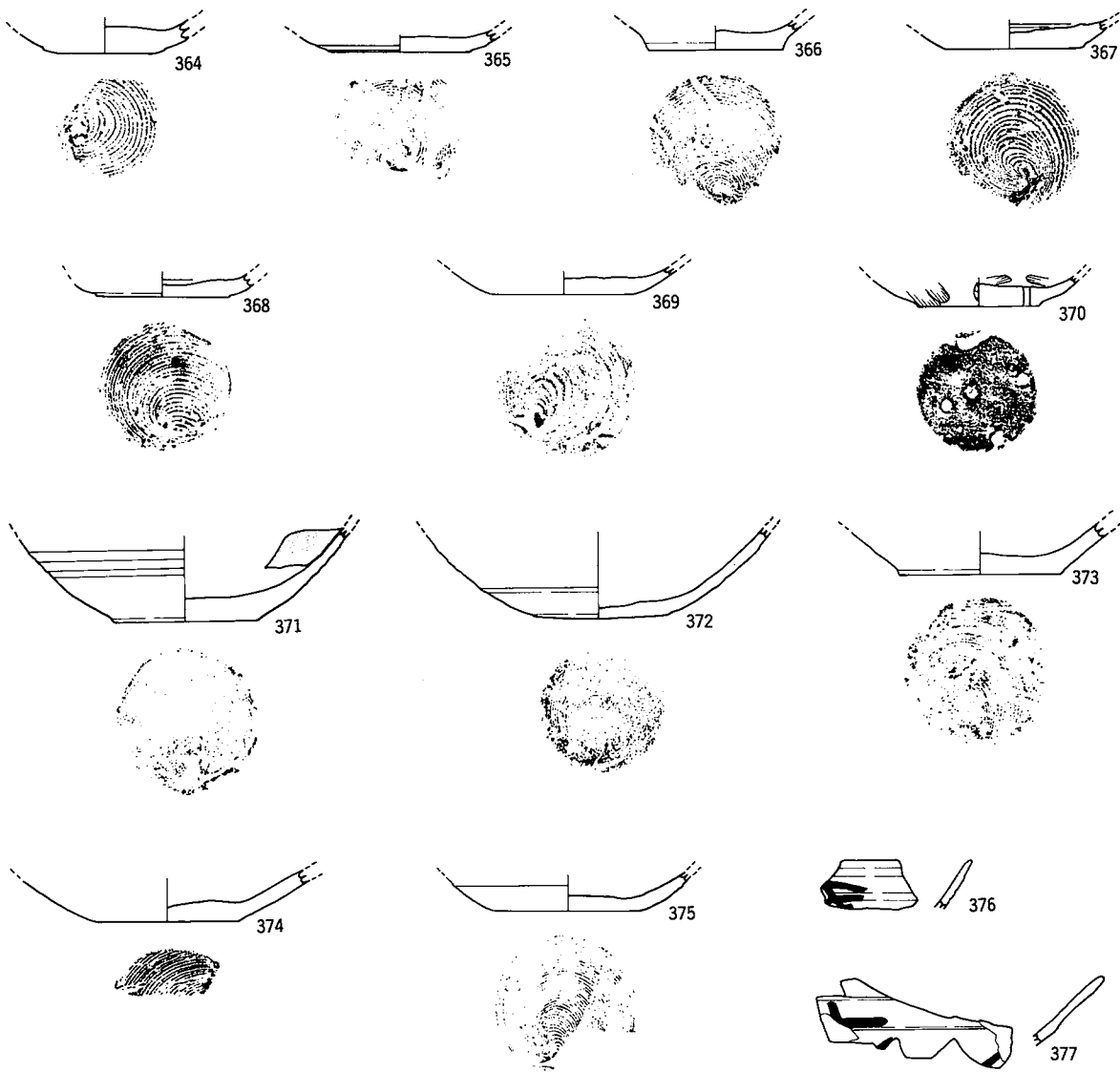
NO.	登録番号	遺構・地点・層位	種類・器種	外面調整			内面調整		計測値：cm			備考	分類	写真図版
				口縁	胴部	底部	調整	黒色処理	口径	底径	器高			
343	326	S B 9 周溝埋土	土師 杯	なし	なし	なし	なし	×	14.8	6.0	5.0	内面煤付着	II b	341
344	545	S B 9 周溝埋土	土師 杯	なし	なし	なし	なし	×	14.6	5.0	4.8	火山灰、体側糸痕	II b	341
345	323	S B 9 周溝埋土	土師 杯	なし	なし	なし	なし	×	15.0	5.6	4.5		II b	341
346	544	S B 9 周溝埋土	土師 杯	なし	なし	なし	なし	×	15.5	6.6	5.0	火山灰、体側糸痕	II b	341
347	324	S B 9 周溝埋土	土師 杯	なし	なし	なし	なし	×	14.4	6.5	5.2	墨書	II b	341
348	322	S B 9 周溝埋土	土師 杯	なし	なし	なし	なし	×	14.5	5.8	4.5	墨書	II b	341
349	328	S B 9 周溝埋土	土師 杯	なし	なし	なし	なし	×	14.5	5.6	4.8		II b	341
350	549	S B 9 周溝埋土	土師 杯	なし	なし	なし	なし	×	14.4	7.0	4.7		II b	341
351	336	S B 9 周溝埋土	土師 杯	なし	なし	なし	なし	×	15.8	5.6	4.0		II b	341

第 115 図 遺構内出土遺物—32



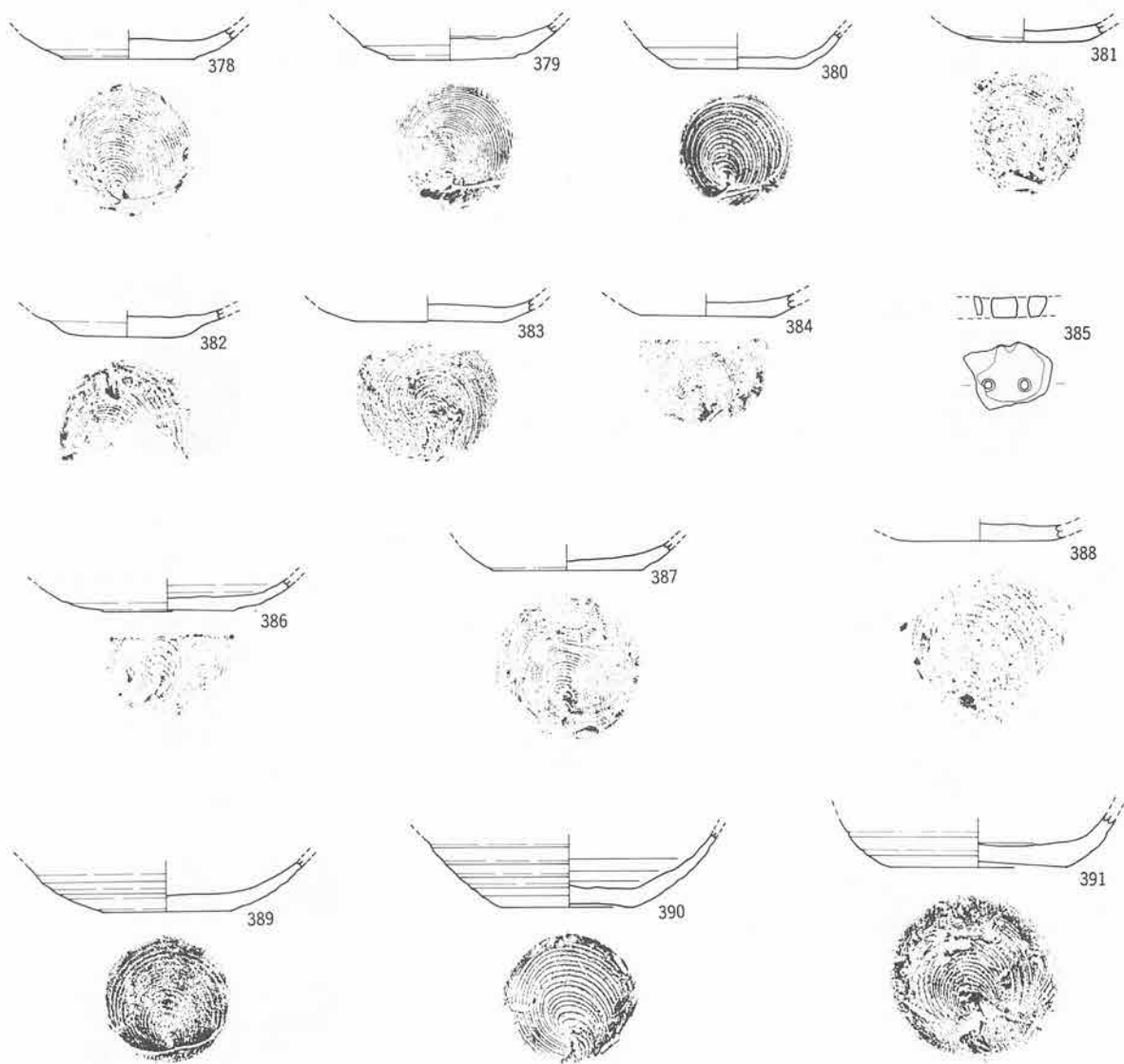
NO.	登録番号	遺構・地点・層位	種類・器種	外面調整			内面調整		計測値:cm			備考	分類	写真図版
				口縁	胴部	底部	調整	黒色処理	口径	底径	器高			
352	327	S B 9 周溝埋土	土師 杯	なし	なし	なし	なし	×	12.0	7.0	4.7	内面煤付着	II b	341
353	325	S B 9 周溝埋土	土師 杯	なし	なし	なし	なし	×	11.7	5.4	3.5		II b	341
354	330	S B 9 周溝埋土	土師 杯	-	なし	N	なし	×	-	5.6	-		II b	342
355	552	S B 9 周溝埋土	土師 杯	なし	なし	-	なし	×	17.0	-	-		II b	341
356	329	S B 9 周溝埋土	土師 杯	なし	なし	-	なし	×	14.4	-	-		II b	342
357	331	S B 9 周溝埋土	土師 杯	-	なし	なし	なし	×	-	5.3	-		II b	342
358	332	S B 9 周溝埋土	土師 杯	-	なし	なし	なし	×	-	6.0	-		II b	342
359	337	S B 9 周溝埋土	土師 杯	-	なし	なし	なし	×	-	6.0	4.0		II b	-
360	345	S B 9 周溝埋土	土師 杯	-	-	なし	なし	×	-	5.5	-		II b	-
361	339	S B 9 周溝埋土	土師 杯	-	-	なし	なし	×	-	6.0	-		II b	-
362	340	S B 9 周溝埋土	土師 杯	-	-	なし	なし	×	-	5.0	-		II b	-
363	334	S B 9 周溝埋土	土師 杯	-	なし	なし	なし	×	-	5.8	-		II b	342

第 116 図 遺構内出土遺物—33



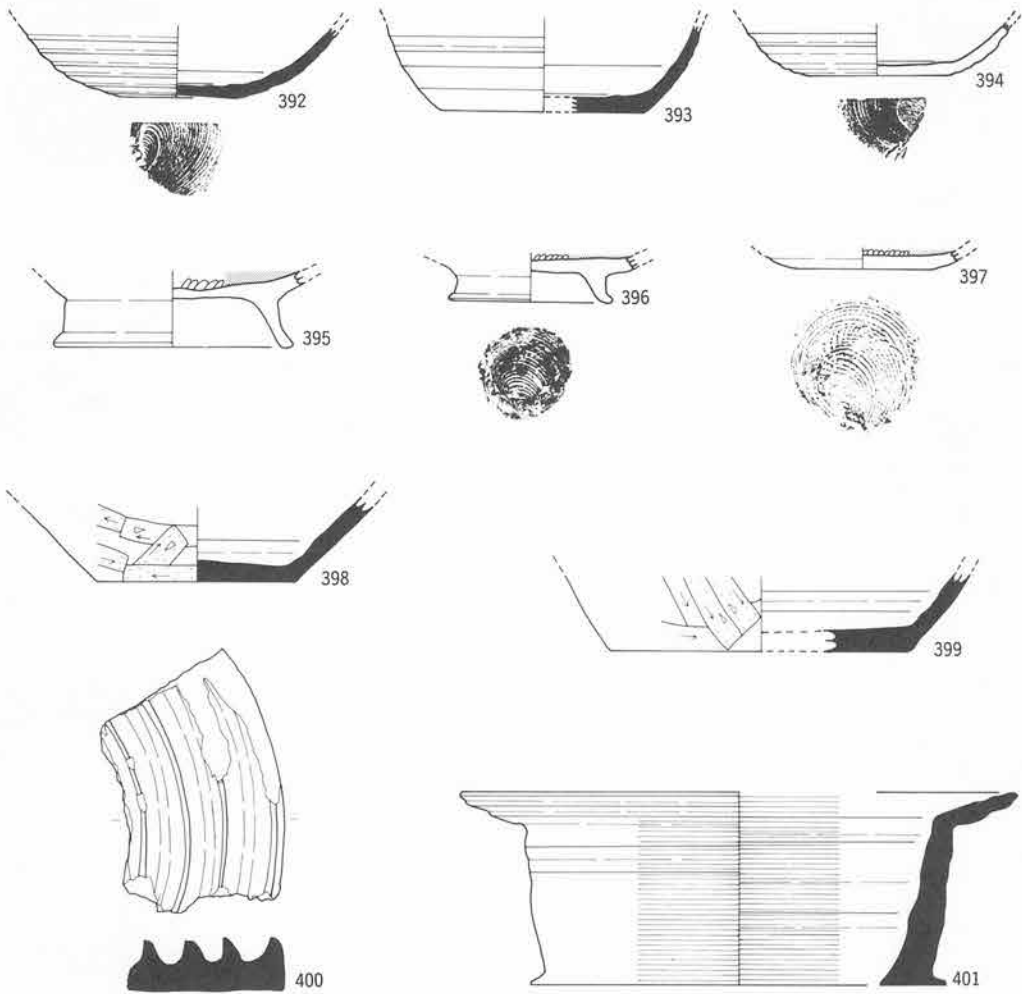
NO.	登録番号	遺構・地点・層位	種類・器種	外面調整		内面調整		計測値：cm			備 考	分 類	写真図版
				口縁	胴部	底部	調整	黒色処理	口径	底径			
364	344	S B 9 周溝埋土	土師 杯	-	-	なし	なし	×	-	4.0	-	II b	-
365	333	S B 9 周溝埋土	土師 杯	-	-	なし	なし	×	-	6.0	-	II b	-
366	341	S B 9 周溝埋土	土師 杯	-	-	なし	なし	×	-	5.6	-	II b	-
367	342	S B 9 周溝埋土	土師 杯	-	-	なし	なし	×	-	5.7	-	II b	-
368	534	S B 9 周溝埋土	土師 杯	-	-	なし	なし	×	-	5.0	-	II b	-
369	343	S B 9 周溝埋土	土師 杯	-	-	なし	なし	×	-	6.0	-	II b	-
370	533	S B 9 周溝埋土	土師 杯	-	-	K	なし	×	-	5.6	-	底面に穿孔	342
371	546	S B 9 周溝埋土	土師 杯	-	なし	HK	なし	×	-	6.0	-	II b	342
372	548	S B 9 周溝埋土	土師 杯	-	なし	なし	なし	×	-	5.6	-	火山灰	342
373	547	S B 9 周溝埋土	土師 杯	-	なし	なし	なし	×	-	6.4	-	II b	-
374	550	S B 9 周溝埋土	土師 杯	-	なし	なし	なし	×	-	6.0	-	II b	342
375	551	S B 9 周溝埋土	土師 杯	-	なし	なし	なし	×	-	6.0	-	II b	342
376	554	S B 9 周溝埋土	土師 杯	-	なし	-	なし	×	-	-	-	墨書?	342
377	553	S B 9 周溝埋土	土師 杯	なし	なし	-	なし	×	-	-	-	墨書?	342

第 117 図 遺構内出土遺物—34



NO.	登録番号	遺構・地点・層位	種類・器種	外面調整			内面調整		計測値: cm			備考	分類	写真図版
				口縁	胴部	底部	調整	黒色処理	口径	底径	器高			
378	558	S B 9 周溝埋土	土師 杯	-	-	なし	なし	×	-	5.6	-		II b	-
379	556	S B 9 周溝埋土	土師 杯	-	-	なし	なし	×	-	5.4	-		II b	-
380	557	S B 9 周溝埋土	土師 杯	-	-	なし	なし	×	-	5.0	-		II b	-
381	559	S B 9 周溝埋土	土師 杯	-	-	なし	なし	×	-	5.2	-	火山灰	II b	-
382	565	S B 9 周溝埋土	土師 杯	-	-	なし	なし	×	-	5.0	-		II b	-
383	563	S B 9 周溝埋土	土師 杯	-	-	なし	なし	×	-	6.0	-	内面赤付着	II b	-
384	564	S B 9 周溝埋土	土師 杯	-	-	なし	なし	×	-	-	-		II b	-
385	566	S B 9 周溝埋土	土師 杯	-	-	なし	なし	×	-	5.6	-	底面に穿孔	II b	385
386	562	S B 9 周溝埋土	土師 杯	-	-	なし	なし	×	-	5.6	-	外面煤付着	II b	-
387	561	S B 9 周溝埋土	土師 杯	-	-	なし	なし	×	-	6.4	-		II b	-
388	560	S B 9 周溝埋土	土師 杯	-	-	なし	なし	×	-	6.7	-		II b	-
389	555	S B 9 周溝埋土	土師 杯	-	-	なし	なし	×	-	5.4	-		II b	-
390	568	S B 9 周溝埋土	土師 杯	-	なし	なし	なし	×	-	5.6	-		II b	-
391	338	S B 9 周溝埋土	土師 杯	-	なし	なし	なし	×	-	7.5	-	鉢?	II b	-

第 118 図 遺構内出土遺物—35

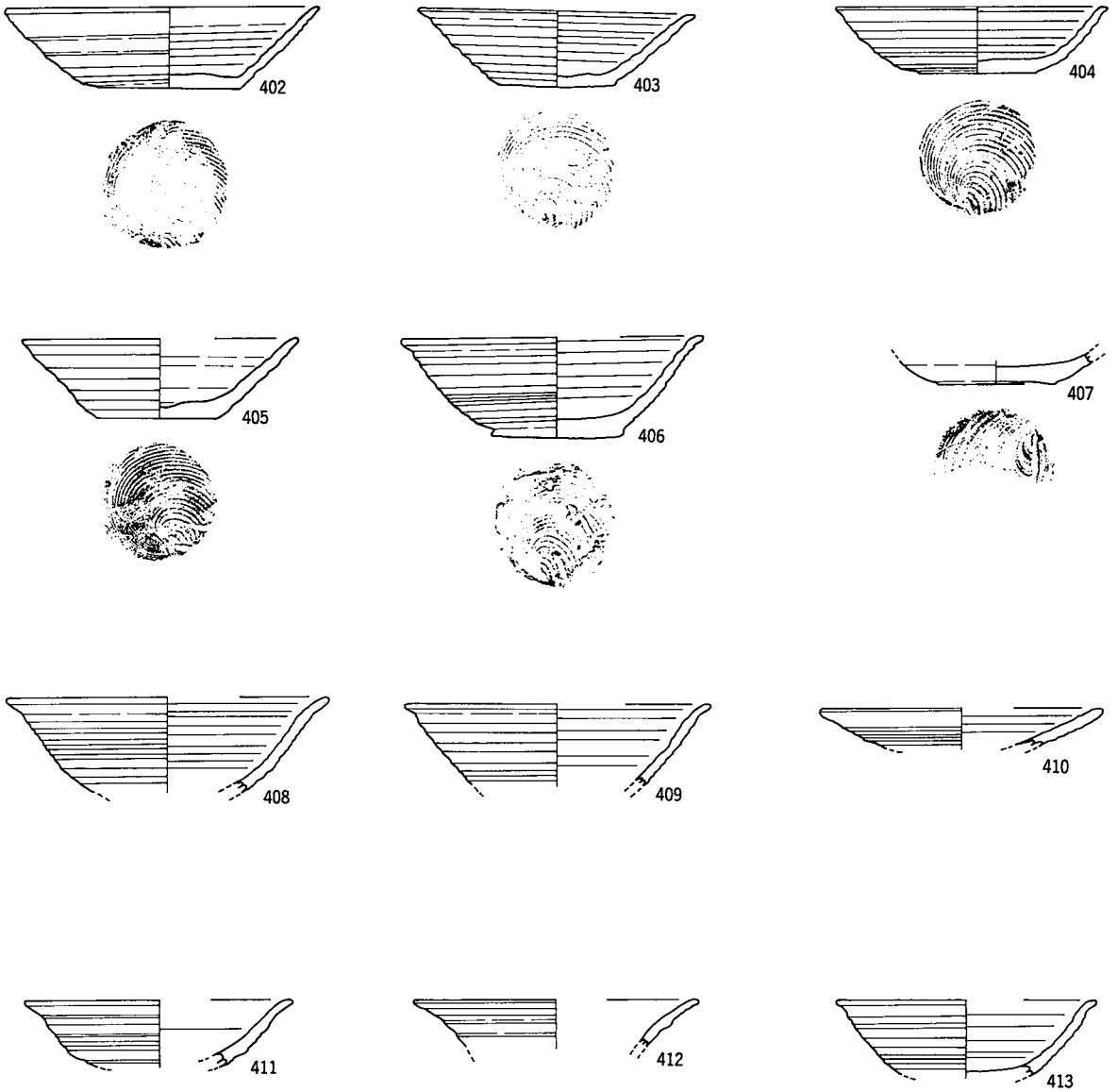


NO.	登録番号	遺構・地点・層位	種類・器種	外面調整			内面調整		計測値:cm			備考	分類	写真図版
				口縁	胴部	底部	調整	黒色処理	口径	底径	器高			
392	586	S B 9 周溝埋土	須恵 杯	-	なし	なし	×	-	4.6	-		-	-	
393	569	S B 9 周溝埋土	須恵 杯	-	なし	HK	なし	×	-	8.0	-		342	
394	583	S B 9 周溝埋土	土師 杯	-	なし	なし	なし	×	-	5.6	-		II b	-

NO.	登録番号	遺構・地点・層位	種類・器種	杯部:cm			杯部内面		台部:cm			備考	分類	写真図版
				口縁	底部	高さ	調整	黒色処理	上部	下部	高さ			
395	543	S B 9 周溝埋土	土師 高杯	-	8.6	-	M	○	8.6	9.6	1.9	台部	I A	342
396	542	S B 9 周溝埋土	土師 高杯	-	6.0	-	M	○	6.0	6.6	1.3	台部	I A	342
397	536	S B 9 周溝埋土	土師 高杯	14.4	6.0	4.5	M	○	-	-	-	台部剝離	I A	-

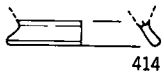
NO.	登録番号	遺構・地点・層位	種類・器種	器面調整:外面			器面調整:内面			底部			計測値:cm			備考	分類	写真図版
				口縁	体上	体下	口縁	体上	体下	外面	口径	底部	器高					
398	350	S B 9 周溝埋土	須恵 壺	-	-	HK	-	-	なし	HK	-	8.0	-		-	342		
399	351	S B 9 周溝埋土	須恵 壺	-	-	HK	-	-	なし	HK	-	12.0	-		-	342		
400	8	S B 9 周溝埋土	須恵 不明	なし	なし	なし	-	-	-	なし	10.0	6.1	2.1		-	342		
401	349	S B 9 周溝埋土	須恵 不明	YN	YN	YN	YN	YN	YN	なし	21.7	16.0	8.0		-	342		

第 119 図 遺構内出土遺物—36

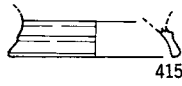


No	登録番号	遺構・地点・層位	種類・器種	坏部:cm			坏部内面		台部:cm			備考	分類	写真図版
				口縁	底部	高さ	調整	黒色処理	上部	下部	高さ			
402	379	1窯 p.31	土師 高坏	13.3	6.0	3.5	なし	×	-	-	-		II	343
403	378	1窯 p.33,11	土師 高坏	11.7	5.0	3.2	なし	×	-	-	-		II	343
404	377	1窯 p.3,9,14	土師 高坏	11.5	5.0	2.8	なし	×	-	-	-		II	343
405	499	1窯埋土 p33	土師 高坏	12.0	5.0	3.3	なし	×	-	-	-		II	343
406	380	1窯 p.28,35,38	土師 高坏	12.8	5.6	4.2	なし	×	-	-	-		II	343
407	395	1窯	土師 高坏	-	5.0	-	なし	×	-	-	-		II	-
408	382	1窯	土師 高坏	13.6	-	4.0	なし	×	-	-	-		II	343
409	388	1窯 p.36	土師 高坏	13.0	-	-	なし	×	-	-	-		II	343
410	383	1窯 p.41	土師 高皿	12.0	-	-	なし	×	-	-	-		-	-
411	387	1窯 p.9	土師 高坏	11.4	-	-	なし	×	-	-	-		II	343
412	384	1窯 p.1	土師 高坏	6.0	-	-	なし	×	-	-	-		II	343
413	381	1窯 p.34	土師 高坏	11.0	-	3.3	なし	×	-	-	-	接着面剥離	II	-

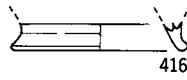
第 120 図 遺構内出土遺物—37



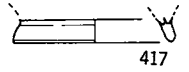
414



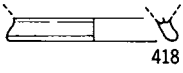
415



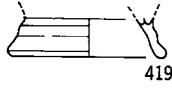
416



417



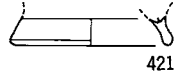
418



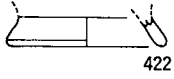
419



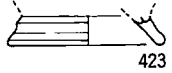
420



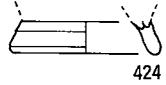
421



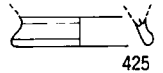
422



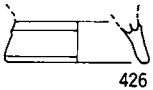
423



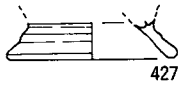
424



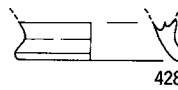
425



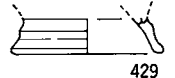
426



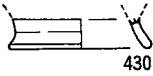
427



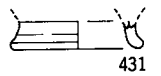
428



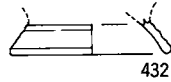
429



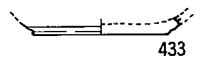
430



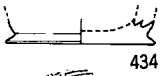
431



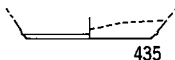
432



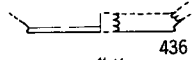
433



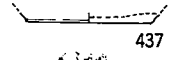
434



435



436

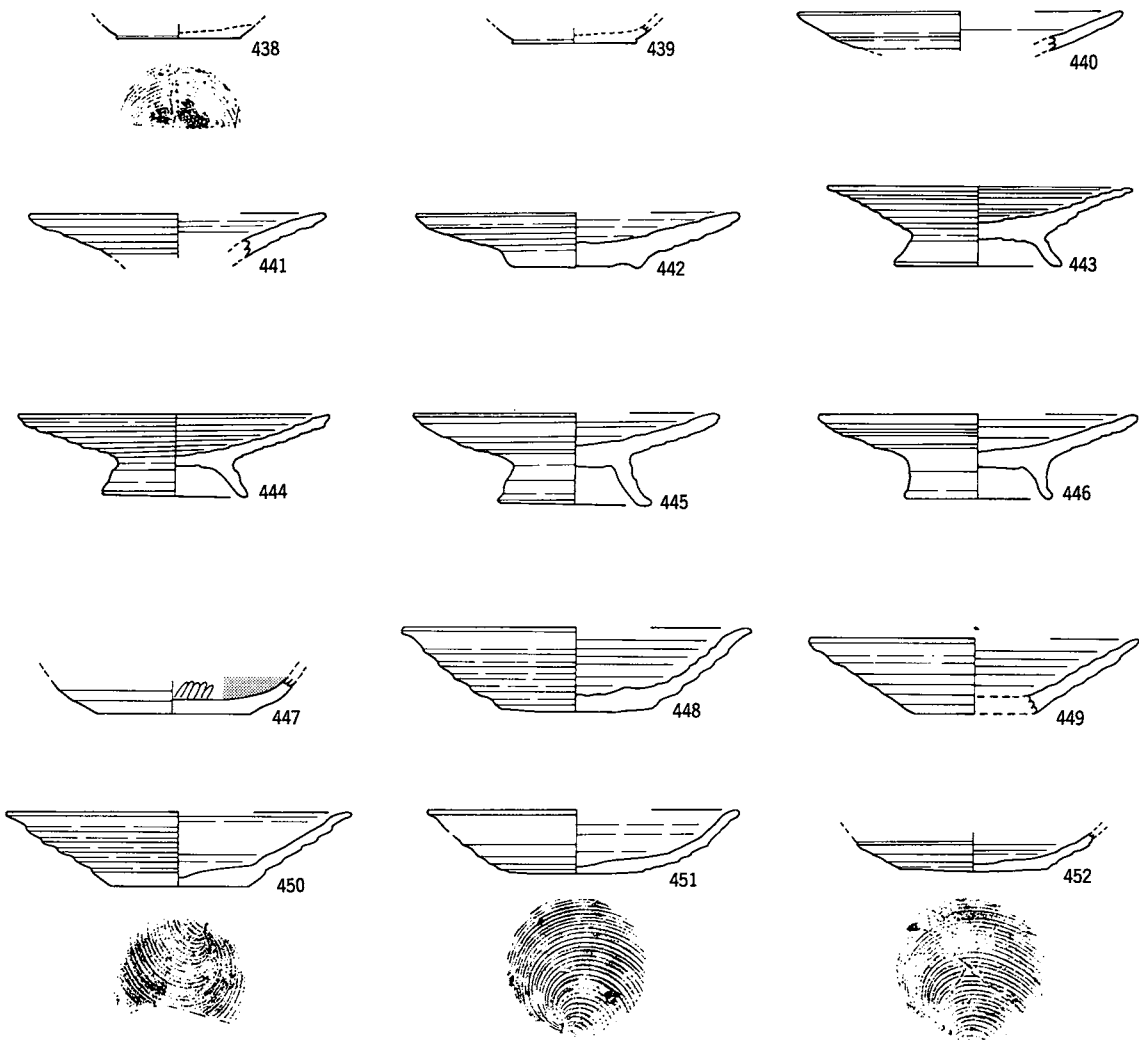


437



No	登録番号	遺構・地点・層位	種類・器種	坏部：cm			坏部内面		台部：cm			備考	分類	写真図版
				口縁	底部	高さ	調整	黒色処理	上部	下部	高さ			
414	420	1 窯 p.28	土師 高坏	-	-	-	-	-	5.2	6.0	1.0		a	343
415	402	1 窯 p.29	土師 高坏	-	-	-	-	-	5.7	6.9	1.4		a	343
416	403	1 窯 p.14	土師 高坏	-	-	-	-	-	6.5	7.1	1.1		a	343
417	404	1 窯埋土 p32	土師 高坏	-	-	-	-	-	6.0	6.5	0.9		a	343
418	405	1 窯 p.37	土師 高坏	-	-	-	-	-	6.2	6.9	0.9		a	343
419	406	1 窯 p.22	土師 高坏	-	-	-	-	-	5.1	6.4	1.5		a	343
420	407	1 窯	土師 高坏	-	-	-	-	-	6.0	5.9	1.4		a	343
421	408	1 窯 p.17	土師 高坏	-	-	-	-	-	5.7	6.5	1.4		a	343
422	409	1 窯 p.17	土師 高坏	-	-	-	-	-	5.4	6.4	1.2		a	343
423	410	1 窯 p. 3	土師 高坏	-	-	-	-	-	5.1	6.3	1.2		a	343
424	411	1 窯埋土 p17	土師 高坏	-	-	-	-	-	5.2	6.0	1.2		a	343
425	412	1 窯 p.26	土師 高坏	-	-	-	-	-	5.0	6.0	1.2		a	343
426	413	1 窯 p.25	土師 高坏	-	-	-	-	-	4.9	5.8	1.7		a	344
427	414	1 窯 p. 4	土師 高坏	-	-	-	-	-	4.9	5.9	1.5		a	344
428	415	1 窯 p.20	土師 高坏	-	-	-	-	-	4.8	6.1	1.4		a	344
429	416	1 窯 p.30	土師 高坏	-	-	-	-	-	6.3	6.8	1.6		a	344
430	417	1 窯 p. 6	土師 高坏	-	-	-	-	-	5.0	5.8	1.2		a	344
431	418	1 窯 p. 7	土師 高坏	-	-	-	-	-	4.6	5.4	1.1		a	344
432	419	1 窯 p.21	土師 高坏	-	-	-	-	-	5.3	6.5	1.2		a	344
433	394	1 窯 p.13	土師 高坏	-	-	5.4	なし	×	-	-	-		-	-
434	399	1 窯 p.36	土師 高坏	-	5.0	-	なし	×	-	-	-		-	-
435	397	1 窯 p.	土師 高坏	-	5.0	-	なし	×	-	-	-		-	-
436	398	1 窯 p.31	土師 高坏	-	5.0	-	なし	×	-	-	-		-	-
437	401	1 窯 p.25	土師 高坏	-	5.0	-	なし	×	-	-	-		-	-

第 121 図 遺構内出土遺物—38

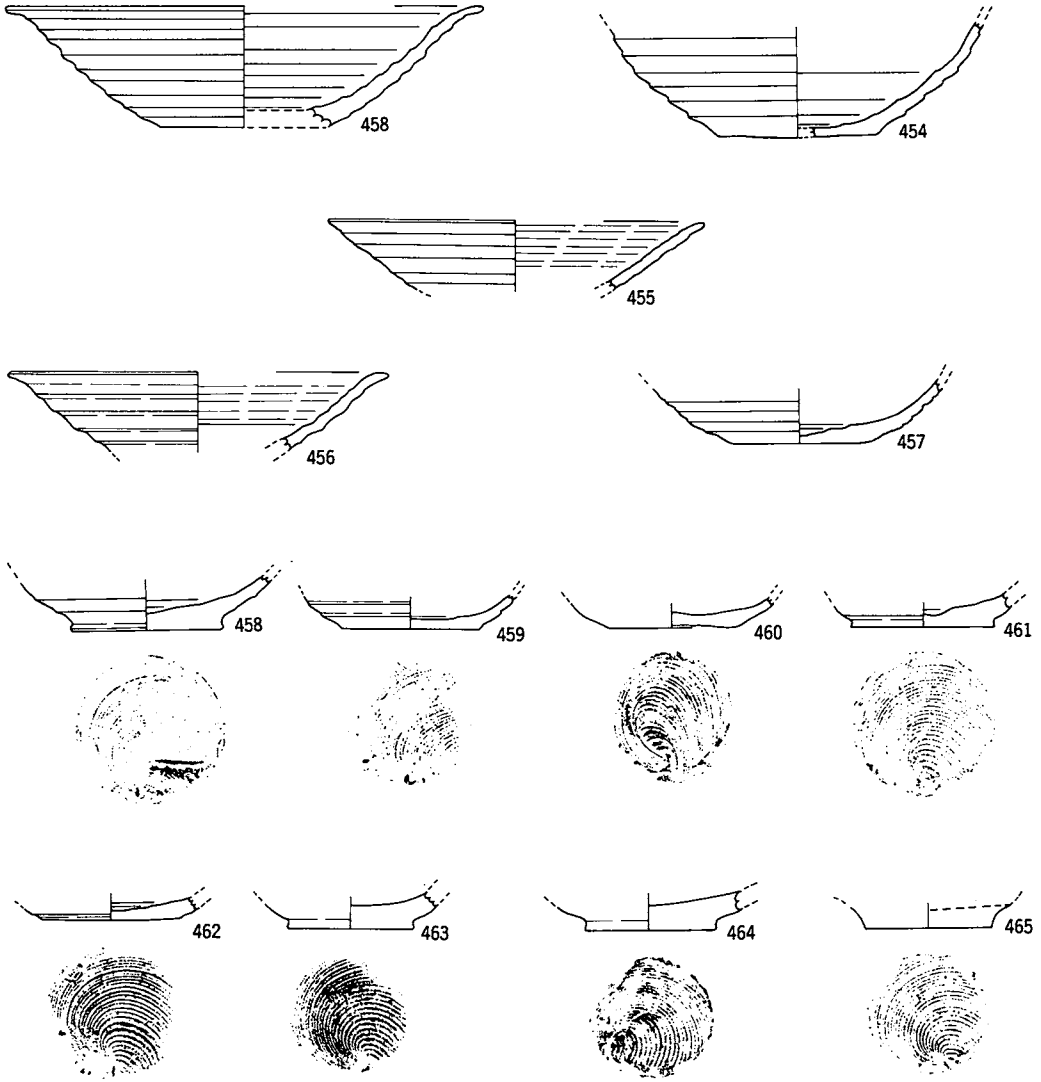


No	登録番号	遺構・地点・層位	種類・器種	坏部：cm			坏部内面		台部：cm			備考	分類	写真図版
				口縁	底部	高さ	調整	黒色処理	上部	下部	高さ			
438	396	1 窯 p.35	土師 高坏	-	5.0	-	なし	×	-	-	-	-	-	-
439	393	1 窯 p.36	土師 高坏	-	5.0	-	なし	×	-	-	-	-	-	-

No	登録番号	遺構・地点・層位	種類・器種	皿部：cm		台部：cm				備考	分類	写真図版
				直径	高さ	上径	下径	高さ	高さ			
440	385	1 窯 p.35	土師 高皿	13.0	-	-	-	-	-	-	II	344
441	386	1 窯 p.31	土師 高皿	12.0	-	-	-	-	-	-	II	344
442	390	1 窯 p.32,24	土師 高皿	12.5	2.2	(5.0)	-	-	-	-	II	344
443	389	1 窯 p.24	土師 高皿	12.1	2.0	5.3	6.7	1.2	3.2	-	II b	344
444	391	1 窯 p.25	土師 高皿	12.4	2.0	4.5	5.8	1.3	3.3	-	II b	344
445	392	1 窯 p.2	土師 高皿	12.0	2.4	4.7	6.1	1.2	3.8	-	II b	344
446	421	1 窯 p.10	土師 高皿	12.8	2.0	5.5	5.9	1.3	3.3	-	II b	344

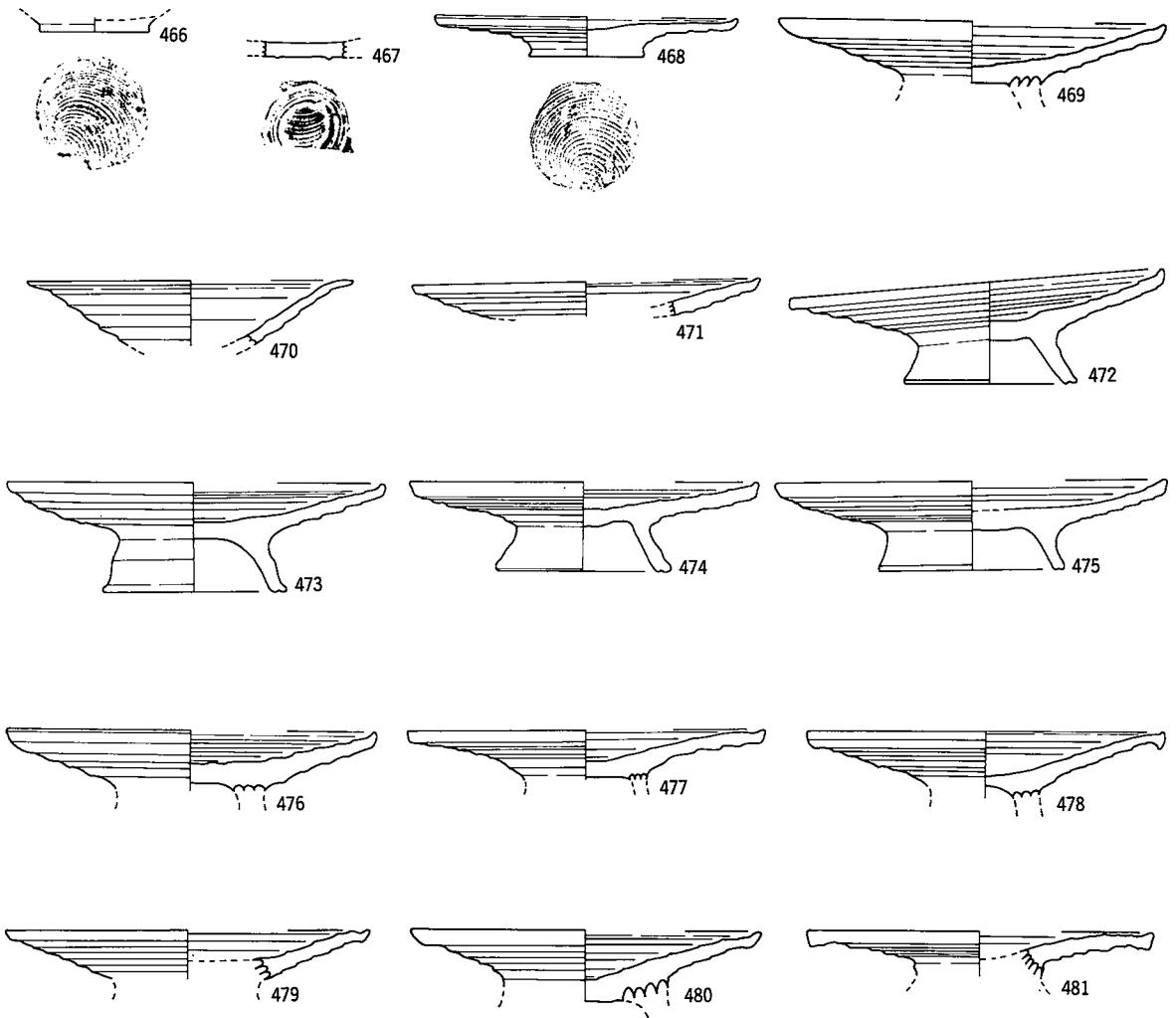
No	登録番号	遺構・地点・層位	種類・器種	外面調整			内面調整		計測値：cm			備考	分類	写真図版
				口縁	胴部	底部	調整	黒色処理	口径	底径	器高			
447	422	2 窯埋土	土師 坏	-	-	なし	M	○	-	6.2	-	遺構外?	I A	-
448	426	2 窯埋土	土師 坏	なし	なし	なし	なし	×	14.0	6.0	3.0	高台付き?	II b	344
449	423	2 窯埋土	土師 坏	なし	なし	なし	なし	×	12.4	-	-	黒斑	II b	344
450	424	2 窯埋土	土師 坏	なし	なし	なし	なし	×	13.8	5.5	3.0	-	II b	344
451	425	2 窯埋土	土師 坏	なし	なし	なし	なし	×	12.6	5.4	2.5	-	II b	344
452	432	2 窯埋土	土師 坏	-	なし	なし	なし	×	-	6.0	-	-	II b	345

第122図 遺構内出土遺物—30



NO.	登録番号	遺構・地点・層位	種類・器種	外面調整			内面調整		計測値:cm			備 考	分 類	写真図版
				口縁	胴部	底部	調整	黒色処理	口径	底径	器高			
453	427	2 窯埋土	土師 杯	なし	なし	なし	なし	×	19.0	6.6	4.8		II b	344
454	430	2 窯埋土	土師 杯	—	なし	なし	なし	×	—	6.4	—		II b	345
455	428	2 窯埋土	土師 杯	なし	なし	なし	なし	×	15.0	—	—		II b	345
456	429	2 窯埋土	土師 杯	なし	なし	なし	なし	×	15.0	—	—		II b	345
457	431	2 窯埋土	土師 杯	—	なし	なし	なし	×	—	5.8	—		II b	345
458	436	2 窯埋土	土師 杯	—	なし	なし	なし	×	—	6.0	—	べた高台	II b	—
459	437	2 窯埋土	土師 杯	—	—	なし	なし	×	—	5.4	—		II b	—
460	438	2 窯埋土	土師 杯	—	—	なし	なし	×	—	5.0	—		II b	—
461	439	2 窯埋土	土師 杯	—	—	なし	なし	×	—	5.5	—	ややべた高台ぎみ	II b	—
462	440	2 窯埋土	土師 杯	—	—	なし	なし	×	—	5.6	—		II b	—
463	441	2 窯埋土	土師 杯	—	—	なし	なし	×	—	5.0	—	べた高台	II b	—
464	442	2 窯埋土	土師 杯	—	—	なし	なし	×	—	5.0	—	べた高台	II b	—
465	443	2 窯埋土	土師 杯	—	—	なし	なし	×	—	5.0	—	べた高台	II b	—

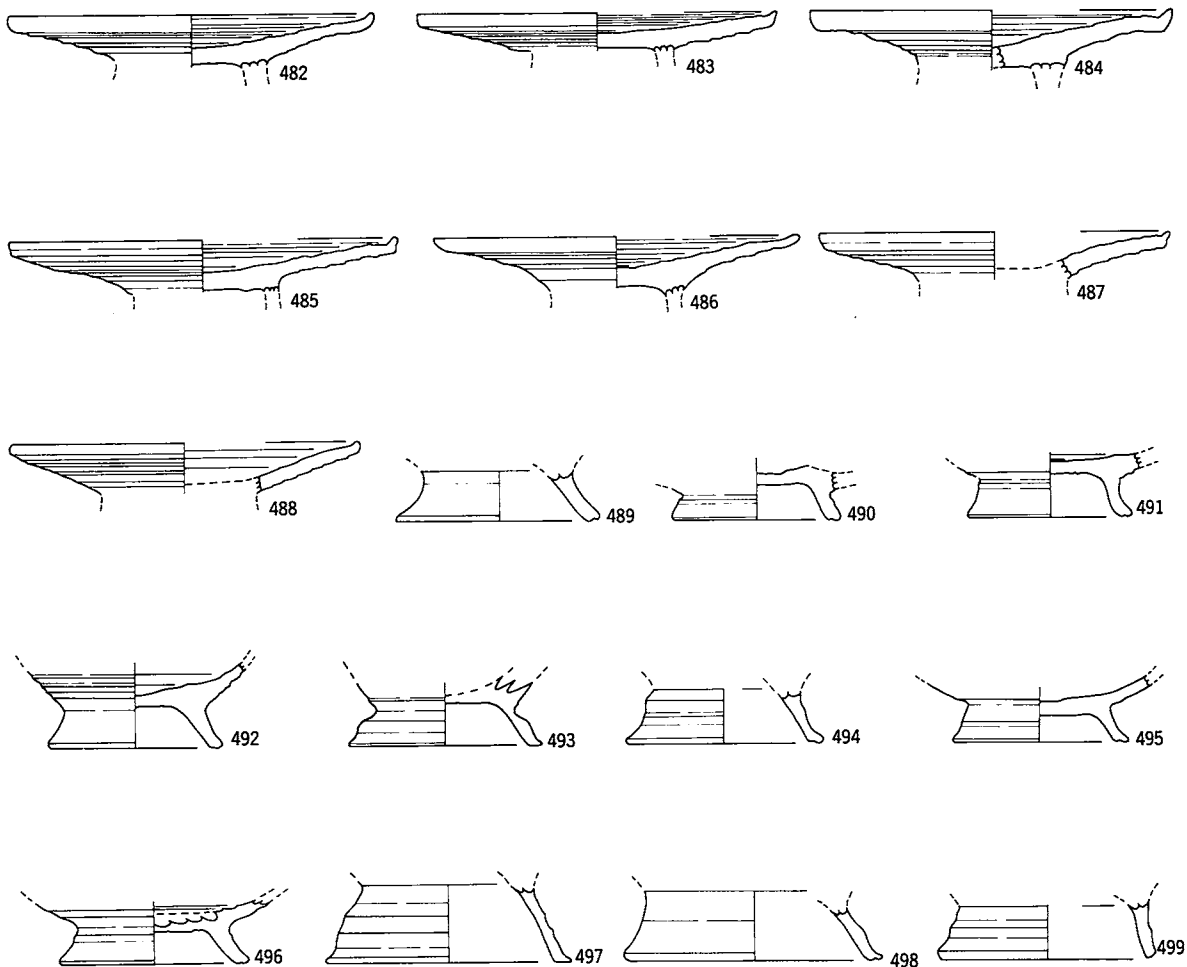
第 123 図 遺構内出土遺物—40



No.	登録番号	遺構・地点・層位	種類・器種	外面調整			内面調整		計測値：cm			備考	分類	写真図版
				口縁	胴部	底部	調整	黒色処理	口径	底径	器高			
466	444	2 窯埋土	土師 坏?	-	-	なし	なし	×	-	4.4	-	べた高台	II b	-
467	445	2 窯埋土	土師 坏?	-	-	なし	なし	×	-	-	-	底面接着痕	II b	-

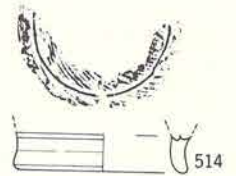
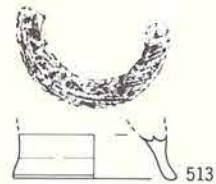
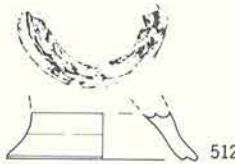
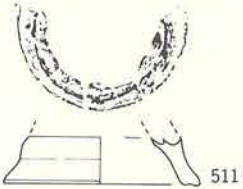
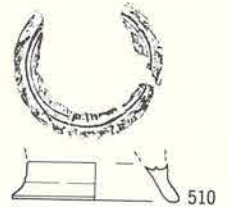
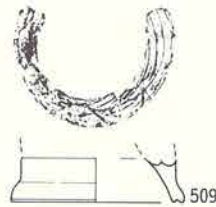
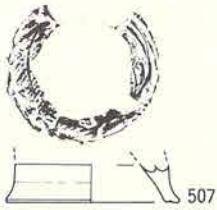
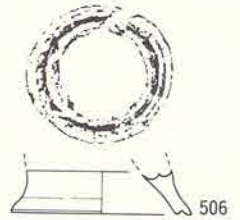
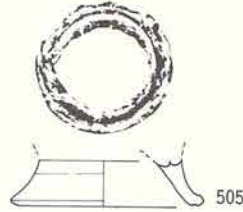
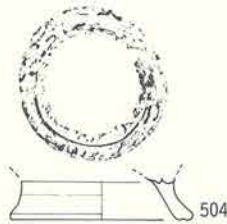
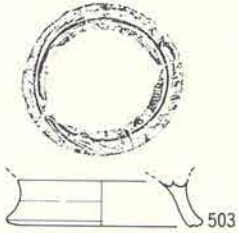
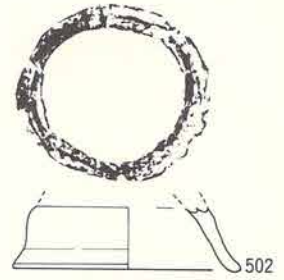
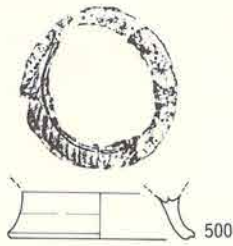
No.	登録番号	遺構・地点・層位	種類・器種	皿部：cm		台部：cm			高さ	備考	分類	写真図版
				直径	高さ	上径	下径	高さ				
468	460	2 窯埋土 P. 3	土師 高皿	12.0	1.0	4.6	4.7	0.6	1.6	べた高台	a	-
469	460	2 窯埋土	土師 高皿	15.5	2.5	-	-	-	-	高台部剝離	-	346
470	433	2 窯埋土	土師 高皿	13.1	-	-	-	-	-	口縁部破片	-	345
471	434	2 窯埋土	土師 高皿	14.0	-	-	-	-	-	口縁部破片	-	-
472	446	2 窯埋土 P. 19	土師 高皿	15.0	2.3	5.8	7.0	2.0	4.0	完形 口唇下にも引き出し	b	345
473	447	2 窯埋土 P. 9	土師 高皿	15.1	2.3	6.0	7.4	2.1	4.4	完形	c	345
474	448	2 窯埋土 P. 13	土師 高皿	15.0	2.2	5.8	7.2	1.7	3.9	完形	b	345
475	449	2 窯埋土 P. 20	土師 高皿	15.7	2.0	7.2	7.5	1.6	3.6		b	346
476	450	2 窯埋土 P. 2	土師 高皿	13.0	2.5	-	-	-	-	高台部剝離	-	346
477	451	2 窯埋土 P. 15	土師 高皿	14.4	2.0	-	-	-	-	高台部剝離	-	346
478	452	2 窯埋土 P. 3	土師 高皿	14.4	2.2	-	-	-	-	高台部剝離 口唇下にも引き出し	-	345
479	461	2 窯埋土	土師 高皿	14.6	2.0	-	-	-	-	高台部剝離 口唇下にも引き出し	-	345
480	463	2 窯埋土	土師 高皿	14.0	2.9	-	-	-	-	高台部剝離	-	345
481	462	2 窯埋土	土師 高皿	14.0	1.8	-	-	-	-	高台部剝離	-	345

第 124 図 遺構内出土遺物—41



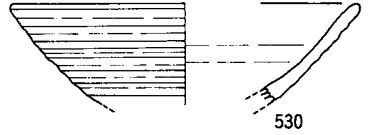
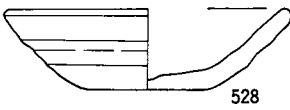
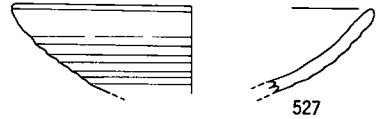
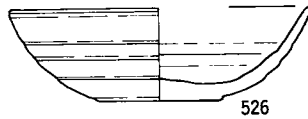
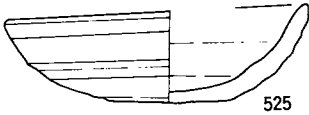
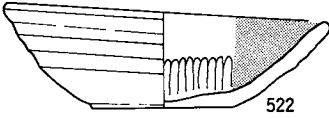
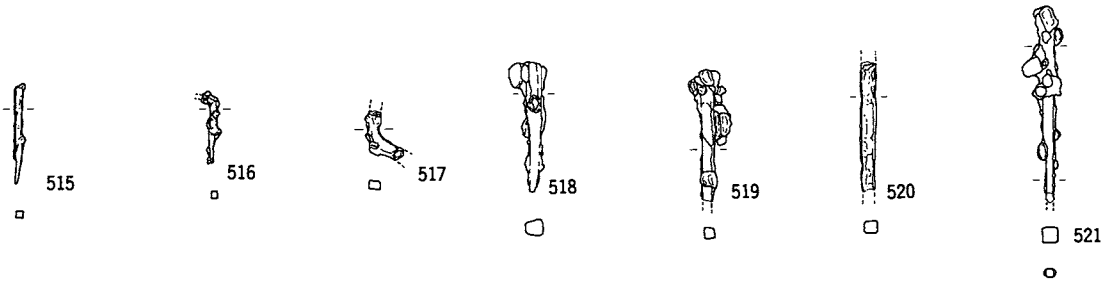
NO.	遺構・地点・層位	種類・器種	皿部：cm		台部：cm			高さ	備考	分類	写真図版	
			直径	高さ	上径	下径	高さ					
482	453	2 竈埋土	土師 高皿	14.6	2.0	-	-	-	-	高台部剝離	-	346
483	454	2 竈埋土	土師 高皿	14.4	1.5	-	-	-	-	高台部剝離	-	345
484	455	2 竈埋土	土師 高皿	14.4	2.4	-	-	-	-	高台部剝離	-	345
485	456	2 竈埋土 P 1, 19	土師 高皿	15.6	2.1	-	-	-	-	高台部剝離	-	345
486	457	2 竈埋土 P 1, 10	土師 高皿	14.0	1.9	-	-	-	-	高台部剝離	-	346
487	458	2 竈埋土 P 1	土師 高皿	14.0	1.9	-	-	-	-	高台部剝離	-	345
488	459	2 竈埋土/VIB 3 f	土師 高皿	14.0	2.0	-	-	-	-	高台部剝離	-	345
489	479	2 竈埋土	土師 高皿	-	-	6.0	8.2	2.0	-	高台部	b	346
490	476	2 竈埋土	土師 高皿	-	-	5.8	6.7	1.0	-	高台部と皿部底面	b	347
491	467	2 竈埋土	土師 高皿	-	-	5.6	6.6	1.5	-	高台部と皿部底面	b	347
492	466	2 竈埋土	土師 高皿	-	-	5.6	7.0	1.5	-	高台部と皿部底面	b	347
493	464	2 竈埋土	土師 高皿	-	-	6.0	7.7	1.8	-	高台部と皿部底面	c	347
494	485	2 竈埋土	土師 高皿	-	-	5.8	7.9	2.2	-	高台部	c	347
495	465	2 竈埋土	土師 高皿	-	-	5.8	7.0	1.5	-	高台部と皿部底面	b	347
496	468	2 竈埋土	土師 高皿	-	-	6.1	7.6	1.5	-	高台部と皿部底面	b	347
497	482	2 竈埋土	土師 高皿	-	-	6.9	9.8	3.1	-	高台側面に段 杯形	c	347
498	477	2 竈埋土	土師 高皿	-	-	8.0	10.3	2.7	-	高台部	b	347
499	484	2 竈埋土	土師 高皿	-	-	7.5	8.8	2.1	-	高台部	b	347

第 125 図 遺構内出土遺物—42



No.	登録番号	遺構・地点・層位	種類・器種	皿部：cm		台部：cm			高さ	備考	分類	写真図版
				直径	高さ	上径	下径	高さ				
500	473	2 窯埋土	土師 高皿	-	-	6.2	7.5	1.8	-	高台部	b	347
501	472	2 窯埋土	土師 高皿	-	-	6.5	6.9	1.6	-	高台部	b	347
502	478	2 窯埋土	土師 高皿	-	-	6.7	9.0	2.5	-	高台部	c	347
503	471	2 窯埋土	土師 高皿	-	-	6.8	8.0	1.7	-	高台部	b	347
504	474	2 窯埋土	土師 高皿	-	-	6.0	7.3	1.5	-	高台部	b	347
505	470	2 窯埋土	土師 高皿	-	-	5.7	7.8	1.8	-	高台部	b	347
506	475	2 窯埋土	土師 高皿	-	-	5.8	7.3	1.7	-	高台部	b	347
507	480	2 窯埋土	土師 高皿	-	-	6.1	7.0	1.6	-	高台部	b	347
508	469	2 窯埋土	土師 高皿	-	-	5.5	7.6	1.9	-	高台部	b	347
509	481	2 窯埋土	土師 高皿	-	-	6.2	6.9	1.7	-	高台部	b	347
510	483	2 窯埋土	土師 高皿	-	-	5.6	6.7	1.5	-	高台部	b	347
511	486	2 窯埋土	土師 高皿	-	-	6.1	7.9	1.9	-	高台部	c	347
512	487	2 窯埋土	土師 高皿	-	-	5.5	7.5	1.8	-	高台部	b	347
513	488	2 窯埋土	土師 高皿	-	-	5.8	6.6	1.8	-	高台部	b	347
514	489	2 窯埋土	土師 高皿	-	-	7.0	7.0	1.5	-	高台部	b	347

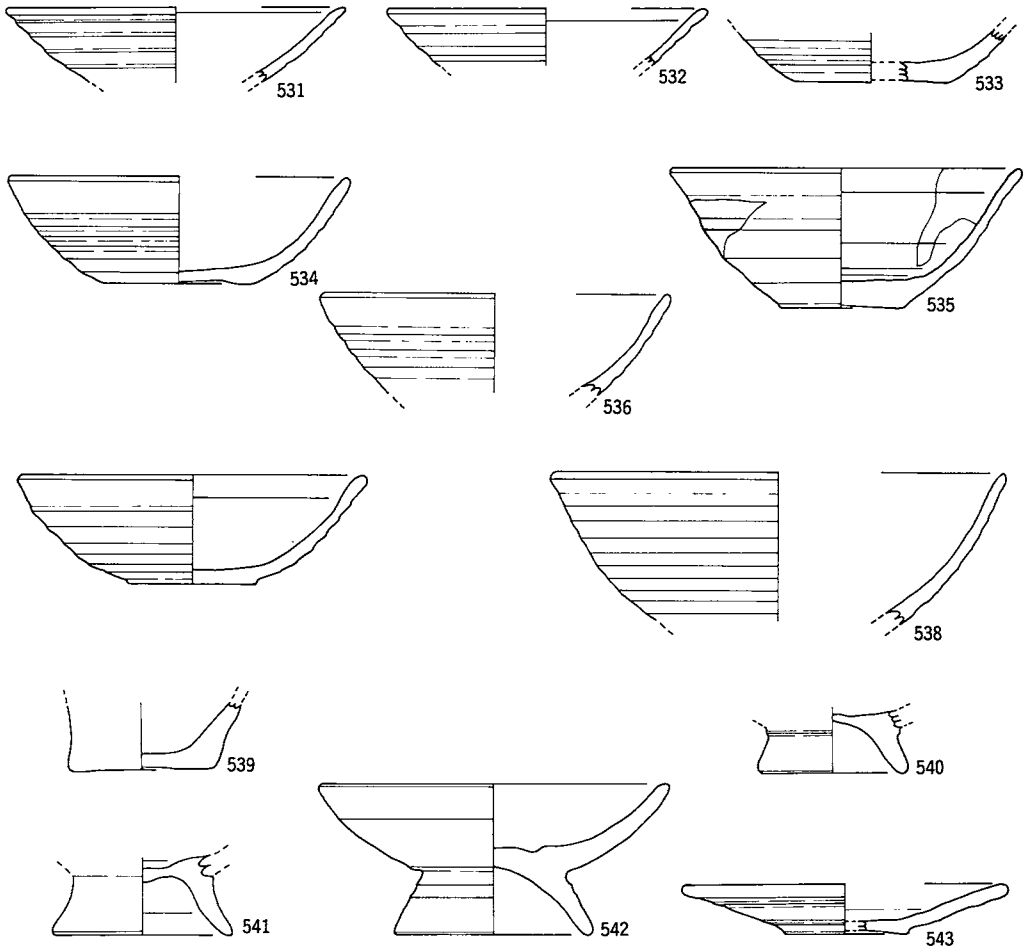
第126図 遺構内出土遺物—43



NO.	登録番号	遺構・地点・層位	器種・部位	長さ	幅	厚さ	重量	特徴・備考	写真図版
515	22	2 窯埋土	鉄製品 釘	4.0	0.3	0.3			348
516	23	2 窯埋土	鉄製品 鏃	2.8	0.3	0.2			348
517	29	2 窯埋土	鉄製品 鏃	2.0	0.3	0.4			348
518	10	2 窯埋土	鉄製品 釘	5.2	0.7	0.6			348
519	12	2 窯埋土	鉄製品 釘	5.2	0.4	0.4			348
520	24	2 窯埋土	鉄製品 釘	5.0	0.5	0.5			348
521	11	2 窯埋土	鉄製品 釘	7.8	0.7	0.7			348

NO.	登録番号	遺構・地点・層位	種類・器種	外面調整			内面調整		計測値：cm			備考	分類	写真図版
				口縁	胴部	底部	調整	黒色処理	口径	底径	器高			
522	492	3 窯埋土	土師 杯	なし	なし	なし	なし	×	13.0	5.4	4.3	内外面タール状付着	I A	348
523	493	3 窯埋土	土師 杯	なし	なし	なし	なし	×	12.5	4.6	3.2		II b	348
524	494	3 窯埋土	土師 杯	なし	なし	なし	なし	×	12.0	4.5	3.2		II b	348
525	497	3 窯埋土	土師 杯	なし	なし	なし	なし	×	12.0	5.0	3.9		II b	348
526	498	3 窯埋土	土師 杯	なし	なし	なし	なし	×	12.1	2.5	3.7	内面煤付着	II b	348
527	501	3 窯埋土	土師 杯	なし	なし	なし	なし	×	14.5	—	—		II b	348
528	500	3 窯埋土	土師 杯	なし	なし	なし	なし	×	11.5	5.0	3.0		II a	—
529	505	3 窯埋土	土師 杯	なし	なし	なし	なし	×	15.0	—	—		II b	—
530	506	3 窯埋土	土師 杯	なし	なし	なし	なし	×	14.0	—	—		II b	348

第 127 図 遺構内出土遺物—44

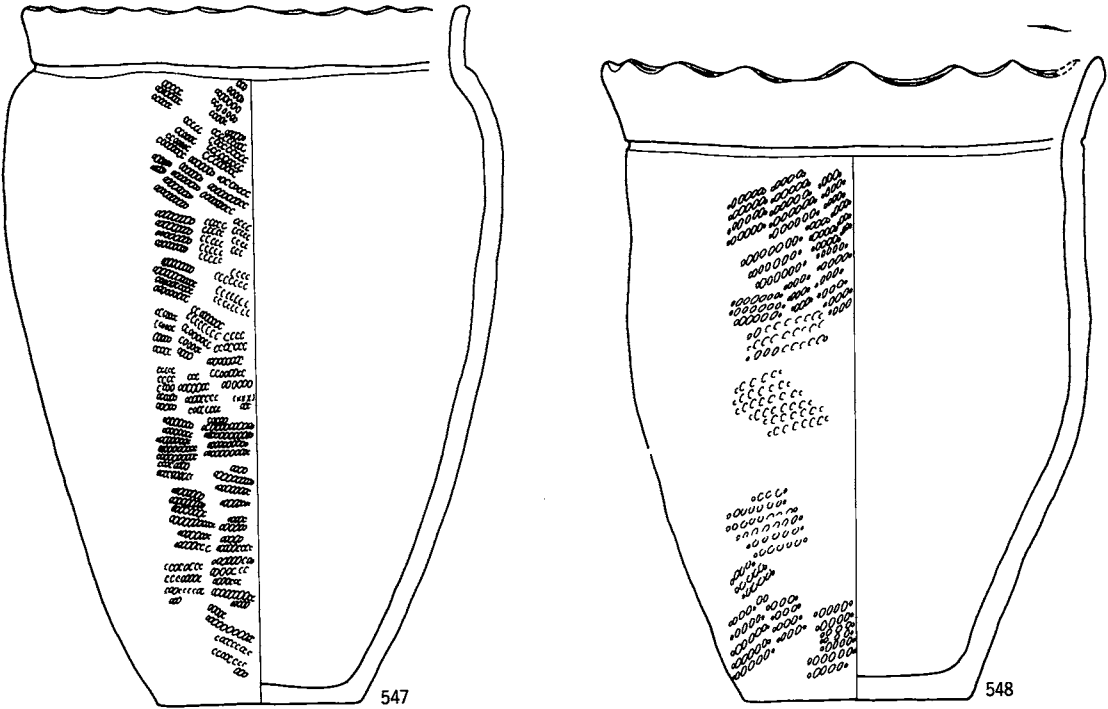
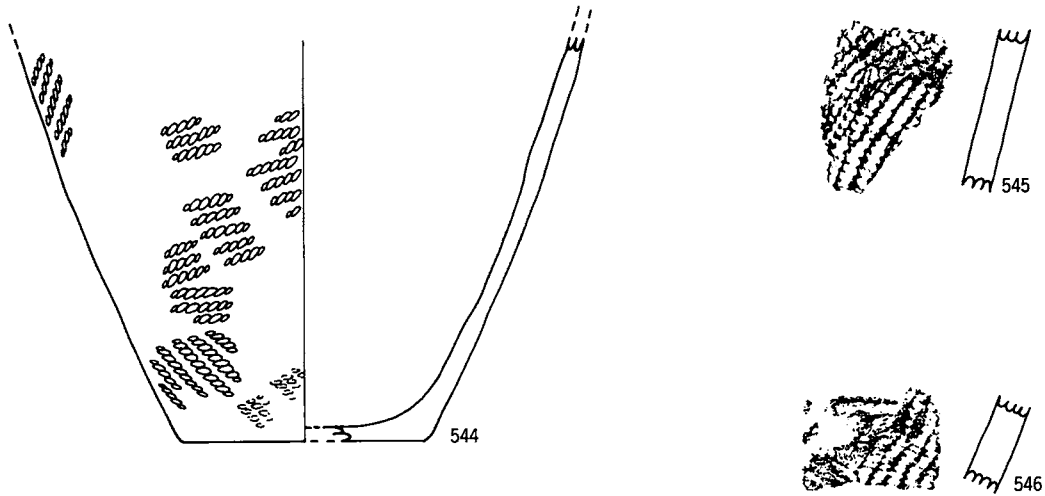


No.	登録番号	遺構・地点・層位	種類・器種	外面調整			内面調整		計測値:cm			備考	分類	写真図版
				口縁	胴部	底部	調整	黒色処理	口径	底径	器高			
531	507	3 窯埋土	土師 坏	なし	なし	—	なし	×	13.5	—	—		II b	348
532	508	3 窯埋土	土師 坏	なし	なし	—	なし	×	12.8	—	—		II b	—
533	510	3 窯埋土	土師 坏	—	—	なし	なし	×	—	6.0	—		II b	—
534	504	3 窯埋土	土師 坏	なし	なし	なし	なし	×	13.6	3.0	4.3		II b	348
535	495	3 窯埋土	土師 坏	なし	なし	なし	なし	×	14.0	5.5	4.4		II b	348
536	496	3 窯埋土	土師 坏	なし	なし	なし	なし	×	14.0	5.0	5.6	煤付着	II b	348
537	509	3 窯埋土	土師 坏	なし	なし	—	なし	×	14.0	—	—		II b	348
538	503	3 窯埋土	土師 坏	なし	なし	—	なし	×	18.0	—	—	大型	II b	348
539	502	3 窯埋土	手つくね?	—	—	なし	なし	×	—	5.8	—		—	348

No.	登録番号	遺構・地点・層位	種類・器種	坏部:cm			坏部内面		台部:cm			備考	分類	写真図版
				口縁	底部	高さ	調整	黒色処理	上部	下部	高さ			
540	513	3 窯埋土	土師 高坏	—	—	—	なし	×	5.1	6.0	1.6		II a	—
541	512	3 窯埋土	土師 高坏	—	—	—	なし	×	5.5	7.2	2.4		II a	348
542	511	3 窯埋土	土師 高坏	14.0	6.5	3.5	なし	×	5.7	8.0	2.5	坏部外面に段なし	II a	348

No.	登録番号	遺構・地点・層位	種類・器種	皿部:cm		台部:cm			高さ	備考	分類	写真図版
				直径	高さ	上径	下径	高さ				
543	514	3 窯埋土	土師 高皿	14.0	2.0	—	—	—	—	高台部欠損	—	348

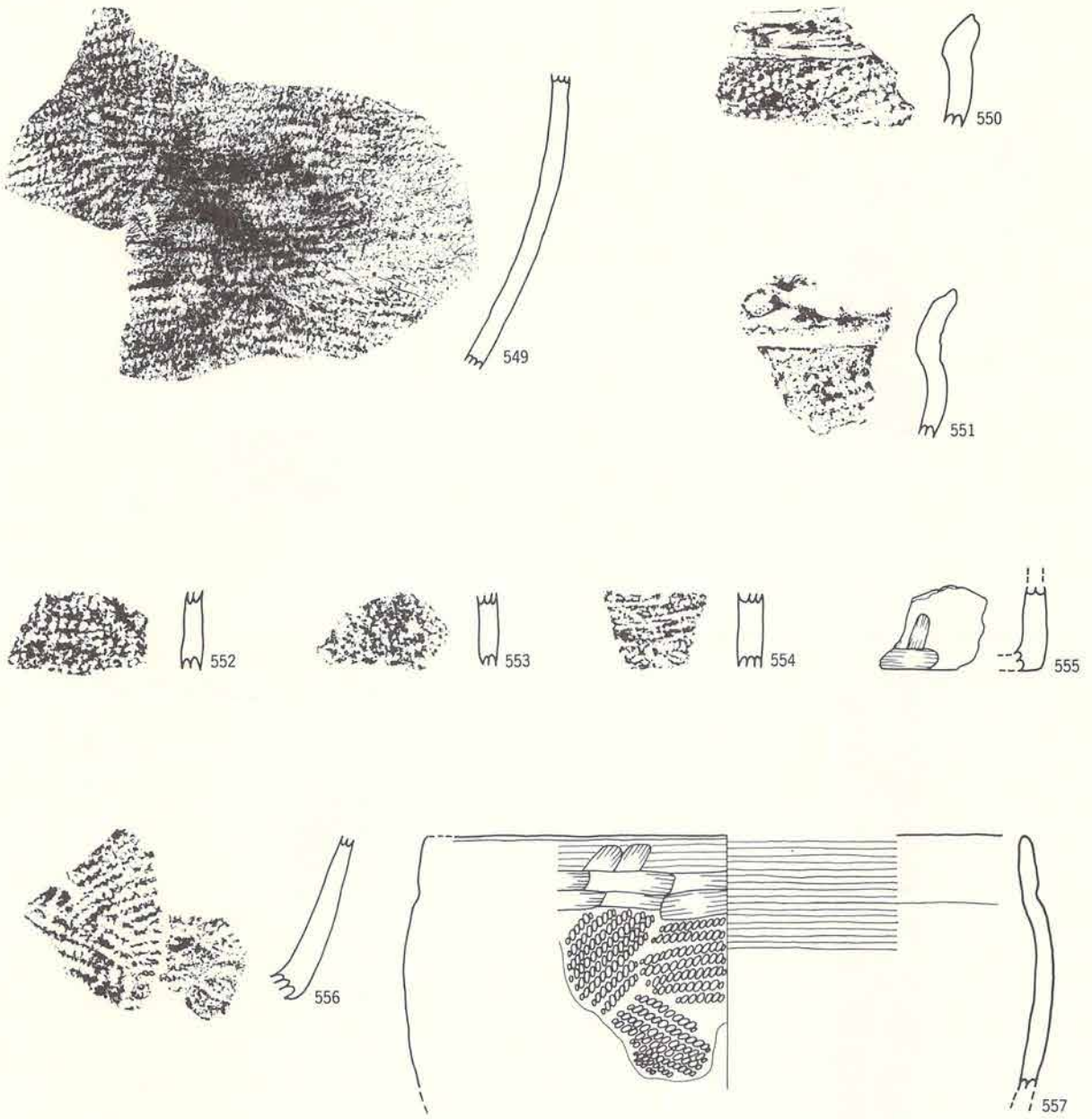
第 128 図 遺構内出土遺物—45



No.	登録番号	遺構・地点・層位	器種	部位	器形 / 外面	分類	写真図版
544	625	VI B 2 土坑床鉢	深鉢	底部	2 縄文、内外面煤付着	—	349
545	630	VI B 3 土坑	深鉢	体部	斜縄文	—	349
546	631	VI B 3 土坑	深鉢	体部	斜縄文	—	349

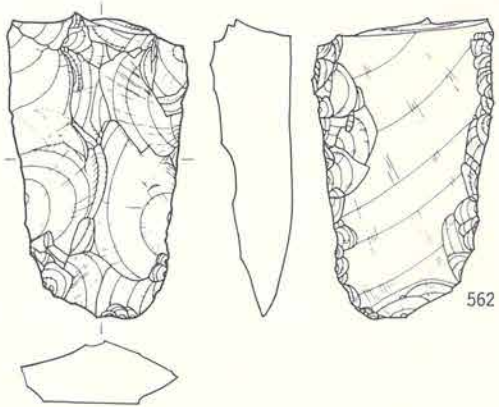
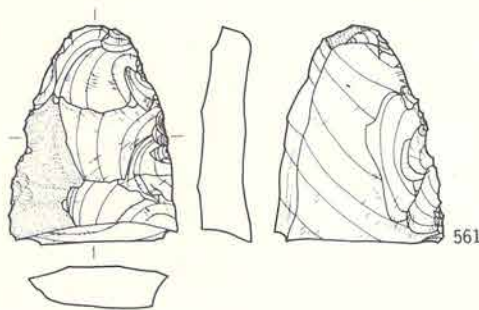
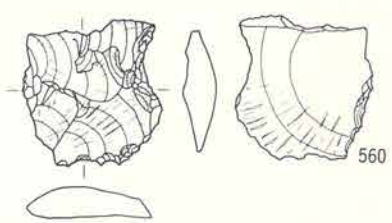
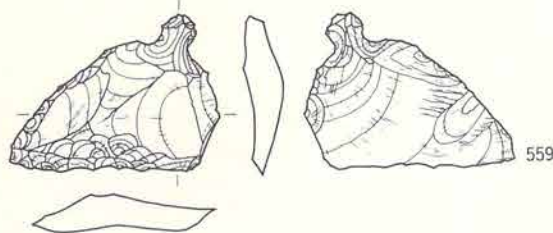
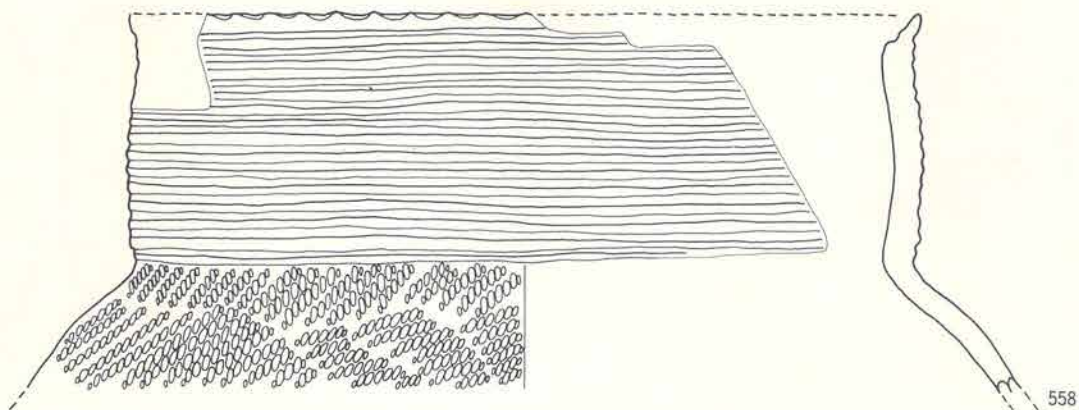
No.	登録番号	遺構・地点・層位	器種	部位	器形 / 外面	分類	写真図版
547	655	VII A 土坑 1 床直	深鉢	完形	波状口縁、口縁に溝、沈線、単節斜縄文、粗製	IV	349
548	656	VII A 土坑 1 床直	深鉢	完形	波状口縁、沈線、単節斜縄文、粗製	IV	349

第 129 図 遺構内出土遺物—46



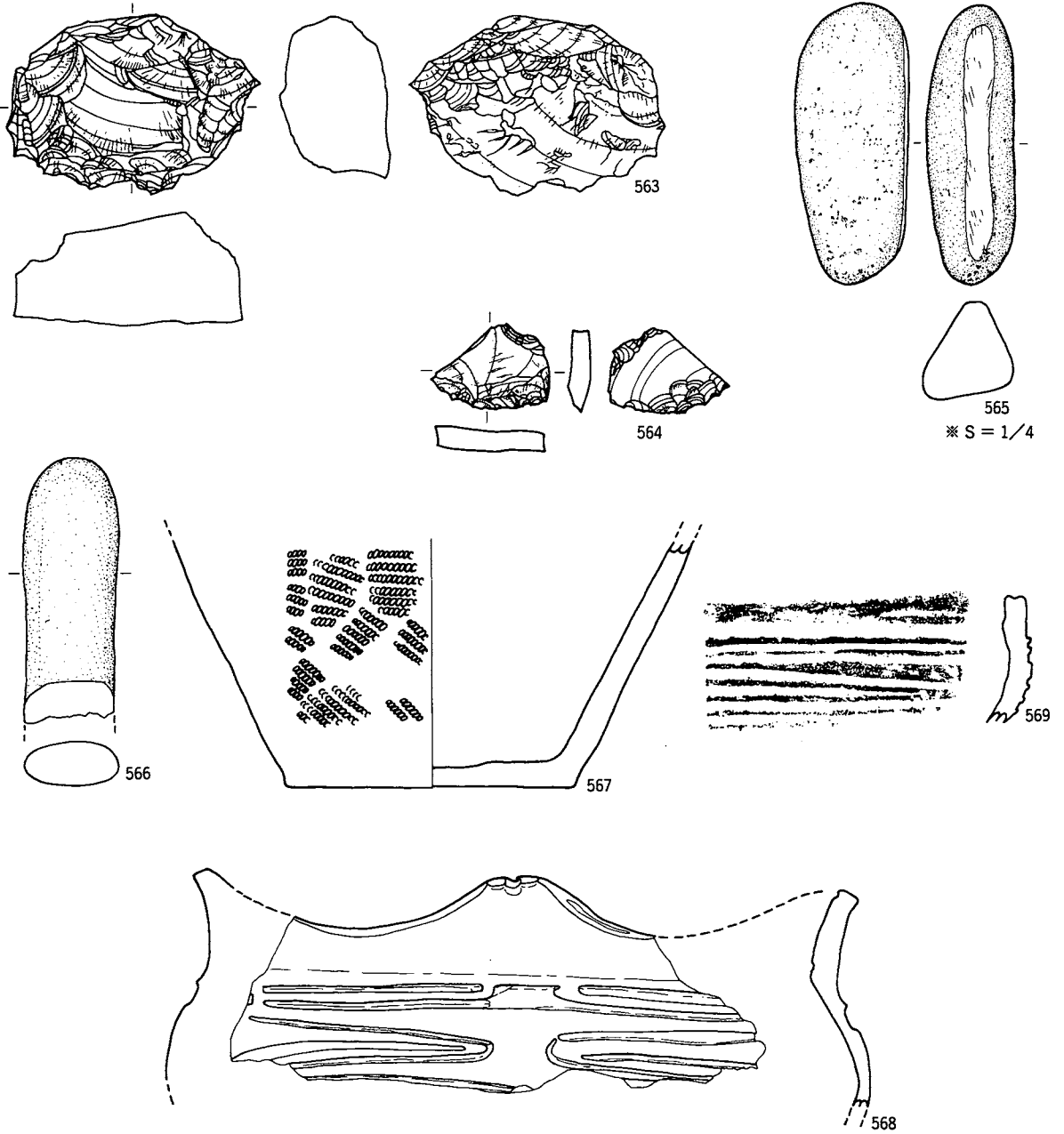
No.	登録番号	遺構・地点・層位	器種	部位	器形 / 外面	分類	写真図版
549	680	VII A 2 土坑	浅鉢	体部	縄文、斜行、横走	—	349
No.	登録番号	遺構・地点・層位	器種	部位	器形 / 外面	分類	写真図版
550	670	VII B 1 土坑埋土	浅鉢	口縁	沈線、斜縄文	III	350
551	671	VII B 1 土坑埋土	浅鉢	口縁	波状口縁、沈線、斜縄文	III	350
552	672	VII B 1 土坑埋土	深鉢	体部	摩擦顯著	—	350
553	673	VII B 1 土坑埋土	深鉢	体部	摩擦顯著	—	350
554	674	VII B 1 土坑埋土	深鉢	体部	摩擦顯著	—	350
555	675	VII B 1 土坑埋土	深鉢	体部	摩擦顯著	—	350
No.	登録番号	遺構・地点・層位	器種	部位	器形 / 外面	分類	写真図版
556	669	VII B 2 土坑埋土	深体	底部	尖底土器、斜縄文	—	350
No.	登録番号	遺構・地点・層位	器種	部位	器形 / 外面	分類	写真図版
557	665	VII B 7 土坑埋土	深体	体上	口縁は無文、胴部は斜縄文	III	350

第 130 図 遺構内出土遺物—47



No	登録番号	遺構・地点・層位	器種	部位	器形 / 外面				分類	写真図版	
558	664	VII B 7 土坑埋土	深鉢	体上	口縁に刻み、その下、沈線、胴部は斜縄文張り出す				III	350	
No	登録番号	遺構・地点・層位	器種	長さ	幅	厚さ	重量	石質	産地	成年時代	写真図版
559	32	VII B 8 土坑埋土	石器	4.1	5.6	1.0	17.4	珪質細粒凝灰岩	奥羽山地	新第3系中新統	351
560	34	VII B 8 土坑埋土	ノッチ	3.8	3.7	0.8	12.3	珪質細粒凝灰岩	奥羽山地	新第3系中新統	351
561	28	VII B 8 土坑埋土	石籠	5.8	4.5	1.3	28.8	硬質泥岩	奥羽山地	新第3系中新統	351
562	31	VII B 8 土坑埋土	石籠	8.2	4.8	2.2	74.0	珪質細粒凝灰岩	奥羽山地	新第3系中新統	351

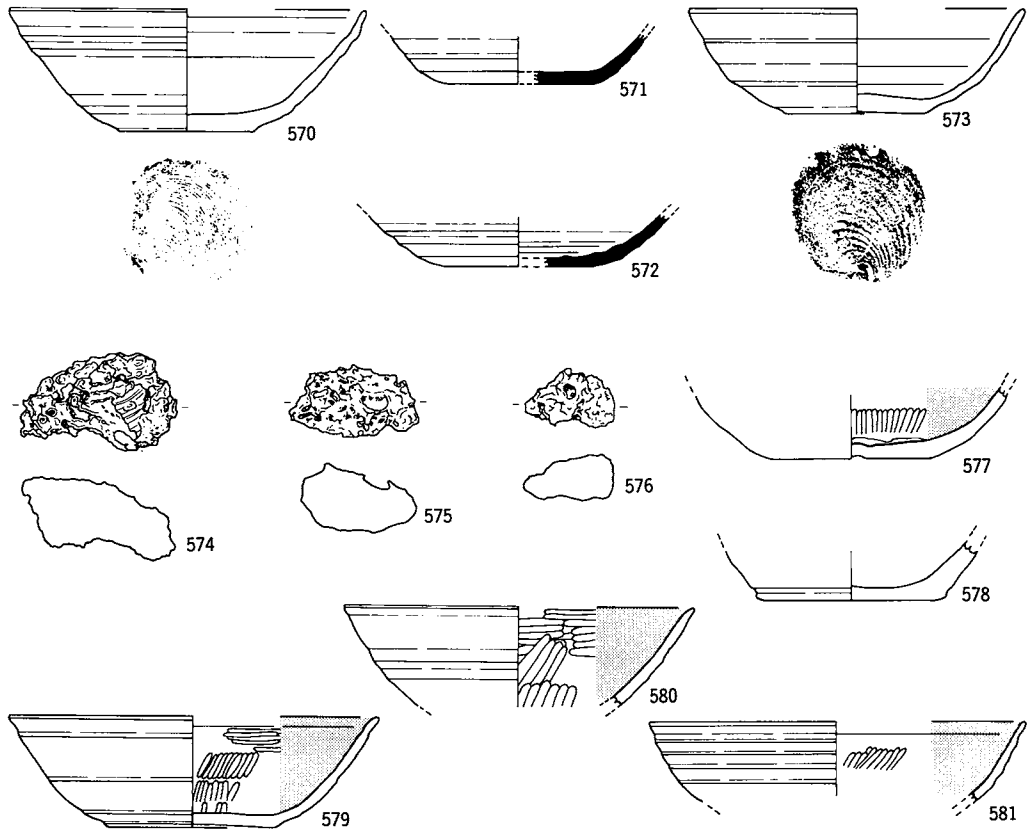
第 131 図 遺構内出土遺物—48



No.	登録番号	遺構・地点・層位	器種	長さ	幅	厚さ	重量	石質	産地	成年時代	写真図版
563	27	VII B 8 土坑埋土	コア	5.4	7.6	3.3	152	珪質極細粒凝灰岩	奥羽山地	新第3系中新統	351
564	29	VII B 8 土坑埋土	削器	2.5	3.6	0.7	7.0	玻璃質安山岩	奥羽山地	時代不詳	351
565	30	VII B 8 土坑埋土	磨石	16.7	6.8	5.5	810	輝石安山岩	奥羽山地	新第3系中新統	351
566	33	VII B 8 土坑埋土	不明	8.0	2.9	1.3	50.2	淡緑色凝灰岩	奥羽山地	新第3系中新統	351

No.	登録番号	遺構・地点・層位	器種	部位	器形 / 外面	分類	写真図版
567	663	VII B 15 土坑埋土	深鉢	底部	斜縄文、底面に砂の移動	—	350
568	666	VII B 15 土坑埋土	深鉢	口縁	波状口縁、胸部上半に変形工字文、内面炭化物	III	350
569	667	VII B 15 土坑埋土	浅鉢	口縁	口唇に溝状、胸部上半に沈線	III	350

第 132 図 遺構内出土遺物—49

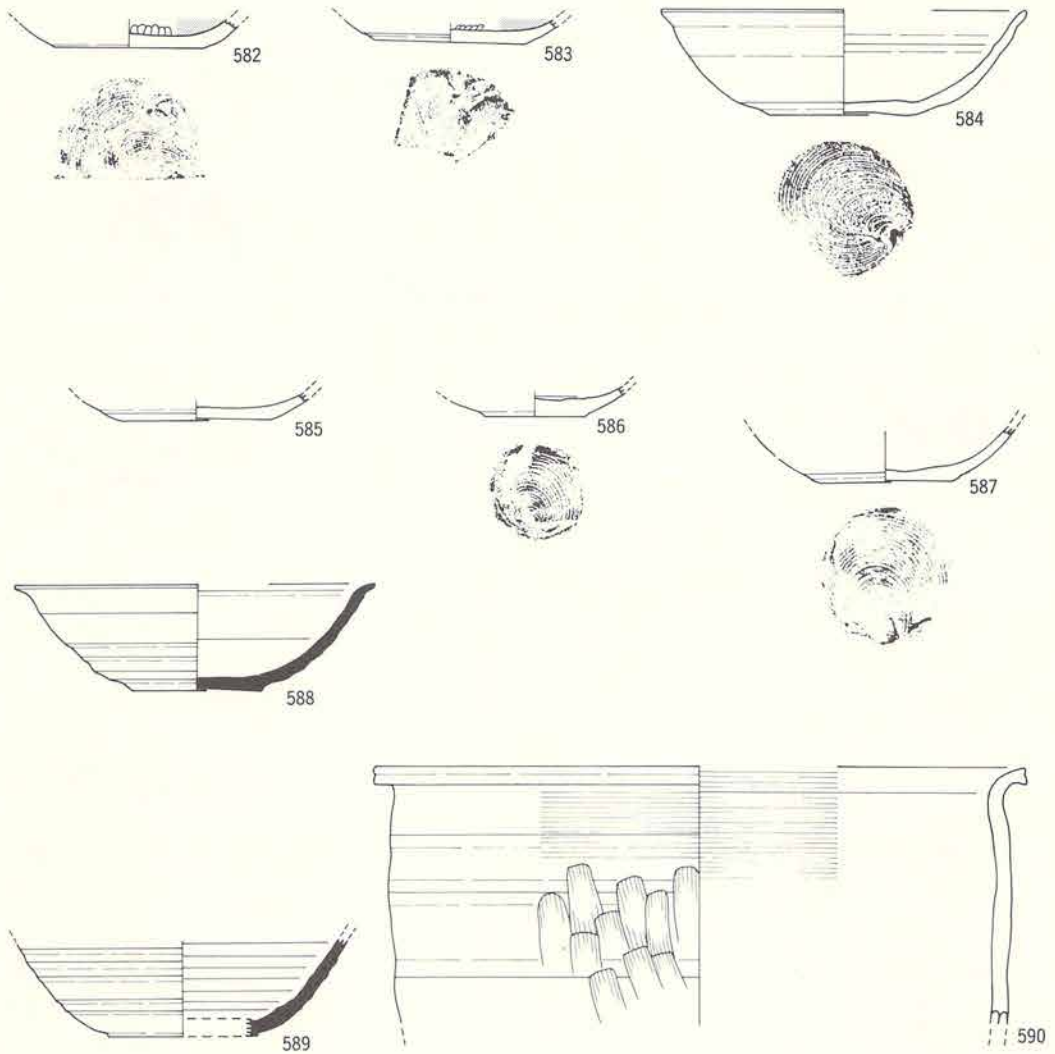


No	登録番号	遺構・地点・層位	種類・器種	外面調整			内面調整		計測値：cm			備考	分類	写真図版
				口縁	胴部	底部	調整	黒色処理	口径	底径	器高			
570	596	VB 2 土坑 P 1	土師 坏	なし	なし	なし	なし	×	14.2	5.4	4.9		II b	352
571	597	VB 2 土坑	須恵 坏	-	-	なし	なし	-	-	6.0	-		-	352
572	598	VB 2 土坑	須恵 坏	-	-	なし	なし	-	-	6.0	-		-	352
573	609	VIB 6 土坑	土師 坏	なし	なし	なし	なし	×	13.4	5.5	4.2		II b	352

No	登録番号	遺構・地点・層位	器種・部位	長さ	幅	厚さ	重量	特徴・備考		写真図版
574	5-a	VIB 7 土坑	鉄滓	6.2	2.8	-	-			-
575	5-b	VIB 7 土坑	鉄滓	5.1	2.6	-	-			352
576	5-c	VIB 7 土坑	鉄滓	3.5	1.7	-	-			-

No	登録番号	遺構・地点・層位	種類・器種	外面調整			内面調整		計測値：cm			備考	分類	写真図版
				口縁	胴部	底部	調整	黒色処理	口径	底径	器高			
577	603	VIB 7 土坑	土師 坏	-	-	なし	M	○	-	6.5	-		II A	352
578	615	VIB 8 土坑	土師 坏	-	-	なし	なし	×	-	7.5	-		-	352
579	599	VIB 11 土坑	土師 坏	なし	なし	なし	M	○	14.7	6.6	4.5		II A	352
580	601	VIB 11 土坑	土師 坏	なし	-	-	M	○	14.0	-	-		II A	352
581	602	VIB 11 土坑	土師 坏	なし	-	-	M	○	15.0	-	-		II A	352

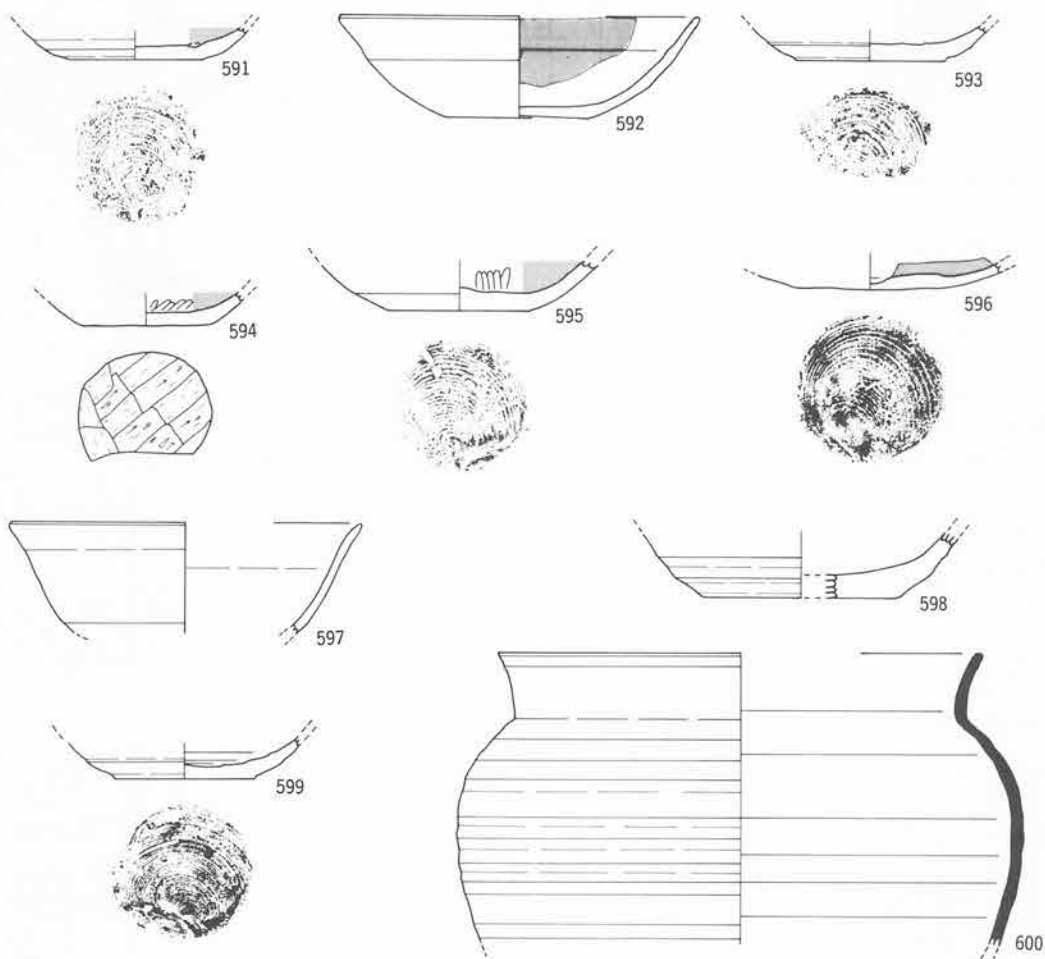
第 133 図 遺構内出土遺物—50



No	登録番号	遺構・地点・層位	種類・器種	外面調整			内面調整		計測値：cm			備考	分類	写真図版
				口縁	胴部	底部	調整	黒色処理	口径	底径	器高			
582	605	VIB11土坑	土師 坏	-	-	なし	M	○	-	6.0	-	-	I A	-
583	607	VIB11土坑	土師 坏	-	-	なし	M	○	-	6.0	-	-	-	-
584	610	VIB11土坑	土師 坏	なし	なし	なし	なし	×	14.6	5.6	4.2	-	II b	352
585	611	VIB11土坑	土師 坏	-	-	なし	なし	×	-	6.0	-	-	-	-
586	616	VIB11土坑	土師 坏	-	-	なし	なし	×	-	4.0	-	-	-	-
587	613	VIB11土坑	土師 坏	-	-	なし	なし	×	-	6.0	-	-	-	352
588	623	VIB11土坑	須恵 坏	なし	なし	なし	なし	×	14.4	5.0	4.4	自然袖	-	352
589	624	VIB11土坑	須恵 坏	なし	なし	なし	なし	×	-	-	-	-	-	352

No	登録番号	遺構地点層位	種類・器種	器面調整：外面			器面調整：内面			底部			計測値：cm			備考	分類	写真図版
				口縁	体上	体下	口縁	体上	体下	外面	口径	底径	器高					
590	645	VIB11土坑	土師 壺	YN	HN	-	YN	YN	-	-	26.0	-	-	-	-	II A-a	352	

第 134 図 遺構内出土遺物—51

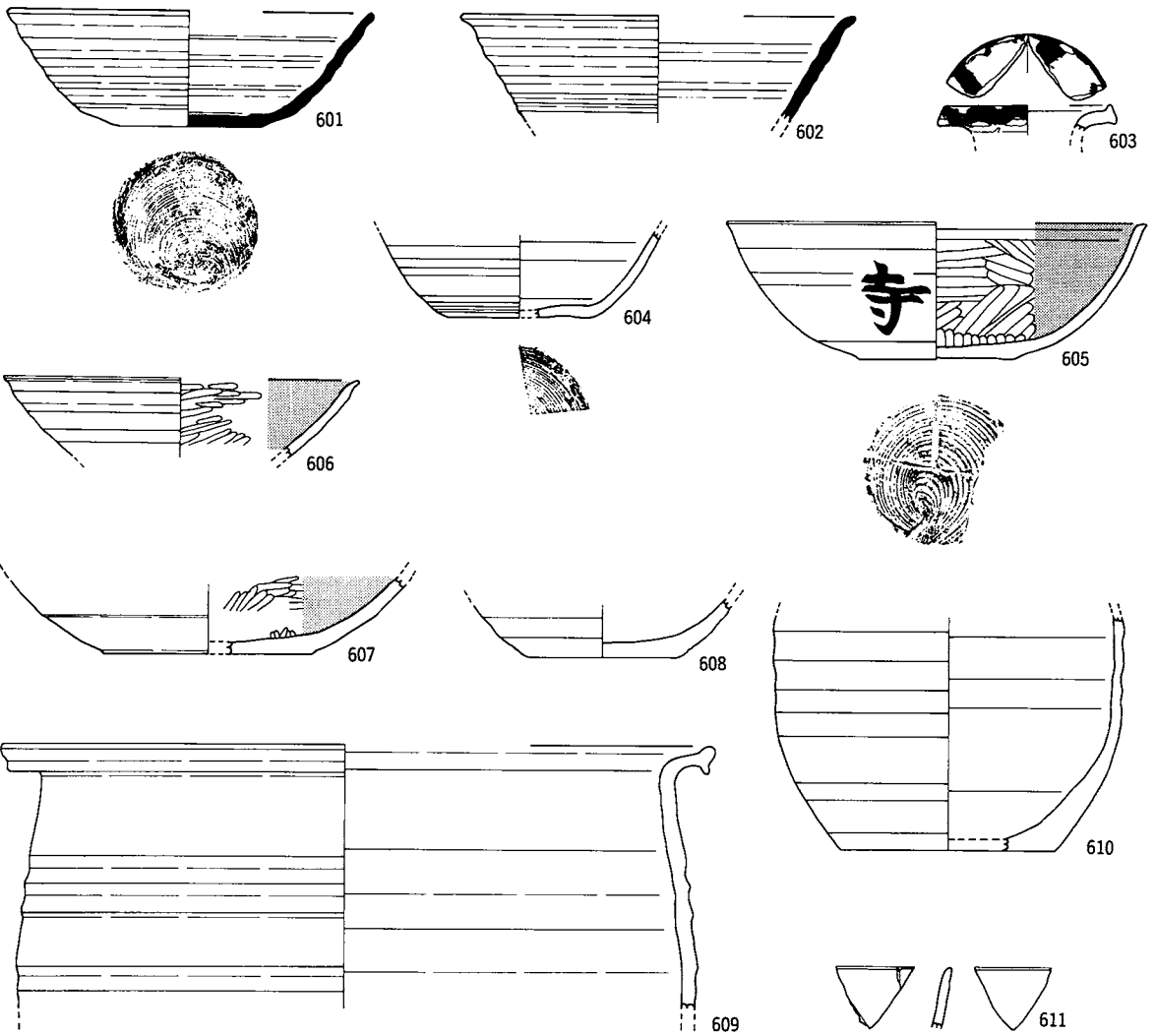


NO.	登録番号	遺構・地点・層位	種類・器種	外面調整			内面調整		計測値:cm			備考	分類	写真図版
				口縁	胴部	底部	調整	黒色処理	口径	底径	器高			
591	604	VIB26土坑	土師 杯	—	—	なし	M	○	—	5.4	—		I A	—
592	612	VIB26土坑	土師 杯	なし	なし	なし	なし	×	14.5	4.9	4.5	煤付着	II b	352

NO.	登録番号	遺構・地点・層位	種類・器種	外面調整			内面調整		計測値:cm			備考	分類	写真図版
				口縁	胴部	底部	調整	黒色処理	口径	底径	器高			
593	618	VIB30土坑	土師 杯	—	—	なし	なし	×	—	6.0	—		II b	—
594	606	VIB30土坑	土師 杯	—	—	HK	M	○	—	5.2	—		I A	—
595	600	VIB30土坑	土師 杯	—	—	なし	M	○	—	5.6	—		I A	353
596	620	VIB30土坑	土師 杯	—	—	—	なし	×	—	6.0	—		II b	—
597	614	VIB30土坑	土師 杯	なし	なし	なし	なし	×	14.0	—	—	椀形	II b	353
598	621	VIB30土坑	土師 杯	—	—	なし	なし	×	—	8.0	—		II b	353
599	619	VIB30土坑	土師 杯	—	—	なし	なし	×	—	5.6	—		II b	353

NO.	登録番号	遺構・地点・層位	種類・器種	器面調整:外面			器面調整:内面			底部	計測値:cm			備考	分類	写真図版
				口縁	体上	体下	口縁	体上	体下		外面	口径	底部			
600	645	VIB11土坑	須恵 甕	なし	なし	—	なし	なし	—	—	38.5	—	—		—	353

第 135 図 遺構内出土遺物—52



No	登録番号	遺構・地点・層位	種類・器種	外面調整			内面調整		計測値: cm			備考	分類	写真図版
				口縁	胴部	底部	調整	黒色処理	口径	底径	器高			
601	622	VI B 33 土坑	須恵 杯	なし	なし	なし	なし	×	14.8	6.0	4.6		—	353
602	627	VI B 33 土坑	須恵 杯	なし	なし	—	なし	×	16.0	—	—		—	353

No	登録番号	遺構・地点・層位	種類・器種	窯 式	年 代	計測値: cm			特 技・備 考	写真図版
						口径	底径	器高		
603	34	VI B 33 土坑	二彩長頸瓶	平城京付近官営工房	8世紀後半	—	—	—		カラー1

No	登録番号	遺構・地点・層位	種類・器種	外面調整			内面調整		計測値: cm			備考	分類	写真図版
				口縁	胴部	底部	調整	黒色処理	口径	底径	器高			
604	650	VI B 37 土坑	須恵 杯	—	—	なし	なし	×	—	5.8	—		—	353

No	登録番号	遺構・地点・層位	種類・器種	外面調整			内面調整		計測値: cm			備考	分類	写真図版
				口縁	胴部	底部	調整	黒色処理	口径	底径	器高			
605	651	VII A 4 土坑	土師 杯	なし	なし	なし	M	○	17.0	6.2	5.6	側面に黒書(寺)	I A	353
606	652	VII A 4 土坑	土師 杯	なし	なし	—	M	○	14.4	—	—		I A	353
607	653	VII A 4 土坑	土師 杯	—	なし	なし	M	○	—	8.4	—		I A	353
608	654	VII A 4 土坑	土師 杯	—	—	なし	なし	×	—	6.0	—		—	353

No	登録番号	遺構・地点・層位	種類・器種	器面調整: 外面		器面調整: 内面			底部	計測値: cm			備考	分類	写真図版	
				口縁	体上	体下	口縁	体上		体下	外面	口径				底径
609	657	VII A 4 土坑	土師 甕	YN	—	—	YN	—	—	—	27.8	—	—	煤付着	II A-a	353
610	658	VII A 4 土坑	土師 甕	—	—	なし	—	—	なし	KI	—	8.6	—		—	353

No	登録番号	遺構・地点・層位	種類・器種	窯 式	年 代	計測値: cm			特 技・備 考	写真図版	
						口径	底径	器高			
611	2	VII B 11 土坑	緑釉 椀	猿投窯(鳴海)	9世紀前半	—	—	—		輪花茶	カラー2

第 136 図 遺構内出土遺物—53

2. 遺構外の出土遺物

(1) 縄文・弥生時代

本遺跡の調査において出土した縄文土器、弥生土器の大半が遺構外からの出土である。また、ほとんどが破片で、全体の形状をうかがえるものが少ないため、遺構内出土の土器も含め、大きく時期別に5群に大別した。

I類〈早・前期〉(第130図、写真図版89)

VII B 2号土坑埋土から尖底土器の底部破片(556)1点が出土している。

II類〈中・後期〉1～25(第137、138図、写真図版93、94)

1～5は深鉢型土器の底部破片、1の底部には木葉痕が見られる。6、12は口縁部、その他は体部破片である。7は縦に沈線が走る。他は地文のみである。

III類〈晩期〉26～58(第139、140図、写真図版94、95)

26～38は晩期前葉に属する鉢形土器の破片である。26は口唇部に退化した羊歯状文、文様帯は磨消縄文手法によって雲形文を構成している。27は口唇部に刻み目を、口縁部に2本の沈線を施し、沈線間には瘤を貼付する。28、29は口唇部に細かい刻み目、口縁部に4本の沈線を、上から2本目の沈線の上に瘤を貼付している。28の体部は磨消縄文、29は体部が斜縄文で、内面にも1本沈線を施す。32～34は複数の沈線、地文は撚糸文、35～38は地文のみである。

39～47は晩期中葉に属する鉢形土器の破片である。39～47は口縁部および口縁部付近。いずれも口縁部に1本、または複数の沈線がめぐる。39～41は口唇部に1本の沈線がめぐる。44は口唇部外側に刻み目、45は上端に細かい刻み目を伴う。

48～58はいずれも晩期後葉に属する鉢形土器の破片である。48～57は口縁部および口縁部付近の破片。48～50は口唇部に1条、口縁部に複数の沈線がめぐる。51の口唇部には横B字状の突起がある。52は口縁部が外傾し、口唇部には指頭圧痕状の刻み目が連続して施される。53、54は複数、55は1本の沈線がめぐる。52、56は口唇部に刻み目、口縁部には複数の沈線が施される。57は口縁部に2本の沈線が施され、地文は斜縄文である。58は体部破片で、地文は撚糸文である。

IV類〈弥生前半〉59～69(第141図、写真図版95、96)

59は甕形土器の口縁部で、波状口縁の谷部には断続的に1本、頸部に1本の沈線がめぐる。60は壺形土器の肩部で変形工字文、61～65は鉢形あるいは甕形土器の口縁部で、口縁部以下は縄文、63は頸部に1本の沈線がめぐる。65～69は鉢形土器の破片で、66は刺突文、68、69は変形工字文を施している。

V類〈弥生後半〉67～104（第142、143図、写真図版96、97）

不整捺糸文、捺糸文、羽状捺糸文を地文とするものが多い。ほとんどが破片で、接合したのち、全体の形状がうかがえるものは70の1点のみである。71～91、93、95、96、98は不整捺糸文、94は羽状捺糸文、92、97、99～104は捺糸文を地文としている。

(2) 平安時代の遺物

a. 土器(第144～153図、写真図版98～100)

平安時代の土器は遺構のある区画を中心に出土しており、時期的にはほとんどが同時期に属する。器種分類、時期についてはまとめの項で述べる。

106～130は土師器坏形土器で、内面ミガキのち黑色処理をほどこしている。131～149、150～195は土師器坏形土器のうち無調整のもの、140は内外面に、141は外面にタール状が付着する。165は外面に刻書がみられる。字種は「佛」である。150は内外面ともミガキのち黑色処理をほどこしている。196は外面をヘラケズリ、内面をヘラナデ調整している。197～206は須恵器坏形土器である。199は底部に墨書がみられるが、字種は不明である。207～222は土師器高台付き坏形土器である。208は内外面ともミガキのち黑色処理、209、210は内面ミガキのち黑色処理をほどこしている。その他は無調整である。211は内外面とも摩耗がみられず、本遺跡の窯跡で焼成されたものであろう。221、223は高台部がベタ高台である。224は須恵器坏形土器と思われるが、口縁部を欠く。高台部の内側がナデツケ調整されている。225～233は土師器甕形土器。225～227は口縁部破片、228、229は底部破片。234～237は須恵器壺形土器。234は口縁部を欠く。体部はヘラケズリ調整されている。235、236は口縁部破片で、ロクロ痕のみ。237は底部破片で、内面はヘラナデ、外面はヘラケズリ調整されている。238、239、242は須恵器甕形土器の破片であるが、239は焼成不良である。239、242は外面は平行タタキ目調整されている。240、241、243、244は土師器甕形土器の口縁部破片である。

b. 土製品(第154図、写真図版100)

245はふいごの羽口、246は器種不明で酸化炎焼成されている。

c. 陶器(第154図、写真図版101、カラー図版2)

247、248は近世の陶器片である。249は緑釉陶器である。猿投窯（鳴海）産で、9世紀前半から半ばにかけてのものである。

d. 鉄製品(第154図、写真図版101)

250～254は釘、255、256は鉄滓、257、258は刀子である。

(3) 石器

①石鏃 (第 155 図、写真図版 102)

259、260、261 の 3 点が出土している。すべて無茎鏃である。259、260 は浅い抉りを持ち、刃部調整が入念におこなわれている。261 の調整は片面のみで、やや粗雑である。

②尖頭器 (第 155 図、写真図版 102)

262 の 1 点が出土している。

③石錐 (第 155 図、写真図版 102)

263 の 1 点が出土している。先端部が欠損している。

④石匙 (第 155、156 図、写真図版 102)

つまみ部を上にして、最大長が縦にあるものを縦形石匙、横にあるものを横形石匙とした。264～275 の 12 点が出土している。264～271 は縦形石匙、272～275 は横形石匙である。270、271 は先端部が欠損している。

⑤石篋 (第 156～159 図、写真図版 103、104)

276～290 の 15 点が出土している。

⑦不定形石器 (第 159～171 図、写真図版 104～111)

特定の形状を持たないが、剝離調整を加え刃部を作り出しているもの、および剝片、石核を一括した。剝離調整を加え刃部を作り出しているものには、連続した刃部剝離調整の施されたもの、湾入した形状を意図して調整が施されたもの、刃部剝離調整の粗雑かつ連続性のないものなどがある。291～379 の 89 点が出土している。

⑧石斧 (第 171 図、写真図版 111)

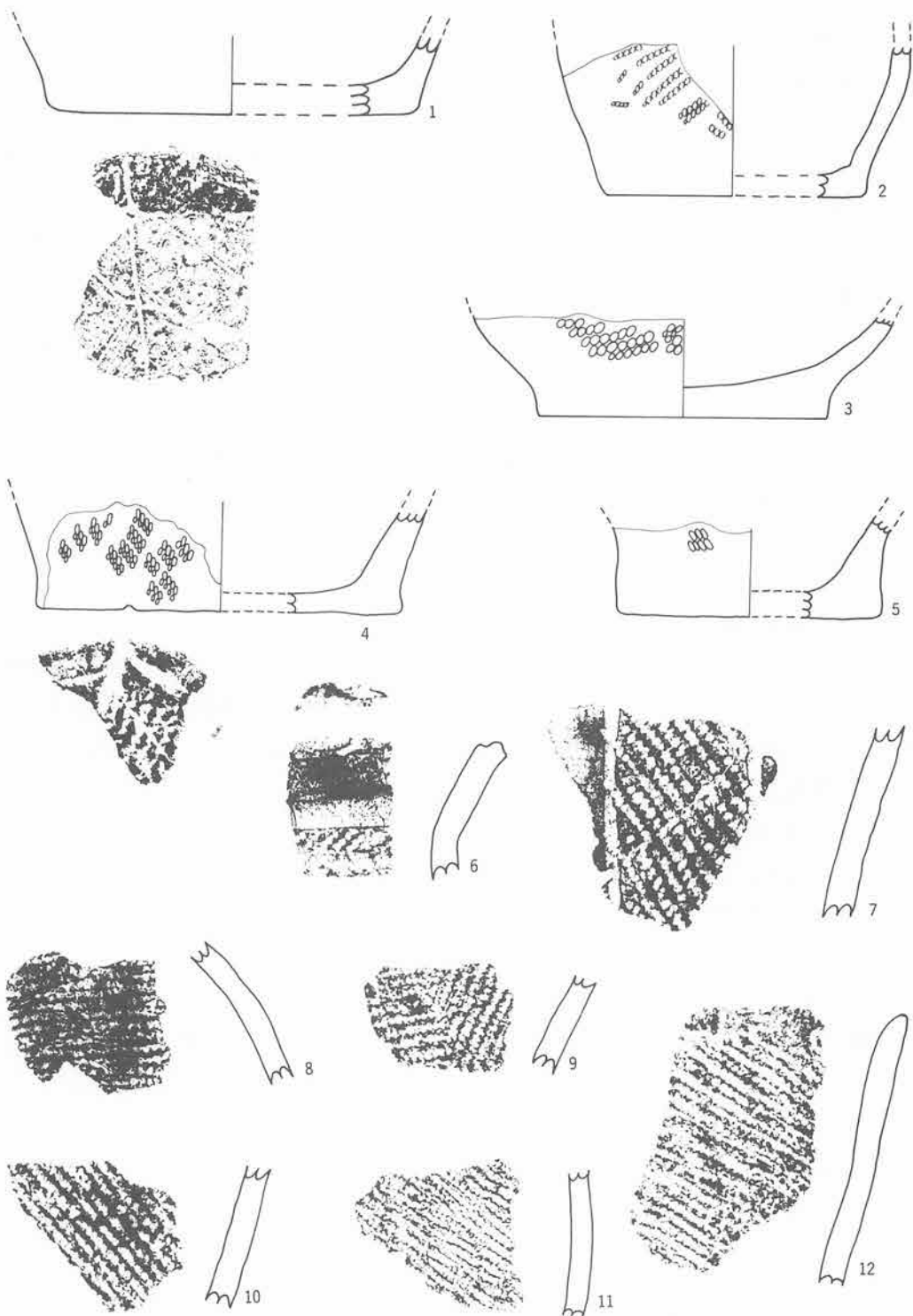
磨製石斧である 380 の 1 点が出土している。

⑨石錘 (第 171 図、写真図版 111)

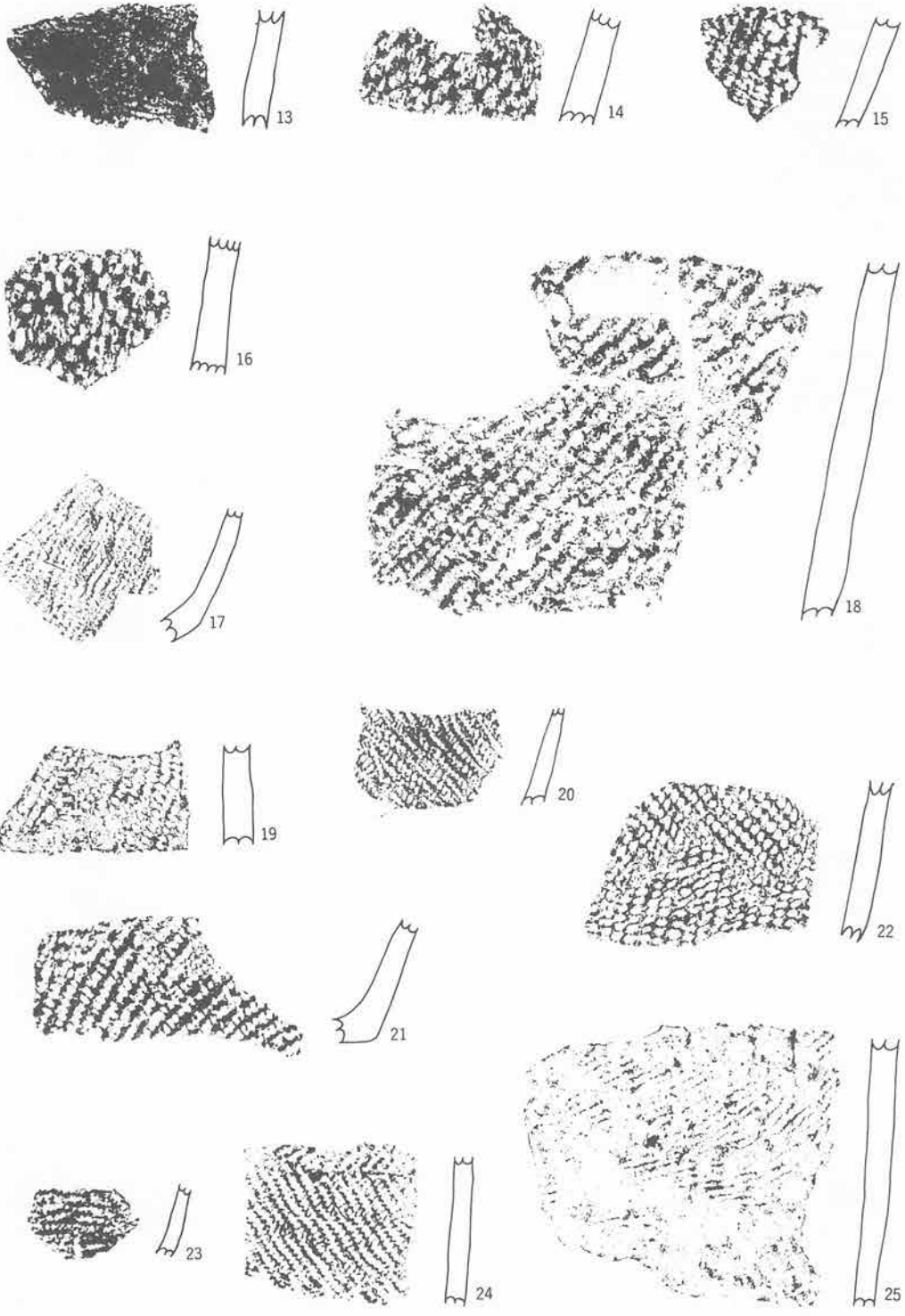
381 の 1 点が出土している。

⑩すり石 (第 172、173 図、写真図版 111、112)

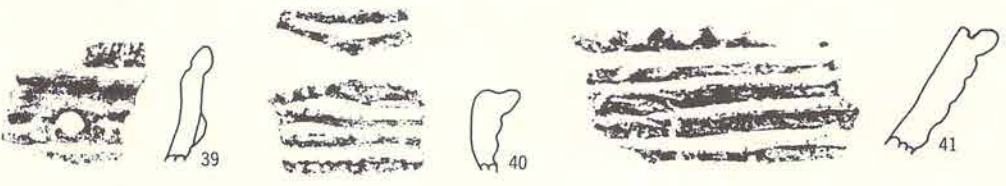
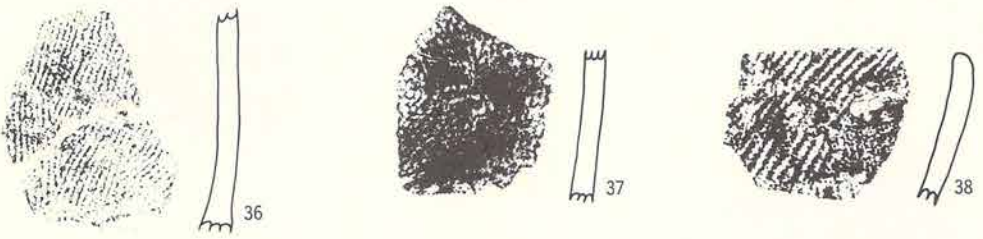
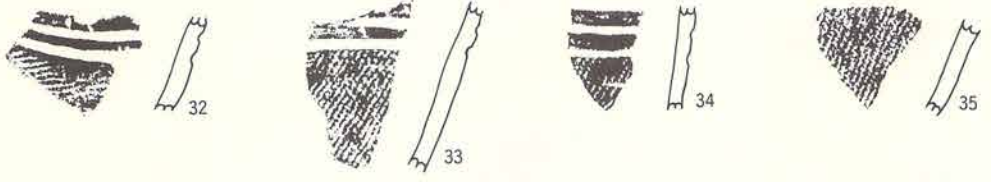
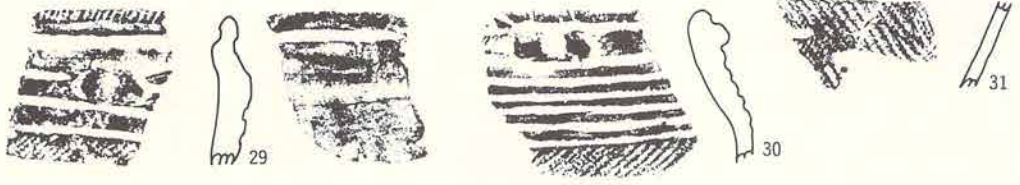
円礫の一部がすり削られているものを一括した。382～395 の 14 点が出土している。



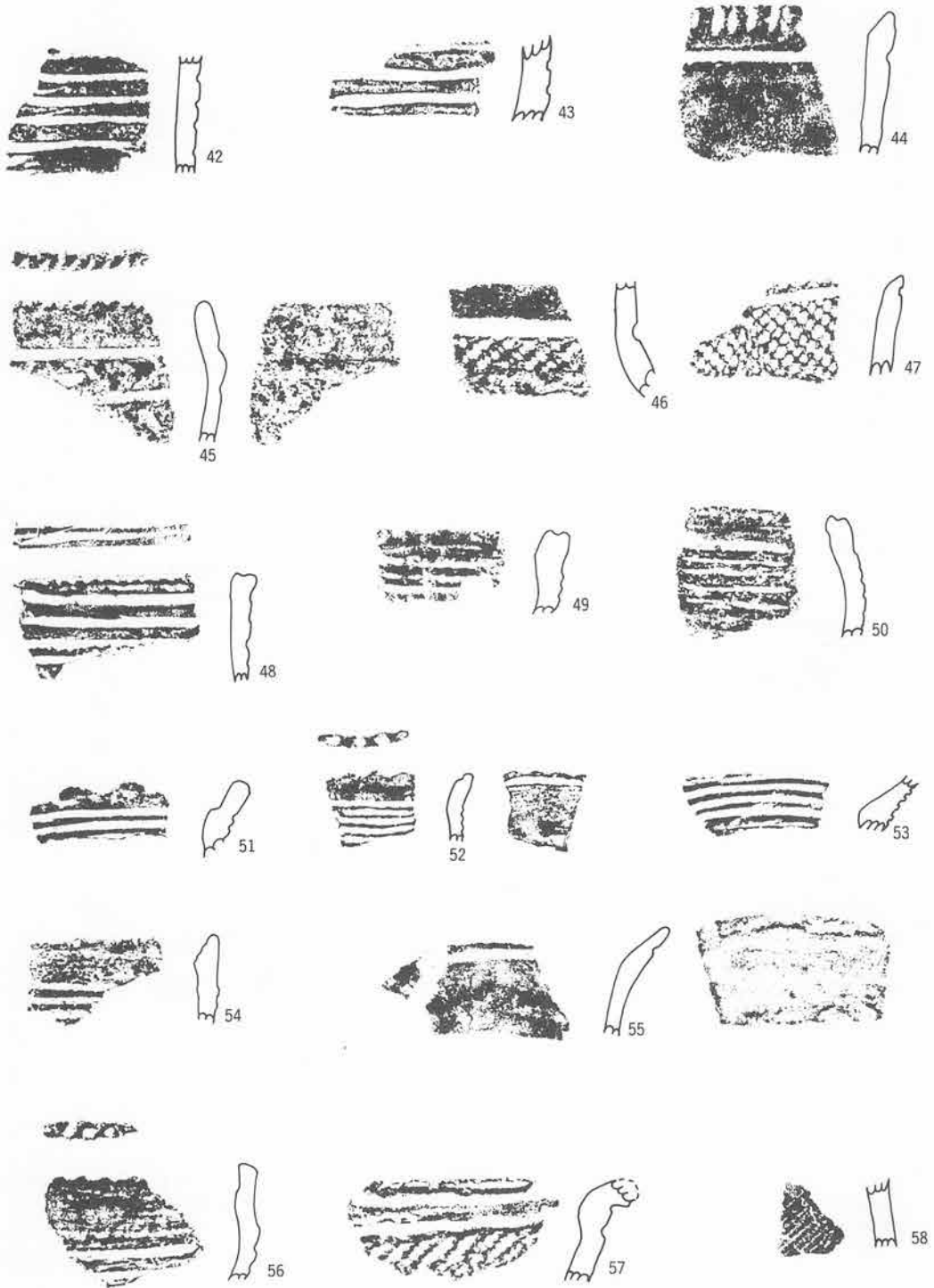
第 137 图 遺構外出土遺物—1



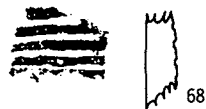
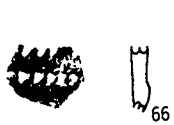
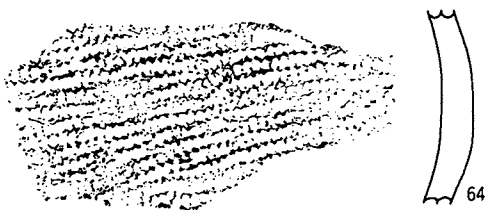
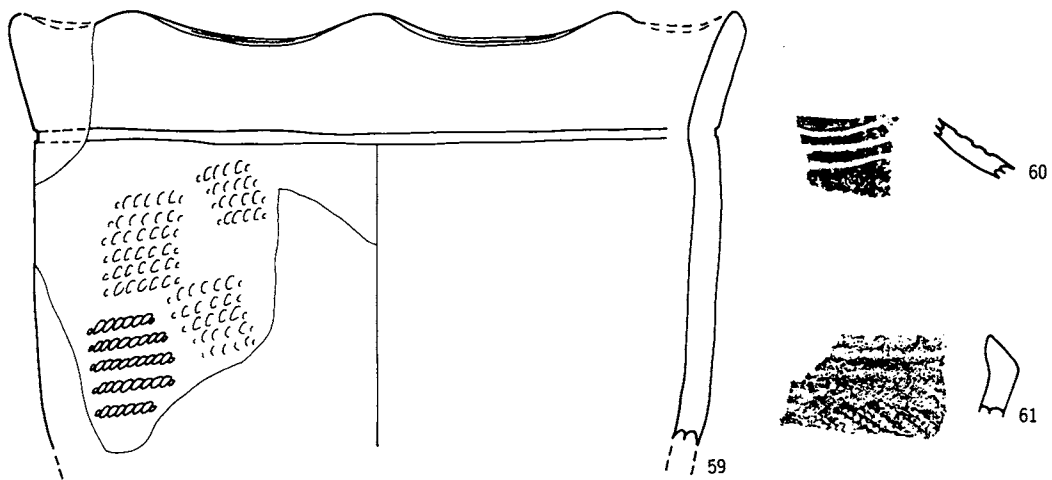
第 138 图 遺構外出土遺物—2



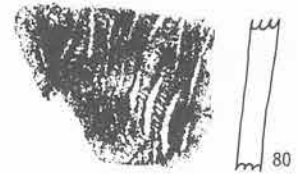
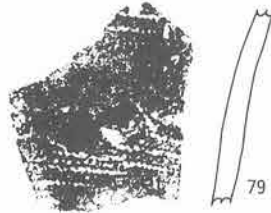
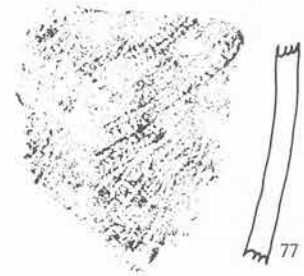
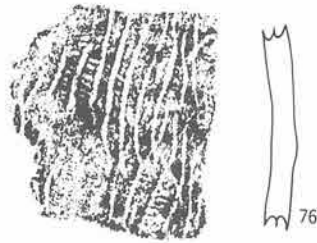
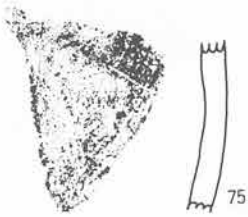
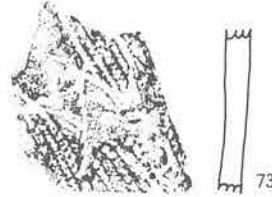
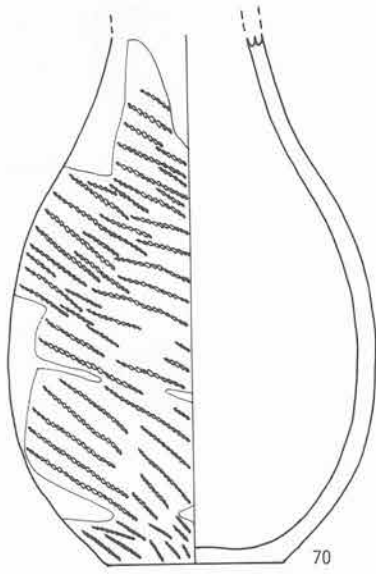
第 139 图 遺構外出土遺物—3



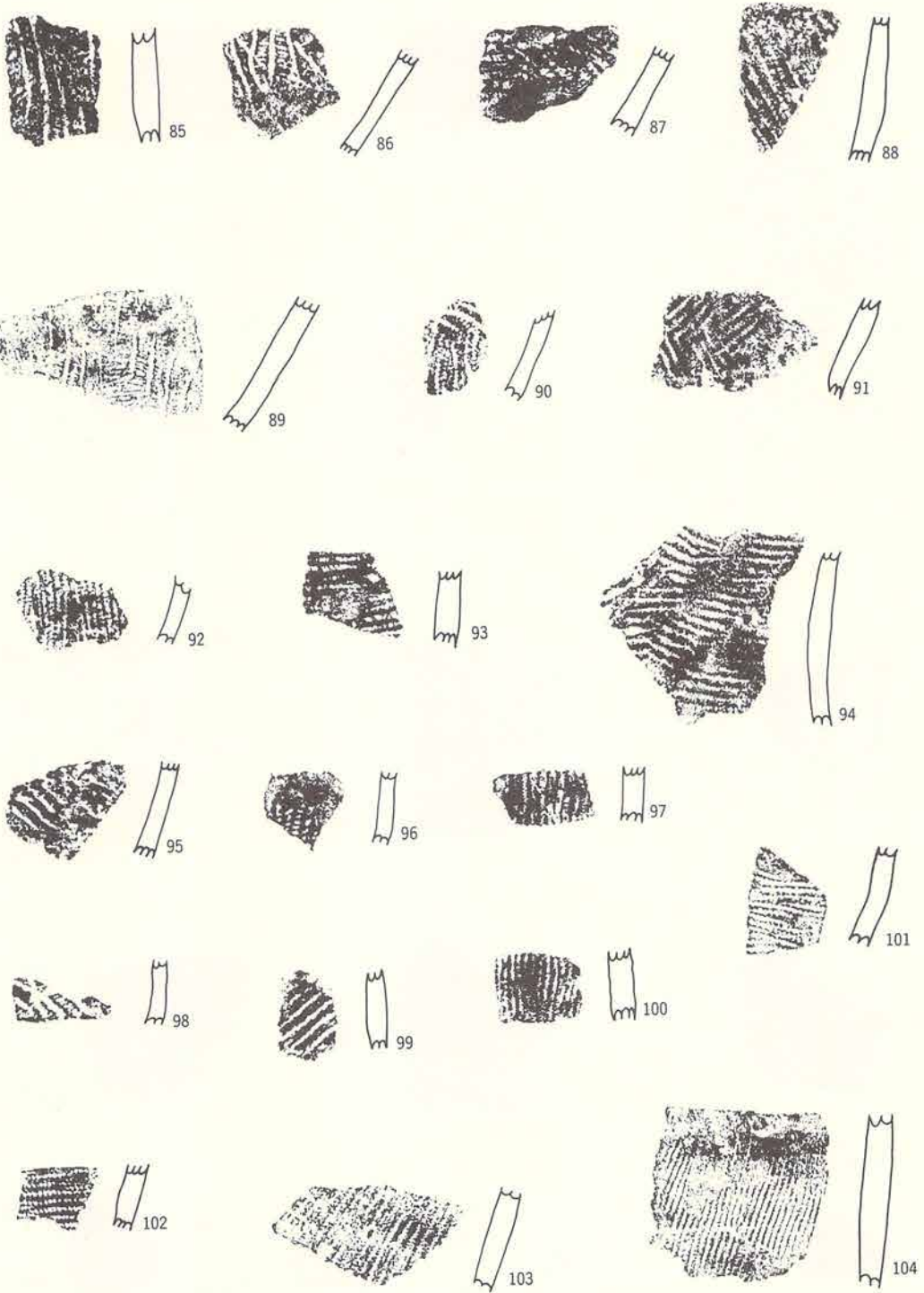
第 140 图 遺構外出土遺物—4



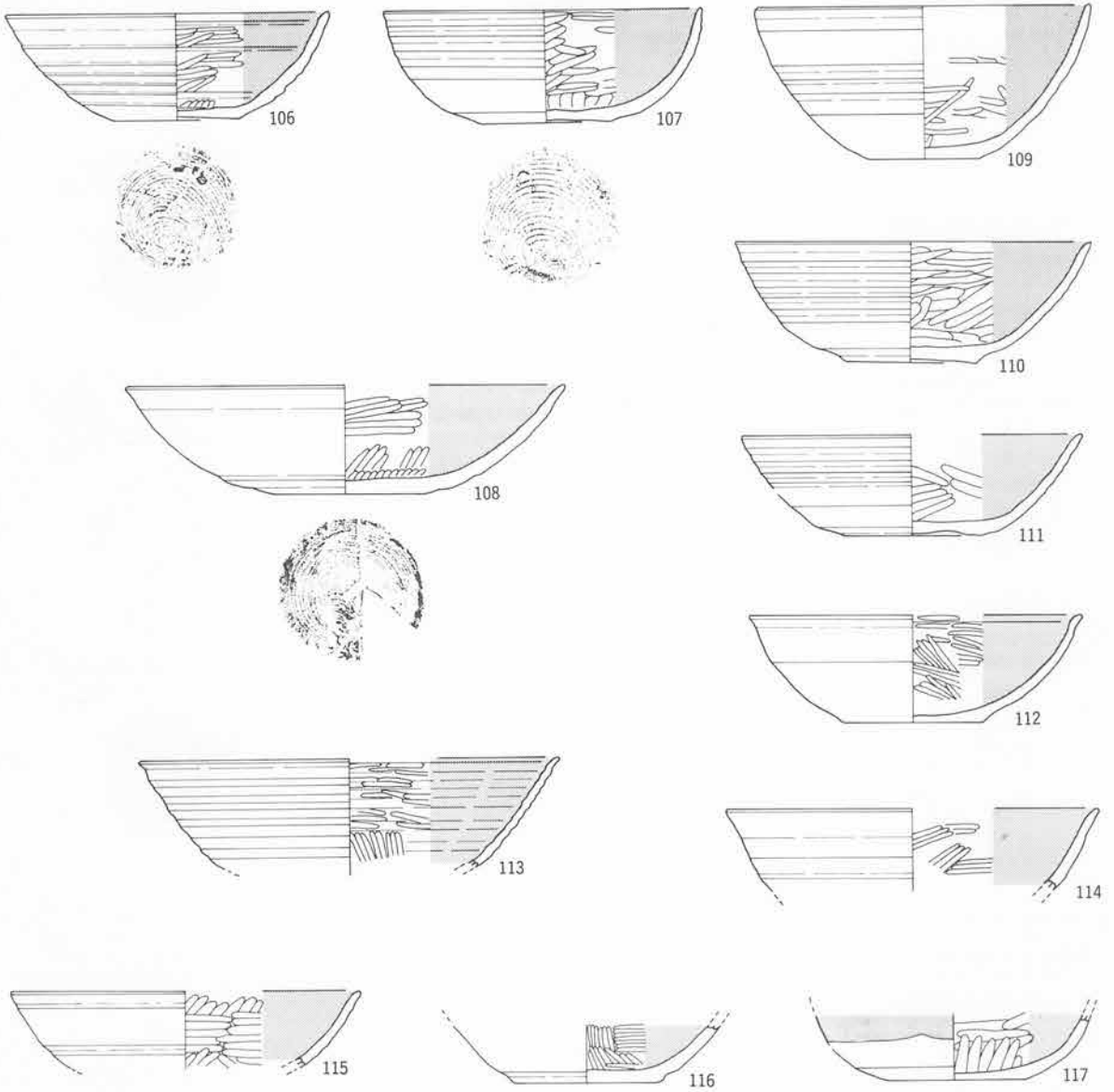
第 141 图 遺構外出土遺物—5



第 142 図 遺構外出土遺物—6

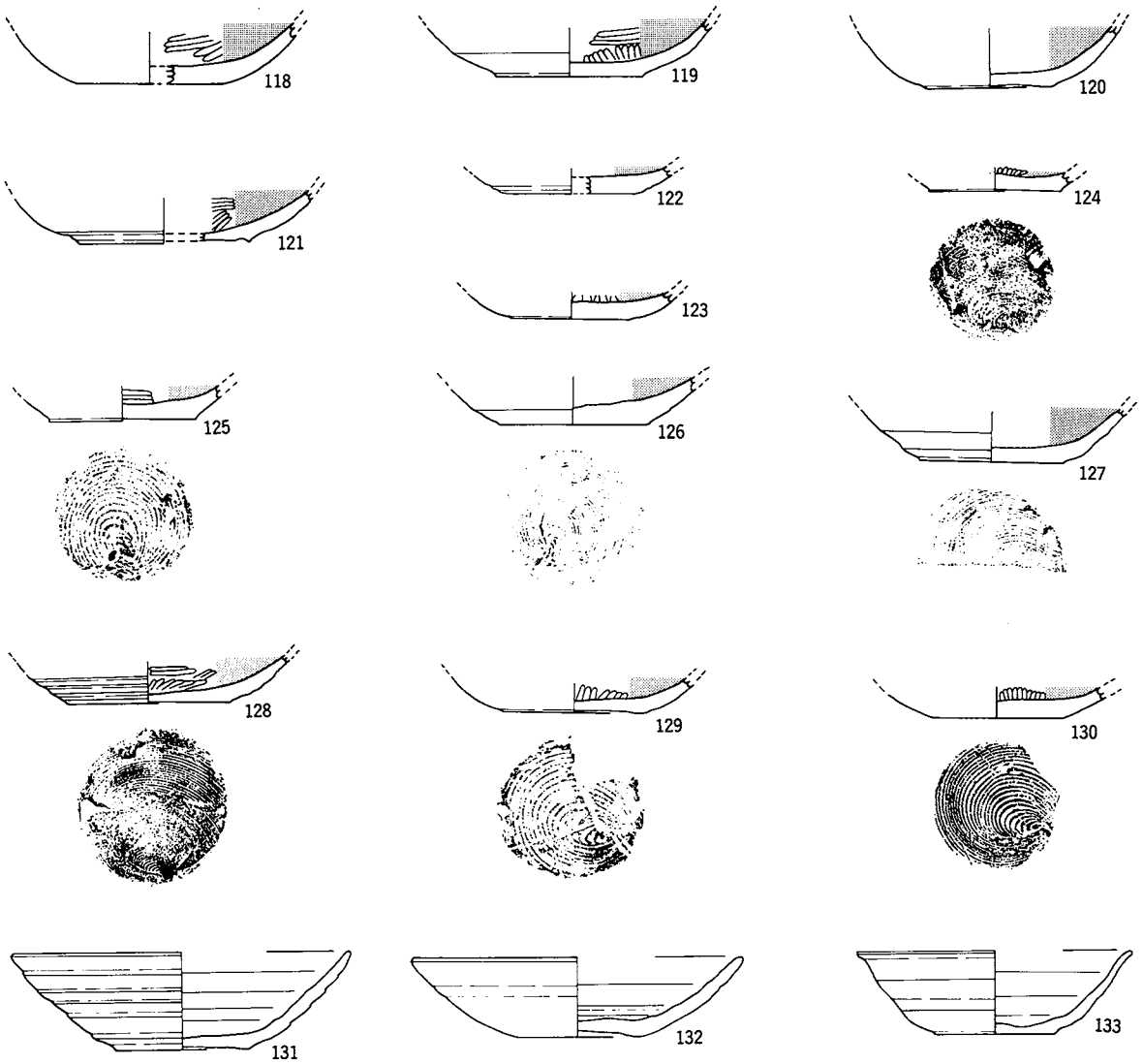


第 143 图 遺構外出土遺物—7



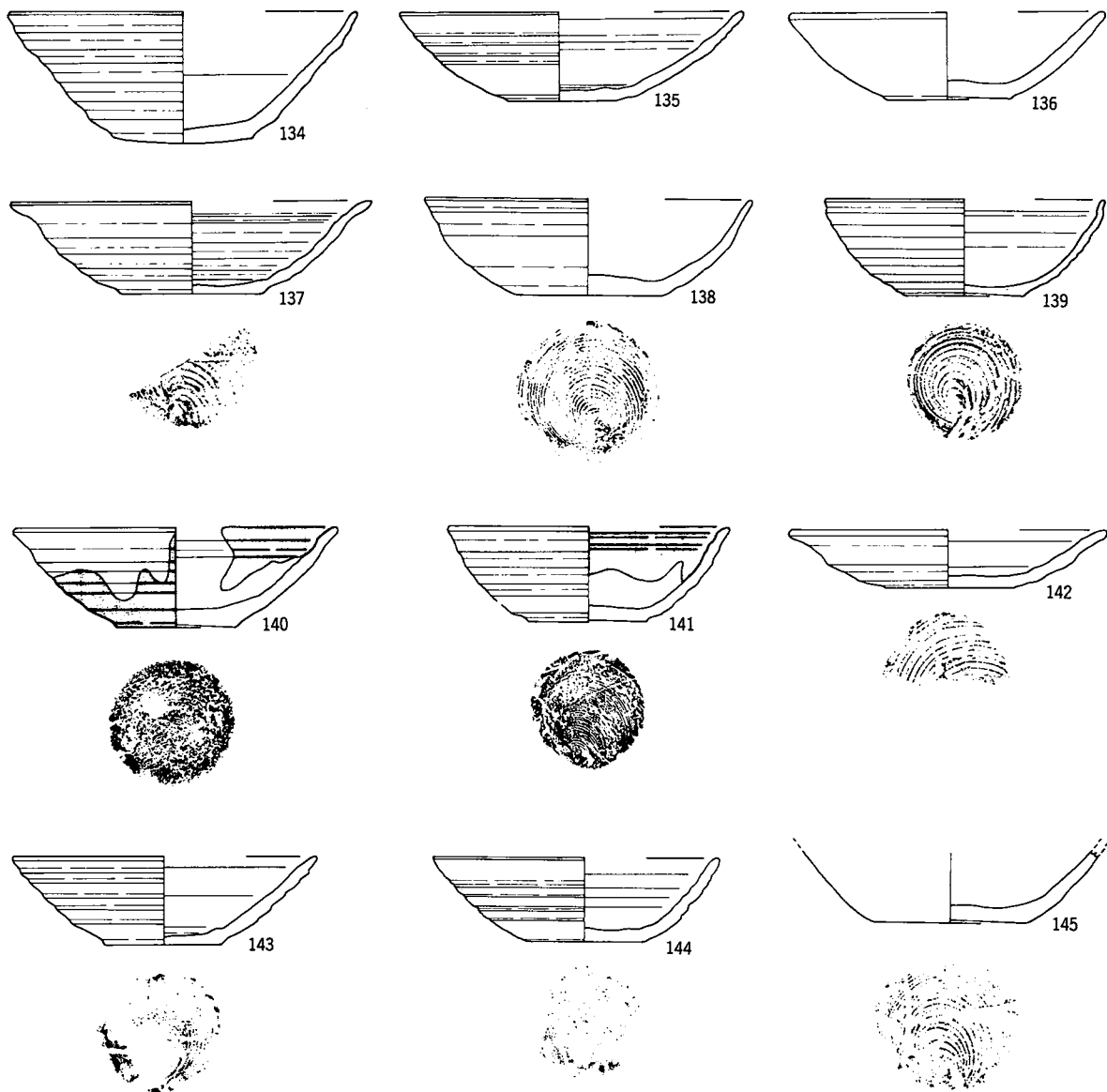
No	登録番号	遺構・地点・層位	種類・器種	外面調整			内面調整		計測値:cm			備考	分類	写真図版
				口縁	胴部	底部	調整	彩色処理	口径	底径	器高			
106	207	VIB 3 住埋土	土師 坏	なし	なし	なし	M	○	13.8	5.4	4.6		I A	359
107	6	II B区 1層	土師 坏	なし	なし	なし	M	○	13.7	5.6	5.9		I A	359
108	5	II B区 1層	土師 坏	なし	なし	なし	M	○	14.4	4.7	6.5		I A	359
109	19	VIB 8 c II層	土師 坏	なし	なし	なし	M	○	18.8	6.0	4.7		I A	359
110	1	II B区 1層	土師 坏	なし	なし	なし	M	○	15.2	5.7	5.2		I A	359
111	18	VIB 6 d I層	土師 坏	なし	なし	なし	M	○	14.7	6.0	4.3		I A	359
112	17	VIB 7 d II層	土師 坏	なし	なし	なし	M	○	14.2	6.0	4.6		I A	359
113	21	VIB区 1層	土師 坏	なし	なし	なし	M	○	18.0	-	-		I A	-
114	20	VIB 8 c II層	土師 坏	なし	なし	-	M	○	16.0	-	-		I A	-
115	159	VIB 0 j II層	土師 坏	なし	なし	-	M	○	15.0	-	-		I A	-
116	23	VIB 4 f I層	土師 坏	-	なし	なし	M	○	-	6.6	-		I A	-
117	96	VIB 5 c II層	土師 坏	-	なし	なし	M	○	-	6.2	-	タール状付着	I A	-

第 144 図 遺構外出土遺物—8



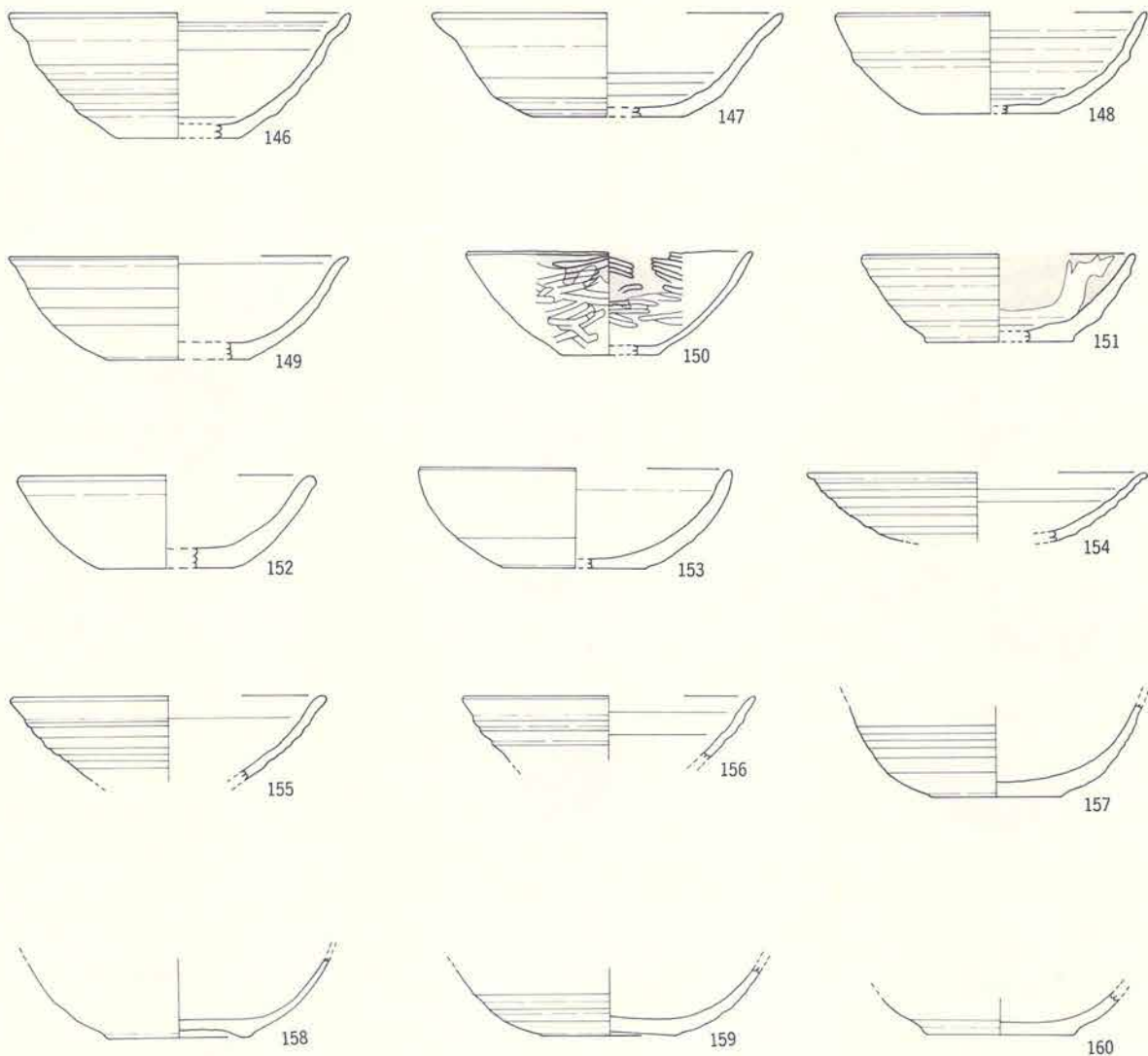
No	登録番号	遺構・地点・層位	種類・器種	外面調整			内面調整		計測値:cm			備考	分類	写真図版
				口縁	胴部	底部	調整	黒色処理	口径	底径	器高			
118	26	VIB区 I層	土師 坏	-	なし	なし	M	○	-	6.0	-		IA	-
119	25	VIB 9 a II層	土師 坏	-	なし	なし	M	○	-	6.0	-		IA	-
120	22	VIB区 I層	土師 坏	-	なし	なし	M	○	-	5.2	-		IA	-
121	233	VIB区 I層	土師 坏	-	なし	なし	M	○	-	7.0	-		IA	-
122	220	VIB区 I層	土師 坏	-	-	なし	M	○	-	5.5	-		IA	-
123	24	VIB 4 i II層	土師 坏	-	-	なし	M	○	-	5.0	-		IA	-
124	59	VIB区 I層	土師 坏	-	-	なし	M	○	-	5.4	-		IA	-
125	190	VIB区 表探	土師 坏	-	-	なし	M	○	-	6.0	-		IA	-
126	589	VIB 1 溝埋土	土師 坏	-	-	なし	M	○	-	6.0	-		IA	359
127	193	VIB区 II層	土師 坏	-	-	なし	M	○	-	6.0	-		IA	-
128	160	VIA 4 i I層	土師 坏	-	-	なし	M	○	-	6.6	-		IA	-
129	192	VIB区 II層	土師 坏	-	-	なし	M	○	-	6.0	-		IA	-
130	191	VIB区 II層	土師 坏	-	-	なし	M	○	-	5.4	-		IA	-
131	2	II B区 I層	土師 坏	なし	なし	なし	なし	×	14.0	5.6	4.1		II b	-
132	42	VIB 5 h II層	土師 坏	なし	なし	なし	なし	×	13.8	5.4	3.3		II b	359
133	194	VIB区 I層	土師 坏	なし	なし	なし	なし	×	11.0	5.0	3.5		II b	359

第 145 図 遺構外出土遺物—9



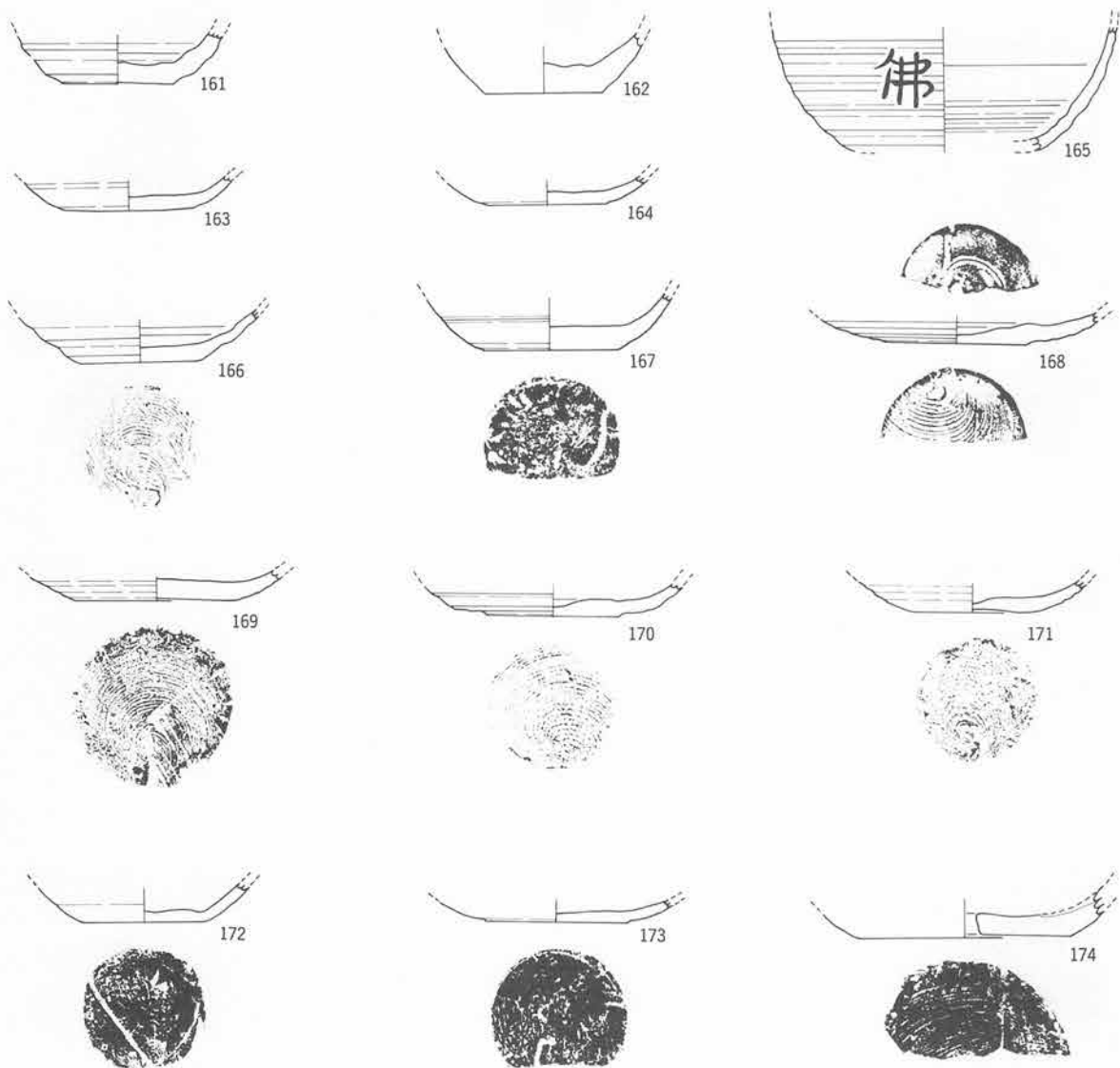
NO.	登録番号	遺構・地点・層位	種類・器種	外面調整			内面調整		計測値: cm			備考	分類	写真図版
				口縁	胴部	底部	調整	黒色処理	口径	底径	器高			
134	33	VIB 4 g II層	土師 杯	なし	なし	なし	なし	×	14.9	6.0	5.4		II b	359
135	27	VIB区	土師 杯	なし	なし	なし	なし	×	14.6	4.5	3.7		II b	359
136	30	VIB 4 g I層	土師 杯	なし	なし	なし	なし	×	13.4	5.3	3.7		II b	359
137	41	VIB 6 a I層	土師 杯	なし	なし	なし	なし	×	14.7	6.0	3.9		II b	359
138	162	VIA 3 i I層	土師 杯	なし	なし	なし	なし	×	7.0	6.0	4.1		II b	-
139	32	VIB 8 b II層	土師 杯	なし	なし	なし	なし	×	12.0	5.6	4.1		II b	359
140	31	VIB区I層	土師 杯	なし	なし	なし	なし	×	13.8	5.5	4.3	タール状付着	II b	359
141	28	VIB 3 c II層	土師 杯	なし	なし	なし	なし	×	11.2	5.0	4.1	タール状付着	II b	359
142	38	VIB区I層	土師 杯	なし	なし	なし	なし	×	13.6	5.4	2.5		II c	359
143	8	III B区I層	土師 杯	なし	なし	なし	なし	×	13.0	5.0	3.8		II b	359
144	7	III B区I層	土師 杯	なし	なし	なし	なし	×	12.2	5.0	3.6		II b	359
145	35	VIB区II層	土師 杯	-	なし	なし	なし	×	-	6.4	-		II b	359

第146図 遺構外出土遺物—10



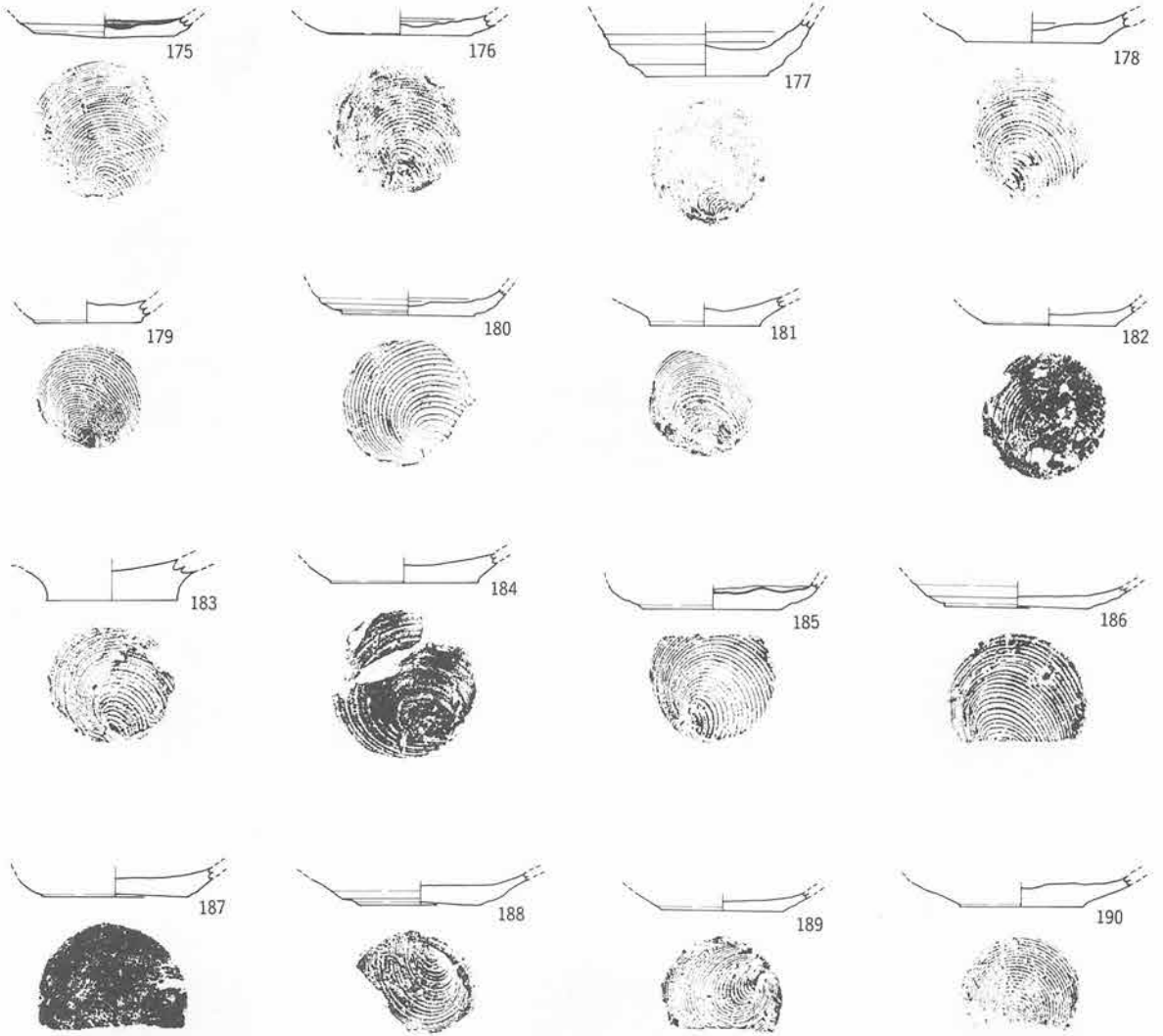
NO.	登録番号	遺構・地点・層位	種類・器種	外面調整		内面調整		計測値：cm			備考	分類	写真図版	
				口縁	胴部	底部	調整	黒色処理	口径	底径				器高
146	37	VIB区I層	土師杯	なし	なし	なし	なし	×	14.0	5.0	5.1		II b	359
147	34	VIB区I層	土師杯	なし	なし	なし	なし	×	14.2	6.4	4.2		II c	359
148	39	VIB 8 c II層	土師杯	なし	なし	なし	なし	×	12.8	5.6	4.1		II b	360
149	196	VIB 4 a I層	土師杯	なし	なし	なし	なし	×	14.0	7.0	4.2		II b	—
150	29	VIB区I層	土師杯	M	M	なし	M	×	11.8	4.0	4.2	タール状付着	II c	360
151	47	VIB 4 g II層	土師杯	なし	なし	なし	なし	×	10.2	6.0	3.6	タール状付着	II b	360
152	195	VIB区I層	土師杯	なし	なし	なし	なし	×	12.2	5.6	3.8		II b	360
153	70	VIB 4 g II層	土師杯	なし	なし	なし	なし	×	12.8	6.0	4.1		II b	—
154	48	VIB 3 c II層	土師杯	なし	なし	なし	—	×	14.0	—	—		II b	—
155	49	VIB 2 i II層	土師杯	なし	なし	なし	—	×	13.0	5.0	—		II b	—
156	9	III B区I層	土師杯	なし	なし	なし	—	×	12.0	—	—		II b	—
157	617	VIB 2 i 土埋土	土師杯	—	なし	なし	—	×	—	5.4	—		II b	—
158	46	VIB区II層	土師杯	—	なし	なし	—	×	—	5.8	—		II b	360
159	161	VIA 3 i I層	土師杯	—	なし	なし	—	×	—	5.6	—		II b	—
160	44	VIB 4 g II層	土師杯	—	なし	なし	なし	×	—	6.0	—		II b	360

第 147 図 遺構外出土遺物—11



No	登録番号	遺構・地点・層位	種類・器種	外面調整			内面調整		計測値:cm			備考	分類	写真図版
				口縁	胴部	底部	調整	黒色処理	口径	底径	器高			
161	51	VIB 4 g II層	土師 坏	-	なし	なし	なし	×	-	4.6	-	-	-	360
162	198	VIB区 1層	土師 坏	-	なし	なし	なし	×	-	5.0	-	碗	-	-
163	11	IVB 4 h 1層	土師 坏	-	なし	なし	なし	×	-	5.8	-	-	-	360
164	55	VIB区 II層	土師 坏	-	なし	なし	なし	×	-	5.0	-	-	-	-
165	43	VIB 6 i 1層	土師 坏	-	なし	なし	なし	×	-	5.2	-	側面に刻書(佛)	-	360
166	54	VIB 4 g II層	土師 坏	-	-	なし	なし	×	-	5.2	-	-	-	-
167	154	VIB 3 f II層	土師 坏	-	-	なし	なし	×	-	5.6	-	-	-	-
168	135	VIB 1 f II層	土師 坏	-	-	なし	なし	×	-	6.0	-	-	-	-
169	13	IVB 1 h II層	土師 坏	-	-	なし	なし	×	-	1.0	-	-	-	-
170	53	VIB 3 c II層	土師 坏	-	-	なし	なし	×	-	5.5	-	-	-	-
171	52	VIB 1 h II層	土師 坏	-	-	なし	なし	×	-	5.0	-	-	-	-
172	150	VIB 1 h II層	土師 坏	-	-	なし	なし	×	-	5.0	-	-	-	-
173	155	VIB 5 h II層	土師 坏	-	-	なし	なし	×	-	5.8	-	-	-	-
174	647	VIB28土坑埋土	土師 坏	-	-	なし	なし	×	-	8.8	-	-	-	-

第 148 図 遺構外出土遺物—12



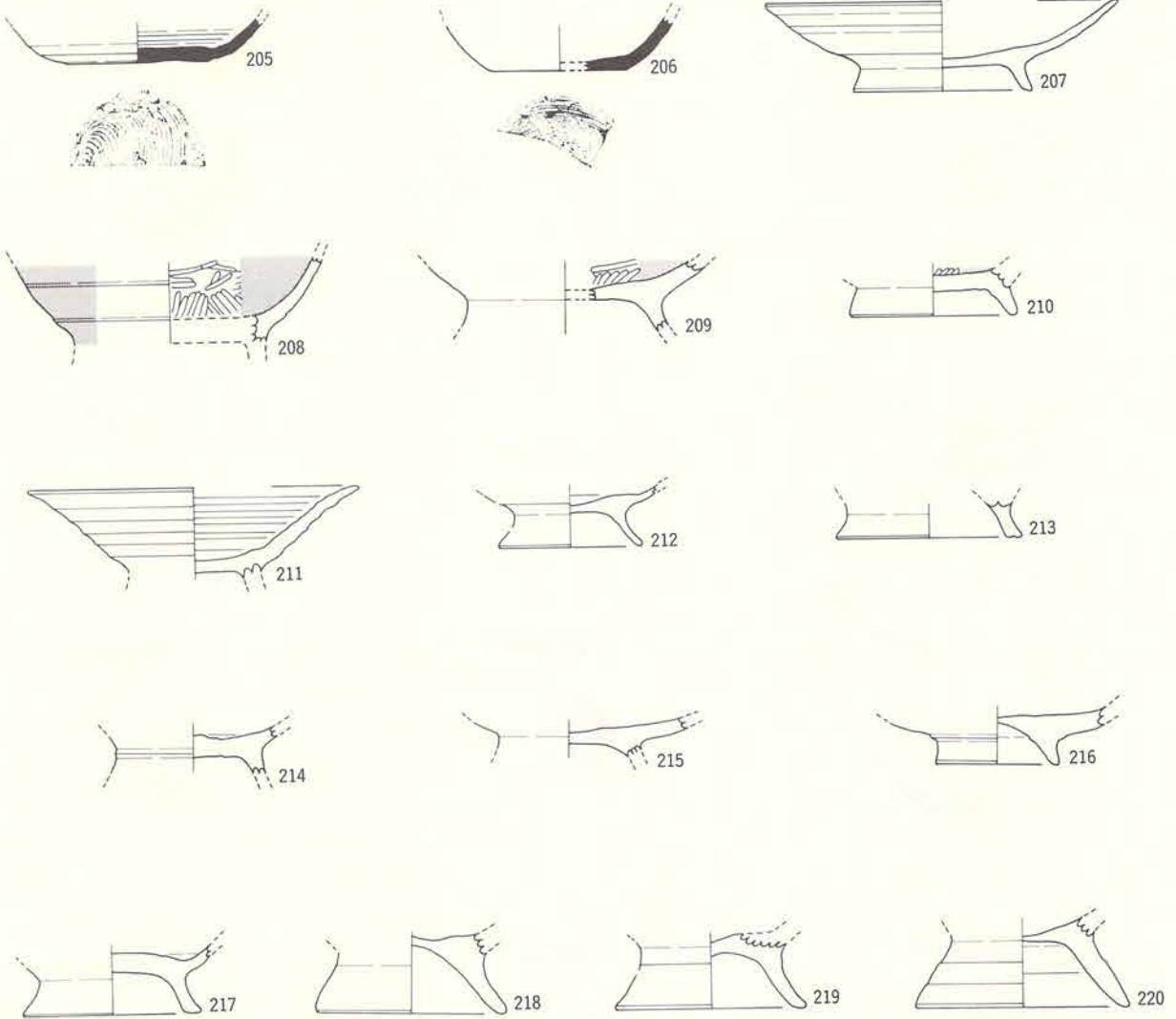
№	登録番号	遺構・地点・層位	種類・器種	外面調整			内面調整		計測値：cm			備考	分類	写真図版
				口縁	胴部	底部	調整	着色処理	口径	底径	器高			
175	58	VIB 3 f II層	土師 坏	-	-	なし	なし	×	-	6.0	-	-	-	-
176	57	VIB 3 f I層	土師 坏	-	-	なし	なし	×	-	5.8	-	-	-	-
177	50	VIB区 表採	土師 坏	-	-	なし	なし	×	-	5.0	-	-	-	360
178	56	VIB 3 c I層	土師 坏	-	-	なし	なし	×	-	5.6	-	-	-	-
179	62	VIB 4 g I層	土師 坏	-	-	なし	なし	×	-	4.4	-	-	-	-
180	64	VIB区 II層	土師 坏	-	-	なし	なし	×	-	5.4	-	-	-	-
181	61	VIB 4 f I層	土師 坏	-	-	なし	なし	×	-	4.6	-	-	-	-
182	151	VIB 3 e I層	土師 坏	-	-	なし	なし	×	-	5.4	-	-	-	-
183	60	VIB 3 d I層	土師 坏	-	-	なし	なし	×	-	5.2	-	-	-	360
184	152	VIB 3 c I層	土師 坏	-	-	なし	なし	×	-	6.0	-	-	-	-
185	66	VIB 6 e I層	土師 坏	-	-	なし	なし	×	-	5.4	-	タール状付着	-	360
186	63	VIB 4 f I層	土師 坏	-	-	なし	なし	×	-	6.0	-	-	-	-
187	153	VIB 9 b I層	土師 坏	-	-	なし	なし	×	-	6.0	-	-	-	-
188	197	VIB区 表採	土師 坏	-	-	なし	なし	×	-	5.0	-	-	-	-
189	68	VIB 4 f I層	土師 坏	-	-	なし	なし	×	-	5.0	-	-	-	-
190	65	VIB 4 f I層	土師 坏	-	-	なし	なし	×	-	5.0	-	-	-	-

第 149 図 遺構外出土遺物-13



No	登録番号	遺構・地点・層位	種類・器種	外面調整			内面調整		計測値: cm			備 考	分 類	写真図版
				口縁	胴部	底部	調整	黒色処理	口径	底径	器高			
191	199	VII B 2 a II層	土師 坏	-	-	なし	なし	×	-	6.0	-	-	-	-
192	67	VII B区 II層	土師 坏	-	-	なし	なし	×	-	5.8	-	-	-	-
193	241	VII B区 I層	土師 坏	-	-	なし	なし	×	-	5.6	-	-	-	360
194	12	VII B区 I層	土師 坏	-	-	なし	なし	×	-	6.2	-	-	-	-
195	200	VII B 2 a II層	土師 坏	-	-	なし	なし	×	-	6.0	-	-	-	-
196	40	VII B区 表探	土師 坏	なし	HK	HK	HN	×	11.4	6.0	4.0	-	I C	360
197	82	VII B区 表探	須恵 坏	なし	なし	-	なし	×	14.8	-	-	-	-	-
198	87	VII B区 表探	須恵 坏	-	なし	なし	なし	×	17.6	5.0	3.5	-	-	360
199	91	VII B区 表探	須恵 坏	-	なし	なし	なし	×	-	5.0	-	-	-	360
200	90	VII B 3 e II層	須恵 坏	-	なし	なし	なし	×	-	5.6	-	-	底面に墨書(字種不明)	360
201	97	VII B 3 f I層	須恵 坏	-	なし	なし	なし	×	-	5.0	-	-	-	-
202	98	VII B 3 h II層	須恵 坏	-	なし	なし	なし	×	-	6.0	-	-	-	-
203	14	VII B区 表探	須恵 坏	-	なし	なし	なし	×	-	5.8	-	-	-	-
204	676	VII B 28土坑埋土	須恵 坏	-	なし	なし	なし	×	-	9.0	-	-	-	360

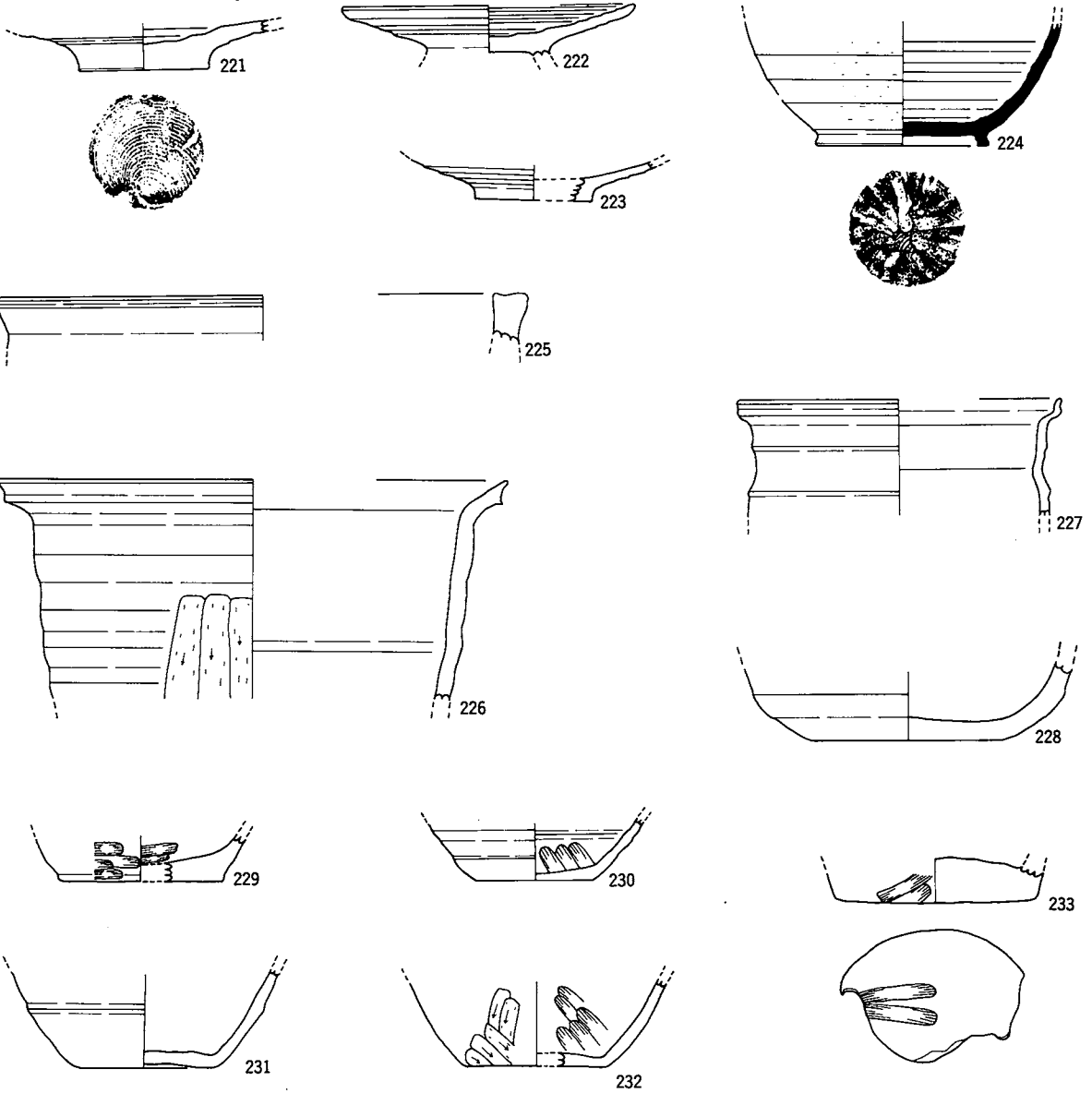
第 150 図 遺構外出土遺物—14



No.	登録番号	遺構・地点・層位	種類・器種	外面調整			内面調整		計測値：cm			備 考	分 類	写真図版
				口縁	胴部	底部	調整	黒色処理	口径	底径	器高			
205	591	VIB区 II層	須恵 坏	-	なし	なし	なし	×	-	5.9	-	-	-	360
206	649	VIB28土坑埋土	須恵 坏	-	なし	なし	なし	×	-	5.2	-	-	-	360

No.	登録番号	遺構・地点・層位	種類・器種	坏部：cm			坏部内面		台部：cm			備 考	分 類	写真図版
				口縁	底部	高さ	調整	黒色処理	上部	下部	高さ			
207	3	II B区 I層	土師 高坏	14.8	6.9	7.5	なし	×	6.9	7.5	0.9	-	II a	360
208	588	III B区 I層	土師 高坏	-	8.8	-	M	○	8.8	-	-	内外面黒色処理	I B	-
209	158	VIB 4 g II層	土師 高坏	-	8.1	-	M	○	8.1	-	-	-	I A	-
210	590	VIB区 II層	土師 高坏	-	-	-	M	○	5.4	7.0	1.2	-	I A	360
211	72	VIB区 I層	土師 高坏	14.0	5.6	3.5	なし	×	-	-	-	-	-	360
212	78	VIB 3 e III層	土師 高坏	-	-	-	なし	×	4.6	6.0	1.5	-	II a	360
213	592	VIB区 II層	土師 高坏	-	-	-	なし	×	6.9	7.8	1.0	斜離面に糸切痕転写	II a	360
214	76	VIB 4 g I層	土師 高坏	-	6.0	-	なし	×	6.0	-	-	-	II a	360
215	77	VIB区 I層	土師 高坏	-	6.0	-	なし	×	6.0	-	-	-	II a	360
216	81	VIB 4 i II層	土師 高坏	-	5.2	-	なし	×	5.3	5.2	1.2	-	II a	360
217	75	VIB区 I層	土師 高坏	-	-	-	なし	×	6.1	7.5	1.5	-	II a	360
218	74	VIB 4 i I層	土師 高坏	-	-	-	なし	×	6.1	8.0	3.4	-	II b	361
219	80	VIB区 I層	土師 高坏	-	5.9	-	なし	×	5.9	8.0	2.6	-	II b	361
220	79	VIB区 I層	土師 高坏	-	5.9	-	なし	×	5.9	9.0	2.8	-	II b	361

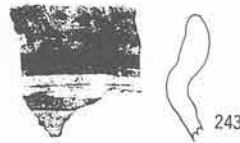
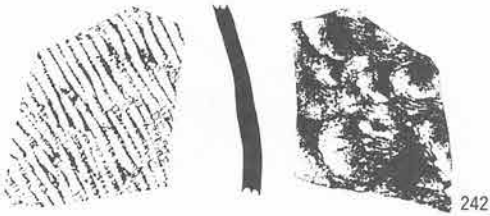
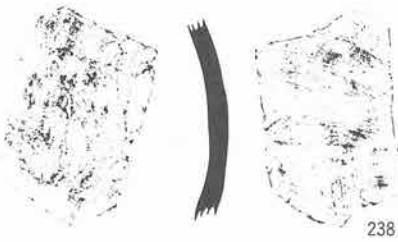
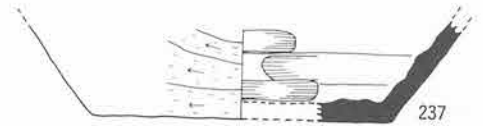
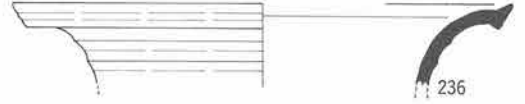
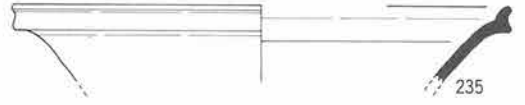
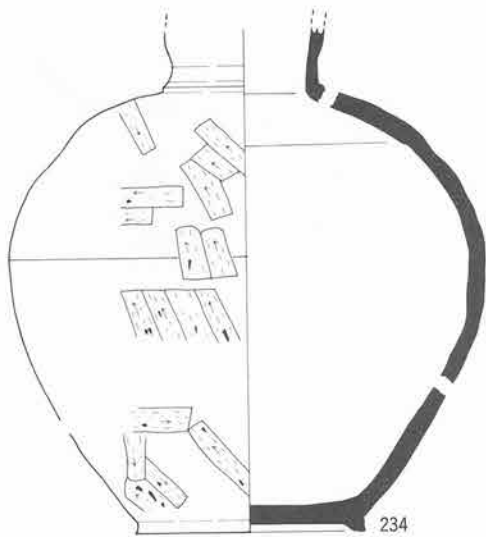
第 151 図 遺構外出土遺物—15



No.	登録番号	遺構・地点・層位	種類・器種	皿部：cm		台部：cm			高さ	備考	分類	写真図版
				直径	高さ	上径	下径	高さ				
221	71	VIB 3 c II層	土師 高皿	-	-	7.4	5.6	1.3	-	べた高台	a	361
222	73	VIB区 I層	土師 高皿	12.0	1.8	-	-	-	-	-	b	361
223	157	VIB区 I層	土師 高皿	-	-	5.1	5.0	0.7	-	べた高台	a	-

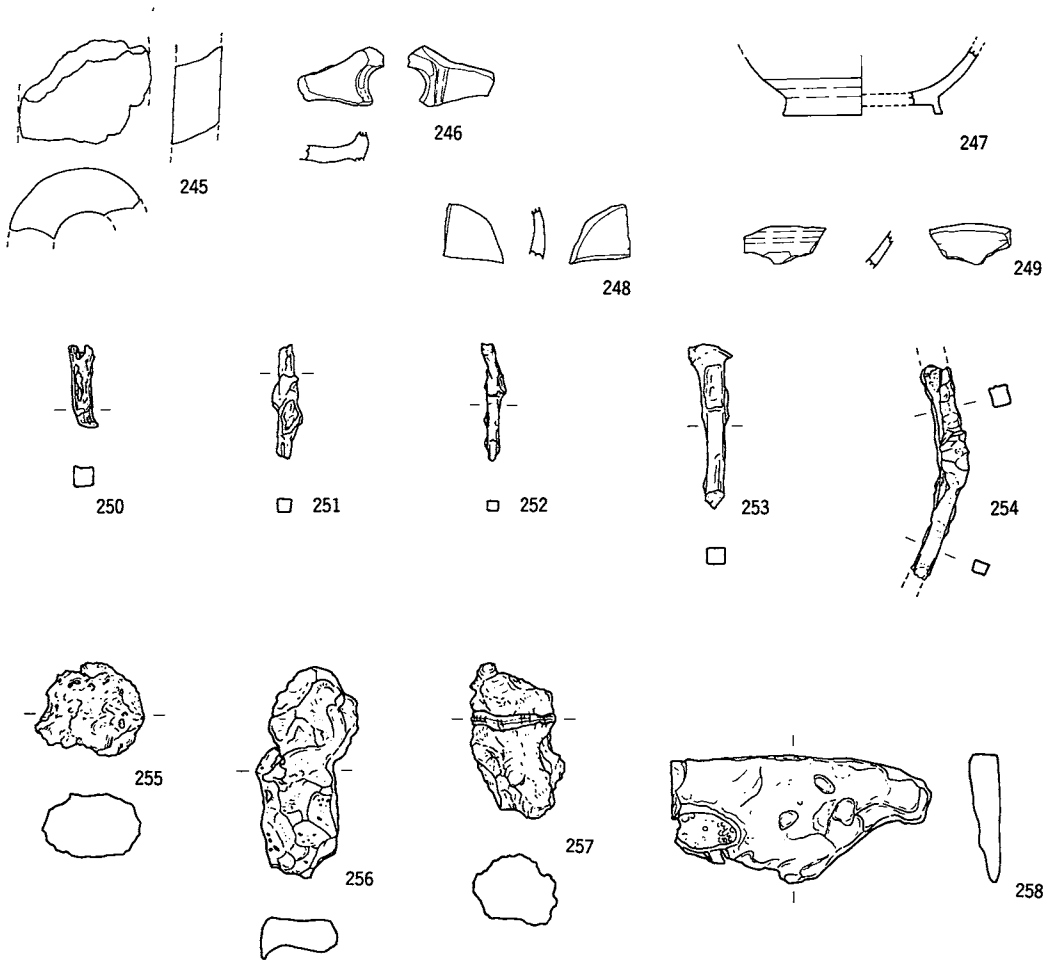
No.	登録番号	遺構・地点・層位	種類・器種	器面調整：外面			器面調整：内面			底部	計測値：cm			備考	分類	写真図版	
				口縁	体上	体下	口縁	体上	体下		外面	口径	底径				器高
224	88	VIB 6 c I層	須恵 壺	-	-	なし	-	-	なし	YN	-	7.3	-	-	底面に放射線に ユビナテ	-	361
225	646	VIB区 II層	土師 甕	なし	-	-	なし	-	-	-	22.9	-	-	-	-	IIA-c	361
226	594	VIB溝埋土	土師 甕	なし	HK	-	なし	なし	-	-	21.4	-	-	-	-	IIA-a	361
227	83	VIB区 I層	土師 甕	なし	なし	-	なし	なし	-	-	14.0	-	-	-	-	-	361
228	593	VIB 6 溝埋土	土師 甕	-	-	なし	-	-	なし	なし	-	8.1	-	-	-	-	361
229	69	VIB 8 c I層	土師 甕	-	-	HN	-	-	HN	HN	-	7.0	-	-	-	-	-
230	45	VIB区 I層	土師 甕	-	-	なし	-	-	HN	HN	-	5.9	-	-	-	-	361
231	608	VIB土坑埋土	土師 甕	-	-	なし	-	-	なし	なし	-	5.0	-	-	-	-	-
232	36	VIB区 I層	土師 甕	-	-	HK	-	-	HN	HN	-	6.1	-	-	-	-	-
233	173	VIA 4 i I層	土師 甕	-	-	HN	-	-	なし	HN	-	8.6	-	-	内面スス付着	-	361

第 152 図 遺構外出土遺物-16



No	登録番号	遺構・地点・層位	種類・器種	器面調整：外面			器面調整：内面			底部	計測値：cm			備考	分類	写真図版
				口縁	体上	体上	口縁	体上	体上		外面	口径	底径			
234	4	II B区 1層	須恵 壺	-	HK	HK	-	なし	なし	HK	-	9.1	-	-	-	361
235	648	V B 5 土坑埋土	須恵 甕	なし	-	-	なし	-	-	-	20.0	-	-	-	-	-
236	595	III B区 1層	須恵 甕	なし	-	-	なし	-	-	-	19.9	-	-	-	-	361
237	89	VIB区 1層	須恵 甕	-	-	HK	-	-	HN	HN	-	11.8	-	-	-	361
238	164	VIA区 II層	須恵 壺	-	HK	-	-	HN	-	-	-	-	-	-	-	-
239	587	III B区 1層	須恵 甕	-	HT	-	-	HT	-	-	-	-	-	-	焼成不良	361
240	156	VIB区 表探	土師 甕	なし	-	-	なし	-	-	-	-	-	-	-	-	361
241	242	VIB 1 a II層	土師 甕	なし	-	-	なし	-	-	-	-	-	-	-	-	361
242	163	II A 0 j II層	須恵 甕	-	HT	-	-	YN	-	-	-	-	-	-	-	-
243	243	VII B区 表探	土師 甕	なし	-	-	なし	-	-	-	-	-	-	-	-	361
244	244	VII B区 表探	土師 甕	なし	-	-	なし	-	-	-	-	-	-	-	-	361

第 153 図 遺構外出土遺物-17

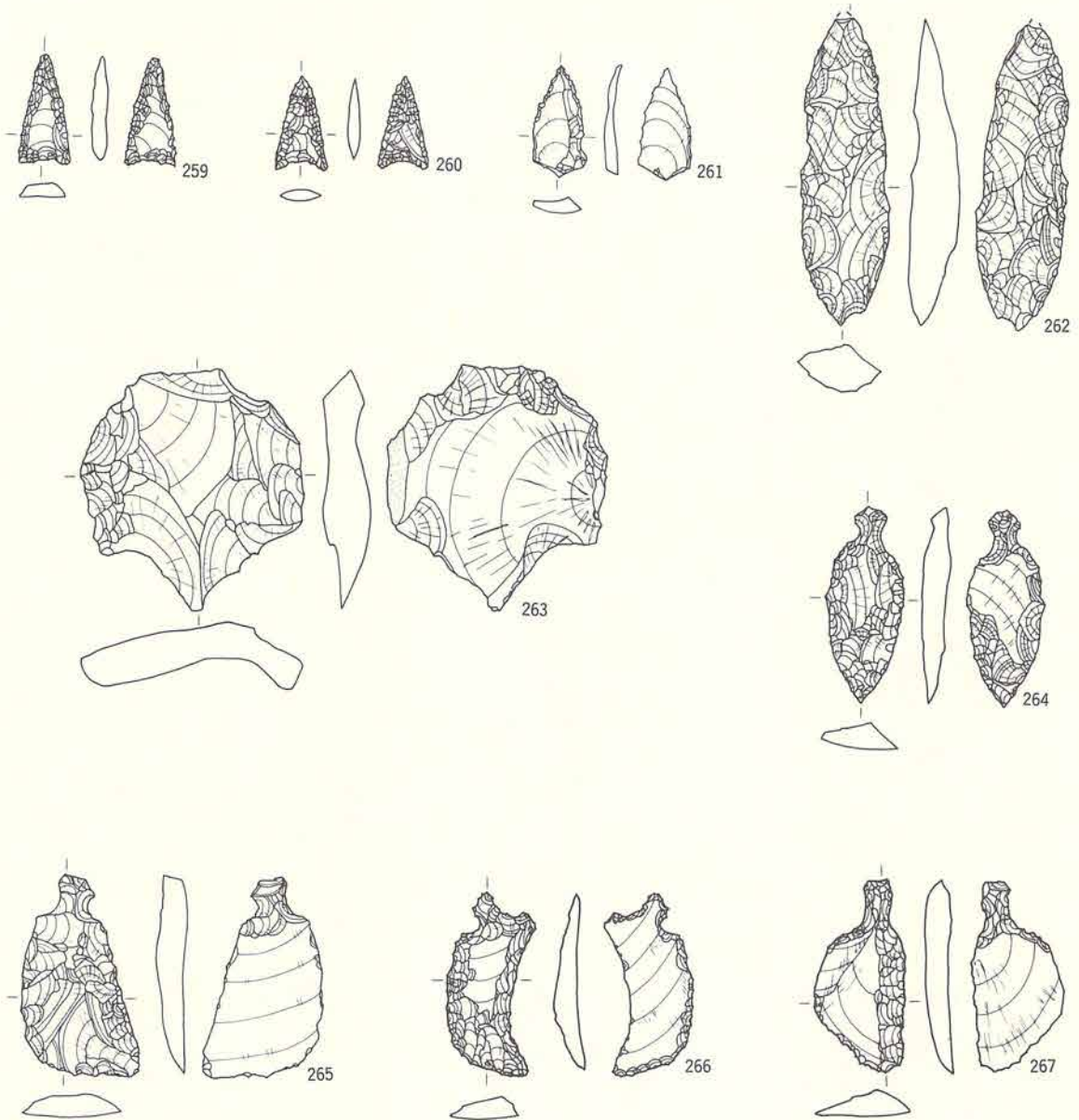


No	登録番号	遺構・地点・層位	器種・部位	長さ	幅	厚さ	重量	特徴・備考	写真図版
245	19	VIB区I層	ふいご羽口	-	6.0	1.8	-		361
246	10	VIB区II層	不明	-	-	0.6	-		361

No	遺構・地点・層位	種類・器種	窯式	年代	計測値:cm			特徴・備考	写真図版
					口径	底径	器高		
247	5	VIB区I層	不明	近世?	-	6.0	-	-	362
248	16	VIB区I層	不明	近世?	-	-	-	-	-
249	7	VIB区cII層	緑釉 碗	9世紀前半	-	-	-	-	362

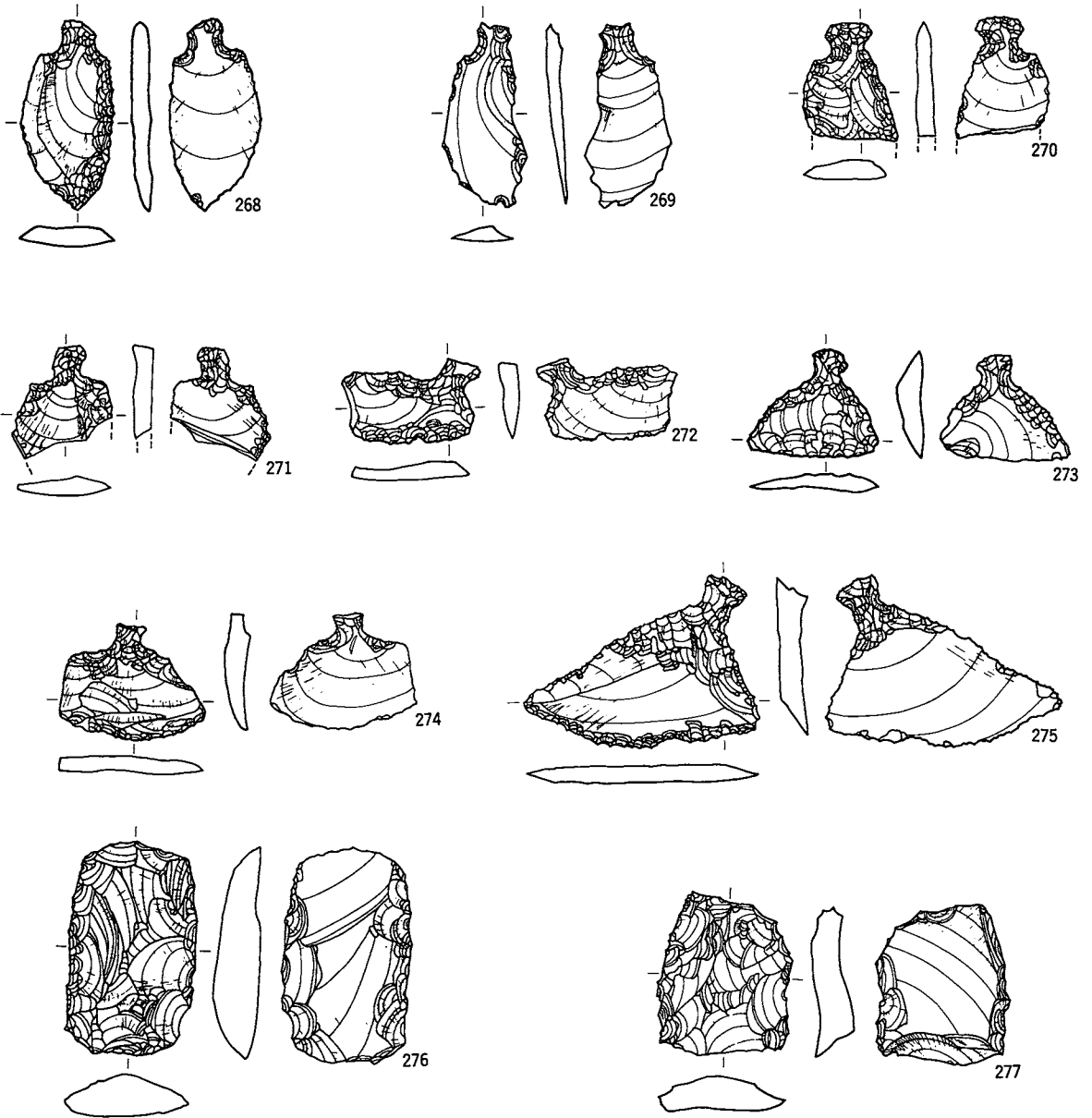
No	登録番号	遺構・地点・層位	器種・部位	長さ	幅	厚さ	重量	特徴・備考	写真図版
250	31 a	VIB 9 a II層	釘	-	-	0.5	-		362
251	31 d	VIB 9 a II層	釘	-	-	0.4	-		362
252	31 b	VIB 9 a II層	釘	-	-	0.3	-		362
253	31 c	VIB 9 a II層	釘	-	-	0.5	-		362
254	26	VIB 3 g II層	釘	-	-	0.4	-		362
255	27 a	VIB 8 b II層	鉄滓	2.5	2.5	1.6	-		362
256	27 c	VIB 8 b II層	鉄滓	5.5	2.0	0.7	-		362
257	27 b	VIB 8 b II層	不明	3.8	2.2	1.7	-		362
258	27 d	VIB 8 b II層	不明	-	3.4	0.8	-		362

第 154 図 遺構外出土遺物—18



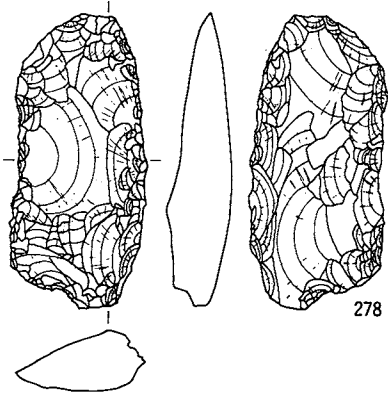
登録番号	図版番号	遺構・地点・層位	器種	長さ	幅	厚さ	重量	石質	産地	生成年代	写真図版
259	1-41	3号独立柱建物跡柱穴埋土	石鏃	3.1	1.5	0.4	1.4	珪質細粒凝灰岩	奥羽山地	新第3系中新統	363
260	1-35	7号溝跡埋土	石鏃	2.7	1.5	0.3	0.8	硬質泥岩	奥羽山地	新第3系中新統	363
261	108	II B 8 c I層	石鏃	3.2	1.6	0.5	1.9	硬質泥岩	奥羽山地	新第3系中新統	363
262	1-42	VIB 1周溝埋土	石槍	8.8	2.6	1.4	26.7	珪質細粒凝灰岩	奥羽山地	新第3系中新統	363
263	16	VIB 8 e I層	石鏃	7.0	6.3	1.3	57.3	珪質泥岩	奥羽山地	新第3系中新統	363
264	1-44	7号独立柱建物跡柱穴埋土	石匙	5.1	2.2	0.8	7.1	珪質泥岩	奥羽山地	新第3系中新統	363
265	51	VIB 7 b II層	石匙	5.8	3.3	0.8	13.5	硬質泥岩	奥羽山地	新第3系新統	363
266	1-18	VIB 9土坑埋土	石匙	5.2	2.5	0.7	7.3	珪質細粒凝灰岩	奥羽山地	新第3系中新統	363
267	2	VII B区 I層	石匙	5.5	2.6	0.7	8.2	珪質細粒凝灰岩	奥羽山地	新第3系中新統	363

第155図 遺構外出土遺物—19

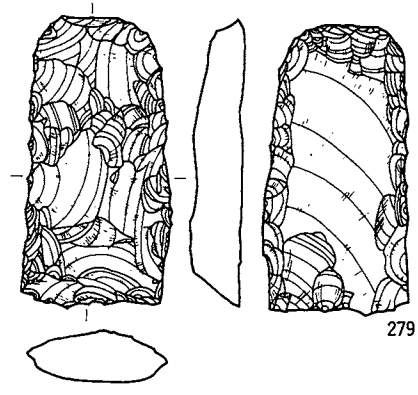


登録番号	図版番号	遺構・地点・層位	器種	長さ	幅	厚さ	重量	石質	産地	生成年代	写真図版
268	3	VII B 1 c I 層	石匙	5.5	2.6	0.5	6.5	珪質細粒凝灰岩	奥羽山地	新第3系中新統	363
269	I-24	VII B 29土坑埋土	石匙	5.3	2.4	0.5	4.6	玻璃質安山岩(綠石美)	奥羽山地	時代不詳	363
270	7	VII B 区 I 層	石匙	3.4	2.7	0.6	5.4	珪質細粒凝灰岩	奥羽山地	新第3系中新統	363
271	40	VII A 0 j II 層	石匙	3.3	2.8	0.5	3.7	珪質細粒凝灰岩	奥羽山地	新第3系中新統	363
272	6	VII B 区 表探	石匙	2.4	4.0	0.6	4.9	珪質泥岩	奥羽山地	新第3系中新統	363
273	4	VII B 6 d I 層	石匙	3.0	3.8	0.7	5.6	珪質泥岩	奥羽山地	新第3系中新統	363
274	5	VII B 2 e I 層	石匙	3.3	4.2	0.6	7.2	珪質極細粒凝灰岩	奥羽山地	新第3系中新統	363
275	1	VII B 4 e I 層	石匙	5.0	6.8	0.8	19.9	珪質泥岩	奥羽山地	新第3系中新統	363
276	9	VII B 区 II 層	石筥	6.1	3.7	1.3	36.1	珪質泥岩	奥羽山地	新第3系中新統	364
277	104	V B 9 f II 層	石筥	4.7	3.8	1.0	20.5	珪質細粒凝灰岩	奥羽山地	新第3系中新統	364

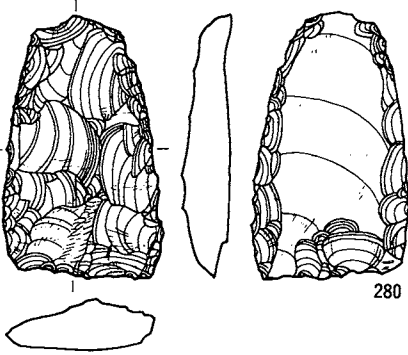
第 156 図 遺構外出土遺物-20



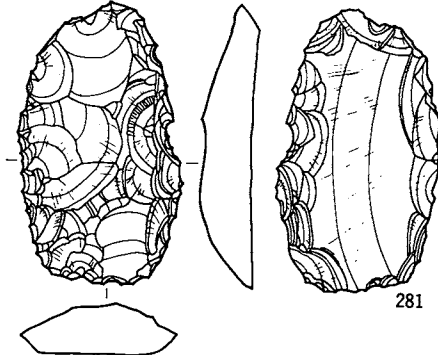
278



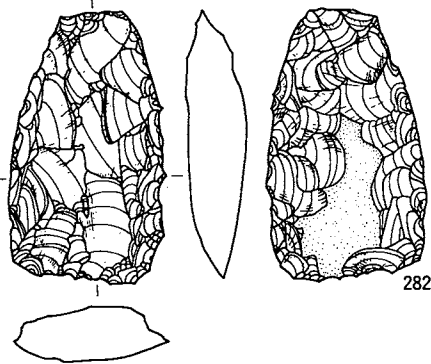
279



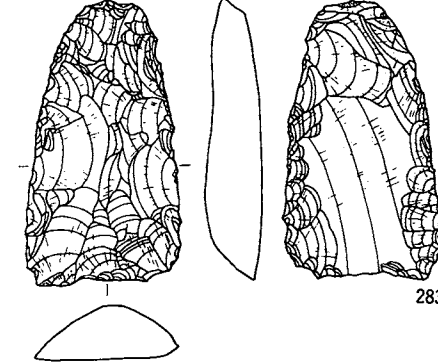
280



281



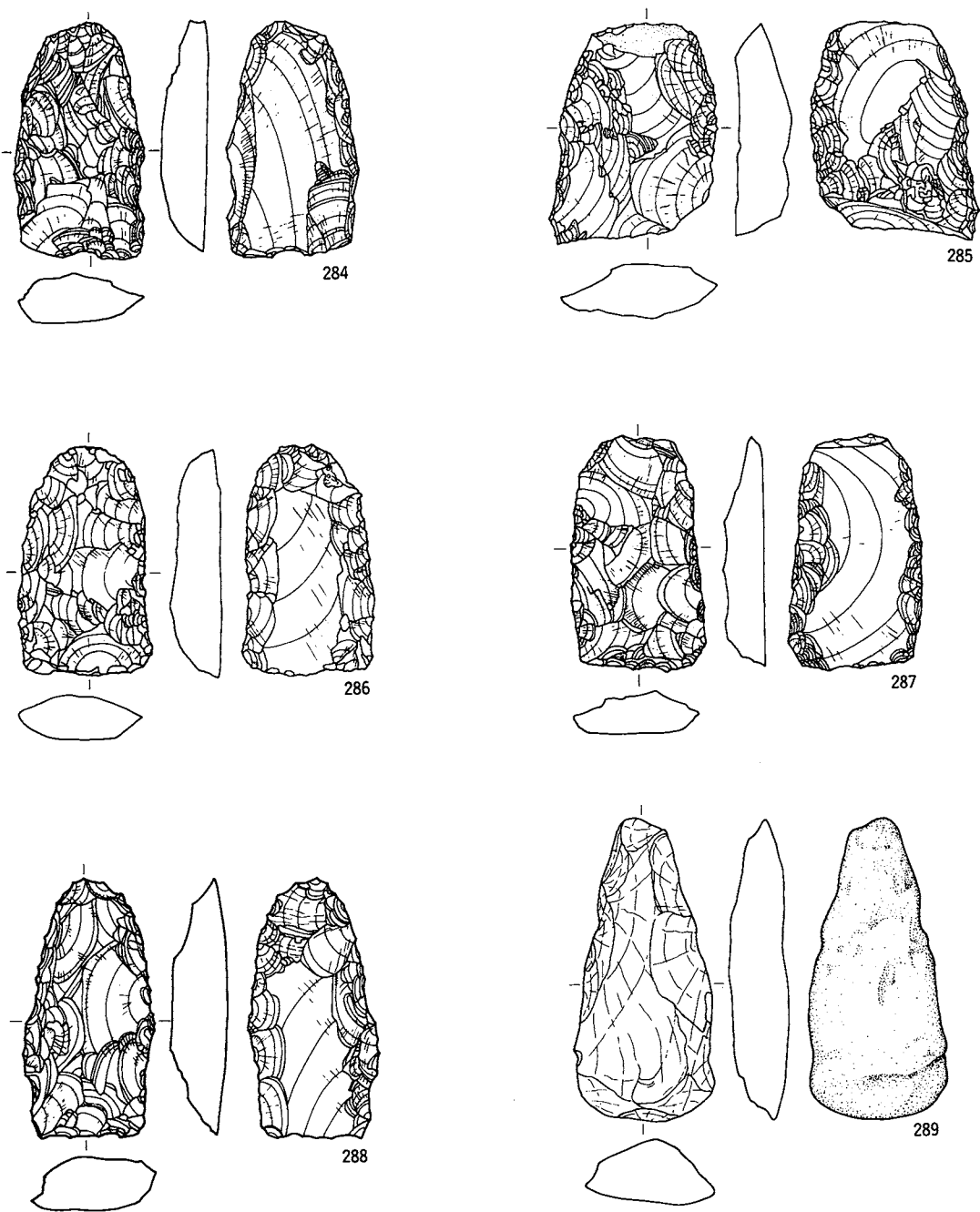
282



283

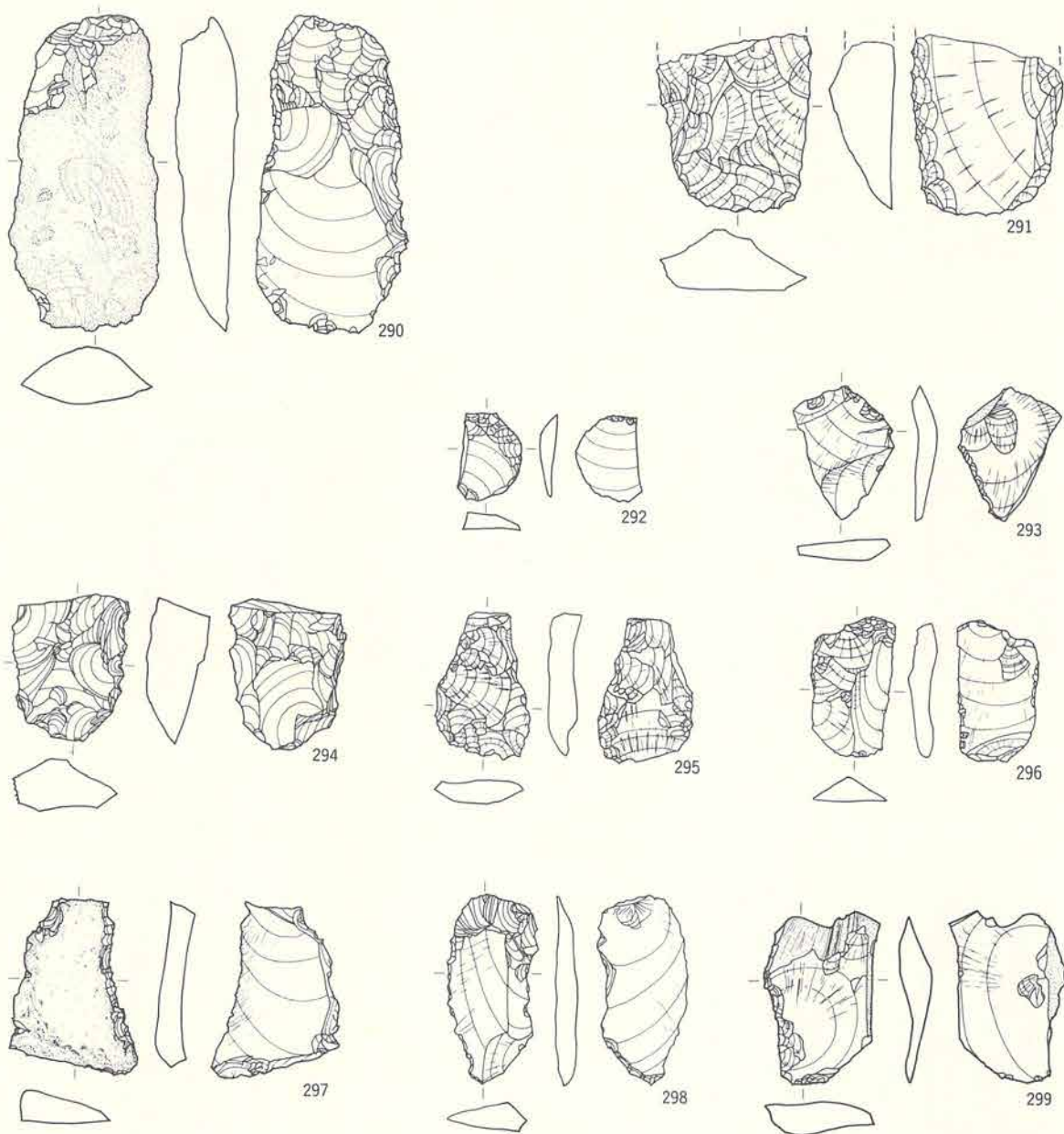
登録番号	図版番号	遺構・地点・層位	器種	長さ	幅	厚さ	重量	石質	産地	生成年代	写真図版
278	107	VIA区 I層	石鏡	7.8	3.6	1.7	48.2	珪質泥岩	奥羽山地	新第3系中新統	364
279	12	VIB 6 e I層	石鏡	7.8	3.9	1.4	54.2	粘板岩(ホルンフェルス化)	北上山地, 夏油川	古生界	364
280	13	VIB 8 d II層	石鏡	7.0	4.3	1.4	43.8	硬質泥岩	奥羽山地	新第3系中新統	364
281	14	VIB 7 c I層	石鏡	7.5	4.4	1.4	53.1	粘板岩(ホルンフェルス化)	北上山地, 夏油川	古生界	364
282	I-49	VIB 3 カマ埋土	石鏡	7.3	4.2	1.5	49.9	珪質泥岩	奥羽山地	新第3系中新統	364
283	10	VIB 8 b II層	石鏡	7.6	4.2	1.4	47.8	珪質細粒凝灰岩	奥羽山地	新第3系中新統	364

第157図 遺構外出土遺物-21



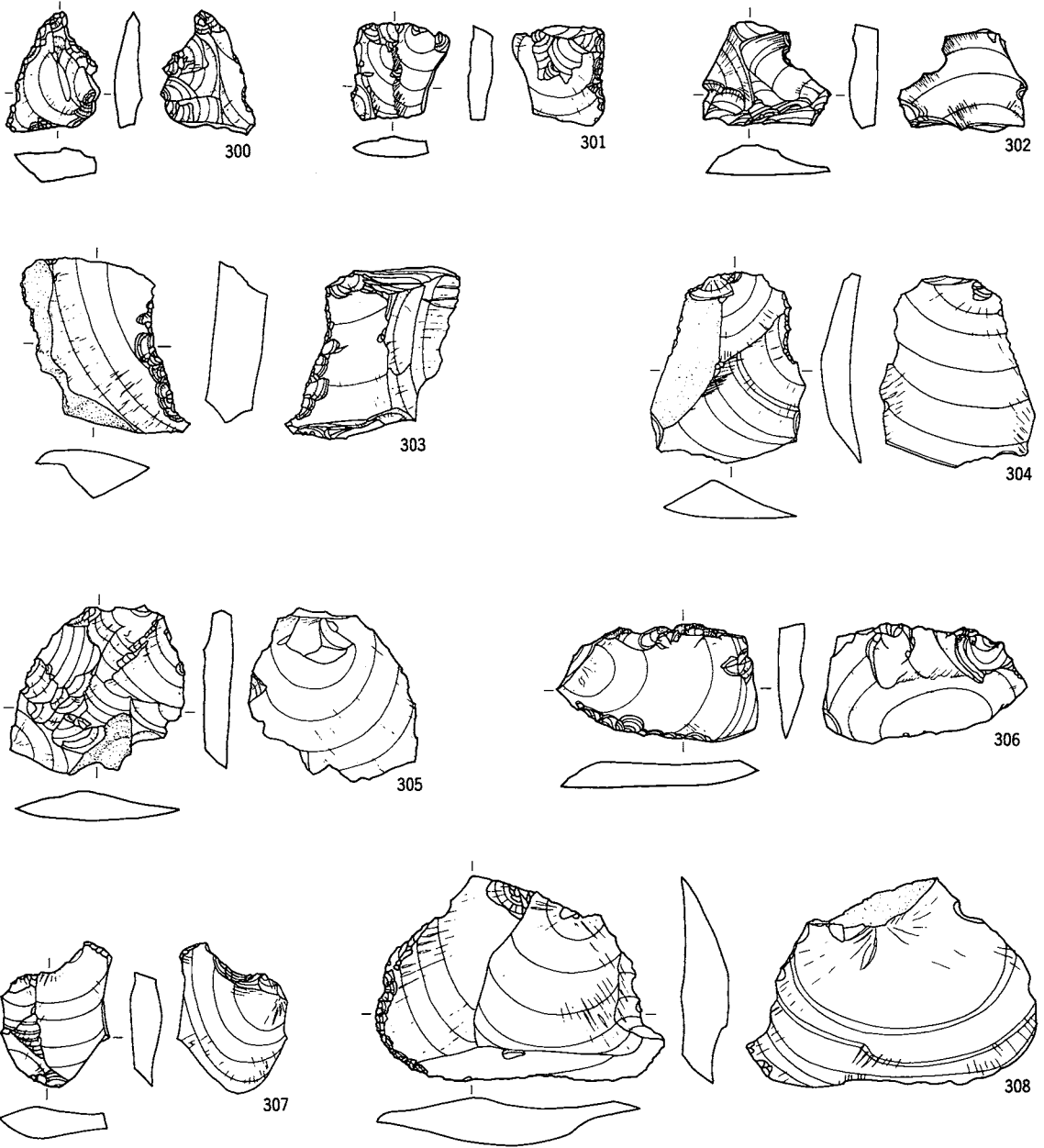
登録番号	図版番号	遺構・地点・層位	器種	長さ	幅	厚さ	重量	石質	産地	生成年代	写真図版
284	8	VII A区 I層	石筥	6.9	3.9	1.4	39.7	珪質極細粒凝灰岩	奥羽山地	新第3系中新統	364
285	106	VIB 8 d II層	石筥	6.4	4.9	1.6	51.5	珪質極細粒凝灰岩	奥羽山地	新第3系中新統	364
286	I-20	11号竪立柱建物跡9花穴増土	石筥	6.6	3.9	1.5	46.4	珪質極細粒凝灰岩	奥羽山地	新第3系中新統	364
287	11	VIB 8 a II層	石筥	6.9	3.9	1.2	40.3	珪質細粒凝灰岩	奥羽山地	新第3系中新統	364
288	15	VIB 8 a II層	石筥	7.6	3.8	1.7	41.5	珪質細粒凝灰岩	奥羽山地	新第3系中新統	365
289	103	VIB 0 i II層	石筥	8.8	4.1	1.8	76.0	粘板岩	北上山地	古生界	365

第 158 図 遺構外出土遺物—22



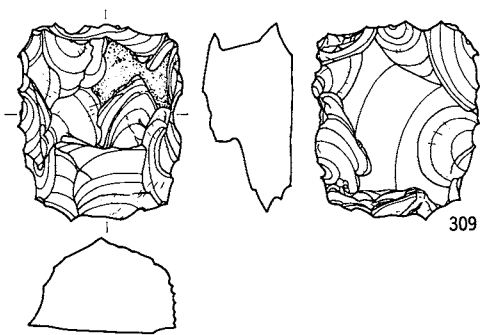
No.	登録番号	遺構・地点・層位	器種	長さ	幅	厚さ	重量	石質	産地	生成年代	写真図版
290	100	VIB 9 e II層	石笥	9.5	5.4	1.8	81.0	珪質泥岩	奥羽山地	新第3系中新統	365
291	I-47	VIB 3 カマ埋土	不定形	5.2	4.5	1.9	36.6	珪質細粒凝灰岩	奥羽山地	新第3系中新統	365
292	65	VIB 9 g I層	不定形	2.5	1.8	0.5	2.4	珪質細粒凝灰岩	奥羽山地	新第3系中新統	365
293	I-48	VIB 2 カマ埋土	不定形	3.9	3.0	0.6	5.9	珪質細粒凝灰岩	奥羽山地	新第3系中新統	365
294	78	VIB 1 h II層	不定形	4.3	3.4	1.7	26.6	珪質細粒凝灰岩	奥羽山地	新第3系中新統	365
295	70	V B 7 h II層	不定形	4.3	2.8	0.8	9.8	珪質細粒凝灰岩	奥羽山地	新第3系中新統	365
296	81	VIB 3 h II層	不定形	4.1	2.4	0.7	7.8	珪質泥岩	奥羽山地	新第3系中新統	365
297	102	VIB 1 e II層	不定形	5.1	3.8	0.9	18.3	淡綠色凝灰岩	奥羽山地	新第3系中新統	365
298	41	VIB区 I層	不定形	5.5	2.6	0.8	11.9	硬質泥岩	奥羽山地	新第3系中新統	365
299	43	VIB区 表採	不定形	5.0	3.4	0.9	14.8	珪質泥岩	奥羽山地	新第3系中新統	365

第 159 図 遺構外出土遺物—23

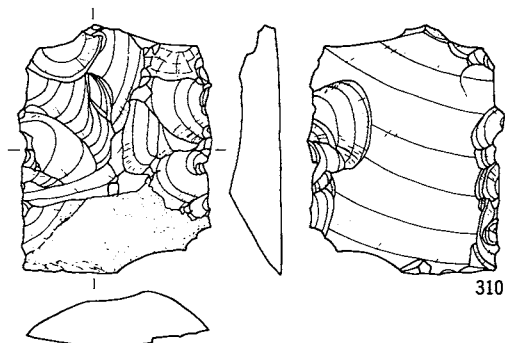


No.	登録番号	遺構・地点・層位	器種	長さ	幅	厚さ	重量	石質	産地	生成年代	写真図版
300	111	VIA 2 i I層	不定形	3.5	2.7	0.8	7.2	硬質泥岩	奥羽山地	新第3系中新統	365
301	112	VIB 2 e II層	不定形	2.8	2.7	0.7	5.9	珪質細粒凝灰岩	奥羽山地	新第3系中新統	365
302	45	VA区 II層	不定形	3.0	3.7	0.8	8.4	硬質泥岩	奥羽山地	新第3系中新統	365
303	61	VIB 9 a II層	不定形	5.0	5.0	1.4	28.7	珪質細粒凝灰岩	奥羽山地	新第3系中新統	365
304	63	VIB区 I層	不定形	5.5	4.5	1.1	20.0	珪質細粒凝灰岩	奥羽山地	新第3系中新統	365
305	64	VIB 4 f II層	不定形	5.0	5.0	0.8	20.2	珪質細粒凝灰岩	奥羽山地	新第3系中新統	365
306	75	VIB 3 c II層	不定形	3.4	5.8	0.8	18.2	珪質細粒凝灰岩	奥羽山地	新第3系中新統	366
307	83	VIB区 I層	不定形	4.2	3.2	0.9	12.7	珪質泥岩	奥羽山地	新第3系中新統	366
308	28	III B 5 b I層	削器	5.9	8.3	1.3	51.0	珪質泥岩	奥羽山地	新第3系中新統	366

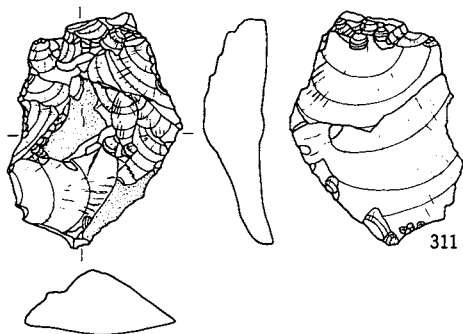
第160図 遺構外出土遺物—24



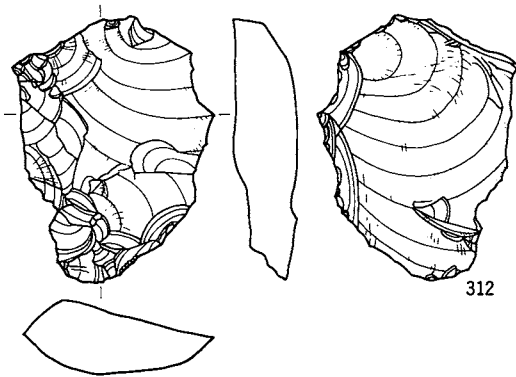
309



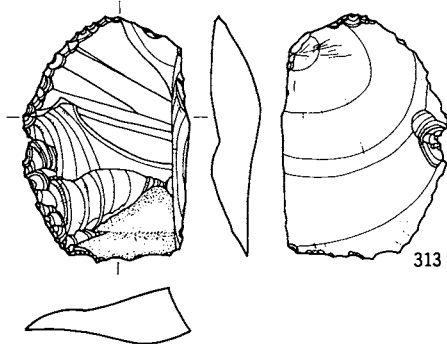
310



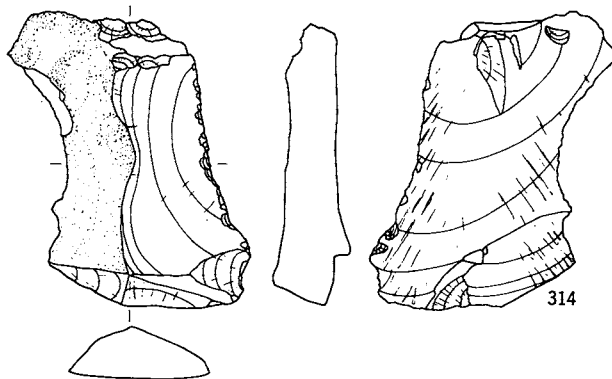
311



312



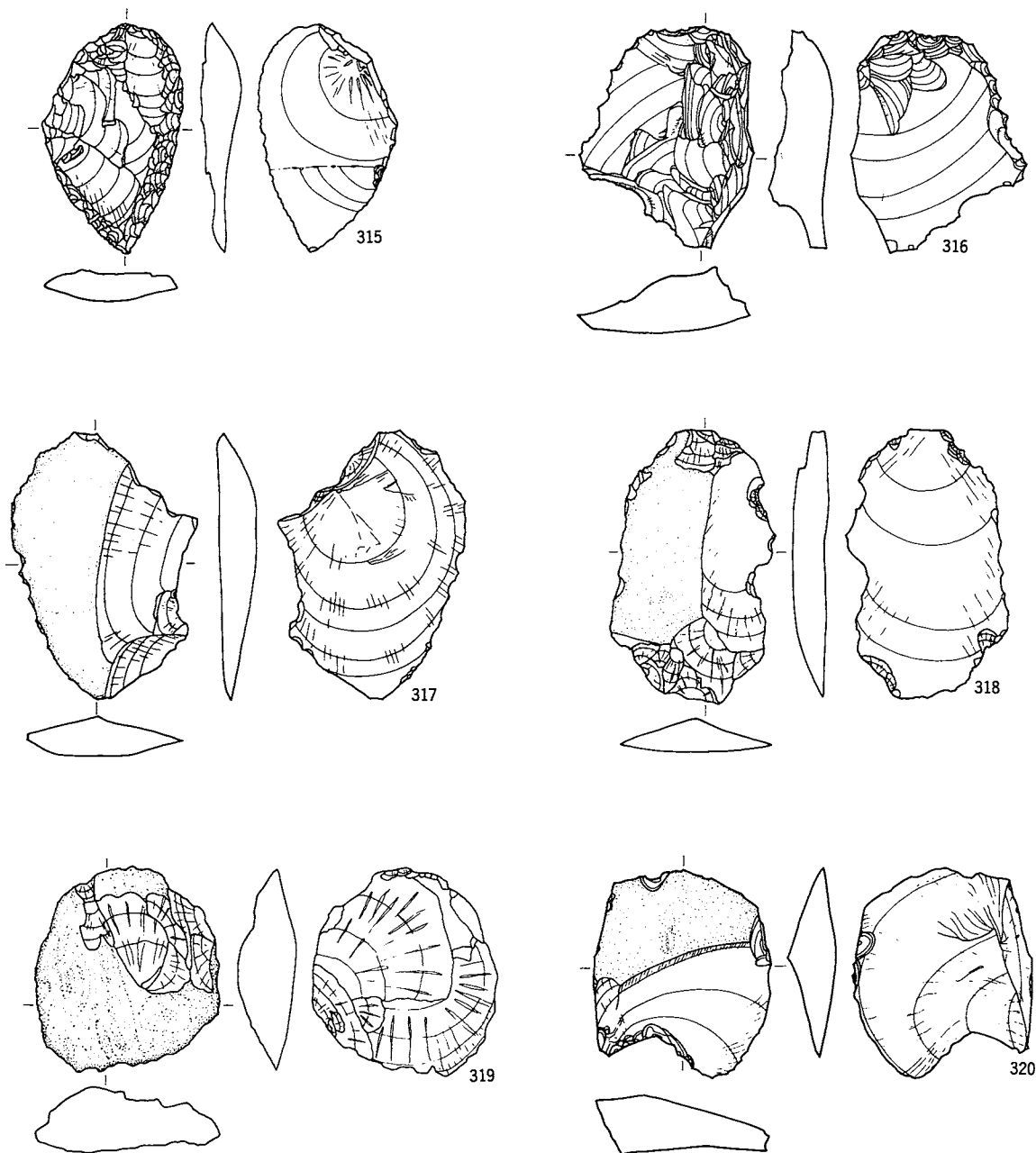
313



314

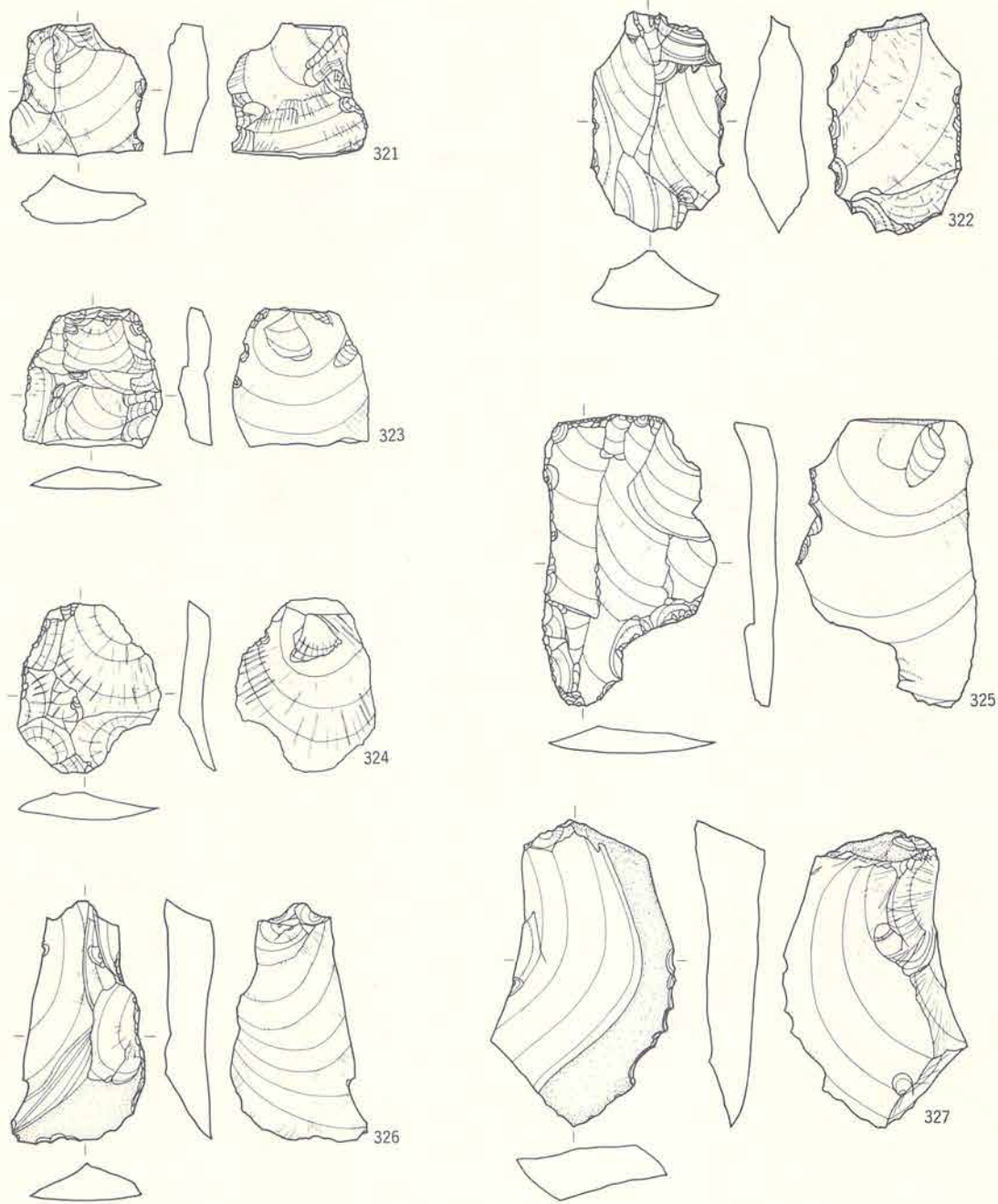
No	登録番号	遺構・地点・層位	器種	長さ	幅	厚さ	重量	石質	産地	生成年代	写真図版
309	76	VIB 7 a II層	不定形	5.2	4.4	2.4	61.0	珪質細粒凝灰岩	奥羽山地	新第3系中新統	366
310	62	VIB 7 b II層	不定形	6.6	5.2	1.4	53.6	珪質泥岩	奥羽山地	新第3系中新統	366
311	80	VIB 3 g II層	不定形	6.2	4.7	1.7	36.6	硬質泥岩	奥羽山地	新第3系中新統	366
312	27	VIB区 I層	不定形	7.1	5.3	1.8	61.0	硬質泥岩	奥羽山地	新第3系中新統	366
313	73	VIB 5 g II層	不定形	6.5	4.4	1.4	39.5	珪質泥岩	奥羽山地	新第3系中新統	366
314	68	VIB 9 b I層	不定形	7.9	6.3	1.9	73.0	珪質泥岩	奥羽山地	新第3系中新統	366

第161図 遺構外出土遺物—25



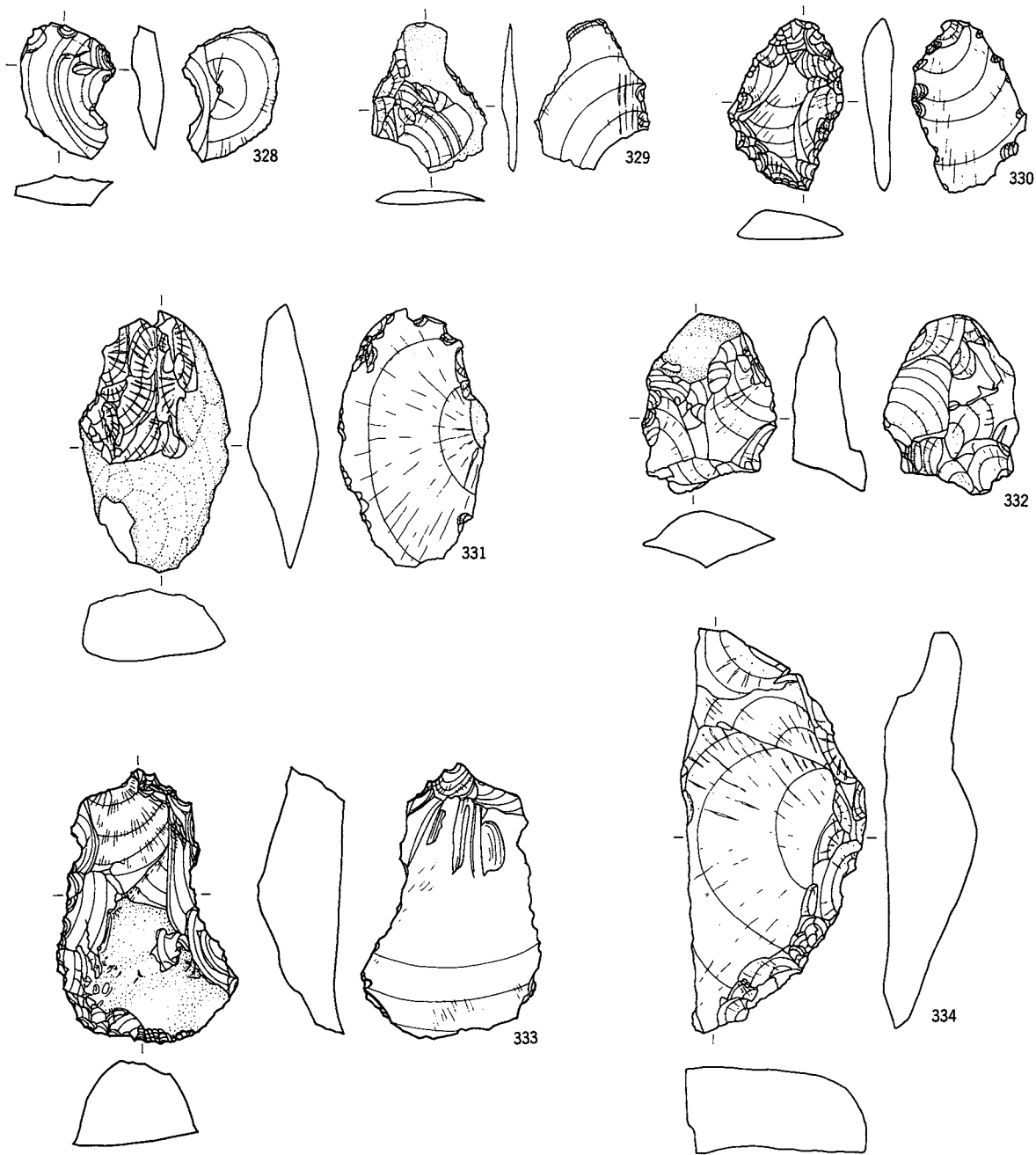
No.	登録番号	遺構・地点・層位	器種	長さ	幅	厚さ	重量	石質	産地	生成年代	写真図番
315	I-21	VIB26土坑埋土	不定形	6.7	4.2	1.2	25.7	珪質泥岩	奥羽山地	新第3系中新統	366
316	71	VB9fII層	不定形	6.5	5.1	1.8	55.6	硬質泥岩	奥羽山地	新第3系中新統	367
317	I-26	VIB7土坑埋土	不定形	7.9	5.5	1.2	44.0	硬質泥岩	奥羽山地	新第3系中新統	367
318	22	VIB3eII層	不定形	8.1	4.8	1.0	35.5	珪質細粒凝灰岩	奥羽山地	新第3系中新統	367
319	55	VIB0eI層	不定形	6.0	5.3	1.9	68.5	板岩(ホルンフェルス化)	北上山地, 夏油川	古生界	367
320	47	IVB4iII層	不定形	6.1	5.2	1.7	41.7	珪質細粒凝灰岩	奥羽山地	新第3系中新統	367

第162図 遺構外出土遺物-26



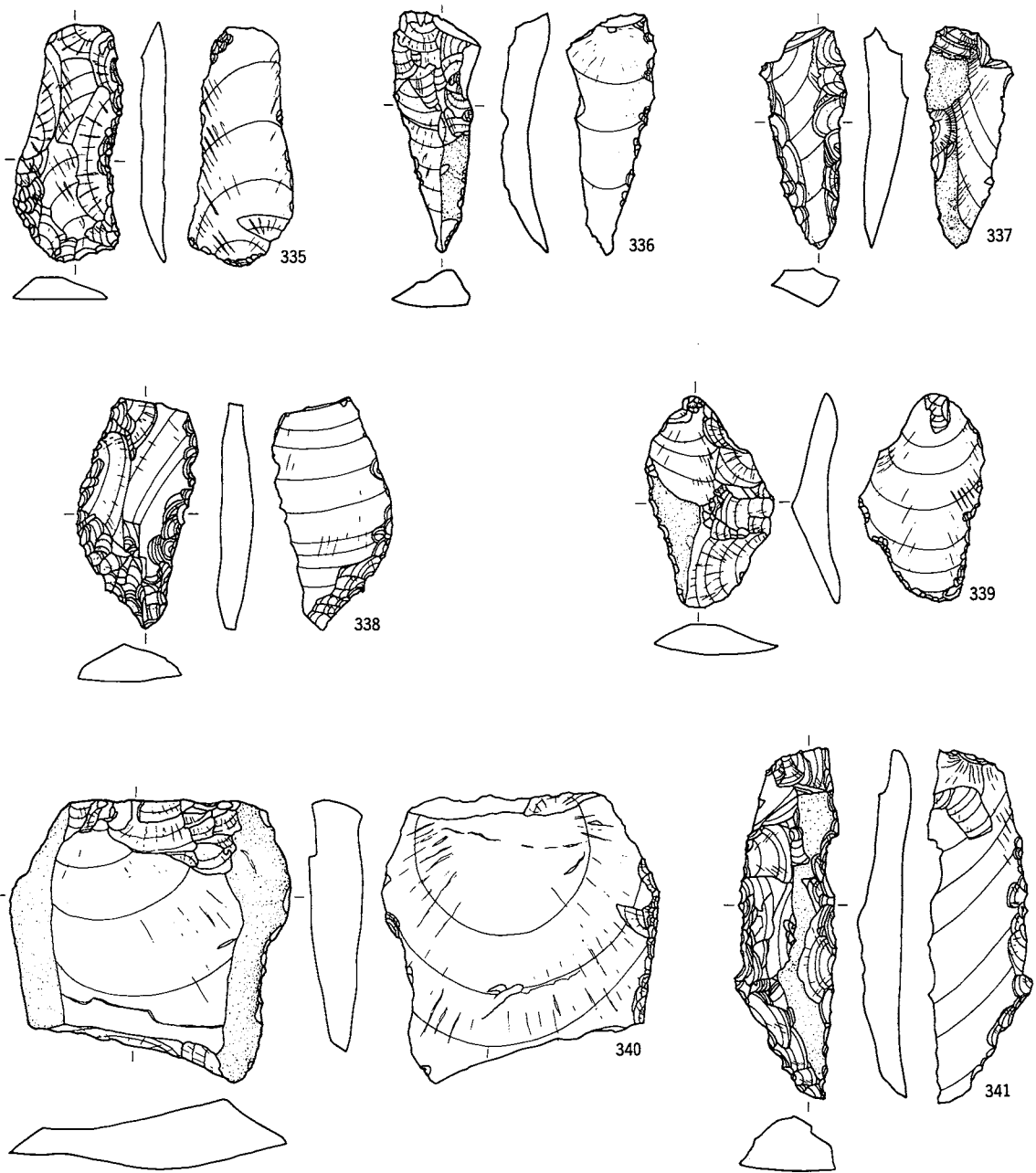
No.	登録番号	遺構・地点・層位	器種	長さ	幅	厚さ	重量	石質	産地	生成年代	写真図番
321	I-19	VIB23土坑埋土	不定形	3.8	4.0	1.4	18.7	硬質泥岩	奥羽山地	新第3系中新統	367
322	66	VIB4cII層	不定形	4.0	4.0	0.8	16.4	硬質泥岩	奥羽山地	新第3系中新統	367
323	20	VIB5cII層	不定形	5.0	4.2	0.7	15.3	珪質細粒凝灰岩	奥羽山地	新第3系中新統	367
324	26	VIB区I層	不定形	7.0	3.9	1.4	37.5	硬質泥岩	奥羽山地	新第3系中新統	367
325	I-25	VIB37土師埋土	不定形	6.3	3.9	1.8	39.3	硬質泥岩	奥羽山地	新第3系中新統	367
326	I-15	III B2住埋土	不定形	8.5	5.1	1.0	42.3	珪質泥岩	奥羽山地	新第3系中新統	367
327	52	VIB0eI層	不定形	8.9	5.4	2.0	75.0	珪質細粒凝灰岩	奥羽細粒	新第3系中新統	368

第163図 遺構外出土遺物—27



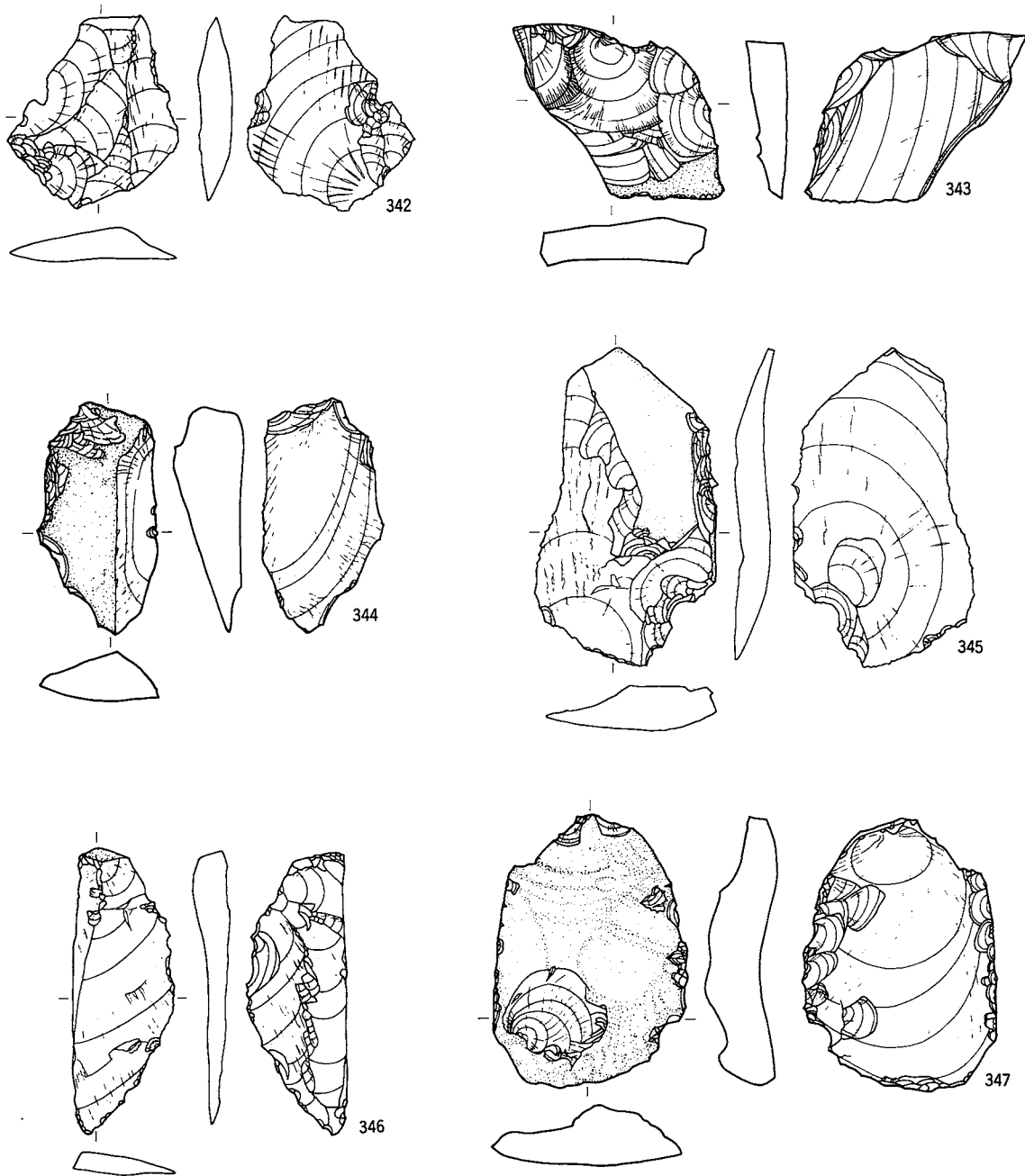
No.	登録番号	遺構・地点・層位	器種	長さ	幅	厚さ	重量	石質	産地	生成年代	写真図版
328	72	VIB 0 e II層	不定形	4.1	2.8	1.0	10.5	硬質泥岩	奥羽山地	新第3系中新統	368
329	69	VIB 7 a I層	不定形	4.5	3.4	0.4	5.4	珪質細粒凝灰岩	奥羽山地	新第3系中新統	368
330	30	VII B 0 e II層	不定形	5.2	3.4	0.9	15.2	珪質細粒凝灰岩	奥羽山地	新第3系中新統	368
331	I-37	6号溝跡埋土	不定形	8.0	4.5	2.0	71.0	珪質極細粒凝灰岩	奥羽山地	新第3系中新統	368
332	58	VIB 7 a II層	不定形	5.4	4.0	2.2	30.8	白色細粒凝灰岩	奥羽山地	新第3系中新統	368
333	24	VII B 5 c II層	不定形	8.3	5.4	2.5	102	珪質細粒凝灰岩	奥羽山地	新第3系中新統	368
334	I-14	VII B 2 住埋土	不定形	12.3	5.6	2.7	190	珪質細粒凝灰岩	奥羽山地	新第3系中新統	368

第164図 遺構外出土遺物—28



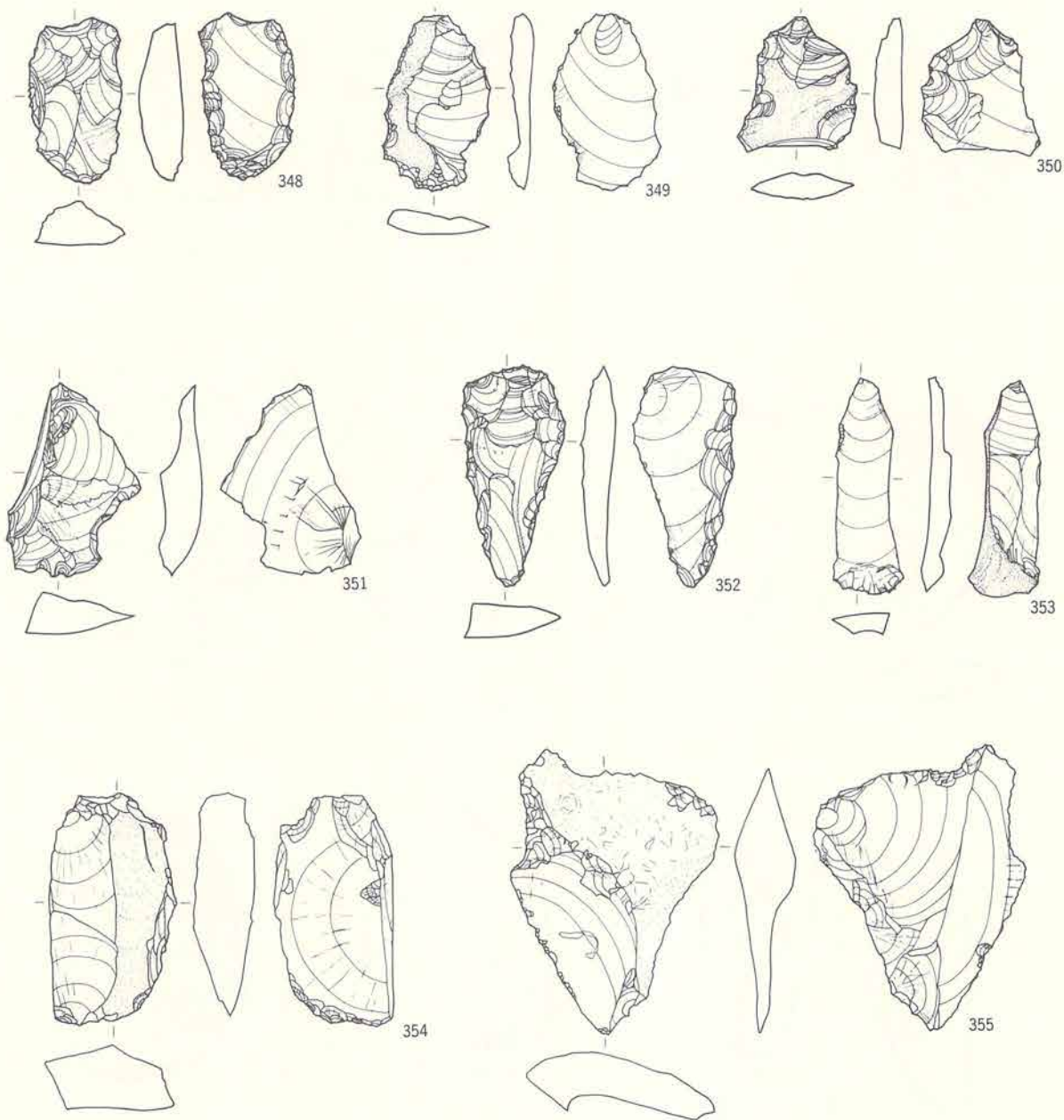
No	登録番号	遺構・地点・層位	器種	長さ	幅	厚さ	重量	石質	産地	生成年代	写真図版
335	36	VIB区 I層	不定形	6.9	3.1	0.7	15.0	珪質細粒灰岩	奥羽山地	新第3系中新統	368
336	44	VIB 2 i II層	不定形	7.0	2.6	1.1	15.9	珪質泥岩	奥羽山地	新第3系中新統	368
337	54	VIB 4 e II層	不定形	6.4	2.4	1.2	14.5	粘板岩(ホルンフェルス化)	北上山地, 夏油川	古生界	368
338	39	VIB 9 d I層	不定形	6.8	3.5	1.2	21.9	珪質泥岩	奥羽山地	新第3系中新統	368
339	21	VIB区 I層	不定形	6.1	3.6	1.0	16.1	珪質細粒凝灰岩	奥羽山地	新第3系中新統	369
340	23	VII A 2 i I層	不定形	8.2	8.1	1.7	122	珪質泥岩	奥羽山地	新第3系中新統	369
341	40	VII B 0 d II層	不定形	10.3	2.9	1.6	44.7	珪質泥岩	奥羽山地	新第3系中新統	369

第 165 図 遺構外出土遺物—29



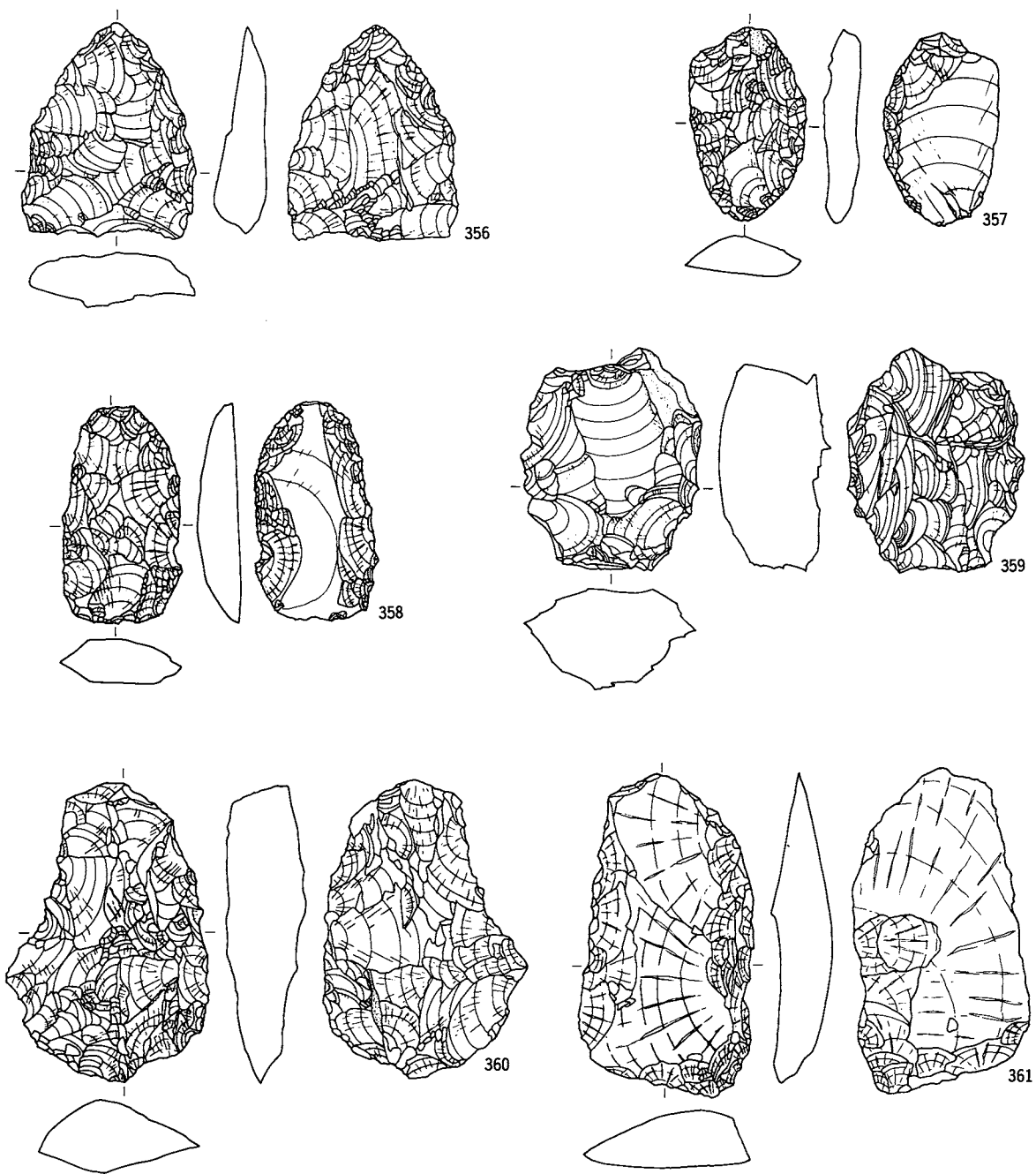
No	登録番号	遺構・地点・層位	器種	長さ	幅	厚さ	重量	石質	産地	生成年代	写真図版
342	49	VII B 区 I 層	不定形	5.4	5.1	1.0	22.3	珪質細粒凝灰岩	奥羽山地	新第 3 系中新統	369
343	33	VB 5 i II 層	不定形	5.1	6.3	1.3	46.4	珪質泥岩	奥羽山地	新第 3 系中新統	369
344	48	VIB 1 h I 層	不定形	6.8	3.5	2.1	42.7	硬質泥岩	奥羽山地	新第 3 系中新統	369
345	82	VIB 7 a II 層	不定形	9.4	5.3	1.3	60.0	珪質細粒凝灰岩	奥羽山地	新第 3 系中新統	369
346	I-7	III B 5 住埋土	不定形	8.4	3.0	1.0	19.2	珪質泥岩	奥羽山地	新第 3 系中新統	369
347	31	VIB 2 i I 層	不定形	8.1	5.7	1.8	98.0	珪質極細粒凝灰岩	奥羽山地	新第 3 系中新統	369

第 166 図 遺構外出土遺物—30



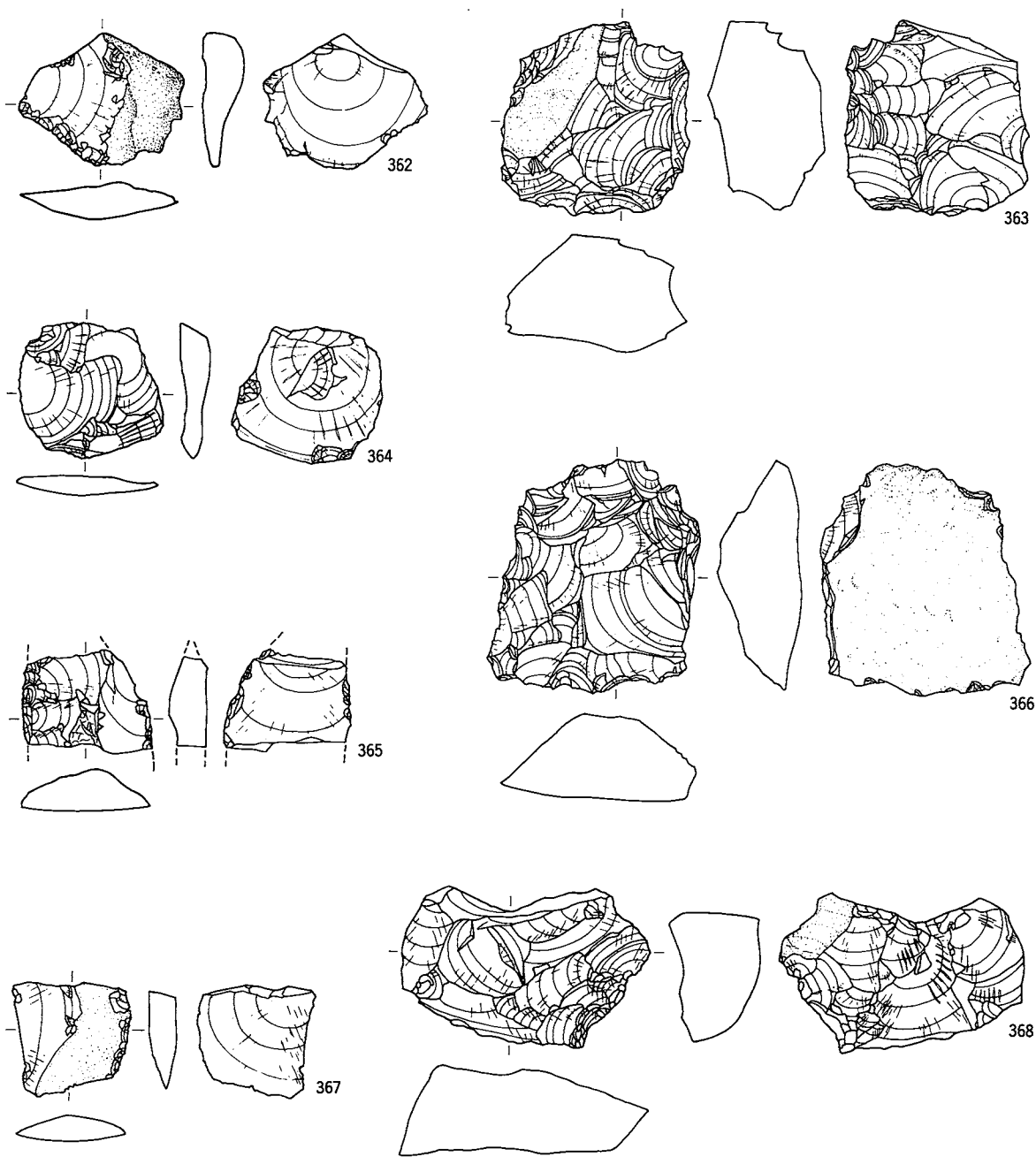
No	登録番号	遺構・地点・層位	器種	長さ	幅	厚さ	重量	石質	産地	生成年代	写真図版
348	32	VIB区 II層	不定形	4.9	2.8	1.3	17.2	珪質細粒凝灰岩	奥羽山地	新第3系中新統	370
349	1-6	III B 3 住埋土	不定形	5.2	3.2	0.7	10.5	珪質泥岩	奥羽山地	新第3系中新統	370
350	25	VIB 3 f I層	不定形	4.0	3.6	0.8	12.7	珪質細粒凝灰岩	奥羽山地	新第3系中新統	370
351	46	VIB 3 c II層	不定形	5.8	4.0	1.2	18.3	珪質細粒凝灰岩	奥羽山地	新第3系中新統	370
352	34	VIB 1 h II層	不定形	6.6	3.1	1.0	19.6	硬質泥岩	奥羽山地	新第3系中新統	370
353	77	VIB 4 e II層	不定形	6.5	2.1	1.8	57.0	珪質細粒凝灰岩	奥羽山地	新第3系中新統	370
354	29	VIB区 I層	不定形	7.0	3.8	1.5	57.0	珪質極細粒凝灰岩	奥羽山地	新第3系中新統	370
355	1-23	VIB 31土坑埋土	不定形	8.4	6.2	1.8	56.5	珪質極細粒凝灰岩	奥羽山地	新第3系中新統	370

第 167 図 遺構外出土遺物—31



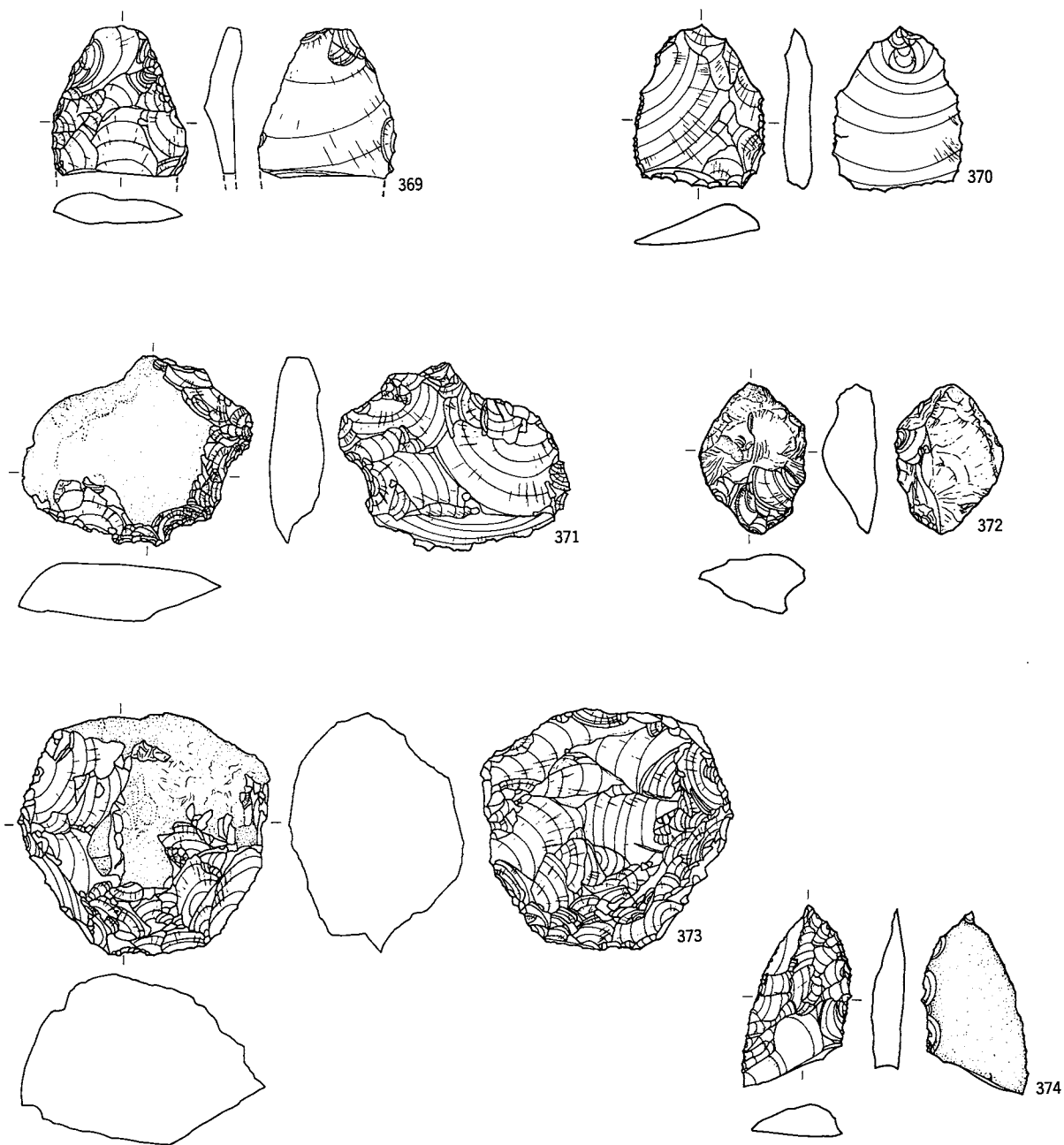
No.	登録番号	遺構・地点・層位	器種	長さ	幅	厚さ	重量	石質	産地	生成年代	写真図版
356	67	VII B区 I層	不定形	6.4	5.2	1.5	47.7	珪質細粒凝灰岩	奥羽山地	新第3系中新統	370
357	37	VII B区 I層	不定形	5.8	3.5	1.1	23.3	珪質極細粒凝灰岩	奥羽山地	新第3系中新統	370
358	35	VII B 9 h II層	不定形	6.5	3.6	1.3	33.2	珪質細粒凝灰岩	奥羽山地	新第3系中新統	370
359	84	VII B 0 e 表探	不定形(コア)	6.8	5.4	3.4	129	珪質細粒凝灰岩	奥羽山地	新第3系中新統	370
360	I 39	VIA 9 j II層	不定形	9.0	6.1	2.2	112	珪質泥岩	奥羽山地	新第3系中新統	370
361	57	VII B 7 a II層	不定形	9.5	5.1	1.7	90.5	珪質細粒凝灰岩	奥羽山地	新第3系中新統	370

第 168 図 遺構外出土遺物—32



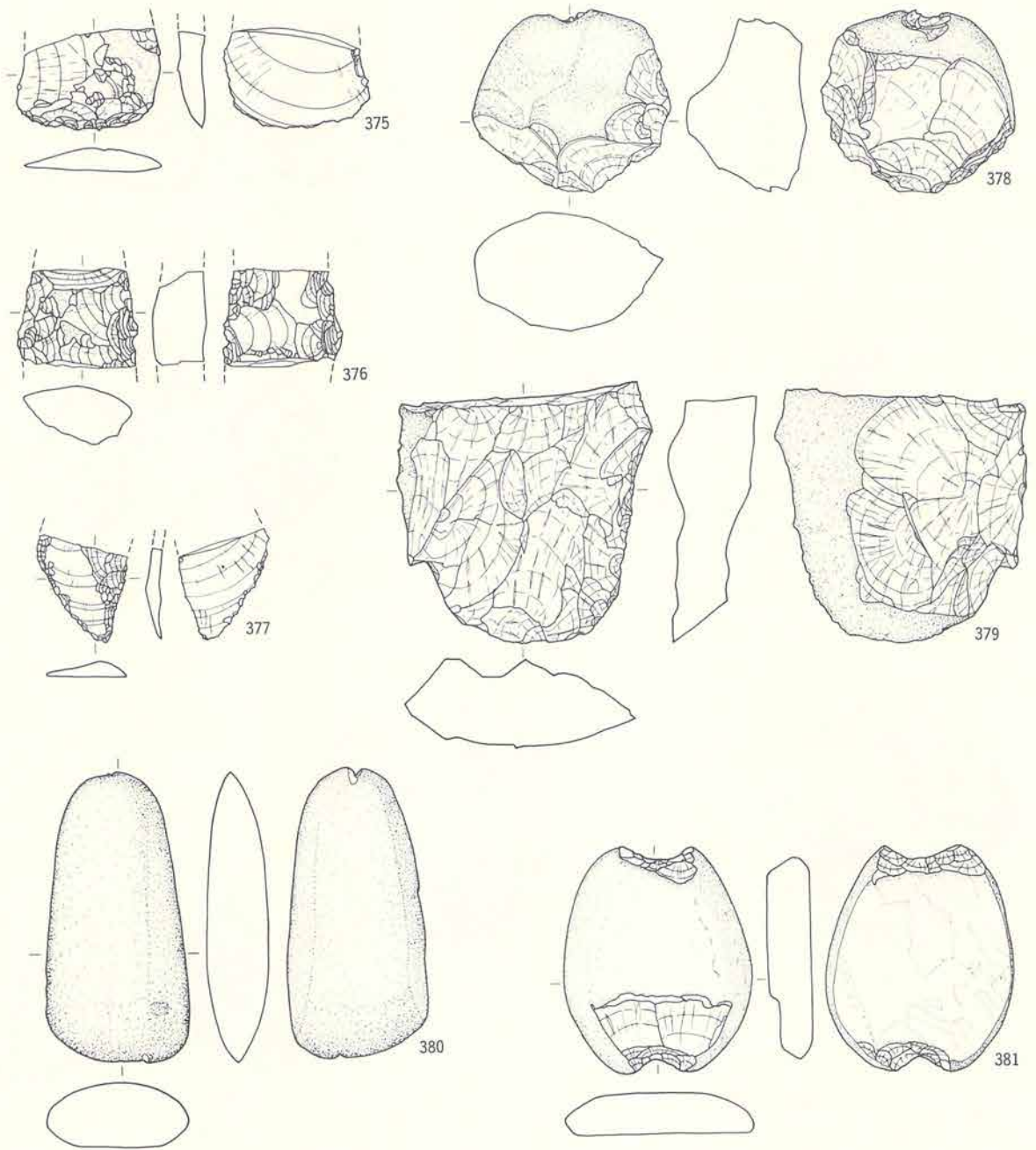
No.	登録番号	遺構・地点・層位	器種	長さ	幅	厚さ	重量	石質	産地	生成年代	写真図番
362	60	VIB区 I層	不定形	4.0	4.8	1.2	16.8	珪質泥岩	奥羽山地	新第3系中新統	371
363	19	VIB O a II層	不定形	4.1	4.3	0.9	14.4	珪質細粒凝灰岩	奥羽山地	新第3系中新統	371
364	38	VIB区 I層	不定形	3.1	3.9	1.2	15.0	珪質極細粒凝灰岩	奥羽山地	新第3系中新統	371
365	I-8	VB1住埋土	不定形	3.4	3.6	0.8	8.5	珪質細粒凝灰岩	奥羽山地	新第3系中新統	371
366	87	VIB 8 d II層	不定形(コア)	5.8	5.7	3.4	131	珪質細粒凝灰岩	奥羽山地	新第3系中新統	371
367	53	VIB 9 e II層	不定形	7.0	6.4	2.5	110	珪質細粒凝灰岩	奥羽山地	新第3系中新統	371
368	I-38	VIB24土坑埋土	不定形(コア)	4.8	7.5	2.7	106	珪質泥岩	奥羽山地	新第3系中新統	371

第169図 遺構外出土遺物—33



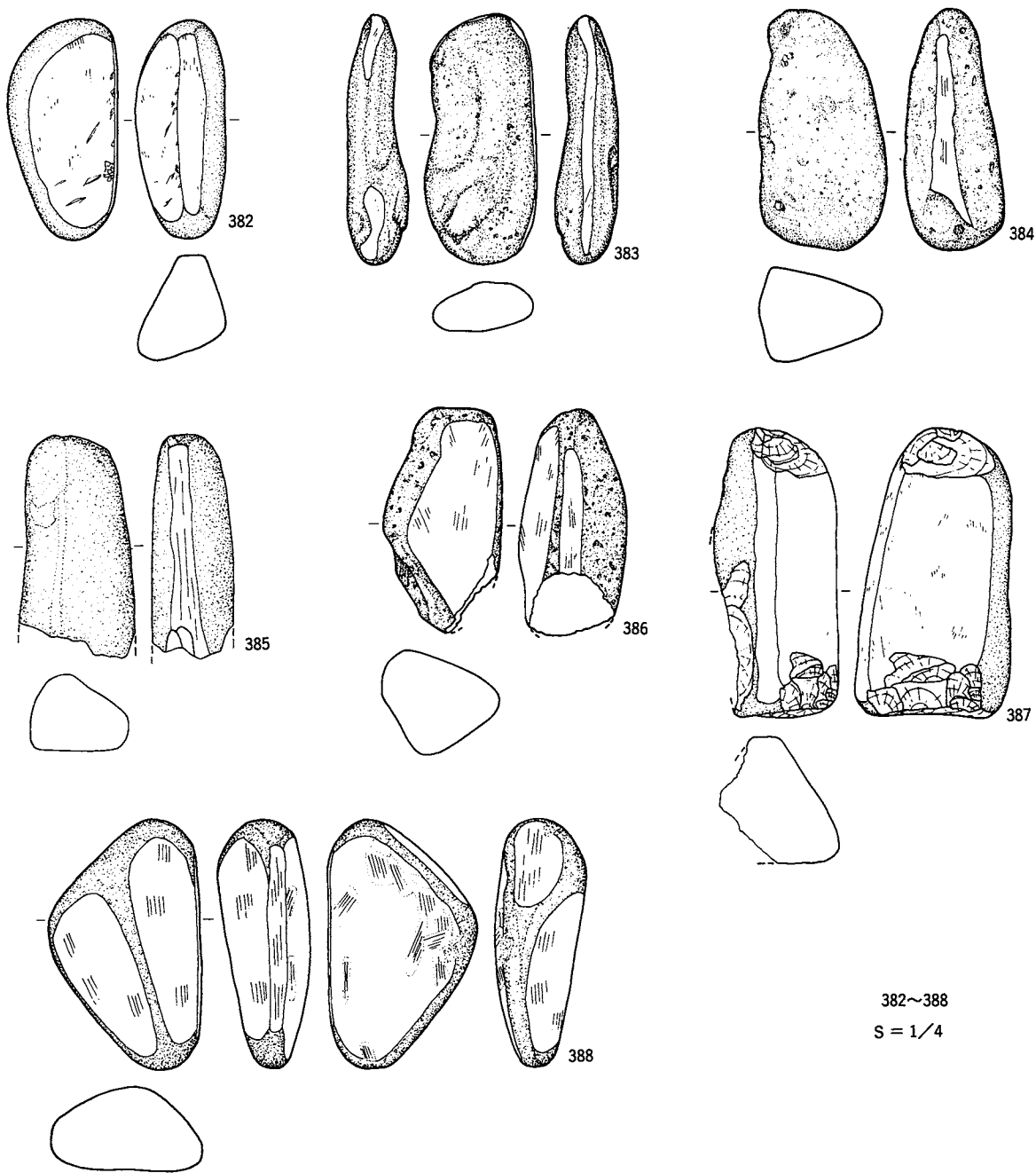
No.	登録番号	遺構・地点・層位	器種	長さ	幅	厚さ	重量	石質	産地	生成年代	写真図番
369	42	VII B 2 e II層	不定形	4.5	4.1	0.9	16.1	珪質細粒凝灰岩	奥羽山地	新第3系中新統	371
370	I-3	II B 3 住埋土	不定形	4.9	3.9	1.0	18.9	珪質細粒凝灰岩	奥羽山地	新第3系中新統	371
371	79	VII B 9 e II層	不定形	5.7	6.9	1.7	24.0	珪質極細粒凝灰岩	奥羽山地	新第3系中新統	371
372	59	VII B 区 I層	不定形	4.5	3.2	1.7	24.0	輝綠凝灰岩	北上山地	古生界	371
373	85	VII B 区 I層	不定形(コア)	7.3	7.6	5.2	318	珪質細粒凝灰岩	奥羽山地	新第3系中新統	371
374	105	VII B 9 h II層	不定形	5.5	3.3	1.0	14.3	珪質細粒凝灰岩	奥羽山地	新第3系中新統	371

第170図 遺構外出土遺物—34



No.	登録番号	遺構・地点・層位	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	石 質	産 地	生成年代	写真図版
375	I-22	VIB 28土坑埋土	不定形	3.0	4.3	0.8	12.8	珪質細粒凝灰岩	奥羽山地	新第3系中新統	371
376	56	VIB区 I層	不定形	2.9	3.6	1.6	21.2	珪質細粒凝灰岩	奥羽山地	新第3系中新統	372
377	109	VIB 5 g II層	不定形	3.4	2.7	2.7	3.3	硬質泥岩	奥羽山地	新第3系中新統	372
378	86	VIB 0 e表採	不定形(コア)	5.5	6.0	3.7	134	極軟(ホルンフェルス他)	北上山地, 夏油川	古生界	372
379	74	VIB 7 a II層	不定形	7.6	7.7	2.7	160	珪質細粒凝灰岩	奥羽山地	新第3系中新統	372
380	~18	VIB 1 e I層	石斧	8.9	4.3	1.9	109	淡緑色細粒凝灰岩	奥羽山地	新第3系中新統	372
381	17	III B区 I層	石錘	6.9	5.7	1.2	68.4	白色細粒凝灰岩	奥羽山地	新第3系中新統	372

第171図 遺構外出土遺物—35

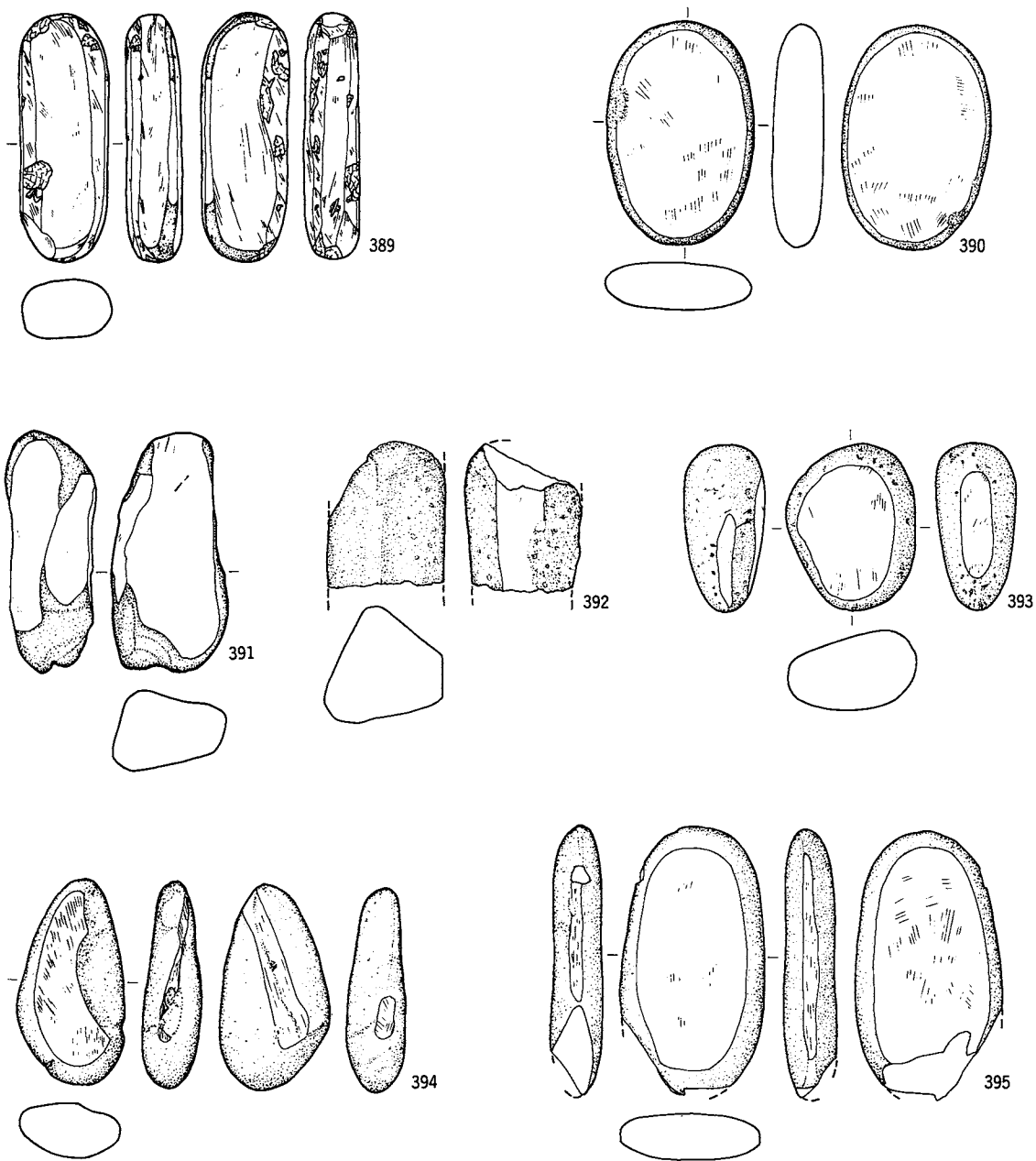


382~388

S = 1/4

No	登録番号	遺構・地点・層位	器種	長さ	幅	厚さ	重量	石質	産地	生成年代	図版
382	I-45	VIB 2 溝跡埋土	すり石	13.1	6.7	6.3	600	淡緑色凝灰岩	奥羽山地	新第3系中新統	372
383	95	VII B 区 II 層	すり石	14.7	6.8	3.6		輝石安山岩	奥羽山地	新第3系鮮新統	372
384	89	VIB 9 B II 層	すり石	14.4	7.7	5.4		輝石安山岩	奥羽山地	新第3系鮮新統	372
385	50	VII B 1 e I 層	すり石	6.7	3.5	2.3	75.0	淡緑色細粒凝灰岩	奥羽山地	新第3系中新統	372
386	88	VIB 9 b II 層	すり石	13.0	8.0	6.5		輝石安山岩	奥羽山地	新第3系鮮新統	372
387	I-46	VIB 3 カマ埋土	すり石	17.5	9.3	7.5	1290	輝石安山岩	奥羽山地	新第3系鮮新統	373
388	92	VIA 2 e 表採	すり石	15.0	9.1	5.0	780	輝石安山岩	奥羽山地	新第3系鮮新統	373

第172図 遺構外出土遺物—36



No.	登録番号	遺構・地点・層位	器種	長さ	幅	厚さ	重量	石質	産地	生成年代	写真図番
389	93	VII B 3 d 表探	すり石	14.3	5.1	3.3	405	淡緑色細粒凝灰岩	奥羽山地	新第3系中新統	373
390	101	VII B O e 1 層	砥石	13.0	8.6	2.8	440	淡緑色凝灰岩	奥羽山地	新第3系中新統	373
391	97	V B 7 e 表探	砥石	13.9	6.7	4.7	600	淡緑色凝灰岩	奥羽山地	新第3系中新統	373
392	94	VII B O e 1 層	すり石	8.6	6.7	6.7	495	淡緑色細粒凝灰岩	奥羽山地	新第3系中新統	373
393	I-17	VII B 7 土坑埋土	すり石	9.7	7.6	4.7	445	淡緑色凝灰岩	奥羽山地	新第3系中新統	373
394	96	III A 8 j 1 層	すり石	13.4	6.3	3.2	295	淡緑色細粒凝灰岩	奥羽山地	新第3系中新統	373
395	I-16	VII B 6 土坑埋土	すり石	15.6	8.3	2.6	424	淡緑色凝灰岩	奥羽山地	新第3系中新統	373

第173図 遺構外出土遺物—37

VI まとめ

(1) 縄文・弥生時代

上鬼柳Ⅱ・Ⅲ両遺跡で検出した縄文・弥生時代に属する遺構は竪穴住居跡3棟、土坑32基、陥し穴状遺構4基である。遺構はすべて洪積世中位段丘である村崎野段丘に相当する上位面から検出されている。

①竪穴住居跡

縄文時代中期から後期にかけての竪穴住居跡2棟、弥生時代の竪穴住居跡1棟である。いずれも後世の削平あるいは斜面にあるための流出が著しく、残存状況が不良であるため、明確に規模や形状を把握できなかった。また、伴出遺物も粗製土器の破片のみである。調査範囲外の遺跡の南側に集落が存在するものと思われる。

②土坑

遺物の伴出するものは32基中9基である。このうち床面または床面直上出土に弥生時代の土器を伴うものが2基で、残り7基は埋土からの出土である。9基以外に遺物を伴う土坑はないが、形状・規模がほとんど一致していることから同時期の存在であると考えられる。

③陥し穴状遺構

平面形が楕円形を呈するもの1基、細長い溝状を呈するもの2基、一端が調査区外へと続くため全容は不明であるが溝状と思われるもの1基である。いずれも遺構に伴う遺物は出土していないため、時期は不明である。

④遺物

縄文時代中期から弥生時代後期にかけての遺物は調査区の上位面全域から、出土する地点はそれぞれにある程度のまとまりをもちながら、全時期にわたってまんべんなく出土しており、当該期間にわたって両遺跡が生活の場として用いられたことを示している。

(2) 平安時代

上鬼柳Ⅱ・Ⅲ両遺跡で検出した平安時代に属する遺構は、竪穴住居跡22棟、工房跡1棟、掘立柱建物跡12棟、窯跡3基、土坑14基である。竪穴住居跡、掘立柱建物跡、窯跡、工房跡、遺物を中心に、項目ごとに分け、補足を加えてまとめとする。

①竪穴住居跡

<分布>上鬼柳Ⅱ遺跡の1棟、上鬼柳Ⅲ遺跡の下位面西北端を中心とした1群(11棟)、下位面の東端を中心とした2棟、上位面の東端を中心とした1群(8棟)の4群に分けられる。

〈重複〉22棟中7棟が重複する。重複する住居跡はすべて下位面西北端のものであり、10棟中の7棟である。しかし、出土した土器から推定して、重複する新旧の住居跡に長い時間差は認められない。

〈形状と規模〉平面形は正方形基調のものが6棟、長方形基調のものが8棟、台形基調のものが4棟、不明が3棟である。規模は最大のものが6.6m×6.6m、最小のものが1.8m×1.4mであるが、大きく5～4m台のものとは3m～2m台のもの2群に分かれる。前者は下位面に、後者は上位面に多い。

〈壁〉削平や斜面の流出があり、82cm～7cmの範囲にある。全般的に上位面の住居跡のほうが壁高が高い傾向が認められる。

〈埋土〉埋土中の火山灰の層的位置は上位にあるものと、下位にあるもの、検出されなかったものの3つに分けられる。火山灰の蛍光X線分析の結果によると、この火山灰は915年に降下した十和田a火山灰と推定される。上位に火山灰を含む住居跡は火山灰の降下時にはすでに埋没していたものである。

〈柱穴と土坑〉柱穴配置の明確な住居跡は少ない。また、対応する柱穴が検出できなかったものもある。

〈カマド〉22棟中12棟で検出された。

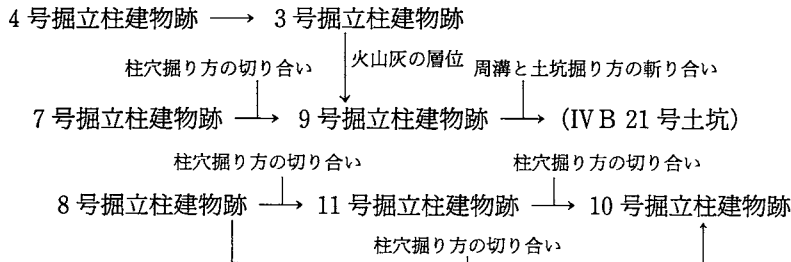
〈遺物〉平安時代に属する遺物として土師器、須恵器、ふいごの羽口、鉄滓、鉄製品、陶器などが出土している。土器では土師器が圧倒的多数(600点以上)を占めている。土師器を器種別にみると、甕形、壺形、鉢形、鍋形、坏形、高台付き坏形、高台付き皿形などが出土している。特に坏形土器、甕形土器が多数出土している。出土した土器のほとんどが『岩手の土器』の編年平安時代Ⅲ-2群からⅣ群(高橋信雄, 1982)の土器群に類似するもので、9世紀末から10世紀台の範疇におさまるものと推定される。

〈小結〉以上、上鬼柳Ⅱ・Ⅲ遺跡で検出された21棟の竪穴住居跡について、項目ごとにその特徴を述べた。調査区域内での検出された竪穴住居跡のまとまりを見ると、大きく下位面西北端を中心とした1群(11棟)、下位面の東端に位置する2棟、上位面の東端を中心とした1群の3つに分けられる。下位面西北端の住居跡群は単時期であるが、比較的長期間にわたって存続した集落を構成していたものと考えられる。下位面の東端に位置する2棟は残存状況が不良であることもあり、詳細は不明であるが、すぐ南に調査区外が続くことから、調査区外に住居跡の存在が予想される。当該の2棟を含めた集落の一部を形成していたものであろう。上位面の東端を中心とした1群は下位面の西北端の1群と比較して規模が小さな傾向がみられる。この差異は占地および時間差に由来するものと思われる。

②掘立柱建物跡

a. 掘立柱建物跡の新旧関係

検出した掘立柱建物跡 12 棟のうち、重複していないものが 2 棟、重複しているもの 10 棟であり、後者は 4 棟が重複している北東の建物群と、6 棟が重複している北西の建物群に分けられる。これらの掘立柱建物跡の重複関係は、建物は重複しているが、掘り方は重複していない場合と、柱穴掘り方が重複している場合とに分けられる。柱穴掘り方が重複している場合には新旧関係が明らかになる。また、重複していない北東の掘立柱建物跡群と北西の掘立柱建物跡群の埋土中の火山灰層の層位的な位置を比較すると、北東の建物群のうち、3、4号掘立柱建物跡は周溝埋土の上位に火山灰が堆積するのに対し、北西の建物群のうち9号掘立柱建物跡は周溝埋土の中位から下位、底面にかけて堆積しており、新旧関係を明らかにする資料となろう。これから推測される本遺跡の掘立柱建物跡群の新旧関係を以下の模式図に示す。



柱穴掘り方の重複、火山灰の層位的な位置からみた掘立柱建物跡間の相対的な新旧関係は以上に示したとおりである。次に問題になるのは、直接に重複していない4号掘立柱建物跡、7号掘立柱建物跡、8号掘立柱建物跡の3棟と、9号掘立柱建物跡、11号掘立柱建物跡の2棟がそれぞれ同時に存在したものであるかどうか、という点である。遺構番号順に7号掘立柱建物跡から11号掘立柱建物跡までの北西の建物群5棟はいずれも桁行3間×梁行2間の東西棟である。その規模も8.35m～7.10m×6.37m～4.70mと非常によく似ている。また、7号掘立柱建物跡と8号掘立柱建物跡の距離(7号の南列と8号の北列)と9号掘立柱建物跡と11号掘立柱建物跡のそれ(9号の南列と11号の北列)はほぼ1間分に相当することがわかる。一方、北東の建物群のうち、3号掘立柱建物跡と4号掘立柱建物跡は桁行6.8m(3間)×梁行4.94m(2間)の東西棟であり、北西の掘立柱建物跡の規模の分布範囲内におさまる。さらに、溝、土坑を伴う3、4号掘立柱建物跡、7号掘立柱建物跡9号掘立柱建物跡の3棟を比較してみると、3、4号掘立柱建物跡の柱穴掘り方から周溝までの距離と7号掘立柱建物跡のそれはほぼ等しいうえに、桁線がほぼ東西に一直線に並ぶことがわかる。7号掘立柱建物跡から北にほぼ1間

分ずれる9号掘立柱建物跡も柱穴掘り方と周溝までの距離は異なるものの、ほぼ同様の南側を除く3方向に溝をとまなうという配置を示す。最後に柱穴掘り方の規模・埋土の形状をみると、3号掘立柱建物跡、7号掘立柱建物跡、8号掘立柱建物跡の3棟は、柱穴掘り方の平面形が方形または隅丸方形で、規模は111 cm×103 cm～94 cm×83 cm、深さ89 cm×53 cmと他の掘立柱建物跡のそれと比較して大型である。9号掘立柱建物跡、11号掘立柱建物跡の2棟は、柱穴掘り方の平面形が円形または楕円形で、規模は径70 cm前後、深さ73 cm～26 cmと中型である。11号掘立柱建物跡とほぼ全域で重複し、これよりも新しい10号掘立柱建物跡も柱穴掘り方の規模、形状はこれと近似している(平面形は円形、規模は径60 cm～50 cm前後、深さ66 cm～23 cm)。なお、1号掘立柱建物跡と2号掘立柱建物跡は他の遺構との重複関係はないが、検出面が他の遺構よりも高い面であることから、これらよりも新しいものと考えられる。

以上、掘立柱建物跡群の重複関係と各建物間の配置関係、柱穴の規模・埋土の特徴から、本遺跡の掘立柱建物跡群には以下の5時期の変遷を把握することが可能であろう。

〔I期〕 3、4号掘立柱建物跡、7号掘立柱建物跡、8号掘立柱建物跡

〔II期〕 9号掘立柱建物跡、11号掘立柱建物跡

〔III期〕 10号掘立柱建物跡

〔IV期〕 12号掘立柱建物跡

〔V期〕 1号掘立柱建物跡、2号掘立柱建物跡

b. 掘立柱建物跡群の年代と性格

掘立柱建物跡の絶対的な年代に関する資料は、出土遺物および周溝に堆積した火山灰である。後述するように、9号掘立柱建物跡に伴う周溝から出土している土師器および須恵器坏形土器のほとんどすべてがロクロ使用によるものであり、底面切り離しが回転糸切りによるものであること、また、火山灰の蛍光X線分析の結果によると、この火山灰は915年に降下した十和田a火山灰と推定されること、などから9号掘立柱建物跡の時期は10世紀のはじめと推定できる。他の掘立柱建物跡についても、出土遺物が9号掘立柱建物跡から出土しているものとはほぼ同様であることから、長い時間差はないものと考えられる。

9号掘立柱建物跡にともなう周溝からは多数の遺物が出土しているが、そのなかには「寿」字の墨書を伴うものや穿孔された土師器坏形土器2点が含まれている。また、10号掘立柱建物跡に隣接するVIB 33号土坑からは二彩陶器の長頸瓶瓶の口縁部破片が、遺構外の扱いとなるがVIB区の北西の掘立柱建物跡群の検出面からは「佛」字の刻書された土師器坏形土器が出土している。後述するように、穿孔土器や二彩陶器が宗教的な意味合いを持ち、「寿」字や「佛」字を伴う土器が出土していること、「寺」字の墨書を伴う土師器坏形土器がVIIA 4号土坑から出土していることを考え併せると、当該の時代にその存在を示す史料がないために断言すること

はできないが、この掘立柱建物跡群が何らかの宗教的な性格を持ったものであり、中央機構と結び付いた権力者と関連のある遺構である可能性は高いと思われる。

③窯跡

上位面中央部に検出された窯跡は、3基とも平面形は円形で、地山を径160cm～230cm、深さ20cm～30cmに掘り込んだ浅いくぼみ状を呈する。掘立柱建物跡群と重複する上位面の中央で検出された。これら窯跡は掘立柱建物跡の検出面よりも上の層で検出されており、1号窯跡と2号窯跡で焼成された土師器高台付坏形土器と土師器高台付皿形土器の破片が掘立柱建物跡の上の層に出土していること、9号掘立柱建物跡に伴う周溝の埋土からは出土していないことから掘立柱建物跡群よりも新しい遺構であると推定される。

なお、粘土塊の出土しているVB2号土坑は、粘土塊の胎土分析の結果、窯跡から出土している土師器高台付き坏形土器および土師器高台付き皿形土器のそれと同成分であることから、窯跡と同時期の遺構であり、土器の原料であった可能性が高い。

④平安時代の出土遺物

上鬼柳II・III両遺跡から出土した遺物は、土師器、須恵器、ふいごの羽口、鉄滓、鉄製品、陶器などである。土器では土師器が圧倒的多数(600点以上)を占めている。土師器を器種別にみると、甕形、壺形、鉢形、鍋形、坏形、高台付き坏形、高台付き皿形土器などが出土している。ここでは特に多数出土している土師器甕形土器と坏形土器を中心に分類するとともに、窯跡から多数出土している土師器高台付き坏形土器、土師器高台付き皿形土器について触れ、最後に墨書・刻書土器、鉄器・鉄製品、施釉陶器について述べる。

(i)土師器の分類

上鬼柳II・III両遺跡から出土した土師器は、ほとんどがロクロ成形によるものである。このため、分類は大きく器面調整、器形によるものを第一とし(I～II, A, B)、第二に口縁形態(a～b)、によることにした。

①甕形土器

甕形土器の中で、非ロクロ成形によるものをI類、ロクロ成形によるものをII類とした。さらに、最大径の所在によって最大径が口縁部にあるか、口縁部と胴部の径がほとんどかわらないものをA類、最大径が胴部にあるものをB類とした。また、口縁部の形態によって、断面が角形で口唇部が上方あるいは下方に僅かに引き出されるものをa類、口縁部の断面が楕円形で胴部から滑らかに外傾し内側に続くものをb類とし、両者の中間に位置する形式をc類とした。

②鉢形土器

鉢形土器の中で、非ロクロ成形によるものをⅠ類、ロクロ成形によるものをⅡ類とした。さらに、最大径の所在によって最大径が口縁部にあるものをA類、口縁部と胴部の径がほとんどかわらないか、最大径が胴部にあるものをB類とした。さらに、口縁部の形態によって、底部から口縁部までが直線的な輪郭を持つものをa類、底部から口縁部までが緩やかな曲線的な輪郭を持ち、口縁部が僅かに外反するものをb類、口縁部の断面が楕円形で胴部から滑らかに外傾し内側に続くものをc類とした。

③坏形土器

出土した坏形土器はすべてロクロ成形、底部切り離しは回転糸切りによるものである。器面調整を施しているものをⅠ類、器面調整を施していないものをⅡ類とした。Ⅰ類のうち、内面をミガキ後、黒色処理が施されているものをⅠA類、内外面をミガキ後、両面に黒色処理が施されているものをⅠB類、黒色処理以外の器面調整の加えられているものをⅠC類とした。また、器形によって、口縁部がほとんど外反せず、底部から口縁部までが直線的な輪郭を持つものをa類、底部から口縁部までが緩やかな曲線的な輪郭を持ち、口縁部が僅かに外反するものをb類、底部から口縁部までが緩やかなS字形を呈し、体部中央から口縁部までが大きく外反するものをc類とした。

④高台付坏形土器

出土した高台付坏形土器はすべてロクロ成形、底部切り離しは回転糸切りによるものである。器面調整を施しているものをⅠ類、器面調整を施していないものをⅡ類とした。Ⅰ類のうち、内面をミガキ後、黒色処理が施されているものをⅠA類、内外面をミガキ後、両面に黒色処理が施されているものをⅠB類とした。また、高台部の形態によって、リング状高台を伴うものをa類、坏形土器を返した形状を伴うものをb類とした。

⑤高台付皿形土器

出土した高台付皿形土器はすべてロクロ成形、底部切り離しは回転糸切りによるものである。器面調整を施しているものはない。高台部の形態により細分される。ベタ高台を伴うものをa類、リング状高台を伴うものをb類、坏形土器を返した形状を伴うものをc類とした。

(ii) 窯跡出土の高台付坏形土器、高台付皿形土器について

今回の調査で検出した窯跡から出土した土師器高台付き坏形土器の中には、製作の過程のうかがえるものが見うけられる。

それぞれの遺構からは当該の遺構で焼成されたと思われる土師器が多数出土しているが、1号窯跡、2号窯跡から出土する土器の特徴として、(1)使用痕跡がみあらず、(2)多数の同じ器

種が出土しており、(3)亀裂を持つか、本体と高台部が剝離している、などの点があげられる。また、特に2号窯跡出土の土器に顕著であるが、(4)器形的に皿と坏の区別がつけにくい中間的な形態をしめすものがあり、(5)高台部の形態も当初から高台を意識して作成されたものと、坏を転用して高台としたと思われるものがある。(1)～(3)は1号窯跡、2号窯跡が土器の焼成を目的としたものであったが、これに失敗し、廃棄されたものであることを示唆している。また、(4)、(5)は、土器の製作過程では比較的恣意的に器形や大きさが決定されていたことを示すものと思われる。

次に各窯跡で焼成されたと思われる高台付皿形土器について検討してみる。1号窯跡から出土している高台付皿形土器は、皿部の直径が13.0 cm～12.0 cmで、上下面とも僅かな段をとともなうが、口唇部に引き出しはみられない。台部は上径4.5 cm～5.5 cm、下径5.8 cm～6.7 cm、高さ1.2 cm～1.3 cmの断面形が台形のリング状であるが、台部の下面に沈線をとともないものはみられない。2号窯跡から出土している高台付皿形土器は、皿部の直径が15.7 cm～12.0 cmで、上下面とも明瞭な段をとともない、口唇部には引き出しを持つ。一部には下面の口唇部にも引き出しをとともないものもあるが、大部分は口唇部上面にのみ引き出しをとともなう。皿部内面中央には凹みをとともない。高台部は上径4.6 cm～7.2 cm、下径4.7 cm～7.5 cm、高さ0.6 cm～2.1 cmの断面形が台形のリング状で、台部の下辺には沈線を持つ。2号窯跡から出土しているもののほとんどがひび割れるか、皿部と高台部が剝離している。剝離面を観察すると、ログロ成形の後、皿部と高台部を接着したものと推定される。接合部には内外面とも粘土を充填した後、なでつけている。剝離した高台部のいくつかには、接合面に皿部から転写された糸切り痕と円形の溝を伴うものがある。転写された円形の溝は接合の際、接着を容易にするため皿部に刻まれたものであろう。焼成の際、粘土の叩き締めが不十分な結果、剝離したものと思われる。

(iii) 墨書・刻書・穿孔を伴う土器

今回の調査によって出土した土器のなかには、墨書・刻書・穿孔を伴うものがある。

墨書土器—墨書を伴うものは土師器12点、須恵器1点である。字種は「寿」1点、「寺」1点、不明9点である。「寿」字の墨書を伴う土師器坏形土器は9号掘立柱建物跡に伴う周溝から、「寺」字の墨書を伴う土師器坏形土器はVII A 4号土坑から、字種不明の墨書を伴う土師器坏形土器はII B 3号住居跡から2点(62、63)、V B 1号工房跡から1点(283)、9号掘立柱建物跡に伴う周溝から5点(341、342、347、376、377)、須恵器坏形土器(200)はVIB区の北西の掘立柱建物跡群の検出面から出土している。2点を除き、大部分が上位面から検出されており、掘立柱建物跡群と近接する地点から出土している。

刻書土器—「佛」字の刻書された土師器坏形土器はVIB区の北西の掘立柱建物跡群の検出面から出土している。「佛」字の刻書された土師器坏形土器は北上市相去遺跡でも出土しているが、これと比較すると字体はやや稚拙である。

穿孔土器—底面に穿孔のある土師器坏形土器は9号掘立柱建物跡にともなう周溝から2点(370、385)が出土している。類例がないため詳細は不明であるが、何らかの呪術的な意味合いを持ったものであろう。

「寿」、「寺」、「佛」といった吉祥、宗教に関連した文字を伴う墨書土器・刻書土器と、宗教的な意味を持つと思われる穿孔土器の出土は、識字階級存在と仏教の浸透および当時の信仰のあり方を表すものであるとともに、これらの土器の大部分を出土する掘立柱建物跡群の性格を示唆するものと思われる。

(iv) 鉄器・鉄製品・鉄滓

馬具、釘、刀子、鋸などが出土している。

馬具(34)はIIB2号住居跡から出土している。県内で平安時代の馬具の轡金具・鉸具を出土しているのは6遺跡であるが、本遺跡で出土している駒金と輪鏡板を出土している遺跡はない。刀子(117)はIIIA1号住居跡から出土している。鋸(232、233)はVII B1号住居跡と5号掘立柱建物跡から計2点出土している。釘(146、322、515～521)はIIIB2号住居跡から1点(146)、5号掘立柱建物跡から1点(322)、2号窯跡(515～521)は計9点出土している。2号窯跡から出土している515～521は土器焼成と関連する遺構に付属する遺物であるかどうかは不明である。今後の資料の蓄積を待ちたい。

(v) 施釉陶器

今回の調査で二彩陶器2点、緑釉陶器3点、灰釉陶器2点が出土している。

二彩陶器(奈良二彩)は10号掘立柱建物跡に隣接するVIB33号土坑から1点出土している。二彩陶器としては日本でもっとも北の出土であり、県内では初の出土例となる。名古屋学院大学教授の檜崎彰一氏の御教示によれば、1は長頸瓶の口縁部で、8世紀後半のものとのことである。二彩陶器・三彩陶器などの多彩釉陶器は7世紀後半、緑釉瓦磚の焼造をもって始まり、やがて奈良時代に彩釉陶器がつくられるようになる。しかし、平安時代になると彩釉陶器はつくられなくなり、もっぱら緑釉単彩のものに限られるようになる。また、彩釉陶器は、当該の時代に、官宮窯で作られ、畿内の寺院を中心に出土するが、祭祀用具に使われた例が多いとされる。しかし、本遺跡では当該の時代に対応する遺構は検出されおらず、共存する土器も9世紀末から10世紀代に属するものであることから、伝世品の可能性が強い。

緑釉陶器はIIB2号住居から1点(58)、VII B11号土坑から1点(611)、VIB区の遺構外から

1点(249)の計3点が出土している。愛知県陶磁資料館学芸課主任学芸員の浅田員由氏の御教示によれば、58は猿投窯(鳴海)産で9世紀前半から半ばのもの、611は緑釉陶器で猿投窯(鳴海)産の輪花椀で花卉は5つで、9世紀前半から半ばのもの、249は猿投窯(鳴海)産で9世紀前半から半ばのものとのことである。いずれも内外面とも非常に細やかなヘラミガキが施されており、胎土は緻密で、釉調は若草色である。

灰釉陶器は2号掘立柱建物跡から1点(308)、VII B 5号住居から1点(281)の計2点出土している。浅田員由氏の御教示によれば、308は猿投窯(鳴海)産で10世紀半ばのもので、釉薬を刷毛塗りしており、281も猿投窯(鳴海)産で10世紀半ばのもので、三日月高台で内外面を刷毛塗りしている。灰釉陶器は奈良・平安時代に猿投窯を中心として東海地方においてつくられた、植物灰を原料とした高火度焼成の施釉陶器である。二彩陶器と同様に、緑釉陶器、灰釉陶器も日常什器として用いられたとは考えられず、遺構の性格もふくめた以後の比較資料の増加をまって、今後の検討課題としたい。

写 真 图 版



遺跡遠景(東から)



調査風景



基本土層

写真図版 1 上鬼柳 II 遺跡遠景ほか



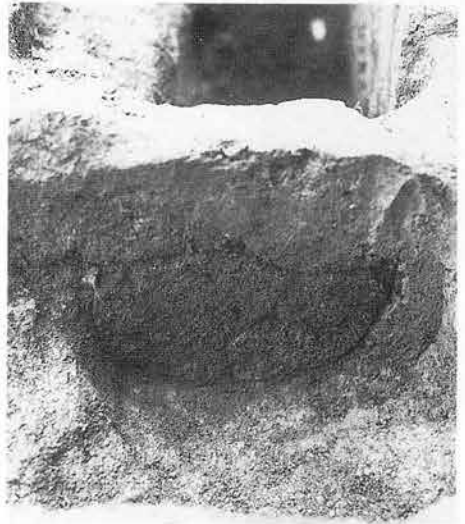
1号住居跡全景



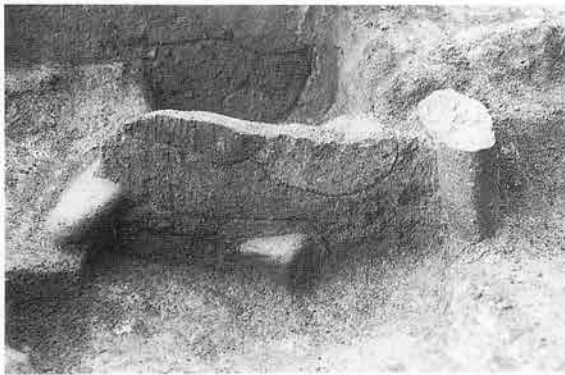
カマド断面1



断面



カマド断面2



カマド断面3



カマド断面4

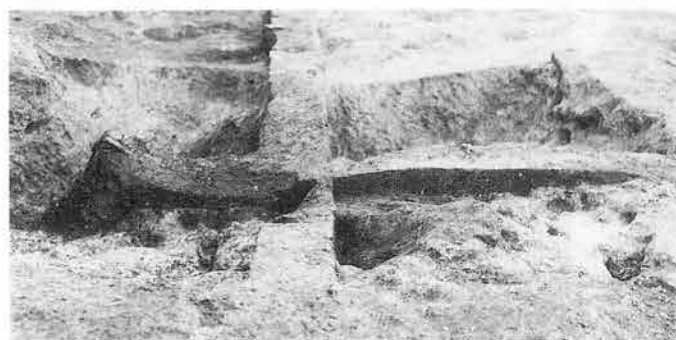
写真図版2 1号住居跡



2号住居跡 全景



断面



断面



炉 断面

写真図版3 2号住居跡



1号烧土遺構平面



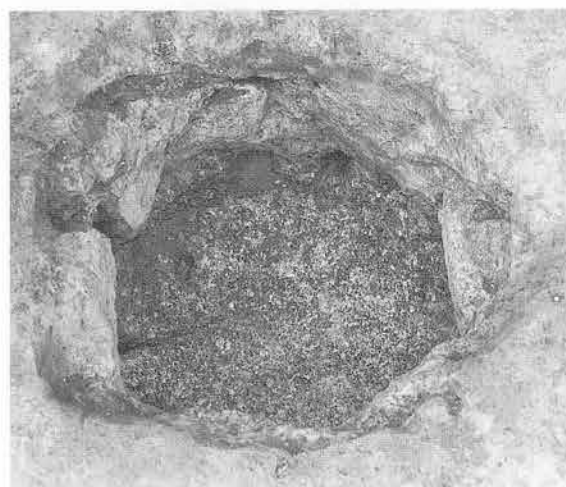
断面



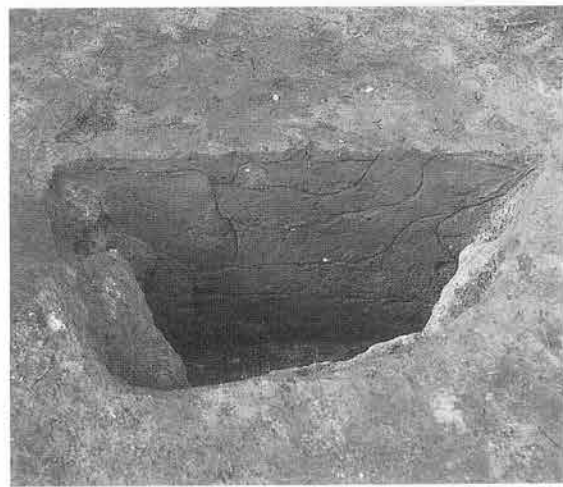
2号烧土遺構平面



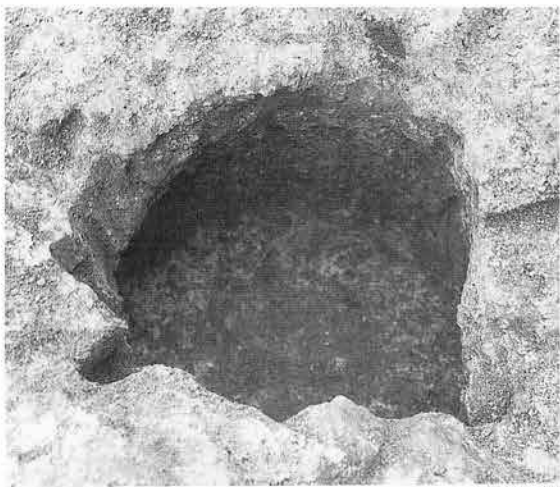
断面



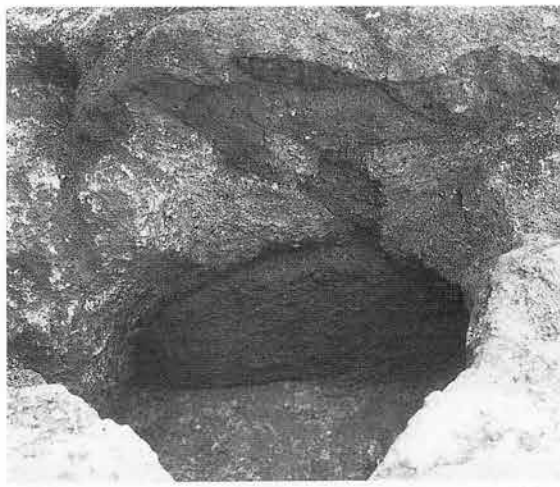
1号土坑全景



断面



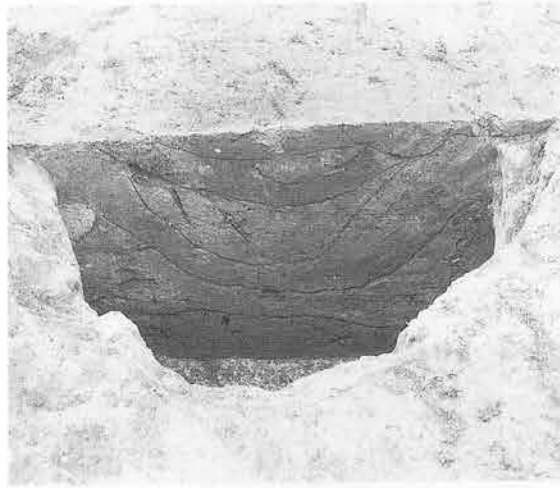
2号土坑全景



断面



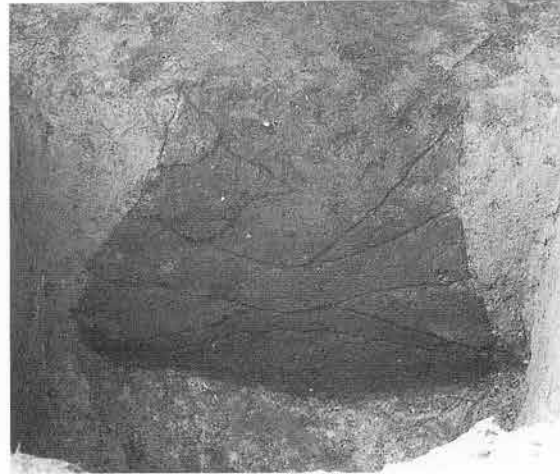
3号土坑全景



断面



4号土坑全景
写真图版 5

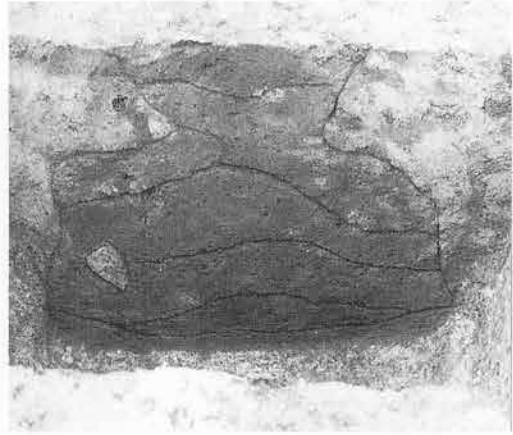


断面

2·3·4号土坑



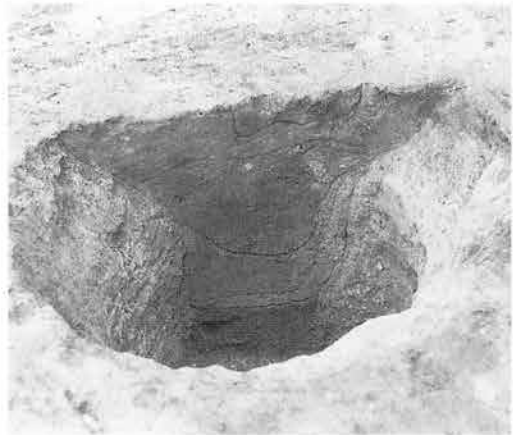
5号土坑全景



断面



2号陥し穴状遺構全景



断面



1号陥し穴状遺構全景



断面

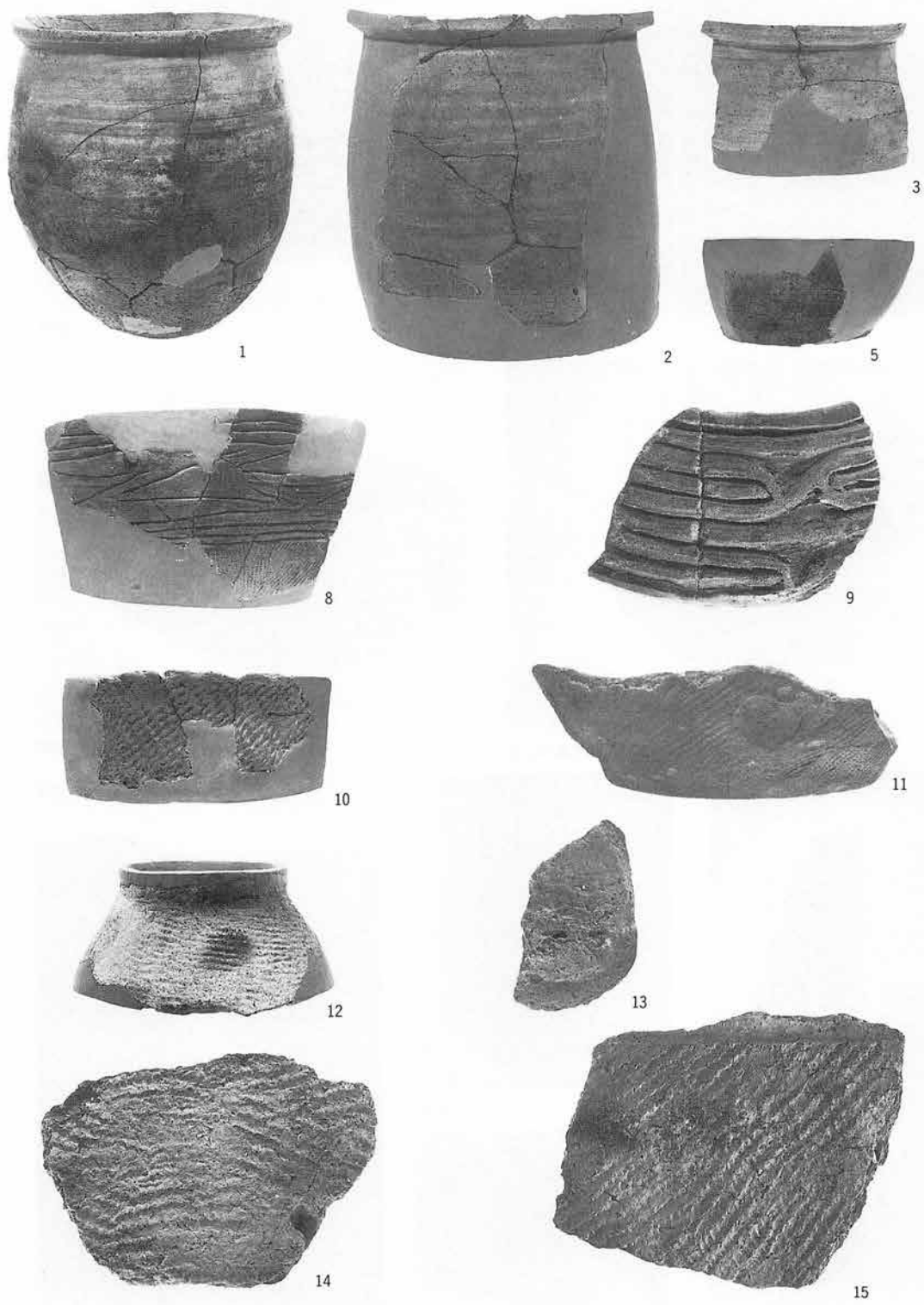


断面

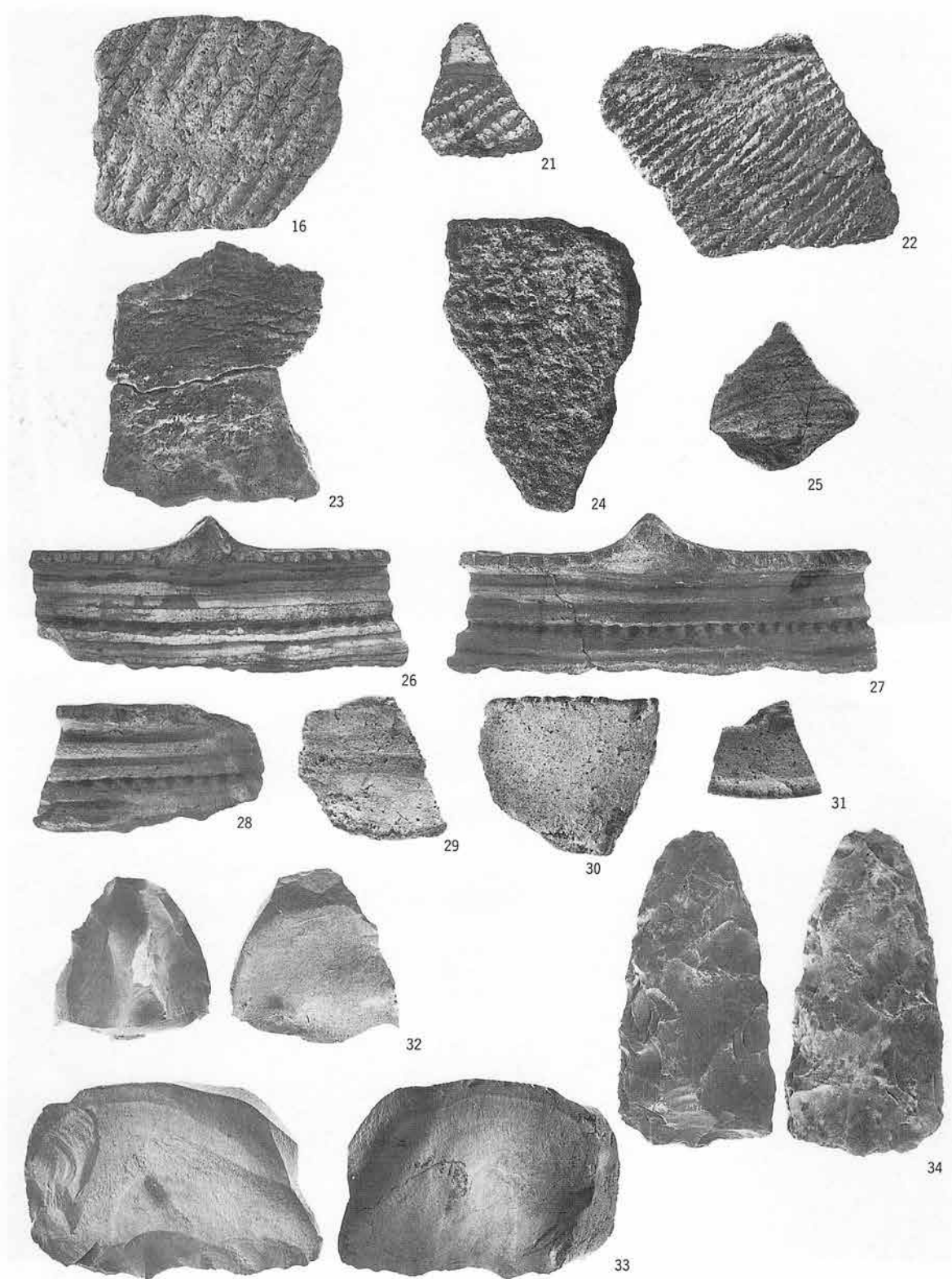


1号溝跡全景

写真図版 6 5号土坑、1・2号陥し穴状遺構、1号溝跡



写真図版 7 出土遺物—1



写真図版 8 出土遺物—2



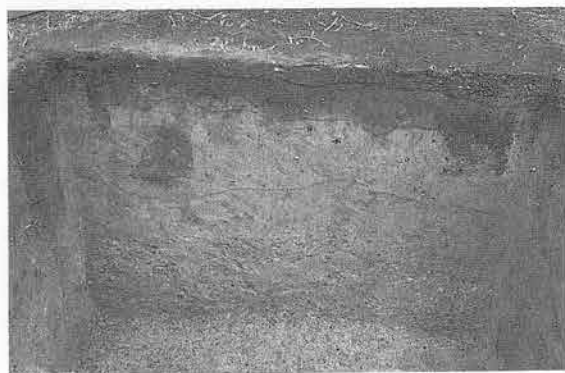
遺跡全景



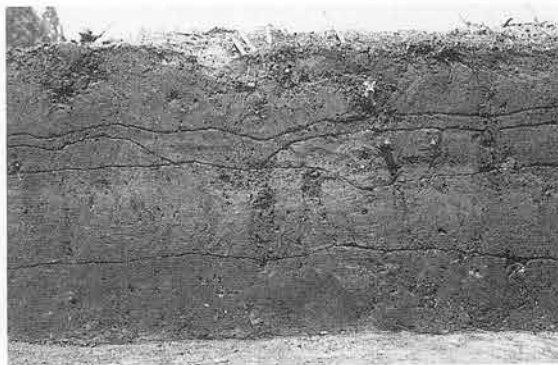
遺跡遠景(西から)



遺跡上位面全景



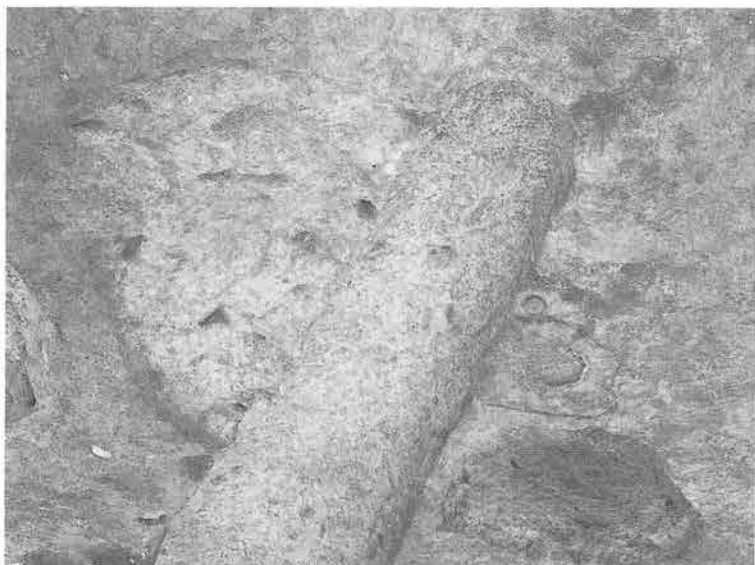
基本土層(上位面)



基本土層(下位面)



調査風景



VI B 3 号住居跡全景



炉(検出状況)



埋設土器(東から)



断面



埋設土器(北から)



VII A 2 号住居跡全景



炉(検出状況)



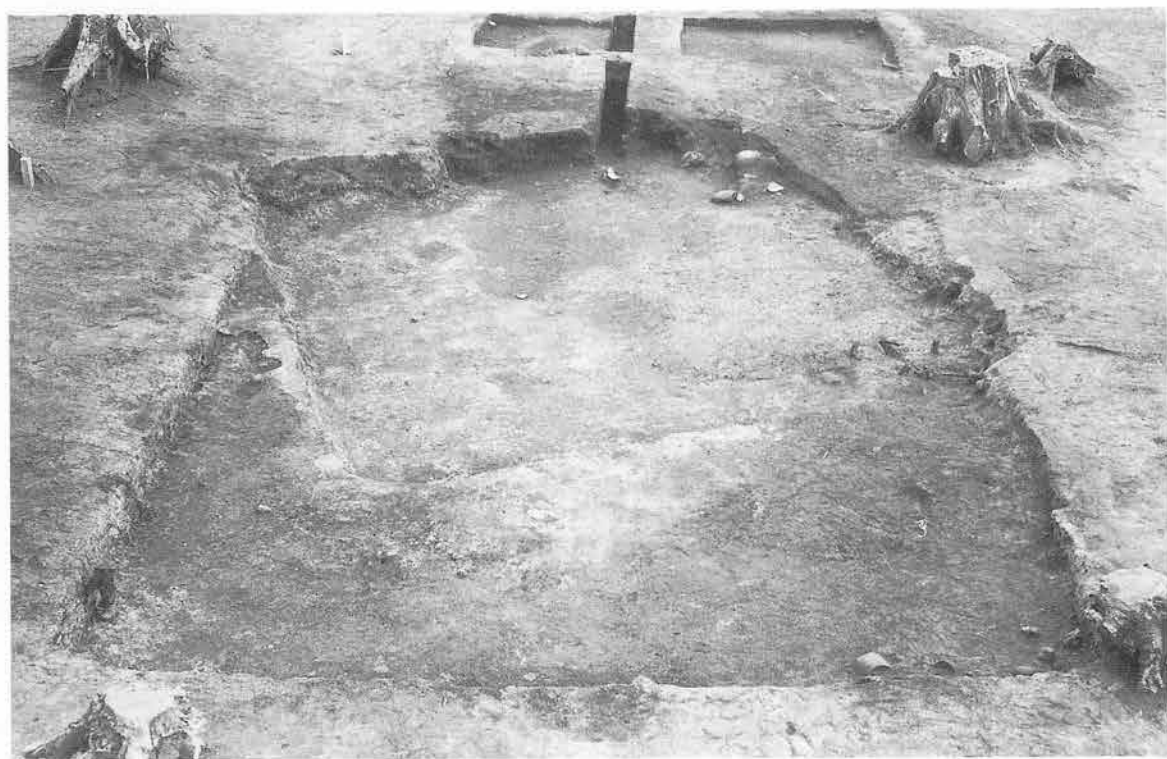
炉断面 1



断面



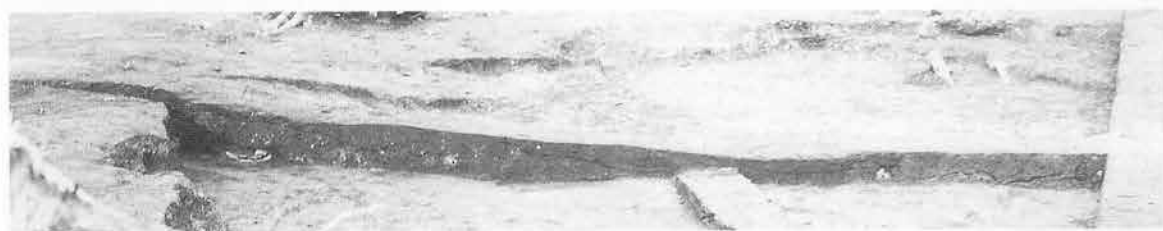
炉断面 2



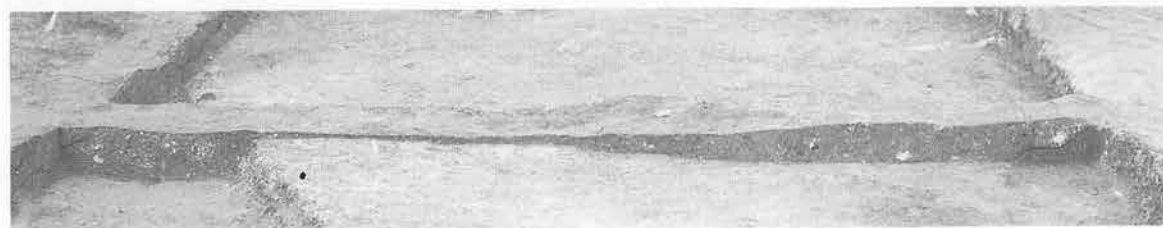
II B1·2号住居跡全景



断面1



断面2



断面3



II B 1号住居跡カマド断面1



II B 2号住居跡カマド断面1



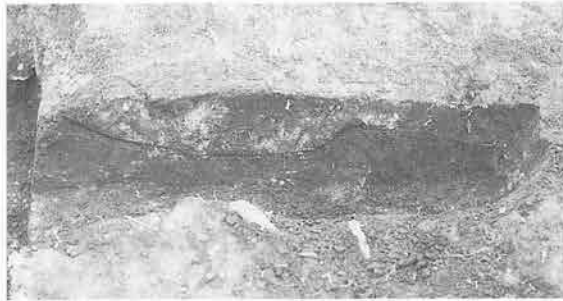
II B 1号住居跡カマド断面2



II B 2号住居跡カマド断面2



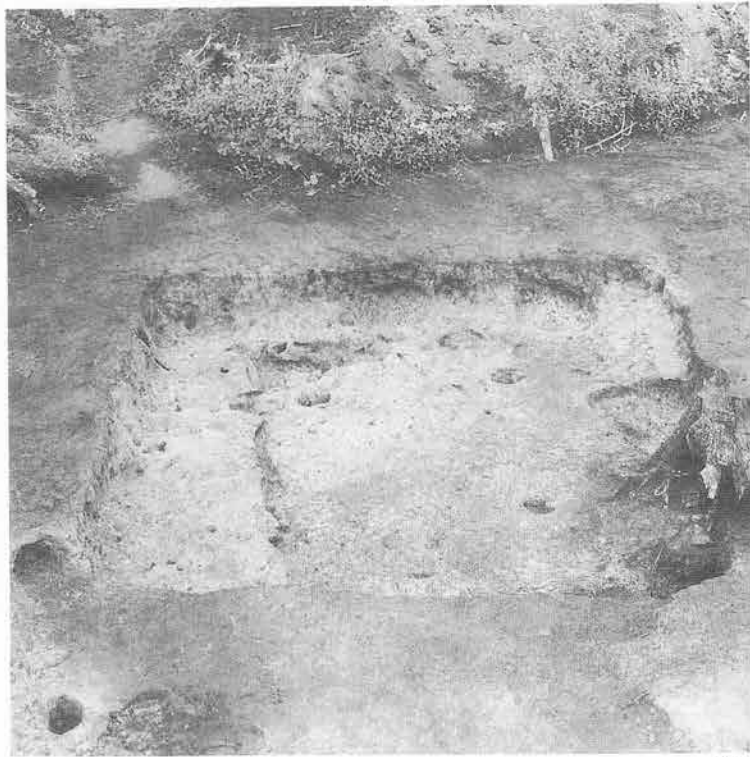
II B 1号住居跡カマド断面3



II B 2号住居跡カマド断面3



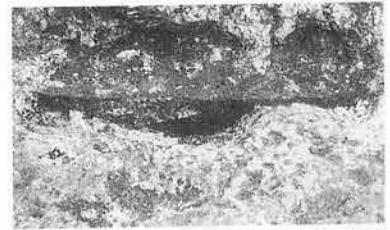
遺物出土状況



全景



土坑 1 全景



土坑 1 断面



土坑 2 全景



土坑 3 全景



土坑 3 断面



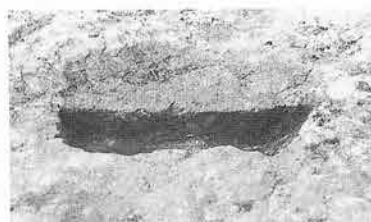
断面 1



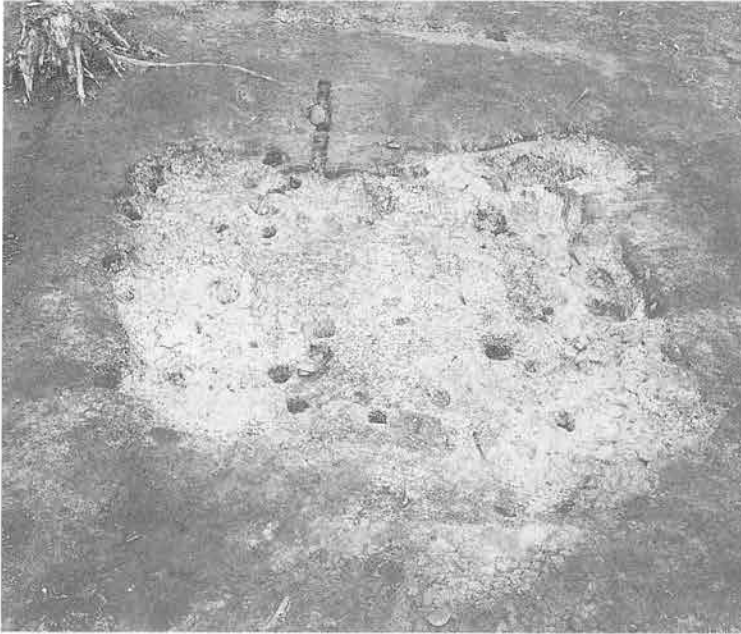
断面 2



カマド検出状況



焼土断面



全景



カマド検出状況



カマド断面1



断面1



断面2



カマド断面2



カマド断面3



カマド断面4



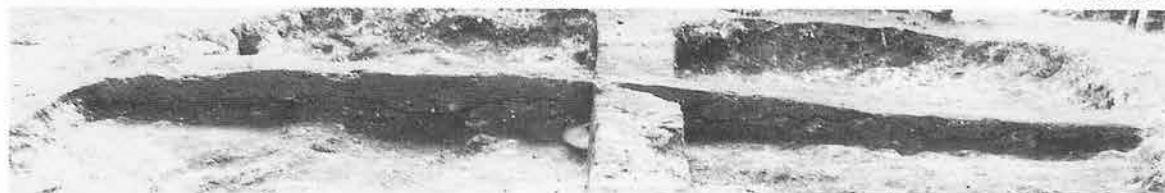
カマド断面5



全景(1次)



全景(2次)



断面1



断面2



烧土新面1



烧土断面2



烧土断面3



烧土平面



III B 2 号住居跡全景



2 住焼土断面



3 住カマド (検出)



3 住カマド (完堀)



III B 3 号住居跡全景



3 住カマド断面 1



3 住断面 1



3 住カマド断面 2



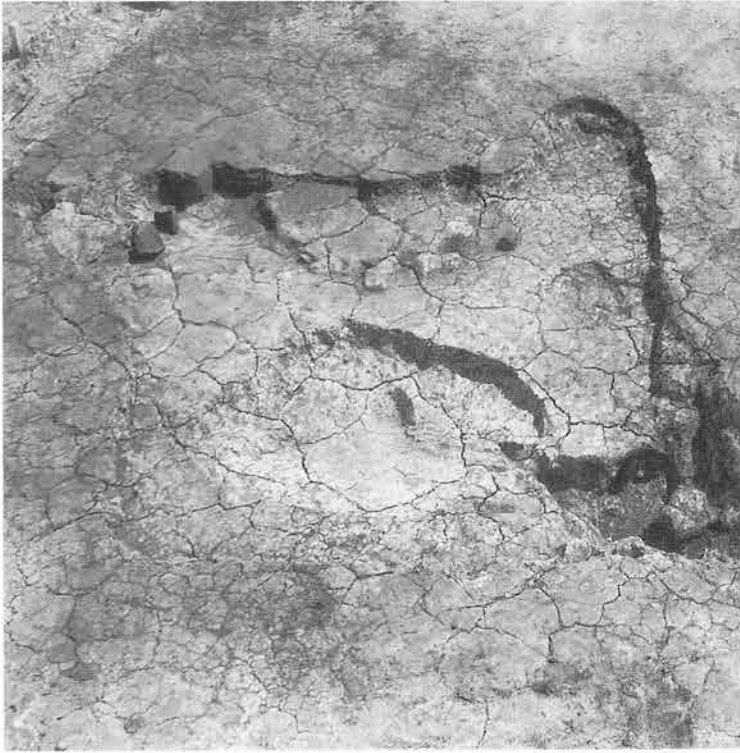
3 住カマド断面 3



3 住カマド断面 4



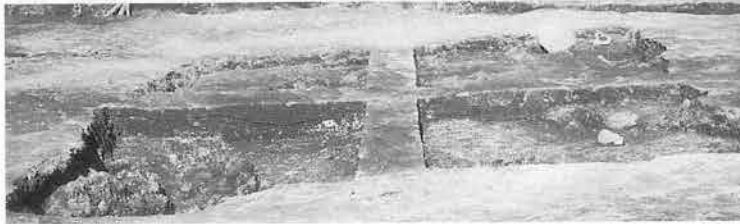
3 住カマド断面 5



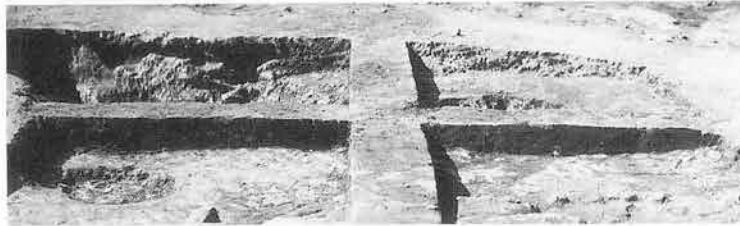
III B 4号住居跡全景



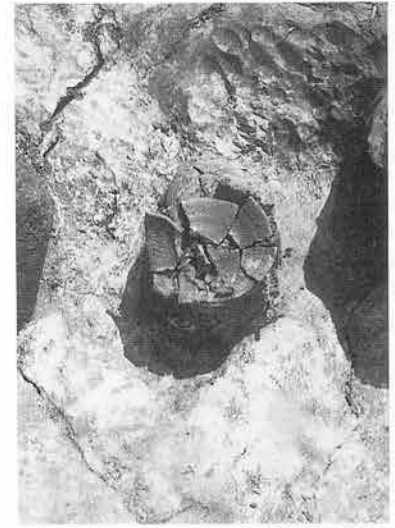
カマド(完掘)



断面1



断面2



カマド遺物出土状況



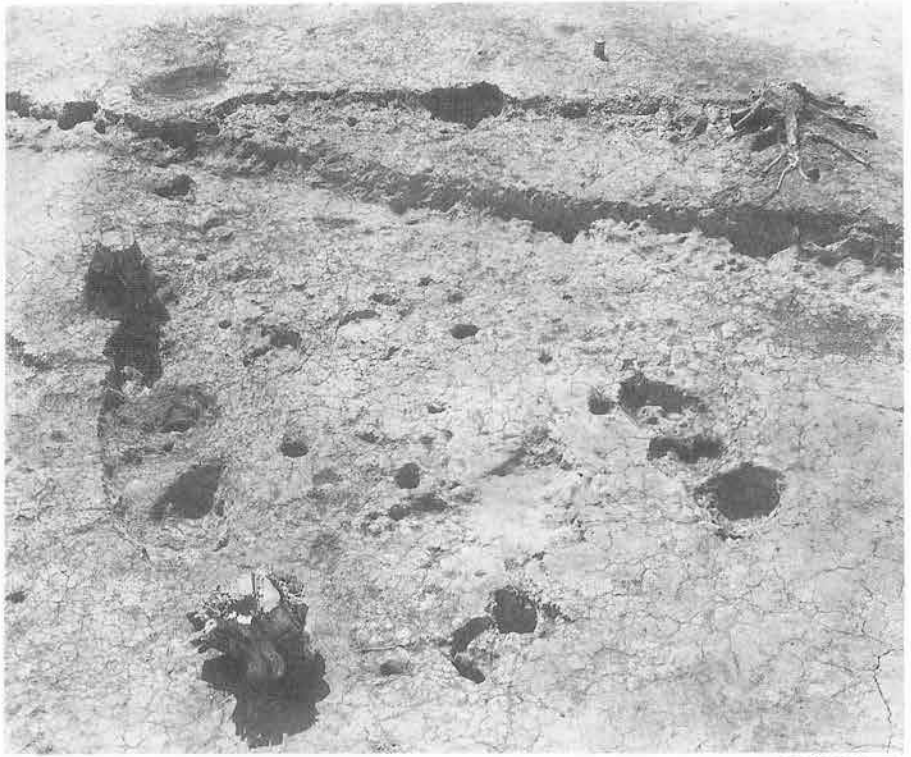
カマド断面1



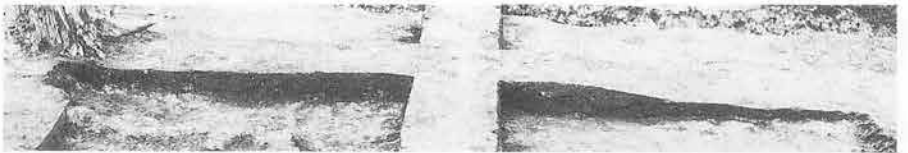
カマド断面2



断面 1



III B 5 号住居跡全景



断面 2



カマド (完堀)



焼土断面



カマド断面 1



焼土断面



カマド断面 2



カマド断面 3



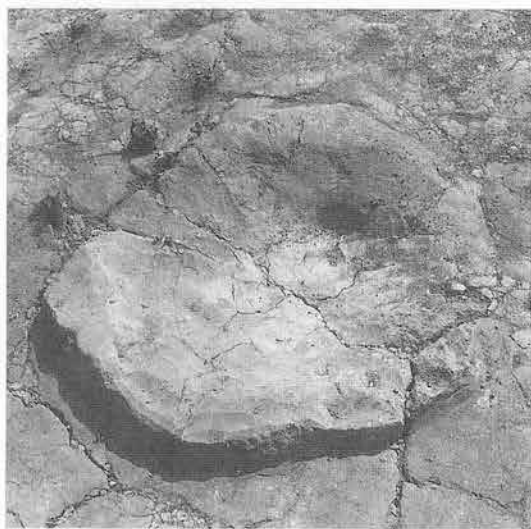
断面 1



III B 6 号住居跡全景



断面 2



烧土平面



土坑 1 断面



烧土断面 1



烧土断面 2



III B 7 号住居跡全景



断面 1



断面 2



烧土断面



V A 1号住居跡全景



1住断面2



1住断面1



V A 2号住居跡 カマド(検出)



2住カマド断面1



2住カマド断面2



2住カマド断面3



2住カマド断面4



VI B 1号住居跡全景



1断面1



1断面2



焼土1断面



焼土2断面



VI B 2号住居跡全景



2住カマド断面1



カマド断面2



カマド断面3



2住断面



カマド断面4



VII A 1号住居跡全景



断面 1



断面 2



カマド断面 1



カマド(検出)



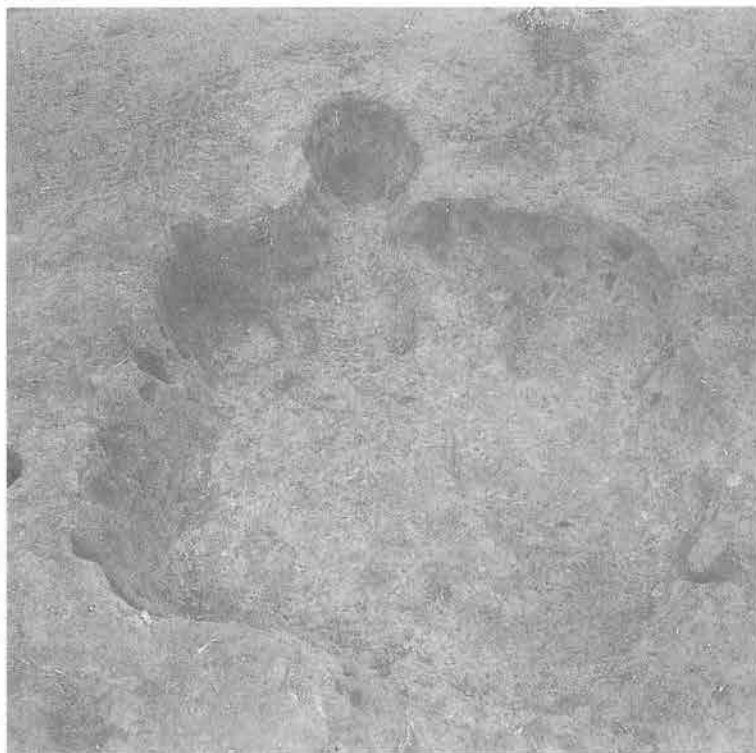
カマド断面 2



カマド断面 3



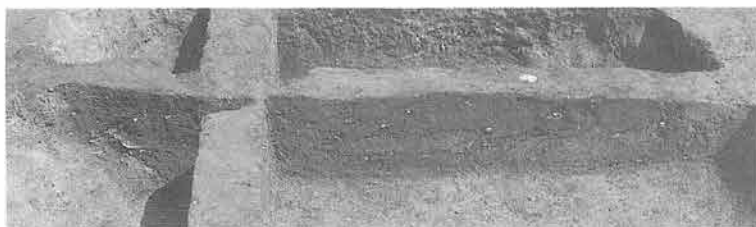
カマド断面 4



VII B 1号住居跡全景



カマド(検出)



断面 1



断面 2



カマド断面 3



カマド断面 3



カマド全景



カマド断面 1



カマド断面 2



カマド断面 4



VII B 2 号住居跡全景



断面



カマド(検出)



カマド断面 1



カマド断面 2



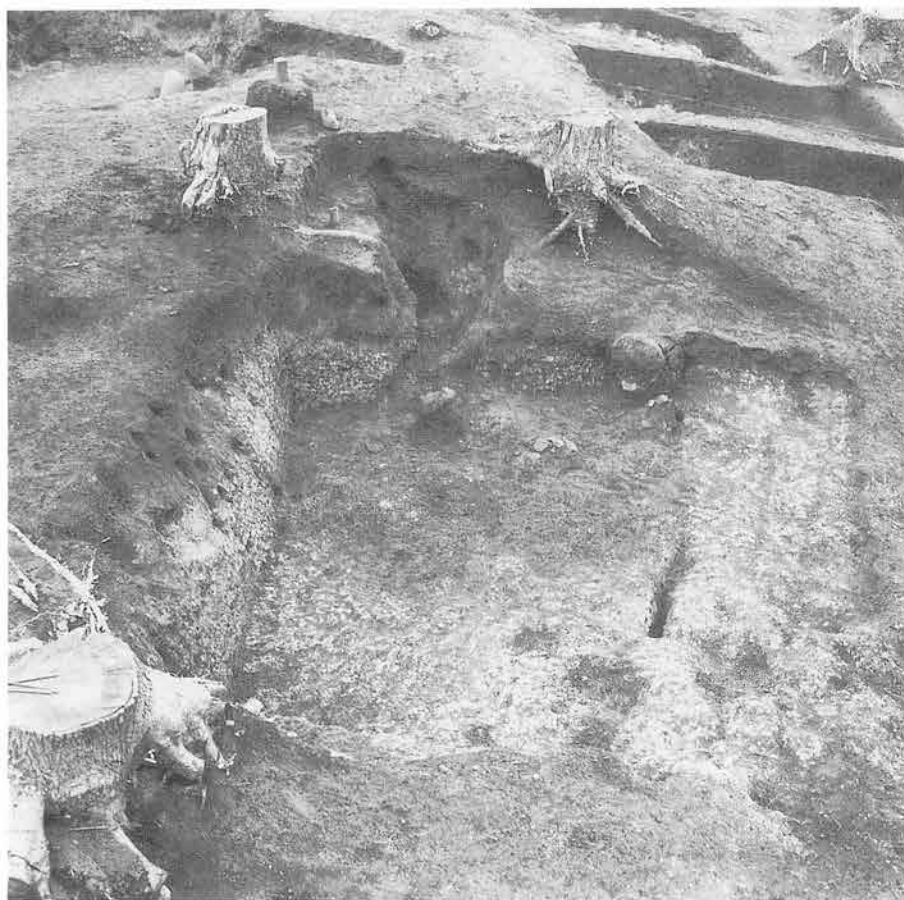
カマド断面 3



カマド断面 4



カマド断面 5



VII B 3 号住居跡全景



断面 1



断面 2



カマド完掘



カマド断面 1



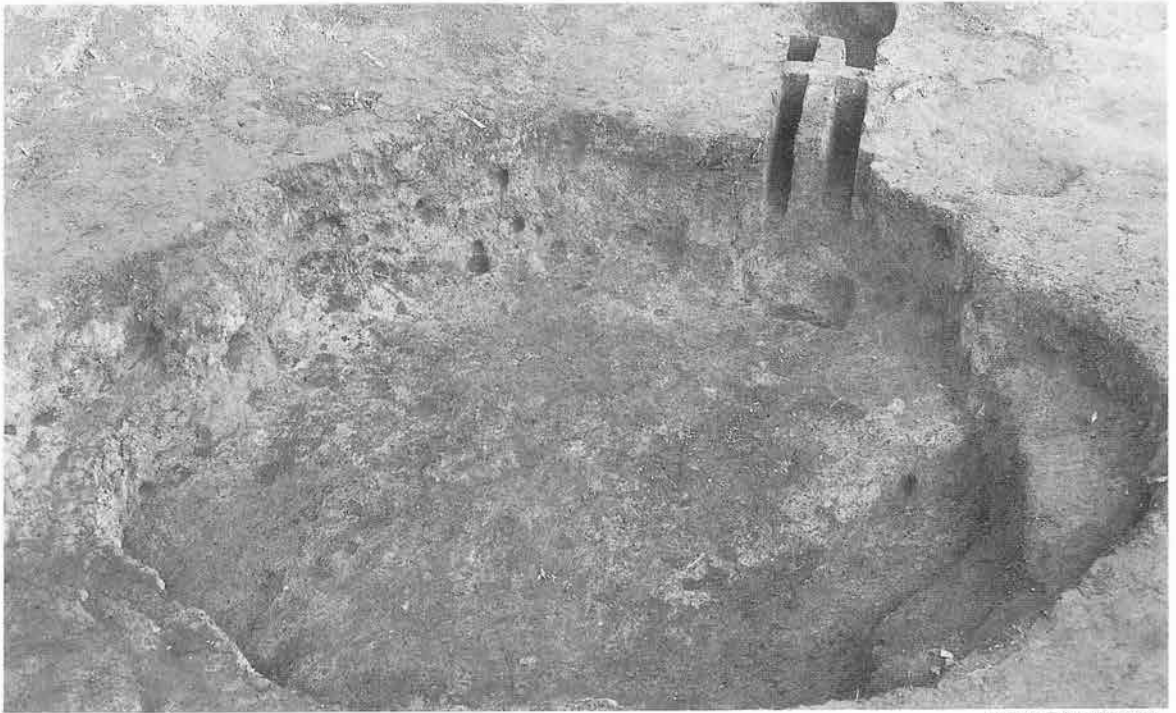
カマド断面 2



カマド断面 3



カマド断面 4



VII B 4号住居跡全景



断面 1



遺物出土状況



断面 2



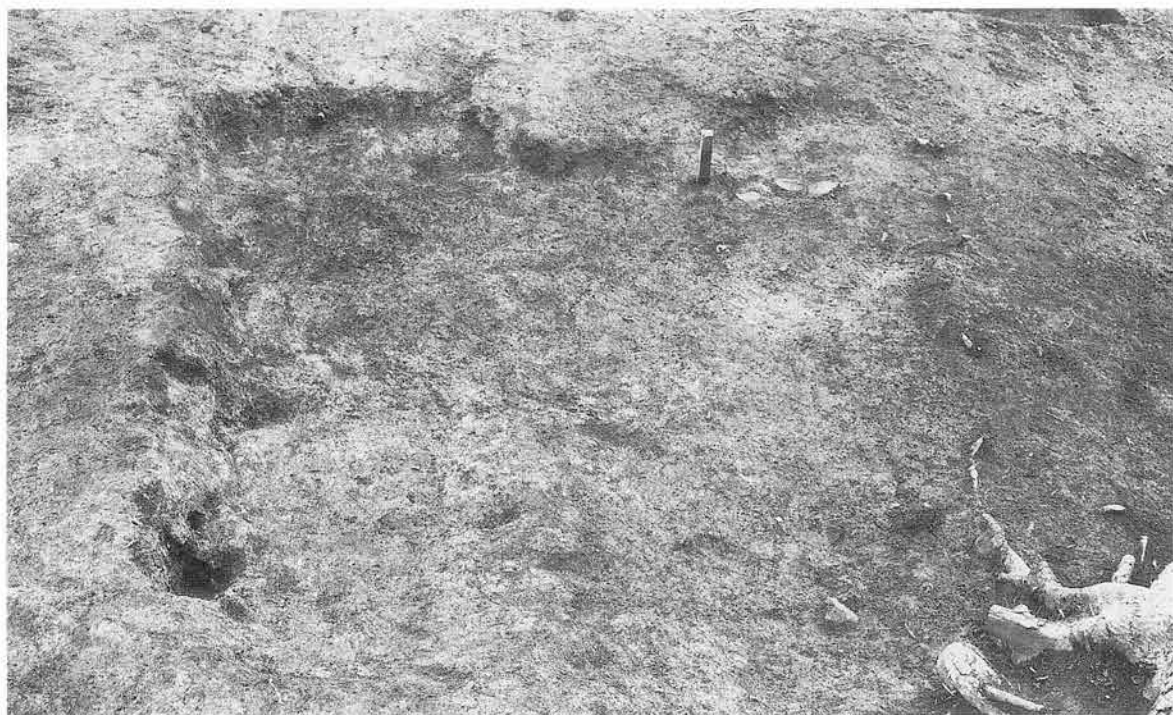
カマド断面 1



カマド断面 2



カマド断面 3



VII B 5 号住居跡全景



断面 1



断面 2



炭化材層断面 1



炭化材層断面 2



V B 1 号工房跡全景



断面 1



断面 2



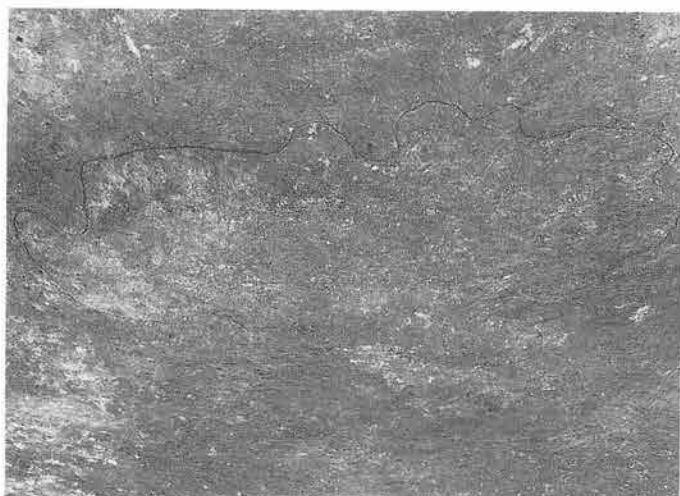
遺物出土状況 1



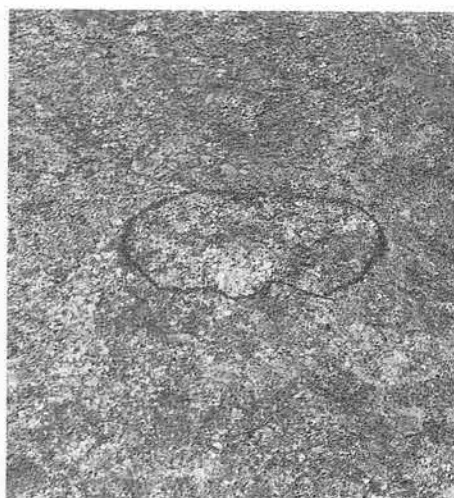
遺物出土状況 2



完掘



III B 1号烧土遺構検出



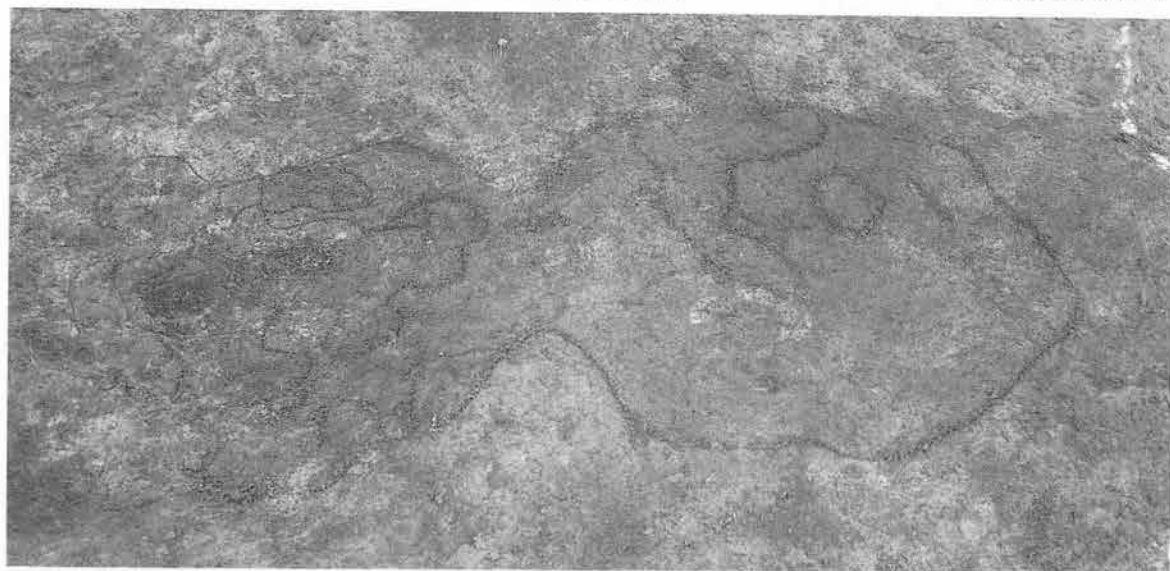
IV A 1号烧土遺構平面



III B 1号烧土遺構断面



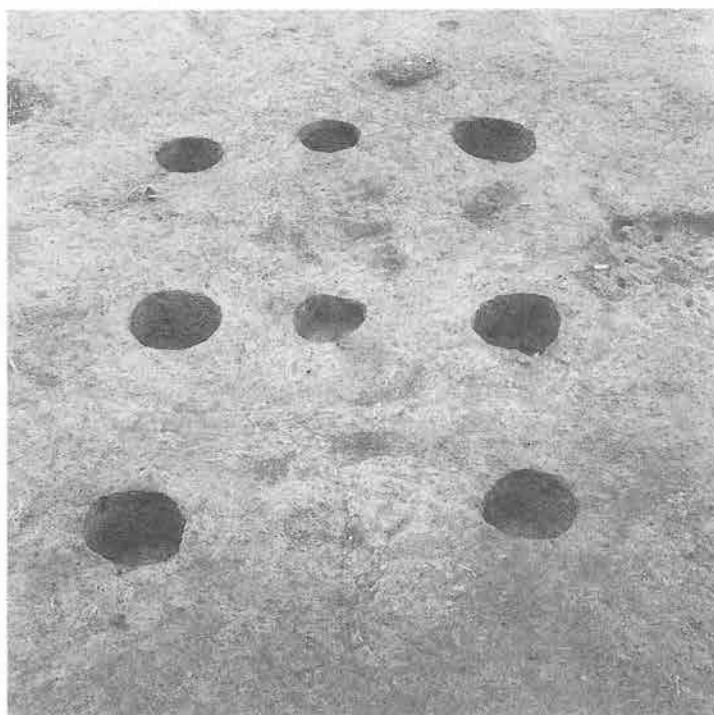
IV A 1号烧土遺構断面



V B 1号烧土遺構検出



V B 1号烧土遺構断面



1号掘立柱建物跡全景



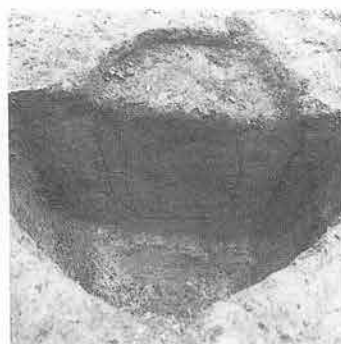
柱穴断面 1



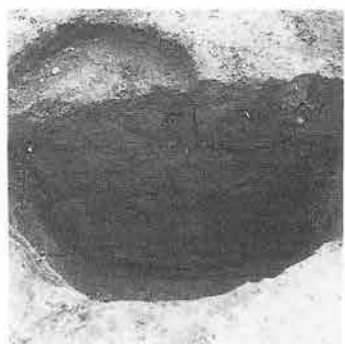
柱穴断面 2



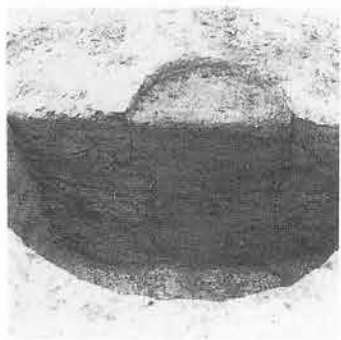
柱穴断面 3



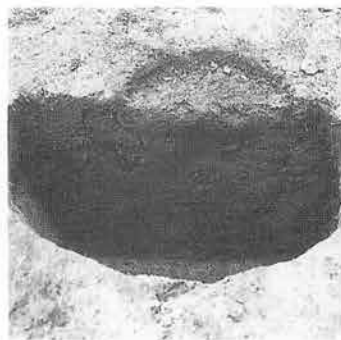
柱穴断面 4



柱穴断面 5



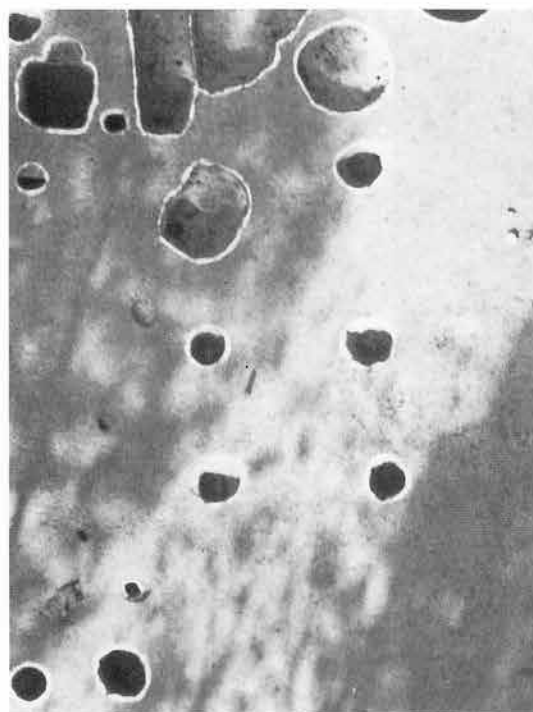
柱穴断面 6



柱穴断面 7



柱穴断面 8



2号掘立柱建物跡全景



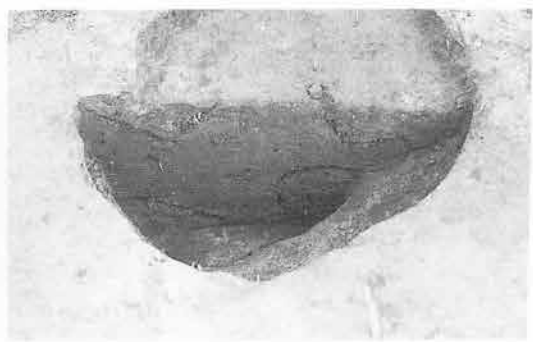
検出状況



柱穴断面 1



柱穴断面 2



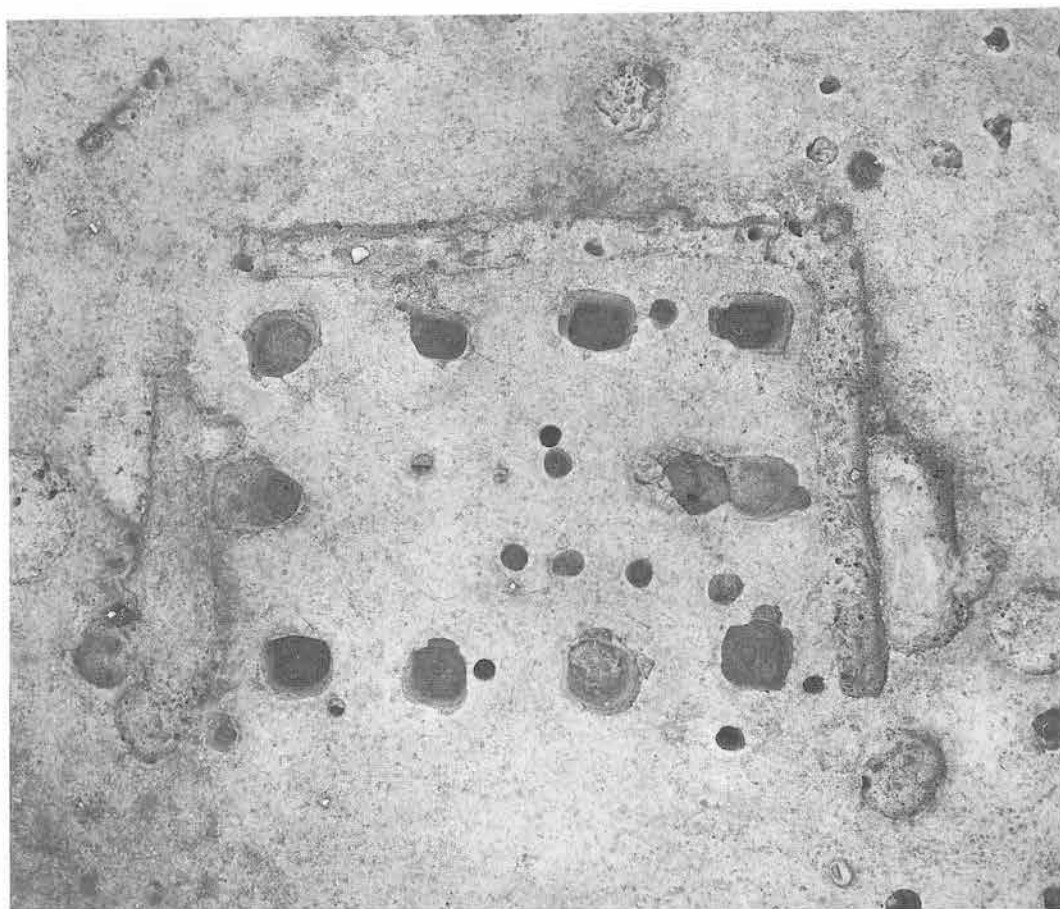
柱穴断面 3



柱穴断面 4



柱穴断面 5



3・4・5・6号掘立柱建物跡全景



3・4号掘立柱建物跡



検出状況



柱穴断面 1



柱穴断面 2



柱穴断面 3



柱穴断面 4



柱穴断面 5



柱穴断面 6



柱穴断面 7



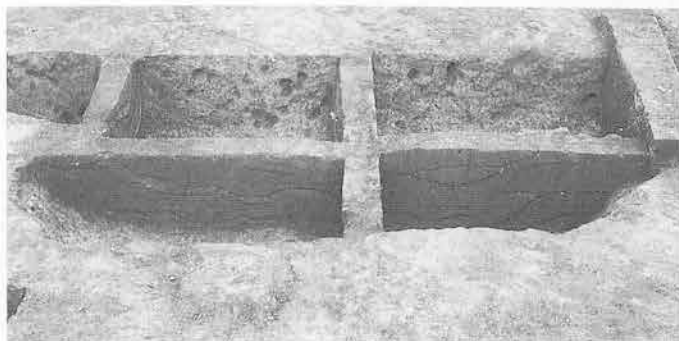
柱穴断面 8



柱穴断面 9



柱穴断面 10



土坑 1 断面



周沟 1 断面 1



周沟 1 断面 1



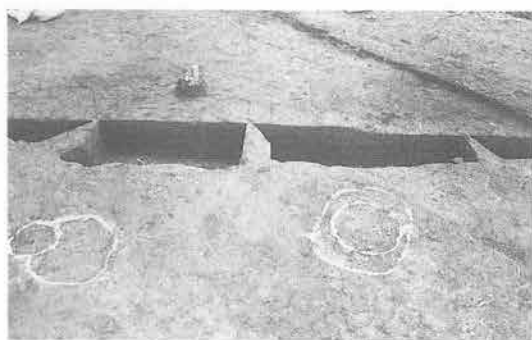
周沟 2 断面



土坑 1 · 周沟 1 断面



周沟 1 断面 3



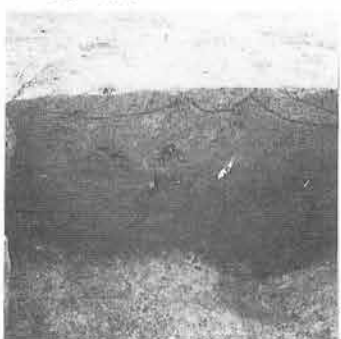
周沟 3 断面 1



周沟 3 断面 2



周沟 3 断面 3



周沟 3 断面 4

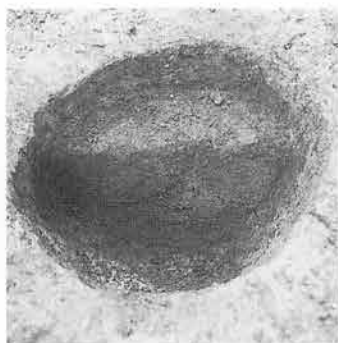


5号掘立柱建物跡 柱穴断面 1

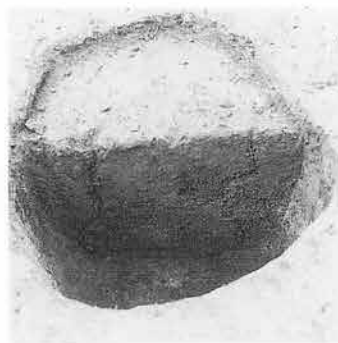


5号

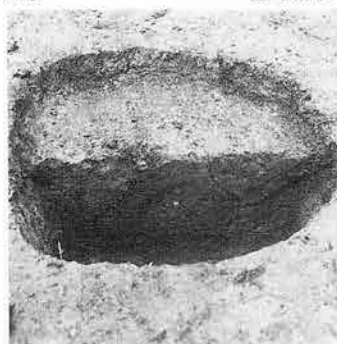
柱穴断面 2



柱穴断面 3



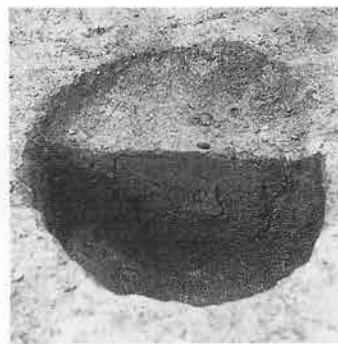
柱穴断面 4



柱穴断面 5



柱穴断面 6



柱穴断面 7

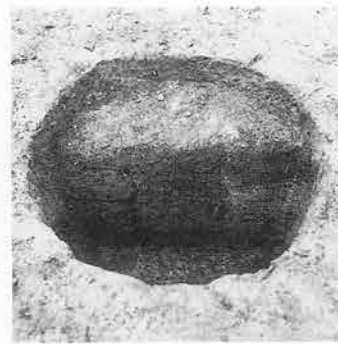


6号

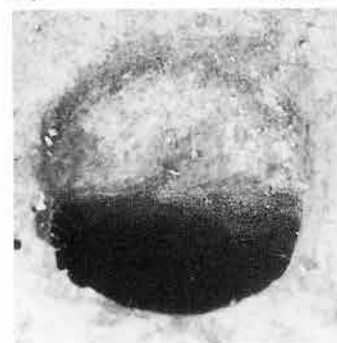
柱穴断面 1



柱穴断面 2



柱穴断面 3

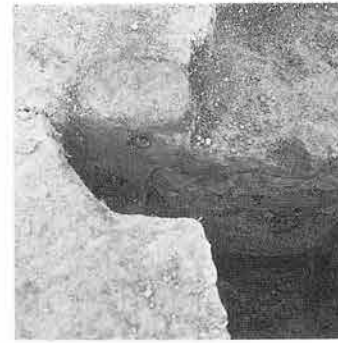


6号

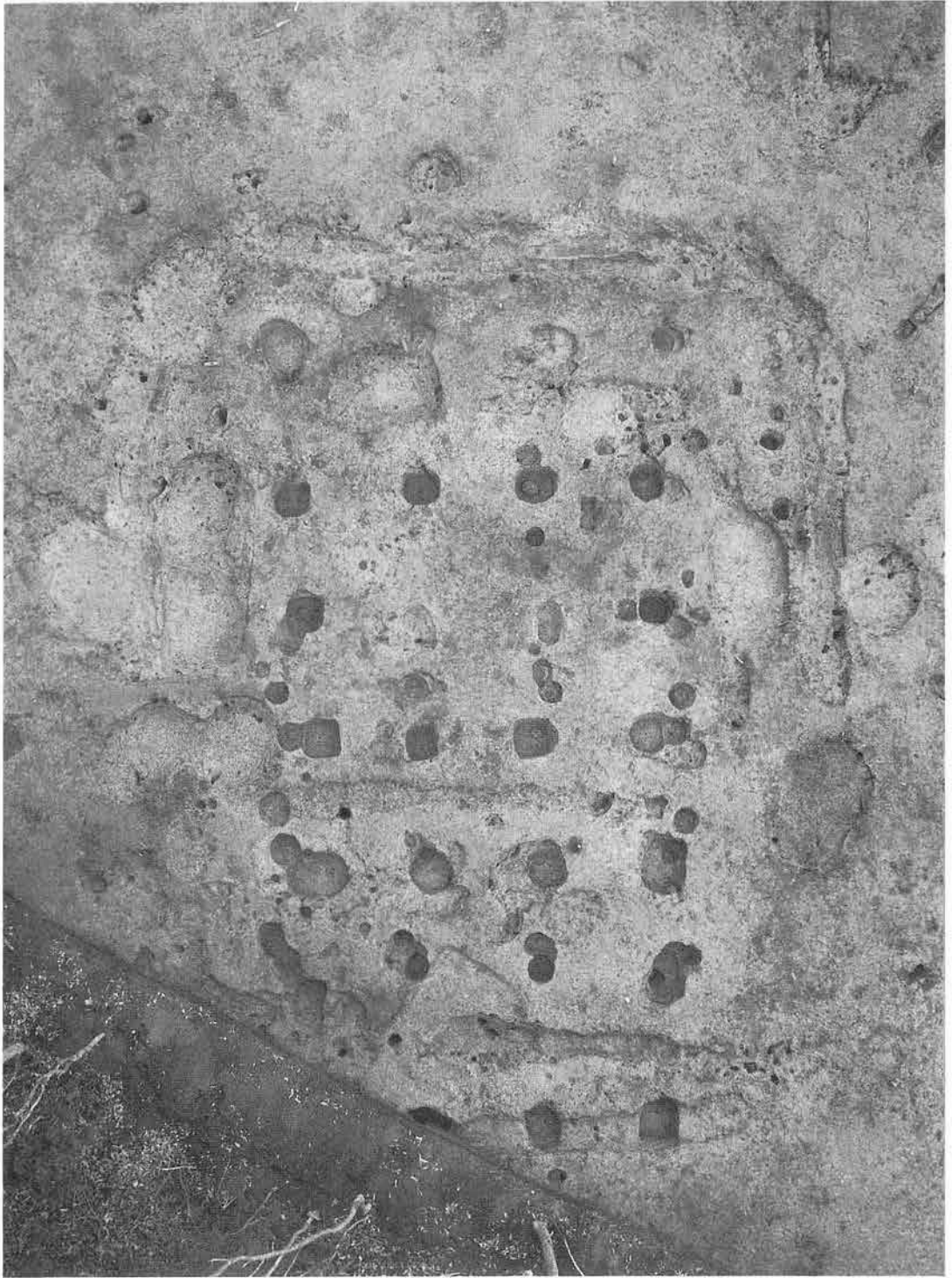
柱穴断面 4



柱穴断面 5



柱穴断面 6

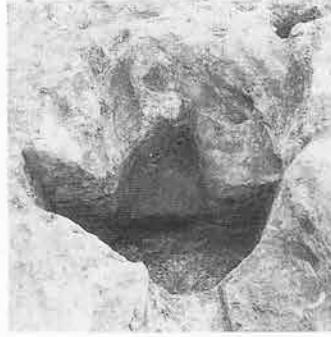


7・8・9・10・11・12号堀立柱建物跡全景

写真図版 38 7・8・9・10・11・12号掘立柱建物跡



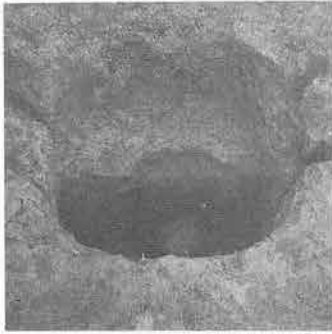
柱穴断面 1



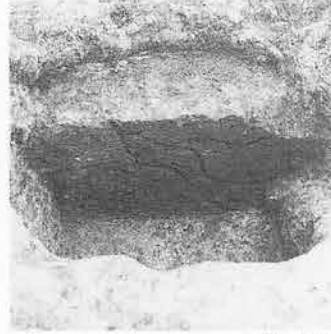
柱穴断面 2



柱穴断面 3



柱穴断面 4



柱穴断面 5



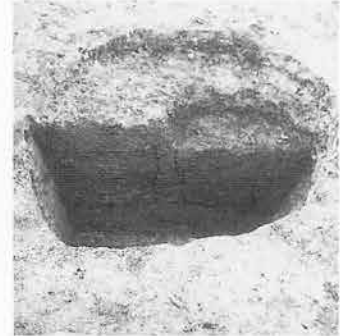
柱穴断面 6



柱穴断面 7



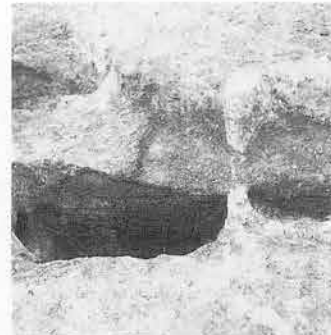
柱穴断面 8



柱穴断面 9



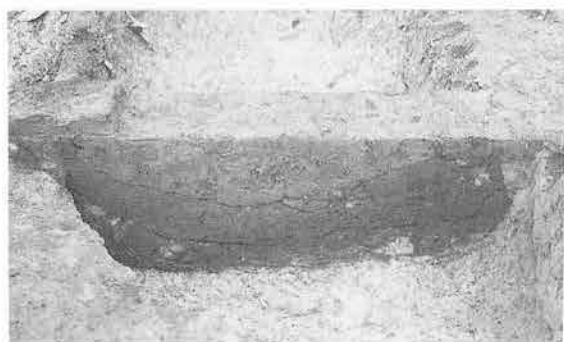
柱穴断面 10



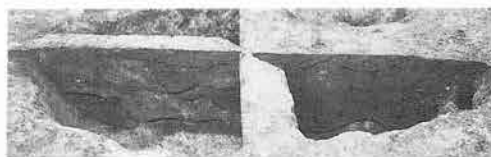
柱穴断面 11



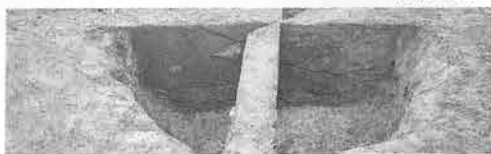
周溝断面 1



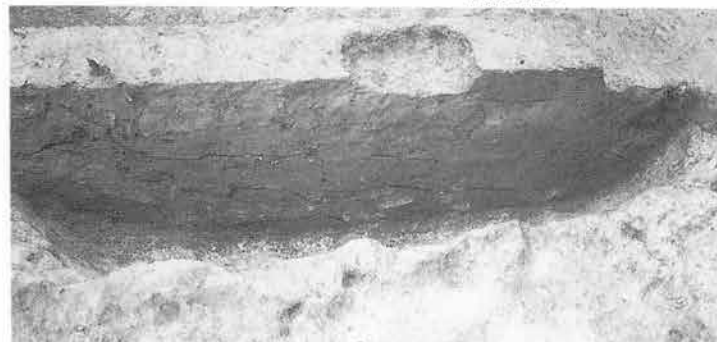
周溝断面 1



周溝断面 2



周溝断面 3



周溝断面 4



8号掘立柱建物跡 柱穴断面 1



柱穴断面 2



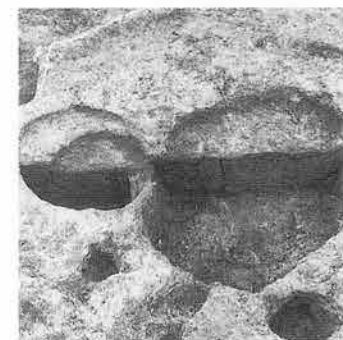
柱穴断面 3



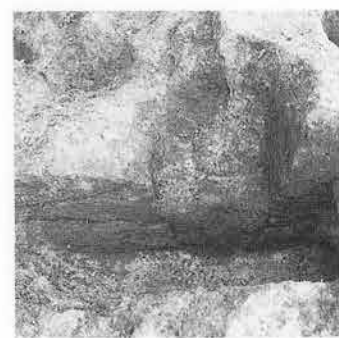
柱穴断面 4



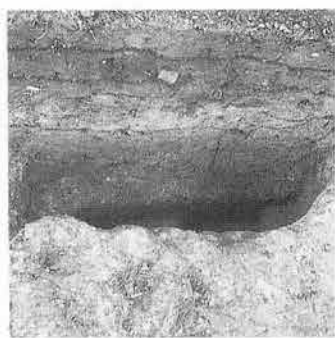
柱穴断面 5



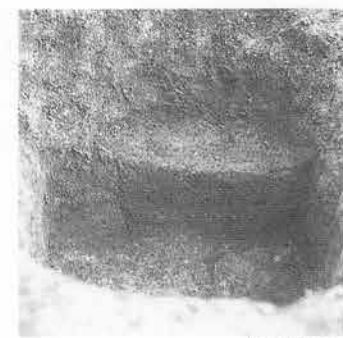
柱穴断面 6



柱穴断面 7



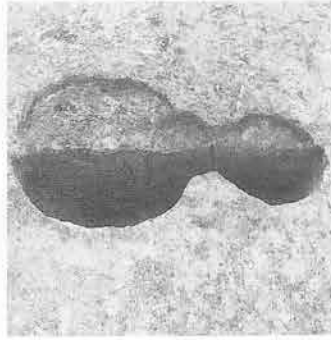
柱穴断面 8



柱穴断面 9



8号柱穴断面 10



8号柱穴断面 11



9号柱穴断面 1



柱穴断面 2



柱穴断面 3



柱穴断面 4



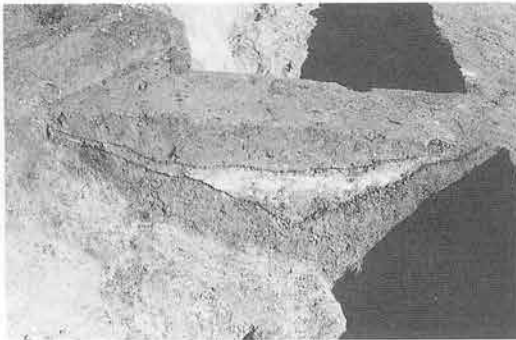
柱穴断面 6



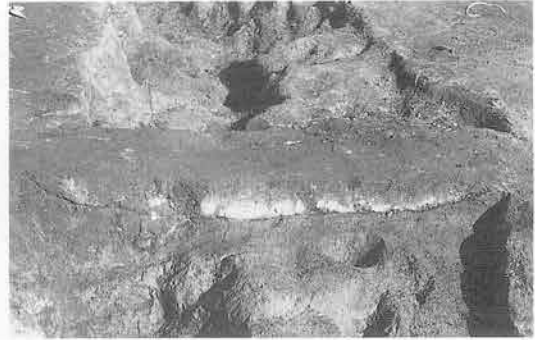
柱穴断面 7



柱穴断面 8



周沟断面 1



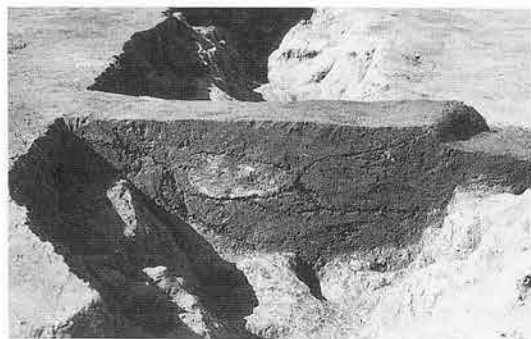
周沟断面 2



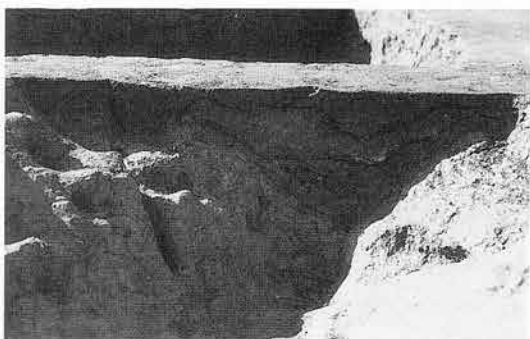
周溝断面 3



周溝断面 4



周溝断面 5



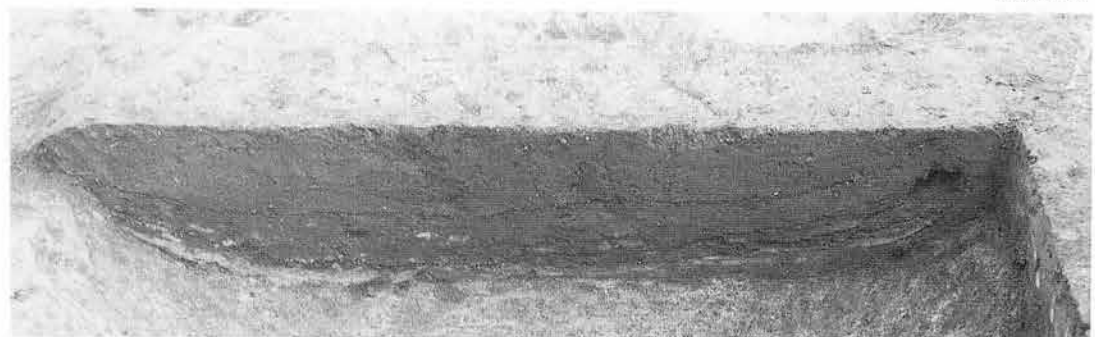
周溝断面 6



周溝断面 7



周溝断面 8

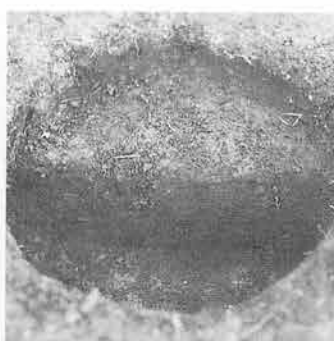


周溝断面 9



10号

柱穴断面 1



柱穴断面 2



柱穴断面 3



柱穴断面 4



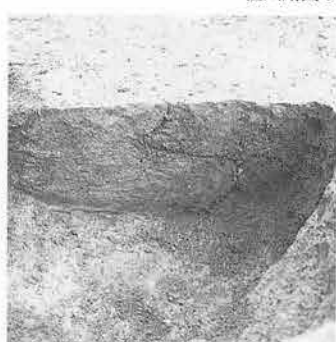
柱穴断面 5



柱穴断面 6



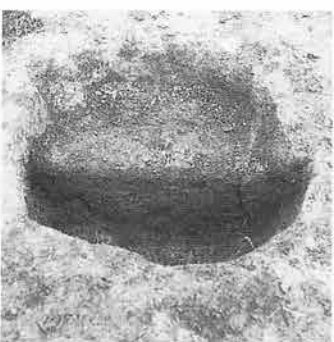
柱穴断面 6



柱穴断面 7



柱穴断面 8



柱穴断面 9



11号柱穴断面 1



11号柱穴断面 2



11号柱穴断面 3



12号柱穴断面



12号柱穴断面2



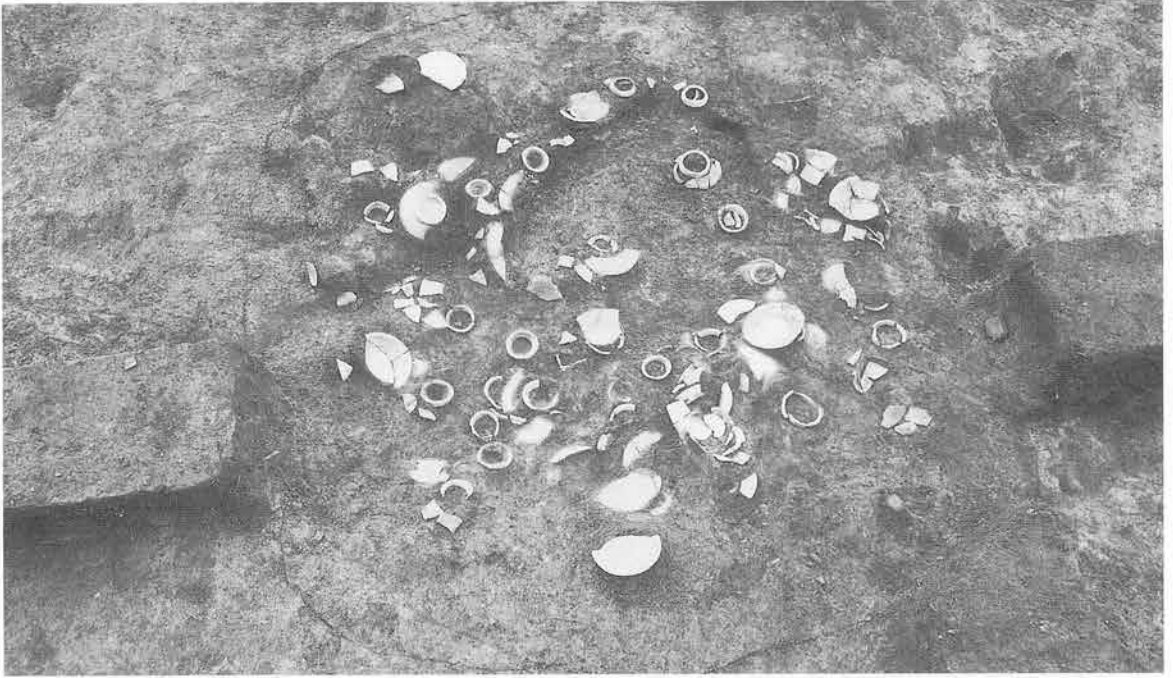
12号柱穴断面3



柱穴断面4



掘立柱建物跡群 全景



1号窯跡全景(1次)



1号窯跡全景(2次)



断面1(1次)



断面2(1次)



断面1(2次)



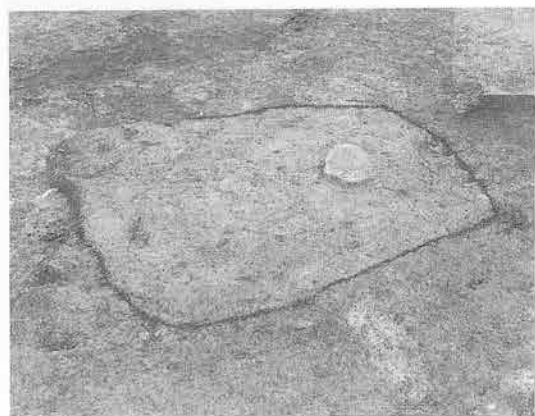
断面2(2次)



全景(完堀)



2号窟跡全景(1次)



2号窟跡全景(2次)



断面1(1次)



断面2(1次)



断面1(2次)



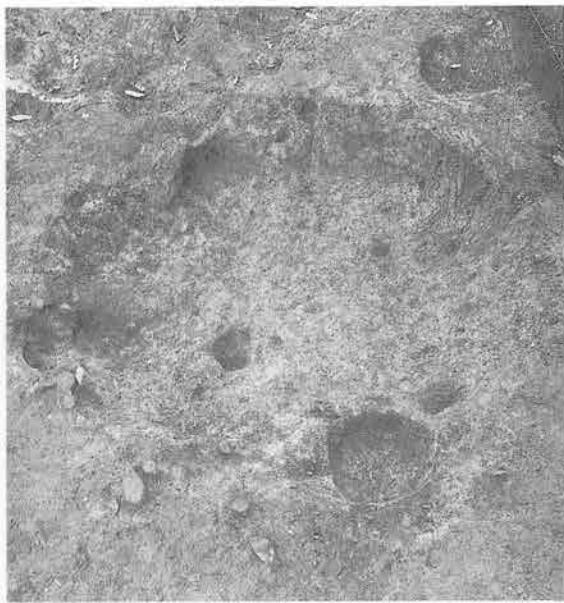
断面2(2次)



全景(完掘)



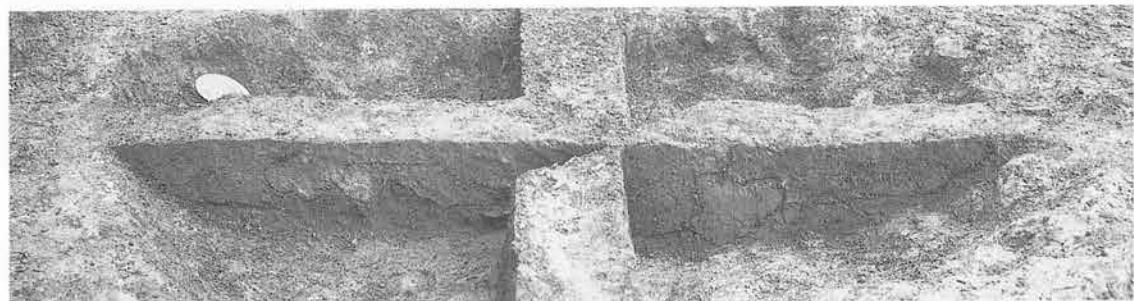
3号窟跡全景(1次)



全景(完掘)



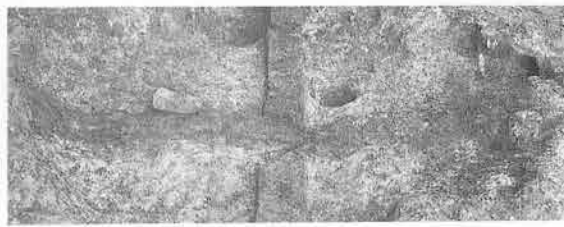
断面1(1次)



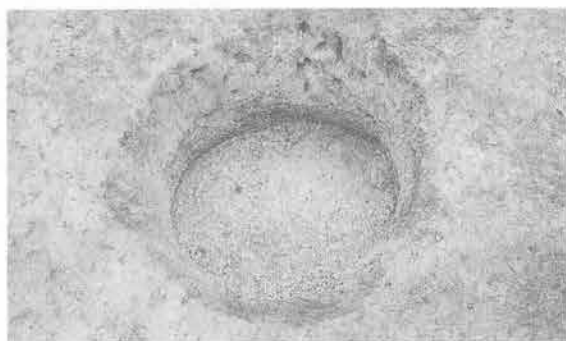
断面2(1次)



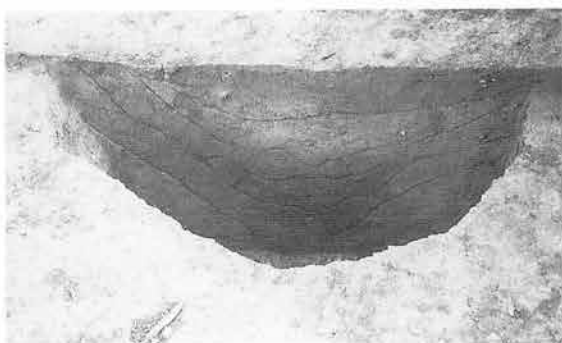
断面1(2次)



断面2(2次)



V B1号土坑全景



断面



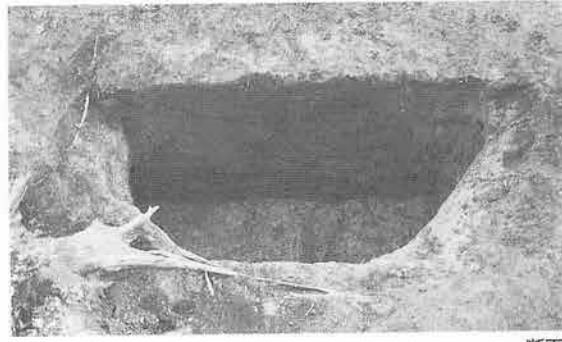
V B4号土坑全景



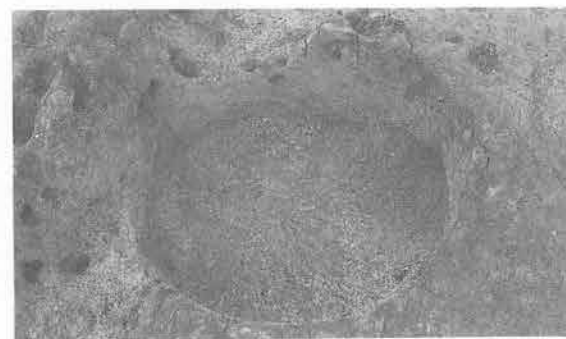
断面



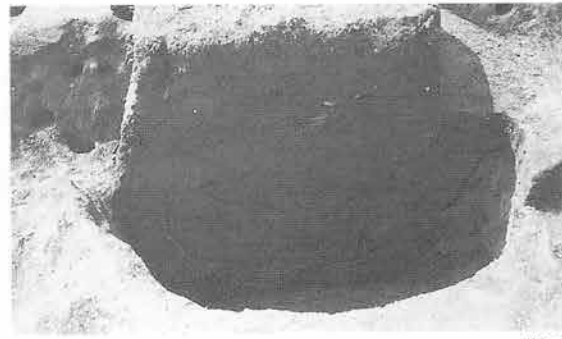
VIA1号土坑全景



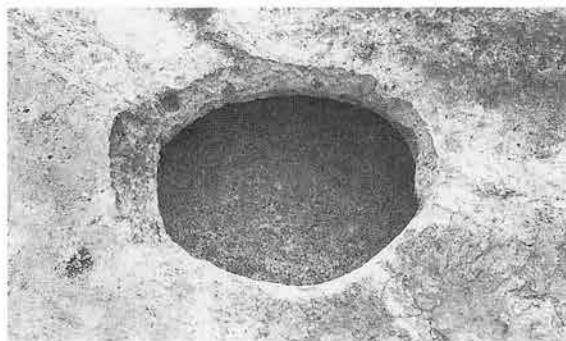
断面



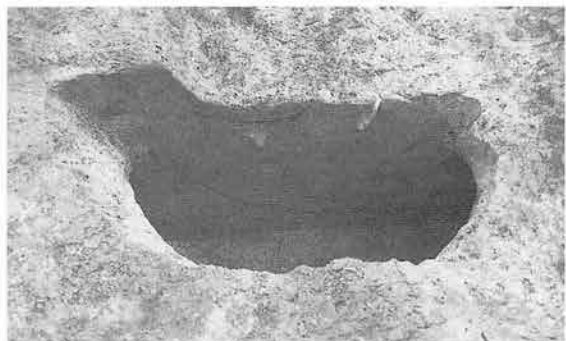
VIA2号土坑全景



断面



VIA 3号土坑全景



断面



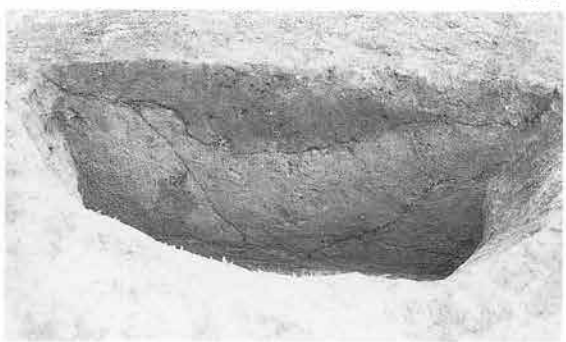
VIB 1号土坑全景



断面



VIB 2号土坑全景



断面



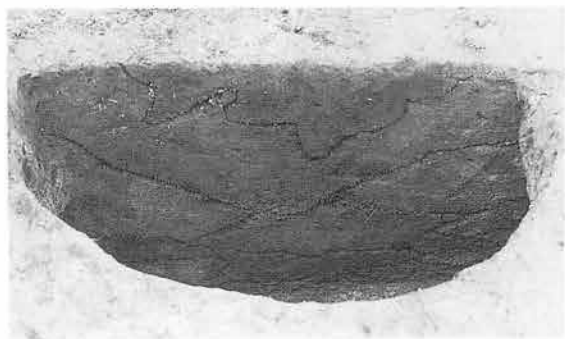
VIB 3号土坑全景



断面



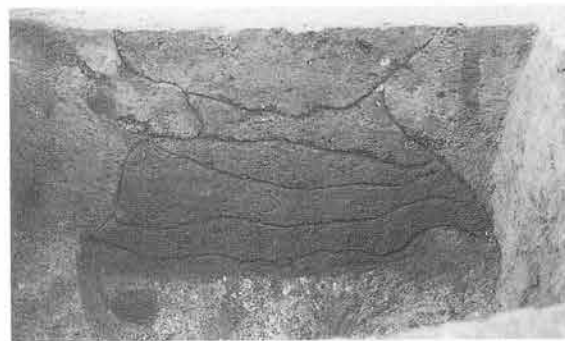
VI B 12 号土坑全景



断面



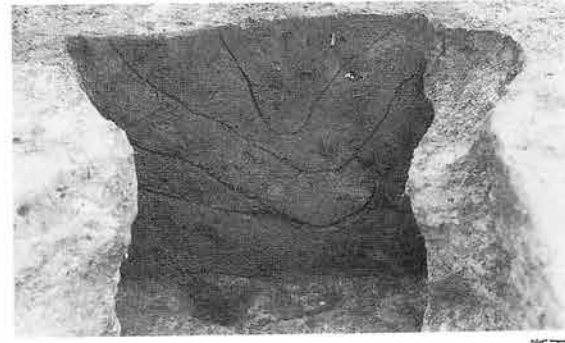
VI B 17 号土坑全景



断面



VI B 36 号土坑全景



断面



VII A 1 号土坑全景



断面



VII A 2 号土坑全景



断面



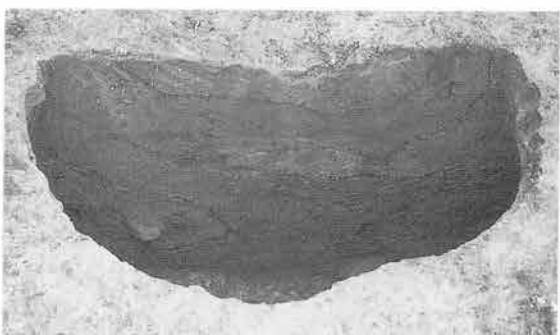
VII A 3 号土坑全景



断面



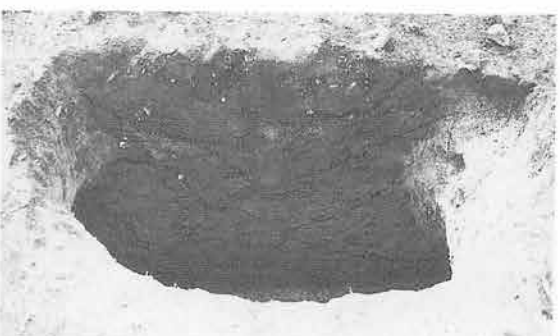
VII A 5 号土坑全景



断面



VII 6 号土坑全景



断面



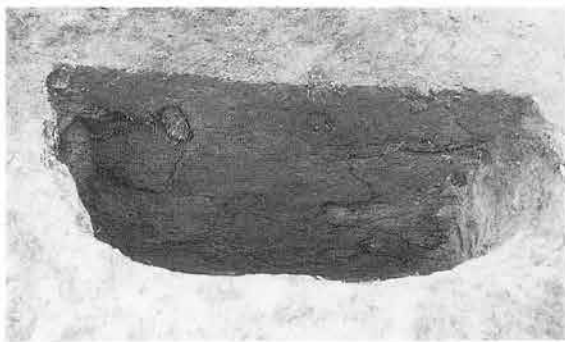
VII B 1号土坑全景



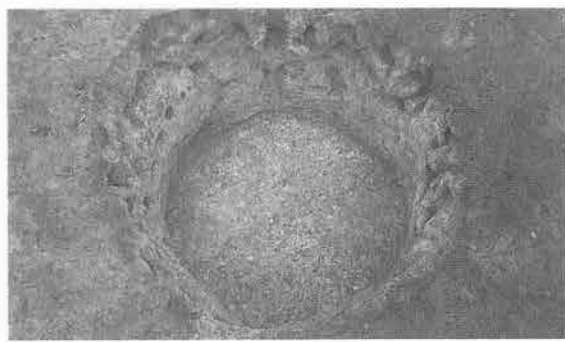
断面



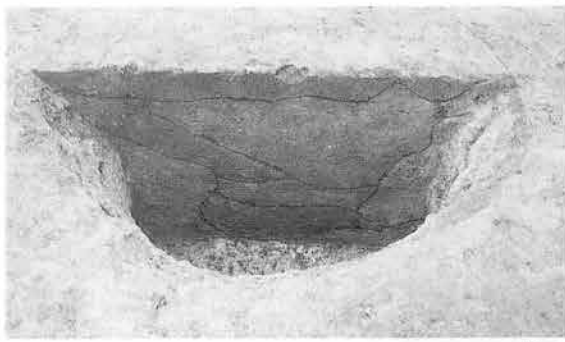
VII B 2号土坑断面



断面



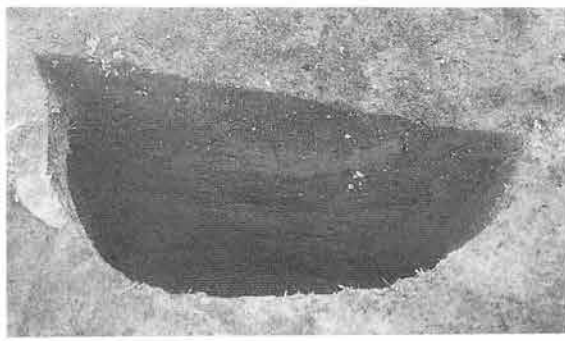
VII B 3号土坑全景



断面



VII B 4号土坑全景



断面



VII B 5 号土坑全景



断面



VII B 7 号土坑全景



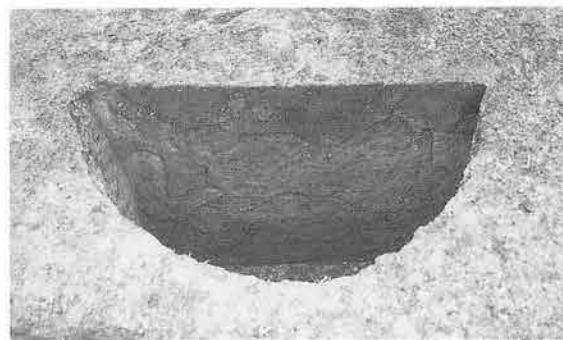
断面



VII B 8 号土坑全景



断面

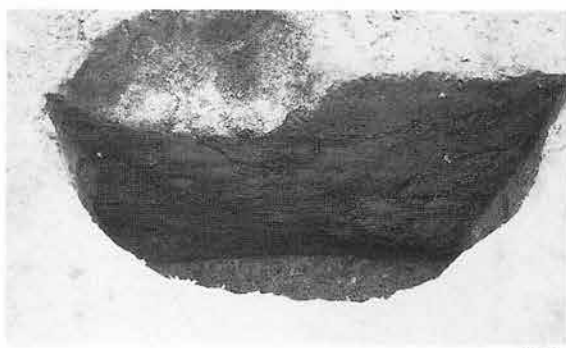


VII B 6 号土坑断面

欠



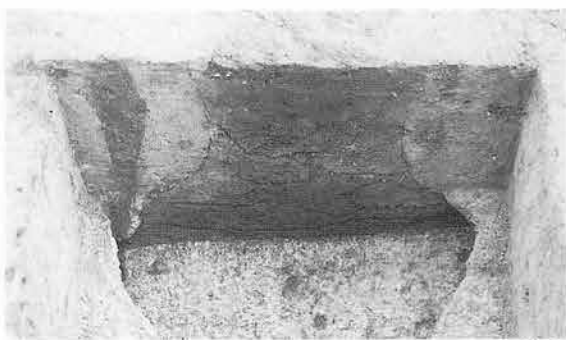
VII B 10 号土坑全景



断面



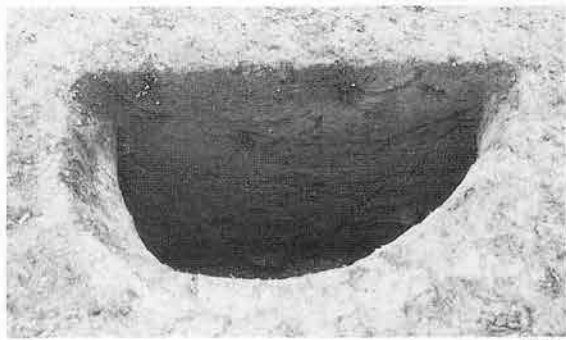
VII B 13 号土坑全景



断面



VII B 15 号土坑全景



断面



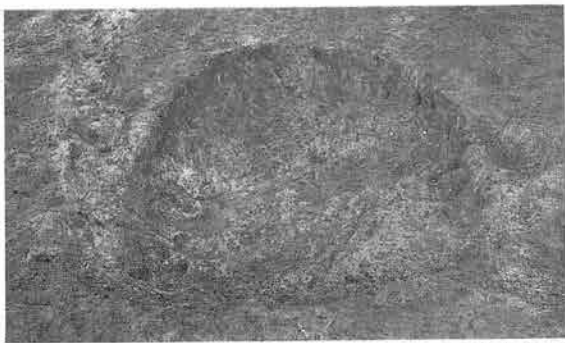
V B 2 号土坑全景



断面 1



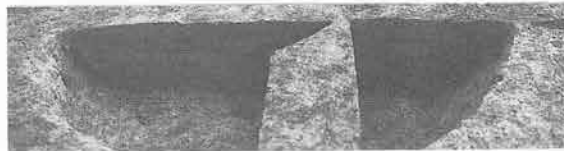
断面 2



VB5 土坑全景



断面 1



断面 2



VB6 号土坑全景



断面 1



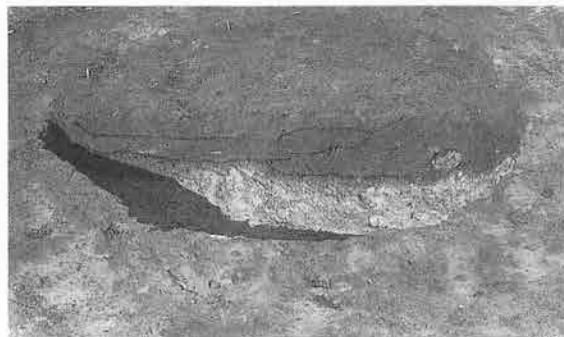
断面 2



断面 3



VB11 号土坑全景



断面

写真图版 55 VB5、VB6、11 号土坑



VI B 15 号土坑全景



断面



VI B 26 号土坑全景



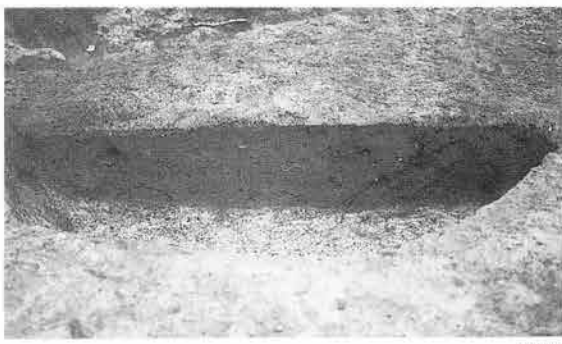
断面 1



断面 2



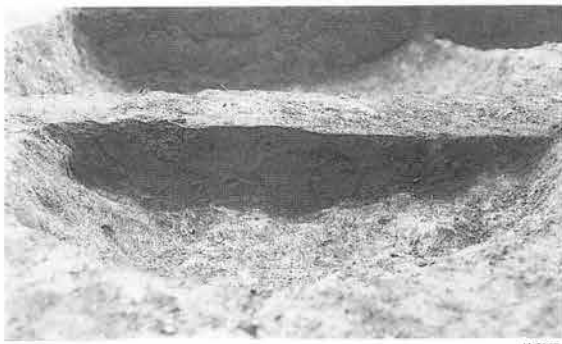
VI B 30 号土坑全景



断面



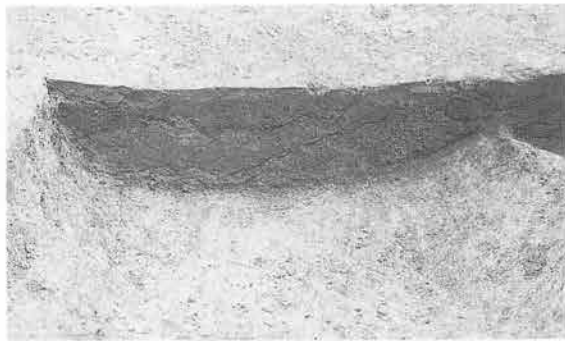
VI B 31 号土坑全景



断面



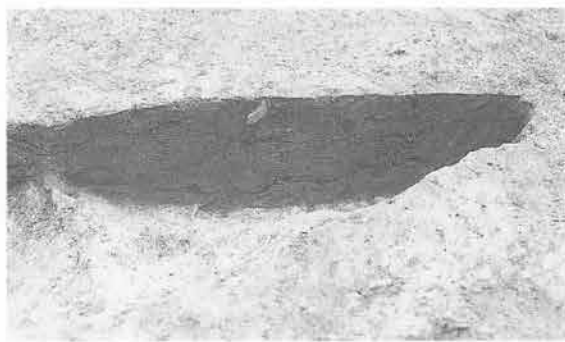
VII B 32 号土坑全景



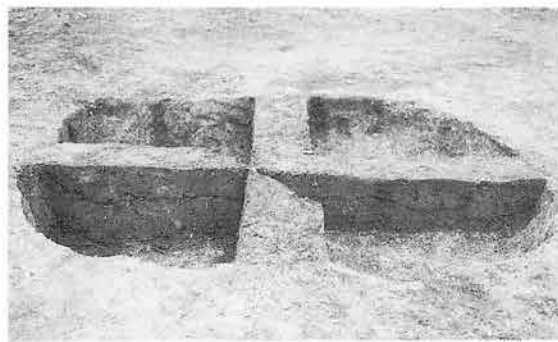
断面



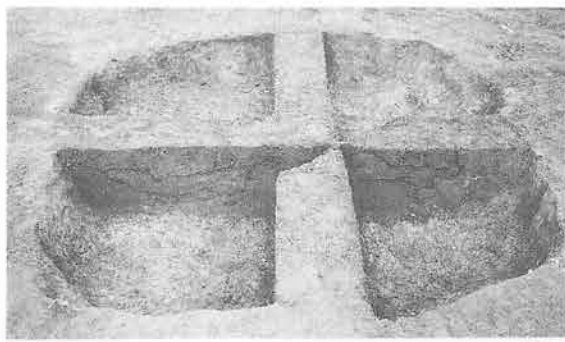
VI B 33 号土坑全景



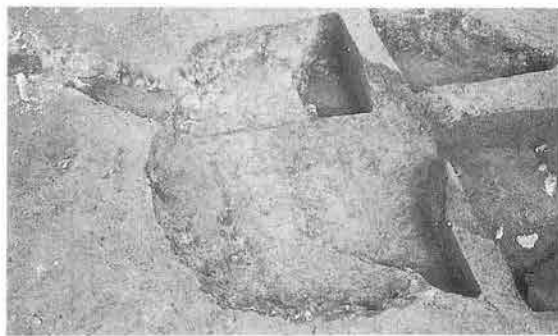
断面



VII A 4 号土坑全景



断面



VII B 号土坑全景



断面 1

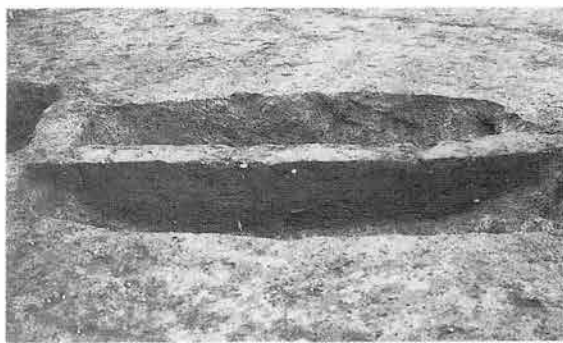


断面 2

写真图版 57 VI 32·33、VII A 4、VII B 9 号土坑



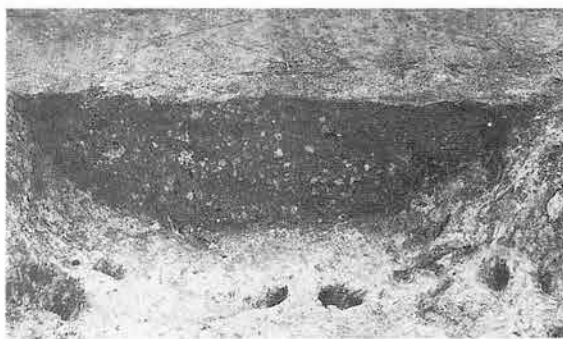
VII B 11 号土坑全景



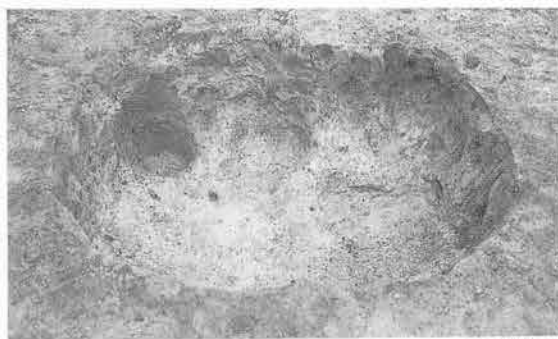
断面



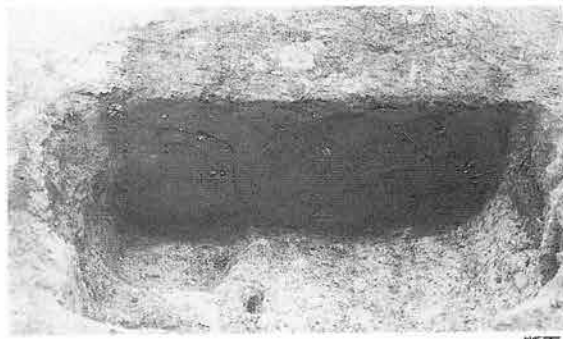
III B 1 号土坑全景



断面



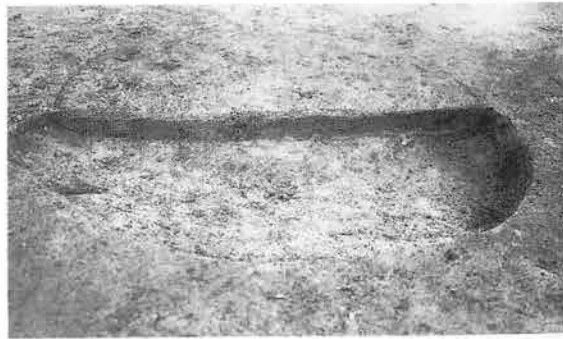
VI B 4 号土坑全景



断面



VI B 10 号土坑全景



断面



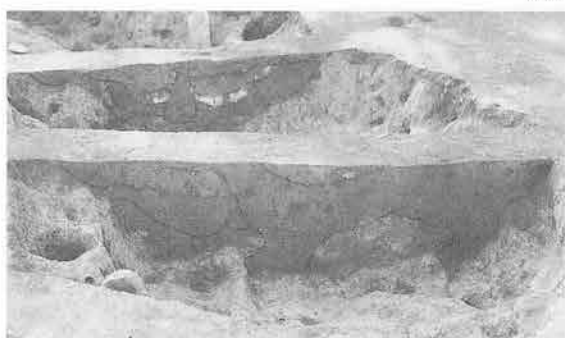
VI B 18 号土坑全景



断面



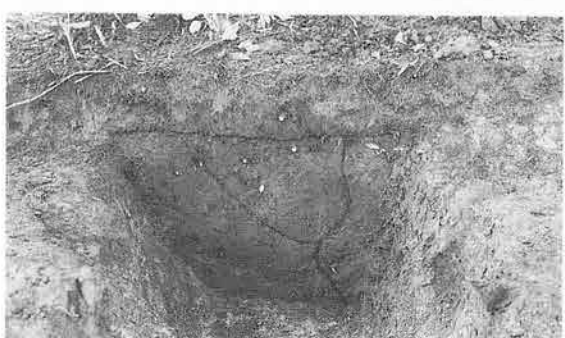
VI B 21 号土坑全景



断面



VI B 39 号土坑全景



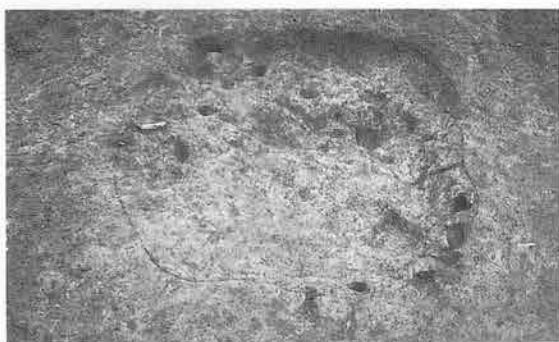
断面



VII B 12 号土坑全景



VI B 14 号土坑全景



VII B 15 号土坑全景



断面



V B 1 号陥し穴状遺構全景



断面



VII B 1 号陥し穴状遺構



断面



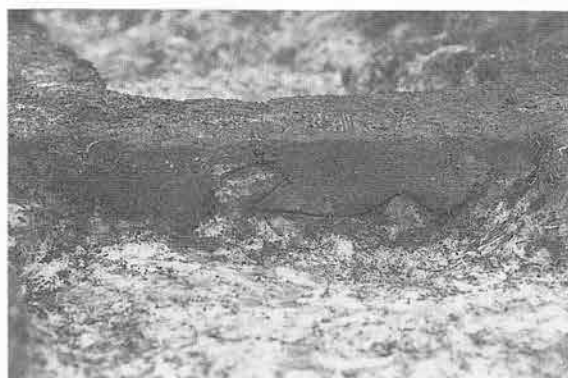
完掘



IV B 1号周溝



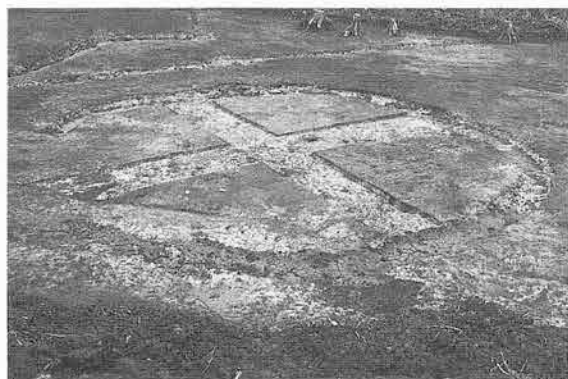
断面 1



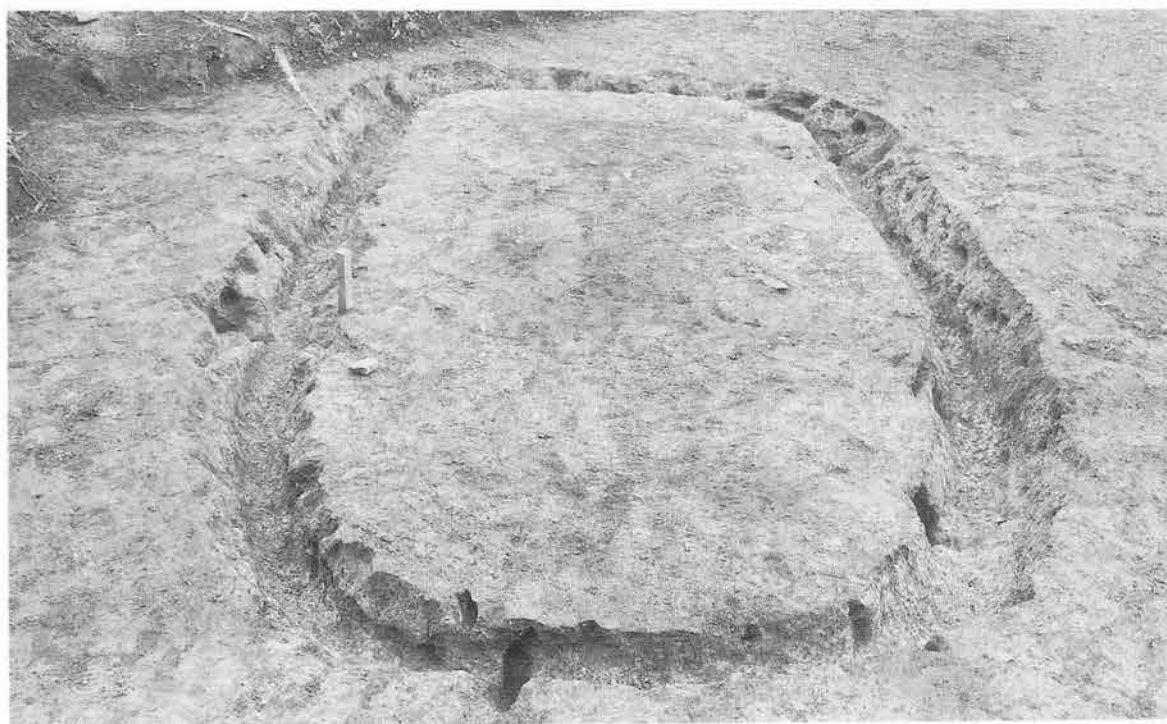
断面 2



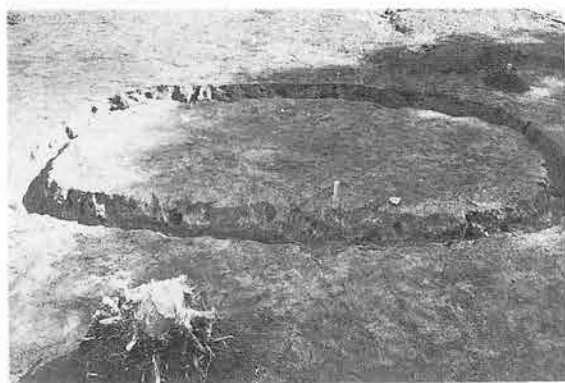
断面 3



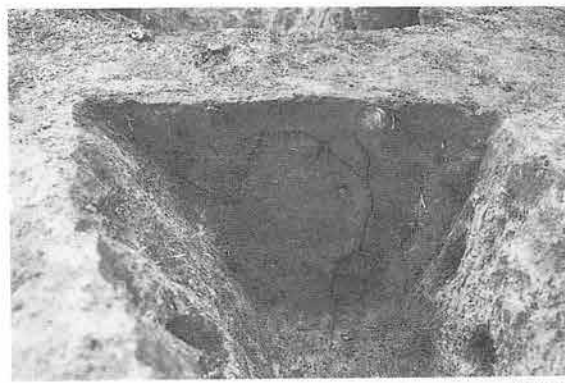
完掘



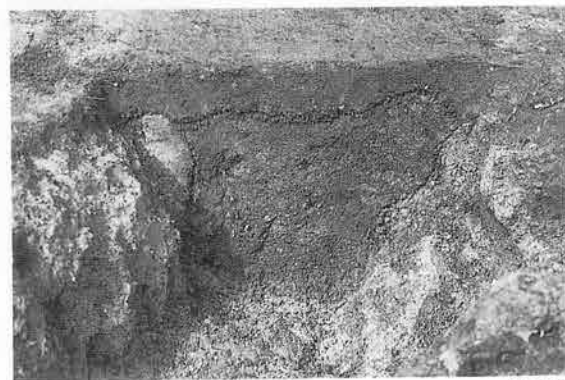
VB1号周沟



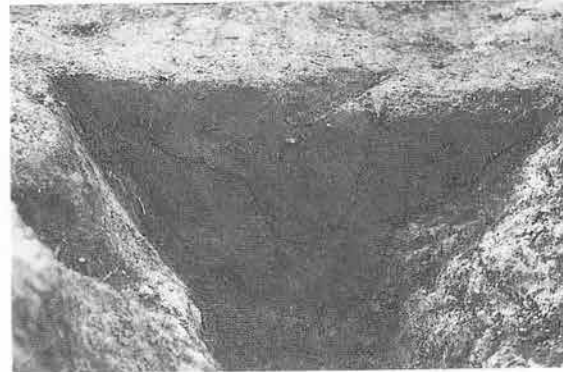
全景



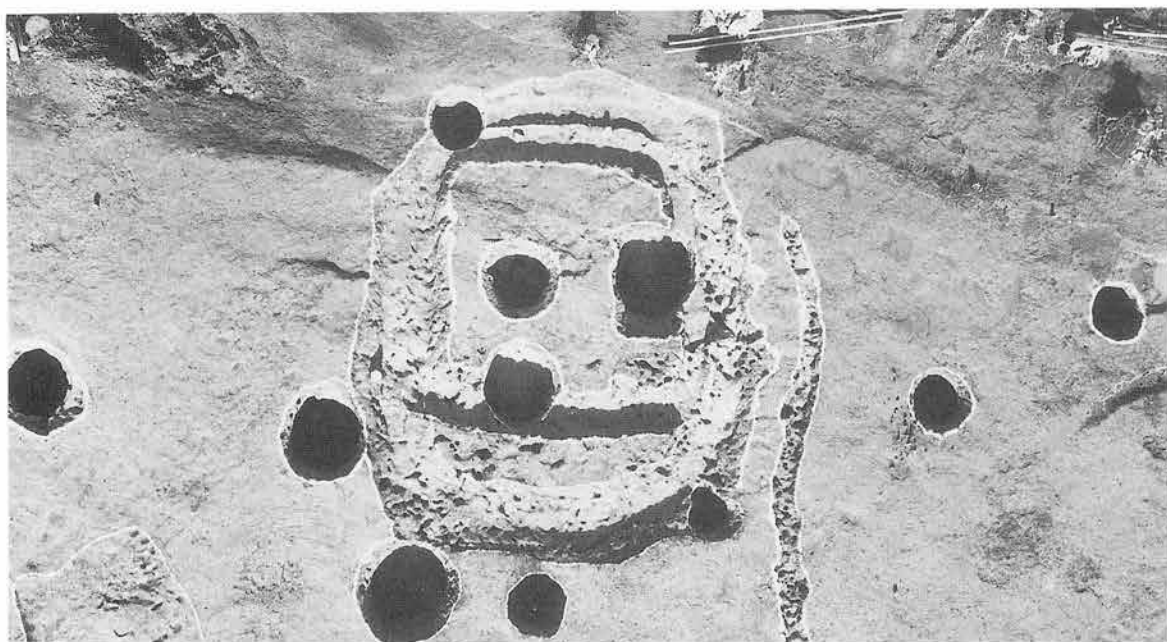
断面1



断面2



断面3



VI A 1号周溝



断面 1



全景



断面 2



断面 3



断面 4



断面 5



断面 1



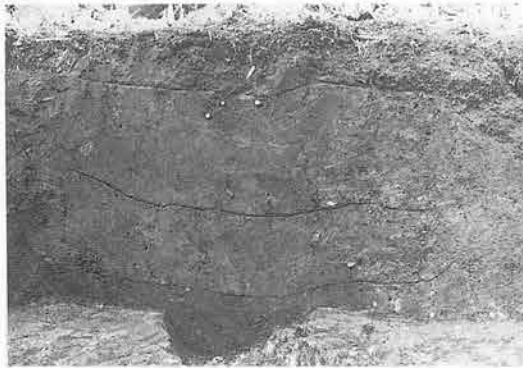
断面 2



1号溝跡



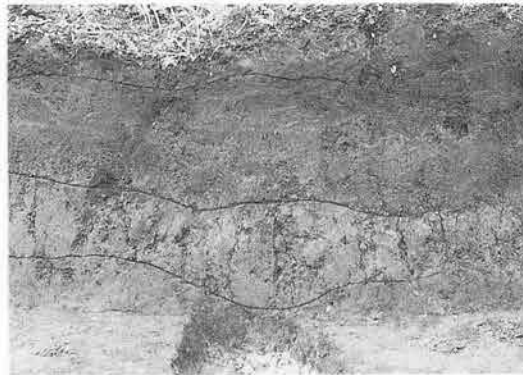
2号溝跡



断面 1



3・5号溝跡



断面



3・5号溝跡



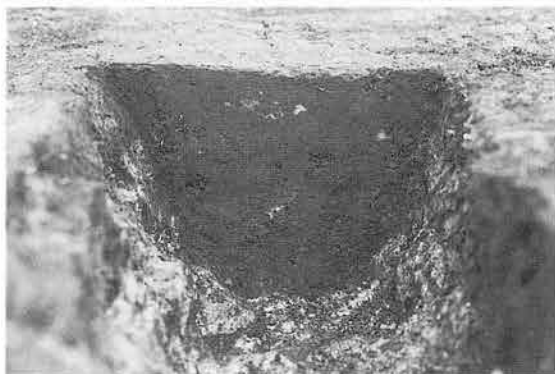
1~10号溝跡



断面1



断面2



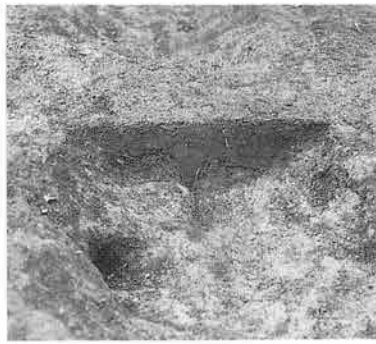
断面3



6・7号溝跡



断面 1



断面 2



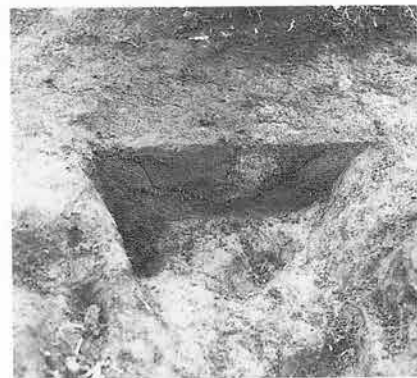
12号沟迹全景



11号沟迹全景



断面 1



断面 2



13号沟迹全景 1



13号沟迹全景 2



1



2



3



4



5



6



7



8

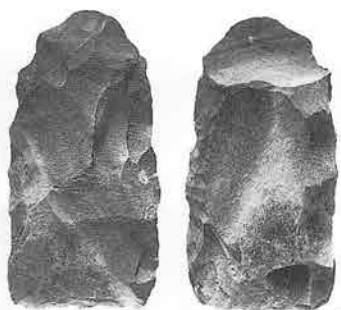


9

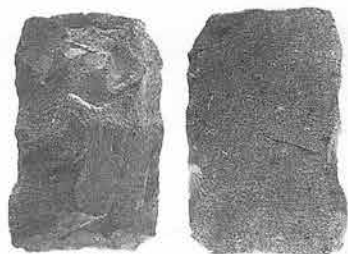


10

写真図版 67 遺構内出土遺物—1



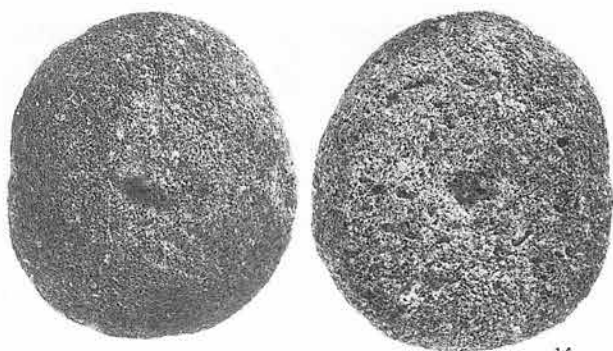
11



12



13



14



15



16



17



18



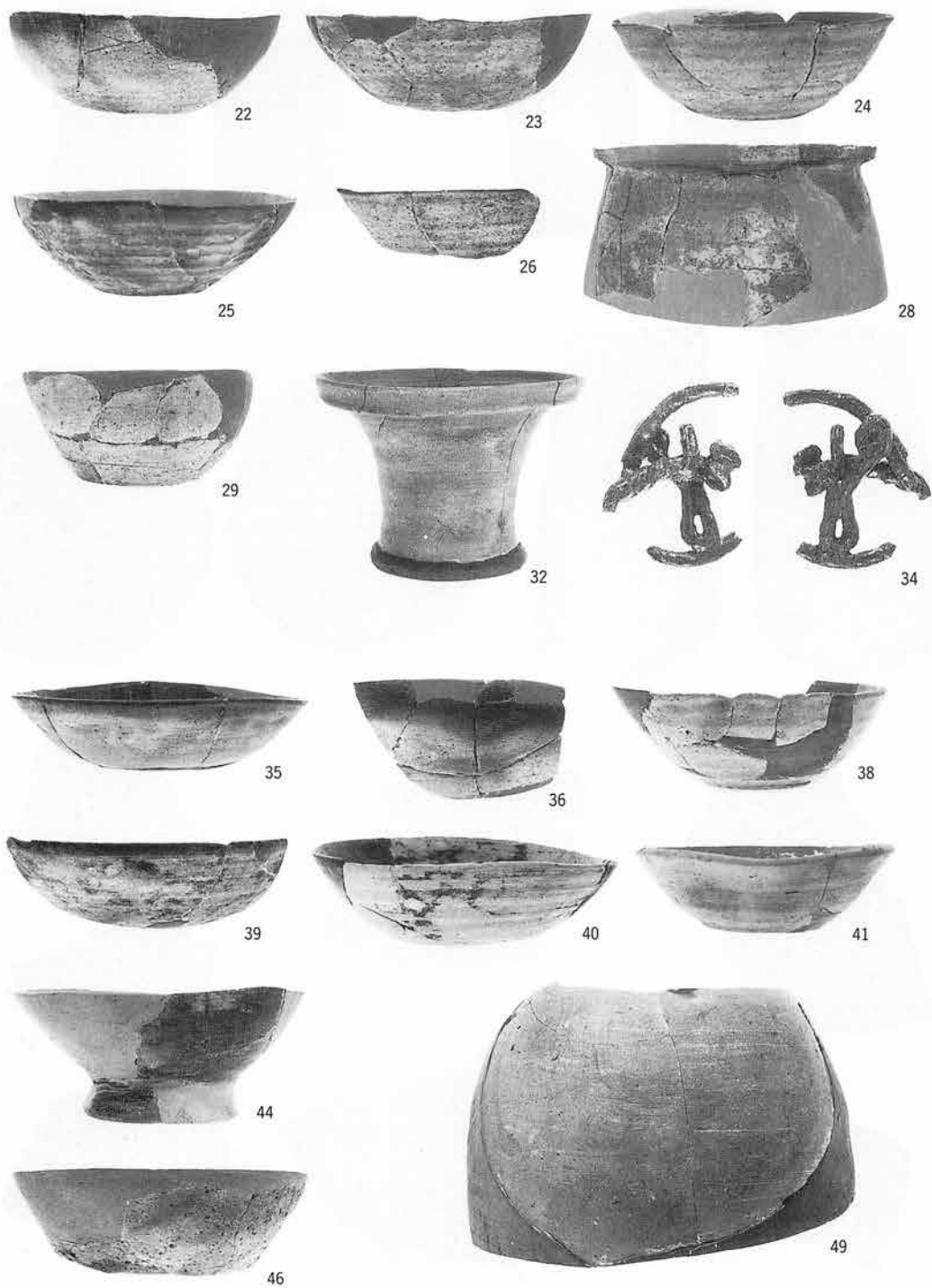
19



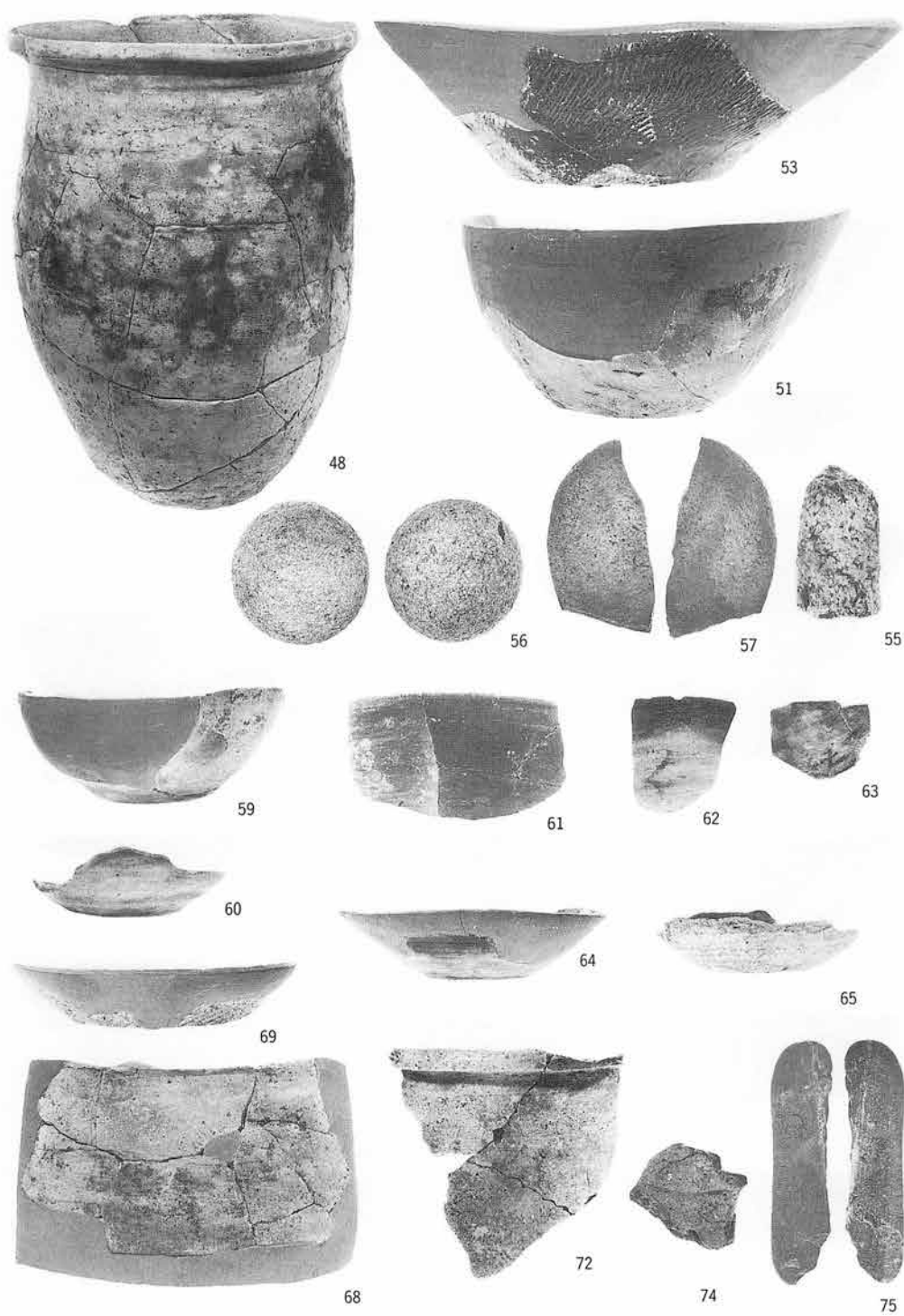
20



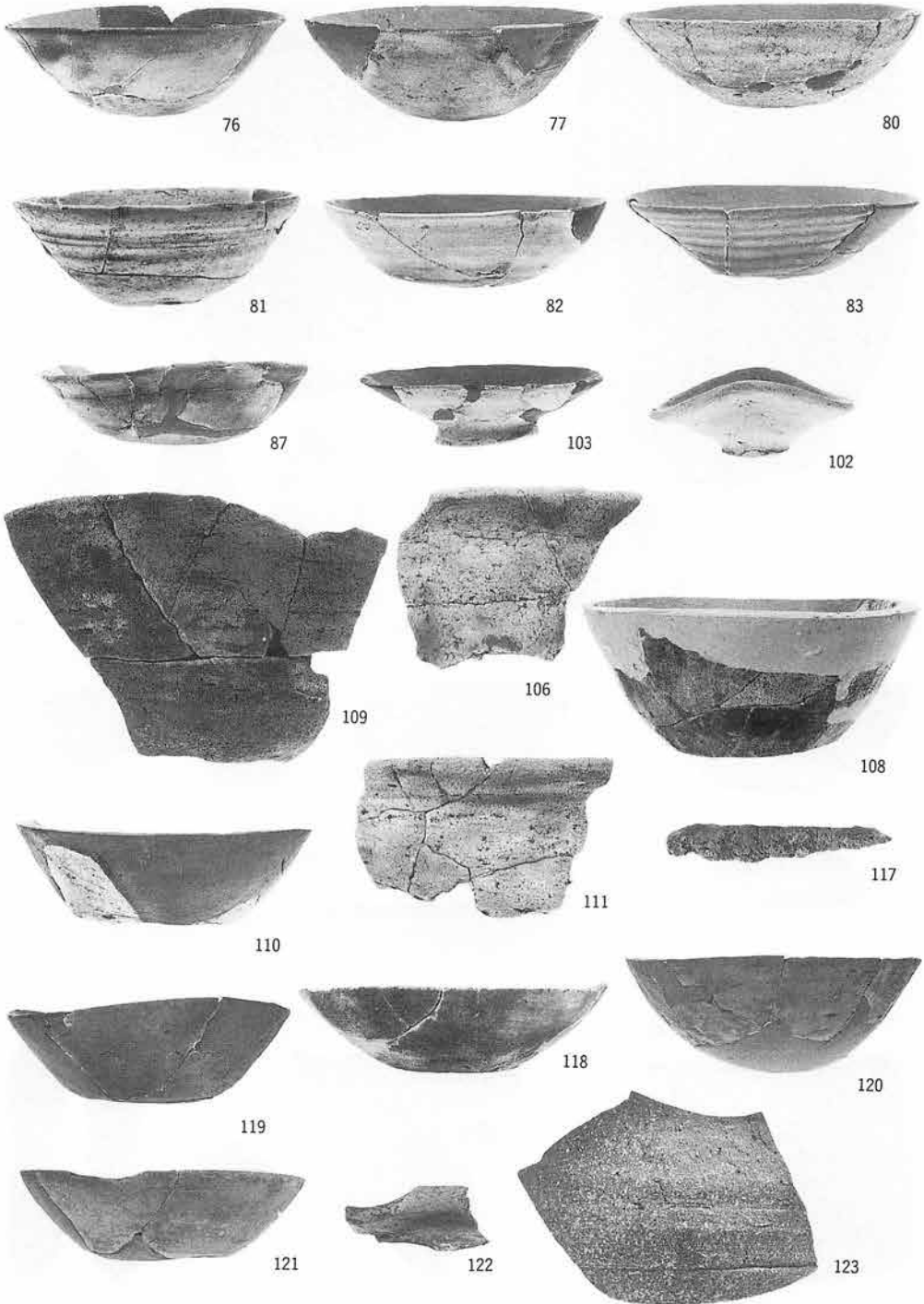
21



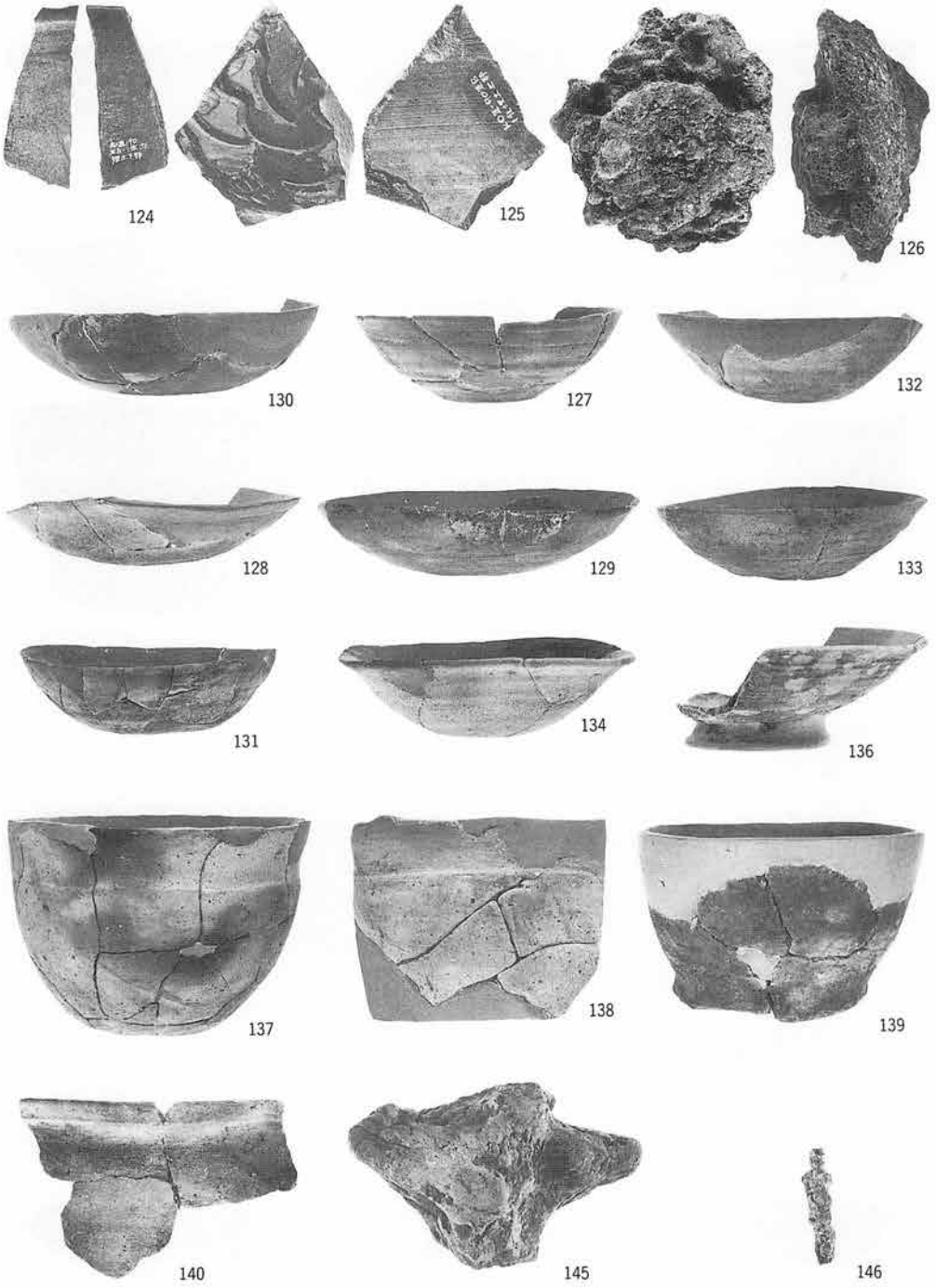
写真図版 69 遺構内出土遺物—3



写真図版 70 遺構内出土遺物—4



写真図版 71 遺構内出土遺物—5



写真図版 72 遺構内出土遺物—6



154



147



148



152



153



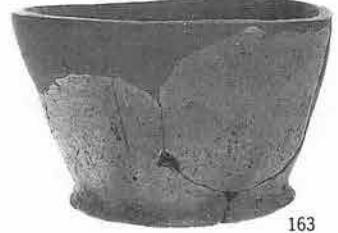
159



161



166



163



165



164



178

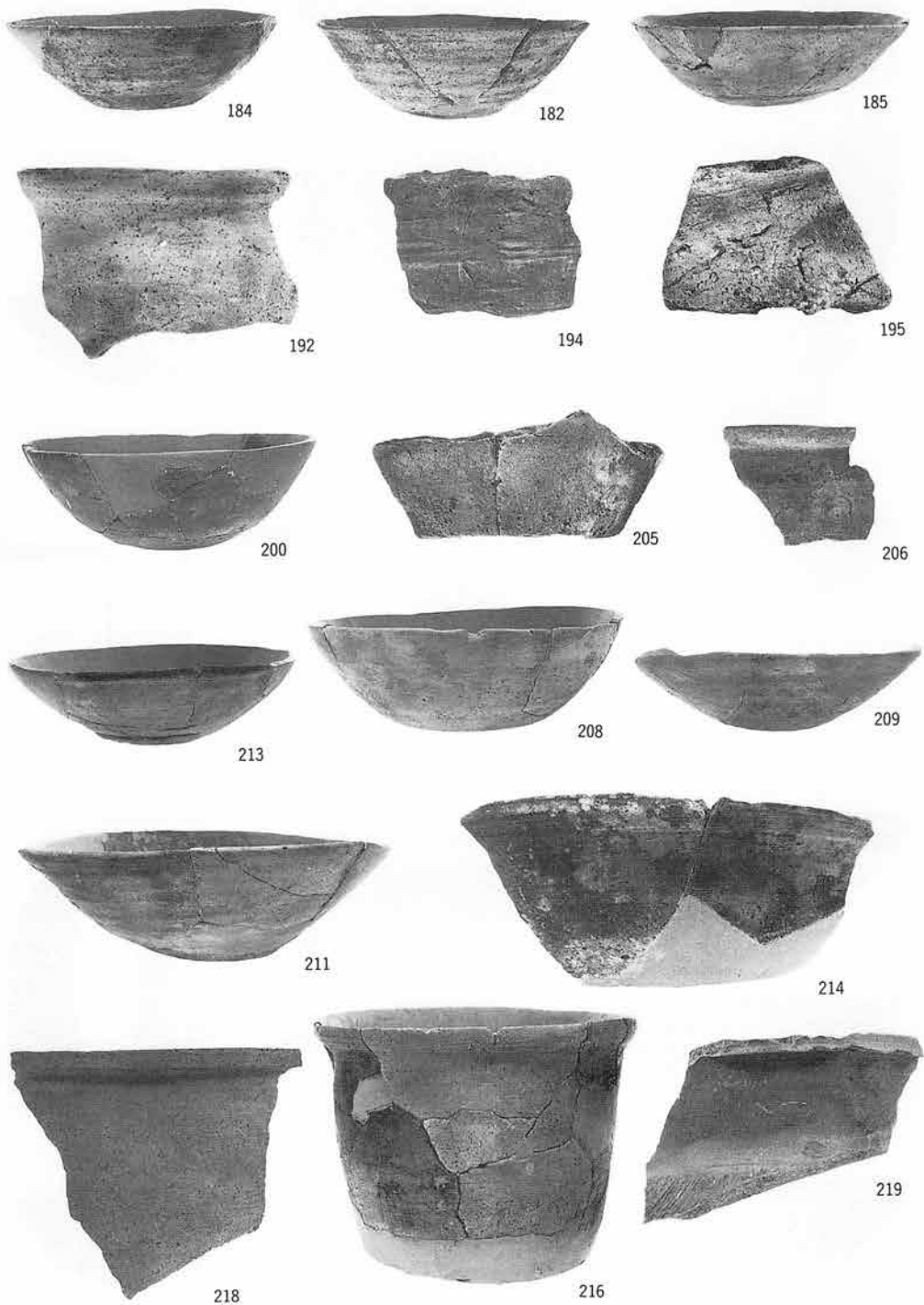


179

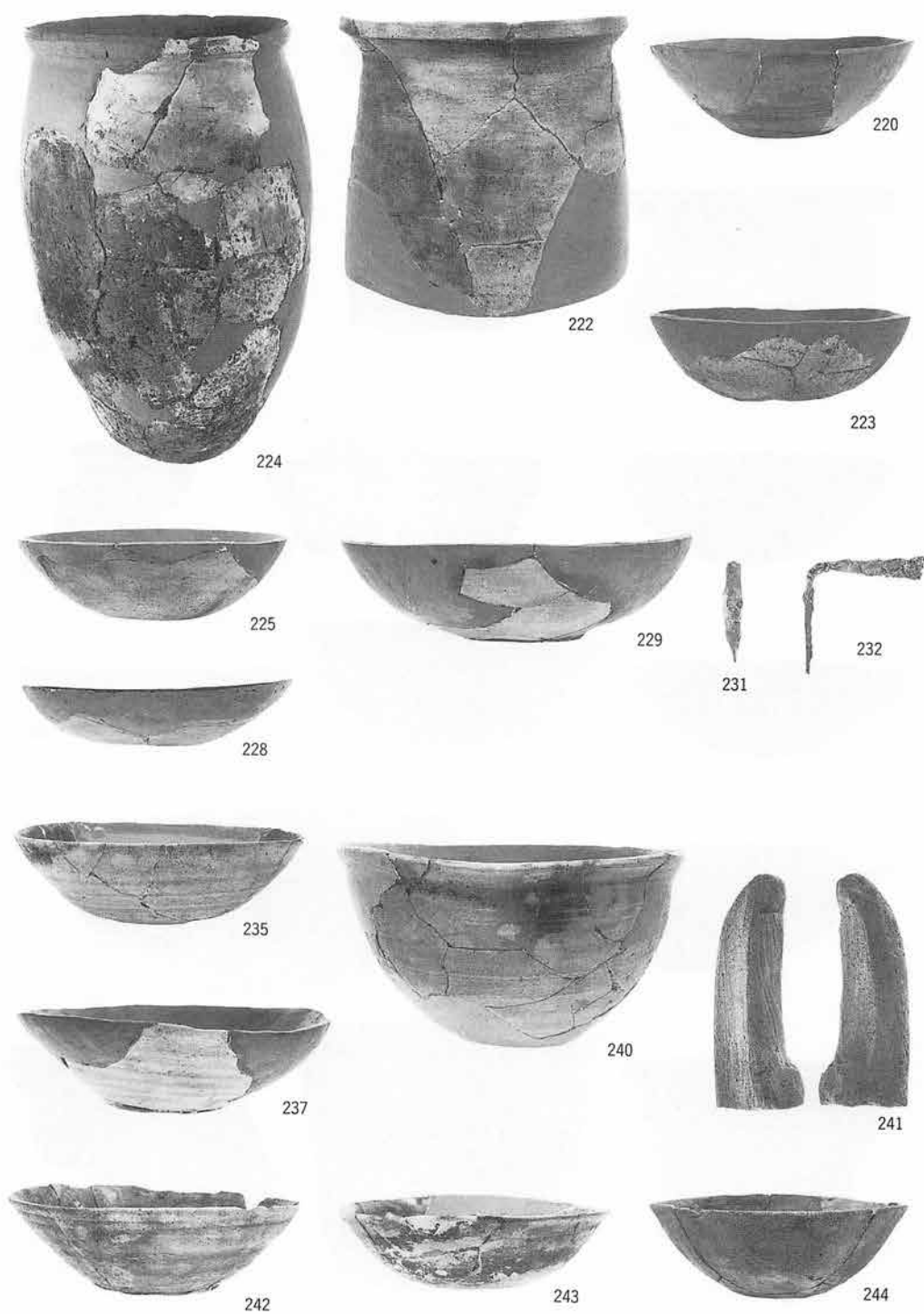


180

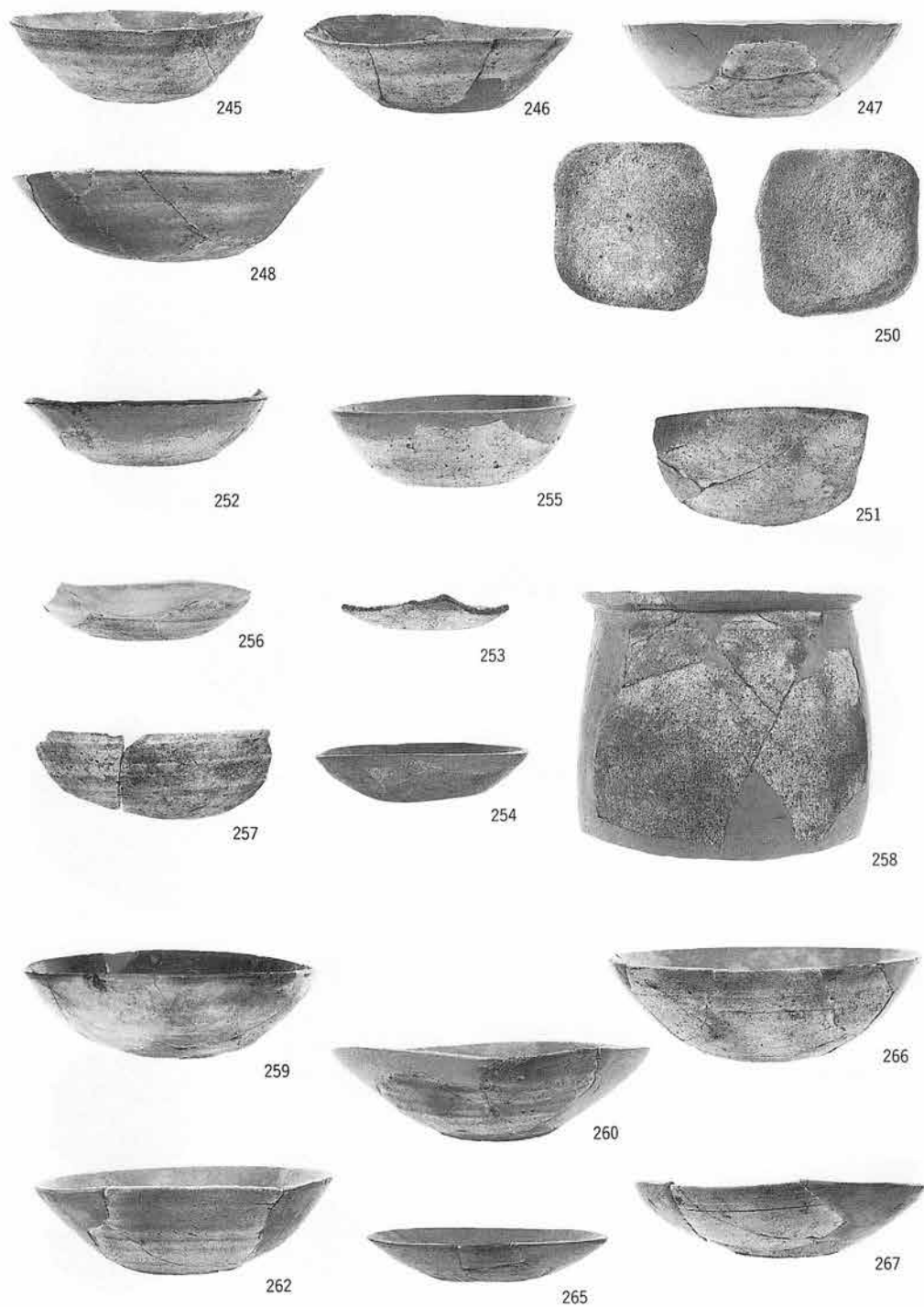
写真図版 73 遺構内出土遺物—7



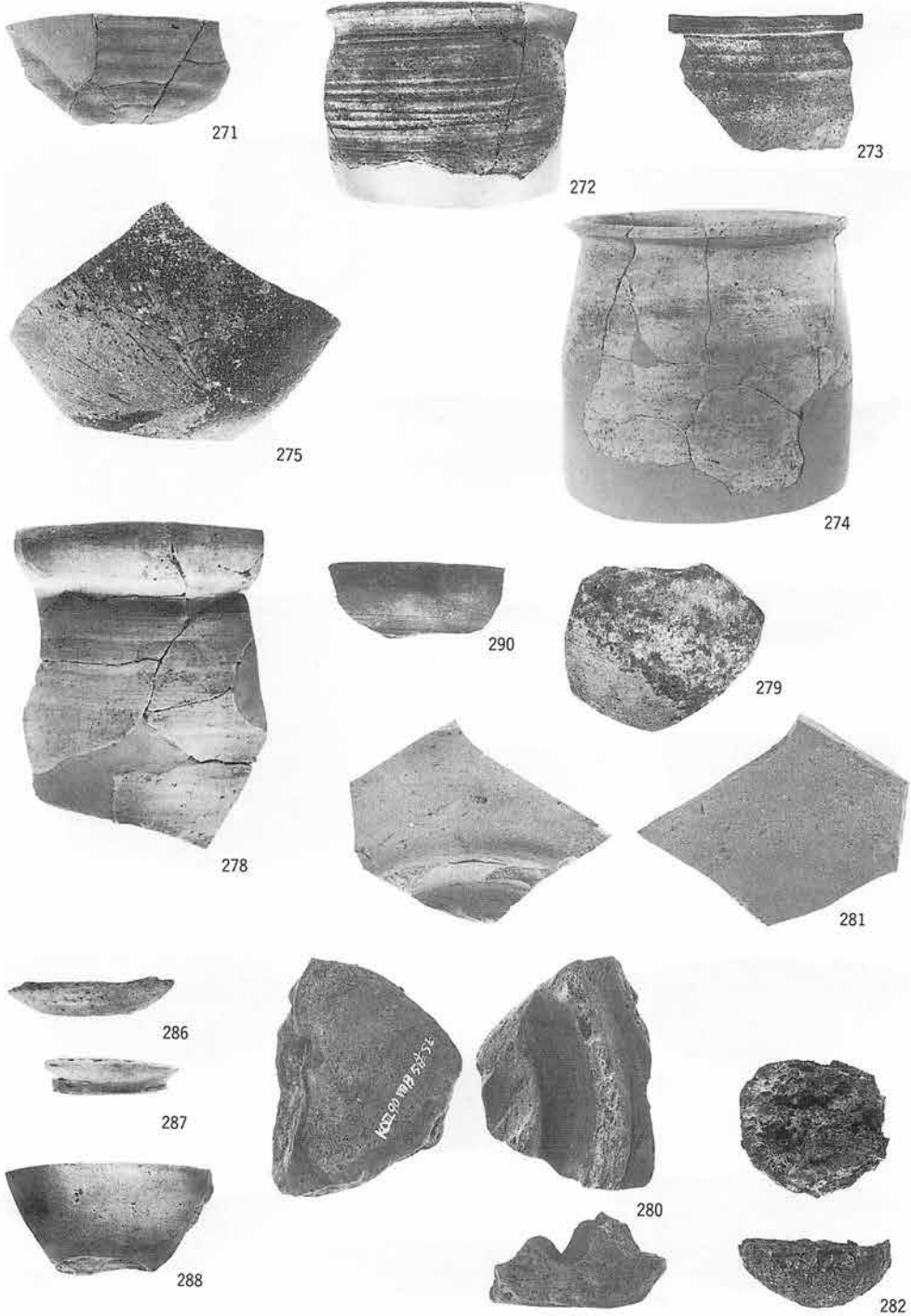
写真図版 74 遺構内出土遺物—8



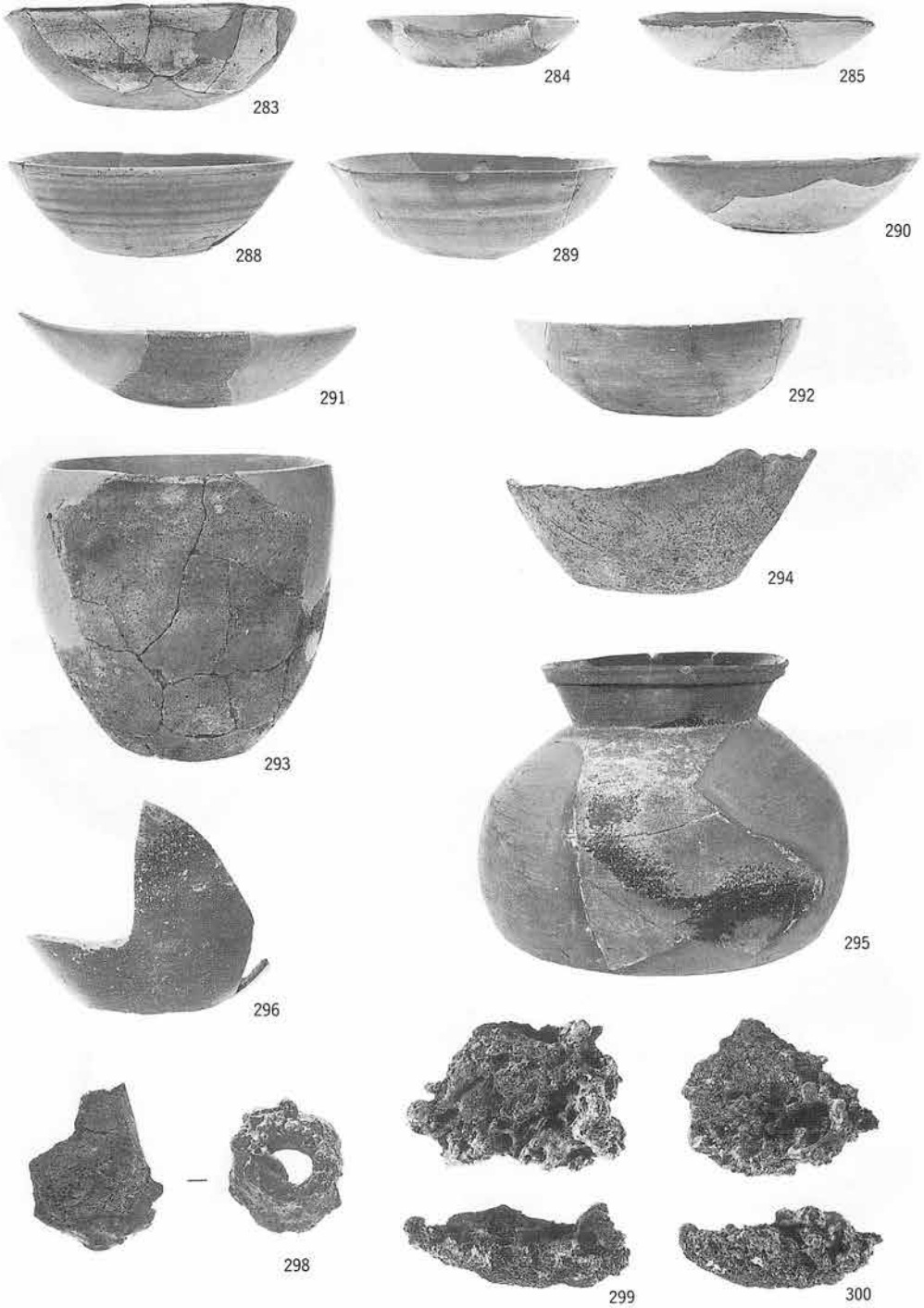
写真図版 75 遺構内出土遺物—9



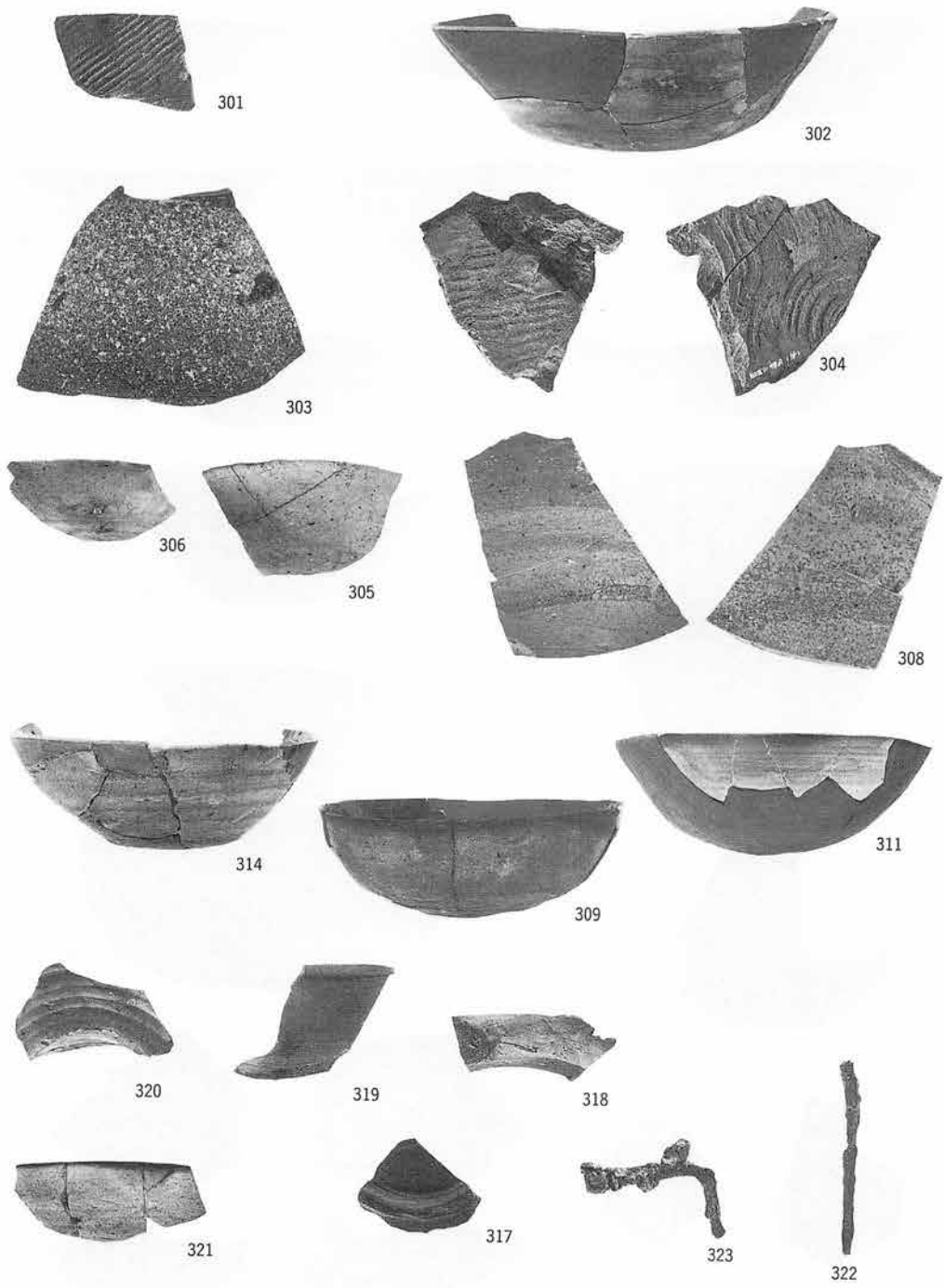
写真図版 76 遺構内出土遺物-10



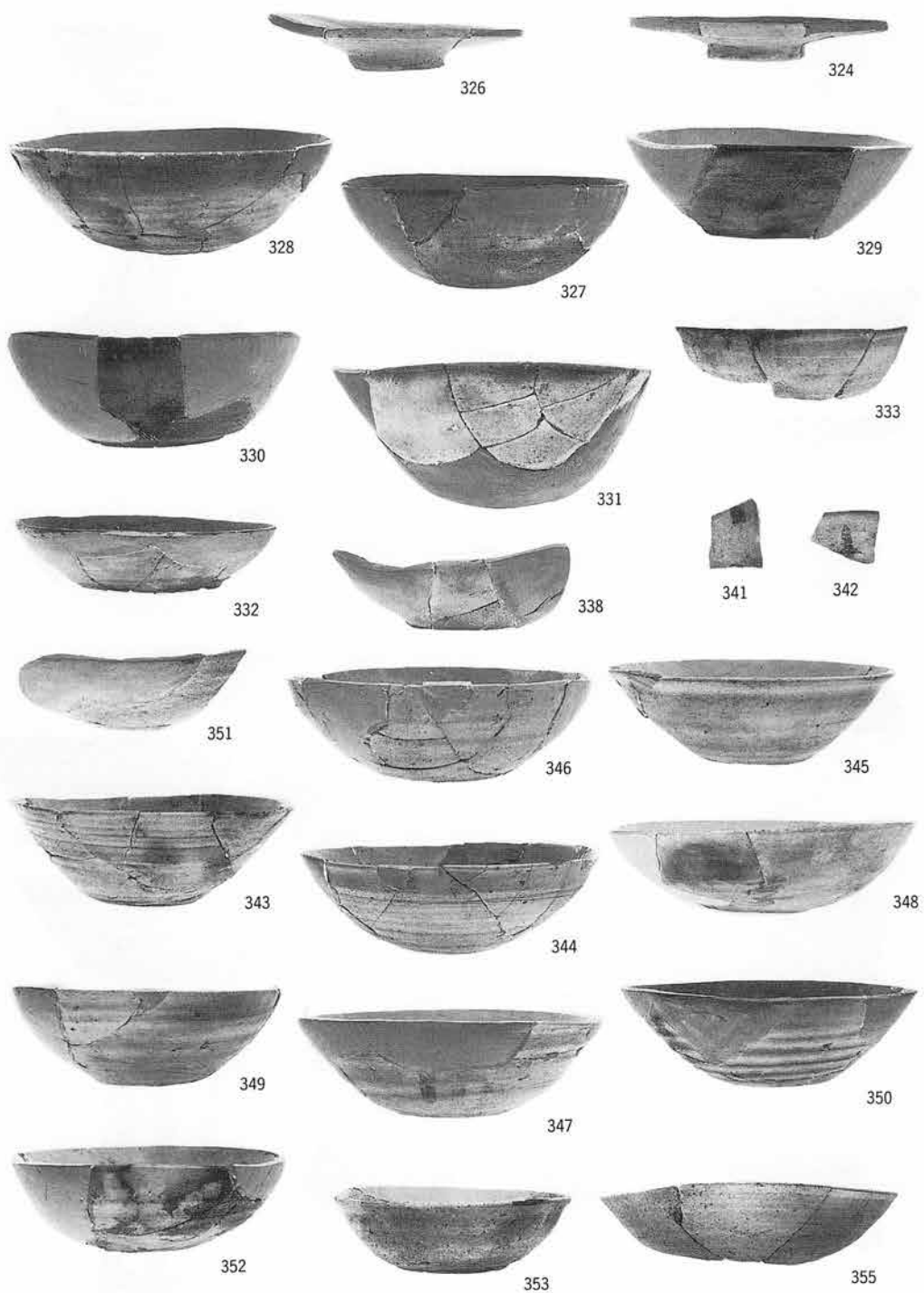
写真図版 77 遺構内出土遺物—11



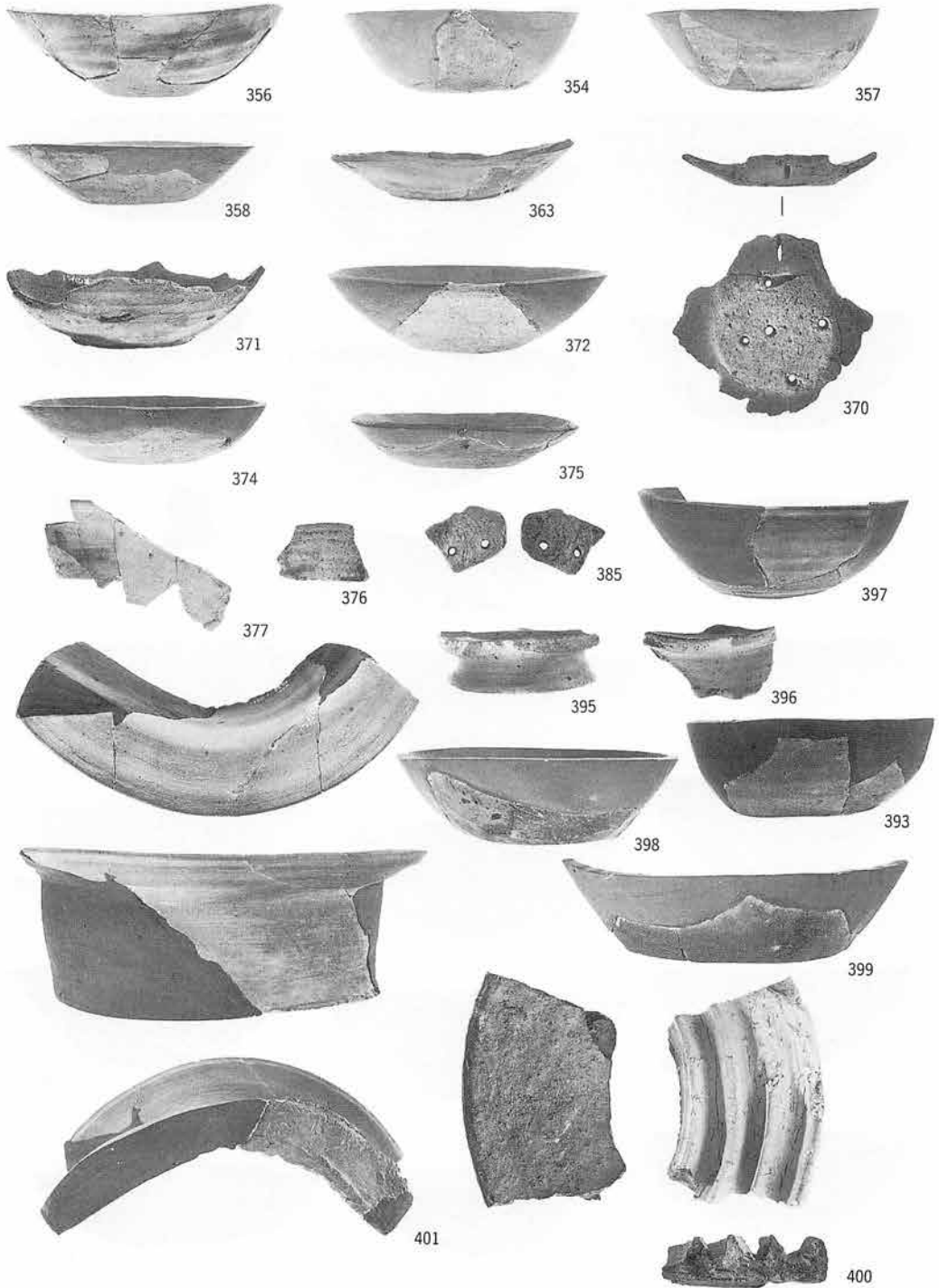
写真図版 78 遺構内出土遺物—12



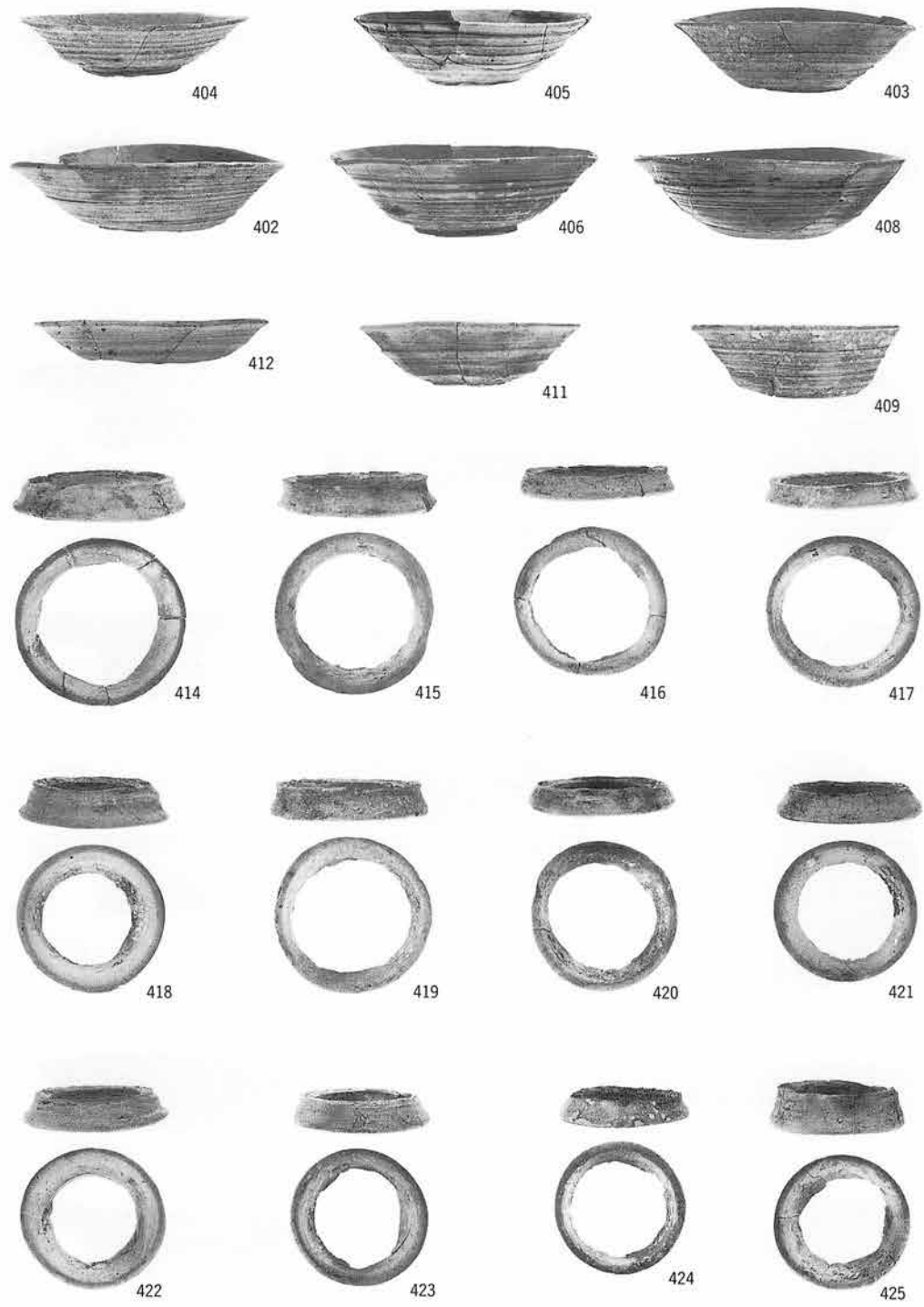
写真図版 79 遺構内出土遺物—13



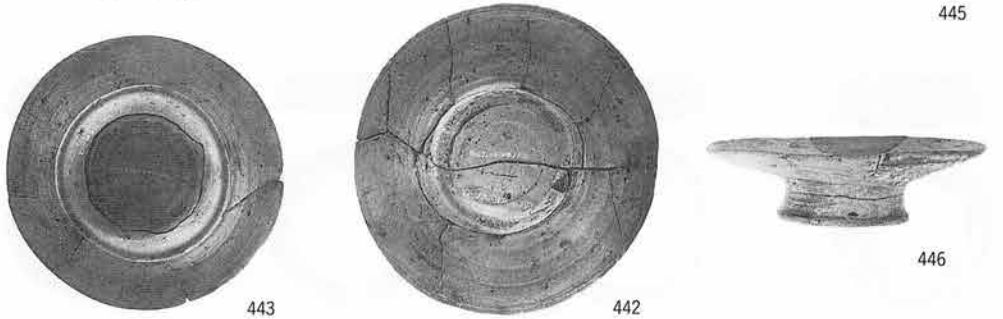
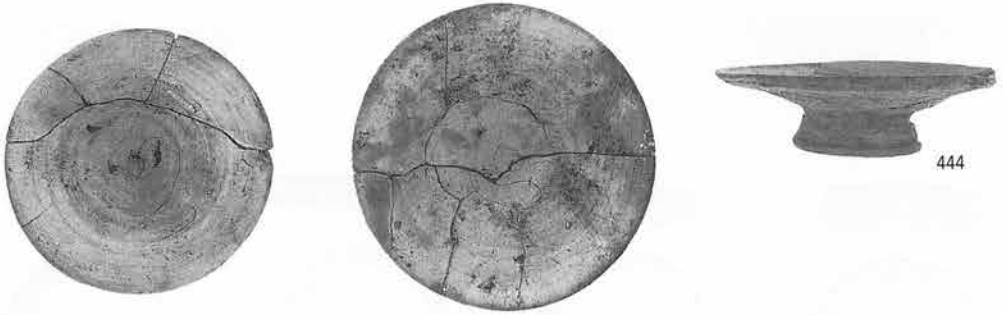
写真図版 80 遺構内出土遺物—14



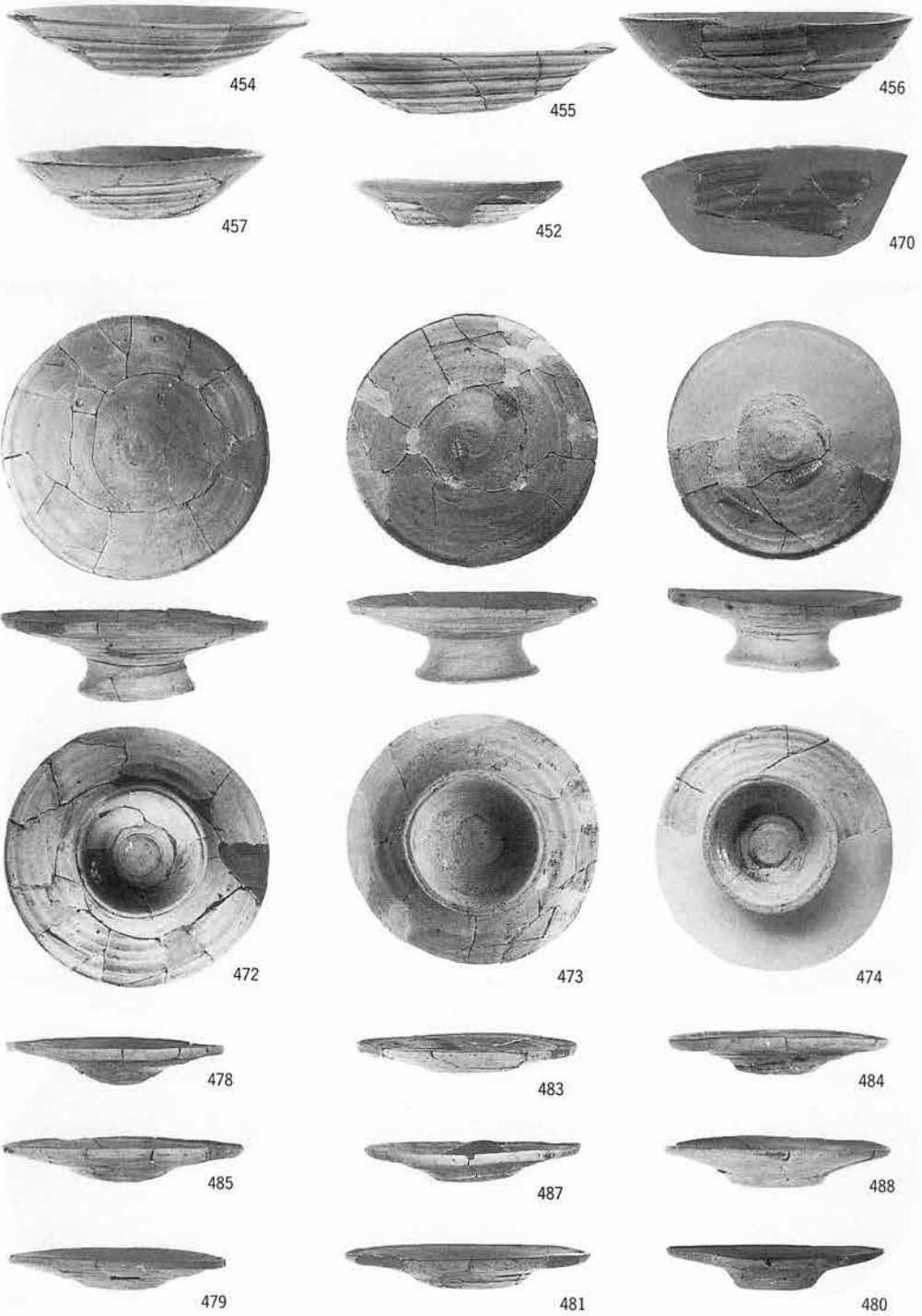
写真図版 81 遺構内出土遺物—15



写真図版 82 遺構内出土遺物—16



写真図版 83 遺構外出土遺物—17



写真図版 84 遺構内出土遺物—18



475



476



477

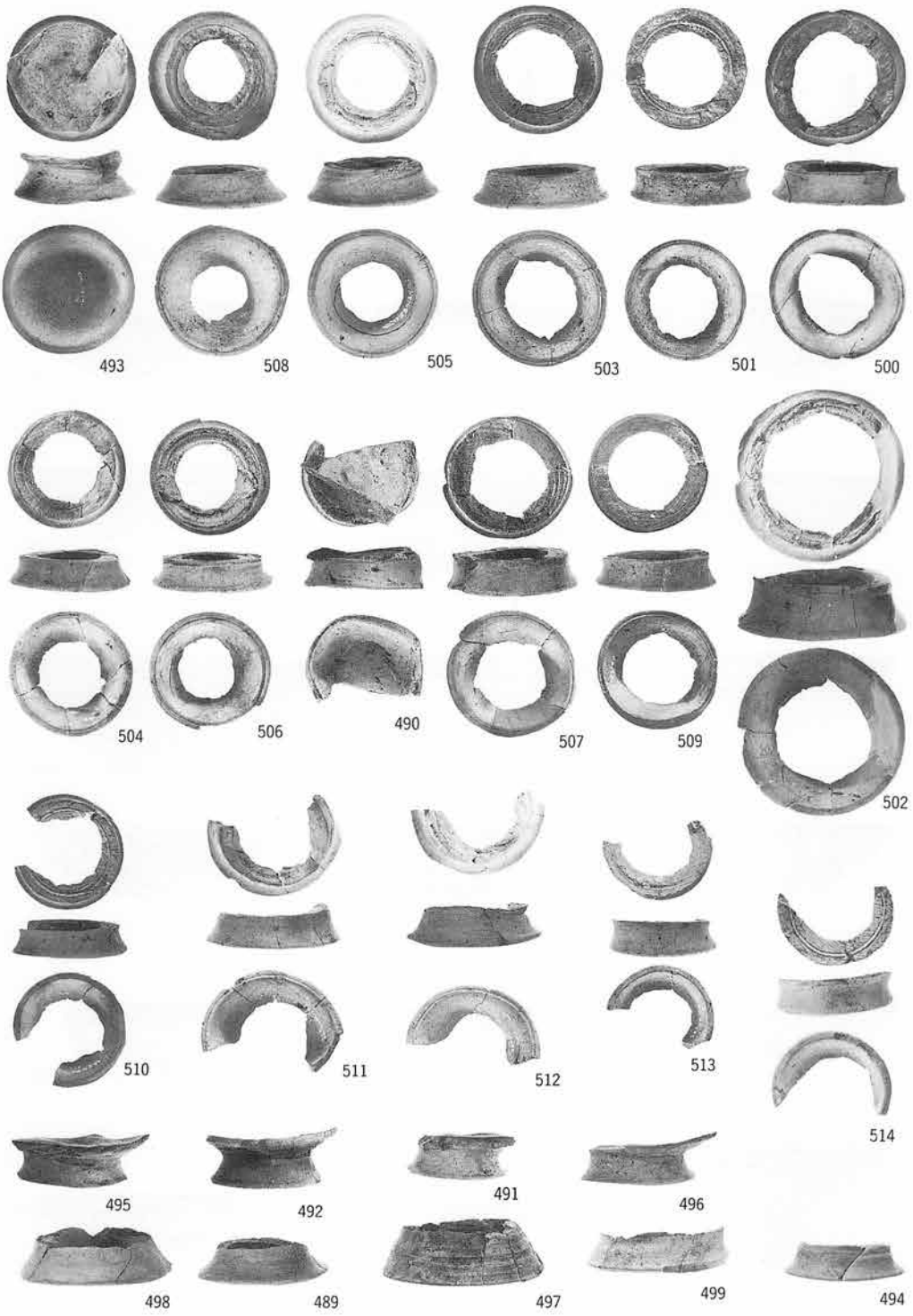


482

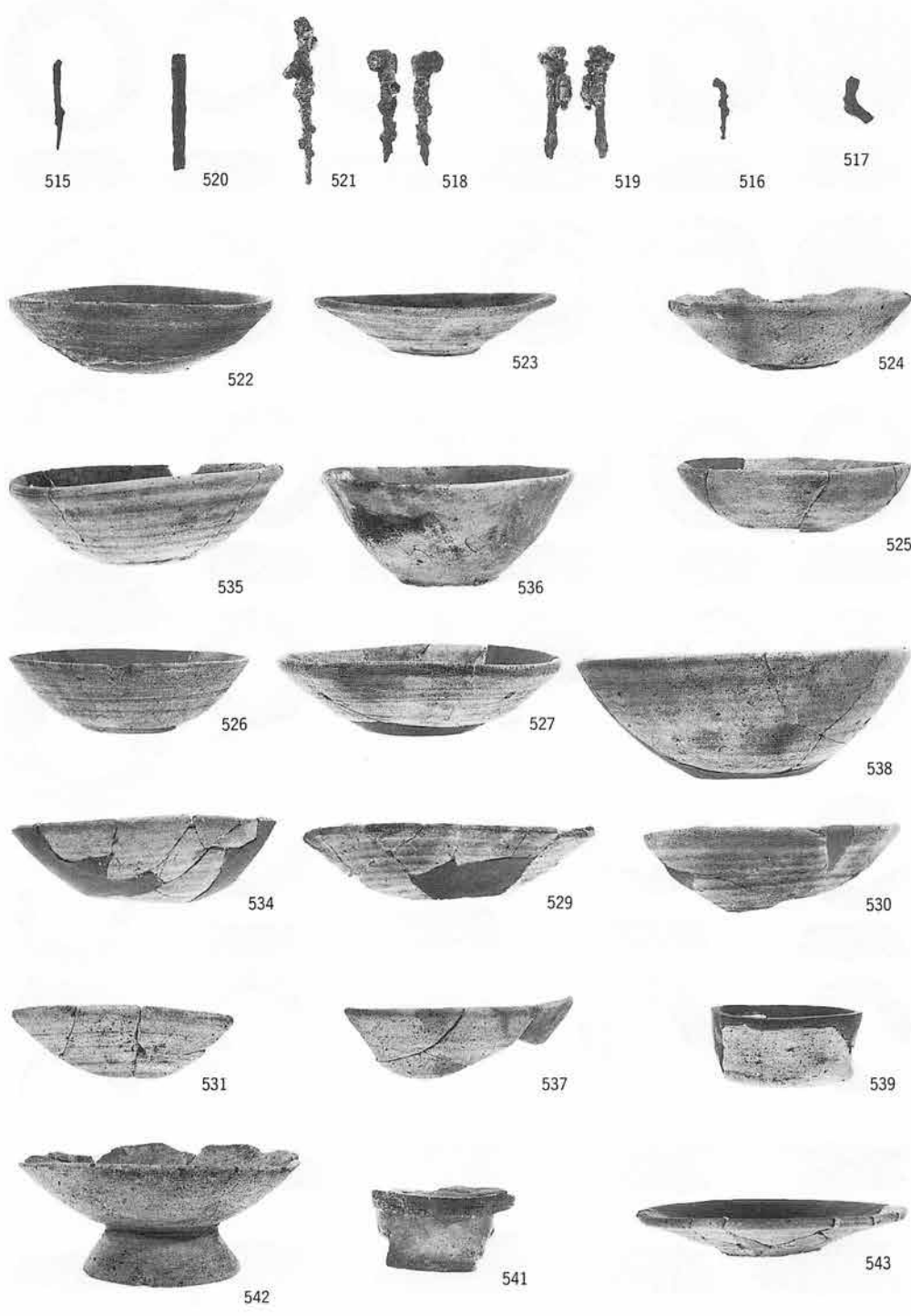
486

469

写真図版 85 遺構内出土遺物—19



写真図版 86 遺構内出土遺物—20



写真図版 87 遺構内出土遺物—21



544



545



546



547

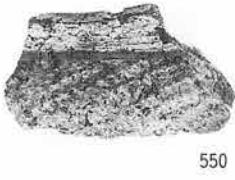


548



549

写真図版 88 遺構内出土遺物—22



550



551



552



553



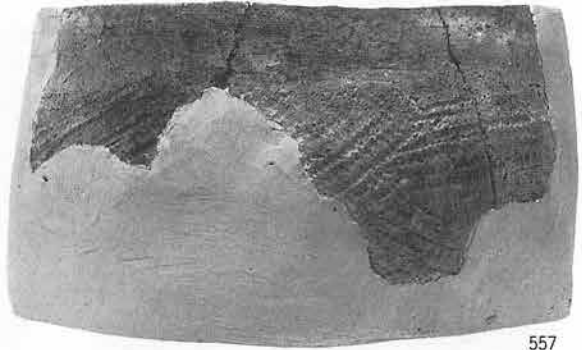
554



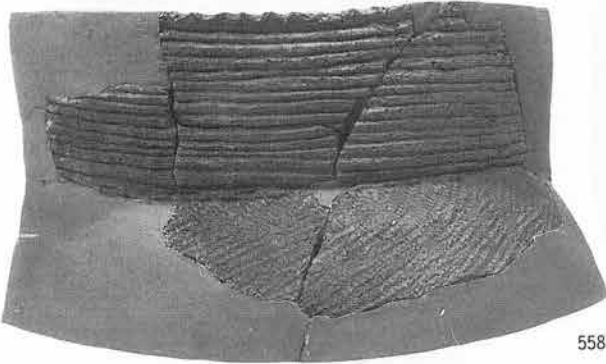
555



556



557



558



558

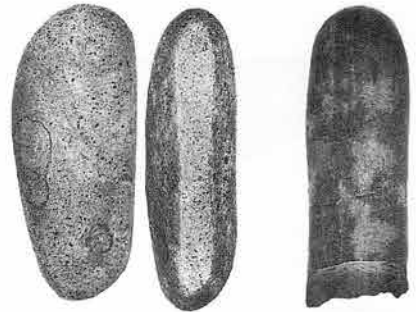
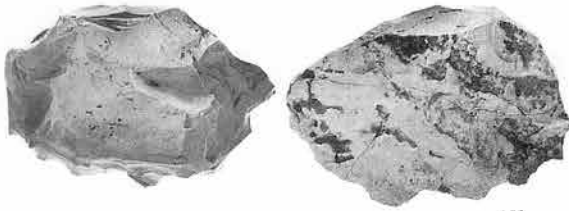
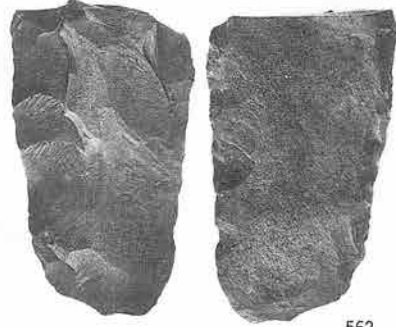
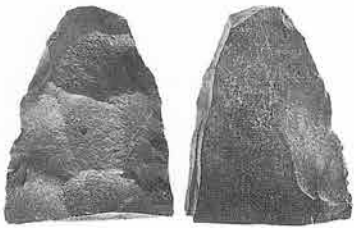


567



569

写真図版 89 遺構内出土遺物—23



写真図版 90 遺構内出土遺物—24



570



571



573



572



575



577



578



579



580



581



584



587



588



589



590



592

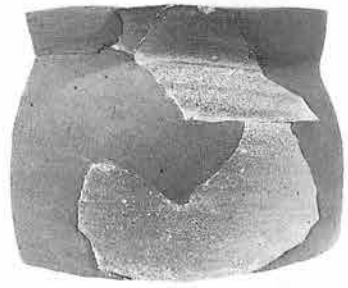
写真図版 91 遺構内出土遺物—25



595



597



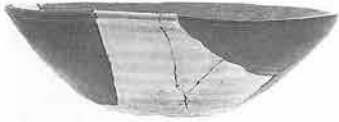
600



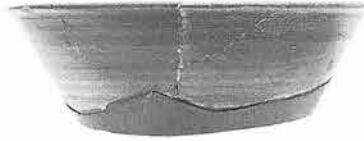
598



599



601



602



604



605



606



607



608

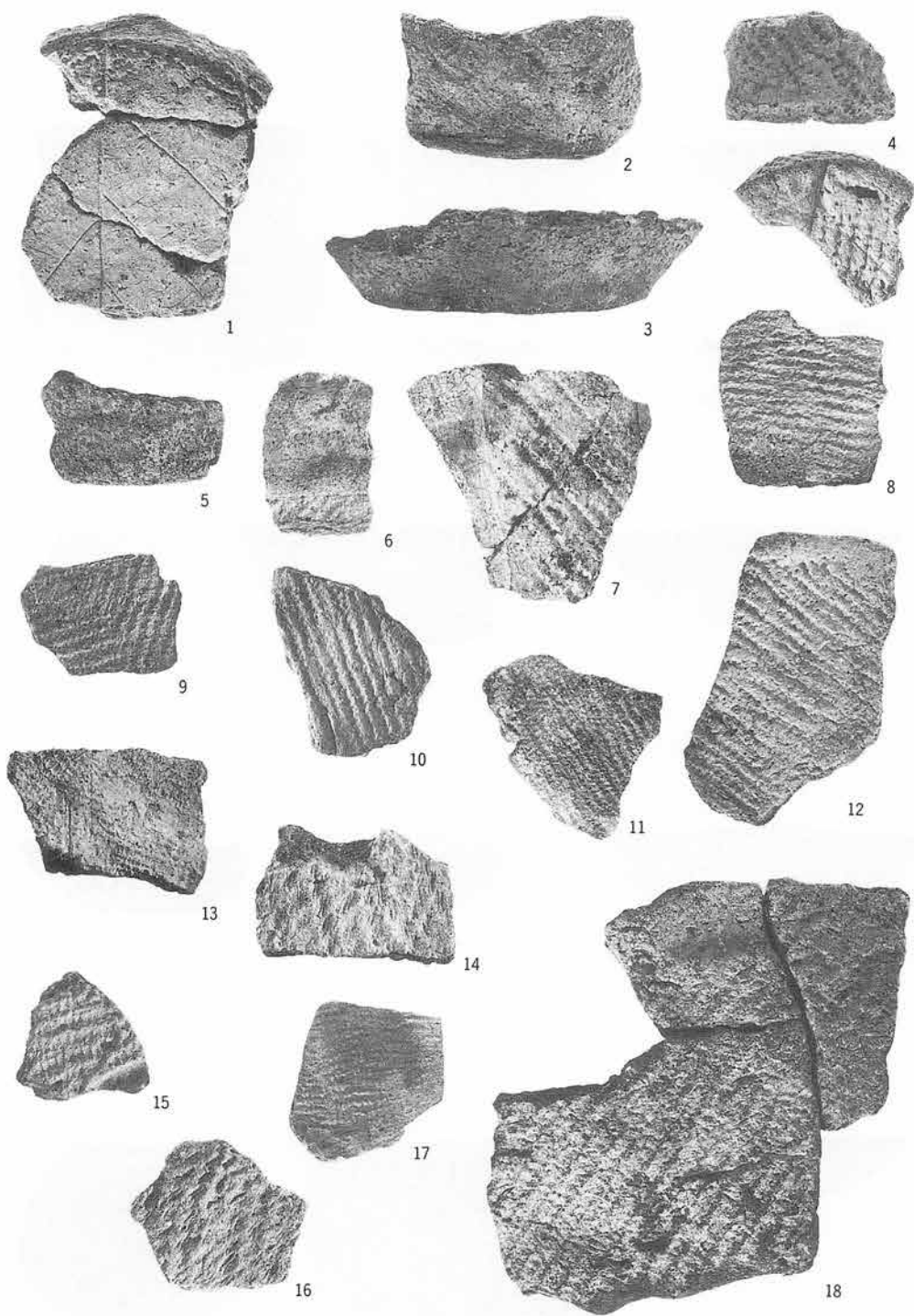


609

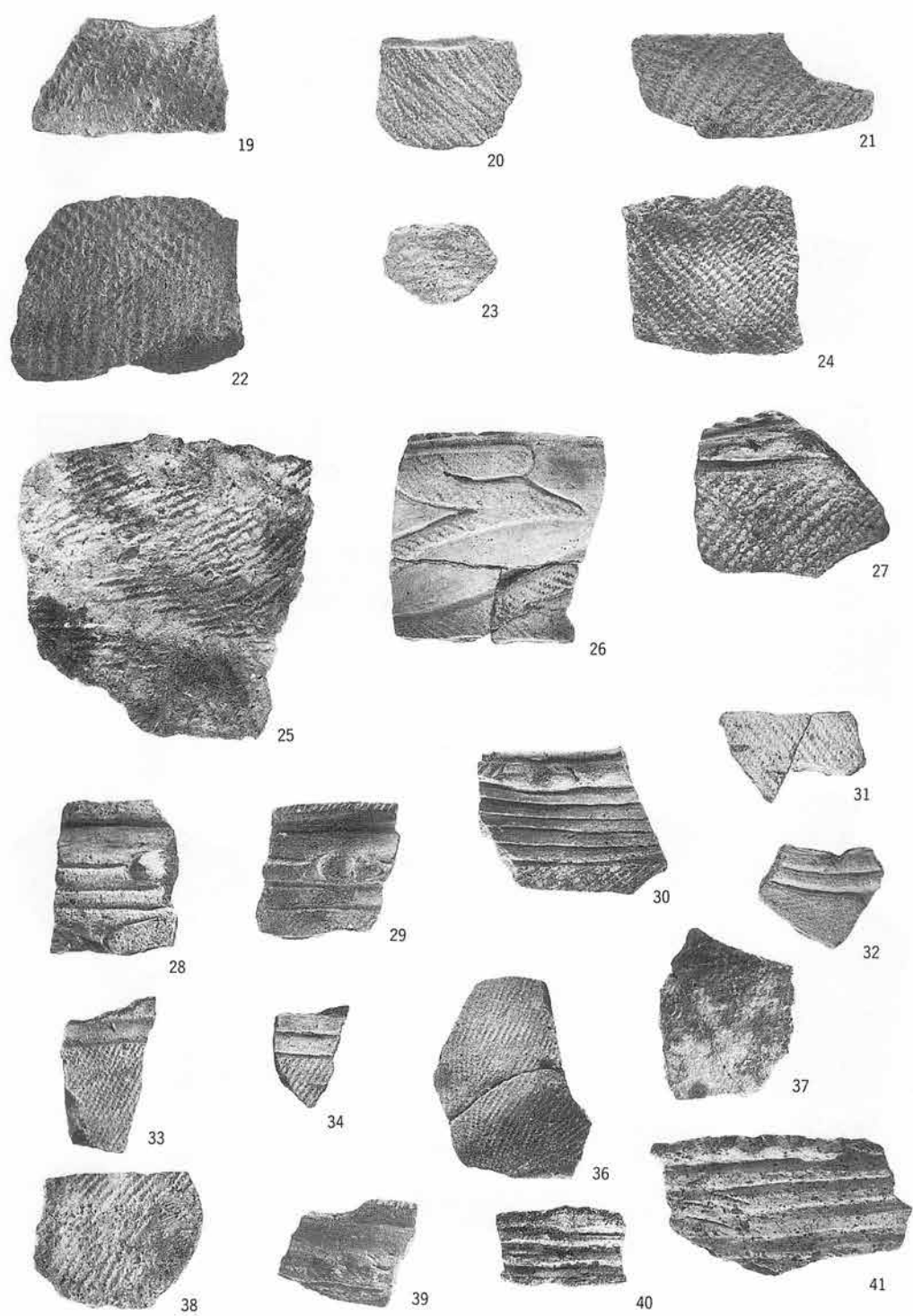


610

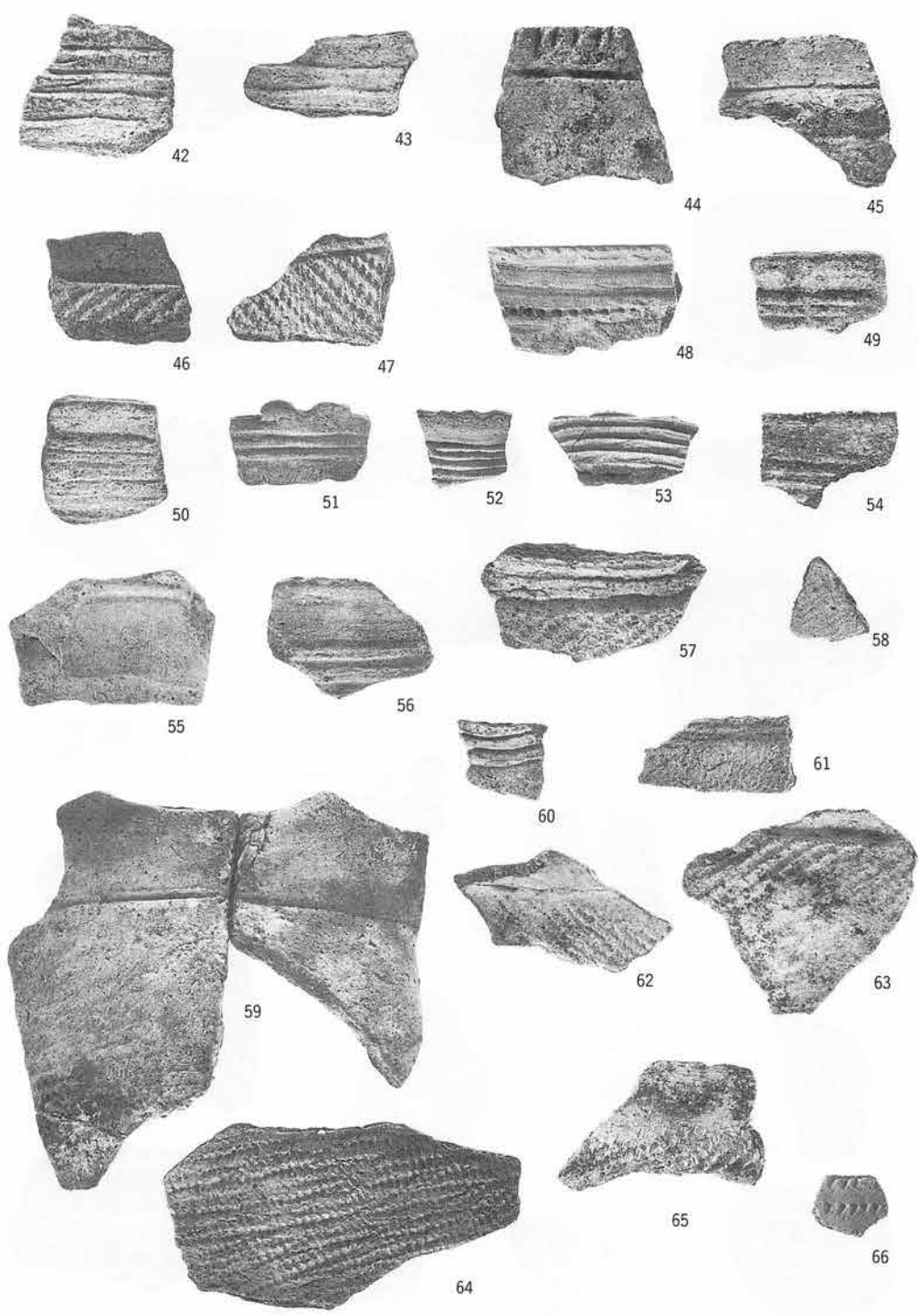
写真図版 92 遺構内出土遺物—26



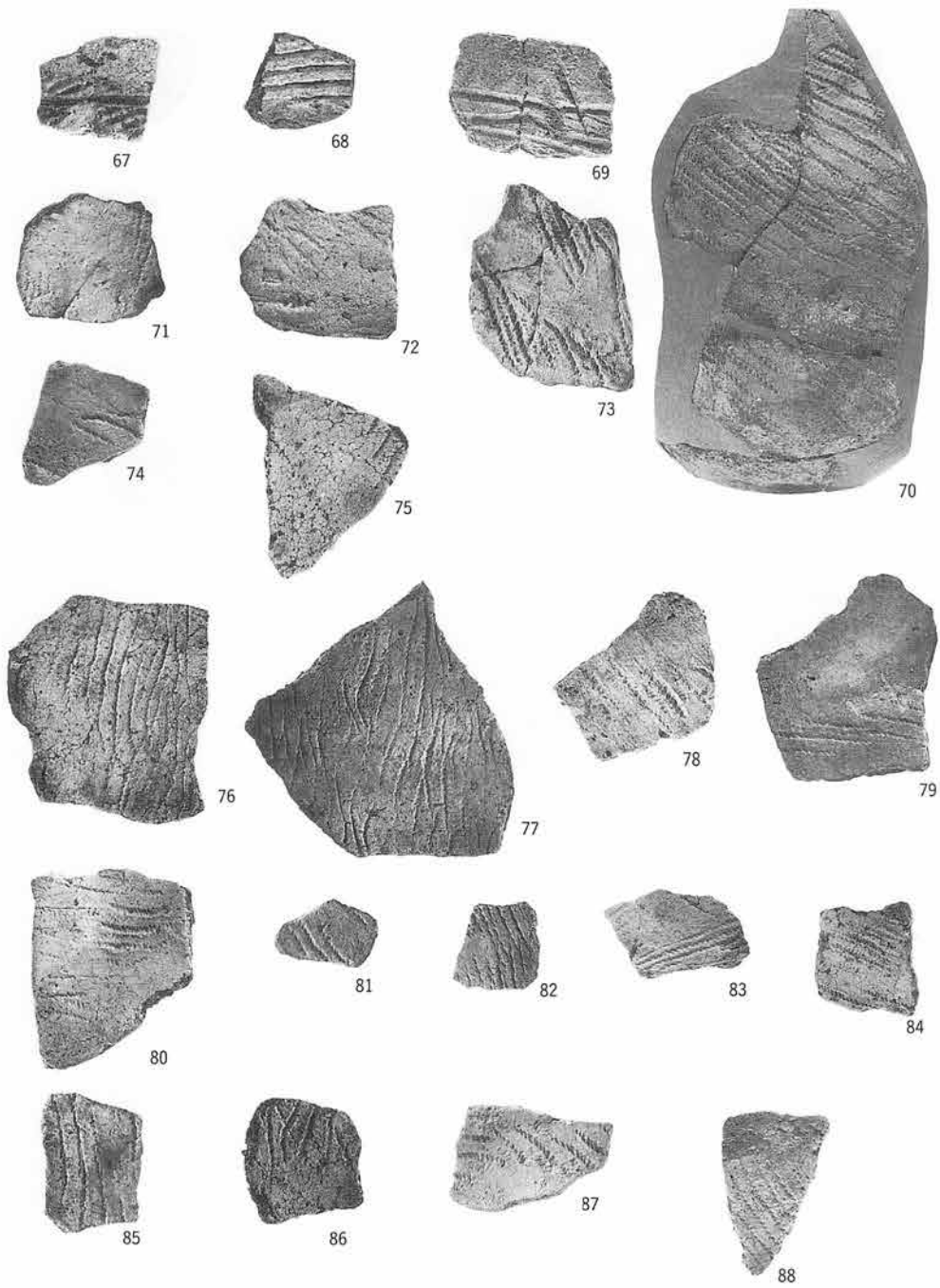
写真図版 93 遺構外出土遺物-1



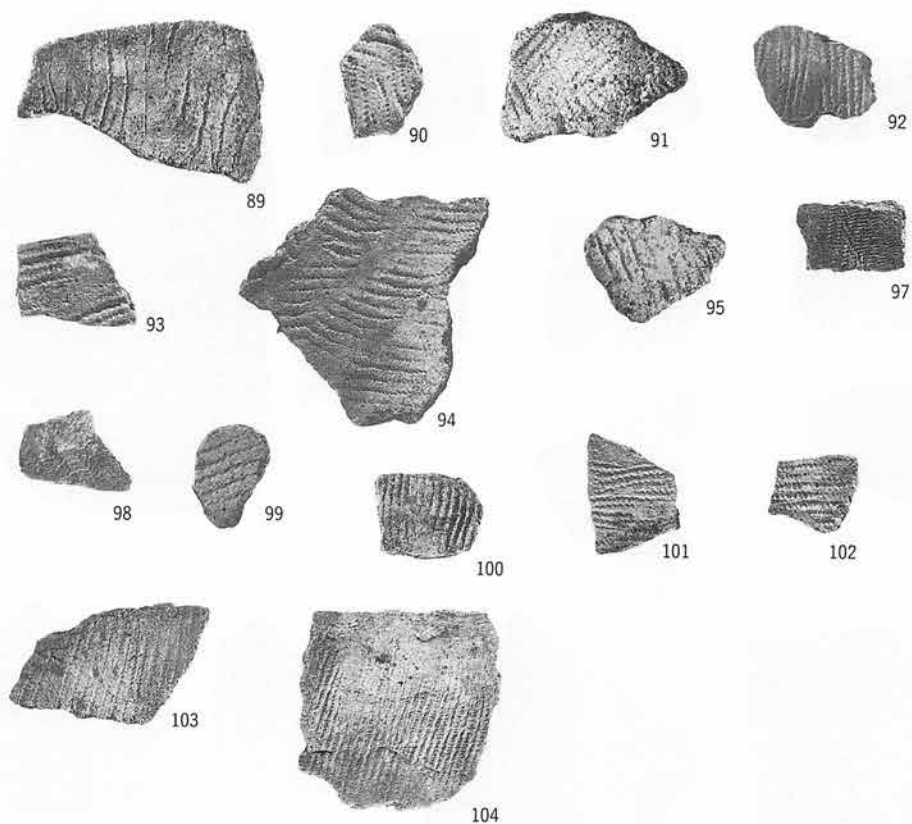
写真図版 94 遺構外出土遺物一2



写真図版 95 遺構外出土遺物—3



写真図版 96 遺構外出土遺物—4



写真図版 97 遺構外出土遺物—5



106



107



108



109



110



111



112



126



131



132



133



134



135



136



137



139



140



141



142



143



144



145

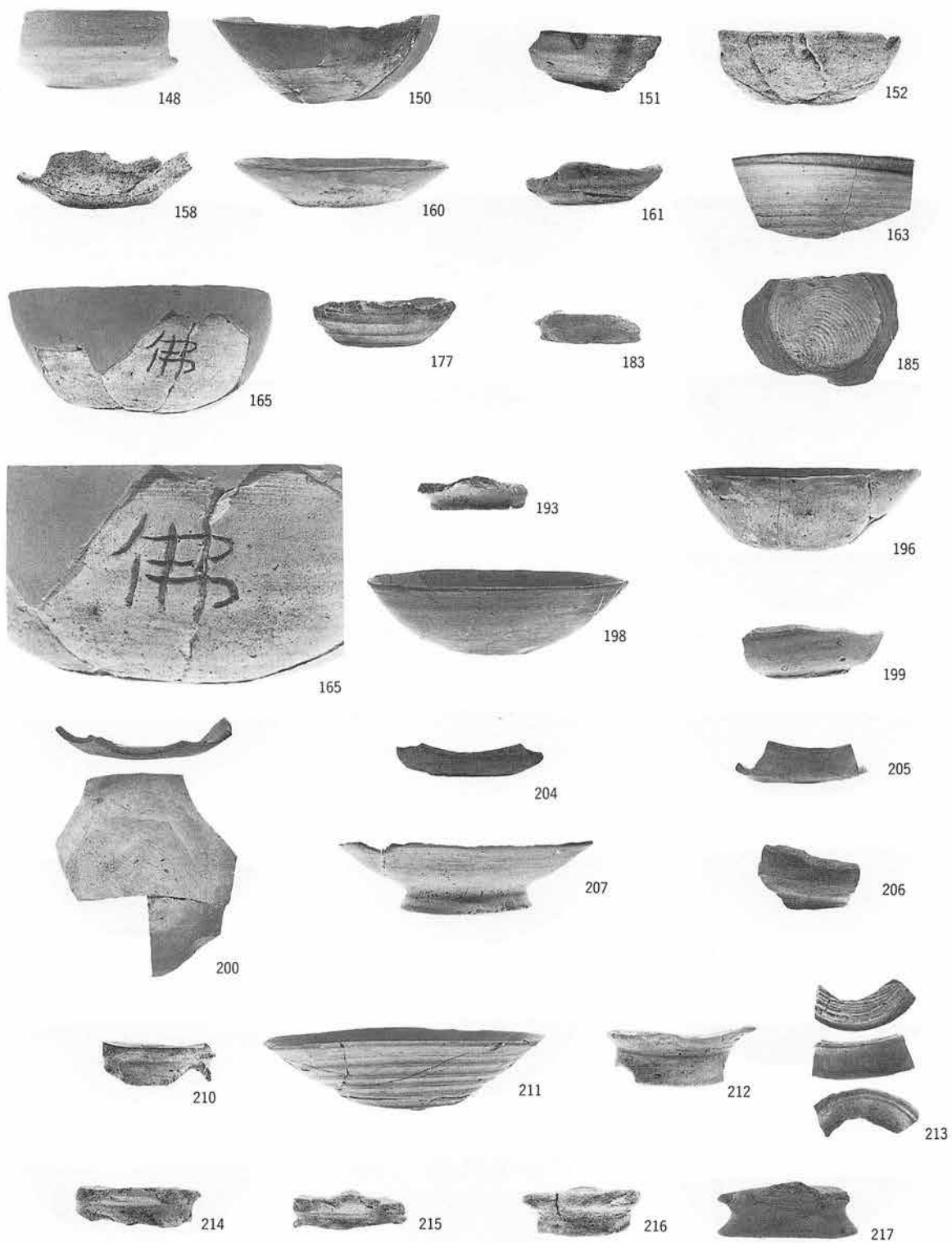


146

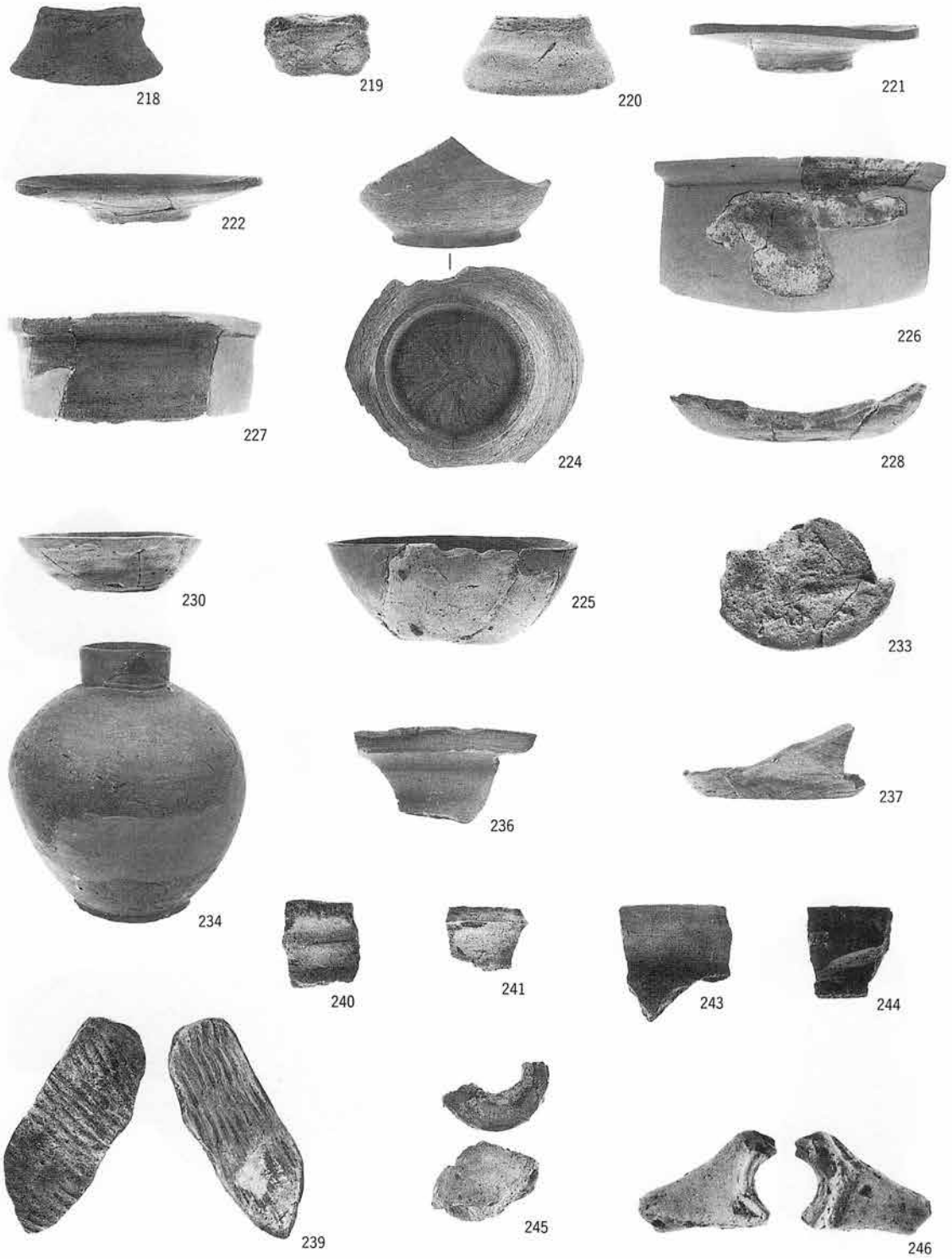


147

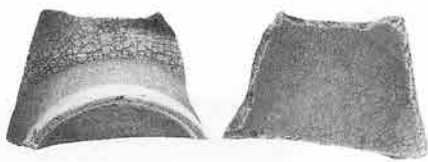
写真図版 98 遺構外出土遺物—6



写真図版 99 遺構外出土遺物—7



写真図版 100 遺構外出土遺物—8



247



249



250



251



252



253



254



255



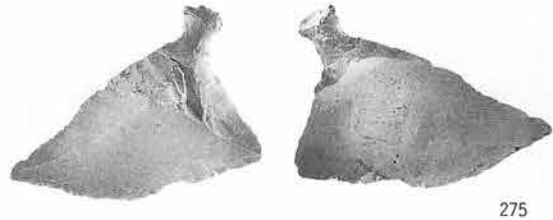
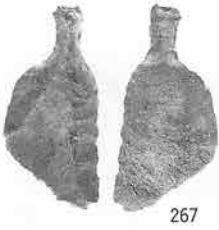
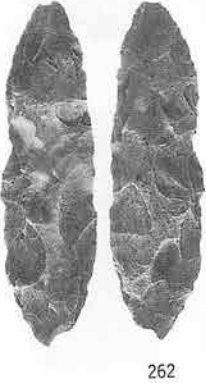
256



257



258



写真図版 102 遺構外出土遺物-10



276



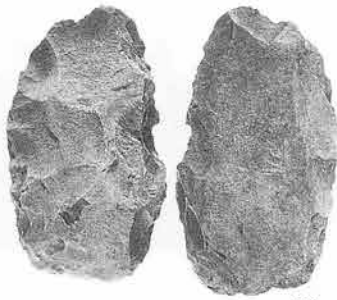
277



278



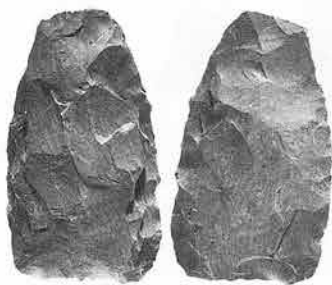
279



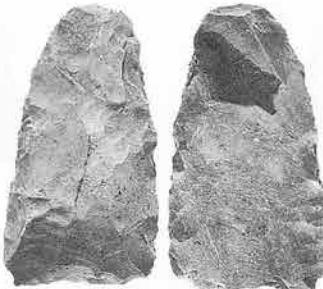
280



281



282



283



284



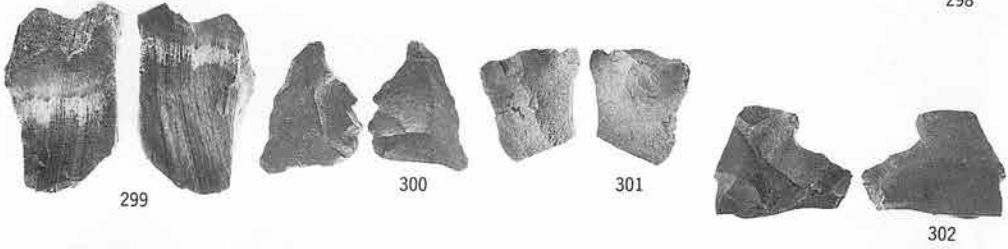
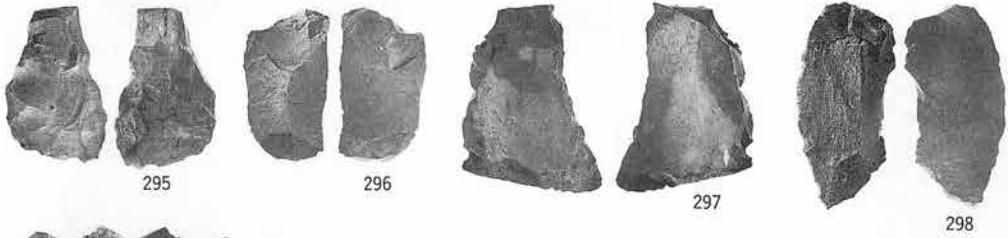
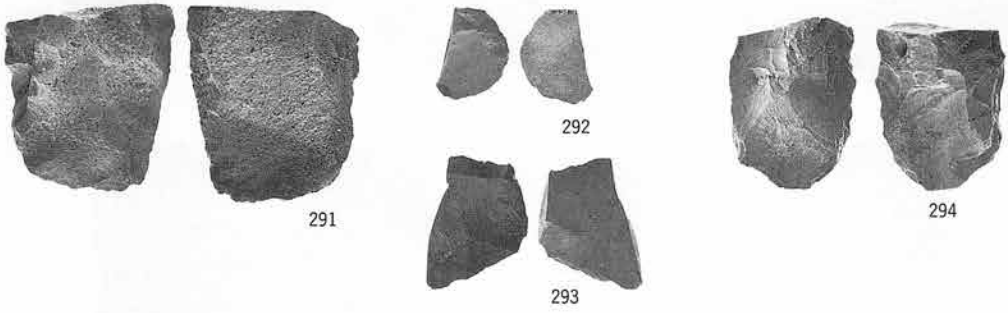
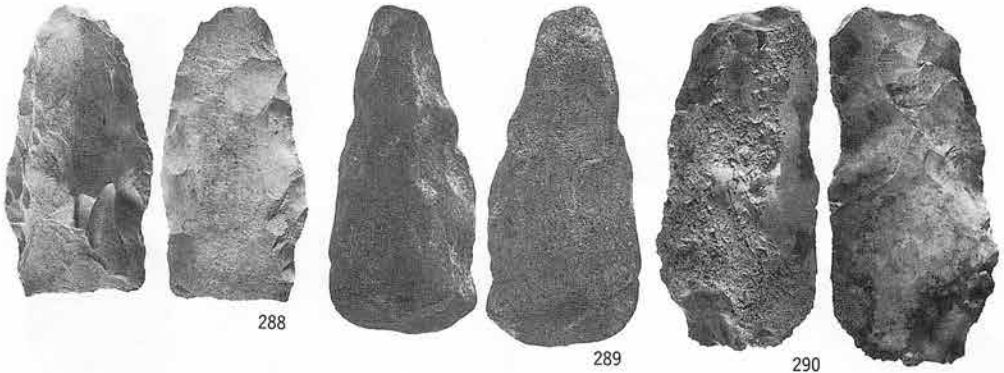
285



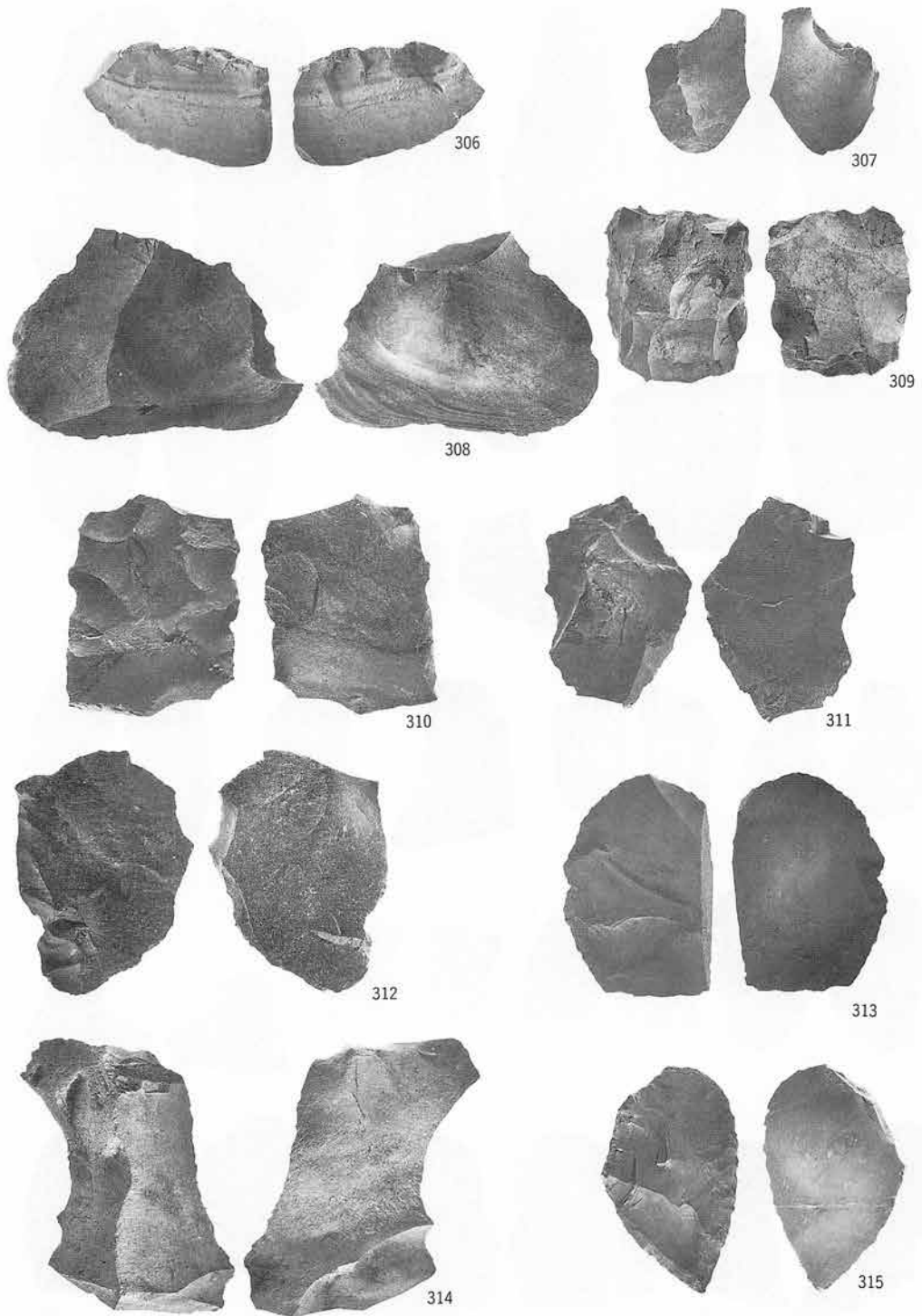
286



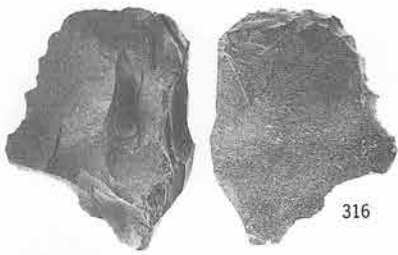
287



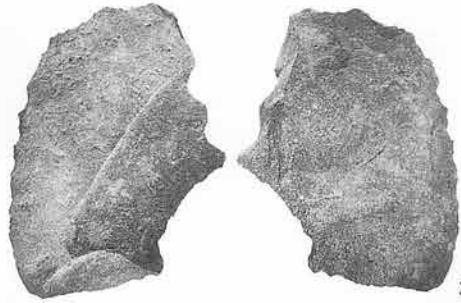
写真図版 104 遺構外出土遺物-12



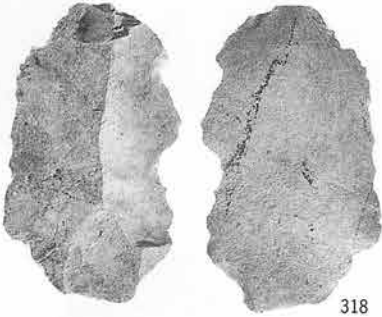
写真図版 105 遺構外出土遺物—13



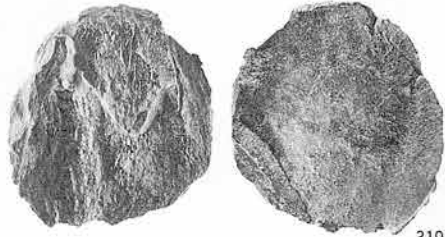
316



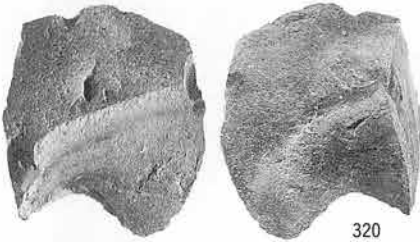
317



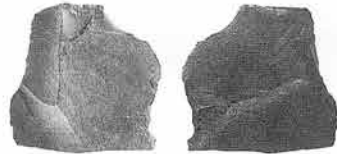
318



319



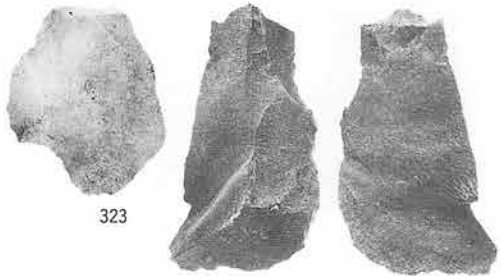
320



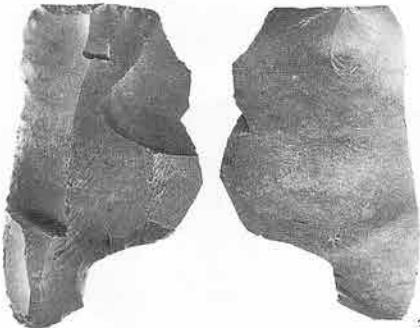
321



322



323

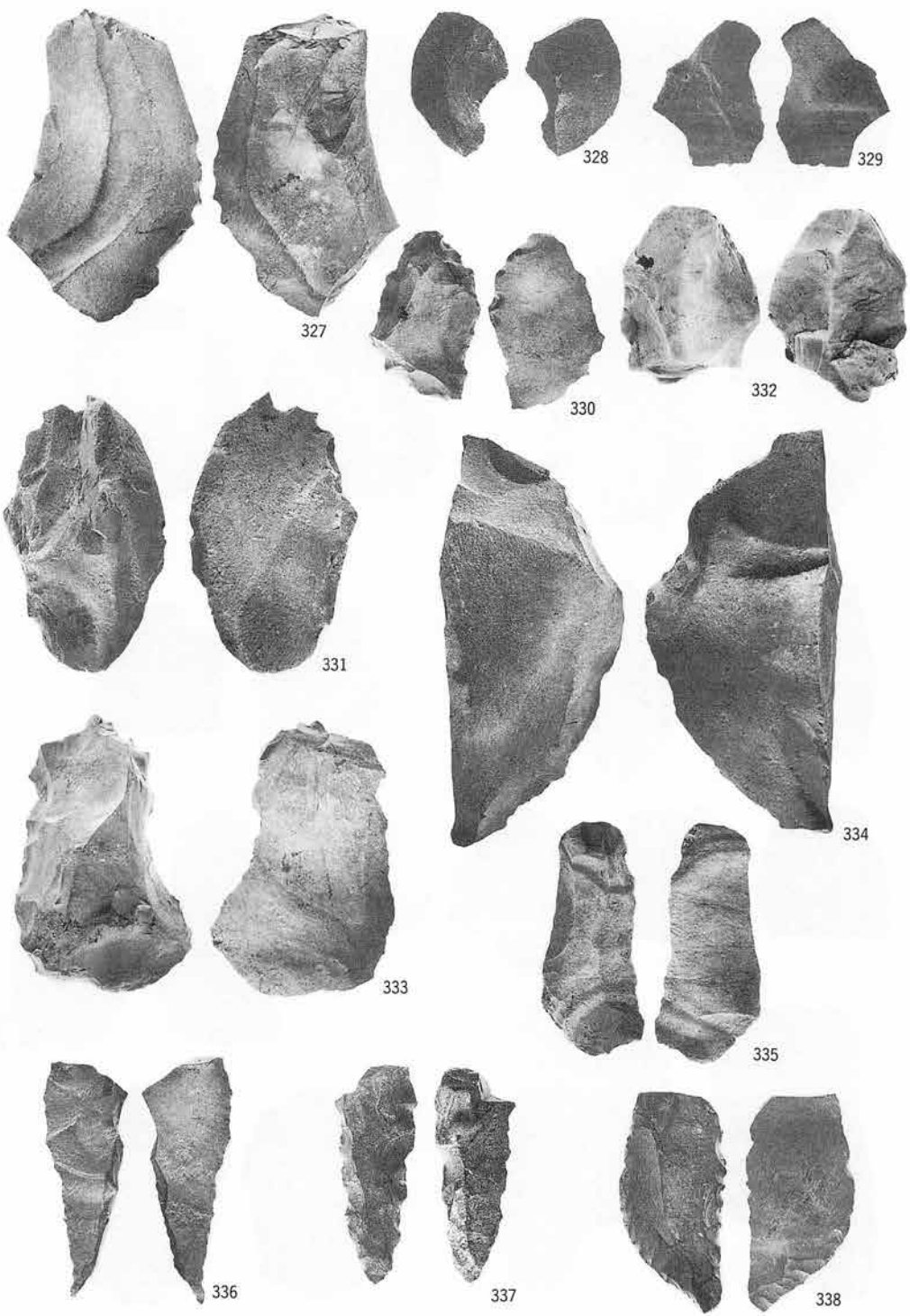


326

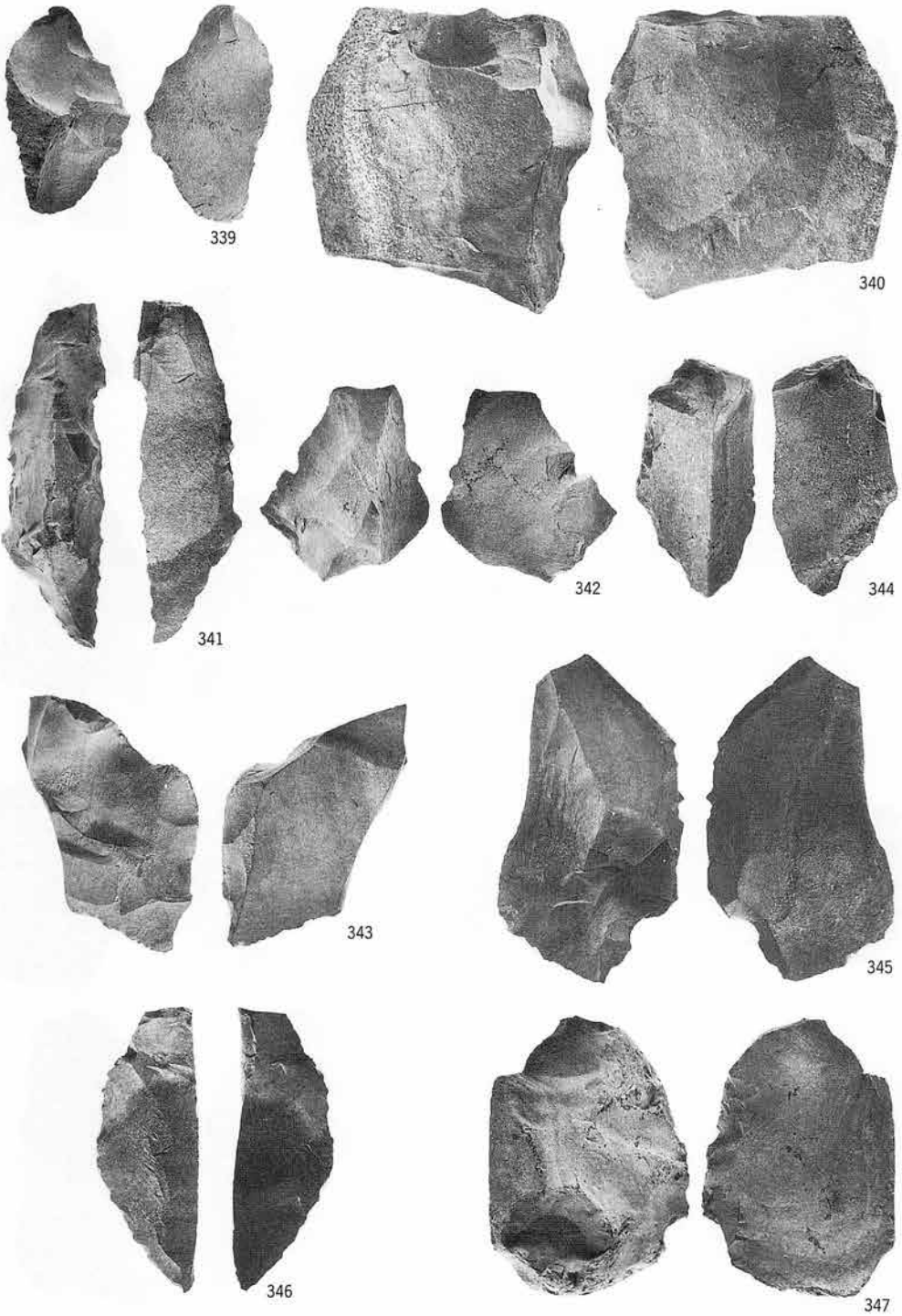


325

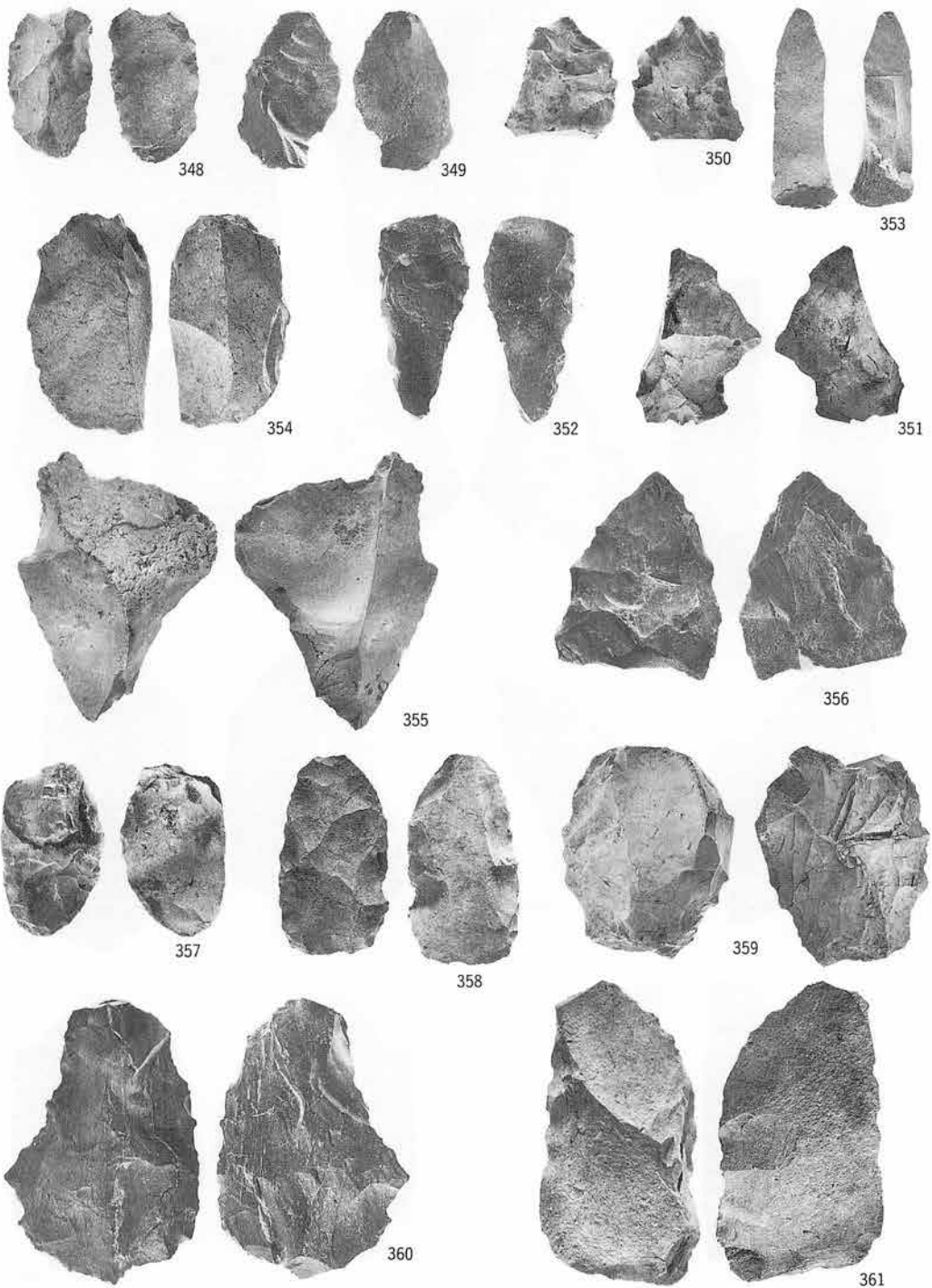
324



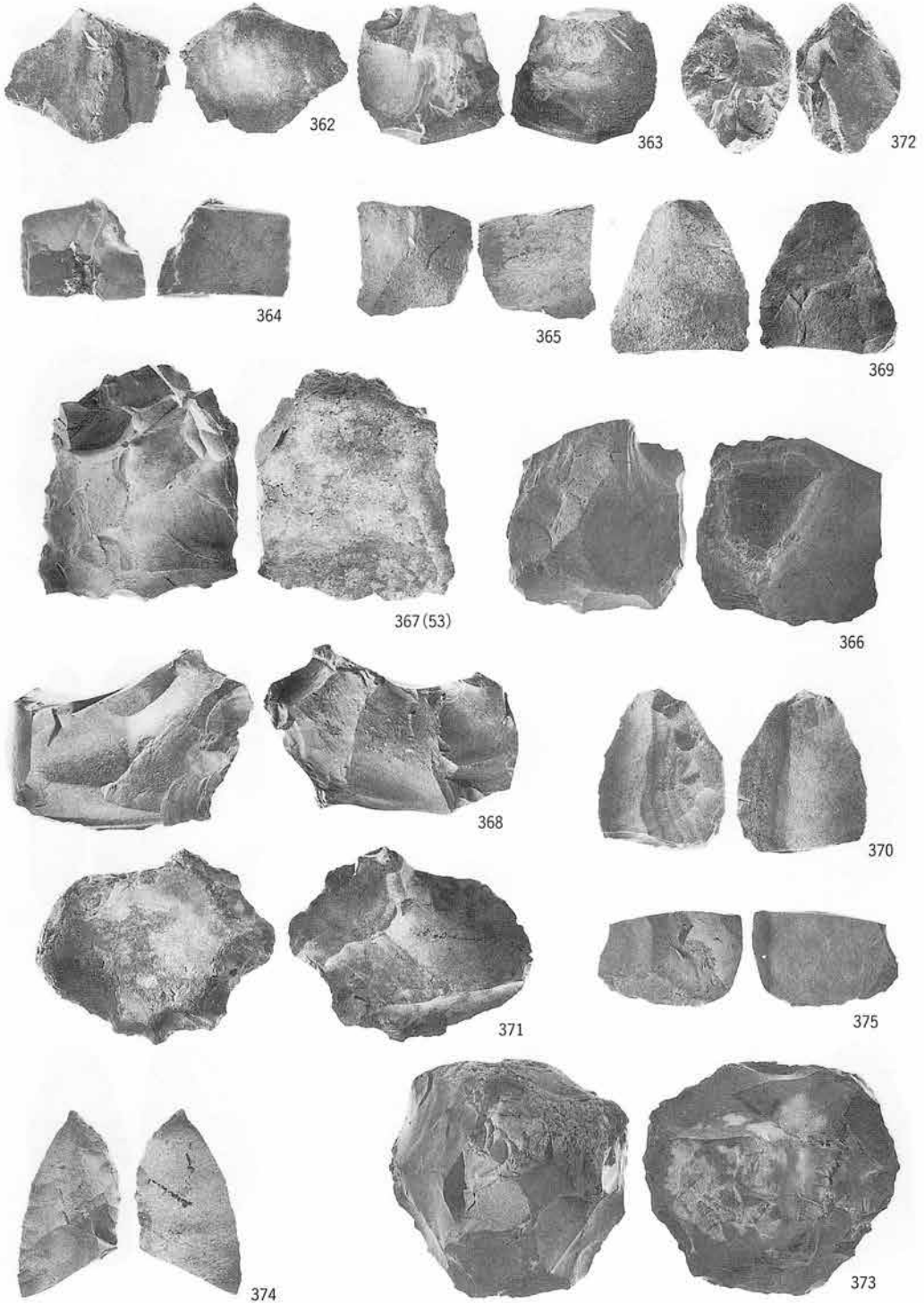
写真図版 107 遺構外出土遺物—15



写真図版 108 遺構外出土遺物—16



写真図版 109 遺構外出土遺物—17



写真図版 110 遺構外出土遺物—18



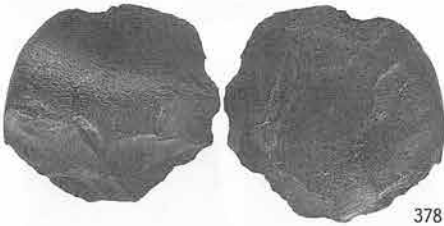
376



377



379



378



381



380



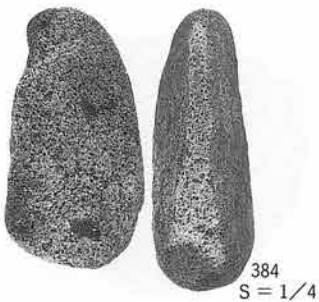
S = 1/4

382



S = 1/4

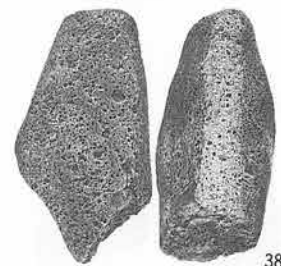
383



384
S = 1/4



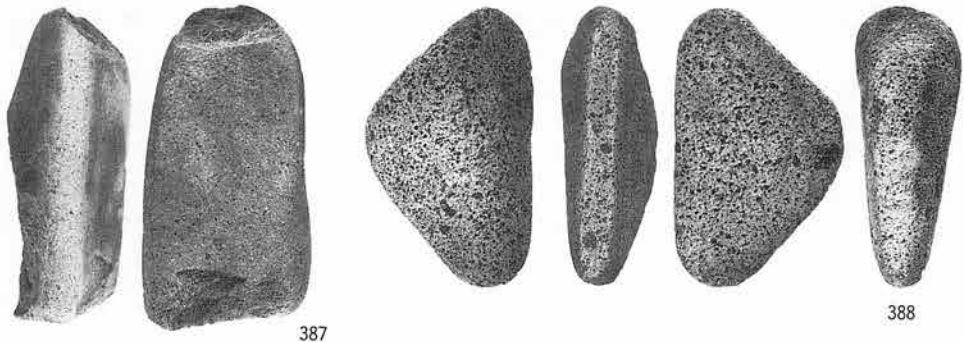
385



S = 1/4

386

写真図版 111 遺構外出土遺物—19



387

388



389

390



391

392

393



394

395

写真図版 112 遺構外出土遺物—20

財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター職員

理事 兼 小笠原 喜 一
 所長
 副所長 高橋 敬 明

[管理課]

管理課長(兼) 高橋 敬 明
 課長補佐 森岡 陽 一
 主事 佐藤 理

嘱託 吉田 一 男
 〃 根橋 文 一
 運転技士員 佐藤 春 男
 兼技師

[調査課]

調査課長 村上 康 昭
 課長補佐(第一班) 佐々木 嘉 直
 (第二班) 鈴木 恵 治
 (主任文化財専門調査員) 小田野 哲 憲
 〃 三浦 謙 一
 〃 工藤 利 幸
 〃 高橋与右エ門 進
 〃 平井 重 紀
 〃 中川 敏 男
 〃 藤村 義 介
 〃 高橋 義 實
 文 〃 斎藤 隆
 専 〃 佐瀬 雄
 門 〃 千葉 博 司
 調 〃 斎藤 隆 幹
 査 〃 東海林 弘 均
 員 〃 佐々木 貞 行
 〃 川村 格 修
 〃 鈴木 貞 格 修
 〃 伊東 邦 雄
 〃 遠藤 敏 明
 〃 斎藤 敏 明
 〃 神 敏 明

財員 佐々木 信 一
 文 小原 眞 一
 門 村上 修
 調 酒井 宗 孝
 査 松本 建 速
 員 笹平 克 子
 〃 花坂 政 博
 〃 佐々木 務
 〃 金子 昭 彦
 〃 濱田 宏 造
 期 鎌田 精 則
 専 阿部 邦 彦
 門 安藤 雅 之
 限 星 学
 調 引屋敷 知 己
 査 鈴木 隆 悟
 員 藤村 博 由
 〃 千葉 信 一郎
 〃 熊谷 博 英
 〃 新倉 信 一郎
 〃 山口 博 英
 〃 川村 聡
 〃 八重座 のり子

[資料課]

資料課長 村松 義 夫
 主任文化財専門調査員 田 鎖 寿 夫

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第161集

上鬼柳Ⅱ・Ⅲ遺跡発掘調査報告書

東北縦貫自動車道関連遺跡発掘調査

印刷 平成4年3月25日

発行 平成4年3月30日

発行 財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

〒020 岩手県紫波郡都南村大字下飯岡11-185

TEL (0196) 38-9001

印刷 山口北州印刷株式会社

〒020-01 盛岡市青山四丁目10-5

TEL (0196) 41-0585